

群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第141集  
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第13集

# 上栗須寺前遺跡群 I

篠塚狐穴(4A)

篠塚四反歩(4B)

藤岡扇状地扇端部における奈良・平安時代を中心とした集落址の調査

## 第1分冊《本文編》

1 9 9 3

群馬県教育委員会  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日本道路公団



財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第141集  
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第13集

# 上栗須寺前遺跡群 I

篠塚狐穴(4A)

篠塚四反歩(4B)

藤岡扇状地扇端部における奈良・平安時代を中心とした集落址の調査

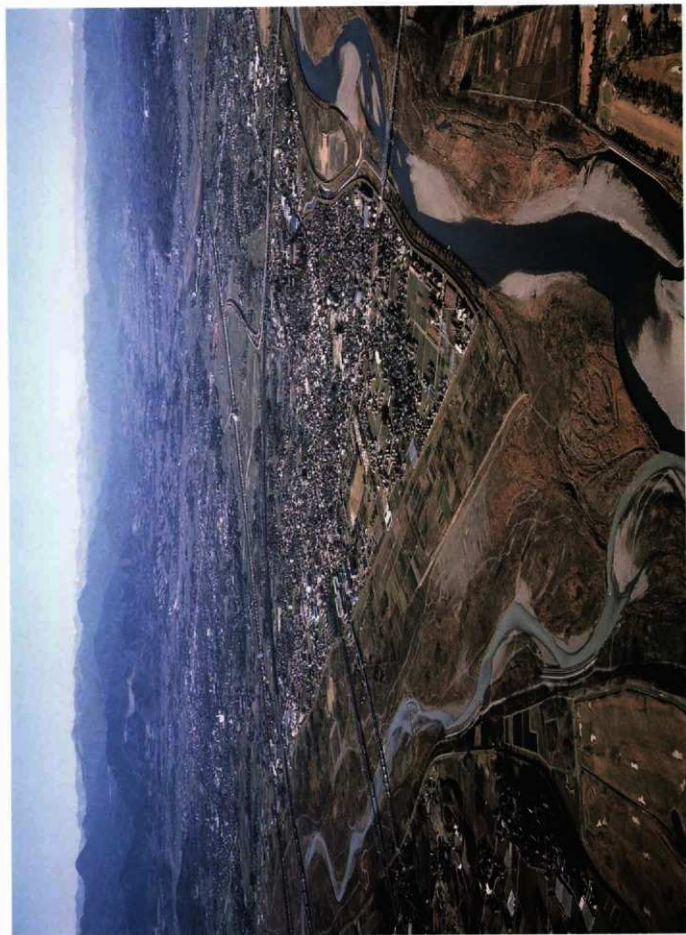
## 第1分冊《本文編》

1 9 9 3

群馬県教育委員会  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日本道路公団







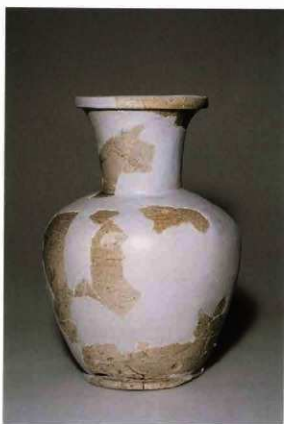
新町・徳岡市街通景（北東上空より）



下大堡北原地区（6区）調査区近景



5区11号土坑 緑釉埴



5区遺構外 灰釉壺



6区6号住居 金環



5区203号土坑 人面石

## 序

上信越自動車道は、平成4年3月に関越自動車道の藤岡ジャンクションと長野県の佐久インター間が開通し、首都圏と長野県を結ぶ高速道として大いに利用されています。この上信越自動車道の建設により数多くの埋蔵文化財が発掘調査されました。ここに報告する上栗須寺前遺跡群もその一つです。

上栗須寺前遺跡群は、藤岡ジャンクションに近接する縄文時代から中世にかけての複合遺跡であり、昭和63年度から平成3年度にかけて調査しました。調査した資料は、平成3年度より4年計画で調査報告書刊行のための整理作業を行い、この度その成果の一部がまとまりましたので「上栗須寺前遺跡群Ⅰ」の報告書を刊行することにしました。

本書に報告されている資料は、奈良・平安時代が主ですが、上栗須の寺前地区は、中世に伊勢神宮の御厨が置かれた地であります。それゆえに、その前代の平安・奈良時代の調査資料は、何故に此の地に御厨が置かれたかを解明する上で貴重な報告書になるものと思います。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、日本道路公団東京第二建設局、群馬県教育委員会、藤岡市教育委員会、地元関係者等より種々のご指導、ご協力、ご援助を賜りました。ここに深甚なる感謝の意を表し、本報告書が寺前地区並びに本県の歴史の解明及び資料として、広く活用されることを願い序とします。

平成5年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺弘之









## 例 言

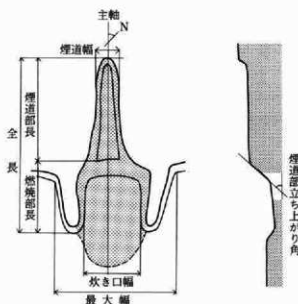
1. 本書は関越自動車道（上越線）建設工事に事前調査された「上栗須寺前遺跡群Ⅰ」の発掘調査報告書である。
2. 上栗須寺前遺跡群は群馬県藤岡市上栗須字寺前を遺跡名称とし、篠塚孤穴・篠塚四反歩・篠塚清太・下大塚北原・本動堂台の5地区にわたっている。
3. 本発掘調査は、日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に再委託して実施されたものである。
4. 発掘調査は、上越線地域埋蔵文化財調査を目的に設置された関越道上越線調査事務所（多野郡吉井町南陽台）が担当し、整理事業は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団内で実施した。
5. 調査期間及び担当者
  - (1) 発掘調査 調査期間 平成2年4月1日～平成3年10月25日  
調査担当者  
平成2年度 石塚久則、山口逸弘、井上昌美、岸田治男、斎藤利昭、船藤 亨  
平成3年度 石塚久則、斎藤利昭、小林 徹
  - (2) 整理 整理期間 平成3年4月1日～平成4年3月31日  
整理担当者 岸田治男
  - (3) 事務 邊見長雄、近藤 功、吉田 肇、佐藤 勉、神保佑史、依田治雄、斎藤俊一、笠原秀樹、須田朋子、吉田有光、船津 茂、柳岡良宏、今井もと子、松井美智代、角田みづほ、塩浦ひろみ
6. 報告書作成関係者  
編集 岸田治男、斎藤利昭、鹿沼敏子  
本文執筆 岸田治男  
遺物観察 鹿沼敏子、斎藤利昭、岸田治男  
遺構写真 発掘担当者  
遺物写真 技師 佐藤元彦  
保存処理 技師 関 邦一、嘱託員 土橋まり子、補助員 小材浩一、樋口一之  
整理 嘱託員 鹿沼敏子、  
補助員 富永せん、高橋とし子、白井和子、嶋崎しず子、横坂英美、  
安藤三枝子、萩原鈴代  
委託関係 《航空写真》（株）青高館、《遺構・遺物トレース》（株）洞研、  
《地形・地質》古環境研究所、（株）バリノ・サーヴェイ  
その他 人骨・獣骨については県立大間々高等学校教諭宮崎重雄氏に、石材鑑定については群馬県地質研究会飯島静男氏にお願いした。
7. 出土遺物・図面・写真類は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターが保管している。
8. 報告書作成にあたり、下記の諸機関・諸氏にご教示やご指導をいただいた。記して感謝する次第である。（50音順）

石塚久則、伊藤 肇、岩崎泰一、大江正行、小野和之、木津博明、木村 取、杉山秀宏、  
須田 茂、中沢 悟、藤岡市教育委員会、前原 豊、前橋市教育委員会、綿貫邦男

## 凡 例

1. 本報告書は関越自動車道（上越線）建設工事に伴い事前調査された「上栗須寺前遺跡群Ⅰ」の発掘調査報告書第2分冊本文編である。なお該報告は「上栗須寺前遺跡群」のうちの篠塚清太・下大塚北原・本勸堂台地区の調査結果を掲載している。
2. 該遺跡は藤岡市篠塚清太130番地他・下大塚北原426番地他・本勸堂字台58番地他に所在する。
3. 遺跡名については字名のうちで寺前を取り上げ「上栗須寺前遺跡群」と総称する。
4. 「上栗須寺前遺跡群」の全体のグリッドは、国家座標系第Ⅳ系の藤岡都市計画区域図9をもとに東西80m×南北60mの大グリッドを設定し、さらに東西、南北を10等分して8m×6mの小グリッドを最小単位としたものである。グリッドは東西をアルファベット（一部ギリシア文字）で南北をアラビア数字で呼称し、各調査区グリッドの国家座標における位置は付図の全体図中に記載した。
5. 本報告書における遺構番号は発掘調査時に各区ごとに通番で付されたものを原則として使用し、遺物番号は整理時に通番でふりなした。
6. 挿図中に使用した方位は座標北である。また、竪穴住居の方位については電付設壁に直交する軸線の方位を採用した。
7. 竪穴住居の面積算出については、1/40平面図上でプランメーター（ローラー極式・レンズ式）による2回計測の平均値を使用し、小数点以下3桁は四捨五入してある。
8. 遺構及び遺物実測図の縮尺は各図中表示してある。遺物の場合、表示された縮尺と異なるものについては、遺物番号の後尾に（ ）で縮尺を表示した。
9. 遺物実測図中における表示は次のことを意味する。  
 鉄  灰  須恵器断面部分・硯・砥石等摩耗部分 ←土器の篋削りの方向  
 にこぼれ
10. 遺構平面図（遺物接合分布図）の表示は次のことを意味する。  
 灰・焼土  石敷部分  
 ●土師 ▲須恵 □灰釉 ○甕 ○羽釜 ⊗土釜 ★縄文 ■砥石・円形叩き石 △鉄製品
11. 遺構平面図中の「L: 85.20m」は、断面図における水糸の標高を表す。
12. 遺物の記述については、第3冊の遺物観察表にまとめた。

13. 竈の計測部位及びその部位名称は下記の通りである。



14. 本文項目中の遺物出土状態及び遺物接合分布図における遺物のタイプ分けについては、「宇津木台遺跡群Ⅳ，Ⅲ地区《遺物編》」を参考にして分類を試みた。

タイプA 住居廃絶時にそのまま遺棄されたと認められるものである。住居内にほぼ完全な形(およそ2/3以上)で残されたもので、出土レベルが床面または床面と見なされるもの。

タイプBa 廃棄遺物と解され、接合すると完形かほぼそれに近い形になるが、破片の出土地点が平面的広がりを持ち出土レベルに若干の高低差が認められるもの。遺物接合線はまともなものである。

タイプB 住居廃絶直後に住居外から廃棄・流入した可能性が考えられるもので、床面上より出土しているが大きく欠損しているものや破片の出土レベル及び平面的位置にある程度のばらつきが認められるもの。遺物接合線が長く引かれる。

タイプC 覆土中層以上にまともな廃棄されたもので、明らかに住居外からの流入を示すものや破片の出土地点の平面的広がりや出土レベル差が極端に大きいもの。

以上の各個体についての破片の出土レベル差・平面的広がり・欠損度を根拠とした分類はかなりの主観的な判断の介入を許すこともままある。そこで本報告では遺物接合分布図(平面図・断面図)を呈示することによって、客観的な検討に資することを期待している。

15. 床直の定義については非常に困難な問題ではあるが、該遺跡地では床面上の凹凸を考慮すると平均2.5cmの高低差を認めることが可能である。そこで床面推定線から+2.5cmまでの範囲の遺物を床直遺物と認定した。



# 目 次

巻頭カラー写真図版

序

例 言

凡 例

目 次

総 目 次

挿図目次

抄 録

I 発掘調査に至る経緯	1
-------------	---

## II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境～遺跡の立地と景観	3～5
2 考古的・歴史的環境	6～12

## III 調査の概要

1 調査経過	13～15
2 調査方法	16
3 層 序	16～18

## IV 遺跡の調査

1 篠塚狐穴(4A I 区)・篠塚四反歩(4A II 区)地区	23	01 グリッド・表採遺物	284～286
(1) 竪穴住居址	23～195	2 篠塚四反歩地区(4B区)	287
(2) 竪穴状遺構	196～198	(1) 竪穴住居址	287～303
(3) 掘立柱建物跡	199～225	(2) 竪穴状遺構	303
(4) 柵 列	226～234	(3) 掘立柱建物跡	304～326
(5) 垣 根	235～239	(4) 柵 列	326
(6) 溝状遺構	240～246	(5) 溝状遺構	327～342
(7) 井 戸	247～249	(6) 溜 池	343～347
(8) 土 坑	250～268	(7) 池状遺構	348
(9) 墓 坑	269～274	(8) 土 坑	249～380
00 畠 跡	275	(9) 墓 坑	381～382
01 遺物散布範囲	276	00 畠 跡	383～386
02 01 旧河道	277～283	01 グリッド・トレンチ・表採遺物	386～387

# 総 目 次

## 上栗須寺前遺跡～奈良・平安時代の集落址

序

例 言

凡 例

抄 録

### I. 調査に至る経緯

### II. 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の立場

2. 歴史的環境

### III. 調査の概要

1. 調 査 経 過

2. 調 査 方 法

3. 層 序

### IV. 遺跡の調査

1. 篠塚狐穴地区(4 A I 区)・篠塚四反歩地区(4 A II 区)

2. 篠塚四反歩地区(4 B 区)

3. 篠塚清大地区(5・5 A 区)

4. 下大塚北原地区(5 B・6 区)

5. 本動堂台遺跡(7 区)

### V. 上栗須寺前遺跡の自然科学的分析

1. 上栗須寺前遺跡における自然科学分析報告

2. 上栗須寺前遺跡出土須恵器の胎土分析

3. 上栗須寺前遺跡のテフラ分析

4. 上栗須寺前遺跡のプラント・オパール分析

### VI. 成果と問題点

### VII. ま と め

☆遺物観察表

☆写真図版

第1冊

第2冊

第3冊

遺構・遺物検索表

遺構名	本文・遺構・遺物		縮刷表 (3分冊)	写真(3分冊内) 遺構・遺物
	分冊	頁 (挿図目次)		
4A区01号住居	1	P24・25(11~148)	P47	3: 54
4A区02号住居	1	P26・27(15~188)	P47	3:
4A区03号住居	1	P27・28(19~228)	P47	4: 54
4A区04号住居	1	P29~31(23~268)	P47	4: 54
4A区05号住居	1	P31~34(27~328)	P47	5: 54
4A区07号住居	1	P34~37(33~378)	P48	5: 34
4A区08号住居	1	P38~39(38~418)	P48	6: 55
4A区09号住居	1	P39~42(42~468)	P49	6: 55
4A区10号住居	1	P43~45(47~508)	P50	5: 55
4A区11号住居	1	P45~49(51~578)	P50	7: 56
4A区12号住居	1	P49~50(58~608)	P50	8:
4A区13号住居	1	P51~53(61~648)	P50	8:
4A区14号住居	1	P53~56(65~698)	P51	9:
4A区15号住居	1	P57~59(70~748)	P51	9: 56
4A区16号住居	1	P60・61(75~798)	P51	10:
4A区17号住居	1	P62~64(80~848)	P51	10: 56
4A区18号住居	1	P65・66(85~898)	P52	11: 57
4A区19号住居	1	P67・68(90~918)	P52	11:
4A区21号住居	1	P69~72(92~1008)	P52	12: 56
4A区22号住居	1	P78~80(101~1058)	P54	12: 58
4A区23号住居	1	P81~85(106~1118)	P55	13: 59
4A区24号住居	1	P86~89(112~1168)	P55	13: 59
4A区25号住居	1	P90~92(117~1228)	P56	13: 25
4A区26号住居	1	P93~105(123~1348)	P56	14: 25
4A区27号住居	1	P106~107(135~1378)		14:
4A区28号住居	1	P107~113(138~1438)	P60	15: 62
4A区29号住居	1	P113・114(144~1468)	P61	63
4A区30号住居	1	P115~119(147~1538)	P61	15: 63
4A区32号住居	1	P120・121(154~1568)	P62	16: 63
4A区33号住居	1	P122~124(157~1618)	P63	16: 64
4A区34号住居	1	P125・126(162~1658)	P63	17: 64
4A区35号住居	1	P127~130(166~1708)	P64	18: 64
4A区36号住居	1	P131~133(171~1758)	P64	18: 65
4A区37号住居	1	P133~136(176~1808)	P64	19: 65
4A区38号住居	1	P137~139(181~1848)	P65	19: 66
4A区39号住居	1	P139~142(185~1898)	P65	20: 66
4A区40号住居	1	P142~144(190~1938)	P66	20: 66
4A区41号住居	1	P144~147(194~1988)	P66	21: 67
4A区42号住居	1	P148~150(199~2028)	P67	21: 67
4A区43号住居	1	P150~152(203~2068)	P67	22: 67
4A区44号住居	1	P153~156(207~2108)	P68	22: 68
4A区45号住居	1	P156~159(211~2168)	P68	23: 69
4A区46号住居	1	P159~161(217~2198)	P69	23: 69
4A区47号住居	1	P161~163(220~2248)	P69	24: 69
4A区48号住居	1	P164・165(225~2278)	P69	24: 69
4A区52号住居	1	P165~168(228~2338)	P70	25: 70
4A区53号住居	1	P169・170(234・2358)	P70	25: 70
4A区54号住居	1	P170~172(236~2398)	P70	26: 70
4A区55号住居	1	P172~174(240~2428)	P71	26: 71
4A区56号住居	1	P175(2438)		
4A区57号住居	1	P176~178(244~2478)	P71	27: 71
4A区58号住居	1	P179~181(248~2518)	P72	27: 72
4A区59号住居	1	P181・182(252~2548)	P72	28: 72
4A区60号住居	1	P183・184(255~2588)	P72	28: 72
4A区61号住居	1	P185・186(259~2618)	P73	29: 73
4A区64号住居	1	P187・188(262~2648)	P73	29: 73
4A区65号住居	1	P189~192(265~2708)	P73	30: 73
4A区66号住居	1	P193~195(271~2748)	P74	30: 74
4A区01号壁穴	1	P196(2758)	P74	

遺構名	本文・遺構・遺物		縮刷表 (3分冊)	写真(3分冊内) 遺構・遺物
	分冊	頁 (挿図目次)		
4A区02号壁穴	1	P196(2768)		33:
4A区03号壁穴	1	P197(2778)	P75	33:
4A区04号壁穴	1	P198(2788)		33:
4A区05号壁穴	1	P198(2798)	P75	33:
4A区06号壁穴	1	P200(2818)		31:
4A区07号壁穴	1	P201(2828)		31:
4A区08号壁穴	1	P202(2838)		31:
4A区09号壁穴	1	P202(2848)		31:
4A区10号壁穴	1	P203・204(285・2868)	P75	31: 74
4A区11号壁穴	1	P204・205(2878)		31:
4A区12号壁穴	1	P206(2888)		31:
4A区13号壁穴	1	P207・208(2898)		31:
4A区14号壁穴	1	P208(2908)		32:
4A区15号壁穴	1	P209・208(291・2928)	P75	32:
4A区16号壁穴	1	P210(2938)		32:
4A区17号壁穴	1	P211~212(293~294・2958)	P75	32:
4A区18号壁穴	1	P212(2968)		32:
4A区19号壁穴	1	P213(2968)		32:
4A区20号壁穴	1	P214(2978)		32:
4A区21号壁穴	1	P214(2988)		32:
4A区22号壁穴	1	P215(2998)		33:
4A区23号壁穴	1	P215・216(3008)		
4A区24号壁穴	1	P216・217(3018)		
4A区25号壁穴	1	P217・218(3028)		
4A区26号壁穴	1	P218・219(3038)		
4A区27号壁穴	1	P219(3048)		
4A区28号壁穴	1	P220(3058)		
4A区29号壁穴	1	P220(3078)		
4A区30号壁穴	1	P221(3088)		
4A区31号壁穴	1	P222(3098)		
4A区32号壁穴	1	P222・223(3108)	P75	
4A区33号壁穴	1	P223(3118)		
4A区34号壁穴	1	P224(3128)		
4A区35号壁穴	1	P224・225(3138)		
4A区36号壁穴	1	P225(3148)		
4A区37号壁穴	1	P228(3158)		
4A区38号壁穴	1	P228(3168)		
4A区39号壁穴	1	P228(3178)		
4A区40号壁穴	1	P229(3188)		
4A区41号壁穴	1	P229(3198)		
4A区42号壁穴	1	P229(3208)		
4A区43号壁穴	1	P230~268(322~3788)	P75	
4A区44号壁穴	1	P231(3238)		
4A区45号壁穴	1	P231(3248)		
4A区46号壁穴	1	P231(3258)		
4A区47号壁穴	1	P231(3268)		
4A区48号壁穴	1	P231(3278)		
4A区49号壁穴	1	P231(3288)		
4A区50号壁穴	1	P231(3298)		
4A区51号壁穴	1	P231(3308)		
4A区52号壁穴	1	P231(3318)		
4A区53号壁穴	1	P231(3328)		
4A区54号壁穴	1	P231(3338)		
4A区55号壁穴	1	P231(3348)		
4A区56号壁穴	1	P231(3358)		
4A区57号壁穴	1	P231(3368)		
4A区58号壁穴	1	P231(3378)		
4A区59号壁穴	1	P231(3388)		
4A区60号壁穴	1	P231(3398)		
4A区61号壁穴	1	P231(3408)		
4A区62号壁穴	1	P231(3418)		
4A区63号壁穴	1	P231(3428)		
4A区64号壁穴	1	P231(3438)		
4A区65号壁穴	1	P231(3448)		
4A区66号壁穴	1	P231(3458)		
4A区67号壁穴	1	P231(3468)		
4A区68号壁穴	1	P231(3478)		
4A区69号壁穴	1	P231(3488)		
4A区70号壁穴	1	P231(3498)		
4A区71号壁穴	1	P231(3508)		
4A区72号壁穴	1	P231(3518)		
4A区73号壁穴	1	P231(3528)		
4A区74号壁穴	1	P231(3538)		
4A区75号壁穴	1	P231(3548)		
4A区76号壁穴	1	P231(3558)		
4A区77号壁穴	1	P231(3568)		
4A区78号壁穴	1	P231(3578)		
4A区79号壁穴	1	P231(3588)		
4A区80号壁穴	1	P231(3598)		
4A区81号壁穴	1	P231(3608)		
4A区82号壁穴	1	P231(3618)		
4A区83号壁穴	1	P231(3628)		
4A区84号壁穴	1	P231(3638)		
4A区85号壁穴	1	P231(3648)		
4A区86号壁穴	1	P231(3658)		
4A区87号壁穴	1	P231(3668)		
4A区88号壁穴	1	P231(3678)		
4A区89号壁穴	1	P231(3688)		
4A区90号壁穴	1	P231(3698)		
4A区91号壁穴	1	P231(3708)		
4A区92号壁穴	1	P231(3718)		
4A区93号壁穴	1	P231(3728)		
4A区94号壁穴	1	P231(3738)		
4A区95号壁穴	1	P231(3748)		
4A区96号壁穴	1	P231(3758)		
4A区97号壁穴	1	P231(3768)		
4A区98号壁穴	1	P231(3778)		
4A区99号壁穴	1	P231(3788)		
4A区100号壁穴	1	P231(3798)		

道 橋 名	本 文・道 橋・道 物	観 察 表	写 真 (3分以内)
分 冊	頁 (挿 図 目 次)	(3分以内)	道 橋・道 物・P
4A区24号橋	1 P234 (338頁)		
4A区25号橋	1 P234 (339頁)		
4A区01号橋	1 P236 (340頁)		
4A区02号橋	1 P237 (341頁)		
4A区03号橋	1 P237 (342頁)		
4A区04号橋	1 P237 (343頁)		
4A区05号橋	1 P238 (344頁)		
4A区06号橋	1 P238 (345頁)		
4A区07号橋	1 P238 (346頁)		
4A区08号橋	1 P239 (347頁)		
4A区09号橋	1 P239 (348頁)		
4A区10号橋	1 P239 (349頁)		
4A区11号橋	1 P239 (350頁)		
4 A 区 01 号 溝	1 P241・245・246 (351・357頁)	P75	34 74
4 A 区 02 号 溝	1 P241・246 (352・359頁)	P75	34
4 A 区 03 号 溝	1 P242 (353頁)		
4 A 区 04 号 溝	1 P243 (354頁)		34
4 A 区 05 号 溝	1 P244 (356頁)		
4 A 区 06 号 溝	1 P243 (355頁)		
4A区01号井戸	1 P247 (360・361頁)	P76	37
4A区02号井戸	1 P248～249 (362・363頁)	P76	37 75
4 A 区 土 坑	1 P250～268 (364～378頁)	P77	36 74
4A区01号橋	1 P269・274 (379頁)		
4A区02号橋	1 P269・274 (379頁)		
4A区03号橋	1 P269・274 (379頁)		
4A区04号橋	1 P270・274 (380頁)		
4A区05号橋	1 P270・274 (380頁)		
4A区06号橋	1 P270・274 (380頁)		
4A区07号橋	1 P270・274 (380頁)	P78	
4A区08号橋	1 P271・274 (381頁)		
4A区09号橋	1 P271・274 (381頁)		
4A区10号橋	1 P271・274 (381頁)		
4A区11号橋	1 P271・274 (381頁)		
4A区12号橋	1 P272・274 (382頁)		
4A区13号橋	1 P272・274 (382頁)		
4A区14号橋	1 P272・274 (382頁)		
4A区15号橋	1 P273・274 (383頁)		
4A区16号橋	1 P273・274 (383頁)		
4A区17号橋	1 P272・274 (382頁)		
4A区18号橋	1 P273・274 (383頁)		
4A区19号橋	1 P273・274 (373頁)	P78	
4 A 区 池	1 P275 (385頁)		
4A区遺物散佈 場	1 P276 (386・387頁)	P78	75
4 区 田 路	1 P277～283 (388～394頁)	P78	47 75-80
4 A 区 グリッ フ・表 標	1 P284～286 (395～397頁)	P81	
4B区01号生駒	1 P288～290 (399～403頁)	P84	40
4B区02号生駒	1 P290・291 (404～407頁)	P84	40
4B区03号生駒	1 P292・293 (408～411頁)	P84	41
4B区04号生駒	1 P293・294 (412～414頁)	P84	41
4B区05号生駒	1 P295～299 (415～419頁)	P84	42 76
4B区06号生駒	1 P301・302 (420～423頁)	P85	43
4B区07号生駒	1 P302・303 (424・425頁)	P86	
4B区01号壁穴	1 P303 (426・427頁)	P86	
4B区01号橋	1 P305 (429頁)		
4B区02号橋	1 P306・307 (430頁)		44
4B区03号橋	1 P307 (431頁)		44
4B区04号橋	1 P308 (432頁)		44
4B区05号橋	1 P308・309 (433頁)		44

道 橋 名	本 文・道 橋・道 物	観 察 表	写 真 (3分以内)
分 冊	頁 (挿 図 目 次)	(3分以内)	道 橋・道 物・P
4B区06号橋	1 P310 (434頁)		
4B区07号橋	1 P311 (435頁)	P86	78
4B区08号橋	1 P311 (436頁)		45
4B区09号橋	1 P312 (437頁)		45
4B区10号橋	1 P312 (438頁)		45
4B区11号橋	1 P314 (439頁)		45
4B区12号橋	1 P315 (440頁)		
4B区13号橋	1 P316 (441頁)		
4B区14号橋	1 P317 (442頁)		
4B区15号橋	1 P317 (443頁)		
4B区16号橋	1 P318 (444頁)		
4B区17号橋	1 P319 (445頁)		
4B区18号橋	1 P319・320 (446頁)		
4B区19号橋	1 P321 (447頁)		
4B区20号橋	1 P322 (448頁)	P86	78
4B区21号橋	1 P322 (449頁)	P86	79
4B区22号橋	1 P323 (450頁)		
4B区23号橋	1 P324 (451頁)		
4B区24号橋	1 P325 (452頁)		
4B区25号橋	1 P325 (453頁)		
4B区01号溝	1 P326 (454頁)		
4B区02号溝	1 P326 (455頁)		
4 B 区 01 号 溝	1 P329・339 (456・467頁)	P86	46
4 B 区 02 号 溝	1 P329・339 (456・467頁)	P86	46
4 B 区 03 号 溝	1 P330・339 (457・467頁)	P86	46
4 B 区 04 号 溝	1 P331・332・339 (458・467頁)	P87	46 79
4 B 区 05 号 溝	1 P331・332・340 (458・468頁)	P87	47 79
4 B 区 06 号 溝	1 P333 (459頁)		47
4 B 区 07 号 溝	1 P333 (460頁)		
4 B 区 08 号 溝	1 P334 (461頁)		47
4 B 区 09 号 溝	1 P334 (461頁)		47
4 B 区 10 号 溝	1 P334 (461頁)		47
4 B 区 11 号 溝	1 P335・340 (462・468頁)	P87	47
4 B 区 12 号 溝	1 P336 (463頁)		
4 B 区 13 号 溝	1 P337 (464頁)		
4 B 区 14 号 溝	1 P336 (463頁)		
4 B 区 15 号 溝	1 P337・340 (464・468頁)	P87	
4 B 区 16 号 溝	1 P336・340 (464・468頁)	P87	79
4 B 区 17 号 溝	1 P338 (465頁)		
4 B 区 18 号 溝	1 P338 (465頁)		
4 B 区 19 号 溝	1 P338 (465頁)		
4 B 区 20 号 溝	1 P338 (465頁)		
4 B 区 21 号 溝	1 P338 (466頁)		
4 B 区 22 号 溝	1 P338 (466頁)		
4 B 区 23 号 溝	1 P338 (466頁)		
4B区01号池	1 P341～345 (469～472頁)	P87	78
4B区02号池	1 P341～345 (469～472頁)	P87	78
4B区03号池	1 P323・347 (473頁)		
4B区池状遺構	1 P348 (474頁)	P88	
4 B 区 土 坑	1 P349～381 (475～499頁)	P88	79 48～52
4B区01号橋	1 P382・383 (500～502頁)	P90	53
4B区02号橋	1 P382 (500頁)		
4B区03号橋	1 P383 (501頁)		53
4B区04号橋	1 P383 (501頁)		53
4B区05号橋	1 P383 (501頁)		53
4B区06号橋	1 P382 (500頁)		
4 B 区 池	1 P384～386 (503～506頁)		
4 B 区 グリッ フ・表 標	1 P387～388 (507・508頁)	P90	79

道構名	本文・道構・遺物 分冊 頁 (補目次)	観察表 (3分冊)	写真(3分冊内) 道構PL遺物PL
5区01号住居	2 P3-61(3-65図)	P91 103: 187	
5区02号住居	2 P7-97(7-100図)	P91 103: 187	
5区03号住居	2 P9-16(11-16図)	P91 104: 187	
5区04号住居	2 P17-18(17-19図)	P92 104	
5区05号住居	2 P18-20(20-23図)	P93 105	
5区06号住居	2 P20-21(24-26図)	P93 105: 188	
5区07号住居	2 P22-23(27-30図)	P93 105: 188	
5区08号住居	2 P24-25(31-34図)	P93 106	
5区09号住居	2 P25-27(35-38図)	P93 106: 188	
5区10号住居	2 P28(39図)	107	
5区11号住居	2 P29-30(40-42図)	P94 107	
5区12号住居	2 P30(43図)		
5A区01号住居	2 P31-32(44-45図)	110	
5A区02号住居	2 P32-37(46-50図)	P94 112: 188	
5A区03号住居	2 P38-45(51-57図)	P95 112: 189	
5A区04号住居	2 P46-47(58-61図)	P97 114: 191	
5A区05号住居	2 P48-49(62-65図)	P97 114	
5A区06号住居	2 P49-51(66-69図)	P97 114: 191	
5A区07号住居	2 P52-64(70-72図)	P97 115: 191	
5A区08号住居	2 P55-57(73-76図)	P98 115: 191	
5A区09号住居	2 P58-60(77-80図)	P98 115: 191	
5A区10号住居	2 P61-66(81-85図)	P98 116: 192	
5A区11号住居	2 P67(86-89図)	P99 117	
5A区12号住居	2 P68-70(90-93図)	P99 117: 192	
5A区13号住居	2 P71-73(94-97図)	P100 118: 192	
5A区14号住居	2 P74-79(97-103図)	P100 119: 192	
5A区15号住居	2 P80(104-105図)	P101 119	
5A区16号住居	2 P81(106図)	119	
5A区17号住居	2 P82-83(107-108図)	P101 119: 193	
5A区18号住居	2 P85-86(109-113図)	P101 120	
5A区01号竪立	2 P87(114図)	122	
5A区02号竪立	2 P88(115図)	122	
5区01号溝	2 P89-92(117図)		
5区02号溝	2 P89-92(117図)		
5区03号溝	2 P89-91(116図)		
5区04号溝	2 P89-92(117図)		
5区05号溝	2 P90-93(118図)		
5区06号溝	2 P90-93(118図)		
5区07号溝	2 P90-92(117図)		
5区08号溝	2 P90-93(118図)		
5A区01号溝	2 P94-96(119図)	121	
5A区02号溝	2 P94-96-99(120-125図)	P102 121: 194	
5A区03号溝	2 P94-96-99(121-125図)	P102 121: 194	
5A区04号溝	2 P94-97-99(123-128図)	P102 120-120	
5A区05号溝	2 P96-97(123図)	122	
5A区06号溝	2 P96-96(122図)	120-122	
5A区07号溝	2 P96-96(122図)	120-122	
5A区08号溝	2 P96-96(122図)		
5A区09号溝	2 P96-96(122図)		
5区土坑	2 P100-103(126-128図)	P102 108: 193	
	2 P111-114-116(137-139図)	P103	
5A区土坑	2 P100-104-113(129-136図)	P104 120-125: 194	
	2 P116(139図)		
5A区01号溝	2 P117(140-141図)	P104 125	
5A区02号溝	2 P117(140図)		
5A区03号溝	2 P117-119(142-143図)	P104 194	
5B区01号住居	2 P120-124(144-148図)	P106 128	
5B区02号住居	2 P125-128(149-153図)	P106 129: 196	
5B区03号住居	2 P129-132(154-158図)	P107 129	

道構名	本文・道構・遺物 分冊 頁 (補目次)	観察表 (3分冊)	写真(3分冊内) 道構PL遺物PL
5B区04号住居	2 P133(159-160図)	P107 130	
5B区05号住居	2 P134(161-162図)	P108 130	
5B区06号住居	2 P135-139(163-167図)	P108 131: 196	
5B区07号住居	2 P140-141(168-170図)	P108 131	
5B区08号住居	2 P141-142(171図)	P108 132	
5B区09号住居	2 P142-147(172-176図)	P108 132: 196	
5B区10号住居	2 P148-150(177-182図)	P109 132: 196	
5B区11号住居	2 P151-154(183-187図)	P110 133: 196	
5B区12号住居	2 P155-158(188-193図)	P111 133: 197	
5B区13号住居	2 P159-160(194-196図)	P111 134: 197	
5B区14号住居	2 P161-163(197-201図)	P111 135	
5B区15号住居	2 P164-167(202-205図)	P112 135: 197	
5B区16号住居	2 P168-173(206-211図)	P112 139: 198	
5B区17号住居	2 P174-178(212-217図)	P113 140: 199	
5B区18号住居	2 P179-187(218-224図)	P113 140: 199	
5B区19号住居	2 P187-192(225-229図)	P115 141: 200	
5B区20号住居	2 P193-195(230-233図)	P115 142: 202	
5B区21号住居	2 P196-199(234-237図)	P116 143: 202	
5B区22号住居	2 P200-203(238-242図)	P116 144: 202	
5B区23号住居	2 P204-207(243-247図)	P117 145: 202	
5B区24号住居	2 P208-211(248-252図)	P117 146: 202	
5B区25号住居	2 P212-215(253-257図)	P118 147: 202	
5B区26号住居	2 P216-218(258-261図)	P118 148: 203	
5B区27号住居	2 P219-224(262-266図)	P118 149: 203	
5B区28号住居	2 P225-226(267-269図)	P119 149: 203	
5B区29号住居	2 P227-228(270-274図)	P119 149	
5B区30号住居	2 P229-230(275-279図)	P120 150: 203	
5B区31号住居	2 P231-232(280-282図)	P120 151: 203	
5B区32号住居	2 P232-241(283-291図)	P120 151: 203	
5B区33号住居	2 P241-242(292-295図)	P121 153	
5B区01号竪立	2 P243-244(296-297図)	136	
5B区02号竪立	2 P244-245(298図)	153	
5B区03号竪立	2 P246(299図)	153	
5B区04号竪立	2 P247(300図)	154	
5B区05号竪立	2 P247-248(301図)	154	
5B区06号竪立	2 P248(302図)	154	
5B区07号竪立	2 P249(303図)	154	
5B区08号竪立	2 P249-250(304-305図)	154	
5B区09号竪立	2 P250-251(306図)	155	
5B区10号竪立	2 P252(307図)	155	
5B区11号竪立	2 P252-253(308図)	155	
5B区12号竪立	2 P253-254(309-310図)	155	
5B区13号竪立	2 P255(311図)	154	
5B区14号竪立	2 P256(312図)	154	
5B区15号竪立	2 P257(313図)	154	
5B区16号竪立	2 P257-258(314図)	155	
5B区17号竪立	2 P258-259(315-316図)	155	
5B区18号竪立	2 P259-260(317-318図)	155	
5B区19号竪立	2 P260-261(319-320図)	154	
5B区20号竪立	2 P261-262(321図)	155	
5B区21号竪立	2 P262(322図)		
5B区22号竪立	2 P263(323図)		
5B区23号竪立	2 P264-268(324-328図)	P121 157	
5B区24号竪立	2 P264-271(328-329図)	P121 157	
5B区25号竪立	2 P264-267(326図)		
5B区26号竪立	2 P264-266-267(325図)	157	
5B区27号竪立	2 P265-268(325図)		
5B区28号竪立	2 P265-270(327図)	157	
5B区29号竪立	2 P266-268-274(324-325-326図)	P121 158: 205	
5B区30号竪立	2 P265-268(324-325図)	158	

遺構名	本文・遺構・遺物	観察表	写真(3分冊内)
分冊	頁(挿図目次)	(3分冊)	遺構・遺物P
6区09号溝	2 P265~268(324・325図)	P121	158
6区10号溝	2 P265・270(327図)		
5B区土坑	2 P275~278(332~334図)	P124	136・206
5B区土坑	2 P283・286(339図)		
5B区土坑	2 P275・286(331~339図)	P123	136・206
6区土坑	2 P275~278・282・284・287・288	P124	206
		158・159	
	(236~238・340・341図)		
6区01号基壇	2 P290・293(344~346図)	P125	159・206
6区02号基壇	2 P290・293(343図)		159
6区03号基壇	2 P289・293(342図)		159
6区04号基壇	2 P289・293・294(342・347図)	P125	159・206
6区05号基壇	2 P290・293(343図)		160
6区06号基壇	2 P290・293(343図)		160
6区07号基壇	2 P291・293(344図)	P125	206
6区08号基壇	2 P292・293・294(345~347図)	P125	161・207
6区09号基壇	2 P292~294(347図)	P125	161
6区10号基壇	2 P291・293(344図)		161
6区11号基壇	2 P291(344図)		
6区12号基壇	2 P291・294(344・347図)	P125	
6区土坑遺構	2 P296(348図)		161
3B-6区グランド	2 P296~300(349~353図)	P125	207
7区01号住居	2 P301~304(354~359図)	P129	165・208
7区02号住居	2 P305~307(360~364図)	P129	165・208
7区03号住居	2 P308~310(365~369図)	P129	166・208
7区04号住居	2 P311~314(370~376図)	P129	167・208
7区05号住居	2 P315~319(377~383図)	P130	168・208
7区06号住居	2 P320・321(384~388図)	P131	169・209
7区07号住居	2 P322~325(389~393図)	P131	170・209

遺構名	本文・遺構・遺物	観察表	写真(3分冊内)
分冊	頁(挿図目次)	(3分冊)	遺構・遺物P
7区08号住居	2 P326~331(394~398図)	P132	171・210
7区09号住居	2 P332・333(399~401図)	P133	171・210
7区10号住居	2 P334~336(402~406図)	P133	172
7区11号住居	2 P336~340(407~412図)	P133	173・211
7区12号住居	2 P341~349(413~421図)	P134	173・212
7区13号住居	2 P350~354(422~427図)	P136	174・213
7区14号住居	2 P355~357(428~432図)	P136	175・213
7区15号住居	2 P358~360(433~437図)	P137	176・213
7区16号住居	2 P361・362(438~442図)	P137	177
7区17号住居	2 P363(443・444図)	P137	178
7区18号住居	2 P364(445~447図)	P137	178
7区19号住居	2 P365~369(448~453図)	P137	179・213
7区20号住居	2 P370(454~456図)	P137	180・214
7区01号溝	2 P371・372・381(457~465図)	P138	180・214・215
7区02号溝	2 P371・373・381(458~465図)	P138	180・214
7区03号溝	2 P371・376・381・382 (459・465・466図)	P139	181・214
7区04号溝	2 P371・378~380・382 (463・464・466図)	P139	181・215
7区05号溝	2 P371・377・382(460~466図)	P139	
7区06号溝	2 P371・377・382(461~466図)		181
7区07号溝	2 P372・377・382(462~466図)	P139	
7区土坑	2 P383~392(468~474図)	P139	182・186
7区粘土層	2 P383・390(467~474図)	P139	186・215
7区01号基壇	2 P393(475図)		186
7区グランド	2 P393~395(476・477図)	P140	215

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	2
第2図 地形区分図	6
第3図 周辺遺跡分布図(1)	9
第4図 周辺遺跡分布図(2)	10
第5図 調査区配置図	13
第6図 グリッド配置図	17
第7図 調査区基本土層概念図	18
第8図 各区遺跡概念図	19
第9図 藤原西反歩地区(4AⅠ区)遺構配置図	22
第10図 藤原西反歩地区(4AⅡ区)・藤原西反歩(4B区)遺構配置図	22
第11図 4AⅡ区・01号住居址	24
第12図 4AⅡ区・01号住居址電	24
第13図 4AⅡ区・01号住居址出土遺物	24
第14図 4AⅡ区・01号住居址出土遺物	25
第15図 4AⅡ区・02号住居址	26
第16図 4AⅡ区・02号住居址電	26
第17図 4AⅡ区・02号住居址出土遺物	26
第18図 4AⅡ区・02号住居址出土遺物	27
第19図 4AⅡ区・03号住居址	28
第20図 4AⅡ区・03号住居址電	28

第21図 4AⅡ区・03号住居址電掘り方	28
第22図 4AⅡ区・03号住居址出土遺物	28
第23図 4AⅡ区・04号住居址	30
第24図 4AⅡ区・04号住居址電	30
第25図 4AⅡ区・04号住居址電掘り方	30
第26図 4AⅡ区・04号住居址出土遺物	31
第27図 4AⅡ区・06号住居址	32
第28図 4AⅡ区・06号住居址掘り方	32
第29図 4AⅡ区・06号住居址電	33
第30図 4AⅡ区・06号住居址電掘り方	33
第31図 4AⅡ区・06号住居址出土遺物	33
第32図 4AⅡ区・06号住居址出土遺物	34
第33図 4AⅡ区・07号住居址	35
第34図 4AⅡ区・07号住居址第1電	36
第35図 4AⅡ区・07号住居址第1電掘り方	36
第36図 4AⅡ区・07号住居址第2電	36
第37図 4AⅡ区・07号住居址出土遺物	37
第38図 4AⅡ区・08号住居址	38
第39図 4AⅡ区・08号住居址掘り方	38
第40図 4AⅡ区・08号住居址電	39
第41図 4AⅡ区・08号住居址出土遺物	39

第42回	4 A II区・09号住居址	40
第43回	4 A II区・09号住居址	41
第44回	4 A II区・09号住居址電	41
第45回	4 A II区・09号住居址電掘り方	41
第46回	4 A II区・09号住居址出土遺物	42
第47回	4 A I区・10号住居址	44
第48回	4 A I区・10号住居址電	44
第49回	4 A I区・10号住居址電掘り方	44
第50回	4 A I区・10号住居址出土遺物	45
第51回	4 A I区・11号住居址	46
第52回	4 A I区・11号住居址	47
第53回	4 A I区・11号住居址掘り方	47
第54回	4 A I区・11号住居址第1電	48
第55回	4 A I区・11号住居址第2電	48
第56回	4 A I区・11号住居址第1・第2電掘り方	48
第57回	4 A I区・11号住居址出土遺物	49
第58回	4 A I区・12号住居址	50
第59回	4 A I区・12号住居址電	50
第60回	4 A I区・12号住居址出土遺物	50
第61回	4 A I区・13号住居址	52
第62回	4 A I区・13号住居址電	52
第63回	4 A I区・13号住居址電掘り方	52
第64回	4 A I区・13号住居址出土遺物	53
第65回	4 A I区・14号住居址	54
第66回	4 A I区・14号住居址掘り方	55
第67回	4 A I区・14号住居址電	55
第68回	4 A I区・14号住居址電掘り方	55
第69回	4 A I区・14号住居址出土遺物	56
第70回	4 A I区・15号住居址	58
第71回	4 A I区・15号住居址掘り方	58
第72回	4 A I区・15号住居址電	59
第73回	4 A I区・15号住居址電掘り方	59
第74回	4 A I区・15号住居址出土遺物	59
第75回	4 A I区・16号住居址	60
第76回	4 A I区・16号住居址	61
第77回	4 A I区・16号住居址電	61
第78回	4 A I区・16号住居址電掘り方	61
第79回	4 A I区・16号住居址出土遺物	61
第80回	4 A I区・17号住居址	63
第81回	4 A I区・17号住居址掘り方	63
第82回	4 A I区・17号住居址電	64
第83回	4 A I区・17号住居址電掘り方	64
第84回	4 A I区・17号住居址出土遺物	64
第85回	4 A I区・18号住居址	65
第86回	4 A I区・18号住居址	66
第87回	4 A I区・18号住居址電	66
第88回	4 A I区・18号住居址電掘り方	66
第89回	4 A I区・18号住居址出土遺物	66
第90回	4 A I区・19号住居址	68
第91回	4 A I区・19号住居址出土遺物	68
第92回	4 A I区・21号住居址	70
第93回	4 A I区・21号住居址掘り方	72
第94回	4 A I区・21号住居址電	72
第95回	4 A I区・21号住居址出土遺物	72
第96回	4 A I区・21号住居址出土遺物	73
第97回	4 A I区・21号住居址出土遺物	74
第98回	4 A I区・21号住居址出土遺物	75
第99回	4 A I区・21号住居址遺物接合分布図一土師器	76
第100回	4 A I区・21号住居址遺物接合分布図一須恵器	77
第101回	4 A I区・22号住居址電	78
第102回	4 A I区・22号住居址	79
第103回	4 A I区・22号住居址掘り方	79

第104回	4 A I区・22号住居址出土遺物	79
第105回	4 A I区・23号住居址出土遺物	80
第106回	4 A I区・23号住居址	82
第107回	4 A I区・23号住居址掘り方	82
第108回	4 A I区・23号住居址電	83
第109回	4 A I区・23号住居址電掘り方	83
第110回	4 A I区・23号住居址出土遺物	84
第111回	4 A I区・23号住居址遺物接合分布図一土師器・須恵器	85
第112回	4 A I区・24号住居址	87
第113回	4 A I区・24号住居址電	87
第114回	4 A I区・24号住居址電掘り方	87
第115回	4 A I区・24号住居址出土遺物	88
第116回	4 A I区・24号住居址遺物接合分布図一土師器・須恵器	89
第117回	4 A I区・25号住居址出土遺物	90
第118回	4 A I区・25号住居址	91
第119回	4 A I区・25号住居址電	91
第120回	4 A I区・25号住居址電掘り方	91
第121回	4 A I区・25号住居址出土遺物	91
第122回	4 A I区・25号住居址遺物接合分布図一土師器・須恵器	92
第123回	4 A I区・26号住居址遺物接合分布図一土師器	93
第124回	4 A I区・26号住居址遺物接合分布図一須恵器	95
第125回	4 A I区・26号住居址	98
第126回	4 A I区・26号住居址掘り方	99
第127回	4 A I区・26号住居址出土遺物	99
第128回	4 A I区・26号住居址電	100
第129回	4 A I区・26号住居址出土遺物	100
第130回	4 A I区・26号住居址出土遺物	101
第131回	4 A I区・26号住居址出土遺物	102
第132回	4 A I区・26号住居址出土遺物	103
第133回	4 A I区・26号住居址出土遺物	104
第134回	4 A I区・26号住居址出土遺物	105
第135回	4 A I区・27号住居址	106
第136回	4 A I区・27号住居址電	107
第137回	4 A I区・27号住居址電掘り方	107
第138回	4 A I区・28号住居址	108
第139回	4 A I区・28号住居址掘り方	109
第140回	4 A I区・28号住居址電	109
第141回	4 A I区・28号住居址出土遺物	110
第142回	4 A I区・28号住居址遺物接合分布図一土師器・須恵器	111
第143回	4 A I区・28号住居址出土遺物	113
第144回	4 A I区・29号住居址	114
第145回	4 A I区・29号住居址電	114
第146回	4 A I区・29号住居址出土遺物	114
第147回	4 A I区・30号住居址	116
第148回	4 A I区・30号住居址掘り方	116
第149回	4 A I区・30号住居址電	117
第150回	4 A I区・30号住居址電掘り方	117
第151回	4 A I区・30号住居址出土遺物	117
第152回	4 A I区・30号住居址出土遺物	118
第153回	4 A I区・30号住居址遺物接合分布図一土師器・須恵器	119
第154回	4 A I区・32号住居址	121
第155回	4 A I区・32号住居址電	121
第156回	4 A I区・32号住居址出土遺物	121
第157回	4 A I区・33号住居址	123
第158回	4 A I区・33号住居址掘り方	123
第159回	4 A I区・33号住居址電	124
第160回	4 A I区・33号住居址電掘り方	124

第161図	4 A 1 区・33号住居址出土遺物	124	第223図	4 A 1 区・47号住居址電線り方	163
第162図	4 A 1 区・34号住居址	125	第224図	4 A 1 区・47号住居址出土遺物	163
第163図	4 A 1 区・34号住居址電	126	第225図	4 A 1 区・48号住居址	164
第164図	4 A 1 区・34号住居址電線り方	126	第226図	4 A 1 区・48号住居址電	165
第165図	4 A 1 区・34号住居址出土遺物	126	第227図	4 A 1 区・48号住居址出土遺物	165
第166図	4 A 1 区・35号住居址	128	第228図	4 A 1 区・52号住居址	166
第167図	4 A 1 区・35号住居址電線り方	129	第229図	4 A 1 区・52号住居址電	167
第168図	4 A 1 区・35号住居址電	129	第230図	4 A 1 区・52号住居址電線り方	167
第169図	4 A 1 区・35号住居址電線り方	130	第231図	4 A 1 区・52号住居址出土遺物	167
第170図	4 A 1 区・35号住居址出土遺物	130	第232図	4 A 1 区・52号住居址出土遺物	168
第171図	4 A 1 区・36号住居址	131	第233図	4 A 1 区・52号住居址遺物統合分布図—土師器・須恵器—	168
第172図	4 A 1 区・36号住居址電線り方	132	第234図	4 A 1 区・53号住居址出土遺物	169
第173図	4 A 1 区・36号住居址電	132	第235図	4 A 1 区・53号住居址	170
第174図	4 A 1 区・36号住居址電線り方	132	第236図	4 A 1 区・54号住居址	171
第175図	4 A 1 区・36号住居址出土遺物	133	第237図	4 A 1 区・54号住居址電	171
第176図	4 A 1 区・37号住居址	134	第238図	4 A 1 区・54号住居址電線り方	171
第177図	4 A 1 区・37号住居址電線り方	134	第239図	4 A 1 区・54号住居址出土遺物	172
第178図	4 A 1 区・37号住居址電	135	第240図	4 A 1 区・55号住居址	173
第179図	4 A 1 区・37号住居址出土遺物	135	第241図	4 A 1 区・55号住居址電	173
第180図	4 A 1 区・37号住居址出土遺物	136	第242図	4 A 1 区・55号住居址出土遺物	174
第181図	4 A 1 区・38号住居址	138	第243図	4 A 1 区・56号住居址	175
第182図	4 A 1 区・38号住居址電	138	第244図	4 A 1 区・57号住居址	177
第183図	4 A 1 区・38号住居址電線り方	138	第245図	4 A 1 区・57号住居址電線り方	177
第184図	4 A 1 区・38号住居址出土遺物	139	第246図	4 A 1 区・57号住居址電	177
第185図	4 A 1 区・39号住居址	140	第247図	4 A 1 区・57号住居址出土遺物	178
第186図	4 A 1 区・39号住居址電線り方	141	第248図	4 A 1 区・58号住居址	180
第187図	4 A 1 区・39号住居址電	141	第249図	4 A 1 区・58号住居址電	180
第188図	4 A 1 区・39号住居址電線り方	141	第250図	4 A 1 区・58号住居址電線り方	180
第189図	4 A 1 区・39号住居址出土遺物	142	第251図	4 A 1 区・58号住居址出土遺物	181
第190図	4 A 1 区・40号住居址	143	第252図	4 A 1 区・59号住居址	182
第191図	4 A 1 区・40号住居址電	143	第253図	4 A 1 区・59号住居址電	182
第192図	4 A 1 区・40号住居址電線り方	143	第254図	4 A 1 区・59号住居址出土遺物	182
第193図	4 A 1 区・40号住居址出土遺物	144	第255図	4 A 1 区・60号住居址	183
第194図	4 A 1 区・41号住居址	145	第256図	4 A 1 区・60号住居址電線り方	184
第195図	4 A 1 区・41号住居址電	146	第257図	4 A 1 区・60号住居址電	184
第196図	4 A 1 区・41号住居址電線り方	146	第258図	4 A 1 区・60号住居址出土遺物	184
第197図	4 A 1 区・41号住居址出土遺物	146	第259図	4 A 1 区・61号住居址電	185
第198図	4 A 1 区・41号住居址出土遺物	147	第260図	4 A 1 区・61号住居址	186
第199図	4 A 1 区・42号住居址	149	第261図	4 A 1 区・61号住居址出土遺物	186
第200図	4 A 1 区・42号住居址電	149	第262図	4 A 1 区・64号住居址	187
第201図	4 A 1 区・42号住居址電線り方	149	第263図	4 A 1 区・64号住居址電	188
第202図	4 A 1 区・42号住居址出土遺物	150	第264図	4 A 1 区・64号住居址出土遺物	188
第203図	4 A 1 区・43号住居址	151	第265図	4 A 1 区・65号住居址	189
第204図	4 A 1 区・43号住居址電	152	第266図	4 A 1 区・65号住居址	190
第205図	4 A 1 区・43号住居址電線り方	152	第267図	4 A 1 区・65号住居址電	190
第206図	4 A 1 区・43号住居址出土遺物	152	第268図	4 A 1 区・65号住居址電線り方	190
第207図	4 A 1 区・44号住居址	154	第269図	4 A 1 区・65号住居址出土遺物	191
第208図	4 A 1 区・44号住居址第1電・第2電	154	第270図	4 A 1 区・65号住居址遺物統合分布図—土師器・須恵器—	192
第209図	4 A 1 区・44号住居址出土遺物	155	第271図	4 A 1 区・66号住居址電	193
第210図	4 A 1 区・44号住居址出土遺物	156	第272図	4 A 1 区・66号住居址	194
第211図	4 A 1 区・45号住居址	157	第273図	4 A 1 区・66号住居址出土遺物	194
第212図	4 A 1 区・45号住居址第1電	158	第274図	4 A 1 区・66号住居址出土遺物	195
第213図	4 A 1 区・45号住居址第2電	158	第275図	4 A 1 区・01号型穴状遺構及び出土遺物	196
第214図	4 A 1 区・45号住居址第1電線り方	158	第276図	4 A 1 区・02号型穴状遺構	196
第215図	4 A 1 区・45号住居址第2電線り方	158	第277図	4 A 1 区・03号型穴状遺構及び出土遺物	197
第216図	4 A 1 区・45号住居址出土遺物	159	第278図	4 A 1 区・04号型穴状遺構	198
第217図	4 A 1 区・46号住居址	160	第279図	4 A 1 区・05号型穴状遺構及び出土遺物	198
第218図	4 A 1 区・46号住居址電	160	第280図	4 A 1 区・01号型孤立柱建物	199
第219図	4 A 1 区・46号住居址出土遺物	161	第281図	4 A 1 区・01号型孤立柱建物	200
第220図	4 A 1 区・47号住居址	162	第282図	4 A 1 区・02号型孤立柱建物	201
第221図	4 A 1 区・47号住居址電線り方	162			
第222図	4 A 1 区・47号住居址電	163			



第283回	4 A I 区・03号孤立柱建物址	202	第345回	4 A I 区・06号恒板	238
第284回	4 A I 区・04号孤立柱建物址	202	第346回	4 A I 区・07号恒板	238
第285回	4 A I 区・05号孤立柱建物址	203	第347回	4 A I 区・08号恒板	239
第286回	4 A I 区・05号孤立柱建物址と出土遺物	204	第348回	4 A I 区・09号恒板	239
第287回	4 A I 区・06号孤立柱建物址	205	第349回	4 A I 区・10号恒板	239
第288回	4 A I 区・07号孤立柱建物址	206	第350回	4 A II 区・11号恒板	239
第289回	4 A I 区・08号孤立柱建物址	207	第351回	4 A I 区・01号溝	241
第290回	4 A I 区・09号孤立柱建物址	208	第352回	4 A II 区・02号溝	241
第291回	4 A I 区・10号孤立柱建物址	209	第353回	4 A II 区・03号溝	242
第292回	4 A I 区・11号孤立柱建物址	210	第354回	4 A I 区・04号溝	243
第293回	4 A I 区・12号孤立柱建物址	211	第355回	4 A II 区・06号溝	243
第294回	4 A I 区・12号孤立柱建物址出土遺物	212	第356回	4 A II 区・05号溝	244
第295回	4 A I 区・13号孤立柱建物址	212	第357回	4 A I 区・01号溝出土遺物	245
第296回	4 A I 区・14号孤立柱建物址	213	第358回	4 A I 区・01号溝出土遺物	246
第297回	4 A I 区・15号孤立柱建物址	214	第359回	4 A II 区・02号溝出土遺物	246
第298回	4 A I 区・16号孤立柱建物址	214	第360回	4 A II 区・01号井戸	247
第299回	4 A I 区・17号孤立柱建物址	215	第361回	4 A II 区・01号井戸出土遺物	247
第300回	4 A I 区・18号孤立柱建物址	216	第362回	4 A I 区・02号井戸	248
第301回	4 A I 区・19号孤立柱建物址	217	第363回	4 A I 区・02号井戸出土遺物	249
第302回	4 A I 区・20号孤立柱建物址	218	第364回	4 A I 区・01.02.03号土坑	250
第303回	4 A I 区・21号孤立柱建物址	218	第365回	4 A I 区・05.06.07.08.10.69号土坑、II区・141号土坑	251
第304回	4 A I 区・22号孤立柱建物址	219	第366回	4 A II 区・152号土坑、I区・206.208.267.271.273.274.275号土坑	252
第305回	4 A I 区・24号孤立柱建物址	219	第367回	4 A I 区・276.277.278.279.301.306号土坑、II区・417.420号土坑	253
第306回	4 A I 区・23号孤立柱建物址	220	第368回	4 A I 区・345.432.434.435.436.437号土坑、II区・422.424.425号土坑	254
第307回	4 A I 区・25号孤立柱建物址	220	第369回	4 A I 区・473.534.566.590.661.664.665号土坑	255
第308回	4 A I 区・26号孤立柱建物址	221	第370回	4 A I 区・678.710.724.729.730.732.737.742.745.771号土坑	256
第309回	4 A I 区・27号孤立柱建物址と出土遺物	222	第371回	4 A I 区・801.803.808.809.810.814.817.818.819.941.994.1037号土坑	257
第310回	4 A I 区・28号孤立柱建物址	222	第372回	4 A I 区・1047.1099.1100.1115.1154.1158.1160.1163.1194.1195.1196号土坑	258
第311回	4 A I 区・29号孤立柱建物址	223	第373回	4 A I 区・1206.1220.1254.1262.1264.1274.1279.1305.1322.1323号土坑	259
第312回	4 A I 区・30号孤立柱建物址	224	第374回	4 A I 区・1326.1327.1344.1349.1361.1384.1385.1390.1405.1412号土坑	260
第313回	4 A II 区・31号孤立柱建物址	224	第375回	4 A I 区・1432.1444.1471.1483.1489.1503.1530.1538.1589.1597.1651号土坑	261
第314回	4 A II 区・32号孤立柱建物址	225	第376回	4 A I 区・1672.1686.1719.1752.1923.1924.1931.1937号土坑	262
第315回	4 A II 区・01号櫛形	228	第377回	4 A I 区・土坑出土遺物	267
第316回	4 A I 区・02号櫛形	228	第378回	4 A I 区・土坑・孤立柱建物・櫛形出土遺物	268
第317回	4 A I 区・03号櫛形	228	第379回	4 A I 区・01.02.03号墓坑	269
第318回	4 A I 区・04号櫛形	229	第380回	4 A I 区・04.05.06.07号墓坑	270
第319回	4 A I 区・05号櫛形	229	第381回	4 A I 区・08.09.10.11号墓坑	271
第320回	4 A I 区・06号櫛形	229	第382回	4 A I 区・12.13.14.17号墓坑	272
第321回	4 A I 区・07号櫛形	229	第383回	4 A I 区・15.16.18.19号墓坑	273
第322回	4 A I 区・08号櫛形	230	第384回	4 A I 区・07.19号墓坑出土遺物	274
第323回	4 A I 区・09号櫛形	231	第385回	4 A I 区・01号鼎	275
第324回	4 A I 区・10号櫛形	231	第386回	4 A I 区・遺物散布範圍	276
第325回	4 A I 区・11号櫛形	231	第387回	4 A I 区・遺物散布範圍出土遺物	276
第326回	4 A I 区・12号櫛形	231	第388回	4 区・旧河道全体区	277
第327回	4 A I 区・13号櫛形	232	第389回	4 A I 区・旧河道土層	278
第328回	4 A I 区・14号櫛形	232	第390回	4 B 区・旧河道遺物分布	279
第329回	4 A I 区・15号櫛形	232	第391回	4 区・旧河道出土遺物(4 A I 区)	280
第330回	4 A I 区・16号櫛形	232	第392回	4 区・旧河道出土遺物(4 A I 区)	281
第331回	4 A I 区・17号櫛形	232	第393回	4 区・旧河道出土遺物(4 B 区)	282
第332回	4 A I 区・18号櫛形	233	第394回	4 区・旧河道出土遺物(4 B 区)	283
第333回	4 A I 区・19号櫛形	233	第395回	4 A I 区・グリッド・表層出土遺物	284
第334回	4 A I 区・20号櫛形	233			
第335回	4 A I 区・21号櫛形	233			
第336回	4 A I 区・22号櫛形	233			
第337回	4 A I 区・23号櫛形	234			
第338回	4 A I 区・24号櫛形	234			
第339回	4 A II 区・25号櫛形	234			
第340回	4 A I 区・01号恒板	236			
第341回	4 A I 区・02号恒板	237			
第342回	4 A I 区・03号恒板	237			
第343回	4 A I 区・04号恒板	237			
第344回	4 A I 区・05号恒板	238			

第396回	4 A 1 区・グッド・表掘出土遺物	285
第397回	4 A 1 区・グッド・表掘出土遺物	286
第398回	篠塚西歩地区(4 B 区)遺構配置図	287
第399回	4 B 区・01号住居址	288
第400回	4 B 区・01号住居址第2室	288
第401回	4 B 区・01号住居址掘り方	289
第402回	4 B 区・01号住居址第1室	289
第403回	4 B 区・01号住居址出土遺物	290
第404回	4 B 区・02号住居址	291
第405回	4 B 区・02号住居址掘り方	291
第406回	4 B 区・02号住居址第2室	291
第407回	4 B 区・02号住居址出土遺物	291
第408回	4 B 区・03号住居址	292
第409回	4 B 区・03号住居址掘り方	292
第410回	4 B 区・03号住居址第2室	293
第411回	4 B 区・03号住居址出土遺物	293
第412回	4 B 区・04号住居址	294
第413回	4 B 区・04号住居址第2室	294
第414回	4 B 区・04号住居址出土遺物	294
第415回	4 B 区・05号住居址	296
第416回	4 B 区・05号住居址遺失状況	296
第417回	4 B 区・05号住居址第2室	296
第418回	4 B 区・05号住居址遺物接合分布図・土師器・銅器	297
第419回	4 B 区・06号住居址出土遺物	299
第420回	4 B 区・06号住居址	300
第421回	4 B 区・06号住居址第2室	301
第422回	4 B 区・06号住居址出土遺物	301
第423回	4 B 区・06号住居址出土遺物	302
第424回	4 B 区・07号住居址	302
第425回	4 B 区・07号住居址出土遺物	303
第426回	4 B 区・01号竪穴状遺構	303
第427回	4 B 区・01号竪穴状遺構出土遺物	303
第428回	4 B 区・竪穴状遺構土師器配置図	304
第429回	4 B 区・01号竪穴状遺構出土遺物	305
第430回	4 B 区・02号竪穴状遺構出土遺物	306
第431回	4 B 区・03号竪穴状遺構出土遺物	307
第432回	4 B 区・04号竪穴状遺構出土遺物	308
第433回	4 B 区・05号竪穴状遺構出土遺物	309
第434回	4 B 区・06号竪穴状遺構出土遺物	310
第435回	4 B 区・07号竪穴状遺構出土遺物	311
第436回	4 B 区・08号竪穴状遺構出土遺物	311
第437回	4 B 区・09号竪穴状遺構出土遺物	312
第438回	4 B 区・10号竪穴状遺構出土遺物	313
第439回	4 B 区・11号竪穴状遺構出土遺物	314
第440回	4 B 区・12号竪穴状遺構出土遺物	315
第441回	4 B 区・13号竪穴状遺構出土遺物	316
第442回	4 B 区・14号竪穴状遺構出土遺物	317
第443回	4 B 区・15号竪穴状遺構出土遺物	317
第444回	4 B 区・16号竪穴状遺構出土遺物	318
第445回	4 B 区・17号竪穴状遺構出土遺物	319
第446回	4 B 区・18号竪穴状遺構出土遺物	320
第447回	4 B 区・19号竪穴状遺構出土遺物	321
第448回	4 B 区・20号竪穴状遺構出土遺物	322
第449回	4 B 区・21号竪穴状遺構出土遺物	322
第450回	4 B 区・22号竪穴状遺構出土遺物	323
第451回	4 B 区・23号竪穴状遺構出土遺物	324
第452回	4 B 区・24号竪穴状遺構出土遺物	325
第453回	4 B 区・25号竪穴状遺構出土遺物	325

第454回	4 B 区・01号竪穴	326
第455回	4 B 区・02号竪穴	326
第456回	4 B 区・01.02号竪穴	329
第457回	4 B 区・03号竪穴	330
第458回	4 B 区・04.05号竪穴	331
第459回	4 B 区・06号竪穴	333
第460回	4 B 区・07号竪穴	333
第461回	4 B 区・08.09.10号竪穴	334
第462回	4 B 区・11号竪穴	335
第463回	4 B 区・12.14号竪穴	336
第464回	4 B 区・13.15.16号竪穴	337
第465回	4 B 区・17.18.19.20号竪穴	338
第466回	4 B 区・21.22.23号竪穴	338
第467回	4 B 区・溝出土遺物	339
第468回	4 B 区・溝出土遺物	340
第469回	4 B 区・01.02号竪穴	341
第470回	4 B 区・01.02号竪穴出土遺物	344
第471回	4 B 区・02号竪穴出土遺物	345
第472回	4 B 区・02号竪穴出土遺物	346
第473回	4 B 区・03号竪穴	347
第474回	4 B 区・池状遺構と出土遺物	348
第475回	4 B 区・02.04.08.09.10号土坑	349
第476回	4 B 区・11~15号土坑	350
第477回	4 B 区・16.17.19.25.32.36.80.64.71.84号土坑	351
第478回	4 B 区・85.87.96.104.107.111.132.134号土坑	352
第479回	4 B 区・137.140.142.153.161.212.223号土坑	353
第480回	4 B 区・232.233.235.237.244.245.246号土坑	354
第481回	4 B 区・265.277.301.307.309.311.323号土坑	355
第482回	4 B 区・327.337.352.360号土坑	356
第483回	4 B 区・361.362.369.375.378.382号土坑	357
第484回	4 B 区・385.388.407.422.423.425.429.430号土坑	358
第485回	4 B 区・431.433.438.442号土坑	359
第486回	4 B 区・432.436.437.443号土坑	360
第487回	4 B 区・469.482.488.493.525.530.561号土坑	361
第488回	4 B 区・516.551.566号土坑	362
第489回	4 B 区・588.600.601.602.605.607.608号土坑	363
第490回	4 B 区・614.616.647.650.651.632.655.660.661号土坑	364
第491回	4 B 区・673.674.693.698.719.721号土坑	365
第492回	4 B 区・785.786.745.752.776.777.801号土坑	366
第493回	4 B 区・784.802.818.822.829.830.832.838.867.873号土坑	367
第494回	4 B 区・848.865.897.905.912.926.952.974号土坑	368
第495回	4 B 区・977.989.991.1034.1060.1066.1105.1110号土坑	369
第496回	4 B 区・土坑出土遺物	370
第497回	4 B 区・土坑出土遺物	371
第498回	4 B 区・土坑出土遺物	372
第499回	4 B 区・土坑出土遺物	373
第500回	4 B 区・01.02.06号基壇	382
第501回	4 B 区・03.04.05号基壇	383
第502回	4 B 区・01号基壇出土遺物	383
第503回	4 B 区・01.02号基壇	384
第504回	4 B 区・01.02号基壇	385
第505回	4 B 区・04号基壇	385
第506回	4 B 区・03号基壇	386
第507回	4 B 区・グッド・表掘出土遺物	387
第508回	4 B 区・グッド・表掘出土遺物	388

# 抄 録

## 1. 遺跡の概略

本遺跡は、群馬県藤岡市篠塚狐穴・篠塚四反歩・篠塚清太・下大塚北原・本動堂台地内に所在する。遺跡地の発掘調査は平成2年4月1日から開始され、平成3年10月25日に終了した。

遺跡地は、藤岡扇台地（神流川・鮎川による扇状地形成後に河川の下刻作用によって段丘化したもの）の扇端を東西に横切るように立地している。藤岡扇台地は、神流川及び鮎川水系の古成層と変成岩に由来する礫層からなる開析扇状地といわれ、段丘面を構成する礫層の厚さは数10mを越えている。そして台地面上には、その厚さは一様ではないが、藤岡粘土と呼ばれる暗灰褐色の粘土層が広い範囲に分布している。台地縁辺の土層をトレンチで観察すると、砂層と礫層と砂質黄灰色シルト層とが互層をなして幾重にも堆積している。このことは、鮎川の水流の変遷が長い地質学的時間のスパンで何回も繰り返されたことを物語り、その結果台地面上には鮎川による細流の痕跡が葉脈状に走り、浅い小谷を形成している。

この扇台地上の微地形変化が、奈良時代以降の遺跡の生成に多大な影響を与え、今回の発掘調査では奈良・平安・中世・近世の各種遺構が確認されている。

## 2. 遺構数量

	住居	竈	竈列	垣根	溝	土坑	墓坑	竈地	井戸	畠状	竈穴状	旧河道
4 A 区	59	32	25	2	6	1,784	19		2	1	5	1
4 B 区	7	25	2		23	1,137	6	4		4	1	
5 区	12				7	68		1				
5 A 区	18	2			9	426	2					
5 B 区	15	1				71						
6 区	17	21			10	329	12		1			
7 区	20				7	126	1					

## 3. ま と め

本報告書で扱っている部分は、上栗須寺前遺跡群の内でも段丘上に立地し、各地区ごとに微地形変化に応じた遺跡配置がなされている。

篠塚狐穴地区は扇台地先端に近い低台地で、古墳時代末から奈良・平安時代にかけての竈穴住居址群と平安時代の掘立柱建物跡群が確認された。特に櫛列で囲まれた掘立柱建物跡群には注目を要する。篠塚四反歩地区は浅い開析谷の底にあたり、さらに深い埋没谷を挟んで狐穴地区の西側に展開し、平安時代の竈穴住居址や畑跡と中世の掘立柱建物跡が多数検出されている。篠塚清太地区はさらに西の県道寺尾線に沿って位置し、舌状台地の鞍部にあたり、奈良・平安時代の竈穴住居址が中心の遺跡である。下大塚北原地区は浅い谷の底に位置し、奈良・平安・中世の遺構が確認された。奈良・平安時代は竈穴住居址と掘立柱建物跡が、セットで把握されるような有様を示している。中世には方形を画する溝と墓壇が、関連するような形で確認されている。本動堂台地区は北原地区の西の低台地上に立地し、平安時代の竈穴住居址と方形区画遺構で構成される。

上栗須寺前遺跡群は、藤岡扇台地上の一角における人間生活の痕跡をとどめる複合遺跡であり、これからの分析により藤岡地方のより確かな地域史の構成に資するものと考えられる。



## I 発掘調査に至る経緯

関越自動車道上越線は首都圏と上信越地方を結ぶ高速自動車国道として、日本道路公団によって建設されている。起点の東京都練馬から新潟県上越市まで総延長280km(内練馬～藤岡自動車道新潟線と併用)である。今回(平成5年3月27日)開通した藤岡インター～佐久インター間は約69kmで、群馬県藤岡市(5.6km)、吉井町(6.3km)、甘楽町(4.3km)、富岡市(11.8km)、妙義町(2.5km)、下仁田町(5.3km)、長野県佐久市(11.9km)の名市町を通過する。

群馬県藤岡市～長野県佐久市間の基本計画は昭和47年に策定され、同54年建設大臣により日本道路公団が施行命令を受けている。同58年群馬県藤岡市・吉井町・甘楽町・富岡市・下仁田町(東部)・松井田町(東部)、同57年松井田町(西部)・下仁田町(西部)・長野県佐久市までの路線が発表された。

関越自動車道上越線全体にかかる埋蔵文化財の取り扱い及び調査経過は次のとおりである。

昭和49年度 藤岡市～下仁田間に存在する埋蔵文化財について、群馬県教育委員会は県企画部幹線交通課に対し文化財保護法の遵守、国・県・市町村の指定文化財をさけること、文化財に關係する事項は県教委文化財保護課と協議すること等の考え方を示した。

昭和55年度 県教委文化財保護課は道路通過地周辺の埋蔵文化財包蔵地の調査を行い、その結果は同年3月藤岡～松井田間、同年11月松井田～下仁田間について、「関越自動車道上越線関連公共事業調査報告書」として群馬県(企画部交通対策課)より報告された。

昭和59年度 建設工事の具体化に伴い、路線内の埋蔵文化財についてより具体的な調査の依頼が道路公団より県教育委員会にあり、県教委文化財保護課は包蔵地の詳細分布調査を行った。

昭和60年度 県教育委員会は分布調査の結果、包蔵地を濃い分布地・淡い分布地・試掘調査を必要とする地域に区分し、発掘調査必要面積を約100万㎡と想定し、55遺跡を認定した。(後の試掘により52遺跡に変更)そして、埋蔵文化財発掘調査にかかる基本方針を次のように策定した。

- ① 発掘調査終了年度を昭和65年度末(平成2年度末)とする。
- ② 群馬県埋蔵文化財調査事業団を中核機関とし、事業団が対応できない部分に調査会方式を導入、関係市町村には進捗状況を考慮しながら協力を求める。
- ③ 事業団の出張所(上越線調査事務所)を開設し、整理作業も併せ行う。
- ④ 機関別対応面積は次のとおりとする。

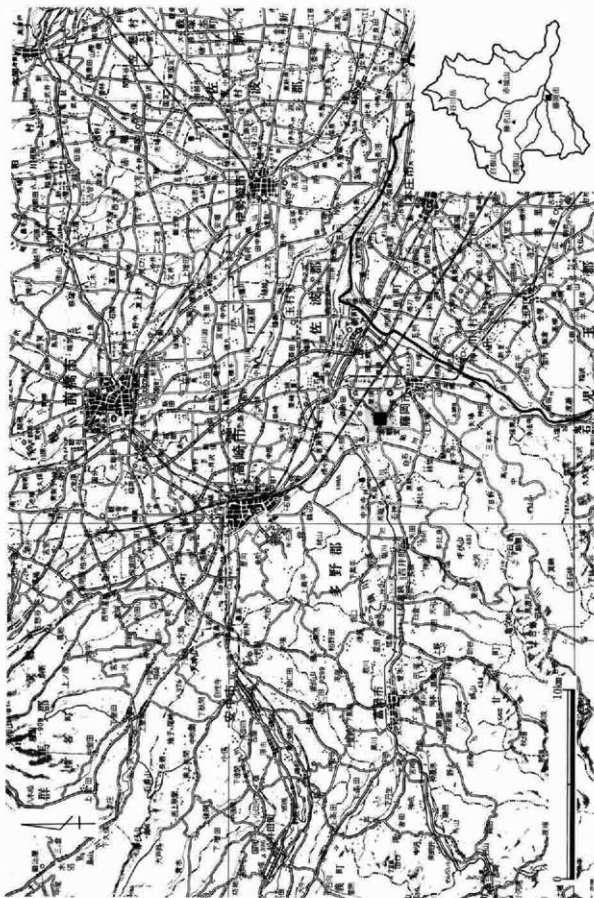
埋文事業団 約76万㎡ 富岡市以東を受け持つ。面積は変動の可能性あり。

調査会 約22万㎡ 妙義町・下仁田町・松井田町。面積は変動の可能性あり。

なお、調査実施方法は次のとおりである。

日本道路公団東京第二建設局は群馬県教育委員会に対して調査の依頼を行い、年度毎に委託契約を締結する。県教育委員会はそれを受け、群馬県埋蔵文化財調査事業団及び、各遺跡調査会等と再委託契約を締結し、調査を実施する。

昭和61年度4月、埋文事業団上越線調査事務所を吉井町南陽台3-15-8に設置し、4班15人体制で発足。調査を開始する。以後、6班22人体制(昭和62)、9班36人体制(昭和63)、12班45人体制(平成元)、12班45人体制(平成2)。平成2年度までに一部を残し発掘調査は終了した。整理作業は昭和63年度より併行して実施していたが、平成3年度から本部においても整理作業が始まり、現在2か所11班体制で実施している。調査事務所は今年度で事業を終了し、以後本部のみで実施され、平成8年度に全事業終了予定である。



第1圖 遺跡位置圖

## II 遺跡の位置と環境

## 1 地理的環境～遺跡の立地と景観

上毛野安蘇の真麻群かき抱き寝れど飽かぬを何どか吾がせむ

古代東国の田園風景を描写したこの東歌のおおらかな景観は、緑なす緑野と呼ばれた藤岡の大地にも、浩瀚な麻畑の伸びやかな景観として広がっていたにちがいない。古代緑野郡城（藤岡市）を鮎川・神流川・鍋川・烏川が流れ、これらの河川の消長が緑野の地形環境を形成してきたと言われる。鮎川は藤岡扇台地の西側を北へ向かって鍋川に、神流川は藤岡扇台地の東側を埼玉県境となって北東方向へ向かい烏川に、そして鍋川は鮎川と合流した後3km北東で烏川に合流する。鳥瞰すると、鮎川と神流川を両辺に烏川を底辺とした二等辺三角形の扇状地形を形成している。

緑野  
古代緑野郡  
鮎川・鍋川  
神流川  
烏川  
扇状地形

藤岡市はその地形の特徴から、鍋川の支流である鮎川によって開析された山地地域と烏川に合流する鍋川と神流川に挟まれた平野地域からなり、山地地域と平野地域とは南東から北西に直線的に走る地形的に明瞭な断層線（平井断層）によって分かれている。また平野地域は鮎川と神流川との間に発達する洪積台地（藤岡扇台地）と、この北側にあって烏川・鍋川・神流川に囲まれた地帯に広く分布する沖積低地（北藤岡低地）に分かれる。

地形の特徴  
平井断層  
洪積台地  
沖積低地

関東山地の北縁をなす山地地帯は、赤久縄山（標高1,522m）・西御荷鉾山（標高1,226m）などの鮎川源流域の峻嶒たる山容の山々によって万場町や中里村から別たれている。また上信国境の1,500m級の山々（三国山・御巢鷹山など）は、神流川の水源として深い大きな沢を形成し、人跡未踏の幽谷の景観を呈している。

山地地帯  
上信国境

藤岡扇台地の標高は80～150m、扇台地面は南西から北東にかけて緩やかな傾斜を持ち、北藤岡低地に落ち込んでいる。この扇状地形は、赤久縄山・西御荷鉾山に源を発した鮎川と上信国境に水源をもつ神流川とその支流である三名川が後期更新世後半までに形成したもので、その後河川の下刻作用によって段丘化したものと言われている。

藤岡扇台地  
扇状地形  
下刻作用

藤岡扇台地が鮎川と神流川の扇状地として形成されつつあった更新世後半、榛名火山が大噴火を起こし八崎軽石層（HP）（4.2～4.4万年前）の降下軽石を噴出した。そして榛名火山の活動によって形成された白川 Pyroclastic flow deposit にともない、当時の烏川の谷をかけた岩鼻泥流は瞬時に高崎附近の烏川周辺を埋めつくし前橋台地の一部をつくったと考えられている。「岩鼻泥流の大規模な堆積は一種の自然堤防の役割をはたし、烏川に合流していた鮎川や神流川沿いの藤岡・児玉地域は局地的な停滞水域となり、藤岡扇台地の下部粘土層はこのような環境のもとで形成された。」藤岡粘土層はこのようなドラスチックな激変の地学的景観の中で生成されてきたのである。そして、およそ2万年前には鮎川西岸の西平井面や庚申山の山裾は離水して人類の居住域となっていたことが、該地域においてA T火山灰以降の上部ローム層の全層準の堆積から証明される。

更新世後半  
大噴火  
岩鼻泥流

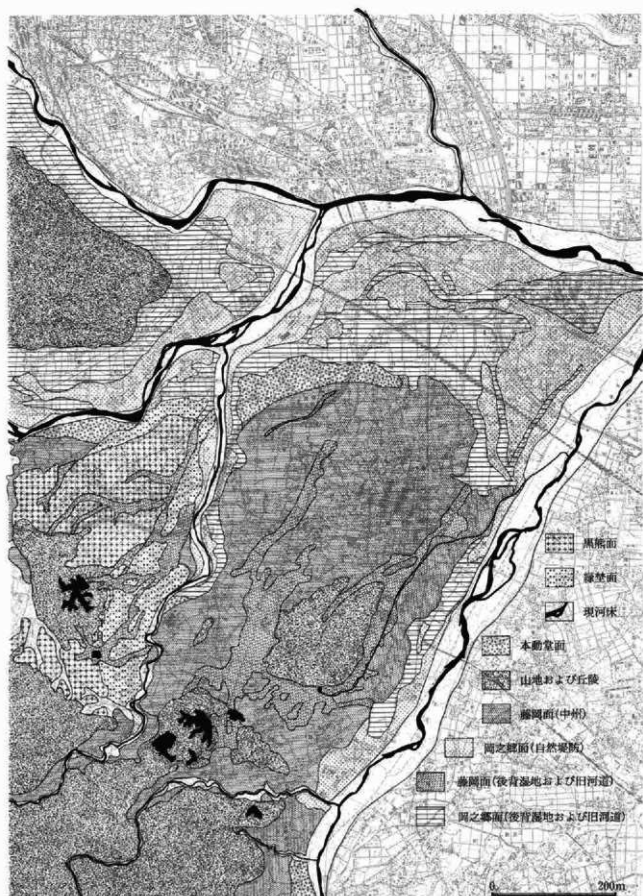
藤岡粘土層  
2万年前

藤岡扇台地の北端は鍋川および鮎川によりほぼ東西にけずりとられ、1～6mの崖あるいは急傾斜地をなし、沖積低地（藤岡低地）に移行する。この沖積低地は西は鮎川と鍋川、北は烏

## II 遺跡の位置と環境

氾濫原	川、東は神流川に囲まれる東西約7.5km、南北約2.5kmの東西に長い氾濫原である。主として鍋
地形発達	川・鮎川・神流川の三河川の消長による地形発達、微地形変化は別にして、大枠で現在の地
完新世以降	形を形造ってきた。完新世以降鍋川・鮎川による沖積低地の生成が行われ、その幾つかの自然
縄文中期後半	堤防上に縄文人たちの生業が始められたのは、縄文中期後半頃のことであった。当時は縄文前期以来の温暖化が引き続き、照葉樹林の繁茂する景観が現出していたに違いない。度重なる鮎川による土石流堆積の増大の故に、鍋川の流路が北へ押し上げられたのはいつ頃のことだろうか。この流路変更による影響は、鮎川の流路の直線上に存在する田端遺跡の集落に甚大な被害をもたらした。その消長の key・point となったことが発掘調査によって確かめられている。田端遺跡では、8世紀の初頭に増水による低地の水没という現象が表れている。そしてその結果、低地の水田化と居住域の台地への移動が行われている。さらに追い討ちをかけるように、8世紀の終末には洪水による生産域の潰滅と台地の分断で集落機能は麻痺し、別の地への移住を余儀なくされたらしい。その後も土石流の堆積が進み、藤岡沖積低地の西側はふさがれ、田端遺跡では5期の何回もの洪水によって運ばれた土砂が低地を埋めていった。藤岡扇台地上の鮎川右岸際の滝下遺跡では、6世紀代、7世紀後半～8世紀代、9世紀前半の3回空白期があり、
滝下遺跡	鮎川による水害にその原因を求められる。とくに9世紀前半に位置付けられる条里遺構に伴うと推測されるM-4号溝は、多量の砂礫を含むシルト質の覆土及び砂礫に混在する遺物の出土状況から鮎川による氾濫の故の崩壊と考えられている。鮎川の下刻化が進み、かなりの比高差の生じた9世紀代でも藤岡扇台地の各所では、鮎川の氾濫による爪痕が様々な形で残っている。
条里遺構	上栗須寺前遺跡は藤岡扇台地の扇端を東西に横切るようにして、上栗須寺前地区から本動堂台地区の約2kmにわたって点在している。北は藤岡沖積低地の一部を含み、下栗須・馬庭停車場線の北で藤岡扇台地との比高差5mの崖線をはいたのり、台地上を鮎川へ向かって西に進む。台地面上には、その厚さは一様ではないが、藤岡粘土と呼ばれる暗灰褐色の粘土層が広い範囲にわたって分布している。遺跡周辺の台地縁辺の土層を観察すると、砂層と礫層と砂質黄灰色シルト層とが互層をなして幾重にも堆積している。このことは、鮎川の水流の変遷が長い地質学的時間のスパンで、何回も繰り返されたことを物語っている。その結果藤岡の台地面上には、鮎川による細流の痕跡が葉脈状に走り、浅い小谷を形成している。
下刻化	
寺前遺跡	
藤岡粘土	
地質学的時間	





第2図 地形区分図

## 2 考古的・歴史的環境

先土器時代	更新世後半のドラスナックな地形変改の後、約2万年前には鮎川西岸の西平井面や庚申山の山裾は離水して(AT火山灰以上の上部ローム層全層準が堆積している)、人類の居住域となっていたことが緑埜地区遺跡群や藤岡北山遺跡の先土器時代遺構の調査から判明している。
北山遺跡	藤岡北山遺跡は、国道254号線のバイパス工事に伴う発掘調査で発見された遺跡で、藤岡市街地の南西にある庚申山(189m)から北東に舌状に延びた丘陵の北東端に立地し、藤岡市街地を東側に望むところに所在している。該遺跡においては、始良Tn火山灰層準とその下位層から総数420点の石器が出土している。また鮎川左岸の北原台地やその対岸の中大塚では、表層資料ではあるけれども先土器時代を証する石器が出土している。藤岡北山遺跡では、「遺物の分布状況からみると、本遺跡は小さな集団により、ごく短期間に営まれたキャンプ・サイトの性格が強いと考えられる。」との指摘がなされている。
始良Tn	
縄文草創期	藤岡の縄文時代遺跡は草創・早・前期のものが孤立した点として散在するけれども、そのありようは先土器時代と大差なく、藤岡地方に縄文人のしっかりとした足跡が記されるのは本格的な照葉樹林の発達した縄文中期であると言われている。縄文草創期の遺跡としては、竹沼遺跡・田島遺跡があるが、どちらも舌状台地の端部に立地し先土器時代の名残りを漂わせている。前期遺跡の分布を見ると、丘陵上(東原遺跡・緑埜地区遺跡群)や台地縁辺(堀ノ内遺跡群)・自然堤防上(滝下遺跡)とかなりヴァリエティに富んだ居住の在り方を示している。
縄文集落	定住社会の条件を満たすような立地に縄文集落が姿を表すのは、藤岡地方では縄文中期のことである。丘陵や台地の縁辺という水場に近い場所が選定されている。中期の縄文遺跡の分布を見ると、大きく5グループに分けられる。I. 鮎川左岸の沖積地をのぞむ台地上に占地する薬師原遺跡と竹沼遺跡 II. 庚申山丘陵縁辺部に立地する北山遺跡・山間遺跡・光徳寺裏山遺跡 III. 鮎川右岸の自然堤防上の滝前遺跡・中大塚遺跡 IV. 藤岡層台地縁辺部や崖線下に存在する西原遺跡・神明北遺跡・谷地遺跡・滝川遺跡・株木遺跡 V. 藤岡低地の自然堤防上に選地する田島遺跡と加村皆戸遺跡である。特に注目されるのは山間遺跡(89点)や北山遺跡(10点)から出土した大量の石錐で、竿漁や刺網漁などの漁撈活動の存在が推量される。
大量の石錐	
縄文後期	縄文後期の遺跡は、中期とほぼ同様な占地状態を示すが、中川流域の台地面上的な遺跡が減り、丘陵性台地にはほとんど立地しなくなる傾向が認められる。遺跡数において若干の減少傾向が感じられる。後期の住居址は北山遺跡・山間遺跡・西原遺跡で確認され、緑埜地区遺跡群中の鍛冶谷戸遺跡から配石墓と土坑が検出され、谷地遺跡から土器埋設遺構が、株木遺跡からは土坑が出土している。
縄文晩期	縄文時代晩期、日本列島の気候は再び冷涼・湿潤化していく。藤岡の晩期の遺跡は分布調査も含めて、緑埜地区遺跡群中のシモ田遺跡と谷地遺跡及びその南東部が確認されているだけで、立地も沖積低地とそれに臨む斜面と低台地となっている。
弥生初期	鍋川が鳥川と合するあたりの、右岸の下位段丘から氾濫原にかけては、縄文後期から晩期終末の藤岡市中栗須の谷地遺跡があり、その北1kmの自然堤防上の微高地には、藤岡地域における弥生時代初期の沖II遺跡がある。沖II遺跡では、再葬墓の埋納土器のなかに在地系の大洞式系の土器に混じって、遠賀川式土器の壺の搬入品とみられるものがある。この弥生時代初期の

沖Ⅱ遺跡の存在から、その後背湿地である藤岡低地に広域な水田耕作地の確保の可能性を認め、該地域一帯に初期農耕集落を予想する研究もあり、さらなる遺跡の発見が期待される。沖Ⅱ遺跡以降、同じ自然堤防上に弥生時代遺物が多数出土した森泉遺跡や鮎川左岸の弥生時代後期の吉ヶ谷式土器を伴出した住居をもつ竹沼遺跡がある。

弥生後期

藤岡周辺の弥生時代遺跡のありようを見てもわかるように、利根川とその支流の平坦地は、弥生時代にはまだ十分に開発されていなかった。この広大な沃野に開発の手を伸ばすのは、それまで群馬の地で弥生文化を担った人々とはまったく別の、古墳築造技術に代表される大規模土木技術を持った石田川式土器文化の担い手達である。

藤岡地域の石田川式土器の遺跡の分布は、藤岡低地の温井川流域と神流川左岸の中川流域に見られる。また中川流域の堀ノ内遺跡群C K—2号墳（前方後方墳）は、底部穿孔土器を出土しており4世紀末葉に位置づけられる。このことから、中川水系を制御しつつ農業生産を拡大していった階層社会の成立が推察される。

石田川式期

4世紀末葉

5世紀代に入ると鮎川流域では、5世紀前半に十二天塚古墳（前方後円墳）、5世紀中頃に白石稲荷山古墳（前方後円墳）が、鮎川左岸の台地上に姿を現す。特に全長140mの白石稲荷山古墳は、同時期の太田天神山古墳（210m）や伊勢崎御富士山古墳（170m）と並んで、毛野の地に颯々たる南毛の王といった風体で威容を示している。白石稲荷山古墳を支えたバックグラウンドとしては、鮎川左岸の丘陵を開削して鮎川に流れ込む小河川の形成した沖積地をまず考えてみたい。緑地地区遺跡群は白石稲荷山古墳の南方約1.5kmにあり、5世紀代の和泉期住居3軒が調査されている。緑地地区遺跡群の調査成果から推測すると、鮎川左岸の小水系の沖積低地にはまだ多くの5世紀代住居の存在が指摘できる。

5世紀代

和泉期住居

藤岡の6世紀代の村落景観も子持村の黒井峯遺跡の景観とさほど変わりのないものであったにちがいない。小水系や湧水に近い台地や自然堤防上に集落立地し、小水系や湧水の作り出した沖積地を生産域として稲作に励み、集落の周辺の台地上や自然堤防上では畑作農耕が盛んに行われていた。そんな日常風景が藤岡扇台地のあちこちで見られたことだろう。

6世紀代

畑作農耕

調査された遺跡としては、中川水系の堀ノ内遺跡・土師食堂前遺跡・株木遺跡と藤岡低地の温井川に沿った自然堤防上に温井遺跡・中道遺跡・岡之台遺跡・森遺跡が存在する。また藤岡扇台地の末端の鮎川に近い自然堤防上の本勸堂字上宿には、上宿BⅢ遺跡が立地し周辺の古墳群との関係が窺える。

6世紀代の古墳の消長を各水系別に見ると、鮎川流域の猿田川水系では白石稲荷山古墳の築造後、あたかも鮎川と鮎川の合流点を押さえるかのように藤岡地方最大級の前方後円墳である七興山古墳（140m）が出現する。また神流川流域の中川水系では、6世紀前半～中葉にかけて中規模クラスの前方向後円墳である戸塚神社古墳・諏訪神社古墳・本郷二子山古墳・別所堂山古墳が所在する。これと隣接する三名川水系の神田古墳群では、8基の前方向後円墳が存在している。

古墳の消長

6世紀前半になって、前方向後円墳が再び各地に伝統的な勢力を維持していた豪族層によって造営されるようになると、その需要に対応するかのように、埴輪の生産体制が専門の工人によって組まれる方向へと発展していった。その拠点生産地が、本郷埴輪窯跡群と猿田埴輪窯跡群である。これらの地は神流川沿いの地と鮎川・鍋川の合流する地を中心に組織的に埴輪生産が

6世紀前半

埴輪生産

## II 道跡の位置と導境

行われており、東毛地域の東金井・北金井地区と並んで、群馬県地域の埴輪生産の拠点となっていたものと思われる。

6世紀後半

本郷埴輪窯

本郷埴輪窯跡群の西北方には、後期群集墳の小林古墳群が分布し、北方約1kmには横穴式石室を主体部とする前方後円墳の諏訪神社古墳がある。諏訪神社古墳は6世紀後半に造られたと推定される古墳であり、本郷埴輪窯を営んだ工人たちを支配する首長の墳墓としてとらえられ、小林古墳群はそれらの工人やその系譜に連なる家族の墳墓として推定される。このように、6世紀後半も終末を迎え、前方後円墳の造営が終止符を打たれ埴輪を立て並べる風習が衰退するまで、藤岡地域にあっては、本郷地区や猿田地区に埴輪生産の拠点を置いた専業集団が、有力氏族に率いられて西毛地域に埴輪の供給を行っていたと考えられる。

7世紀代

藤岡の群集墳としての古墳群の盛期は、7世紀代であると言っても過言ではない。神流川・鮎川地域及び扇状地屈央部に分布し、分布の仕方は本庄台地と同様である<sup>21)</sup>という。神流川左岸では、小林古墳群と土師神社に近接する野見塚古墳群・戸塚古墳群がある。また神流川支流の三名川沿いには三本木古墳群・神田古墳群が所在している。

鮎川流域の左岸には、南坂古墳群・緑基古墳群・白石古墳群・白石猿田古墳群・宗永寺古墳群が南北に列状に並び、右岸では東平井古墳群が存在する。そして扇状地先端部の崖線上には、篠塚A古墳群・篠塚B古墳群が位置している。

胴張り・模様積み

古墳群内には、胴張りや模様積みという特色ある石室構造をもつ古墳（伊勢塚古墳等）が出現する。これらの古墳は、群馬県内では藤岡扇状地にしか検出されておらず、埼玉県側の神流川右岸の本庄台地にその類例がみられる。5世紀代において、烏川・井野川流域との関連をもった藤岡地域が、6・7世紀代には胴張り・模様積みといった特色ある石室構造をもつ古墳に表現されるような文化的紐帯の古墳群が形成され、神流川流域を中心とした神流川文化圏とも言うべき領域が藤岡扇状地や本庄台地に成立すると考えられる。

この時期の集落の立地は、古墳群の附近に認められ、群集墳を成立せしめた主体層を中心とした村の生産が営まれていた。特に藤岡地方の窯業生産の特色としては6世紀代の埴輪生産に触発されたけように、7世紀中頃から須恵器生産が日野金井の丘陵斜面を利用して開始される。そして8世紀代には上野国分寺の瓦窯として瓦生産の盛期を迎える。

須恵器生産

瓦生産

須恵器跡群

藤岡市教育委員会の調査によれば、日野金井の須恵器窯跡群の存続期間は7世紀中頃から9世紀前半と推定される。また吉井町多比良の末沢窯跡は8世紀中頃、下五反田窯跡は9世紀後半から10世紀前半の年代が与えられる。そして7世紀前半から11世紀前半に集落の存在した上栗須寺前遺跡出土の須恵器のほとんどは、前述の窯跡の供給と思われる。

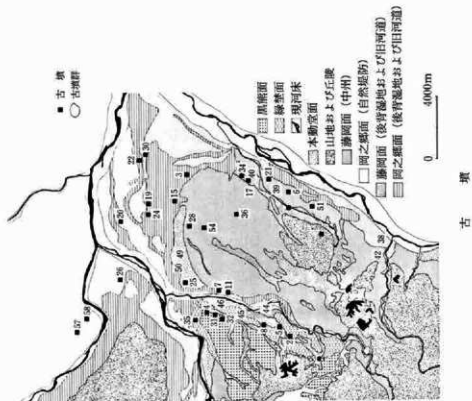
金山瓦窯跡

8世紀中頃から9世紀中頃に築造された金山瓦窯跡は藤岡市金井の中原地区に所在し、国分寺・上植木庵寺・金井庵寺等に瓦を供給している。3基の瓦窯跡が確認され、出土した宇瓦・男瓦・女瓦・には寛書・刻印が付されており、この資料によって国分寺や他の庵寺との供給関係が明らかにされた。

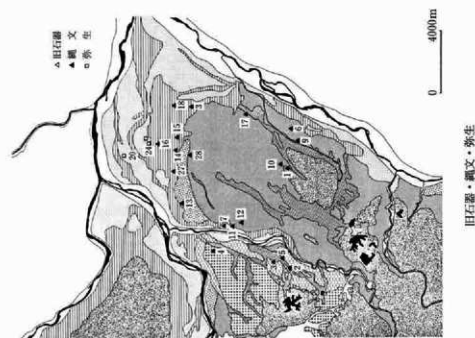
このように窯業生産という側面から、藤岡地域は6世紀代以降上野国の拠点として重要視されてきている。

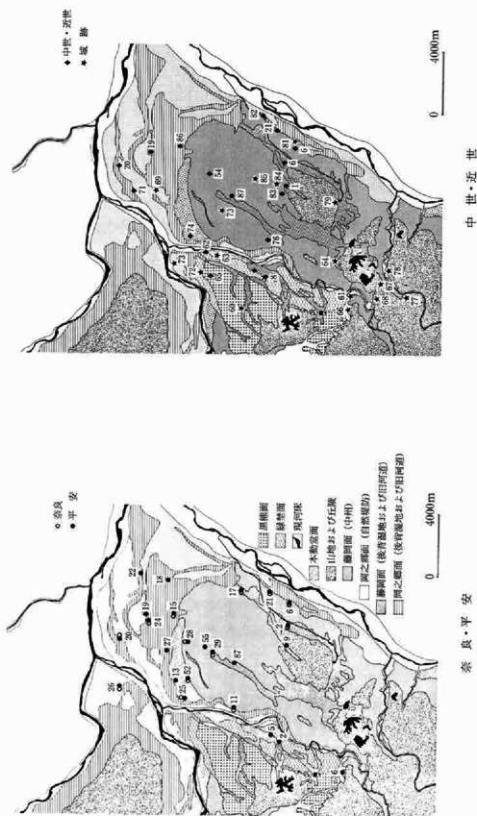
糸里制遺構

古代律令制における農業生産の基盤である糸里制遺構も、中大塚の滝前・滝下遺跡調査で一町間隔の溝跡が確認され、9世紀前半までは機能していたことが推測される。



第3图 周边遗迹分布图(1)





第4図 周辺遺跡分布図(2)

平安時代以降は中央の政治的・社会経済的影響が直接的に藤岡地方にも及び、最澄の緑野寺 平安時代における東国布教に関連する可能性も推測される黒熊中西遺跡の山寺遺構等が形成され、高山 山寺遺構御厨に代表される寄進地系荘園の記録が文書に散見されるようになる。

中世にはいと、中大塚遺跡で確認された道路状遺構のように幅6mで両側に側溝をもつ道 中世路網が、藤岡副台地を北東から南西に貫き、この鎌倉街道を利用した鎌倉への頻繁な物資流通 鎌倉街道の様相を示している。関東管領上杉氏が15世紀に築いた平井城は藤岡副台地の要に位置し、副 平井城台地上に配された支城や家臣団の館所とともに、一大戦略拠点として関東平野に望んでいた。

周辺遺跡一覧表

番号	遺 跡 名	所 在 地	時 期										備 考
			古墳	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	その他		
1	北山遺跡	山崎字丸山										「A2藤岡北山遺跡、A3山間遺跡、A6白坂道南遺跡」藤岡市教育委員会1967	
2	竹沼遺跡	西平井緑地		○	○			○				「F1竹沼遺跡」藤岡市教育委員会1976	
3	田島遺跡	下栗須										「B6中道遺跡、B7加賀野戸遺跡、B8五町田遺跡、B9田島遺跡、B10円浄遺跡」藤岡市教育委員会1987	
4	東原遺跡	白石		○	○							「東原遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1979	
5	緑地地区遺跡群	緑地	○	○	○	○	○					「F2緑地地区遺跡群Ⅰ」藤岡市教育委員会1986	
6	堀ノ内遺跡群	小林南・本郷		○	○	○	○	○	○			「A1堀ノ内遺跡群」藤岡市教育委員会1982	
7	地下遺跡	中大塚				○	○					「堀ノ内・地下遺跡」藤岡市教育委員会1988	
8	栗原遺跡	緑地字栗原				○	○					「F9栗原遺跡」藤岡市教育委員会1985	
9	山間遺跡	藤岡字山間						○				「A2藤岡北山遺跡、A3山間遺跡、A6白坂道南遺跡」藤岡市教育委員会1987	
10	光徳寺西山遺跡	藤岡										「藤岡町史」1952	
11	南原遺跡	中大塚		○	○	○	○					「堀ノ内・地下遺跡」藤岡市教育委員会1988	
12	中大塚遺跡	中大塚字鎌倉		○	○	○	○					「群馬県史資料編Ⅰ」群馬県史編纂委員会1968	
13	西原遺跡	藤岡		○	○		○					「藤岡市遺跡詳細分布調査Ⅱ美土里地区」藤岡市教育委員会1983	
14	神明北遺跡	中栗原		○								「C7神明北遺跡、C8谷地遺跡」藤岡市教育委員会1988	
15	谷地遺跡	中栗原字谷地		○	○	○	○					「C7神明北遺跡、C8谷地遺跡」藤岡市教育委員会1988	
16	岡川遺跡	森字岡川										「C4小野地区遺跡群発掘調査報告書」藤岡市教育委員会1982	
17	柿木遺跡	上戸塚字柿木		○	○	○	○					「B6柿木遺跡」藤岡市建設部・教育委員会1984	
18	加賀野戸遺跡	岡之郷		○				○				「B6中道遺跡、B7加賀野戸遺跡、B8五町田遺跡、B9田島遺跡、B10円浄遺跡」藤岡市教育委員会1987	
19	沖目遺跡	立石字沖目			○	○	○	○				「C11沖目遺跡」藤岡市教育委員会1988	
20	森泉遺跡	森字泉			○	○	○			○		「藤岡市遺跡詳細分布図Ⅰ小野地区」1982	
21	土師倉前遺跡	小井				○	○	○	○			「年報(1)」藤岡市教育委員会1983	
22	中道遺跡	岡之郷				○	○	○				「B6中道遺跡、B7加賀野戸遺跡、B8五町田遺跡、B9田島遺跡、B10円浄遺跡」藤岡市教育委員会1987	
23	岡之台遺跡	岡之郷		○								「年報(3)」藤岡市教育委員会1990	
24	森遺跡	森字川口		○		○	○	○				「森・中・中Ⅱ」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1983	
25	上原山遺跡	本郷				○	○	○				「年報(1)」藤岡市教育委員会1985	
26	田間遺跡	高崎市本郷町田間										「田間遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1979	
27	小野西部地区遺跡群	上栗原				○	○	○				「小野西部地区遺跡群発掘調査報告書」藤岡市教育委員会1990	
28	上栗原遺跡	上栗原				○	○	○				「上栗原・下大塚・中大塚遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1985	
29	下大塚遺跡	下大塚				○	○	○				「上栗原・下大塚・中大塚遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1985	
30	黒井遺跡	岡之郷				○						「黒井遺跡」群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1981	
31	十二天塚古墳遺跡	白石字稲荷原										「伊勢崎古墳・十二天塚古墳」藤岡市教育委員会1988	
32	白石稲荷山古墳遺跡	白石字稲荷原				○						「白石稲荷山古墳」藤岡市教育委員会1987	
33	七瀬山古墳遺跡	上落合										「七瀬山古墳」藤岡市教育委員会1991	
34	戸塚神社古墳遺跡	上戸塚野										「戸塚神社古墳の現状」3、まとめ」埼玉県立本庄高等学校考古学部1975	
35	源助神社古墳遺跡	藤岡字東原										「藤岡市遺跡詳細分布調査Ⅱ藤岡地区」藤岡市教育委員会1986	
36	本郷二子山古墳遺跡	本郷字本郷										「4、本郷二子山古墳の現状」5、まとめ」埼玉県立本庄高等学校考古学部	
37	別所堂山古墳遺跡	別所										「6、別所堂山古墳の現状」7、まとめ」埼玉県立本庄高等学校考古学部	
38	神田古墳群遺跡	神田				○						「神田・三本山古墳群」藤岡市教育委員会1988	

## II 遺跡の位置と環境

番号	遺 跡 名	所 在 地	時 期										備 考
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	その他		
39	小林古墳群遺跡	小林										『日本考古学年報』7日本考古学協会1958	
40	野見塚古墳群遺跡	上戸塚											
41	戸塚古墳群遺跡	戸塚・小林											
42	三本木古墳群遺跡	三本木										『神田・三本木古墳群』藤岡市教育委員会1985	
43	南坂古墳遺跡	西平井											
44	緑葉古墳群遺跡	緑葉										『F2緑葉地区遺跡群Ⅰ』藤岡市教育委員会1986	
45	白石古墳群遺跡	緑葉字白石										『白石古墳群調査報告書』藤岡市史編纂委員会1989	
46	白石横田古墳群遺跡	白石字横田										『年報』3 藤岡市教育委員会1988	
47	宗永寺古墳群遺跡	上落合										『群馬縣史蹟名勝天然記念物調査報告書』第五輯群馬県	
48	東平井古墳群遺跡	東平井										『東平井古墳群 昭和55年度遺跡群総合調査実地報告書』群馬県教育委員会1981	
49	篠塚A古墳群遺跡	篠塚											
50	篠塚B古墳群遺跡	篠塚											
51	本郷地輪古墳群遺跡	本郷字坂原										『群馬県史資料編』2 群馬県史編纂委員会1986	
52	本郷山根遺跡	本郷字山根		○			○	○	○			『本郷山根遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1988	
53	北原遺跡	下大塚字北原							○	○		『藤岡市遺跡群詳細分布調査Ⅱ美土里地区』藤岡市教育委員会1983	
54	上栗原A遺跡	中栗原字大林									○	『年報』(6) 藤岡市教育委員会1991	
55	藤岡城遺跡	藤岡字城							○	○		『年報』(11) 藤岡市教育委員会1985	
56	金山瓦部遺跡	金井										『群馬県史資料編』2 群馬県史編纂委員会1986	
57	洗馬山古墳遺跡	高崎市倉賀野町										『群馬県遺跡台帳』Ⅱ(西毛編)1981	
58	大動寺古墳遺跡	高崎市倉賀野町										『白石大御堂遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1991	
59	白石大御堂遺跡	白石大御堂			○	○							
60	三ツ木城跡遺跡	三ツ木								○		『群馬県の中世城跡群』群馬県教育委員会1988	
61	平井城跡遺跡	西平井								○		『群馬県の中世城跡群』群馬県教育委員会1988	
62	平井地区No11遺跡	白石字滝								○		『藤岡市詳細遺跡分布調査Ⅱ平井地区』藤岡市教育委員会1984	
63	白石の磐遺跡	白石字新堀										『群馬県の中世城跡群』群馬県教育委員会1988	
64	東平井の磐遺跡	東平井字城之内										『群馬県の中世城跡群』群馬県教育委員会1988	
65	東原Ⅱ遺跡(F8)	三ツ木字東原										『藤岡市詳細遺跡分布調査Ⅱ日野地区』藤岡市教育委員会1988	
66	金山西城跡遺跡	金井										『年報』(4) 藤岡市教育委員会1989	
67	金井城跡遺跡	金井小平										『藤岡市史資料編』藤岡市史編纂委員会1993	
68	高山城跡遺跡	金井字上小平										『群馬県の中世城跡群』群馬県教育委員会1988	
69	中城遺跡	字中										『藤岡市史資料編』藤岡市史編纂委員会1993	
70	森東城跡遺跡	字北口										『群馬県の中世城跡群』群馬県教育委員会1988	
71	森西館跡遺跡	字中西										『藤岡市史資料編』藤岡市史編纂委員会1993	
72	落合の磐遺跡	上落合字城山										『群馬県の中世城跡群』群馬県教育委員会1988	
73	岡の磐遺跡	上落合字岡										『藤岡市史資料編』藤岡市史編纂委員会1993	
74	勸堂の城跡遺跡	本勸堂字前屋敷										『藤岡市史資料編』藤岡市史編纂委員会1993	
75	中大塚の城跡遺跡	中大塚字下塚										『藤岡市史資料編』藤岡市史編纂委員会1993	
76	上大塚の磐跡遺跡	上大塚										『藤岡市史資料編』藤岡市史編纂委員会1993	
77	高山城跡遺跡	高山字山室										『藤岡市史資料編』藤岡市史編纂委員会1993	
78	低高山氏館跡遺跡	高山字高山										『群馬県の中世城跡群』群馬県教育委員会1988	
79	常間城跡遺跡	神田字城腰										『藤岡市史資料編』藤岡市史編纂委員会1993	
80	本郷尺地遺跡	本郷字尺地										『本郷尺地遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1989	
81	板岸築城跡遺跡	板岸										『藤岡市史資料編』藤岡市史編纂委員会1993	
82	小林館遺跡	小林字中里										『藤岡市史資料編』藤岡市史編纂委員会1993	
83	白堀道南遺跡	山崎										『A2藤岡北山遺跡、A3山崎遺跡、A6白堀道南遺跡』藤岡市教育委員会1987	
84	大神宮山の磐遺跡	藤岡字南山										『藤岡市史資料編』藤岡市史編纂委員会1993	
85	芦田城跡遺跡	藤岡字城屋敷										『群馬県の中世城跡群』群馬県教育委員会1988	
86	五町田遺跡	下栗原										『B6中道遺跡、B7加賀野戸遺跡、B8五町田遺跡、B9田島遺跡、B10河津遺跡』藤岡市教育委員会1987	
87	中大塚遺跡	中大塚字鎌倉						○	○	○		『上栗原・下大塚・中大塚遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1989	



### III. 調査の概要

#### 1. 調査経過

藤岡市上栗須地内の藤岡インターチェンジ付近で温井川を渡った上信越自動車道は、寺前地区で藤岡扇台地の崖線を上ると、扇端に沿って西進し、本動堂地区で大きくカーブして鮎川に沿って南進する。

上栗須寺前遺跡群の所在する藤岡市上栗須寺前、篠塚狐穴、篠塚四反歩、篠塚清太、下大塚北原、本動堂台地区は、上栗須地内の1区と呼ばれる崖線下の低地を東端として、西側は鮎川に近い本動堂字台までのおよそ2kmの間である。

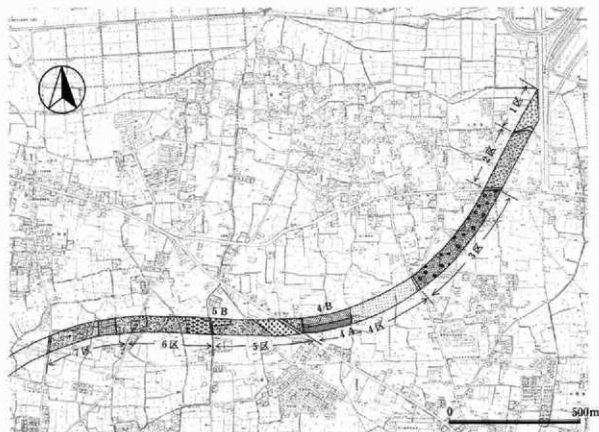
遺跡地は藤岡扇台地の先端部に平行して立地し、扇台地面上の鮎川の氾濫により開析された小谷等の微地形によりその表情を変えている。しかしながら、便宜上区番号は東から崖線下の低地部分を1区、県道停車場線までを2区、浄雲寺西の道までを3区、県道寺尾線までを4区、多野産栗西の道までを5区、美土里小学校への道までを6区、それ以西を7区としている。そして調査作業の進行上区をさらに細分して、I, II, A, B等と命名して調査区を設定した。

本遺跡の調査は昭和63年4月1日に開始され、遺跡全体の長さ1,400m・調査対象面積60,280㎡でスタートした。63年度は調査区を5つに分け、1, 2, 3区22,169㎡を発掘調査対象地区と

区番号

調査区

調査開始



第5図 調査区配置図

### III 調査の概要

調査区	遺跡	住居	竪穴	竪立	欄列	垣根	溝	旧河	道路	土坑	基壇	井戸	古墳	門形 周溝	池	品	調査 面積
1 区		20	3		2		17			62						4	330
2 区	A						2		1	16			2				1,030
	B	3		2	1		3		2	89			8				2,362
小 計		3		2	1		3		2	89			8				230
3 区	A	1					2			1							150
	B	32					11			182				1			100
	C	26					11			182				1			100
	D	9					2			408							293
	E	22		2			12			2,061							842
	F	26					4			129							3,435
小 計		116		2			42			3,860				1			5,598
4 区	A	59	5	32	25	2	6	1		1,784	19	2				1	12,064
	B	7	1	25	2		23	1		1,137	6				4	4	4,692
小 計		66	6	57	27	2	29	2		2,921	25	2			4	5	16,756
5 区	5	12					7			68							135
	5 A	18		2			9			426	2			1			5,250
	5 B	15		1						71							504
小 計		45		3			16			565	2			1			5,889
6 区		17		21				10		329	12	1					5,390
7 区		29					7			126	1						2,460

した。4月には作業員の確保・調査事務所の設置にあて、1区は5月9日着手、10月21日に終了した。2区は10月24日に着手、未調査部分60%を残して1月19日に終了した。3区は11月14日に着手、2区と並行して調査を進め未調査部分60%を残して3月31日に終了した。

#### 平成元年度

平成元年度は3区の未調査部分と並行して、分布調査と試掘調査から除外されていた宅地部分の確認調査を実施した。その結果、2地点において約4,000㎡の遺跡が確認され調査対象地区は7地区となった。年度当初、4区東半分の遺跡を調査する予定であったが、側道部分の調査を優先することになり、本来の調査計画に戻ったのは10月以降であった。また市街地に近いため未買収地も点在し、住居移転のたびにその跡地を調査することもあり、調査進行上効率の悪い1年であった。

#### 平成2年度

##### 寺前I遺跡

##### 寺前II遺跡

平成2年度は、試掘調査の結果増加した調査部分を取り込むために2班体制をとり、寺前I遺跡・寺前II遺跡として調査を継続することとなった。寺前I遺跡は4区東半分の4Aと名付けた部分を調査し、寺前II遺跡は5区と新たに調査対象となった6、7区を担当し調査した。本報告書のメインとなる寺前II遺跡は、先年度までの2年間にわたって発掘調査した範囲の西側部分で、篠塚清太・下大塚北原・本動堂台地区が調査対象地となっている。この地区は藤岡市の中でも、粘土や砂利採取による乱掘のため遺構保存状況の極端に悪い地区で、調査対象地は

## 1 調査経過

地籍ごとに虫食いだらけになってしまっている。そのため調査が飛び飛びになって、調査事務所を数回移転することとなった。

平成3年度は、先年度からの継続調査と未買収であった調査予定地の発掘調査が完了して、平成3年度当初予定していたすべての発掘調査を終えることができた。調査地域は、浄雲寺寺域内(3B、3C区)の昨年からの継続調査部分1,100㎡、浄雲寺山門前の未買収地であった700㎡(3D区)、県道寺尾藤岡線北沿いの継続調査部分4,300㎡(4B区)、県道寺尾藤岡線南沿いの未買収地であった400㎡(6区)の合計面積6,500㎡である。

区名 年月	4A	4B	5	5A	5B	6	7	備 考
1 1989	4							
	5							6/1 4A区重機搬入。
	6							
	7							6/17 4・5・6・7区試掘。
	8							5 7/27
	9							
	10							10/17 4A区ハイライターにて撮影。
	11							11/22 5区ハイライターにて撮影。
	12							
	1990							
	1							
	2							
2 1990	3							
	4							
	5							
	6							6/25 本館前プレハブに移転。
	7							7/17 雷雨による水没の復旧作業(5A・6区)。
	8							7/27 5A区空堀。
	9							8/6 西中郷土クラブ 遺跡見学。
	10							8/8 美土里小生徒 体験発掘。
	11							10/18 7区ハイライターにて撮影。
	12							
	1991							
	1							
3 1991	2							
	3							3/1 5A・6区ハイライターにて撮影。
	4							4/10 4B区機械搬入。
	5							5/28 4B区ハイライターにて撮影。
	6							
	7							7/4 4A区ハイライターにて撮影。

## 2. 調査方法

- 調査区** 調査区の設定は調査経過でも記述したように、藤岡インターチェンジに近い調査対象地の東端上東須地内から本勸堂台地区までのおよそ2kmを、道路を境界線として1区から7区まで7区間に設定した。
- グリッド** グリッドの設定は、国家座標 $X=+29.64$ ,  $Y=-69.36$ を基点として、X軸上に東西1360m, Y軸上に南北1140mの範囲に網を張り、大グリッドを80m×60mとし、さらに大グリッドを縦横に十等分して、100個の8m×6mの小グリッドが設定された。グリッド名称は、大グリッドを東西方向に17等分してAからOまでのアルファベット記号をつけ、南北方向に19等分して1から19までの数字を付すことにより数字とアルファベットの複合記号で表し、小グリッドは東西南北方向をともに10等分して2桁数字で表現した。ところが、途中から調査対象地区がさらに西へ広がったために、急速ギリシア文字の $\alpha, \beta, \gamma, \delta$ をAラインの西側に設定せざるを得なかった。

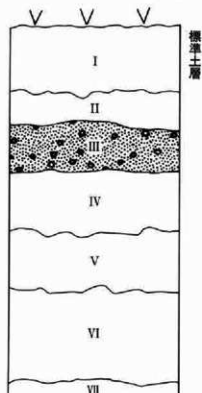
## 3. 層 序

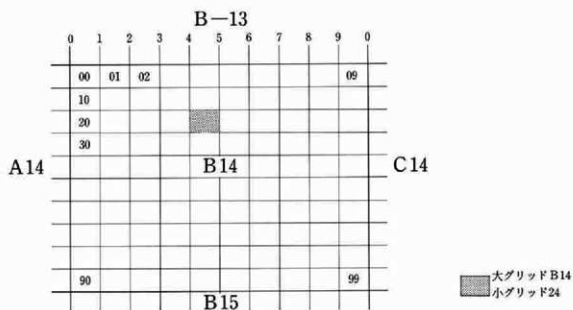
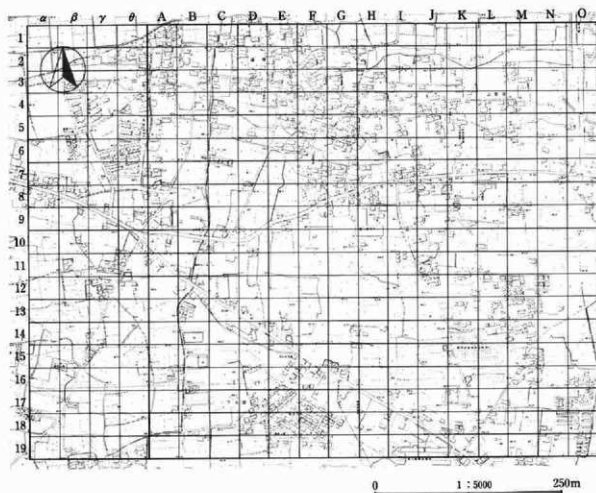
本道跡は「道跡の位置と環境」の項でも記したように、藤岡扇状地の扇端部を東西に横切るように占地している。そのために、藤岡扇状地上を南北に走る比高差2m程の舌状低台地と小谷を横断する60m余の大トレンチが、それぞれ各区の道跡地となっている。各区の地形を概観すると4A, 5, 5A, 5B, 7区が低台地上に立地し、4B, 6区が小谷内に存在している。

- 各区の土層** 各区の土層の特徴としては、4B区と6区、7区にAs-B軽石まじりの土層が見られ、4B区と6区の小谷内には洪水に由来すると考えられる黄褐色シルト質土が存在する。このことはAs-B軽石降下以前のある時期に、藤岡扇状地上を覆うような規模の洪水が起こり、小谷を広く浸水したことを証明している。

本道跡の標準的な層序は次の通りである。

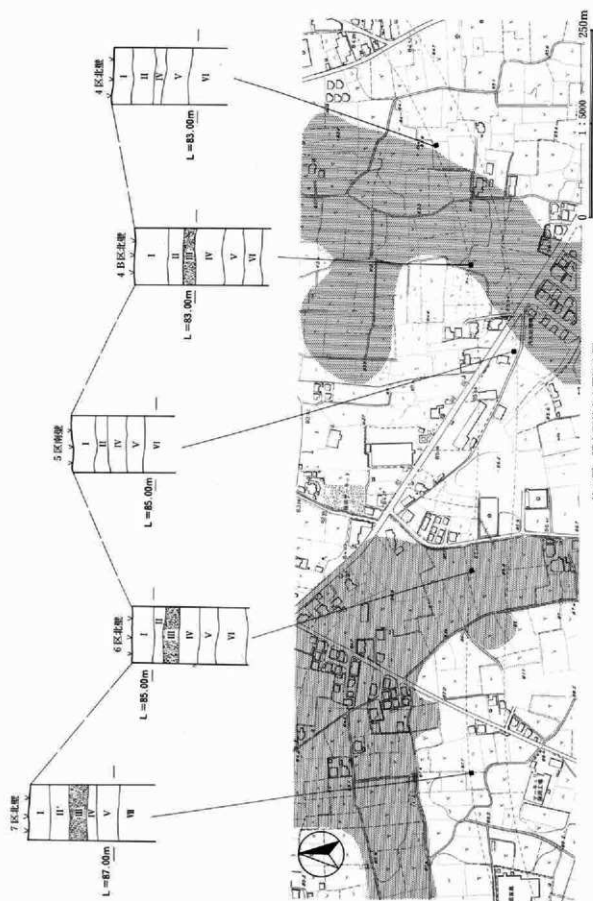
- I層 25Y5/1 黄灰色 As-A 軽石を多量に含む砂質土で、非常に脆い水田土壌。
- II層 25X5/1 黄灰色 I層に鉄分の凝集素が交じったもので、水田の床土。
- III層 25Y4/2 暗灰黄色 砂質土で As-B 軽石を多量に含む。
- IV層 25Y5/4 黄褐色 シルト質土で下部に鉄分の凝集が見られる。(洪水の影響か)
- V層 25Y4/3 オリーブ褐色 シルト質土で層全体に鉄分の凝集が見られる。
- VI層 25Y3/2 黒褐色 締まりのある粘性土で Hr-印軽石を若干含むが夾雑物は少ない。
- VII層 25Y5/4 黄褐色 シルト質ローム土

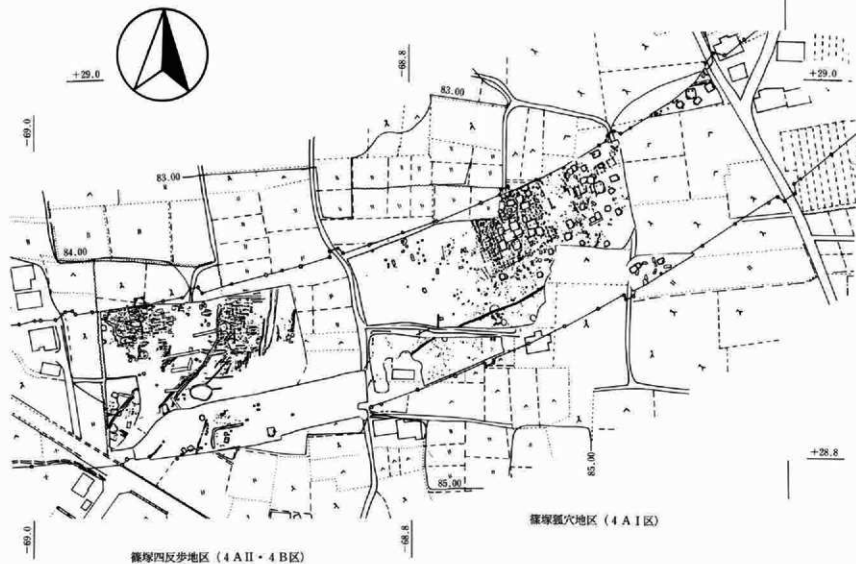
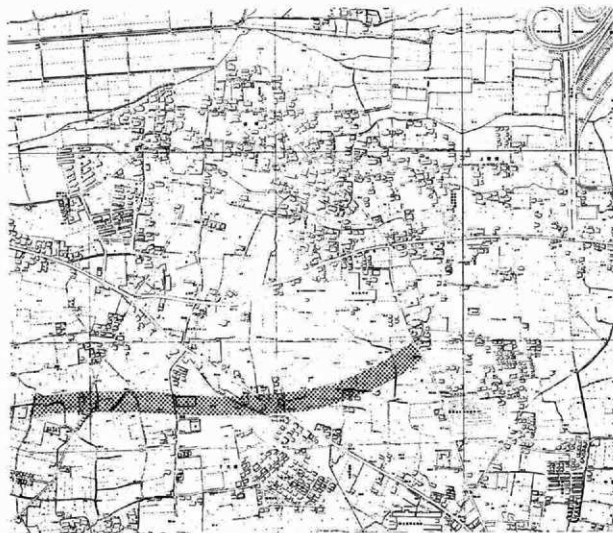




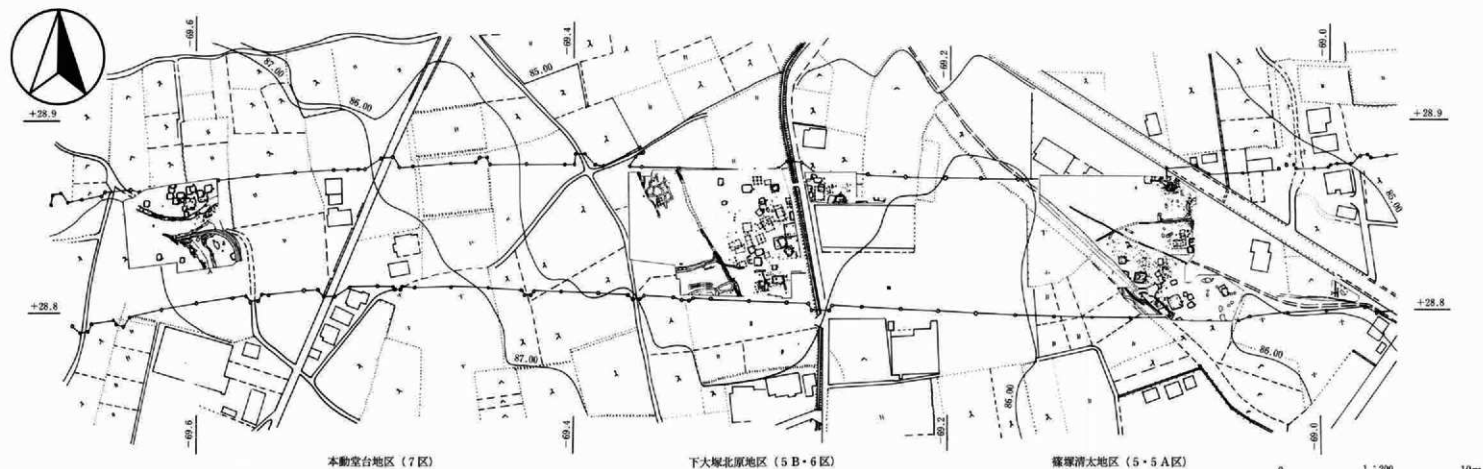
第6図 グリッド配置図

### III 調査の概要





篠塚四反歩地区 (4AII・4B区)



本駒堂台地区 (7区)

下大塚北原地区 (5B・6区)

篠塚清太地区 (5・5A区)

第8図 各区道跡概念図・篠塚四反歩 (4B区) 道網配置図

0 1 : 200 10m





## 上栗須遺跡群 I

篠塚狐穴地区 (4 A I 区)

篠塚四反歩地区 (4 A II 区・4 B 区)



第9图 建钟窑穴地区(4A1区)遗址配置图



第10图 建钟窑穴地区(4A2区)遗址配置图

## IV 遺 跡 の 調 査

## 1. 篠塚狐穴(4AⅠ区)・篠塚四反歩(4AⅡ区)地区

篠塚狐穴地区(4AⅠ区)は県道寺尾・藤岡線の北側にあり、関越自動車道・上信越線の工事座標STA32とSTA33の間に位置し西隣の篠塚四反歩地区(4B区)とは埋没谷の痕跡と考えられる浅い谷地によって区画される。また1989年に調査された篠塚四反歩地区(4B区)の南側に伸びる側道部分については、報告書整理刊行作業の都合から篠塚四反歩地区(4AⅡ区)として掲載してある。

検出した遺構は奈良・平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝と中世墓坑である。奈良・平安時代の竪穴住居跡と掘立柱建物跡は互いに避けあって築造された形跡が看取され、分析を進めていけば共存していた一群が抽出できる可能性もある。また西側の側道部分からは、方形に区画する溝の一部とともに柵列が確認され、特殊な遺構の存在が推測される。

## (1) 竪穴住居跡

## 4AⅡ区・01号住居跡

遺 構 (押図番号11 写真番号PL3)

本住居跡は4AⅡ区の最西端のF14・30グリッドに位置する。周囲は便宜的に設けた4B区との境界線で三方向を囲まれ、南6mには02・03・04号住が東西に連なって存在する。確認面の標高は84.40mを測り、東壁を洪水と思われる水流による攪乱によって失っている。

規模は南北2.40mを測れるのみで、面積も不明である。平面形態は横長の不整形と推測できるが、西壁の南西隅が若干張り出し、東壁は9世紀前半の大洪水によるものと考えられる水流で削り取られている。主軸方位はN-118°-Eを示し、南西方向に傾いている。

残存している壁はかなり明瞭な立ち上がりを見せ、壁高は平均20cmを測る。覆土は4層に分かれ、自然な埋没状態を示している。

床面は平坦で貼床が施され、掘り方は住居跡の中央部を掘り残すように掘り込まれている。

電 (押図番号12・13 写真番号PL3)

燃焼部は平面形態が台形状を呈し、南壁東寄りの住居内に設けられ袖が残る。煙道部は欠損しているが、燃焼部から煙道部への移行はかなりの急角度で立ち上がる。覆土は灰、焼土、シルト質ローム土が互層をなしており、天井部の崩落状態が看取される。袖は黄色シルト質ローム土で築かれている。火床面は浅く掘りくぼめられ、灰が厚く堆積している。

電掘り方は認められず、本住居の貼床が施された後に該電が構築されたものと推測される。

遺物の出土状態 (押図番号11)

出土遺物量は少なく、平面分布は散漫で層位的には1層に含まれるものが多い。掲載遺物はすべて1層出土のタイプCで、住居廃絶後一定時間の経過の所産として理解する必要がある。

出土遺物 (押図番号14 写真番号PL54)

篠塚狐穴

篠塚四反歩

検出遺構

方形区画

絶対的位置

相対的位置

確認面

規模・形態

主軸方位

壁・覆土

床・掘り方

燃焼部  
煙道部

火床面

遺物分布

タイプ

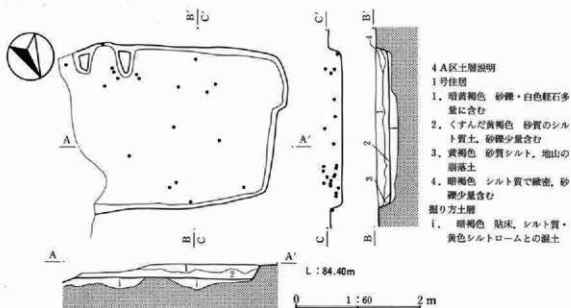
#### IV 遺構と遺物

**図示遺物** 図示遺物は、土師器環3、須恵器破片1、須恵器盤1、須恵器環蓋1の6個体である。土師器 師器環は、丸底から口縁が直立気味に立つ1、丸底から口縁部が短く内傾する4と盤状環Bタイプの6に分けられる。

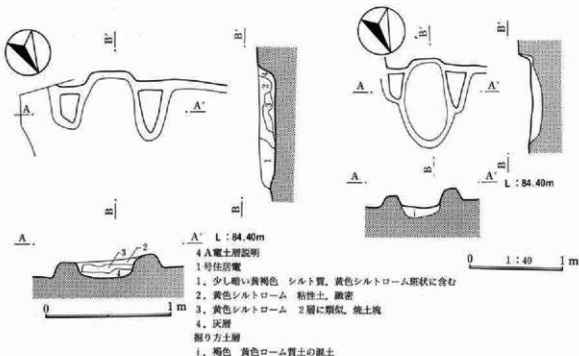
**須恵器** 須恵器盤2は、底部に篋削り調整が施されている。須恵器環蓋1は、水平な頂部から緩やかに湾曲して口縁部に至り、短い返りを有する。

#### 所 見

該住居址は藤岡台地に居住を始めた最初期の人々のもので、上栗須寺前遺跡群3期の様相を

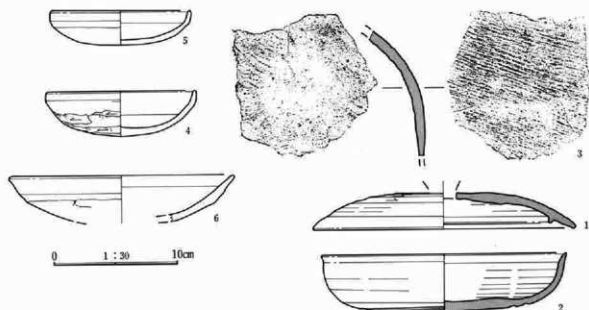


第11図 4 A II区・01号住居址



第12図 4 A II区・01号住居址電

第13図 4 A II区・01号住居址電掘り方



第14図 4AⅡ区・01号住居出土遺物

もつ土器群が廃棄されている。

#### 4AⅡ区・02号住居址

遺 構 (挿図番号15 写真番号PL3)

本住居址は4AⅡ区の西端E14・49.59, F14・40.50グリッドに所在している。東壁側で04号住と切り合い、さらに擾乱と02溝によって02号住と04号住が切られている。また該住居址の西1mには03号住が位置し、確認面の標高は84.30mを測る。

規模は南北2.59mを測れるのみで、面積も不明である。平面形態は横長長方形と推定され、東壁と西壁の大部分を、9世紀前半に比定される大洪水の水流によって01号住と同様に削り取られている。主軸方位はN-10°-Eを示し、若干北東方向に偏っている。

壁は残存している西壁が90°に近い立ち上がりを示し、北壁はなだらかなラインで立ち上がっている。壁高は20cmである。覆土は5層に分層され、埋没土の主体は砂質の黄褐色土である。

床面はフラットで貼床が施され、北東隅には貯蔵穴が付設されている。掘り方は西壁際若干の落ち込みがある他はほぼ平坦である。

竈 (挿図番号16・17 写真番号PL3)

燃焼部は平面形態が台形状を呈し、北壁東寄りの住居址外に設けられ袖は確認できない。煙道部は欠損しているが、燃焼部から煙道部への移行は90°に近い角度で立ち上がる。覆土はシルト質ローム土、焼土、灰まじりの土層が互層をなし、天井部の崩落状態が窺える。火床面は浅く掘りくぼめられ、炭化物が混在している。

電掘り方は認められず、該竈は本住居の貼床が施された後の構築と思われる。

遺物の出土状態 (挿図番号15)

遺物の平面分布は西壁周辺と竈内及び竈前に偏っている。層位分布は貼床内も含めた各層にわたっており、少ないながらも埋没過程での継続的な遺物廃棄が見られる。掲載遺物のうち土

絶対的位置  
相対的位置  
確認面  
規模・形態  
主軸方位  
壁  
覆土  
床・掘り方

遺物分布

#### IV 遺構と遺物

タイプ 節器坏10がタイプBで、他の遺物はタイプCである。

##### 出土遺物 (挿図番号18)

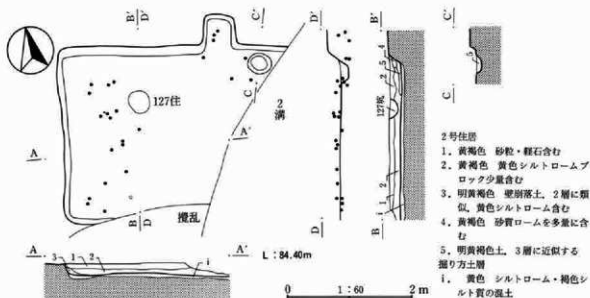
図示遺物 図示した遺物は、土師器坏2、須恵器壁破片1、須恵器坏蓋1の4個体である。

土師器 土師器坏は、丸底からそのまま直立気味に口縁が立つ10と盤状坏9に分かれる。

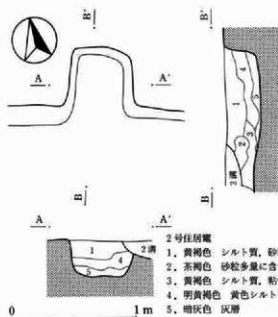
須恵器 須恵器坏蓋7は、01号住の坏蓋1より小型だが同タイプである。

##### 所 見

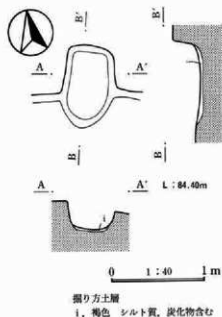
該住居址は上粟須寺前遺跡群4期の土器群を出土している。



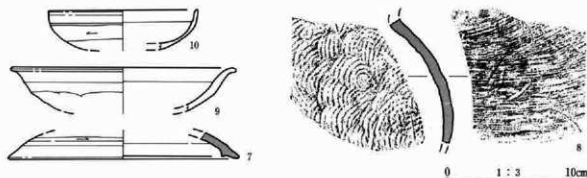
第15図 4 A II区・02号住居址



第16図 4 A II区・02号住居址電



第17図 4 A II区・02号住居址掘り方



第18図 4AⅡ区・02号住居址出土遺物

## 4AⅡ区・03号住居址

遺 構 (挿図番号19 写真番号PL4)

本住居址は4AⅡ区の最西端に位置し、E14・59グリッドに属している。その遺構の大部分が絶対的位置  
 水流による攪乱(9世紀前半に推定される大洪水)と調査区外の故の未調査部分で、調査可能  
 範囲は電周辺に限定されている。近接する遺構は東1mに02号住が所在する。確認面の標高は  
 84.30mを測る。

規模・平面形態はともに前述のように電周辺しか確認できなかったために不明である。確認  
 できた壁は東壁の一部のみである。主軸方位はN-55°-Eを示すものと推測される。

残存している東壁は、壁高10cmで遺構の掘り込みは浅い。覆土については洪水に伴う砂質層  
 であったと思われるが確かでない。

床面は貼床は施されず、平坦な地床面であったと思われる。

電 (挿図番号20・21 写真番号PL4)

燃焼部は平面形態が方形で、東壁中央の住居外に設けられ、袖は確認できなかった。煙道部  
 は失われているが、燃焼部から煙道部への立ち上がりは90°に近い。覆土はシルト質ローム土。  
 焼土、灰が互層を成し、電天井部が潰れた様相を示している。火床面は浅く掘られ、灰層が厚  
 く堆積している。

電掘り方は深く掘り込まれ、焼土まじりの粘性土が貼られている。

遺物の出土状態 (挿図番号19)

遺存状態は溝と調査区外に挟まれて電周辺のみで、出土遺物は電内遺物である。いきおい  
 掲載遺物の土師器壺11はタイプA、12はタイプBと認定される。

出土遺物 (挿図番号22)

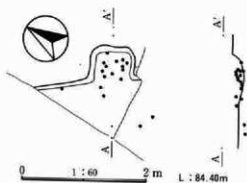
図示した遺物は、土師器壺2である。

土師器壺11は、口縁部が外反し最大径を胴上部にもつ。調整は上位が横方向、中位が縦方向  
 の削削調整が見られる。

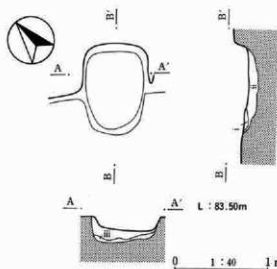
所 見

該住居址は、電内遺物として出土した土師器壺の形態から、上栗須寺前遺跡群6期の所産と  
 考えられる。

IV 遺構と遺物

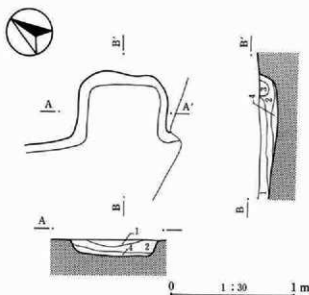


第19図 4 A II区・03号住居址



掘り方土層  
 i. 黄褐色 焼土粒・灰化物少量含む  
 ii. 黄色 シルトローム、褐色土・焼土の混土  
 iii. 褐色 焼土含む

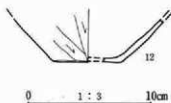
第21図 4 A II区・03号住居址電掘り方



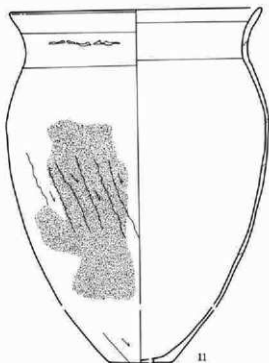
3号住居電

1. 明褐色 黄褐色シルトローム
2. 黄褐色 シルトローム、焼土塊含む
3. 黄褐色 シルトロームの焼土
4. 黄褐色 灰層

第20図 4 A II区・03号住居址電



第22図 4 A II区・03号住居址出土遺物





## 4AⅡ区・04号住居址

## 遺 構 (挿図番号23 写真番号PL4)

本住居址は4AⅡ区の最西端の02,03号住と一連の住居址群の一であって、F14・50グリッドに属している。該住居址は遺構のおよそ2/3を02溝と02号住に切り取られ、東壁と南壁の一部が残存しているに過ぎない。確認面の標高は84.40mと02,03号住に比べて若干高い。

規模は不明だが、平面形態は遺構の残存状況から横長長方形を呈するものと推測され、主軸方位はN-103°-Eを示す。

壁高は約30cmを測り、壁は明瞭なラインを描く。覆土は3層に分かれレンズ状の埋没状況を見せている。

床面は平坦で貼床が確認できたが、その他の施設は不明である。

## 竈 (挿図番号24・25 写真番号PL4)

燃焼部は平面形態が台形状を呈し、東壁南寄りの住居内に設置され長い袖がある。煙道は短く、燃焼部から煙道部への立ち上がりは90°に近く、煙道部先端の立ち上がりも90°に近い。覆土は灰層が検出されず、使用面の認定が困難であった。袖は掘り残した地山の上に、シルト質ロームの混土が貼られている。火床面は僅かに浅く掘られている。

竈掘り方は火床面と煙道部に認められ、火床面と連続して煙道部にまで貼土が施されている。

## 遺物の出土状態 (挿図番号23)

溝に北西半分を切られているゆえか、遺物の平面分布は竈内と竈前面に偏っている。層位的な分布は上層に濃い傾向があるものほぼ各層にわたっている。遺物の廃棄状況は竈方向から住居内への流れが認められる。出土状態はタイプAが土師器坏13で、タイプBが土師器坏15、土師器壺16であり、残りの遺物はタイプCである。

## 出土遺物 (挿図番号26 写真番号PL54)

図示した遺物は、土師器壺1、土師器坏3、須恵器壺破片1、須恵器坏蓋1、鉄鏝1の7個体である。

土師器壺1は器内の厚い長胴甕で、縦方向の寛削り調整である。土師器坏は、丸底から内湾する口縁をもつ13、13と同タイプだが体部の浅い14と盤状坏15に分類される。

須恵器坏蓋17は、小型で天井の高いタイプで、返りをもっている。

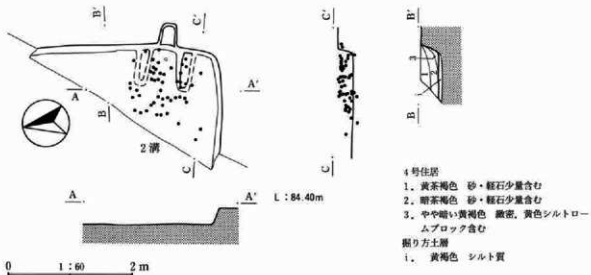
鉄鏝1215は三角形の形状を有し、非常にシャープな感じの作りである。

## 所 見

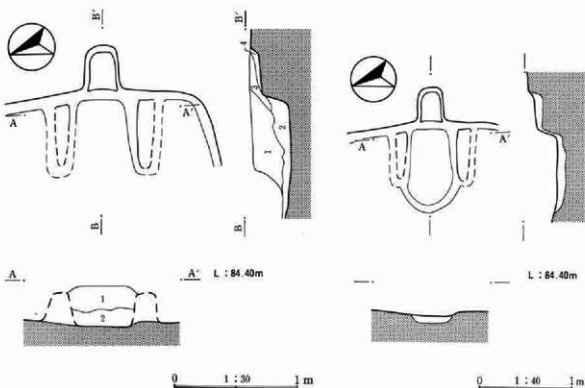
該住居址は、上栗須寺前遺跡群2期の所産で、周辺の住居の中では一番古い様相を示す住居址だが、全体の2/3が調査区外であるためその全容は明らかでない。

とりわけ目をひくのが武器特有のシャープさを見せる鉄鏝で、その利用については古代の習俗との関連も視野に入れて考察を進める必要があるだろう。

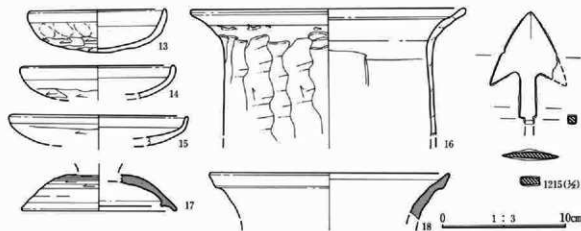
# IV 遺構と遺物



第23図 4 A II区・04号住居址



第24図 4 A II区・04号住居址



第26図 4AⅡ区・04号住居址出土遺物

## 4AⅡ区・06号住居址

遺 構 (挿図番号27 写真番号PL5)

本住居址は4AⅡ区の最西端部のF14・60グリッドに属する。周囲の遺構との関係は北壁を02溝と南壁を07号住との切り合いが認められる。確認面の標高は84.25mを測るが、上部の削平が激しく、残存しているのは竈周辺と掘り方部分に過ぎない。

規模は南北4.05mが測れるのみで、面積も不明である。またそれゆえに平面形態もその全容は知れない。主軸方位はN-67°Eを示す。

残存している壁は東壁で僅か10cm弱を測るのみである。覆土は1層で薄く残っている。

床面は平坦で貼床が施され、掘り方は住居中央部に大小の円形土坑が4個穿たれている。

竈 (挿図番号29・30 写真番号PL5)

燃焼部の平面形態は矩形を成し、東壁南寄りに設けられるが袖はない。煙道部は失われており、上部の削平が大きいため、煙道部への立ち上がりは定かでない。覆土は灰層が使用面直上にあり、竈が上部からの圧力によって潰れた様相を示している。袖は確認されないが、袖の軸と思量される棒状の河原石が竈内から検出された。火床面は煙道部に向かって緩やかな傾斜をもち、灰層が厚く堆積しており、また焚口付近には、深い灰掻き穴が穿たれている。

電掘り方は僅かに認められるが、深い灰掻き穴からも理解されるように、頻度の高い使用が予想される為、貼土の状態は不明である。

遺物の出土状態 (挿図番号27)

ほぼ床面直上付近まで削平を受けているためか、平面分布は竈内とその周辺に偏り、層位的にはほとんどの遺物が床面直上である。タイプAは刀子1216で貼床内からの出土で、タイプBaは土師器壺19、タイプBは土師器壺20である。

出土遺物 (挿図番号31・32 写真番号PL54)

図示した遺物は、土師器壺5、羽釜1、刀子1の7個体である。

土師器壺は、①口の字口縁部が厚手になり先端の反りがあまくなる(19)、②胴部が球形を為し口縁部がつの字状になる(20, 22)、③頸部と胴部の境目が明確でなくなり口縁部が立ってく

絶対的位置

相対的位置

確認面

規模・形態

主軸方位

壁・覆土

床・掘り方

燃焼部

煙道部

火床面

遺物分布

タイプ

図示遺物

土師器

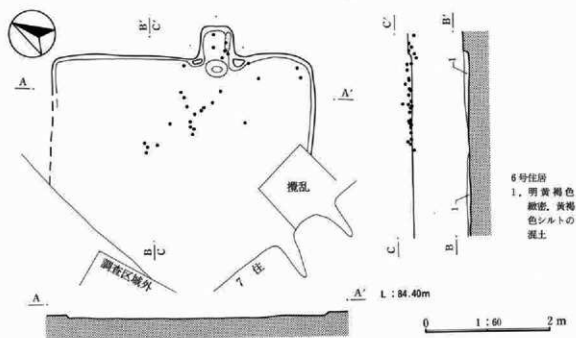
#### IV 遺構と遺物

羽釜 る(21, 23), に3分類でき、いずれもコの字口縁部の崩れた形である。羽釜は口縁部が平らで、  
罎が垂れたタイプである。

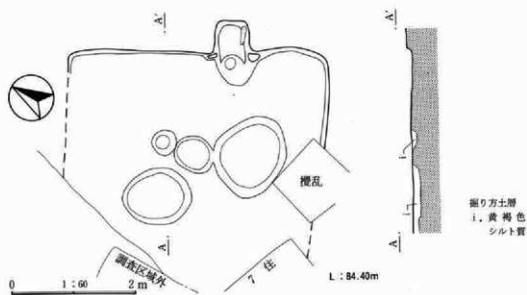
刀子 刀子は完形に近く、刃部は頻繁な使用がわかるほど使い込まれて摩耗している。

#### 所 見

該住居址の出土遺物は上栗須遺跡群2期に分類される。

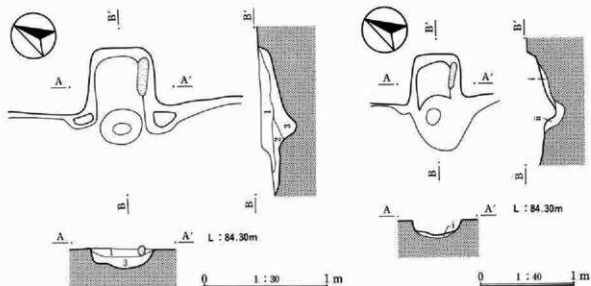


第27図 4 A II 区・06号住居址



第28図 4 A II 区・06号住居址掘り方

1 篠塚狐穴(4 A I区)・篠塚四反歩(4 A II区)地区



6号住居電

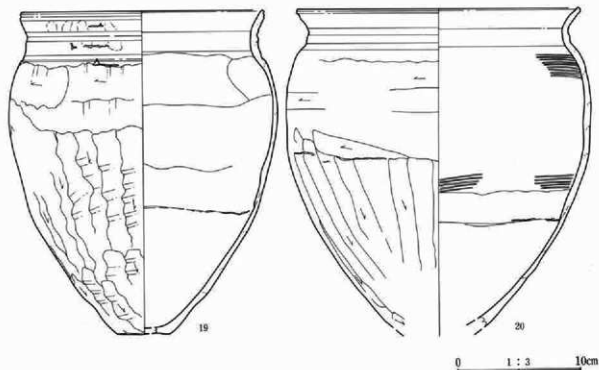
1. くすんだ黄褐色 シルト質
2. くすんだ黄褐色 1層に類似
3. 黄褐色 シルト質、焼土塊含む

掘り方土層

- i. 明灰色 灰層
- ii. 暗灰色 灰層

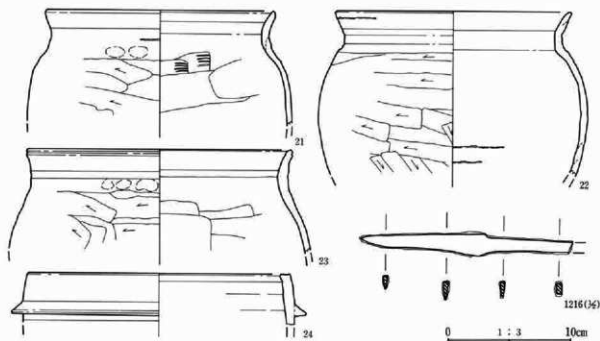
第29図 4 A II区・06号住居址電

第30図 4 A II区・06号住居址電掘り方



第31図 4 A II区・06号住居址出土遺物

#### IV 遺構と遺物



第32図 4 A II 区・06号住居址出土遺物

#### 4 A II 区・07号住居址

遺 構 (挿図番号33 写真番号PL 5)

**絶対的位置** 本住居址は4 A II 区の西の住居址群の最南端に位置し、E14・69, 79, F14・70グリッドに属する。周囲の遺構とは06号住と切り合い、確認面の標高は84.15mである。また該住居址は東壁の大部分をトレンチによって失われ、西壁付近を調査区外へはみ出している。

**規模・形態** 規模は南北3.38mが測れるのみで、面積は不明である。平面形態は残存している遺構から横長長方形が推測される。主軸方位はN-25°-Eで若干東に傾いている。

**壁** 壁高は本来50cmを越えると思われるが、確認された壁高は30cmを測り90°に近い立ち上がりを示している。覆土は4層に分けられ、第3層の上面には焼土と炭化物が多量に混入している。また第2層のシルト質ローム塊の混入状況や土層埋没様相から急激な埋没過程が予想される。

**床・掘り方** 床面はフラットで貼床が施され、掘り方は全体が深く掘り込まれ中央部分が僅かに掘り残されている。

竈 (挿図番号34・35・36 写真番号PL 5)

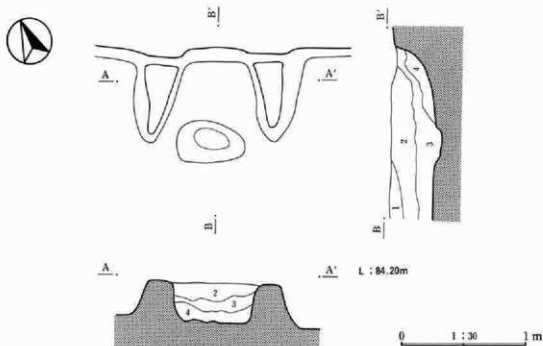
**燃焼部** 燃焼部は平面形態が台形状を呈し、北壁中央の住居址内に設置され、しっかりした袖が残っている。煙道部は欠損しているが、燃焼部から煙道部への立ち上がりは急角度である。覆土はシルト質ローム土と焼土層と灰層とが奇麗に互層を成しており、天井部の崩落土であろう。袖は粘性のシルト質ローム土で築かれている。火床面は厚い灰層に覆われ、緩やかに煙道部に向かって立ち上がっている。また焚口には、浅い灰掻き穴を有している。

電掘り方は該住居址の貼床が施された後に成され、竈が築かれたものと推測される。

**2 電** また第2電については、煙道部のみの確認でコメントできない。



IV 遺構と遺物

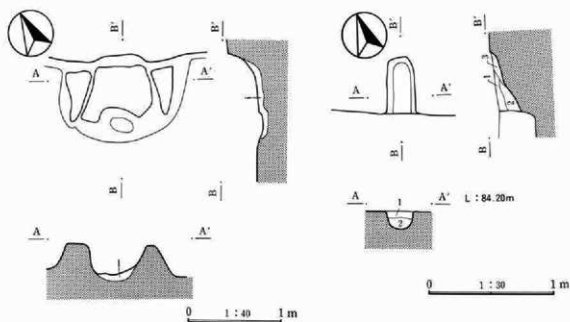


7号住居

第1竈

1. にぶい黄褐色 1層に類似。黄色シルト質・暗褐色土含む
2. にぶい黄褐色 粘性土
3. 黄褐色 シルトローム・粘土の混土

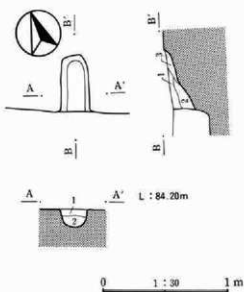
第34図 4 A II区・07号住居第1竈



掘り方土層

1. 暗灰色 灰層

第36図 4 A II区・07号住居第2竈

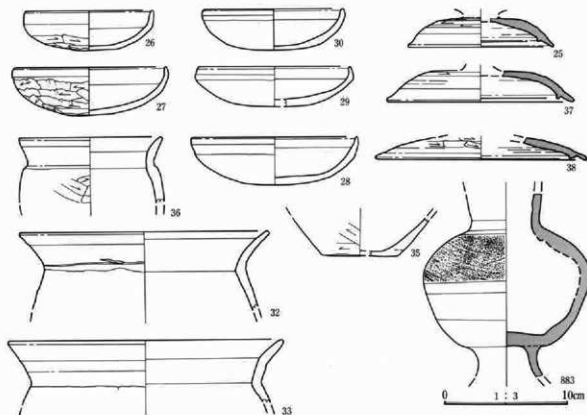


第2竈

1. にぶい黄褐色 シルト質、焼土粒少量含む
2. にぶい黄褐色 シルト質、炭化物含む

第35図 4 A II区・07号住居第1竈掘り方





第37図 4AⅡ区・07号住居址出土遺物

#### 4AⅡ区・08号住居址

遺 構 (挿図番号38・39 写真番号PL6)

本住居址はほぼ4AⅡ区と4B区の間に入る埋没谷の南側の低台地上に位置し、F14・84.85 絶対的位置  
グリッドに属する。周囲に住居址は存在せず孤立した様相を呈している。西壁と南壁がトレン 相対的位置  
チによる攪乱によって壊され、南東隅部も細い溝によって上部が削平を受けている。確認面 確認面  
標高は84.05cmを測る。

規模は東西2.50m・南北2.48mを測り、面積は6.2㎡である。平面形態はほぼ正方形を呈し、規模・形態  
東壁の竈右側が僅かに張り出しているのが特徴的である。主軸方位はN-56°-Eを示し、ほぼ北 主軸方位  
東方向を向いている。

壁は南壁がトレンチによる攪乱を受けているが、住居壁と攪乱壁が一致しており住居址ブラン 壁  
ンに攪乱による誤差は見られない。ただ東壁竈右の張り出しはプランからすると不自然で、あ 覆土  
るいは攪乱によるものとの推測も留保される。壁高は平均20cmである。覆土は3層に分けられ  
全体的に均質で、第1層に見られる白色粘土塊も地山の流れ込みと考えられる為、自然堆積に  
よる埋没と思われ。

床面は平坦で貼床が施され、掘り方には床下土坑と見なせる土坑が西壁際に付設されている。床・掘り方  
竈 (挿図番号40 写真番号PL6)

燃焼部の平面形態は隅丸の矩形で、東壁中央の住居址外に設けられ、右袖の痕跡が僅かに残 燃焼部

#### IV 遺構と遺物

**煙道部** る。煙道部は欠損しており、燃焼部から煙道部への立ち上がりは急激である。覆土は細分され、激しい擾乱状態を示す。僅かな右袖は掘り残しタイプである。火床面は浅く窪められ、焼土を多量に含む天井崩落土が堆積している。

電掘り方は床面を掘り込み、白色粘土の混土が貼土である。

#### 遺物の出土状態 (挿図番号38)

**遺物分布** 遺物はほとんど竈周辺に集中し、特に竈内・竈前に分布の中心がある。層位的には大部分が床直遺物で、該住居址につくものと考えられる。掲載遺物のタイプは、タイプAが土師器環39、40、41、42で、タイプBは土師器環43、土師器甕44で、須恵器甕45はタイプCである。

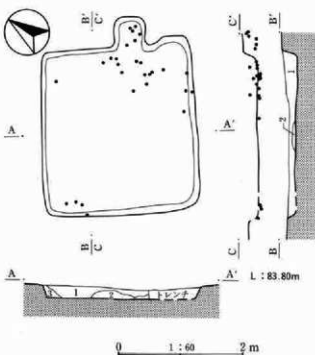
#### 出土遺物 (挿図番号41 写真番号PL55)

**図示遺物** 図示した遺物は、土師器甕1、土師器環5、須恵器甕1の7個体である。

**土師器** 土師器甕44は、長胴甕がさらに胴部を腫らしたタイプで、頸部に横寛削りが見られる。土師器環は、①器肉が比較的厚く丸底から口縁部が立つもの(41)、②器内の薄い平底と丸底の中間的なタイプで、丸みを帯びた体部がそのまま開くもの(39、42)、③器肉が薄く底部は丸底と平底の中間形態で、体部が直線的に開くもの(40、43)、に3分類される。

#### 所 見

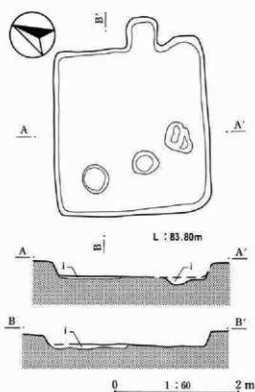
該住居址の出土遺物は、上栗須寺前遺跡群9期に分類される。



8号住居

1. 黄褐色 白色粘性土塊多量に含む
2. 黄褐色 白色粘性土塊少量含む
3. 黄褐色 壁崩落土、均質

第38図 4A II区・08号住居址

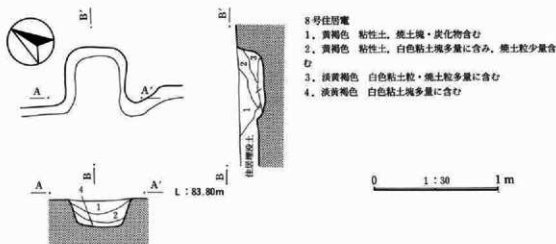


掘り方土層

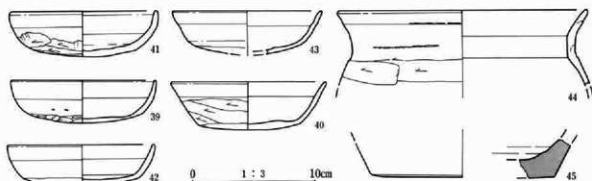
1. 黄褐色 粘床、粘性あり

第39図 4A II区・08号住居址掘り方

1 篠塚竈穴(4 A I区)・篠塚西反歩(4 A II区)地区



第40図 4 A II区・08号住居址竈



第41図 4 A II区・08号住居址出土遺物

4 A II区・09号住居址

遺 構 (挿図番号42 写真番号PL7)

本住居址は4 A II区の東部分に孤立して存在し、G14・60.70グリッドに属する。周囲にさしたる遺構は見当たらず、西10mに柵列を伴う方形区画の溝遺構の一部が所在している。確認面の標高は84.10mを測り、該住居址は浅い埋没谷の沖積層である暗褐色粘質土上に構築されている。

規模は東西3.3m・南北4.2mを測り、面積は13.86㎡である。平面形態は横長長方形を呈するが、南東隅が隅丸の形状を示し、南壁の一部が土坑により擾乱を受けている。主軸方位はN-84°-Eを示し柵列や方形区画の溝遺構の方位とはほぼ一致している。

壁は北壁と東壁が90°に近い明瞭な立ち上がりで壁高34cmを示すが、南壁と西壁は確認面が低かった為にグラッとした曖昧な立ち上がりで壁高はおおよそ20cm程である。覆土は10層もに細かく分かれ、その細かい分層の大部分は壁の崩落土である。

床面は貼床が施されず地床面で、西壁と南壁際で若干低くなり、西南隅には貯蔵穴が穿たれている。

竈 (挿図番号44・45 写真番号PL7)

燃焼部の平面形態は隅丸の矩形状を呈し、東壁中央の住居址内に位置し、長い明瞭な袖を伴

#### IV 遺構と遺物

**煙道部** う。煙道部はさして長いものでなく、ほぼ燃焼部の長さとも一致している。燃焼部から煙道部への立ち上がりは緩やかだが、煙道部の先端の立ち上がりは急である。覆土は互層を成し、煙道部覆土の上層には天井石の形跡が認められる。袖は地山を基部にして、シルト質ローム土を構築材として築かれている。火床面は平らに浅く窪められ、上面に焼土が堆積しており、焚口付近には浅い灰掻き穴が認められる。

電掘り方は火床面下に認められ、炭化物の混じる粘土が施されている。

#### 遺物の出土状態（挿図番号42）

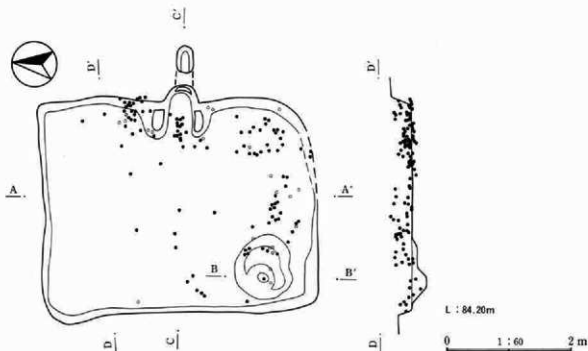
**遺物分布** 遺物は竈内及び竈周辺と南壁寄りに出土し、北壁周辺に薄い傾向にある。層位的に見ても遺物は各層にわたるが、特に竈周辺に分布が濃い。タイプAは須恵器環蓋53, 54, 須恵器高台付碗46があり、タイプBaは土師器甕59、タイプBは土師器甕61, 62, 63, 64, 須恵器環48, 50, 51, 須恵器高台付皿47があり、残りはタイプCである。土師器甕の61（タイプB）と60（タイプC）は、61がほぼ床直で60が上層の出土ということから、タイプと層位分布とが符号している。

#### 出土遺物（挿図番号46 写真番号PL55）

**図示遺物** 図示しえた遺物は、土師器甕6, 土師器台付甕1, 須恵器環7, 須恵器高台付碗4, 須恵器高台付皿2の20個体である。

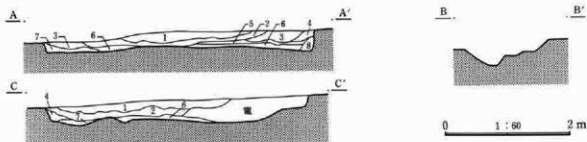
**土師器** 土師器甕は最大径が胴部上位にくるコの字口縁甕と厚手の口縁甕をもつコの字口縁甕の退化したもの2者である。

**須恵器** 須恵器環は、糸切り底で底部から直線的に体部が開くもの(53, 54)と、体部が軽く湾曲しさらに口縁部に至り若干反するもの(48, 49, 50, 52)に分かれる。須恵器高台付碗は基本的には須恵



第42図 4 A II区・09号住居址

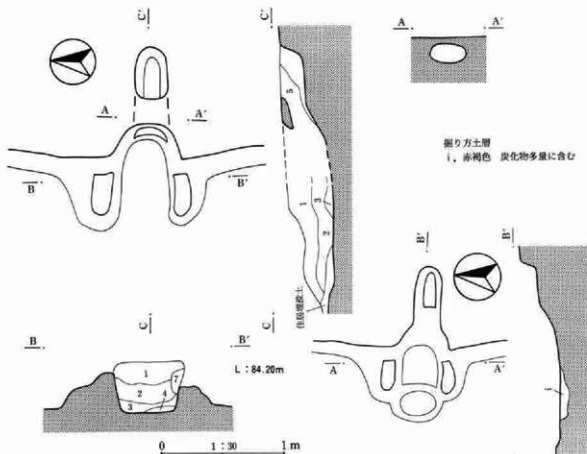
1 篠塚狐穴(4 A I区)・篠塚四反歩(4 A II区)地区



9号住居

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1. 暗褐色 砂礫・白色粘土塊含む      | 5. 黄褐色 粘土塊多量に含む |
| 2. 暗褐色 白色粘土塊少量含む       | 6. 黒褐色 均質       |
| 3. 暗褐色 炭化物含む           | 7. 黄褐色 粘土塊多量に含む |
| 4. 暗褐色 壁崩落土, 白色粘性粒少量含む | 8. 黄褐色 壁崩落土     |

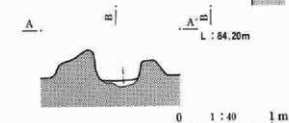
第43図 4 A II区・09号住居址



9号住居竈

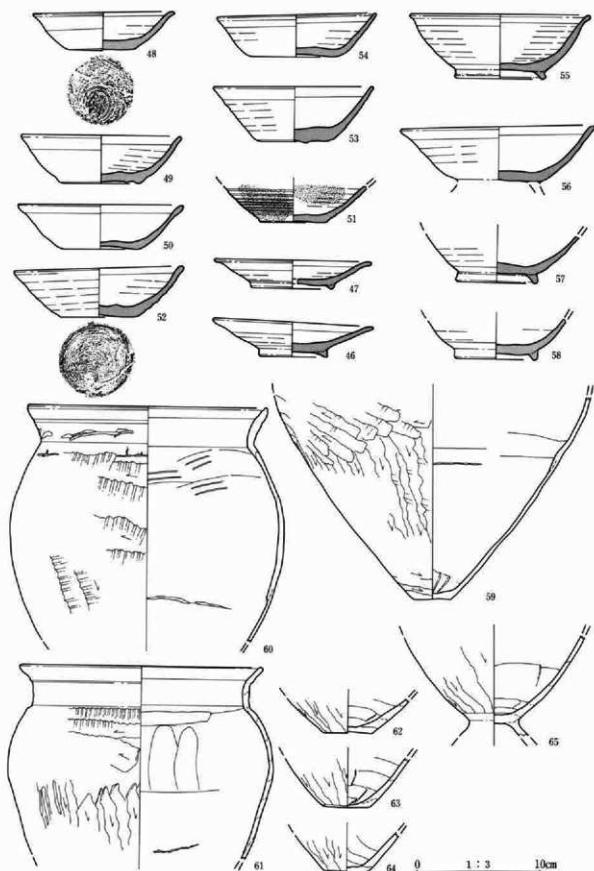
- |                       |
|-----------------------|
| 1. 暗褐色 粘性土, 焼土粒・炭化物含む |
| 2. 淡褐色 白色粘土層, 焼土粒少量含む |
| 3. 黄褐色 炭化物少量含む        |
| 4. 赤褐色 焼土塊            |
| 5. 暗褐色 焼土・灰の混土        |
| 6. 赤褐色 焼土粒多量に含む       |
| 7. 赤褐色 焼土塊含む          |

第44図 4 A II区・09号住居址竈



第45図 4 A II区・09号住居址竈掘り方

IV 遺構と遺物



第46図 4 A II区・09号住居址出土遺物

器坏の後者タイプに断面形が台形状の高台を付したものである。須恵器高台付皿は口縁部が外反するAタイプ(47)と直線的な体部のBタイプ(46)に分かれる。

#### 4AⅠ区・10号住居址

##### 遺 構 (挿図番号47 写真番号PL7)

本住居址は4AⅠ区の東部に位置し、I12・71,81グリッドに属している。周囲にはほぼ6mを隔てた距離に、11号住が南西に49,59号住が南東に25掘立が北に存在する。また該住居址付近には柱穴状の土坑が散在している。確認面の標高は83.50mで4AⅡ区の住居址群よりもおよそ50cm程低い。

規模は東西2.42m・南北3.34mを測り、面積は8.08㎡である。平面形態は隅丸の横長長方形で東壁の竪左の壁が若干張り出しているのが特徴的である。主軸方位はN-92°-Eを示し、ほぼ東を向いている。遺構確認面が深いために壁はしっかりしたものとならずに、壁高は僅か10cmと浅く不明瞭である。覆土は2層でさしたる攪乱は認められない。

床面は平坦で貼土が施され、掘り方は西壁から南壁に沿って穿たれていたものと推測される。竈(挿図番号48・49 写真番号PL7)

燃焼部の平面形態は釣り鐘形を呈し、東壁南の住居址外に設けられ、短い袖が付く。煙道は失われているが、燃焼部から煙道部への移行は約45°の角度で立ち上がっている。覆土は地山土と焼土と灰とが互層を成し、天井部がそのまま崩落したような形跡が窺える。また燃焼部左側壁が赤褐色に焼けており、使用頻度の高さを裏付けている。左袖には棒状の河原石が立てられ、焚口側が赤変している。火床面上には厚く焼土が堆積している。

電掘り方は楕円形で、灰を多量に含む粘質土が貼土されている。

##### 遺物の出土状態 (挿図番号47)

遺物は住居址中央を除いて散漫な分布を示している。層位的には平面分布に対応して、中央部分が抜けているが、変化のない同一土層内に遺物の分布が多く見られる。掲載遺物のタイプ分けは、タイプBが土師器甕99, 101で、あとはタイプCの出土状態である。

##### 出土遺物 (挿図番号50 写真番号PL55)

図示しえた遺物は、土師器甕4, 土師器小甕1, 土師器台付甕1, 土師器坏1, 須恵器坏1, 須恵器高台付碗5の13個体である。

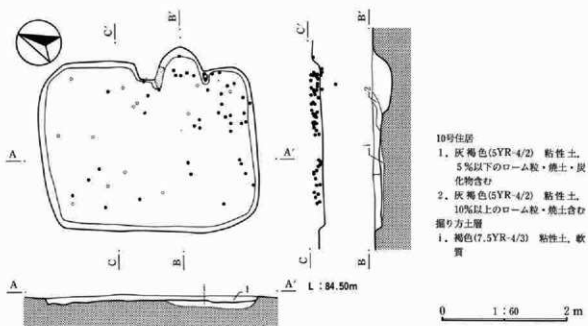
土師器甕は、コの字口縁部の崩れたつの字口縁のもの(98)と、さらに頸部と胴部の境目のなくなったもの(99)がある。土師器坏91は最終末に近いもので、全体に炭化物が付着しており、特殊な用途が推測される。

須恵器坏791は、丸みを帯びた体部が外反するタイプである。須恵器高台付碗は口縁部が外反し、高台断面形が台形状のもの(93,94)とそれの崩れたもの(95,96)がある。

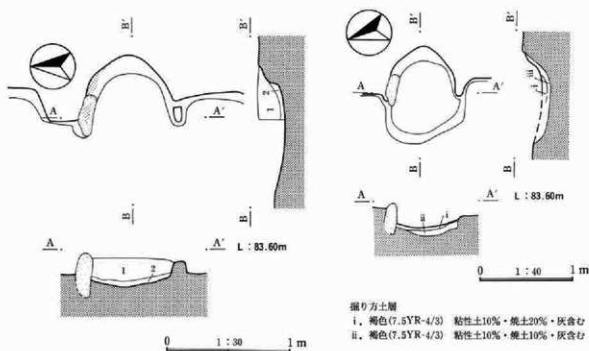
##### 所 見

該住居址の出土遺物は、その土器組成から上栗須寺前遺跡群9期に分類される。また竈の左壁の張り出す特徴は、5A・03住や7・12住等の7期の大型住居と同様な特徴である。

# IV 遺構と遺物



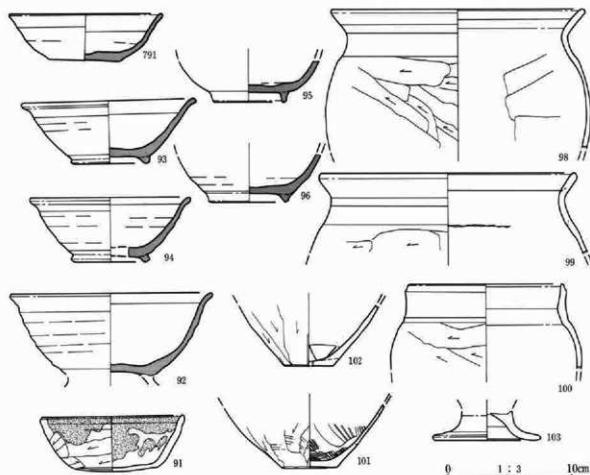
第47図 4 A I 区・10号住居址



第49図 4 A I 区・10号住居址電掘り方

第48図 4 A I 区・10号住居址竈





第50図 4AⅠ区・10号住居出土遺物

#### 4AⅠ区・11号住居址

遺 構 (挿図番号51・53 写真番号 PL7)

本住居址は4AⅠ区の東半部に位置し、F12・90, I13・00グリッドに属する。周囲には北東6mに10号住が、南2mには28号住が所在している。確認面の標高は84.40mを測り、該住居址は電の作り替えが確認されている。

絶対的位置  
相対的位置  
確認面

規模は東西3.14m・南北4.20mを測り、面積は13.19㎡である。平面形態は横長長方形で、東壁には新旧2基の電が構築されている。主軸方位はN-69°-Eを示す。

規模・形態  
主軸方位

壁高は最大で南壁が40cmを測り、東壁は30cm、北壁は20cmと一定でない。覆土は4層に分かれ、レンズ状の堆積状態を示し、間層に炭化物を含む粘質土が南から入り込んでいる。

壁・覆土

床面は若干凹凸を呈し、電前を除きほぼ全面に貼床が施されている。床面上には南東隅に貯蔵穴が穿たれ、西壁際中央に入り口施設にかかわると推測されるピットが確認された。掘り方は住居中央にLの字状に掘り込まれている。

床  
掘り方

電 (挿図番号54・55・56 写真番号 PL7)

第1電燃焼部の平面形態は釣り鐘形の先の尖ったタイプで、東壁南寄りの住居址外に設けられ僅かに袖が残る。先の尖った部分は、僅かに煙道部に連なる部分が残されているもので、燃

1電燃焼部  
煙道部

#### IV 遺構と遺物

焼部から煙道部への立ち上がりは45°の角度である。覆土は電天井の崩落土と焼土が互層を成し、側壁が赤化し硬化している。袖は短いしっかりした構造をもち、側壁が赤化している。

火床面 火床面に焼土が厚く堆積し、45°に近いスロープで煙道部まで立ち上がる。

電掘り方は電前で半円形に窪み、灰混じりの粘土が施されている。

2電燃焼部 第2電燃焼部の平面形態は、燃焼部と煙道部の差のない細長い形状を示し、東壁中央の住居址外に位置し僅かな袖が存在する。煙道部は燃焼部との差がほとんど認められず、側壁が熱により赤化している部分が燃焼部で、その先の部分が煙道部と認識できる。覆土は焼土と灰が厚く堆積し、使用頻度の高さを窺わせる。右袖は第1電と共有したものと思われる。火床面は緩やかな凹凸をみせ、30°弱の角度で煙道につながる。

電掘り方は電前で半円形に掘り込まれ、粘土を剥がすと燃焼部から煙道部への角度は45°もの角度をもつ。

#### 遺物の出土状態 (挿図番号51)

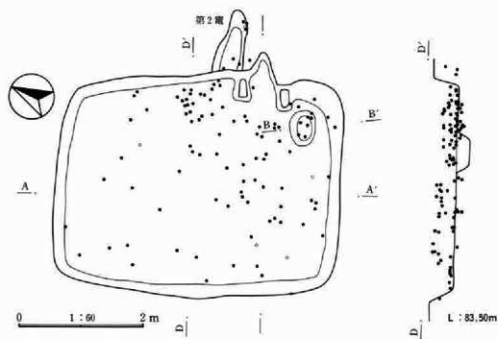
遺物分布 遺物は住居址東北隅を除いて分布し、特に電左袖付近に密度が高い。層位的には第1層上面と床面密着が多く、東壁付近では各層に分布している。掲載遺物のタイプ分けはタイプAが須恵器環107, 108で、タイプBaが土師器環104で、タイプBが土師器環105である。

#### 出土遺物 (挿図番号57 写真番号 PL56)

図示しえた遺物は、土師器台付甕1, 土師器環2, 須恵器環4, 須恵器環蓋2, 須恵器環蓋1の10個体である。

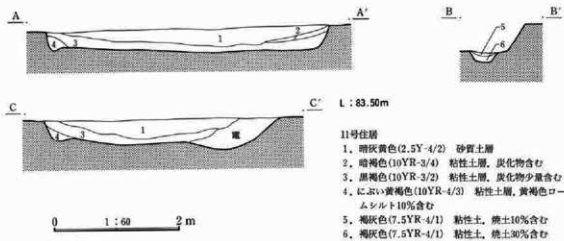
土師器 土師器環は、平底で体部がS字を呈するタイプと、須恵器を模したかのように平底で直線的な体部を有するタイプに分かれ、どちらも器内が薄い。

須恵器 須恵器環は、糸切り底で体部が直線的に伸びるものと、口縁部が外反するものに分かれる。

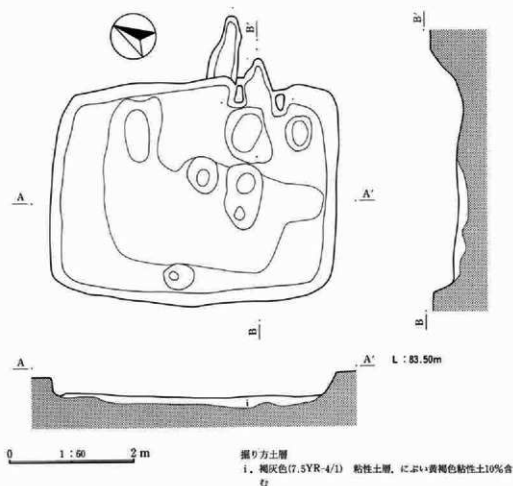


第51図 4A | 区・11号住居址

1 篠塚狐穴(4 A I 区)・篠塚四反歩(4 A II 区)地区

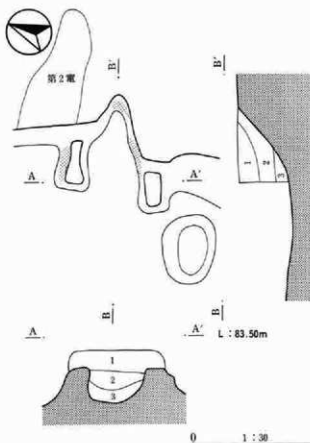


第52図 4 A I 区・11号住居址

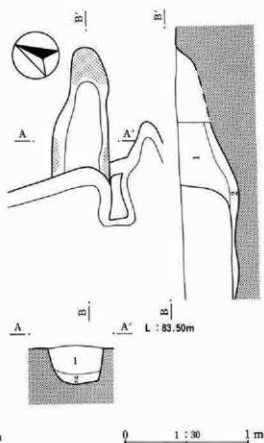


第53図 4 A I 区・11号住居址掘り方

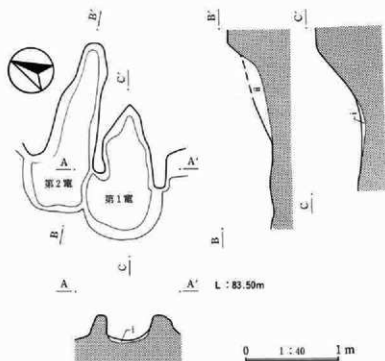
# IV 遺構と遺物



第54図 4A1区・11号住居址第1電



第55図 4A1区・11号住居址第2電



第56図 4A1区・11号住居址第1・第2電掘り方

## 11号住居電

### 第1電

1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、炭化物・焼土含む
2. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、炭化物・焼土含む
3. 黄褐色(10YR-5/8) 焼土含む、固い

### 掘り方土層

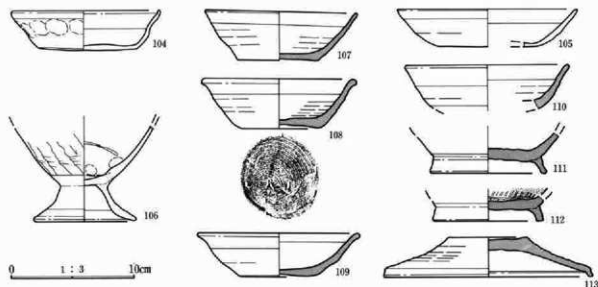
- i. 褐灰色(7.5YR-4/1) 灰層、焼土含む

### 第2電

1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 第1電1層と同様
2. 灰褐色(7.5YR-4/2) 灰・焼土含む
3. 灰褐色(7.5YR-4/2) 浅黄色土混 10%・灰・焼土含む

### 掘り方土層

- ii. 褐灰色(7.5YR-4/1) 粘性土



第57図 4AⅠ区・11号住居址出土遺物

須恵器高台付碗は、高台部のみの揭示だが断面形が長方形に近い台形で、台部が高く古いタイプである。須恵器坏蓋113は紐のないタイプで、糸切り痕のある平らな頂部から直線的に端部に至り、返りをもたない。

#### 4AⅠ区・12号住居址

遺 構 (挿図番号58 写真番号 PL 8)

本住居址は4AⅠ区のほぼ中央部の住居址密集地の北端に位置し、H12・67,68グリッドに属する。北側には18号住が北壁に接して、西2mには16号住が存在する。確認面の標高は83.10mを測り、周囲には柱穴状の土坑が多数存在する。

規模は東西2.58m・南北2.43mを測り、面積は6.27㎡である。平面形態は西壁を上底、東壁を下底とする台形状の不整形形で、南壁の一部が土坑により攪乱をうけている。主軸方位はN-56°-Eを示し、北東方向を向いている。

壁は西壁と南壁が明瞭な立ち上がりを見せるが、北壁と東壁はやや曖昧な立ち上がりである。壁高は平均30cmで、北壁のみ25cmと若干低い。覆土は3層に分かれ、レンズ状の埋没状況を呈している。

床面はほぼ平坦で貼床は施されず、床面上の施設も確認されていない。

竈 (挿図番号59 写真番号 PL 8)

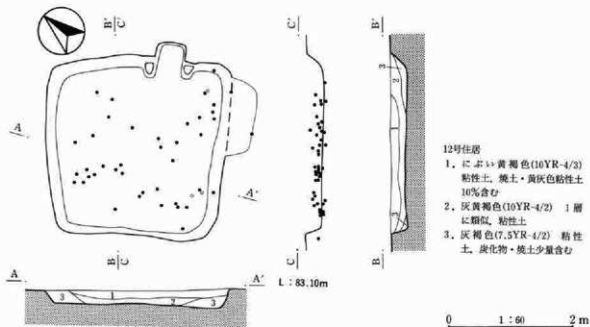
燃焼部の平面形態は矩形を呈し、東壁南寄りの住居外に設置され、短い袖が確認された。煙道部は欠損して無いが、燃焼部から煙道部への立ち上がりはほぼ垂直に上っている。覆土は焼土の上を粘質土が覆い、側壁が赤く硬化している。袖は地山の掘り残しであろう。火床面には焼土が厚く堆積し、焚口付近には浅い灰掻き穴がある。

電掘り方は認められない。

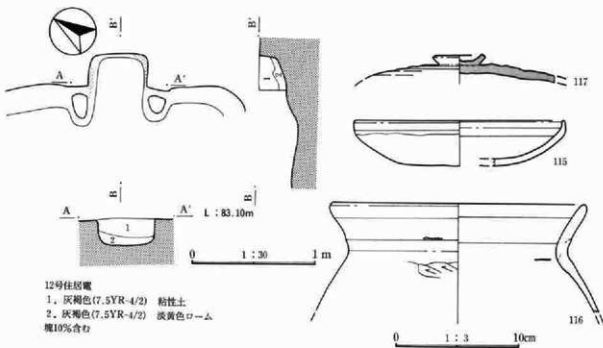
# IV 遺構と遺物

## 遺物の出土状態 (拝図番号58)

遺物は住居址全体に薄く散在するが、奇異なことに竈周辺には認められない。層位的には第2層に分布の中心がある。掲載遺物のタイプ分けは、タイプBが土師器甕116で、土師器坏115と須恵器坏蓋117はタイプCである。



第58図 4A区・12号住居址



第59図 4A区・12号住居址竈

第60図 4A区・12号住居址出土遺物

## 出土遺物 (挿図番号 60)

図示した遺物は、土師器甕1, 土師器杯1, 須恵器坏蓋1の3個体である。 図示遺物

土師器甕116は、最大径を胴部に持ち頸部に横寛削り調整が施される。土師器杯115は、体部と口縁部の境に僅かに稜線が認められ口縁部が直立する。 土師器

須恵器坏蓋117は、ボタン状蓋を持ち緩やかに端部に至る体部を有すると思われる。 須恵器

## 4 A I区・13号住居址

## 遺 構 (挿図番号 61 写真番号 PL 8)

本住居址は4 A I区の中央部北縁付近の住居址密集地に位置し、H12・66グリッドに属している。確認面の標高はほぼ83.20mを測るが、該住居址は北壁部分が調査区外にあり、かつまた西壁で19号住と切り合っている。 絶対的位置  
確認面  
相対的位置

規模は東西2.88m測る。平面形態は遺構の残存状況から横長長方形と推測されるが、北部分1/3が調査区外にあるために確かでない。主軸方位はN-89°-Eを示し、ほぼ東を向いている。 規模・形態  
主軸方位

確認できた壁高は平均35cmを測り、90°に近い明瞭な立ち上がりを示しているが、調査区外との境の土層断面から本来の壁高は50cmを若干越えるものと思われる。覆土は1層で地山のシルト質ロームのブロックを含み、急激な埋没過程を経たことが推量される。 壁  
覆土

床面は平坦で厚く貼床が施され、南東隅には貯蔵穴が穿たれている。掘り方は南壁際から西壁際が若干深く掘られている形跡がある。 床・掘り方

## 竈 (挿図番号 62・63 写真番号 PL 8)

焼焼部の平面形態は隅丸の矩形で、東壁南寄りの住居外に焼焼部の1/2を突出させ、袖が設けられている。煙道部は失われており、焼焼部から煙道部への移行は垂直に近い。覆土は灰層とシルト質ローム土と焼土とが互層を成し、竈の崩落状況を示している。火床面は緩やかな傾斜をもつが、厚い灰層で覆われており、焼焼部の側壁は熱により赤化している。 焼焼部  
煙道部  
火床面

竈掘り方は、使用面より僅かに掘り窪められた程度である。

## 遺物の出土状態 (挿図番号 61)

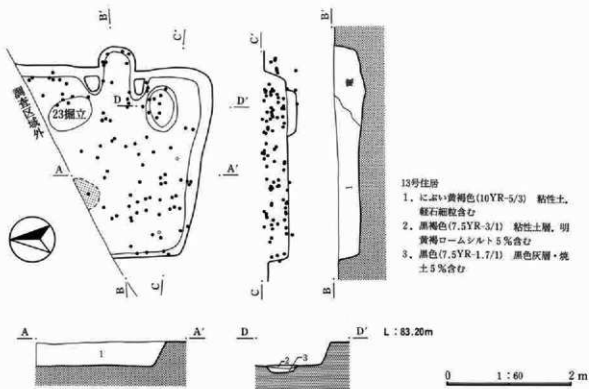
遺物は南東隅を除いてほぼ全面から出土しているが、竈周辺と北西隅に分布の中心がある。層位的には各層に分布しているが、特に上層に濃く、遺物は小破片が多い。掲載遺物は3点でタイプ分けは全部タイプCに分類される。 遺物分布  
タイプ

## 出土遺物 (挿図番号 64)

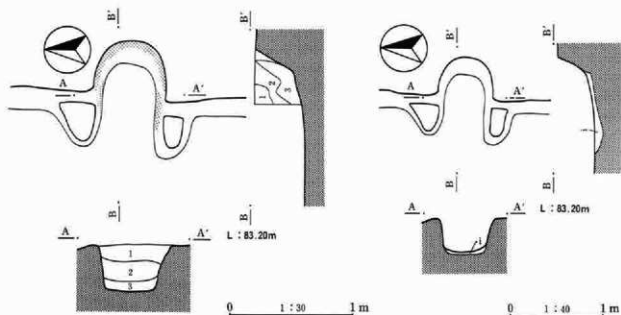
図示した遺物は、須恵器高台付碗2, 羽釜1の3個体である。 図示遺物

羽釜123は、口縁部が強く内湾し、口縁部の先端が外側が高いタイプで、罎は強く反ったタイプである。 羽釜

須恵器高台付碗は、口縁部の外反するタイプで、高台の断面形が三角形(119)と台形(120)のものがある。 須恵器



第61図 4 A I 区・13号住居址



13号住居電

1. 暗灰黄色(2.5Y-4/2) 粘性土、浅黄色シルトローム10%含む
2. 黄褐色(2.5Y-5/3) 粘性土、浅黄色シルトローム・焼土塊含む
3. 明黄褐色(2.5Y-7/6) シルトローム

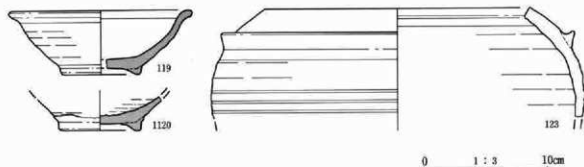
第62図 4 A I 区・13号住居址電

掘り方土層

- i. 褐灰色(10YR-4/1) 灰層、炭化物・焼土含む

第63図 4 A I 区・13号住居址電掘り方





第64図 4AⅠ区・13号住居址出土遺物

## 4AⅠ区・14号住居址

遺 構 (押図番号65・66 写真番号PL9)

本住居址は4AⅠ区の中央部北縁の住居址密集地に存在し、H12・76グリッドに属している。絶対的位置  
 周囲には北3mに19号住、西2mに17号住があり、東南隅では14号掘立と切り合っている。確認 相対的位置  
 面の標高は83.00mを測り、西壁付近が調査区外に突出している。確認面

規模は南北4.02mを測れるのみである。平面形態は西壁が確認できないため不明であるが、規模・形態  
 残存遺構から整った状況が窺える。主軸方位はN-95°-Eを示し、僅かに南東へ振れている。主軸方位

確認面が低いために残っている壁高は10cm強と浅いが、壁は明瞭なラインを描いている。覆 壁  
 土は1層でシルト質ロームブロックを含み、自然な状態ではない埋没過程が考えられる。覆土

床面は平坦で貼床が施され、掘り方は電左袖付近から北壁に沿って土坑状の掘り込みが連なり、住居中央にも長径2m・短径1mの土坑が穿たれている。床・掘り方

竈 (押図番号67・68 写真番号PL9)

燃焼部の平面形態は釣り鐘状で、東壁南寄りの住居外に設置され、右袖が確認されている。燃焼部  
 煙道部は失われ、燃焼部から煙道部へは45°程度の立ち上がりである。覆土は焼土混じりのシルト質ローム土だが、その様相から同位置での竈の作り替えの可能性も考えられる。煙道部  
 火床面は僅かに段差が認められ、作り替えの傍証となろう。火床面

電掘り方は焚口から半円状に広がり、その半円部分は灰掻き穴と考えられる。

## 遺物の出土状態 (押図番号65)

遺物の平面的な出土状態は住居址の北半に濃い分布が見られ、竈内にも多く分布する。層位的には各層に分布が見られるが、若干上層部分に濃くさらに住居址掘り方内にも混入している。遺物分布  
 掲載遺物のタイプは、タイプAが石釜1277で、タイプBaが羽釜130で、タイプBが土師器杯133タイプ  
 であり、残りはタイプCである。

## 出土遺物 (押図番号69 写真番号PL56)

図示した遺物は、土師器小壺3、土師器杯1、羽釜2、須恵器壺1、須恵器高台付碗5、灰釉陶器1、石釜1の13個体である。図示遺物

土師器小壺134,135は器内が薄く土師器台付壺を思わせるタイプで、131は器内の厚い土釜タイプの壺である。土師器杯133は平底の体部が直線的に開く。土師器

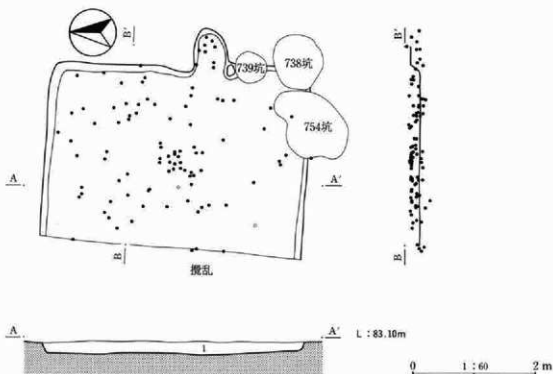
#### IV 遺構と遺物

**羽釜** 羽釜は、口縁部が内傾したタイプの130と、口縁部が直立したタイプの128がある。128は甕の可能性もある。

**須恵器** 須恵器高台付椀は直線的な体部が主体で、高台の断面形が細長い台形(126)とつぶれた台形(124, 125)がある。また127は内黒の内面をもち、フォルムは灰釉陶器に相似である。

#### 所 見

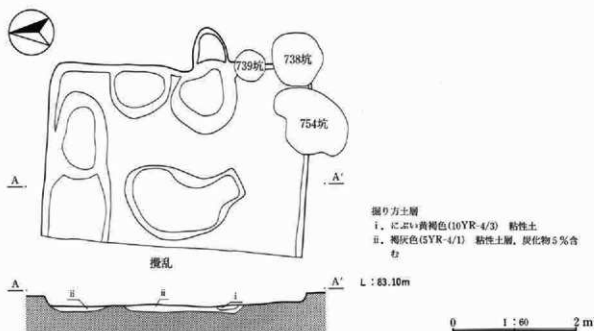
該住居址は、4 A I 区の竪穴住居址の中でも、最終末期の12期に属し、該期以降 4 A I 区では、掘立柱建物が主流となり、方形居館を構成するものと思われる。



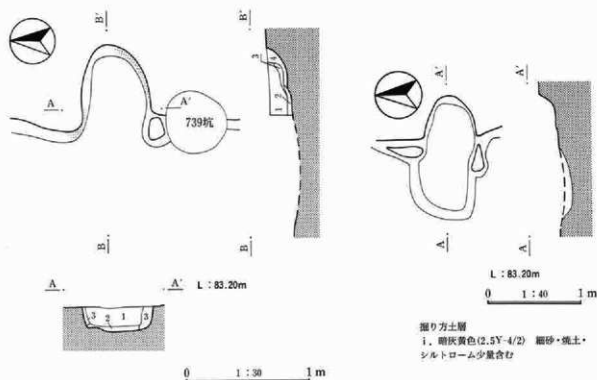
14号住居

1. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土、炭化物・焼土・シルトローム5%含む

第65図 4 A I 区・14号住居址



第66図 4AⅠ区・14号住居址掘り方



第68図 4AⅠ区・14号住居址電掘り方

14号住居電

1. 浅黄色(2.5Y-7/3) シルトローム・

焼土・灰含む

2. 棕色(2.5YR-7/8) 焼土層

3. 灰褐色(5YR-6/2) 粘土・シルトの

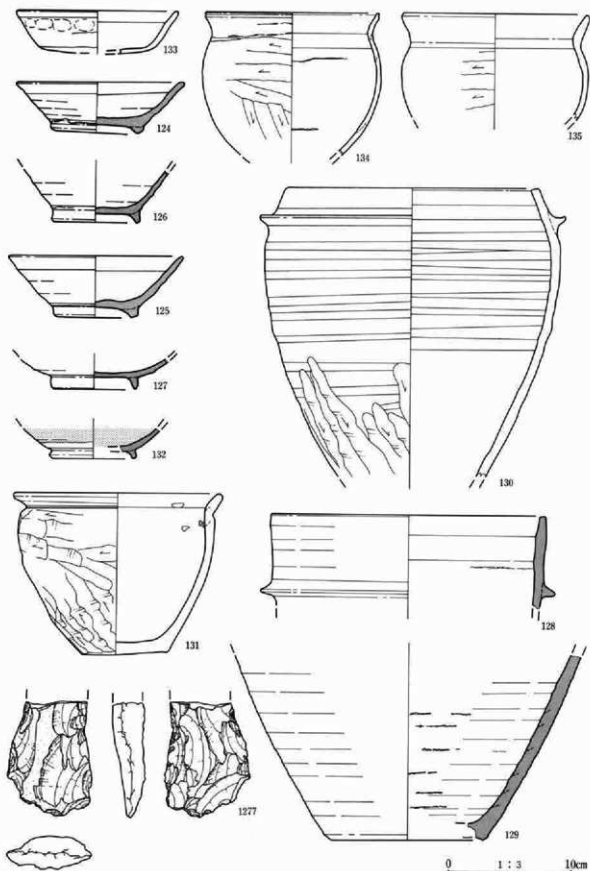
混土、焼土含む

4. 黄灰色(2.5Y-4/1) 粘性土、灰層・

炭化物20%含む

第67図 4AⅠ区・14号住居址電

IV 遺構と遺物



第69図 4 A I 区・14号住居址出土遺物

## 4 A I 区・15号住居址

## 遺 構 (挿図番号70 写真番号 PL9)

本住居址は4 A I 区の中央部北寄りの住居址密集地の南端に位置し、H12・77, 87グリッドに属する。該住居址の周囲には北, 東, 南にほぼ当距離で、16号住・13掘立・12掘立が三方向をふさぐような形で存在する。確認面の標高は83.10mを測り、住居址の壁外に沿って巡る柱穴群は上屋構造との関係が目される。

規模は東西4.13m・南北3.22mを測り、面積は13.30㎡である。平面形態は縦長長方形を呈し、東南隅が若干丸味を帯びている。主軸方位はN-72°-Eを示し、東より僅かに北に振れている。

壁は90°に近い明瞭な立ち上がりを見せ、壁高は平均30cm弱を測る。覆土は3層に分かれ、レンズ状の第1層と三角堆積の第2, 3層という埋没状態である。

床面は平坦で貼床が施され、床面上には南壁中央にピットが穿たれている。また上屋構造材の壁柱穴と推測されるピットが9個該住居址の壁外を巡っている。掘り方は6cm程度住居址全体を平均して掘り下げている。

## 竈 (挿図番号72・73 写真番号 PL9)

燃焼部の平面形態は小型で煙道口が僅かに膨らんだ形状で、東壁中央に位置し、短い袖を有する。煙道部は長く水平に伸びて先端で急角度に立ち上がり、断面形は開いたU字を呈する。覆土は焼土混じりのシルト質ローム土である。火床面には焼土が堆積し、煙道側壁が赤化している。

電掘り方は、図面上では燃焼部の真ん中から住居内へ急激な段をもつが、これでは実際の使用に耐えないと思われ、調査時の掘り過ぎも考えられる。

## 遺物の出土状態 (挿図番号70)

遺物は住居址内に小破片が散在し、分布は若干東半分に濃い。層位的には層の上下に分布し、床面付近の遺物も多いが、皆小破片である。掲載遺物のタイプは皆タイプCである。

## 出土遺物 (挿図番号74 写真番号 PL56)

図示した遺物は、土師器小壺1, 土師器環1, 須恵器壺破片1の3個体である。土師器環136は、尖り気味の底部から若干内傾気味に口縁部が立つ。

## 所 見

遺物の分布様相からすると、遺物廃棄は住居址の東側から為された可能性が高い。

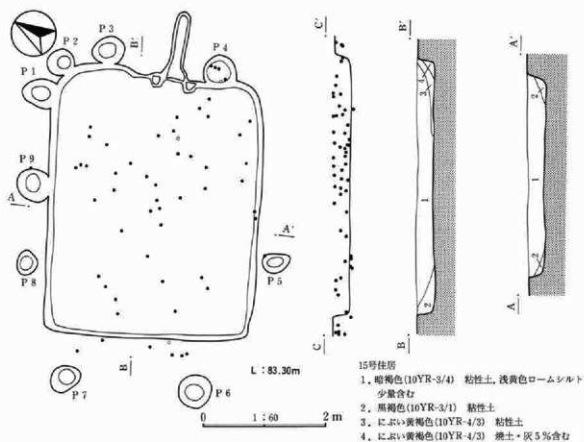
## 4 A I 区・16号住居址

## 遺 構 (挿図番号75 写真番号 PL10)

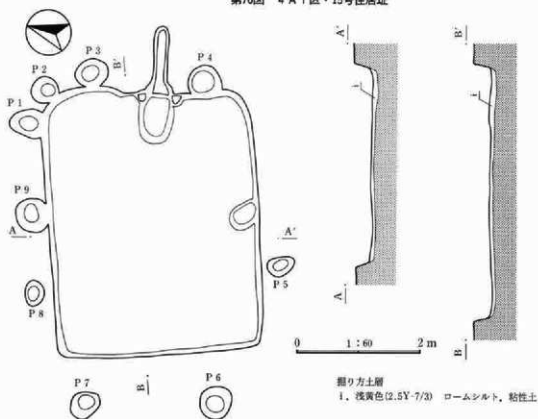
本住居址は4 A I 区の中央部北寄りの住居址密集地に位置し、H12・67, 77グリッドに属する。周辺には3m東に12号住, 1m南に15号住, 1m西に17号住が鼎立するようにして接近している。確認面の標高は83.15mを測る。

規模は東西3.26m・南北3.30mを測り、面積は10.76㎡である。平面形態は本来正方形を意図した隅丸方形と思われるが、東壁に据えられた竈の左壁が約30cm張り出している。主軸方位はN-65°-Eを示し、15号住と同方位を指している。

壁高は40cmで、壁は明瞭なラインを呈している。覆土は奇麗なレンズ状堆積で3分層され

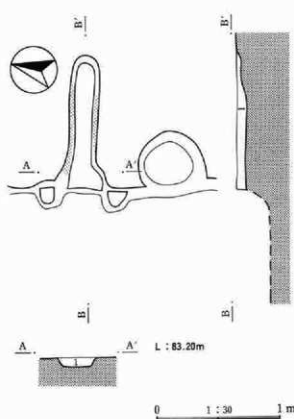


第70図 4 A I 区・15号住居址



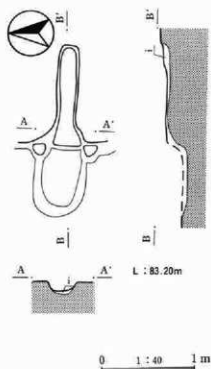
第71図 4 A I 区・15号住居址掘り方

1 篠塚狐穴(4 A I 区)・篠塚四反歩(4 A II 区)地区



15号住居竈

1. 黄灰色(2.5Y-4/1) 焼土含む

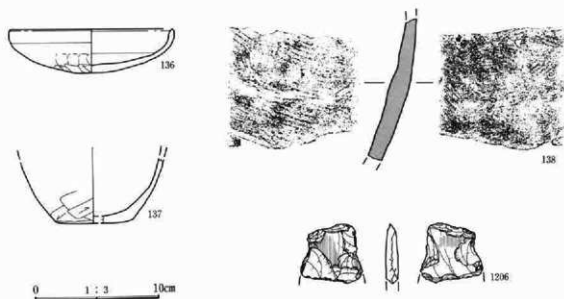


掘り方土層

1. 暗灰黄色(2.5Y-4/2) 細砂・焼土・シルトローム少量含む

第73図 4 A I 区・15号住居址竈掘り方

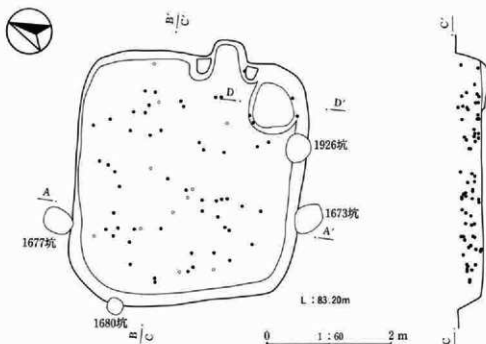
第72図 4 A I 区・15号住居址竈



第74図 4 A I 区・15号住居址出土遺物

#### IV 遺構と遺物

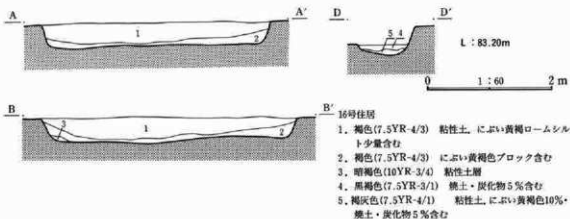
- 床** る。床面は貼床が施されず平坦な地床面で、南東隅には貯蔵穴が穿たれている。
- 竈** (挿図番号 72・73 写真番号 PL10)  
**燃焼部** 燃焼部の平面形態は隅丸の台形状を呈し、東壁南寄りの住居外に燃焼部の1/2を突き出し、袖を有している。煙道部は失われており、燃焼部から煙道部への立ち上がりは垂直である。覆土は焼土混じりの2層で、構築土は削平されたい。袖はシルト質ローム土で築かれている。
- 煙道部** 煙道部は失われており、燃焼部から煙道部への立ち上がりは垂直である。覆土は焼土混じりの2層で、構築土は削平されたい。袖はシルト質ローム土で築かれている。
- 火床面** 火床面は緩やかな起伏を見せ、燃焼部の側壁は熱により赤く硬化しており、使用頻度の高さが窺える。
- 電掘り方は楕円状を呈し、焚口付近は灰掻き穴の浅い窪みが認められる。
- 遺物の出土状態** (挿図番号 75)  
**遺物分布** 遺物は住居址内に満遍なく小破片が分布するが、竈及び貯蔵穴内には確認されない。層位的には土層上面の分布が若干濃いが、さほどの差はない。タイプ分けは、タイプAが刀子1218でタイプCが土師器坏139である。
- 出土遺物** (挿図番号 79 写真番号 PL56)  
**図示遺物** 図示した遺物は、土師器坏1、刀子1の2個体である。
- 土師器** 土師器坏139は、丸底の底部から体部に至り、口縁部が直立気味に立つ。
- 刀子** 刀子は刃部の多くを失うが、その摩耗状況から使用頻度の激しさが窺える。
- 所 見**  
 該住居址は遺物分布が各層にまたがり、継続的な遺物廃棄の状況が窺える。



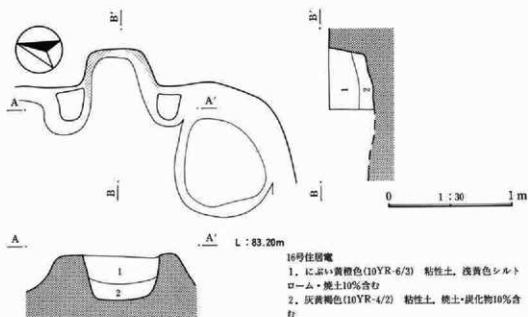
第75図 4 A | 区・16号住居址



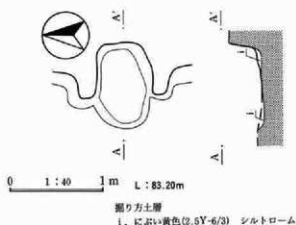
1 篠塚狐穴(4 A I区)・篠塚四反歩(4 A II区)地区



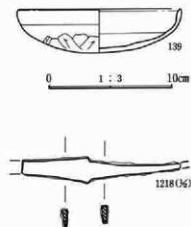
第76図 4 A I区・16号住居址



第77図 4 A I区・16号住居址竈



第78図 4 A I区・16号住居址竈掘り方



第79図 4 A I区・16号住居址出土遺物

#### IV 遺構と遺物

##### 4 A I 区・17号住居址

##### 遺 構 (拝図番号 80・81 写真番号 PL10)

絶対的位置	本住居址は4 A I 区の中央部北寄りの住居址密集地の内に位置し、H12・77,78グリッドに属する。周囲には東1 mに16号住、北3 mに13,19号住、西1 mに14号住が存在し、西南隅では14
相対的位置	掘立との切り合いが見られる。確認面の標高は83.15mを測る。
確認面	
規模・形態	規模は東西3.54m・南北2.70mを測り、面積は9.56㎡である。平面形態は縦長長方形を呈し、南東隅と西南隅が丸味を帯びている。主軸方位はN-78°Eを示している。
主軸方位	
壁・覆土	壁は90°に近い際立った立ち上がりで、壁高は30～35cmを測る。覆土は4層に分けられ、レンズ状の埋没状態である。
床・掘り方	床面は平坦で薄い貼床が施され、掘り方は住居址全体が僅かに掘り窪められている。また四隅を周溝が巡っている。

##### 竈 (拝図番号 82・83 写真番号 PL10)

燃焼部	燃焼部の平面形態は長い釣り鐘状を呈し、東壁南寄りの住居外に設置され、短い袖を有する。
煙道部	煙道部は僅かに残存しており、燃焼部から煙道部への傾斜は30°弱でだらっと立ち上がる。覆土はシルト質ローム土と焼土と灰層が互層となり、竈崩落状況を窺わせる。また燃焼部側壁から煙道部側壁にかけて、熱による赤化がみられ使用頻度の高さを証している。火床面は灰層が堆積し、緩やかな傾斜をもつ。
火床面	竈掘り方は楕円形を呈し、浅い掘り込みである。

##### 遺物の出土状態 (拝図番号 80)

遺物分布	遺物の分布は南半分に濃く、南東隅に特に濃密である。層位的には第2層内に濃い分布が認められ床面直上の遺物も多いが、そのほとんどは小破片である。掲載遺物のタイプ分けは、タイプAが須恵器高台付椀142で、残りはタイプCである。
タイプ	

##### 出土遺物 (拝図番号 84 写真番号 PL56)

図示遺物	図示遺物は土師器壺1, 土師器小壺1, 須恵器椀1, 須恵器高台付椀1, 石製紡錘車1の5
土師器	個体である。
須恵器	土師器壺144も土師器小壺143もともに、頸部に横篋削り調整が施されている。 須恵器椀141は大型で、緩やかに湾曲する体部である。須恵器高台付椀142も141に似た体部を持ち、高台の断面形はしっかりした台形である。

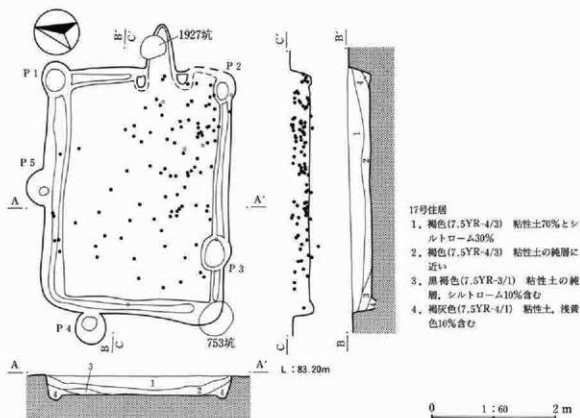
##### 所 見

遺物廃棄は該住居址埋没時まで継続的に為され、特に南東側からの遺物投棄行為が予想される。

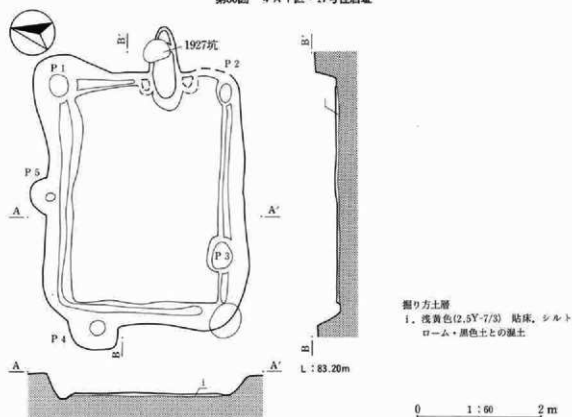
##### 4 A I 区・18号住居址

##### 遺 構 (拝図番号 85 写真番号 PL11)

絶対的位置	本住居址は4 A I 区中央部北寄りの住居址密集地に所在し、H12・57,67グリッドに属する。
相対的位置	該住居址は北壁と西壁のほぼ1/2を調査区外へ突出させており、隣接する12号住とは竈の先端部分で切り合いが認められる。確認面の標高は83.10mを測る。
確認面	
規模・形態	規模は東西3.17m・南北2.80mを測り、面積は8.88㎡である。平面形態は若干隅丸の正方形

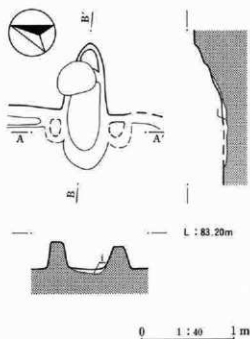
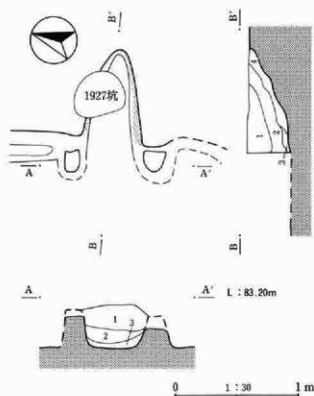


第80図 4 A I区・17号住居址



第81図 4 A I区・17号住居址掘り方

# IV 遺構と遺物



掘り方土層

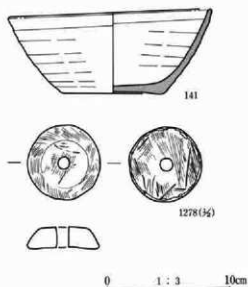
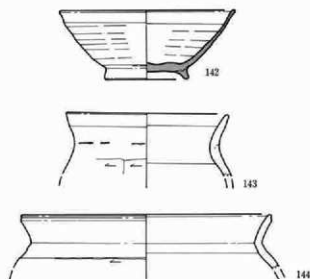
i. 灰褐色(7.5YR-5/2) 灰層10%・焼土含む

17号住居竈

1. 暗灰黄色(2.5Y-5/2) 粘性土、淡黄色シルトローム20%含む
2. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、シルトローム・焼土塊10%含む
3. 灰褐色(7.5YR-5/2) 焼土塊10%含む
4. 暗灰黄色(2.5Y-5/2) 粘性土、淡黄色シルトローム30%、焼土・炭化物・灰層含む

第83図 4 A I 区・17号住居址竈掘り方

第82図 4 A I 区・17号住居址竈



第84図 4 A I 区・17号住居址出土遺物

プランを意図したものであるが、北西隅が調査区外のためその全容は窺えない。主軸方位はN-178°-Wを示し、本遺跡地には珍しい南電を有する住居址である。

壁は西壁が明瞭な立ち上がりを示し、確認された壁高は35cm内外だが、調査区の北を限る土層断面から本来の壁高は80cm程度あったものと考えられる。覆土は4層に分かれ、第1, 2層の埋没のしかたが炭化物や焼土が混入し若干人為的だが、その他は概ね自然な堆積である。

床面には貼床が施されず地床面で、東壁付近に段差が見られる。

竈 (挿図番号87・88 写真番号PL11)

燃焼部の平面形態は台形状を呈し、南壁東寄りの住居内に設けられ、短い袖が付く。煙道部は燃焼部との境界が不明瞭のまま幅を狭め、緩やかな傾斜を上って先端にいたり垂直に立ち上がる。覆土は焼土と灰混じりの土層が2層に分かれる。火床面は盆状に窪み灰掻き穴に連続する。また燃焼部の側壁は上部が赤く硬化している。

電掘り方は火床面から若干下がった位で、シルト質ローム土が貼土されている。

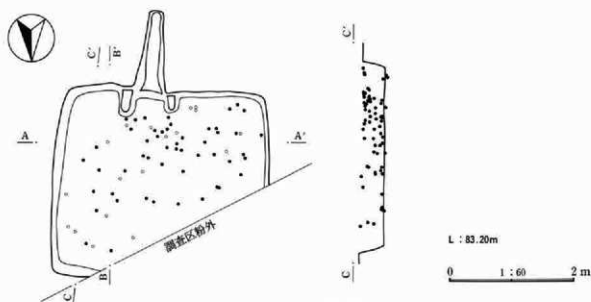
遺物の出土状態 (挿図番号85)

遺物は南東隅を除き全面から出土しているが、竈の前方部に若干多い傾向がある。層位的にみると第1層と第3層に多く、とくに床面付近の分布が濃い。掲載遺物のタイプ分けは、いずれもタイプCである。

出土遺物 (挿図番号89)

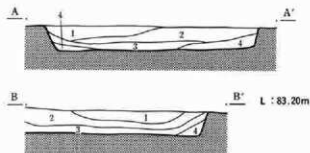
図示しえた遺物は、土師器杯3個体である。

土師器杯は3タイプに分かれ、丸底の底部から体部が弧を描いてそのまま開く145、尖り気味の底部から口縁部が短く内傾する146、口縁部と体部の境に明確な稜線を有し、長い口縁部が直線的に外傾する147である。



第85図 4AⅠ区・18号住居址

# IV 遺構と遺物

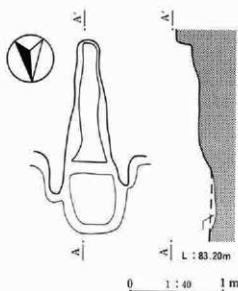
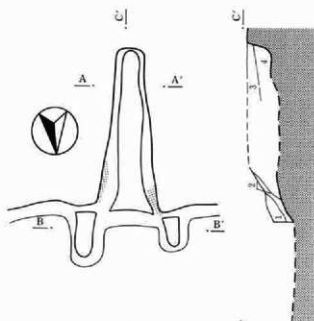


## 18号住居

1. 暗褐色(10YR-3/3) 粘性土、炭化物・焼土少量含む
2. 黒褐色(10YR-2/2) 粘性土、炭化物多量に含む
3. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土
4. 黒褐色(10YR-2/2) 粘性土中に10%黄褐色シルトローム含む

0 1 : 60 2 m

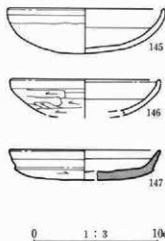
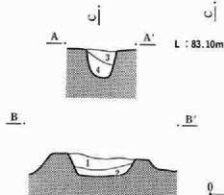
第86図 4 A | 区・18号住居址



## 掘り方土層

- i. 灰黄褐色(10YR-4/2) 細砂・焼土・シルトローム少量含む

第88図 4 A | 区・18号住居址電掘り方



## 18号住居電

1. にぶい黄褐色(10YR-5/3) 粘性土、焼土・炭化物含む
2. にぶい黄褐色(10YR-6/4) シルトローム、焼土10%含む
3. 黒色(7.5YR-2/1) 粘性土、軽石・焼土少量含む
4. 黒褐色(7.5YR-3/1) 粘性土、焼土焼含む

第87図 4 A | 区・18号住居址電

第89図 4 A | 区・18号住居址出土遺物

## 4AⅠ区・19号住居址

## 遺 構 (挿図番号90 写真番号PL11)

本住居址は4AⅡ区の中央部北寄り住居址密集地の北西端に位置し、H12・66グリッドに属している。すぐ南には14・17・16号住が西から東へと直線的に並んでいる。確認面の標高は83.10mを測るが、東壁を13号住と切り合い、住居址北側1/4を調査区外へ突出させている。

絶対的位置  
相対的位置  
確認面

規模は東西2.80mが測れるのみで、平面形態は不明である。主軸方位はN-95°-Eを示す。

規模

壁高は45cm強を測り、残存している壁はほぼ70°の角度をもち、明瞭なラインを描く。覆土は2層に分かれ、レンズ状の埋没状態が窺える。

主軸方位

壁・覆土

床面は平坦で貼床は施されず地床面である。

床

## 電

13号住との切り合いで電が失われていた。

## 遺物の出土状態 (挿図番号90)

遺物は住居址の中央に集まる傾向にあり、壁際の出土が薄い。層位的には土層の上面に濃い分布が認められ、床面付近では比較的薄い床直遺物はかなり認められるがいずれの小破片である。遺物のタイプ分けは、タイプBが土師器甕152と須恵器環155で、残りはタイプCである。

遺物分布

タイプ

## 出土遺物 (挿図番号91)

図示しえた遺物は、土師器甕3、土師器環2、須恵器環4、須恵器甕破片1の10個体である。土師器甕は151は、長胴甕の系列ではない球形胴を有する甕である。土師器環は、尖り気味の底部から口縁部が短く内傾する範疇に入る150と、盤状環149がある。

図示遺物

土師器

須恵器環は、いずれも底部周辺削り調整され、量に大(153,156)小(154,155)があるものの同タイプである。須恵器環蓋122はリング状鈕を有し、低い天井から緩やかに端部に至り返りをもつ。

須恵器

## 4AⅠ区・20号住居址

## 遺 構

本住居址は土坑に変更のため欠番。

## 4AⅠ区・21号住居址

## 遺 構 (挿図番号92・93 写真番号PL12)

本住居址は4AⅠ区の中央部に位置し、H12・97,98,98グリッドに属する。周囲には3m西に26号住を中心とする住居址密集群がある。確認面の標高は83.20mを測り、南壁で22,45号住との切り合いが見られる。

絶対的位置

相対的位置  
確認面

規模は東西5.30m・南北4.70mを測り、面積は24.91㎡である。平面形態は西壁の短い台形を呈するが、重複の故の未確定の部分を考え合わせると、本来は縦長長方形プランを意図したものと思考される。主軸方位はN-72°-Eを示す。

規模・形態

主軸方位

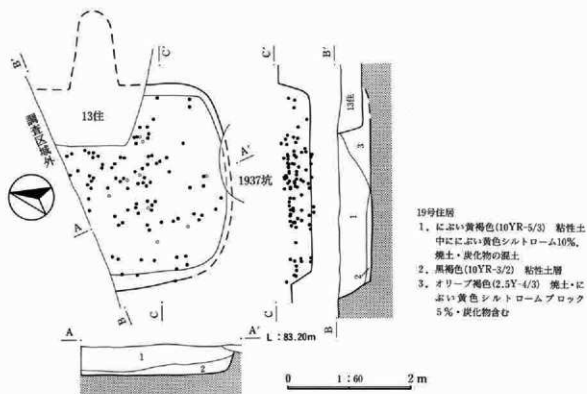
壁は明瞭な立ち上がりを見せ、壁高は約50cmを測る。覆土は2層に分かれ、奇麗なレンズ状の埋没状態を示している。

壁・覆土

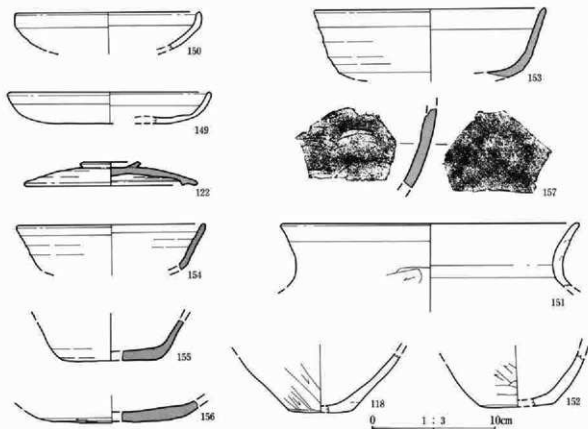
床面は平らに貼床が施され、南東隅に貯蔵穴が設けられ、住居址中央には2個の柱穴が穿た

床

# IV 遺構と遺物



第90図 4 A | 区・19号住居址



第91図 4 A | 区・19号住居址出土遺物



れている。また周溝が全周していたものと推測される。掘り方は北壁から南壁にかけて幅60cm 掘り方強で凹字状に掘り込まれている。

#### 電 (挿図番号94 写真番号PL12)

燃焼部の平面形態は隅丸の矩形を呈し、東壁南寄りの住居外に燃焼部の1/2を突き出して、短い袖を伴っている。煙道部は失われているが、燃焼部から煙道部へは垂直に近い立ち上がりを見せる。覆土は灰や焼土を含む層が互層を成している。火床面は緩やかな凹凸をもちその上を灰と焼土の土層が覆い、燃焼部左側壁と煙道口周辺の壁が赤化している。

#### 遺物の出土状態 (挿図番号92・99・100)

遺物は北東隅を除き濃密な分布を示し、電前方部に特に濃密である。層位的にも各層にわたって濃密な分布を示している。全般的には土師器よりも須恵器の接合線が長く引かれ、須恵器の平面的バラツキの大きさを示している。層位分布でも須恵器の分布は各層にわたっている。

土師器甕169は電から4mも接合線が伸び、電崩壊時の所産と考えられ、土師器甕177も出土状況から電に付随したものであろう。住居中央で広範囲の接合分布を示す土師器甕170, 172, 176は、土器廃棄行為の結果生じた可能性がある。須恵器の分布は土師器甕とは対称的に電周辺には分布せず、接合線は須恵器大甕205, 312が大きく広がる。特に312は電縁に据えられた水瓶が、何等かの理由で破壊された様相を示す資料であろう。また須恵器環184, 191は45号住遺物と長頸甕202は17号住遺物との住居間接合がみられる。

掲載遺物のタイプ分けは、タイプAが土師1282と鉄製品1219, 1221で、残りは総てタイプC に分類される。

#### 出土遺物 (挿図番号95・96・97・98 写真番号PL57)

図示しえた遺物は、土師器甕11, 土師器小甕2, 土師器台付甕2, 土師器碗1, 土師器杯6, 須恵器大甕2, 須恵器小甕1, 須恵器横瓶1, 須恵器杯11, 須恵器長頸瓶1, 須恵器杯蓋5, 須恵器短頸壺蓋1, 鉄釘2, 土釘4の50個体である。

土師器甕は、いずれも頸部に横寛削り調整が施され、口縁部が厚く反りの甘くなったもの(173, 174)と頸部から口縁部に指頭圧痕の顕著に見られるもの(170, 176)もある。土師器杯は丸底と平底に分かれ、丸底タイプは器肉が薄く体部が内湾する162と、器高が浅く口縁部が長く直立気味に立つ160がある。平底タイプは丸底と平底の中間形態の161, 165と平底の164, 166がある。

須恵器大甕312は、最大径を胴部上位にもち丸底である。須恵器杯は194のみ寛切り成型で、他は糸切り成型である。ほとんどが丸みのある底部から直線的に開く体部を有するが、185は器肉が薄く丸みのない底部から、直線的な体部に至り口縁部が外反する。須恵器杯蓋は、宝珠状鈕(197)ボタン状鈕(195), リング状鈕(196, 198)があり、返りをもたない端部が鋭く折れるもの(198, 199)と緩やかに屈曲するもの(195, 196)がある。

#### 所 見

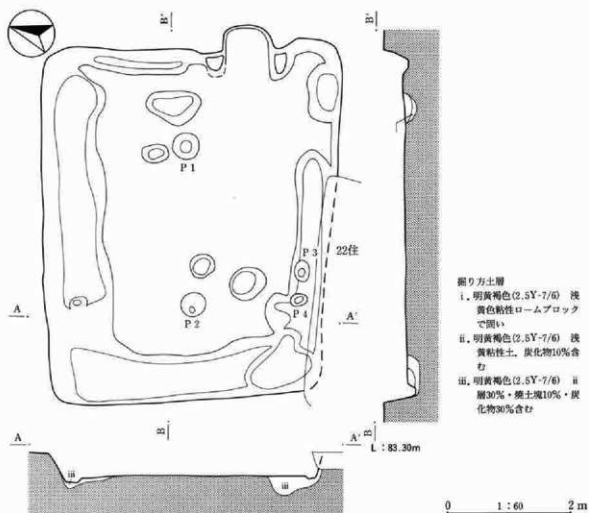
該住居址の出土遺物、形態は6・16号住と酷似している。上栗須寺前遺跡群6期に分類される。



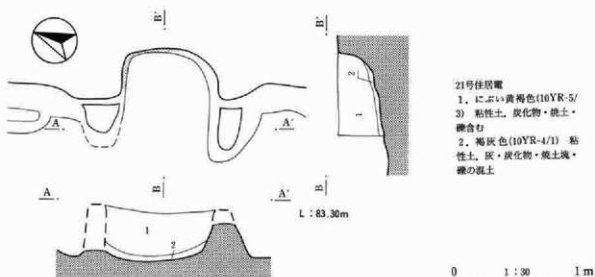
21号住居

1. 灰黄色(10YR-4/3) 粘性土。砂利10%・炭化物・焼土5%含む
2. 暗褐色(10YR-3/3) 粘性土。明黄褐色シルトローム20%・砂利・炭化物・焼土含む
3. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土。明黄褐色シルトローム少量含む
4. 明黄褐色(2.5Y-7/6) シルトローム。焼土・炭化物少量含む
5. 明黄褐色(2.5Y-7/6) 4層に類似。焼土含む

第92図 4AⅠ区・21号住居址

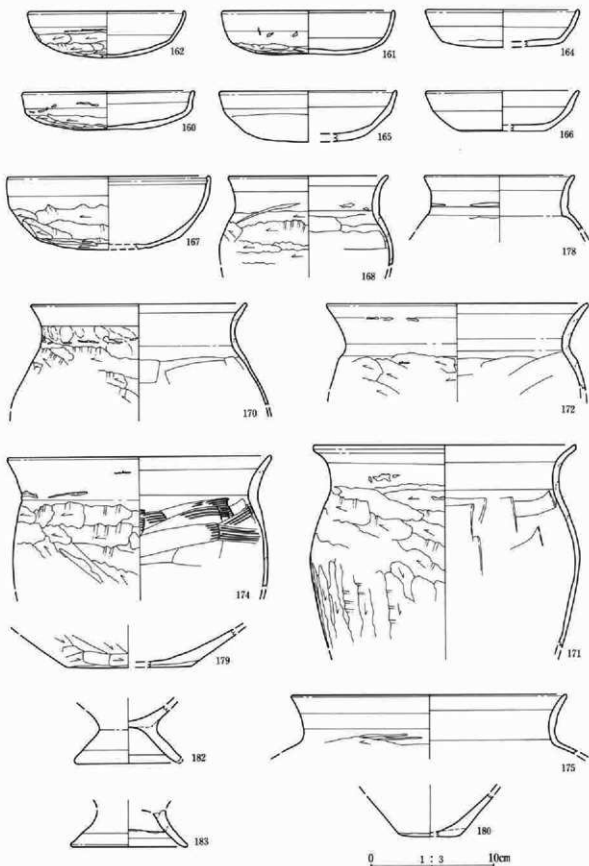


第93図 4AⅠ区・21号住居址掘り方



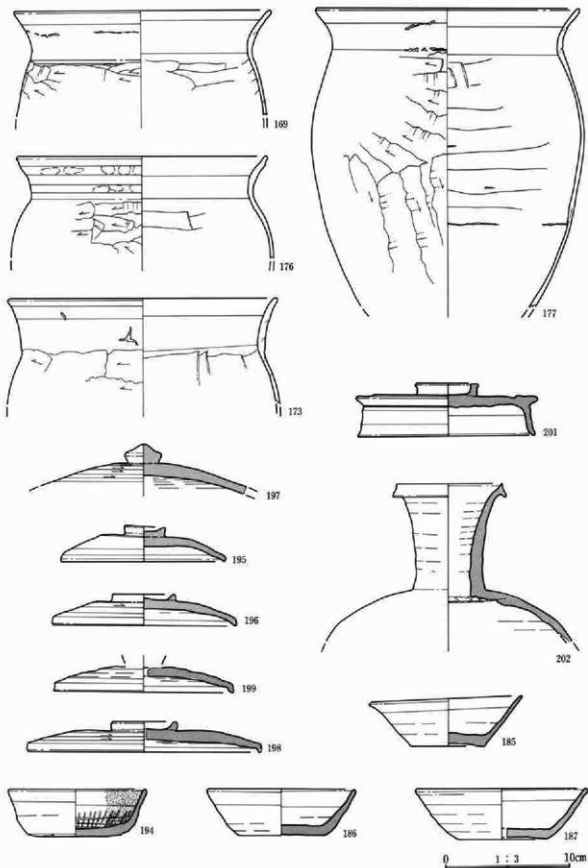
第94図 4AⅠ区・21号住居址層

IV 遺構と遺物



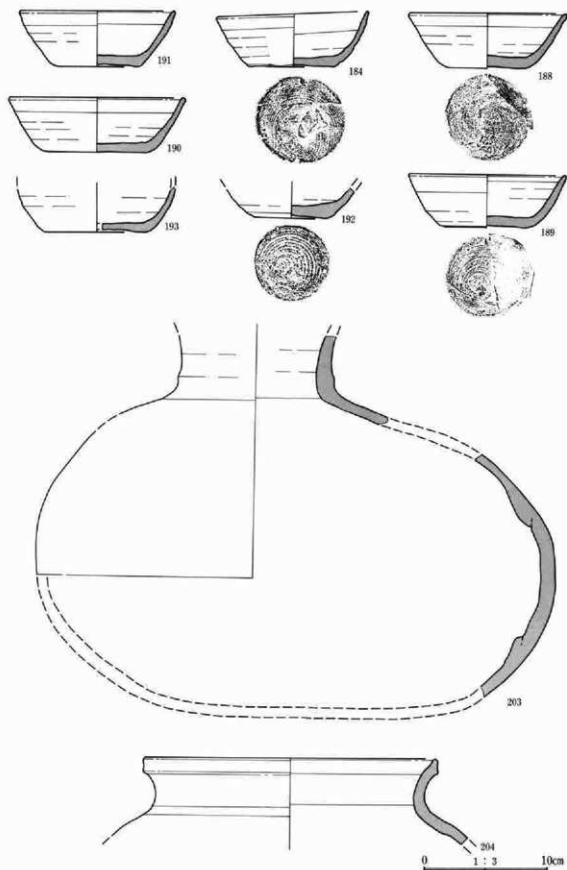
第95図 4 A I 区・21号住居址出土遺物

1 藤塚狐穴(4AⅠ区)・藤塚四反歩(4AⅡ区)地区

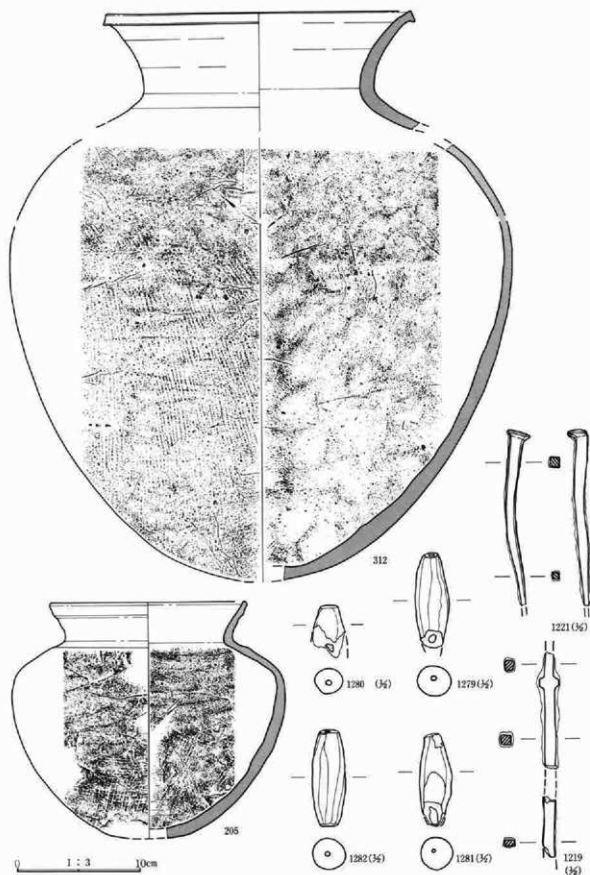


第96図 4AⅠ区・21号住居址出土遺物

IV 遺構と遺物



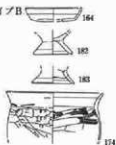
第97図 4 A I 区・21号住居址出土遺物



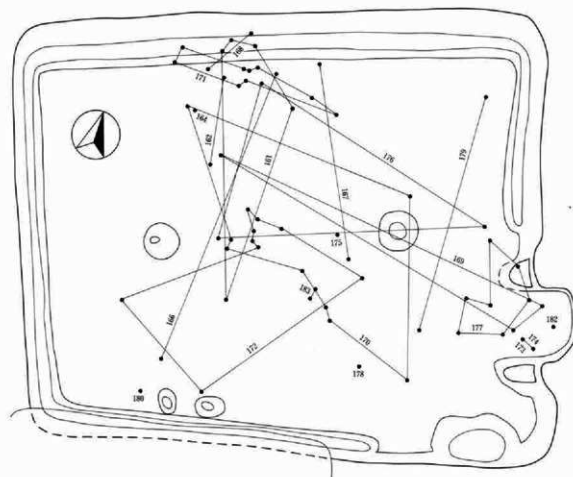
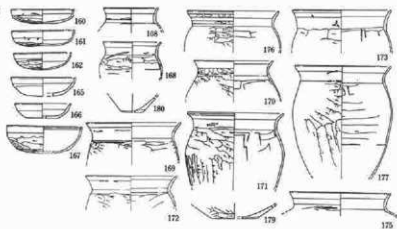
第98图 4A I区·21号住居址出土文物

# IV 遺構と遺物

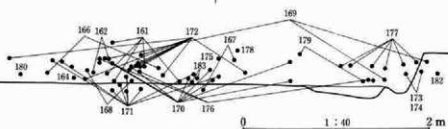
タイプB



タイプC



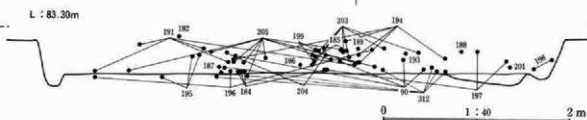
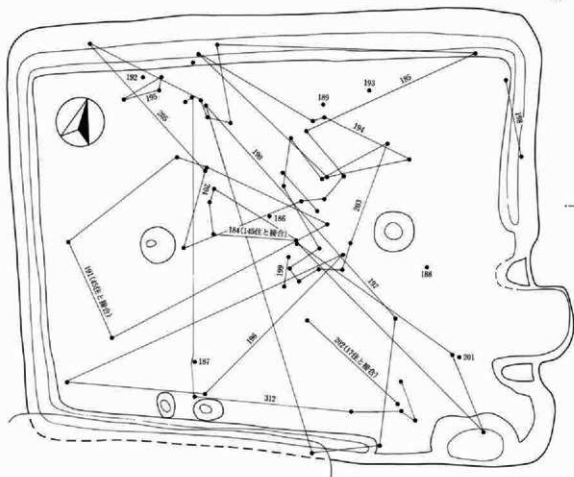
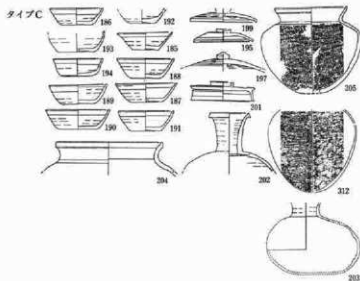
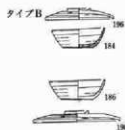
L: 83.30m



第99図 4 A I 区・21号住居址遺物接合分布図—土師器



1 篠塚竈穴(4AⅠ区)・篠塚西反歩(4AⅡ区)地区



第100図 4AⅠ区・21号住居址遺物接合分布図—須恵器

# IV 遺構と遺物

## 4 A I 区・22号住居址

### 遺 構 (挿図番号102・103 写真番号PL12)

絶対的位置	本住居址は4 A I 区の中央部住居址密集地に位置し、H12・97, 98, H13・07, 08グリッドに属する。周囲には西3 mに26号住を中心とした住居址群があり、10掘立とは南壁で重複している。
相対的位置	確認面の標高は83.25mを測り、北壁を21号住と東壁を45号住と切り合っている。
確認面	規模・形態
規模・形態	規模は東西3.40m・南北3.40mを測り、面積は11.56㎡である。平面形態は若干隅丸の正方形プランが意図されている。主軸方位はN-69°-Eを示す。
主軸方位	壁
壁	壁は平均70°の角度で立ち上がり、壁高はおよそ30cmが残され明瞭なラインを呈している。
覆土	覆土は3層に分かれ、第3層の三角堆積層は壁の崩落土で、該住居址廃絶期に周囲からの何らかの衝撃の存在が窺える。しかし、その後の埋没は自然な状態を示している。
床・掘り方	床面は平坦で貼床が施され、東南隅には貯蔵穴が穿たれている。掘り方は円形の土坑が4個、住居址中央から西南隅にかけて設けられている。

### 竈 (挿図番号101 写真番号 PL12)

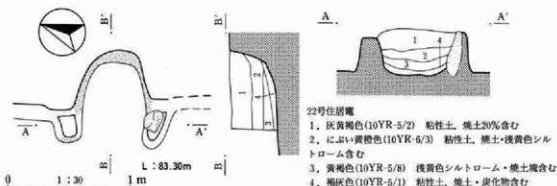
燃焼部	燃焼部の平面形態は釣り鐘状で、東壁南寄りの住居外に設けられ、短い袖を付している。煙
煙道部	道は削平されて失われ、燃焼部から煙道部への移行は急角度である。覆土はシルト質ローム土と焼土と灰層が互層となり、竈が崩落した様相を示している。袖はシルト質ローム土を主体に、特に右袖は棒状の石を軸に築かれている。火床面は平らで焼土塊を多量に含む灰層が厚く覆い、燃焼部の側壁全体が赤く焼けており、使用頻度の高さを窺わせる。
火床面	

### 遺物の出土状態 (挿図番号102)

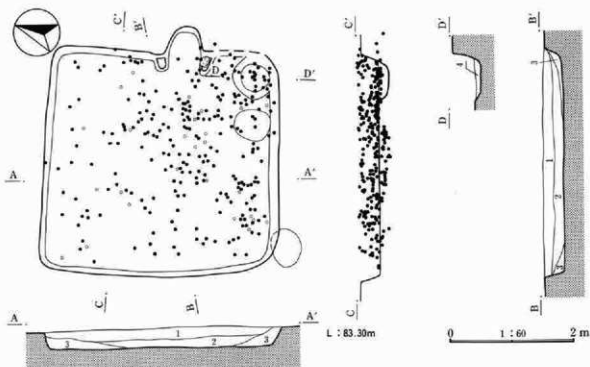
遺物分布	遺物は住居址全体に分布し、特に竈前方と貯蔵穴周辺に濃い分布が認められる。層位的には第3層に濃密な分布があるが、西壁際を除いて各層に満遍なく含まれている。また貼床したの掘り方にも多量な遺物が分布している。掲載遺物のタイプ分けは、タイプAが須恵器高台付皿217, 218で、タイプBaが須恵器高台付碗206, 207で、タイプBが土師器台付甕224, 羽釜221である。
タイプ	

### 出土遺物 (挿図番号104・105 写真番号PL58)

図示遺物	図示した遺物は、土師器甕2, 土師器小甕1, 土師器台付甕1, 羽釜1, 須恵器杯3, 須恵器高台付碗6, 須恵器高台付皿4, 灰釉陶器1, 砥石1, 土錘1の21個体である。
土師器	土師器甕は厚くなった口縁をもち、225は頸部と胴部の境界が希薄になりつつある。



第101図 4 A I 区・22号住居址竈



22号住居

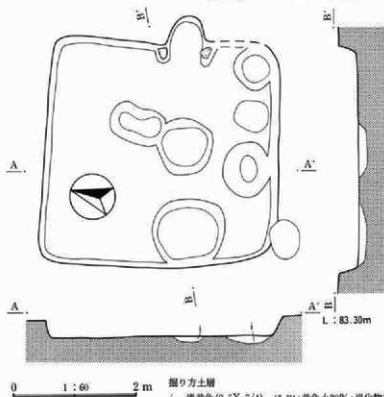
1. 暗灰黄色(2.5Y-4/2) 粘性土、砂利20%含む

2. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、砂利10%・焼土・にぶい黄色土5%含む

3. 暗褐色(10YR-3/3) 粘性土、炭化物・焼土少量含む

4. 褐灰色(7.5YR-4/1) 粘性土、にぶい黄色土20%・焼土・炭化物30%含む

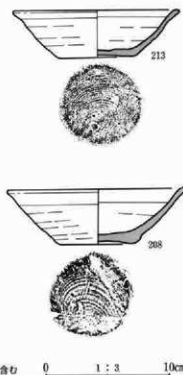
第102図 4AⅠ区・22号住居址



掘り方土層

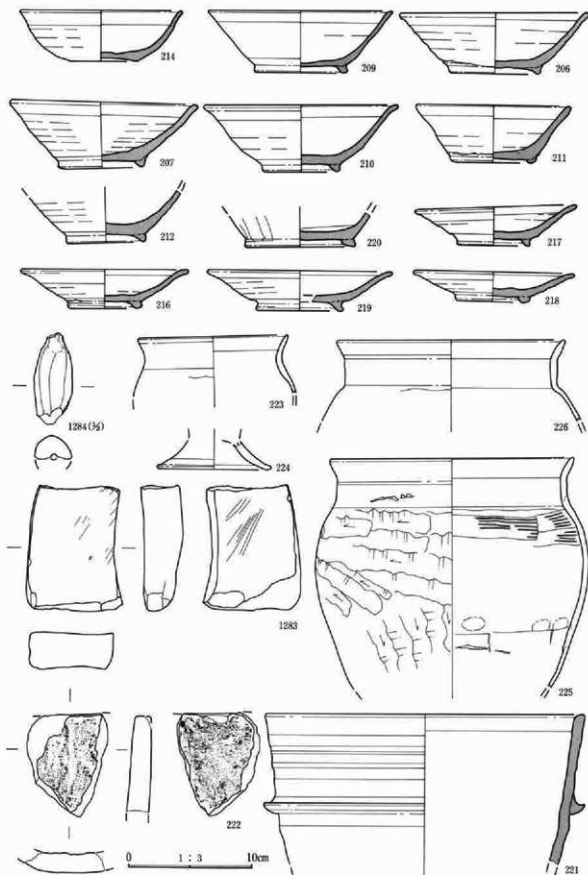
i. 浅黄色(2.5Y-7/4) にぶい黄色土30%・炭化物10%含む

第103図 4AⅠ区・22号住居址掘り方



第104図 4AⅠ区・22号住居址出土遺物

IV 遺構と遺物



第105図 4 A I 区・22号住居址出土遺物

羽釜221は壺型羽釜と思われる。

羽釜

須恵器環は、須恵器高台付椀との形態差がなくなり、単に高台が付くかどうかの差である。須恵器環214は丸みのある体部をもち、口縁に至り若干外反する。その他の須恵器環は、直線的な体部が口縁に至り外反するタイプ(208, 213)である。須恵器高台付椀にも須恵器環と同様に2タイプあり、丸みのある体部が外反するもの(206, 210)と直線的な体部が外反するもの(207, 209, 211)に分けられる。須恵器高台付皿は、口縁部が外反するAタイプ(216, 217, 219)と直線的な体部のBタイプ(218)がある。

須恵器

#### 4AⅠ区・23号住居址

遺 構 (挿図番号106・107 写真番号PL13)

本住居址は4AⅠ区中央部の住居址密集地に位置し、H12・96, 97, H13・07グリッドに属する。該住居址は住居址密集地のほぼ中心に位置し、周囲を巡るように存在する掘立柱建物跡群の中心の位置にもあたる。確認面の標高は82.30mを測り、北壁を24号住、西壁26号住、南壁を25号住と切り合っている。

絶対的位置

相対的位置

確認面

規模は東西4.10m・南北3.95mを測り、面積は16.20㎡である。平面形態は縦長長方形で、北東隅と南東隅が幾分隅丸形を呈している。主軸方位はN-70°-Eを示す。

規模・形態

主軸方位

壁はしっかりとした稜線を保ち、壁高は60cmと比較的良好な残存状況である。覆土は3層に分けられるが、北側部分は24号住の覆土により攪乱されている。

壁・覆土

床面は平らに貼床が施され、掘り方は全体を掘りくぼめ更に中央部に土坑が穿たれている。

床・掘り方

竈 (挿図番号108・109 写真番号PL13)

焼煙部の平面形態は隅丸の矩形で、東壁南寄りの住居外に設置され、袖は確認されなかった。煙道は焼煙部の長さと同等の長さをもち、焼煙部からほぼ垂直に立ち上がり、煙道口からおおよそ30°の角度で先端に至る。覆土は竈天井の崩落土と思われる土層の上に、住居址覆土と同様の埋没土が覆っている。火床面には灰がうっすらとあり、焼煙部側壁から煙道部側壁にかけて、熱による赤化が見られる。

焼煙部

煙道部

火床面

遺物の出土状態 (挿図番号106・111)

遺物は西壁の壁際を除きほぼ全面から出土しているが、住居址中央に分布の中心が見られる。層位的には第1層に多く分布し、第2層の分布は中央にまとまり、東壁付近にはあまり見られない。掲載遺物の接合線は出土遺物数の割合ほどは結ばず、小破片遺物が大部分であることを示している。掲載遺物のタイプ分けはタイプAが須恵器環477で、タイプBが土師器甕235, 236, 土師器台付甕271, 須恵器環243で、残りはタイプCである。

遺物分布

タイプ

出土遺物 (挿図番号110 写真番号PL59)

図示した遺物は、土師器甕2, 土師器小甕2, 土師器台付甕1, 土師器環3, 須恵器甕破片1, 須恵器環4, 須恵器環蓋3の16個体である。

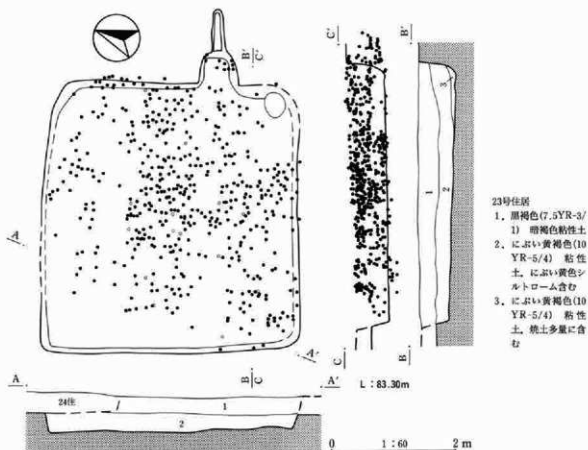
図示遺物

土師器甕268は長胴甕の系譜に連なり、頸部に横篋削り調整が施される。土師器環は丸底と平底が混在し、深い丸底の椀型の229と、丸底で器肉が薄く指頭圧痕調整の強い233と、平底で体部が直線的に立つ232とがある。

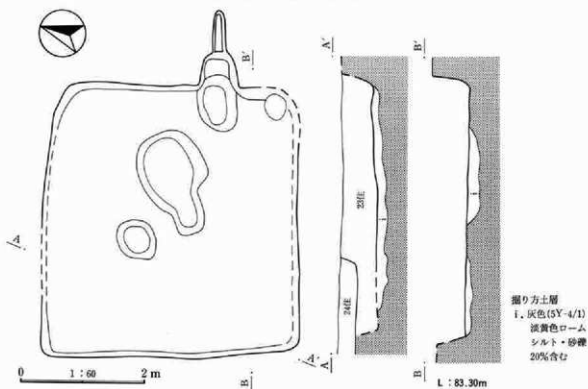
土師器

須恵器環も、体部が直線的に開くもの(243)と、丸みをもつ体部からつまみ出されて外反する

須恵器

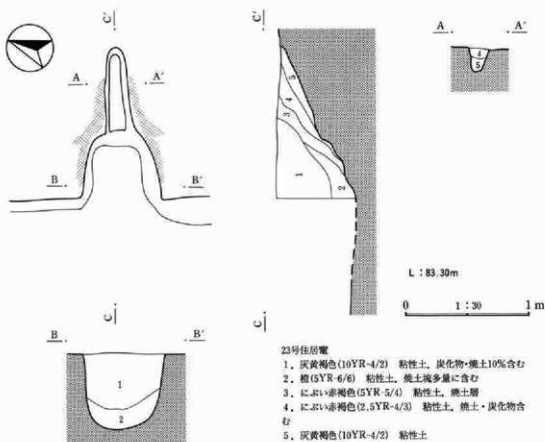


第106図 4 A I 区・23号住居址

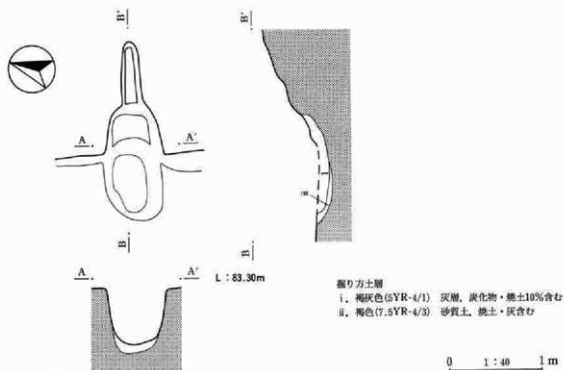


第107図 4 A I 区・23号住居址掘り方

1 篠塚竈穴(4AⅠ区)・篠塚四反歩(4AⅡ区)地区

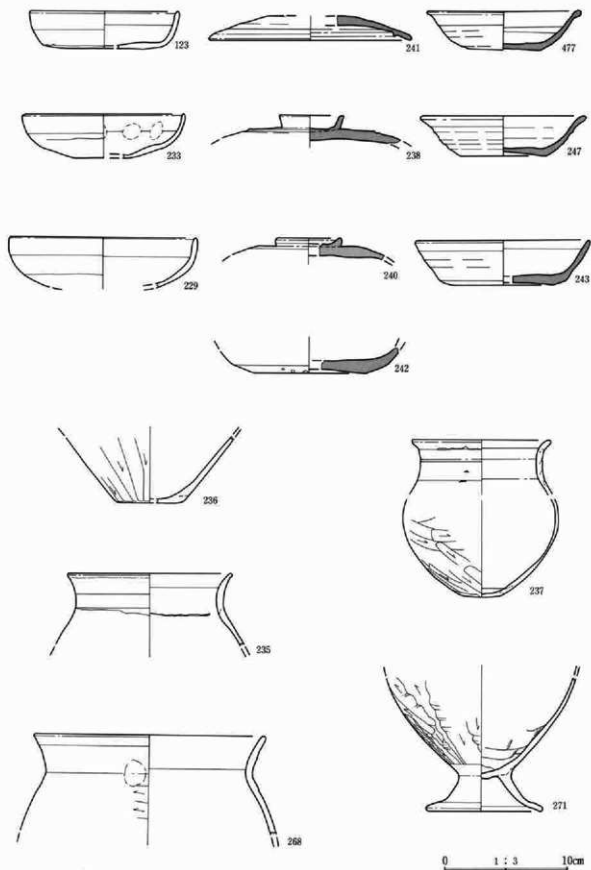


第108図 4AⅠ区・23号住居址竈



第109図 4AⅠ区・23号住居址竈掘り方

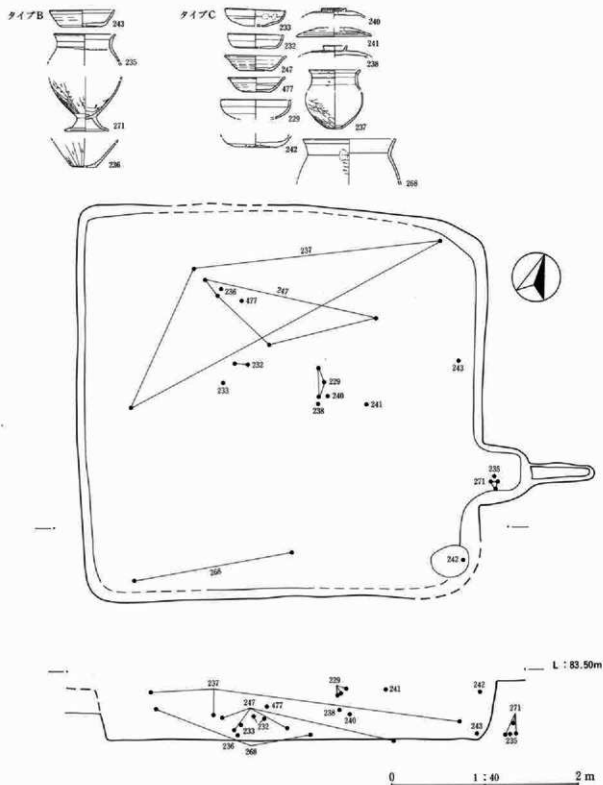
IV 遺構と遺物



第110図 4 A I 区・23号住居址出土遺物



1 篠塚狐穴(4AⅠ区)・篠塚四反歩(4AⅡ区)地区



第111図 4AⅠ区・23号住居址遺物接合分佈図—土師器・須恵器

#### IV 遺構と遺物

もの(247, 477) 2 タイプに分かれる。須恵器環蓋241は、平らな頂部から緩やかに端部に至り返りを有する。

#### 所見

遺物の出土状態からすると、ほとんどの遺物が廃棄遺物と考えられ、第2層埋没時点では住居中央部に廃棄行為が偏っていたが(南側からの投棄)、第1層埋没時には住居全面に廃棄行為がわたっている。

#### 4 A I 区・24号住居址

##### 遺構 (挿図番号112 写真番号PL13)

絶対的位置	本住居址は4 A I 区中央部の住居址密集地の一角に位置し、H12・87, 96, 97グリッドに属する。
相対的位置	周囲を独立柱建物跡群に囲まれるようにし、該住居址の南側は竪穴住居址が幾重にも重複している。
確認面	確認面の標高は83.15mを測り、南部分1/4を23, 26号住と切り合っている。
規模・形態	規模は東西4.30m・南北4.16mを測り、面積は17.89 m <sup>2</sup> である。平面形態は縦長長方形を呈し、本来は整美な構築プランを有していたものと推測される。
主軸方位	主軸方位はN-69°-Eを示し、付近の竪穴住居址とほぼ方位を一にしている。
壁	壁は南壁が23号住との切り合いでやや不分明だが、他の壁は平均25cmと浅いながらも明瞭な立ち上がりが見られる。
覆土	覆土は3層に分かれレンズ状の堆積を示している。
床	床面は中央が僅かに高まる地床面で、西壁の一部には周溝が検出され、元来各壁下を巡っていたものと思われる。

##### 竈 (挿図番号113・114 写真番号PL13)

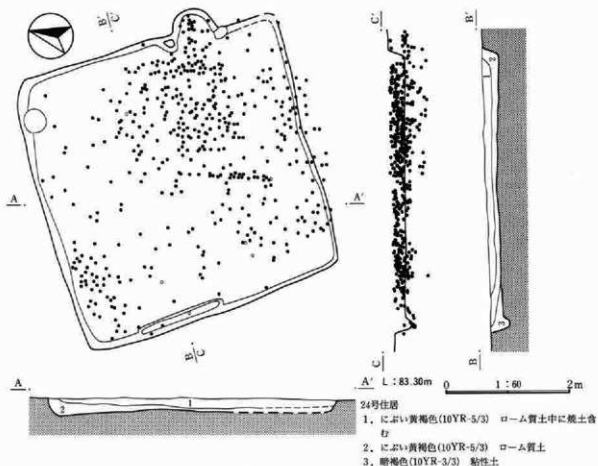
燃焼部	燃焼部の平面形態は半円形を呈し、東壁南寄りの住居外に設けられ、僅かの袖が認められる。
煙道部	煙道部は無く、燃焼部から煙道部への立ち上がりは垂直である。覆土は電天井の崩落土と思われる焼土層が火床面を覆い、その上に住居址埋没土が堆積している。袖は切り石の砂岩を右袖に置いている。
火床面	火床面は浅く窪んで、燃焼部側壁は全体が熱による赤化を受けて使用頻度の高さを窺わせる。
	電掘り方は袖石の基部まで掘り込まれ、その上にシルト質ローム土の混土を貼土したと推測される。

##### 遺物の出土状態 (挿図番号112・116)

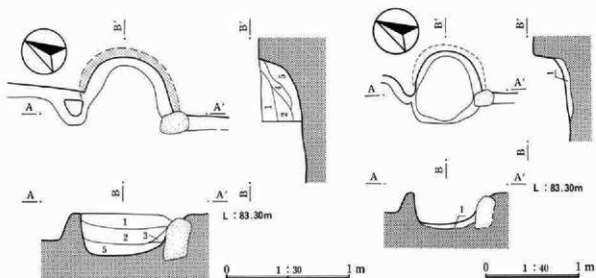
遺物分布	遺物は住居址全面に分布が見られ、特に電周辺に濃い分布が認められる。層位的には各層に濃密な分布で、特に床下土坑と考えられる付近からの遺物出土が多い。掲載遺物の出土は電周辺に集中しており、遺物接合線も電を中心とした流れが窺われる。遺物のタイプ分けは、タイプAが土師器環248, 262, 須恵器環蓋257で、タイプBが土師器環249, 254, 須恵器環244, 258で、残りはタイプCである。
タイプ	

##### 出土遺物 (挿図番号115 写真番号PL59)

図示遺物	図示した遺物は、土師器壺8, 土師器環4, 須恵器環3, 須恵器環蓋2の17個体である。
土師器	土師器壺は、長胴壺の系譜を引くコの字口縁壺と球形胴壺(256)に大別される。コの字口縁壺はその最終的形態の252, 253と、上部の屈曲の甘くなった249と、頸部と胴部の境が不明瞭となった254, 255と、口縁部と頸部双方の屈曲が不明瞭となった250, 251に分類される。



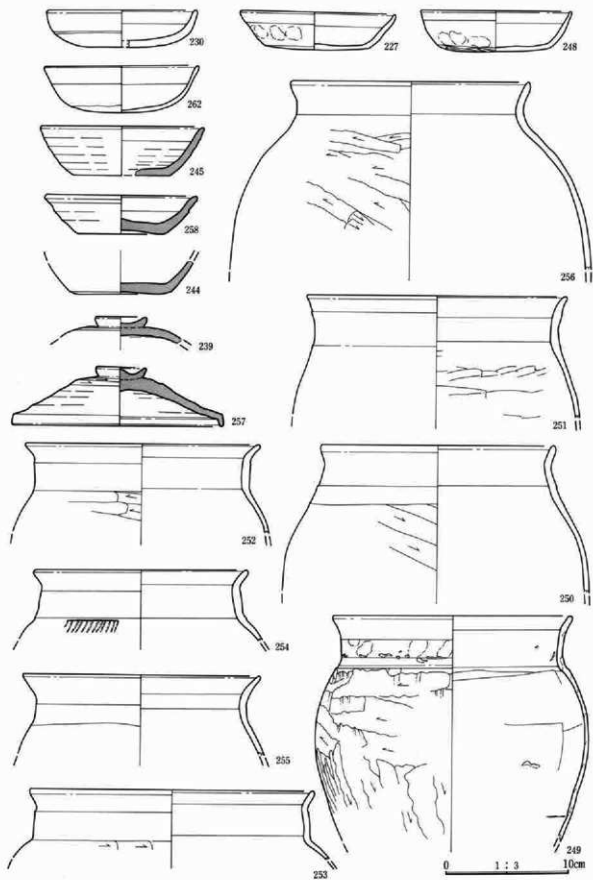
第112図 4AⅠ区・24号住居址



第113図 4AⅠ区・24号住居址竈

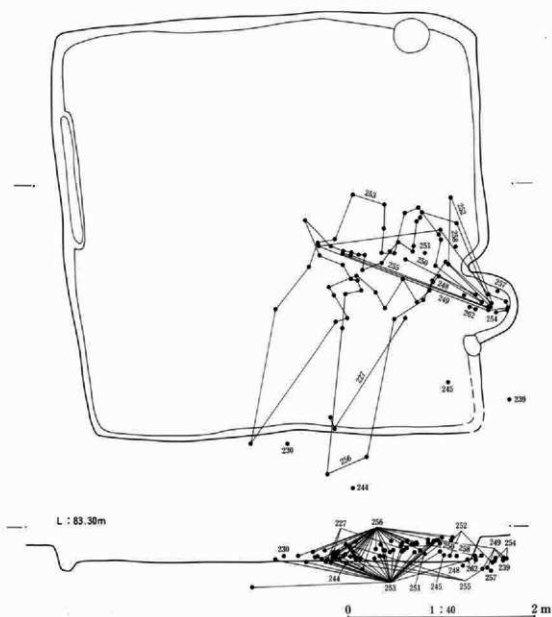
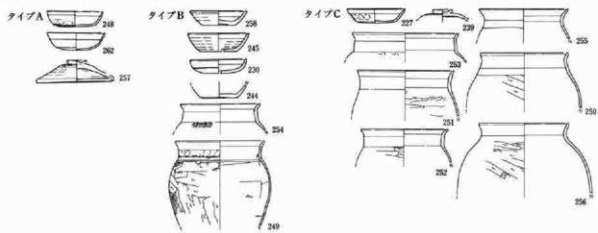
第114図 4AⅠ区・24号住居址竈掘り方

# IV 遺構と遺物



第115図 4A1区・24号住居址出土遺物

1 篠塚狐穴(4AⅠ区)・篠塚四反歩(4AⅡ区)地区



第116図 4AⅠ区・24号住居址遺物接合分布図一土師器・須恵器

#### IV 遺構と遺物

**須恵器** 須恵器坏は、丸みのある体部がそのまま開くタイプである。須恵器坏蓋はボタン状紐（239、257）を有し、257は高い天井部から急激に端部に至り返りをもたない。

#### 所 見

電を中心とした土師器甕の分布は、電にかかわる土師器甕の利用状況（煮沸機能・軸材）を充分に窺わせる。

#### 4 A I 区・25号住居址

**遺 構**（挿図番号118 写真番号PL13）

**絶対的位置** 本住居址は4 A I 区の住居址中央部の密集地に位置し、H13・07グリッドに属している。この住居址密集地は、26号住を中心にして8棟の住居址が複雑に切り合っており、該住居址はその一部をなしている。確認面の標高は83.20mを測るが、23号住と26号住により住居址の大部分が失われている。

**主軸方位** 規模・平面形態ともに住居址の大部分が欠失しているため不明である。主軸方位はN-68°-Eを示し、周囲の住居址とほぼ同一方向を向いている。

**壁・覆土** 残存している壁は55cmあり、確実な立ち上がりである。覆土は切り合いとの関係から複雑な様相を見せ、5層に分けられるが人為的な埋没の可能性が高い。

**床** 床面は地床面であったと推測され、壁下には周溝が巡っていたものと思われる。

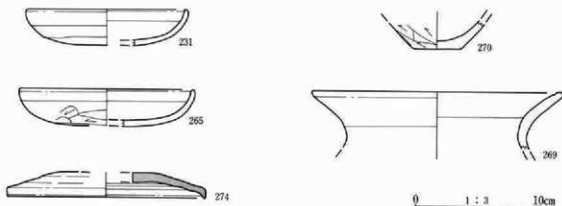
**電**（挿図番号119・120 写真番号）

**燃焼部** 残存した部分から平面形態を推測すると、釣り鐘状を呈すると思われる。該電は東壁南寄りの住居外に設置され、短い袖を有している。煙道部は残存状態が良好で、断面形が矩形の掘り方を成し、その長さは燃焼部とほぼ同様である。燃焼部から煙道部への立ち上がりは90°に近い。覆土は、切り合いによって擾乱され明らかでない。火床面は緩やかな傾斜をもち、焼土と炭化物によって厚く覆われ、燃焼部から煙道部にかけて熱による赤化した硬化面が顕著である。

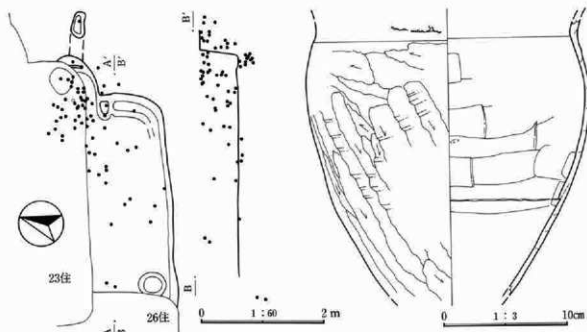
電掘り方は認められず、焚口前に灰掻き穴とおぼしき落ち込みが確認されている。

**遺物の出土状態**（挿図番号118・122）

**遺物分布** 住居址の重複により残存している部分が全体の1/6に過ぎず、遺物は電中心に平面分布して



第117図 4 A I 区・25号住居址出土遺物



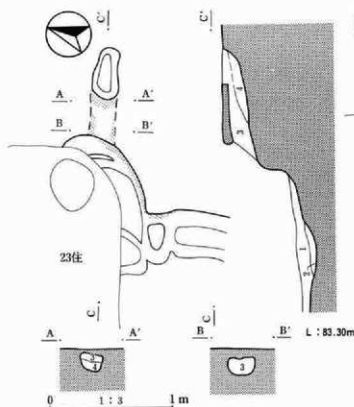
第121図 4AⅠ区・25号住居址出土遺物



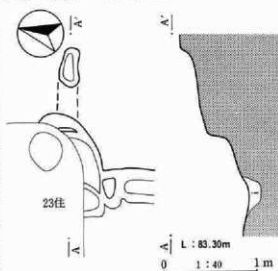
第118図 4AⅠ区・25号住居址

25号住居

1. 灰黄褐色(10YR-5/2) 焼土・にぶい黄色シルトローム少量含む
2. 黄褐色(2.5Y-5/4) 粘性土
3. にぶい黄褐色(10YR-6/4) 砂質土層
4. 暗褐色(10YR-3/3) 粘性土層
5. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 砂質土層



第119図 4AⅠ区・25号住居址竈



掘り方主層

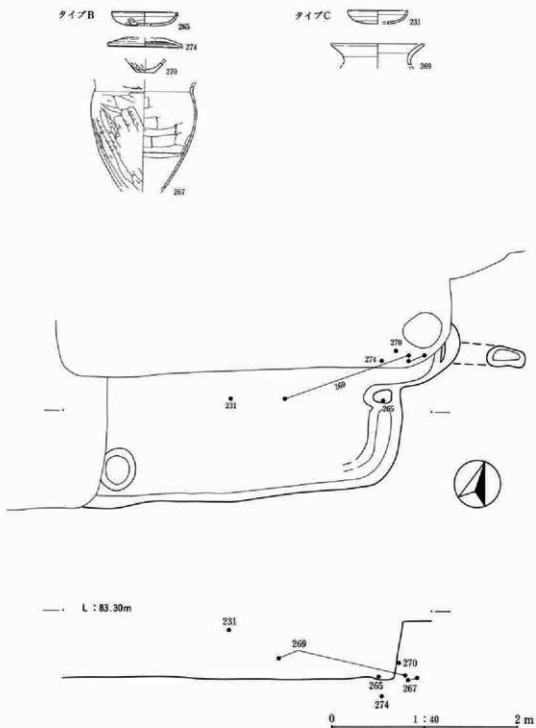
- i. 灰黄色(10YR-5/2) 砂質土、焼土・炭化物10%含む

第120図 4AⅠ区・25号住居址竈掘り方

25号住居竈

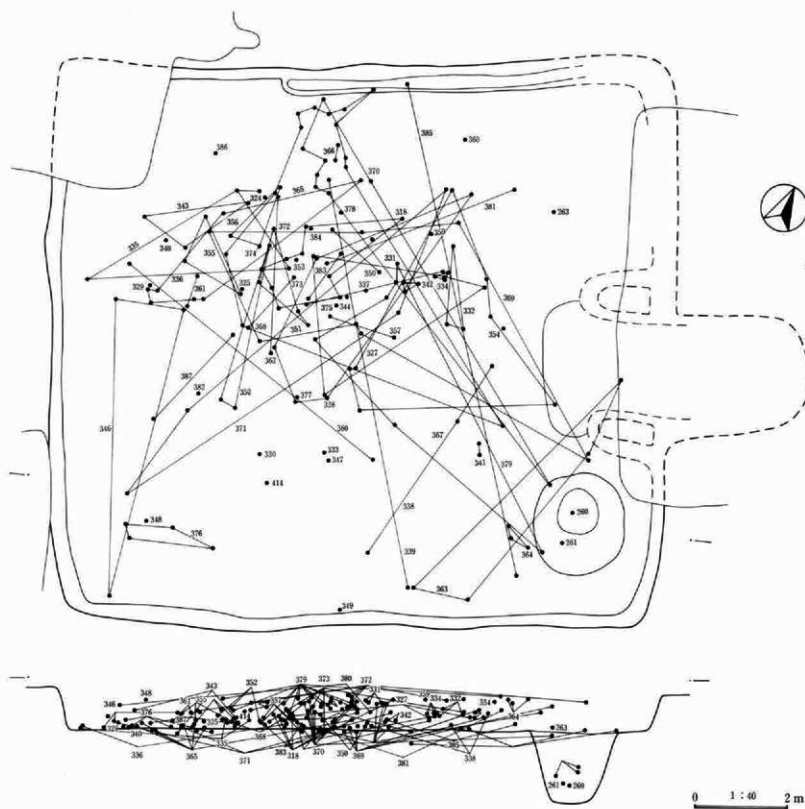
1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、焼土・炭化物30%含む
2. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土、焼土・灰10%含む
3. にぶい黄褐色(10YR-5/3) シルトローム
4. にぶい赤褐色(2.5YR-5/4) シルトローム、焼土含む

# IV 遺構と遺物



第122図 4 A I 区・25号住居址遺物接合分布図一土師器・須恵器





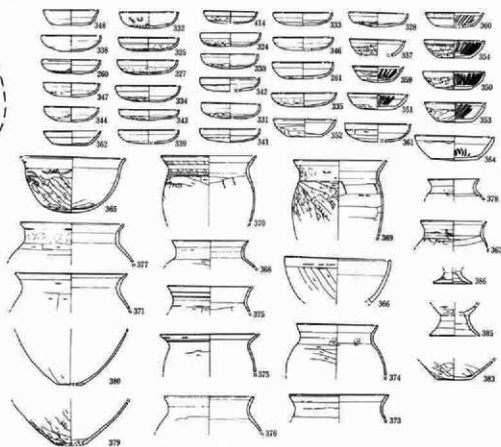
タイプA



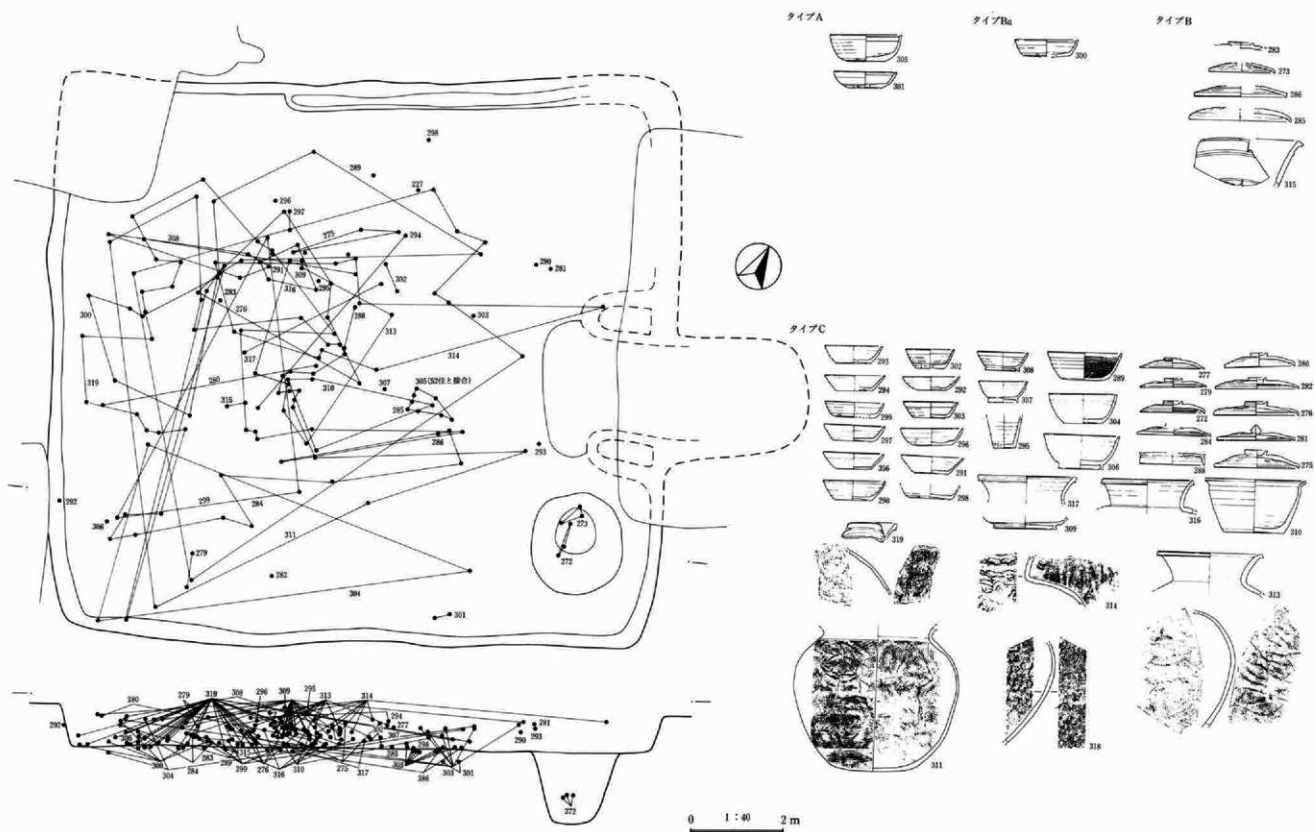
タイプB



タイプC







第124図 4 A 1 区・26号住居址遺物接合分布図一須恵郡



いる。遺物は層位的には各層に散在し、第1層と竈内に若干多く分布している。掲載遺物のタイプは、タイプAが土師器環265、須恵器環蓋274で、タイプBaが土師器環267で、タイプBが土師器環270で、残りはタイプCである。

#### 出土遺物 (拝図番号117 写真番号 PL59)

図示した遺物は、土師器環3、土師器環3、須恵器環蓋1の7個体である。

図示遺物

土師器環269は長胴甕で厚手の口縁をもち、267はコの字口縁に移行する直前の、頸部の立った甕のタイプに属すると推測される。土師器環は、丸底の底部から湾曲する体部に至り、若干内湾気味の口縁を有する231,265と、口縁がそのまま開く263がある。

土師器

須恵器環蓋274は、平らな頂部から緩やかに端部に至り返りをもたない。

須恵器

#### 所 見

切り合っている23, 24, 25, 26号住の中では、該25号住が一番古い様相を示し、25号住→26号住→24号住→23号住の順に新しい様相が認められる。

#### 4 A I 区・26号住居址

##### 遺 構 (拝図番号125・126 写真番号 PL14)

本住居址は4 A I 区中央の住居址密集地のほぼ中心に位置し、H12・96, H13・06, 07グリッドに属している。該住居址の存在する相対的位置は、ちょうど掘立柱建物群の圍繞する小広場のほぼ中央に位置している。確認面の標高は83.15mを測り、東壁で23, 24, 25号住と西北隅で52号住と南西隅では29, 30号住と切り合っている。

絶対的位置

相対的位置

確認面

規模は東西6.20m・南北5.70mを測り、面積は35.34㎡で4 A I 区最大の住居址である。平面形態は縦長長方形を呈し、整美な形状が推測できる。主軸方位はN-67°-Eを示す。

規模・形態

主軸方位

壁はシャープな稜線を見せるが、壁高は45cmと住居址の規模からすると幾分浅い。覆土は4層に分かれ、切り合いの見られる部分の土層には若干の乱れが窺える。

壁

覆土

床面は平坦で貼床が施され、同心円上の4個の柱穴と南東隅には貯蔵穴が穿たれ、北壁下には周溝の兆候が僅かに残っている。掘り方は床面全体が掘り込まれており、柱穴痕と見られる2個の土坑がアクセントをつけている。

床

掘り方

##### 竈 (拝図番号128)

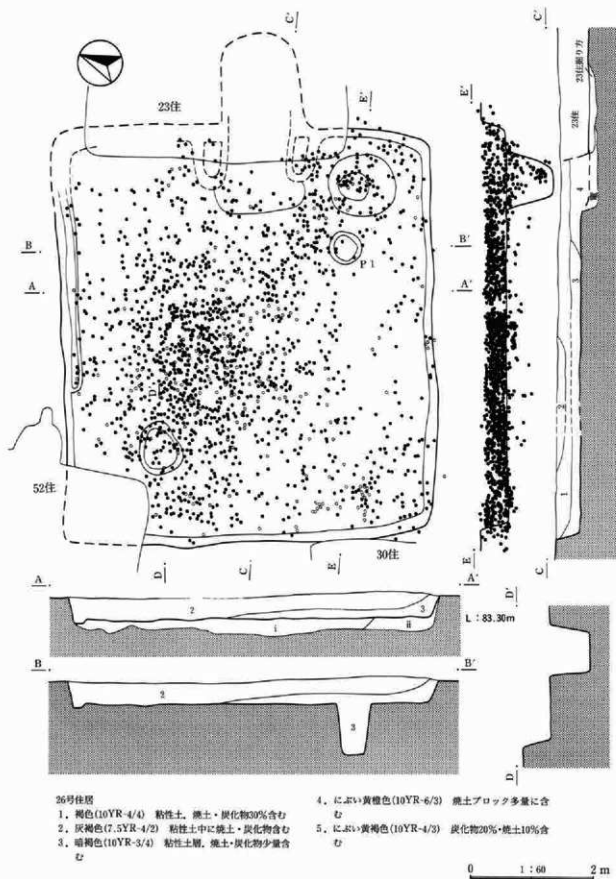
該竈は23号住との切り合いで大部分が失われており、その全容は不明だが、東壁中央に痕跡が確認された。

##### 遺物の出土状態 (拝図番号123・124・125)

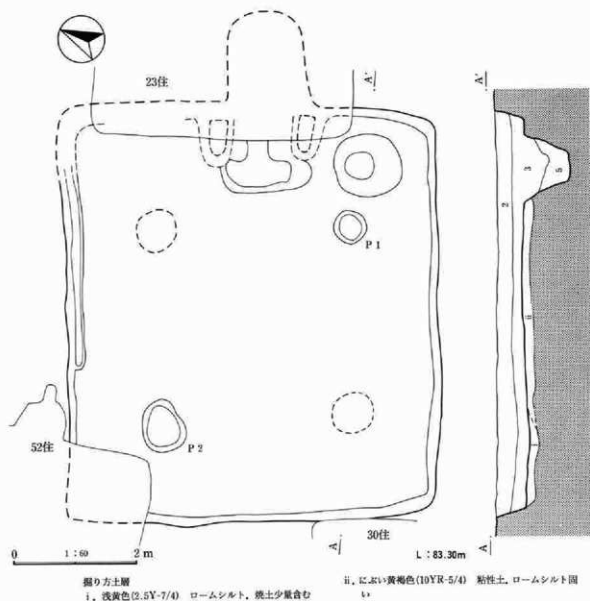
遺物は住居址全体を覆うように分布し、特に中心から西北に僅かに寄った部分に濃い集を示している。層位的には各層に濃密度の濃い分布が認められ、莫大な量の遺物が継続的に廃棄された様相が窺える。須恵器の遺物接合分布は、土師器と比べて電から遠い西半分に認められ、かつ接合線が長く広範囲に引かれる傾向がある。須恵器碗305は52号住との住居址間接合が確認されている。また土師器環260, 261と須恵器環蓋272, 273は貯蔵穴から出土している。器種別では土師器甕と須恵器大甕の破片が広範囲に分布している。遺物のタイプはタイプAが土師器環260, 261, 326, 329, 340, 須恵器環301, 須恵器碗305, 須恵器環蓋272で、タイプBaが須恵器環300で、残りはタイプBとタイプCに分類される。

遺物分布

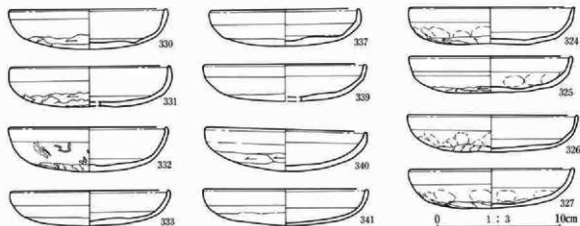
タイプ



第125図 4 A | 区・26号住居址

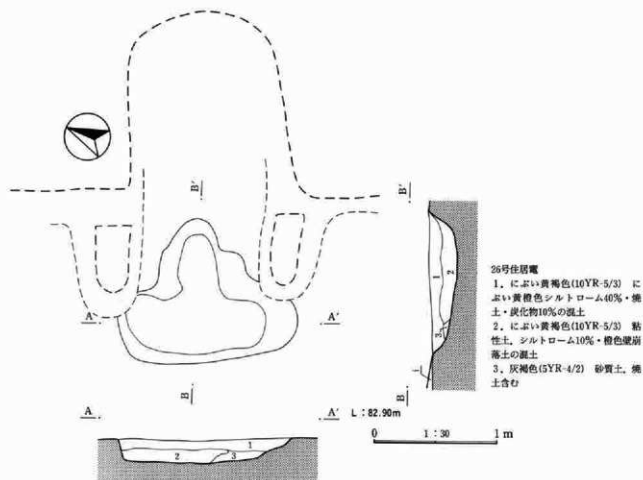


第126図 4AⅠ区・26号住居址掘り方

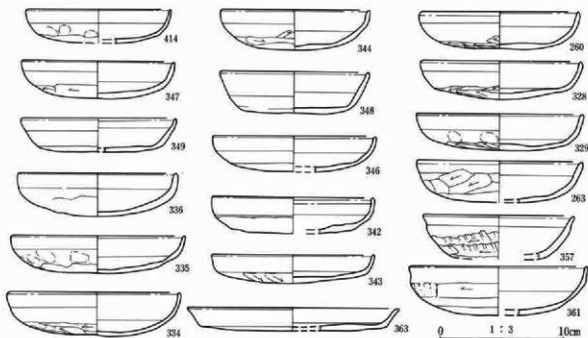


第127図 4AⅠ区・26号住居址出土遺物

# IV 遺構と遺物

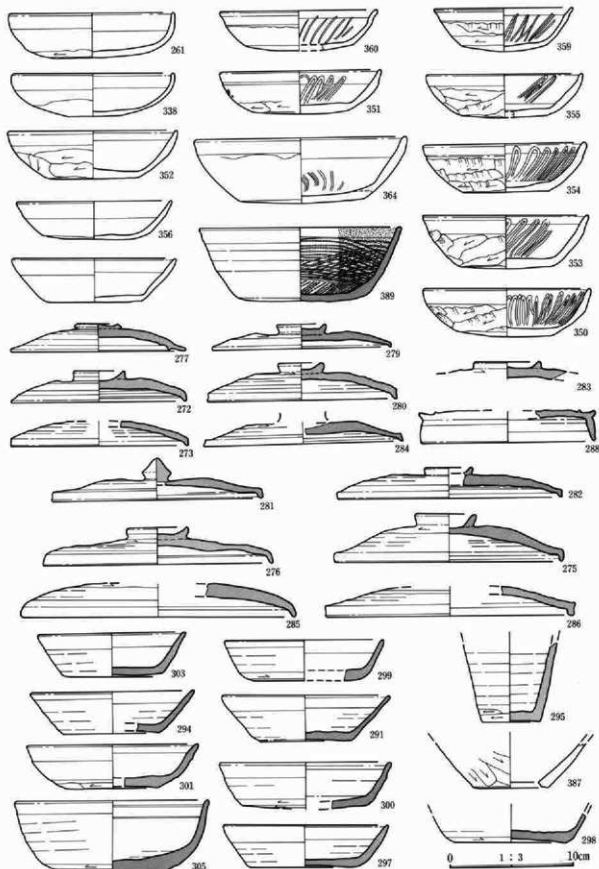


第128図 4 A I 区・26号住居址遺構



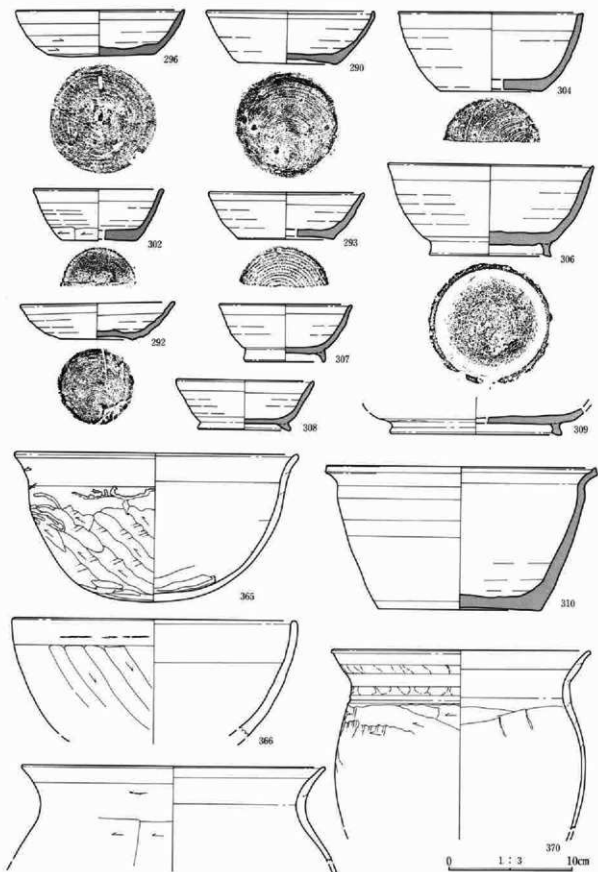
第129図 4 A I 区・26号住居址出土遺物



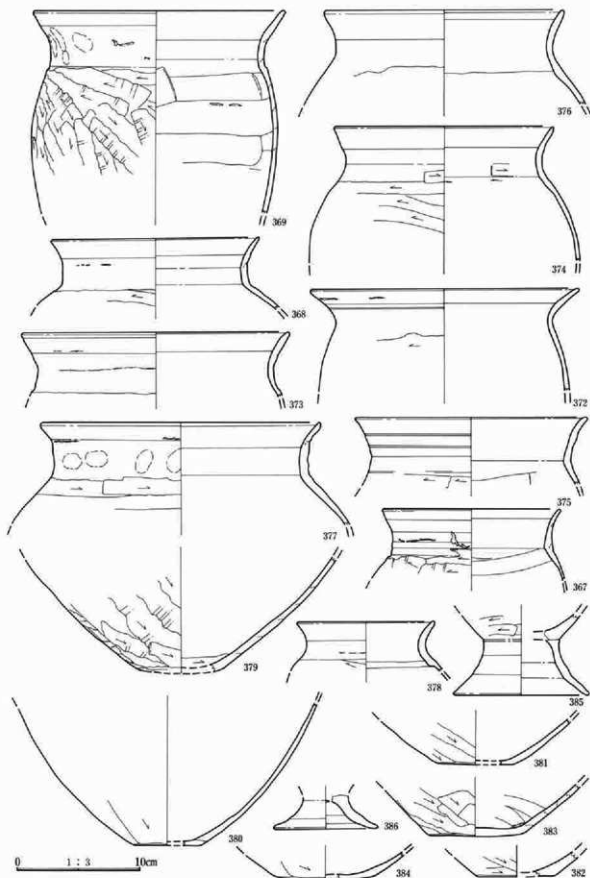


第130図 4AⅠ区・26号住居址出土遺物

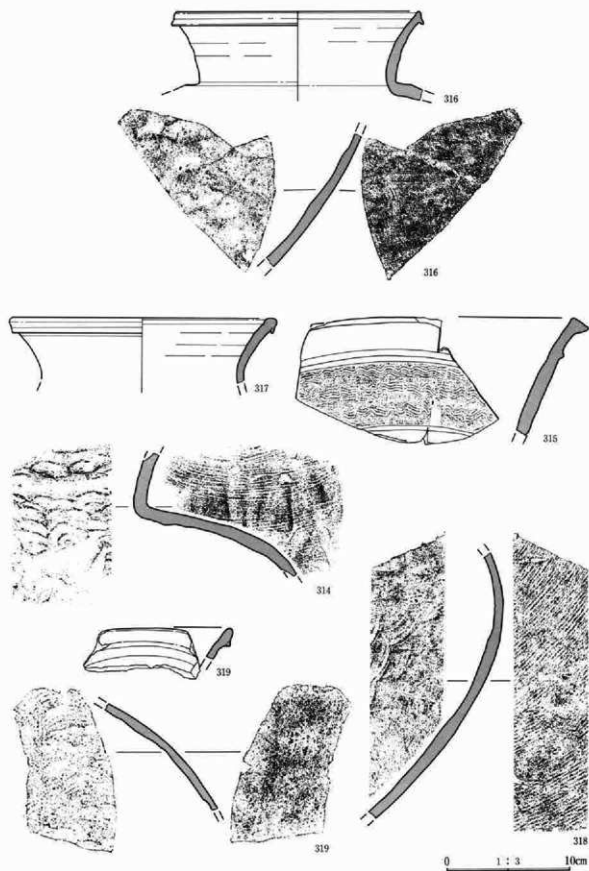
IV 遺構と遺物



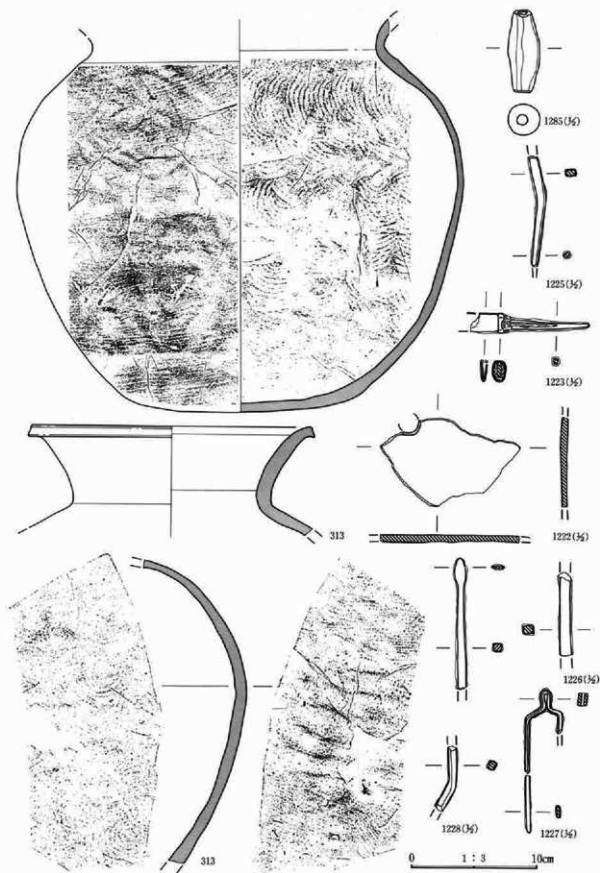
第131図 4 A I 区・26号住居址出土遺物



第132図 4AⅠ区・26号住居址出土遺物



第133図 4 A I 区・26号住居址出土遺物



第134图 4AⅠ区・26号住居址出土遺物

#### IV 遺構と遺物

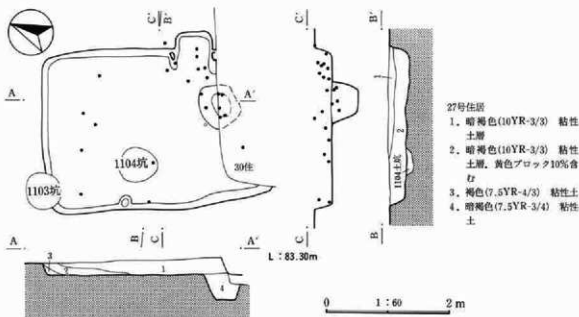
##### 出土遺物 (拝図番号 129～134 写真番号 PL59～62)

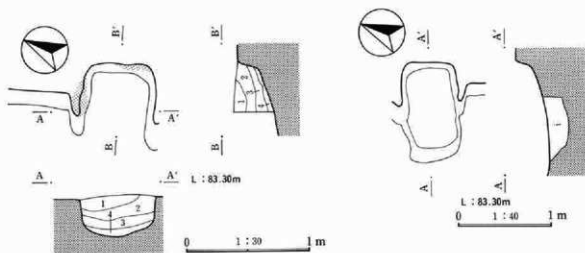
**図示遺物** 図示した遺物は、土師器甕17、土師器小甕2、土師器台付甕2、土師器甕破片1、土師器環40、土師器碗2、土師器皿1、土師器鉢2、須恵器大甕5、須恵器甕破片6、須恵器鉢1、須恵器環13、須恵器碗2、須恵器高台付甕4、コップ形須恵器1、鉄製品7、土鍾1の51個体である。

**土師器** 土師器甕は最大径を口縁部にもつタイプ(369, 370, 372)と頸部の立ちはじめたコの字口縁甕の初期的形態(373, 374, 375)と、頸部の器内の厚くなったコの字口縁甕(377)と、球形胴甕(368, 371, 376)に分類され、型式的にも混在する様相をみせる。土師器環は丸底と平底で、丸底環は全般的に器高が浅く器内の薄いタイプが主流で、口縁部が内湾するものと、直立気味に立つものと、湾曲した体部がそのまま開くものに分類される。平底環は、器内が厚く丸みのある体部に横覧削り調整が施され、内面に寛磨きされているものが主体で、他に器内が薄く体部が直線的に開くもの(348, 349, 356, 362)もある。土師器碗289は内面黒色処理土器で、黒色処理の上に細かく寛磨きがなされている。土師器鉢は大型で、口縁部が外反するヘルメット型の365と丸みのある体部がそのまま開く366がある。

**須恵器** 須恵器環は、体部が直線的に開くものと僅かに内湾するものに分かれるが、新旧タイプが錯綜している。292は轆目が顯著で器内が薄く後出のタイプである。須恵器高台付甕は大(306, 309)と小(307, 308)に分かれ、大形の高台断面形は長方形で、小形のそれは高台の内側をとった形状をしている。須恵器環蓋は鈕が宝珠鈕とボタン状鈕とリング状鈕があり、端部の形状は返りのあるものと端部が垂直に折れるものと緩やかに屈曲するものに分かれる。

**鉄製品** 鉄製品の内訳は、鍬(1224)、刀子(1223)、釘(1225, 1226, 1227, 1228)、用途不明品(1222)である。





27号住居竈

1. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土、礫少量含む
2. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、焼土少量含む
3. に近い赤褐色(5YR-5/4) 粘性土、棕色壁崩落土30%含む
4. 褐灰色(5YR-4/1) 粘性土、壁崩落土、灰層20%含む

掘り方土層

1. 灰褐色(5YR-4/2) シルトローム・焼土少量含む

第136図 4AⅠ区・27号住居竈

第137図 4AⅠ区・27号住居竈掘り方

## 所見

該住居址の出土遺物は膨大な量に上り、周辺の集落の最盛期に住居廃棄されたものと思われる。

### 4AⅠ区・27号住居址

#### 遺構 (挿図番号135 写真番号 PL14)

本住居址は、4AⅠ区中央部住居址密集地の西端の一角に位置し、H13・05,06グリッドに属している。該住居址は、周囲の掘立柱建物跡群の中心と目される総柱の06号掘立と隣接している。確認面の標高は83.20mを測り、南壁を30号住と切り合い、西壁付近では前述の06号掘立と重複している。

規模は東西2.35mが測れるのみで、面積は不明だが、平面形態は残存している部分から横長長方形が推測される。主軸方位はN-68°-Eを示す。

壁高は30cm弱と浅いが、壁はしっかりとした稜線を際立たせている。覆土は4層に分かれ、北壁側からの崩落土と見られる三角堆積土が顕著である。

床面は地床面で若干の凹凸が窺え、南東隅には貯蔵穴が穿たれている。

#### 竈 (挿図番号136・137 写真番号 PL14)

燃焼部の平面形態は隅丸の矩形を呈し、東壁南寄りの住居外に全体の1/2を突き出し、短い袖を有している。煙道部はすでに失われ、燃焼部と煙道部の境界は90°に近い立ち上がりを示している。覆土はシルト質ローム土と焼土と灰層とが互層を成し、電崩落状況を示している。袖は地山の掘り残し土である。火床面は緩やかな傾斜をもち、焼土と灰層とが厚く堆積している。また燃焼部左側壁と煙道口付近が、赤く硬化している。

#### IV 遺構と遺物

電掘り方は、焚口前面から燃焼部中央にかけて、深く穿たれている。

##### 遺物の出土状態 (挿図番号 135)

**遺物分布** 遺物は竈と貯蔵穴付近に小破片が分布し、その他僅かに北壁に沿って散在する。層位的には第2層に含まれている。

##### 出土遺物

小破片のみで、図示しうる遺物はない。

##### 所 見

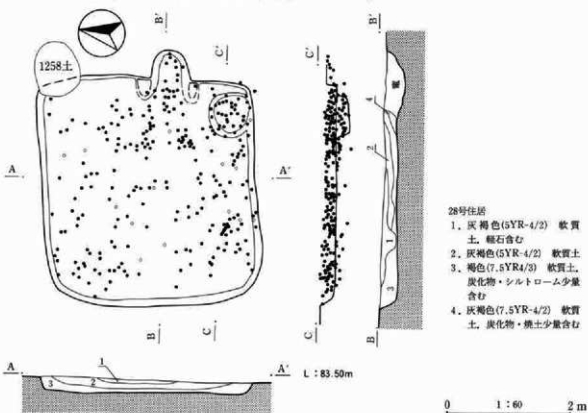
僅かな遺物の出土状態を見ると、該住居廃棄後完全埋没まで周辺には住居は営まれなかったものと思われる。

#### 4 A I 区・28号住居址

**遺 構** (挿図番号 138・139 写真番号 PL15)

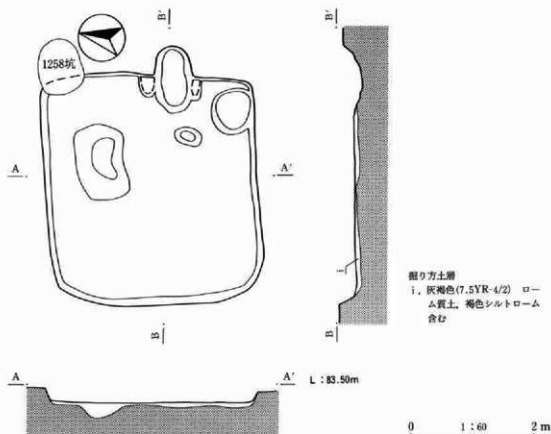
**絶対的位置** 本住居址は4 A I 区の東南部の調査区外との境界線付近に位置し、113・00グリッドに属する。  
**相対的位置** 該住居址の北3 mには11号住が、西4 mには11掘立が存在している。確認面の標高は83.35 mを測る。

**規模・形態** 規模は東西3.40 m・南北3.20 mを測り、面積は10.88 m<sup>2</sup>である。平面形態は縦長長方形で、  
**主軸方位** 北西・南西コーナーは隅丸を呈している。主軸方位はN-76°-Eを示す。  
**壁・覆土** 壁高は25 cmと浅く、壁の立ち上がりは甘い。覆土は4層に分けられ、西壁付近に後世の擾乱の跡が見られるが、概ね自然な埋没状態を示している。

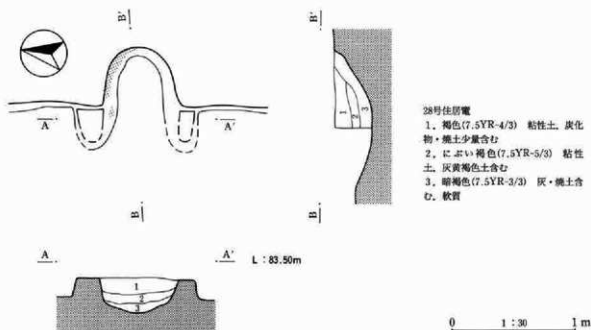


第138図 4 A I 区・28号住居址



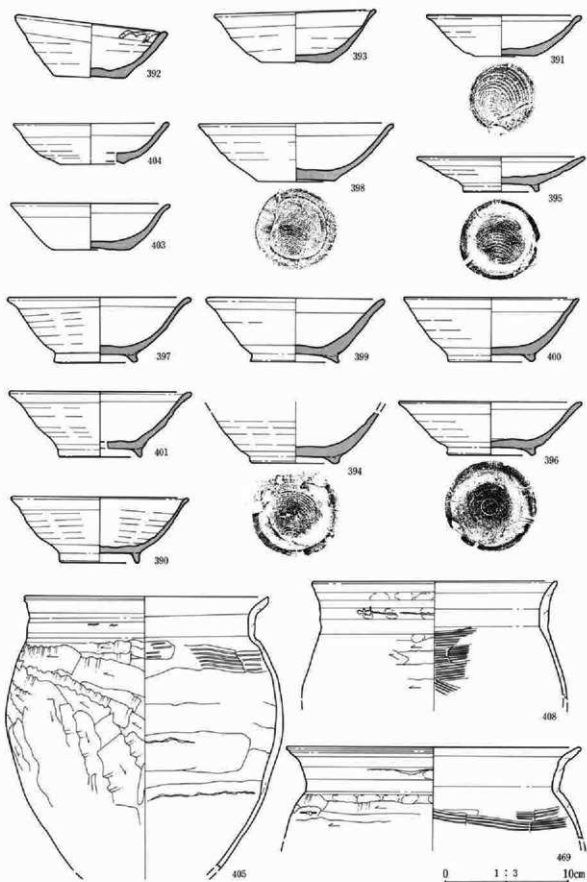


第139図 4 A I 区・28号住居址掘り方

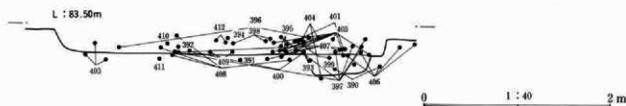
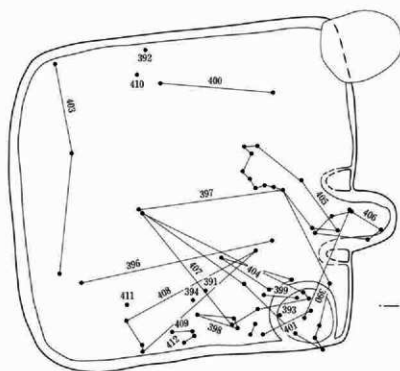
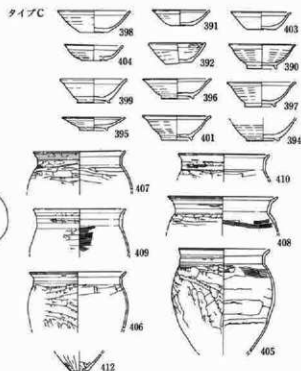


第140図 4 A I 区・28号住居址電

IV 遺構と遺物

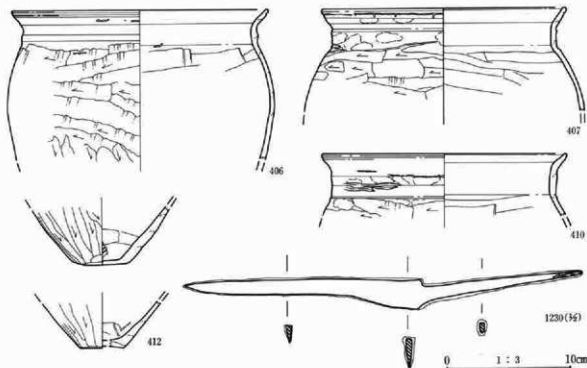


第141図 4 A | 区・28号住居址出土遺物



第142図 4 A I 区・28号住居址遺物接合分布図—土師器・須恵器





第143図 4AⅠ区・28号住居址出土遺物

床面には貼床が施され、南東隅には貯蔵穴が穿たれている。掘り方は全体を掘り下げた後に 床・掘り方  
北壁付近と電前に大小の土坑を穿っている。

竈 (挿図番号140 写真番号PL15)

燃烧部の平面形態は釣り鐘状で、東壁南寄りの住居外に設置され、短い袖を有したものと見 燃烧部  
られる。煙道は削平されてなく、燃烧部から煙道部への移行は弧状に湾曲して立ち上がる。覆 煙道部  
土は竈天井部の崩落土と思われる粘質土層が、焼土・灰層の上に重なっている。火床面は僅か  
に湾曲し、厚い焼土・灰層に煙道口付近まで覆われ、燃烧部左側壁が赤く硬化している。 火床面

電掘り方は認められないが、焚口付近には半円状の浅い窪みが確認された。

遺物の出土状態 (挿図番号138・142)

遺物は住居址の北東隅を除きほぼ全面に分布し、特に電前や貯蔵穴付近といった炊事空間に 遺物分布  
多い。層位的には各層にわたって分布が認められる。接合遺物は竈や貯蔵穴を中心にして広が  
り、土師器甕405、406は竈内からの動きが窺われる。遺物のタイプはタイプAが須恵器坏393で、タイプ  
タイプBaが土師器甕406で、タイプBが土師器甕407、411、須恵器坏403で、残りはタイプCで  
ある。

出土遺物 (挿図番号143 写真番号PL62)

図示した遺物は、土師器甕8、須恵器坏5、須恵器高台付碗7、須恵器高台付皿1、刀子 図示遺物  
1の22個体である。

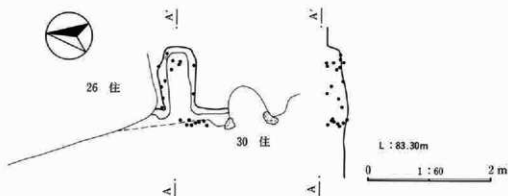
土師器甕はコの字口縁甕(405、407)が主体で、器内が厚くなり頸部と口縁部の境が不明瞭なも 土師器  
の(408)と、胴部と頸部の境が不明瞭なもの(406、410)と、頸部も胴部も境がほとんど沈線とな

#### IV 遺構と遺物

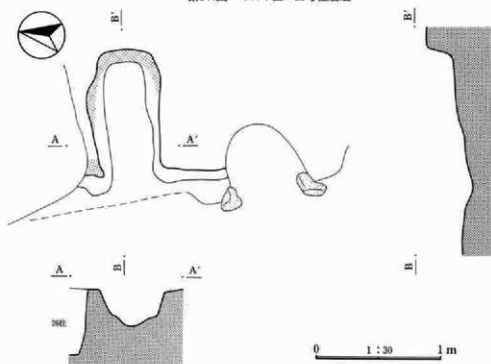
リ口縁部が立つ(469)ものに分かれる。

須恵器

須恵器環は丸みを帯びた体部が口縁部で外反するタイプが主で、ひとり392のみが直線的な体部を呈している。須恵器高台付碗は須恵器環に高台を付したスタイルで、口縁部が外反するものと外反しないもの(400)に分かれる。また高台は断面形が台形のヴァリエーションである。須恵器高台付皿は体部の直線的なBタイプである。



第144図 4 A I 区・29号住居址



第145図 4 A I 区・29号住居址竈



第146図 4 A I 区・29号住居址出土遺物

刀子はほとんど完形で、刃部が頻繁な使用で摩耗している。

刀子

## 所 見

掲載遺物は土師器甕と須恵器杯と須恵器高台付碗のみで、この時期のひとつの土器アセンブリッジをしめすものと考えられる。

### 4 A I 区・29号住居址

#### 遺 構 (挿図番号144)

本住居址は4 A I 区中央の住居址密集地の西端に位置し、H13・06グリッドに属する。該住居址の周囲には26号住を中心とする竪穴住居址群が東に、掘立柱建物跡群が西に存在している。確認面の標高は83.20mを測り、住居址の大部分を30号住と切り合い、東壁の一部を26号住と西壁の一部を27号住と切り合っているために、現存するのは竪穴部分のみである。

それゆえに、規模・面積・平面形態は不明で、かろうじて竪穴から推測できる主軸方位はN-81°-Eを示す。

#### 竪 穴 (挿図番号145)

竪穴は、燃焼部の平面形態が隅丸の長方形を呈しており、住居外に設置されている。また、燃焼部燃焼部側壁から煙道口周辺にかけて、赤く硬化が認められる。そして、燃焼部から煙道部への移行部は急角度に立ち上がる。

#### 遺物の出土状態 (挿図番号144)

切り合いにより竪穴付近しか残存しないこの住居址にあって、当然遺物は竪穴内とその前面に分布する。層位的には土層全体に散在して分布する。掲載遺物のタイプは、タイプAが須恵器杯タイプ416で、土師器甕421はタイプCである。

#### 出土遺物 (挿図番号146 写真番号PL63)

図示した遺物は、土師器甕1、須恵器杯1の2個体に過ぎない。

土師器甕は、コの字口縁部と思われるが確かでない。

須恵器杯は、糸切り底で口縁部が若干外反する。

## 所 見

竪穴形態は、壁外に燃焼部が築かれ、細長い長方形の特異な形のものである。

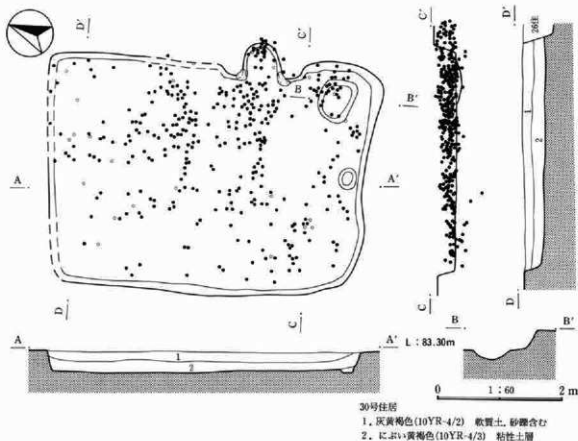
### 4 A I 区・30号住居址

#### 遺 構 (挿図番号147・148 写真番号PL15)

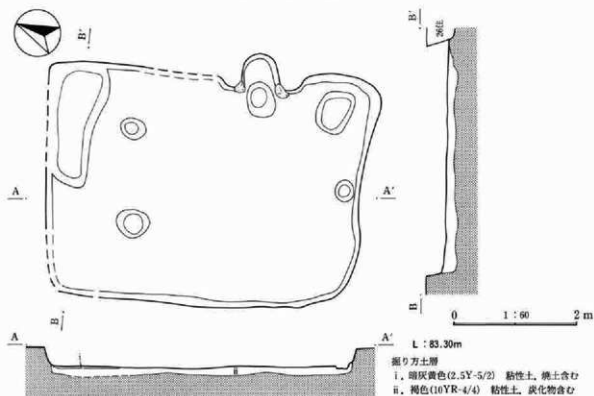
本住居址は29号住同様4 A I 区中央の住居址密集地の西端に位置し、H13・05,06,16グリッドに属している。周辺には東に26号住を中心とした切り合いの激しい竪穴住居址群と、西に掘立柱建物跡群が近接して存在する。確認面の標高は83.25mを測り、東壁から北壁にかけて29,26,27号住との切り合いが見られる。

規模は東西3.30m・南北4.80mを測り、面積は15.84㎡である。平面形態は横長長方形を呈し、主軸方位はN-71°-Eを示す。

壁高は30cmを測り、壁は明瞭に立ち上がっている。覆土は2層に分かれ、レンズ状の自然な堆積である。



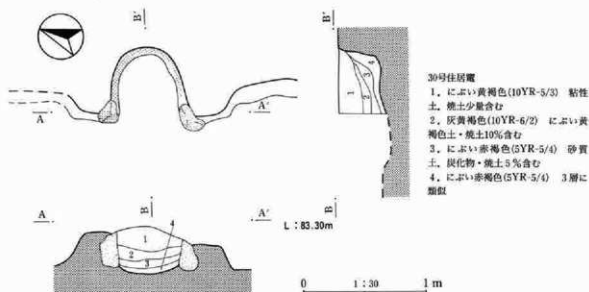
第147図 4 A I 区・30号住居址



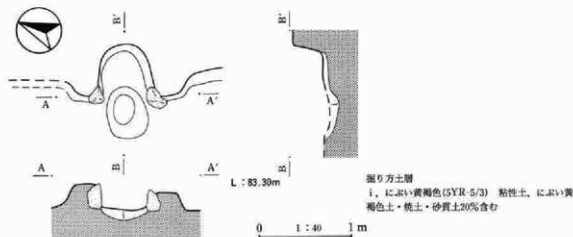
第148図 4 A I 区・30号住居址掘り方



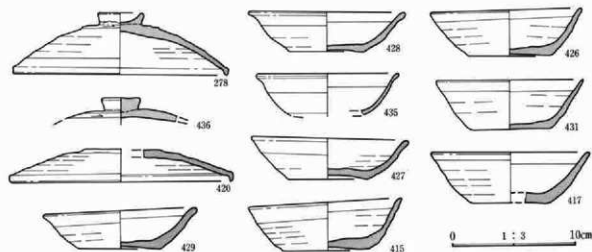
1 篠塚狐穴(4 A I 区)・篠塚四反歩(4 A II 区)地区



第149図 4 A I 区・30号住居址竈

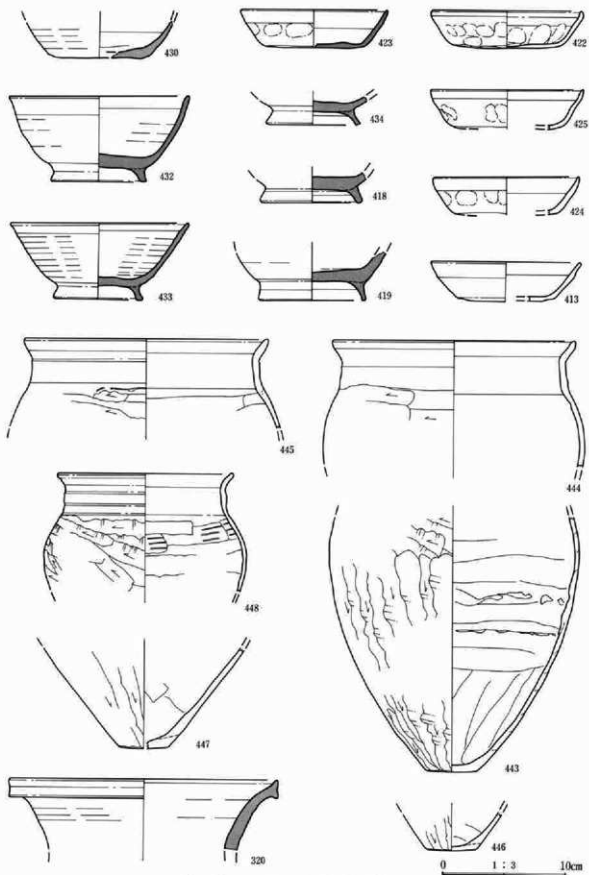


第150図 4 A I 区・30号住居址竈掘り方



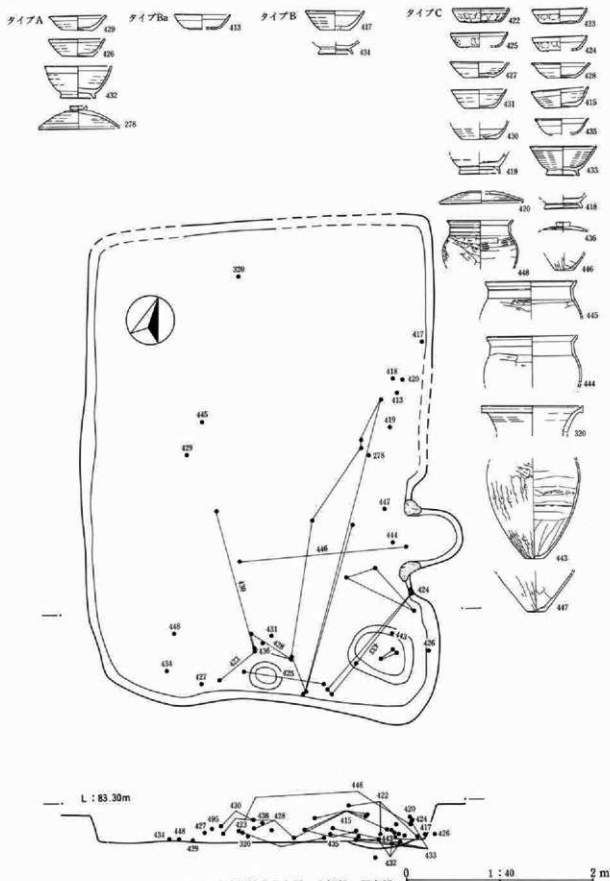
第151図 4 A I 区・30号住居址出土遺物

IV 遺構と遺物



第152図 4 A I 区・30号住居址出土遺物

1 篠塚竈穴(4AⅠ区)・篠塚四反歩(4AⅡ区)地区



第153図 4AⅠ区・30号住居址遺物接合分布図—土師器・須恵器

#### IV 遺構と遺物

**床** 床面は平坦で貼土が施され、南東隅には貯蔵穴が穿たれ、南壁した中央部小穴は入り口施設に伴うものと推測される。掘り方は床面全体が掘り込まれ、特に北東隅が不整形形状に掘り下げられている。また掘り方に現れた北壁に平行する2個の柱穴状土坑は、板床の根太を支える柱穴とも推量される。

**電** (挿図番号149・150 写真番号PL15)

**燃焼部** 燃焼部の平面形態は釣り鐘状を呈し、東壁南寄りの住居外に設けられ、袖を有している。煙道部は失われており、燃焼部から煙道部への移行は垂直に近い立ち上がりを示す。覆土は焼土量により分けられる。袖は凝灰質砂岩で築かれ、袖石の焚口面は赤く焼けている。火床面は緩やかに凹凸を繰り返す、焼土層が厚く堆積している。電燃焼部の側壁は熱を受けて赤く硬化している。

電掘り方は、焚口付近に楕円状の灰掻き穴が穿たれている。袖石基部との関係から第5層は掘り方の貼土の可能性がある。

**遺物の出土状態** (挿図番号147・153)

**遺物分布** 遺物は住居中央電寄りに分布の中心があり、壁際は散漫である。層位的には第1層の西側部分を除いて、上下層に密度濃い分布を示し、電内にも数多い遺物が分布する。遺物接合分布図を見ると、接合線は電を中心とした住居のほぼ1/4の範囲に収まり、完形に近い遺物の割合が比較的多い。層位的にも接合遺物はまとまったレベルで分布している。遺物のタイプは、タイプAが須恵器環426、429で、タイプBaが土師器環413で、タイプBが須恵器環417、須恵器高台付碗434で、残りはタイプCである。土師器甕443はタイプBaとして良いかも知れない。

**出土遺物** (挿図番号151・152 写真番号PL15)

**図示遺物** 図示した遺物は、土師器甕4、土師器小甕2、土師器環5、須恵器甕1、須恵器環9、須恵器高台付碗5、須恵器環蓋3の29個体である。

**土師器** 土師器甕は若干厚くなった口縁部と頸部を有し、頸部と胴部の境もきって明瞭には感じられず、コの字口縁部の形跡は土師器小甕448に残存している。土師器環は平底で器肉が薄く、体部が指頭圧痕により屈曲している。

**須恵器** 須恵器環は口縁部がつまみ出されて外反するもの(427, 428, 429)と、直線的に開くもの(415, 417, 426, 431)の2タイプがある。直線的に開くタイプは体部の傾斜が強い傾向にある。須恵器高台付碗は432, 433ともに外反しないタイプだが、スタイルは大幅違いがある。高台はいずれも高く、崩れがみられない。須恵器環蓋は、ボタン状軀と高い天井を有し急激に端部に至る278と、平らな頂部から緩やかに端部に至る420があり、どちらも返りをとまない。

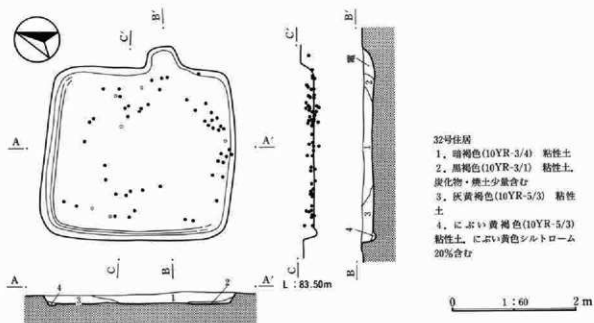
#### 所 見

北壁に平行する2個の柱穴状土坑が板床の根太であるとするれば、床直遺物や接合遺物が北壁周辺に分布しない理由となり、板床の存在の傍証ともなりうる。

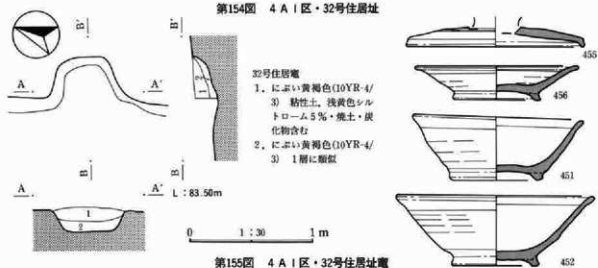
#### 4 A I 区・32号住居址

**遺 構** (挿図番号154 写真番号PL16)

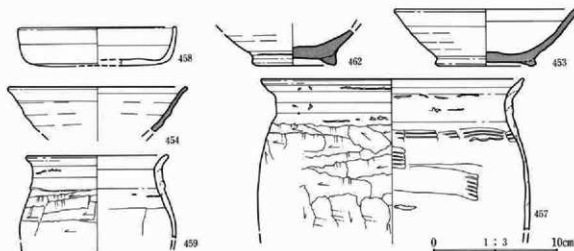
**絶対的位置** 本住居址は4 A I 区の中央部住居址密集地から若干西南に離れて位置し、H13・36, 46グリッドに属している。3 m北には櫛列が東西に走り、その北側に竪穴住居址と掘立柱建物跡の密集



第154図 4AⅠ区・32号住居址



第155図 4AⅠ区・32号住居址



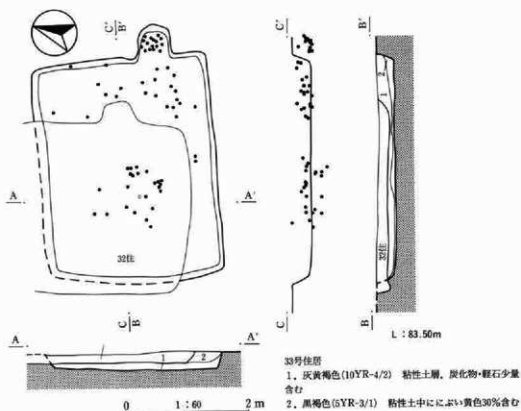
第156図 4AⅠ区・32号住居址出土遺物

#### IV 遺構と遺物

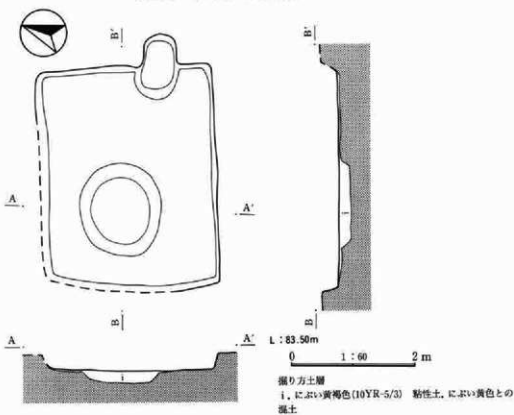
	<p>地が存在し、該住居址は32号住とその大部分を切り合っている。</p>
規模・形態	<p>規模は東西2.52m・南北2.86mを測り、面積は7.2㎡である。平面形態は横長長方形で、四隅が隅丸状を呈している。主軸方位はN-80°-Eを示す。</p>
主軸方位	
壁・覆土	<p>掘り込みが浅く壁高は15cmに過ぎないが、稜線は明瞭である。覆土は周溝埋土を含めて4層に分かれ、第1層は後世の擾乱の可能性がある。</p>
床	<p>床面は地床面で若干の凹凸が見られ、北壁から西壁にかけて周溝が確認された。</p>
	<p>竈 (挿図番号155 写真番号 PL16)</p>
燃焼部	<p>燃焼部の平面形態は台形状を呈していたものと考えられ、東壁南寄りの住居外に設置されて、</p>
煙道部	<p>軸は確認できなかった。煙道部は削平されており、燃焼部から煙道部への立ち上がりは急角度が推測される。覆土は焼土混じりの土層が主体で、第3層上面が火床面と思われる。火床面はなだらかな傾斜をもち、煙道口につながっている。</p>
火床面	<p>電掘り方は盆状に窪み、シルト質ローム土が貼土されていた。</p>
	<p>遺物の出土状態 (挿図番号154)</p>
遺物分布	<p>遺物は住居中央を除いて散在し、散漫な分布を示す。層位的には第1層中の遺物は少なく、</p>
タイプ	<p>第2層と第3層に集中している。竈内の分布が見られないのが特徴的である。遺物のタイプは、タイプAが須恵器高台付甕451、453と須恵器高台付皿456で、タイプBaが須恵器高台付甕452で、タイプBが土師器甕457、須恵器高台付甕454で、残りはタイプCである。</p>
	<p>出土遺物 (挿図番号156 写真番号 PL64)</p>
図示遺物	<p>図示した遺物は、土師器甕1、土師器小甕1、土師器環1、須恵器高台付甕5、須恵器高台付皿1、須恵器坏蓋1の10個体である。</p>
土師器	<p>土師器甕は、頸部が厚かつ頸部と胴部の境界が明確でない。土師器小甕も同様の形状をもつ。土師器環は広い平底をもち、90°に近い角度で立つ体部を有する。</p>
須恵器	<p>須恵器高台付甕は、口縁部が外反するものと体部が直線的に開くもの(453)に分かれ、高台の断面形は台形である。須恵器高台付皿は、体部の直線的なBタイプである。須恵器坏蓋は、天井が低く返りをもたない。</p>

#### 4 A I 区・33号住居址

	<p>遺 構 (挿図番号157・158 写真番号 PL16)</p>
絶対的位置	<p>本住居址は4 A I 区の中央部遺構集中地域の南西端に位置し、H13・36、46グリッドに属している。該住居址の北には、柵列が3mの距離をおいて西南から北東方向に走り、竪穴住居址と掘立柱建物跡の遺構密集地は、柵列を隔てたさらに北側に存在している。確認面の標高は83.40mを測り、32号住との切り合いの仕方は平安時代に多く見られるタイプの重複である。</p>
相対的位置	
確認面	
規模・形態	<p>規模は東西3.40m・南北2.66mを測り、面積は9.04㎡である。平面形態は縦長長方形で、かなり整美な形状を示す。主軸方位はN-67°-Eを示す。</p>
主軸方位	
壁	<p>残存している壁は東壁と南壁で壁高は28cm弱と浅く、北壁と西壁の大部分は基部が確認できるのみである。覆土は32号住による擾乱を受けるが、32号住が設けられる以前の埋没状況は自然な堆積を呈していたと思われる。</p>
覆土	
床・掘り方	<p>床面には薄く貼床が施され、掘り方は最大径1.5mの土坑が中央西寄りに穿たれている。</p>

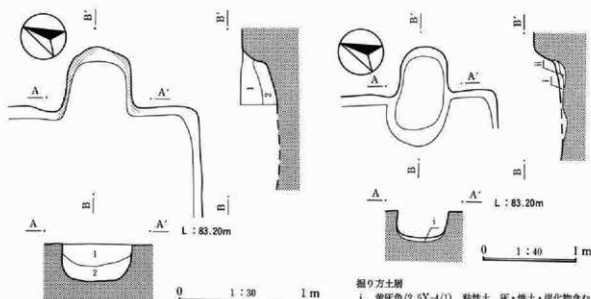


第157図 4AⅠ区・33号住居址



第158図 4AⅠ区・33号住居址掘り方

#### IV 遺構と遺物



33号住居竈

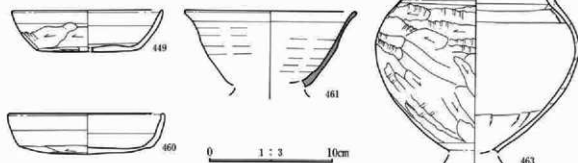
1. 暗灰黄色(2.5Y-5/2) 粘性土、浅黄色シルトローム10%含む
2. 暗灰黄色(2.5Y-5/2) 1層に類似、焼土10%含む

掘り方土層

- i. 黄灰色(2.5Y-4/1) 粘性土、灰・焼土・炭化物含む
- ii. 褐灰色(7.5YR-4/1) 粘性土、灰層・炭化物・焼土含む

第160図 4 A I 区・33号住居址電掘り方

第159図 4 A I 区・33号住居址竈



第161図 4 A I 区・33号住居址出土遺物

竈 (挿図番号 156・160 写真番号 PL16)

**燃焼部** 燃焼部の平面形態は釣り鐘状で、東壁南寄りの住居外に設けられ、袖は確認できなかった。  
**煙道部** 煙道部はその大部分が削平されており、燃焼部から煙道部へは急角度に立ち上がり、煙道口付近でその角度を和らげる。覆土は第4層の焼土の上に、地山の崩落土が被っている状況である。  
**火床面** 火床面にはシルト質ローム土の焼土が厚く堆積し、燃焼部側壁も赤く焼けて、使用頻度の高さが窺える。

電掘り方は隅丸長方形に焚口前面まで掘られ、灰や焼土を含む軟質土が貼土されている。

遺物の出土状態 (挿図番号 157)

**遺物分布** 現状で確認できた遺物の平面分布は、電周辺と住居中央に分かれる。層位的にはそれほど  
**タイプ** の密度を示さないものの、遺物が各層に分布していたものと推測される。遺物のタイプは、タ



イブAが土師器台付甕460、土師器台付甕463で、残りはタイプCである。

#### 出土遺物 (押図番号 165 写真番号 PL64)

図示しえた遺物は、土師器台付甕1、土師器環2、須恵器高台付甕1の4個体である。

図示遺物

土師器台付甕は厚い頸部をもつ。土師器環は平底で器肉が薄く、体部が直線的に開き横範削り調整が施される449と体部が若干内湾してナデ調整される460に分かれる。

土師器

#### 4AⅠ区・34号住居址

##### 遺構 (押図番号 162 写真番号 PL17)

本住居址は4AⅠ区中央部の南端に孤立して位置し、H13・38グリッドに属している。一番近接する住居址は13m北東に48号住があり、7m南に04号溝が東走し、西には長方形の土坑群が存在する。確認面の標高は83.50mを測る。

絶対的位置

相対的位置

確認面

規模は東西2.54m・南北2.46mを測り、面積は6.25㎡のミニ住居である。平面形態は正方形にごく近い縦長長方形で、北東隅が若干隅丸状を呈している。主軸方位はN-75°-Eを示す。

規模・形態

主軸方位

壁高は12cm強と浅いが、壁はしっかりした立ち上がりを見せている。覆土は1層であっさりしている。

壁・覆土

床面には貼床が施され、掘り方は中央部を掘り残した口の字状を呈している。

床・掘り方

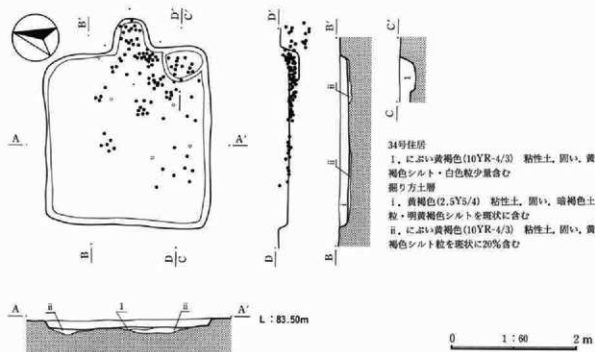
##### 竈 (押図番号 163・164 写真番号 PL17)

燃焼部の平面形態は釣り鐘状を呈し、東壁中央の住居外に設置され、袖は未確認である。確認面が低いため煙道は削平されており、燃焼部から煙道部への立ち上がりも確かでない。覆土は住居址埋没土の第1層と天井崩落土の第2, 3, 4層である。火床面は比較的平坦で、煙道口直前で急角度に立ち上がる。

燃焼部

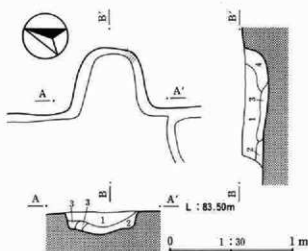
煙道部

火床面



第162図 4AⅠ区・34号住居址

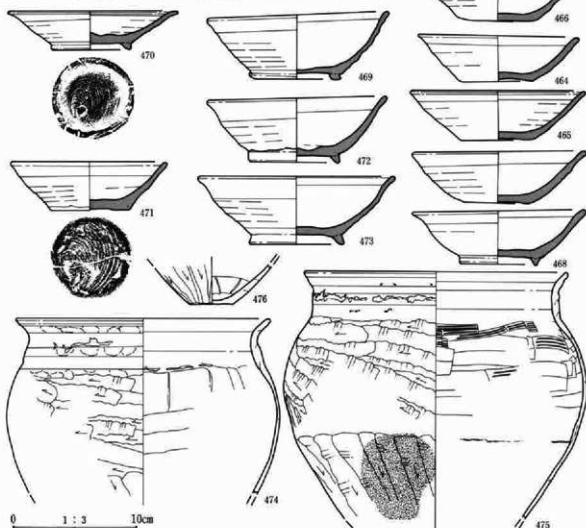
# IV 遺構と遺物



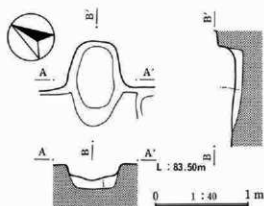
34号住居竈

1. にぶい黄褐色(10YR-4/3) 粘性土、黄褐色砂質シルト粒少量含む、固い
2. 黄褐色(2.5Y-5/6) 砂質シルト、固い
3. 暗褐色(10YR-3/4) 粘性土、焼土粒・炭化物粒少量含む
4. 褐色(7.5YR-4/4) 砂質土、焼土粒・黄褐色砂質シルト少量含む

第163図 4 A I 区・34号住居址竈



第165図 4 A I 区・34号住居址出土遺物



掘り方土層

- i. 褐色(7.5YR-4/3) 砂質土、焼土粒・炭化物粒・黄褐色砂質シルト少量含む

第164図 4 A I 区・34号住居址竈掘り方

電掘り方は楕円形に掘られ、灰まじりの砂質土が厚く貼土されている。

#### 遺物の出土状態 (挿図番号162)

遺物は北壁から西壁にかけてL字形に空白部があり、竈周辺に分布の中心がある。層位的には床直遺物が多く、掘り方内に混入する遺物も多い。掲載遺物のタイプは、タイプAが須恵器タイプ  
 環464, 465, 466, 467, 471, 須恵器高台付椀469, 472, 須恵器高台付皿470で、タイプBaが土師器壺474, 475で、タイプBが476で、残りはタイプCである。

#### 出土遺物 (挿図番号165 写真番号PL64)

図示しえた遺物は、土師器壺3, 須恵器環5, 須恵器高台付椀4, 須恵器高台付皿1の13個  
 体である。

土師器壺は頸部が厚く、頸部と胴部の境がぼやけてきた時期の475とさらに頸部と胴部の境の  
 不明瞭となった474がある。

須恵器環は体部が直線的に開くものが主体で、若干口縁部が外反するもの(466)も1点みられる。須恵器高台付椀は、丸みをもつ体部が口縁部で外反するタイプで、高台の断面形は崩れた  
 台形である。須恵器高台付皿は口縁の外反するタイプで、高台の断面形は三角形である。

### 4A I区・35号住居址

#### 遺 構 (挿図番号166・167 写真番号PL18)

本住居址は4A I区中央の住居址密集地の南端に位置し、H13・06, 07, 16, 17グリッドに属する。周囲の遺構は、北に26号住を中心とした竪穴住居址群が控え、東から南を巡って西にかけては掘立柱建物跡と櫓列が該住居址を囲繞している。確認面の標高は83.30mを測る。

規模は東西4.10m・南北4.52mを測り、面積は18.53㎡である。平面形態は横長長方形を呈するが、南壁が全体的に若干弧を描くように張っているのが特徴的である。主軸方位はN-67°  
 Eを示す。

壁高は北壁が40cmと浅いが、他壁は60cm平均で深く掘り込まれている。壁の立ち上がりは南壁を除いて90°に近く、稜線はシャープである。覆土は5層に分けられ錯綜している。その理由は住居址廃絶後しばらくたった時期に、北西方向からの強い圧力により、強引に砂礫層(第2層)が堆積土を押し退けて該住居址内に流入したと推測される。(あるいは人為的結果か)

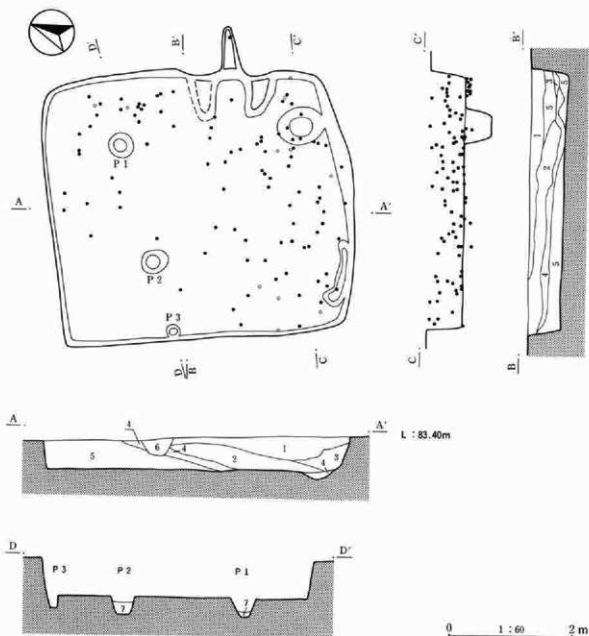
床面は平坦で貼床が施され、東南隅には貯蔵穴が設けられ、北壁に平行するように柱穴が3個穿たれている。P1とP2は30号住と同様の位置にあり、根太を通した板床の構造材の痕跡とも推測できる。またP3は入り口施設に伴うものであろうか。掘り方は、住居址中央に隅丸形状の土坑と北西隅の隅丸長方形と竈左の半円形土坑が穿たれている。

#### 竈 (挿図番号168・169 写真番号PL18)

燃焼部の平面形態は矩形で、東壁南寄りの住居内に設置され、長い袖をもっている。煙道口の断面形は矩形で、先へ行くにしたがって隅丸となる。燃焼部から煙道部への境界は、急角度の2つの段を経て煙道に至る。覆土は第1層の自然埋没土層の外は、天井崩落土である。袖は黒色の粘質土を主体にした貼土である。火床面には天井崩落土の焼土層が厚く被り、燃焼部右側壁に赤い硬化面が見られる。

電掘り方は隅丸長方形に掘られ、灰混じりの混土が貼土されている。

IV 遺構と遺物

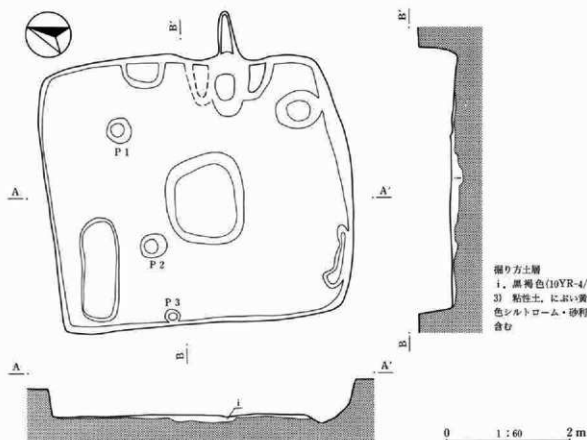


35号住居

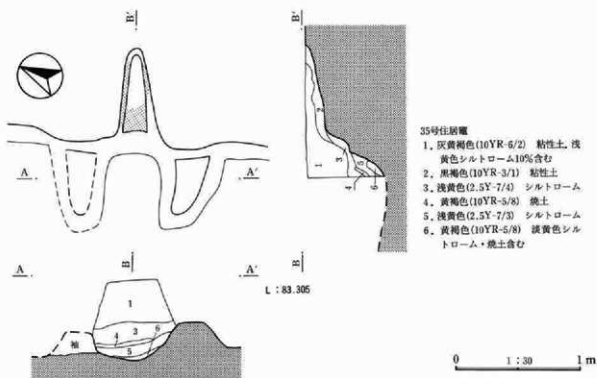
1. 灰黄褐色(10YR-5/2) ローム質土、固い
2. 褐灰色(10YR-4/1) 砂礫層
3. におい黄褐色(10YR-3/2) 粘性土
4. におい黄色(2.5Y-6/4) シルトローム、礫少量含む
5. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土・におい黄褐色シルトロームとの混土
6. 黒褐色(10YR-3/1) 粘性土、焼土・炭化物20%含む
7. 黄灰色(2.5Y-5/1) におい黄色シルトローム20%含む

第166図 4 A | 区・35号住居址

1 篠塚狐穴(4AⅠ区)・篠塚四反歩(4AⅡ区)地区

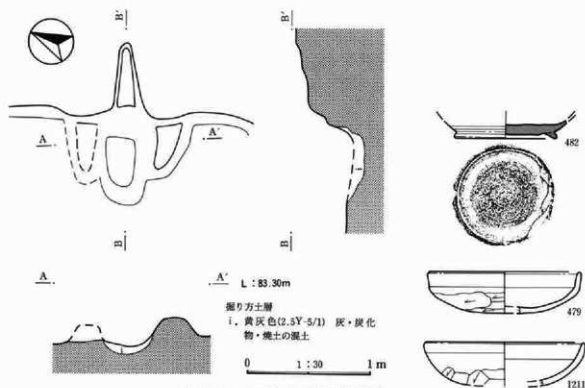


第167図 4AⅠ区・35号住居址掘り方

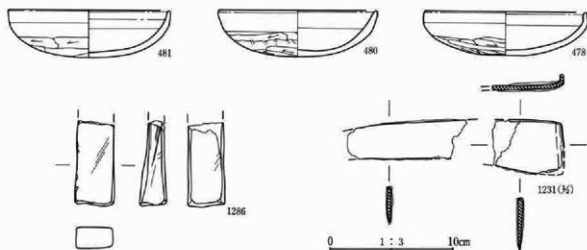


第168図 4AⅠ区・35号住居址竈

#### IV 遺構と遺物



第169図 4 A I 区・35号住居址竈掘り方



第170図 4 A I 区・35号住居址出土遺物

#### 遺物の出土状態 (挿図番号166)

**遺物分布** 遺物は北西隅を除いて全般的に散漫な分布を示している。層位的には各層に散在して分布している様相が窺える。タイプは、タイプAが砥石1286で、タイプBが須恵器高台付碗482で、残りはタイプCである。

#### 出土遺物 (挿図番号170 写真番号 PL64)

**図示遺物** 図示した遺物は、土師器壺5、須恵器高台付碗1、鎌1、砥石1の8個体である。

**土師器** 土師器坏は全部丸底で、口縁部が短く内傾するもの(478)と直立するもの(479)、体部が丸みをもって立ち気味に開くもの(481)とそのまま開くもの(480, 1211)に分類される。

須恵器高台付碗は高台のハの字に開いた古いタイプである。砥石は砥沢石である。

須恵器

#### 4AⅠ区・36号住居址

遺 構 (挿図番号171・172 写真番号PL18)

本住居址は4AⅠ区の南東の飛び地の調査区内の3棟の竪穴住居址の西端に位置し、I13・24, 25, 34, 35グリッドに属している。確認面の標高は84.05mを測り、37号住と東壁で切り合っている。

絶対的位置  
相対的位置  
確認面

規模は東西3.53m・南北2.80mを測り、面積は9.88㎡である。平面形態は縦長長方形を呈し、南東隅部を土坑により欠損している。主軸方位はN-66°-Eを示す。

規模・形態

主軸方位

壁高は平均30cmを測るが、壁の立ち上がりは存外甘い。覆土は2層で典型的なレンズ状の埋没状態を示している。

壁・覆土

床面は貼床が施されるが、住居中央部に凹凸が見られる。掘り方は住居址全体が掘り込まれ、特に西壁付近には楕円形の土坑が穿たれている。

床・掘り方

竈 (挿図番号173・174 写真番号PL18)

燃焼部の平面形態は細長い釣り鐘状を呈し、東壁南寄りの住居外に設けられ、袖は確認されていない。煙道は火床面の先端が僅かに立ち上がる所が煙道口と推測され、燃焼部から煙道部への移行は漸移的である。覆土は第1層が住居址埋没土で第2層が天井部崩落土である。火床面は傾斜をもち緩やかに煙道口に向かい、灰層と焼土とが面をおっている。

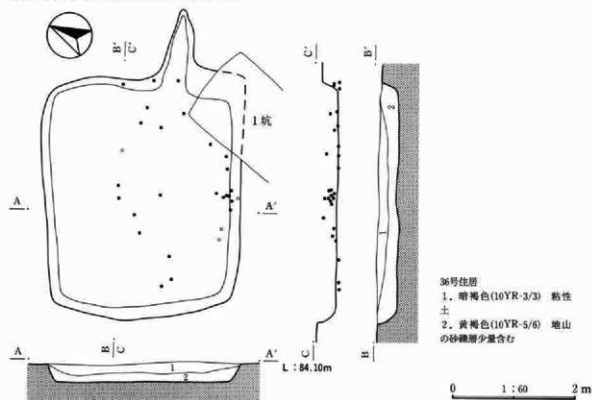
燃焼部

煙道部

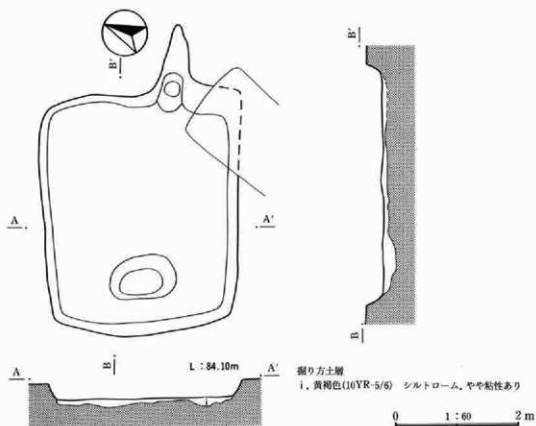
火床面

竈掘り方は釣り鐘状に掘り込まれ、焚口には円形の灰掻き穴が穿たれている。

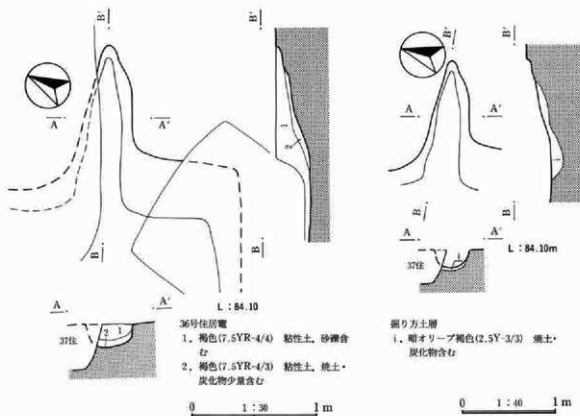
遺物の出土状態 (挿図番号171 写真番号)



第171図 4AⅠ区・36号住居址



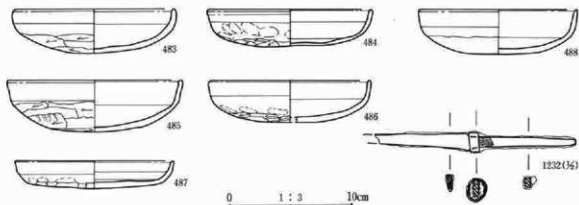
第172図 4 A I 区・36号住居址掘り方



第173図 4 A I 区・36号住居址電

第174図 4 A I 区・36号住居址電掘り方





第175図 4AⅠ区・36号住居址出土遺物

遺物は非常に少なく、住居址中央と南壁付近に僅かに分布する。層的にはほぼ第2層に分布する。遺物のタイプは、タイプAが土師器環483、485、刀子1232で、タイプBが土師器環487で、残りはタイプCである。

#### 出土遺物 (挿図番号175 写真番号PL65)

図示した遺物は、土師器環6、刀子2の8個体である。

図示遺物

土師器環は丸底と平底(487)があり、器内の薄い484は平底と丸底の中間形態である。丸底は体部に稜線を有し口縁が直線的に開くものと、口縁部が内湾するものと、稜線は認められないものの口縁部が立つものに分類される。

土師器

#### 所見

第2層埋没時に散発的な遺物廃棄はあったものの、その後は周辺に住居は営まれなかったものと考えられる。

#### 4AⅠ区・37号住居址

##### 遺構 (挿図番号176・177 写真番号PL19)

本住居址は4AⅠ区の南東部飛び地の調査区内に位置し、I 13・24, 25, 34, 35グリッドに属する。該調査区は竪穴住居址が3棟東西に連なり、37号住はそのうちの中央に所在する。確認面の標高は84.00mを測り、西壁から南壁1/2にかけての部分で36号住との切り合いが見られる。

地対的位置

相対的位置

確認面

規模は東西2.88m・南北2.40mを測り、面積は6.91m<sup>2</sup>である。平面形態は小型の縦長長方形で、電屋としての機能も考えなければならない。主軸方位はN-65°-Eを示す。

規模・形態

主軸方位

壁高はおおよそ35cmを測るが、東壁の立ち上がりが若干甘い。覆土は2層でレンズ状の埋没状態だが、西壁から1/4地点まで36号住による攪乱を受けている。

壁・覆土

床面は平坦で貼床が施され、掘り方は住居址中央部を中心に円形の土坑が穿たれている。

床・掘り方

##### 竈 (挿図番号178 写真番号PL19)

燃焼部は小型の釣り鐘状を呈し、東壁南寄りの住居内に設けられ、袖は確認できなかった。火床面は緩やかに立ち上がり、赤褐色焼土に覆われている。煙道部は燃焼部と幅もそれほど変わらず、移行部は緩やかな勾配で立ち上がっている。

燃焼部

火床面

煙道部

##### 遺物の出土状態 (挿図番号176)

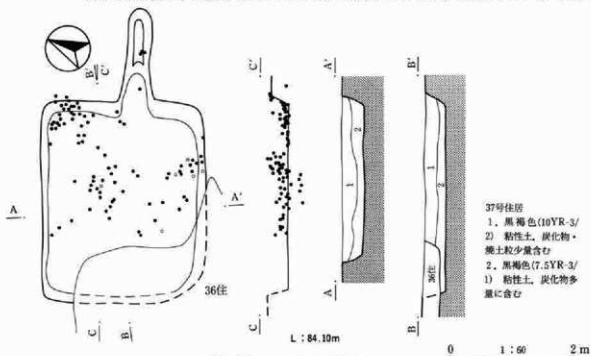
#### IV 遺構と遺物

**遺物分布** 遺物は住居中央部から北東隅にかけて散在して分布し、北東隅が若干濃い分布を示す。層位的には第2層に遺物の大部分が含まれており、第1層の分布は中央に偏する。また掘り方に含まれる遺物もわずかに認められる。掲載遺物のタイプは、タイプAが土師器環497、須恵器環491、須恵器環493で、タイプBaが土師器環499で、タイプBが土師器環498、須恵器環489、土師器環501で、残りはタイプCである。

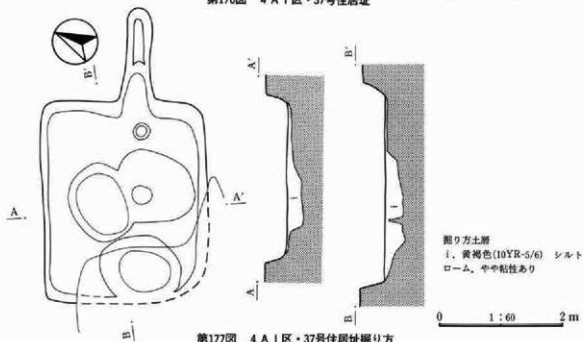
**タイプ**

**出土遺物** (挿図番号179・180 写真番号PL66)

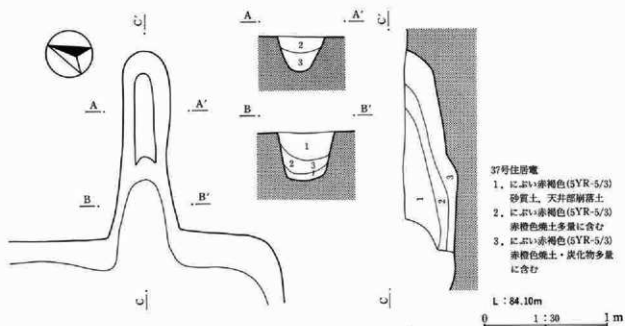
**図示遺物** 図示した遺物は、土師器甕3、土師器台付甕2、土師器環3、須恵器甕1、須恵器環3、須恵器高台付皿1、須恵器環蓋1、須恵器把手付甕1、火打ち金1、鉄鍔1、刀子1、紡錘車



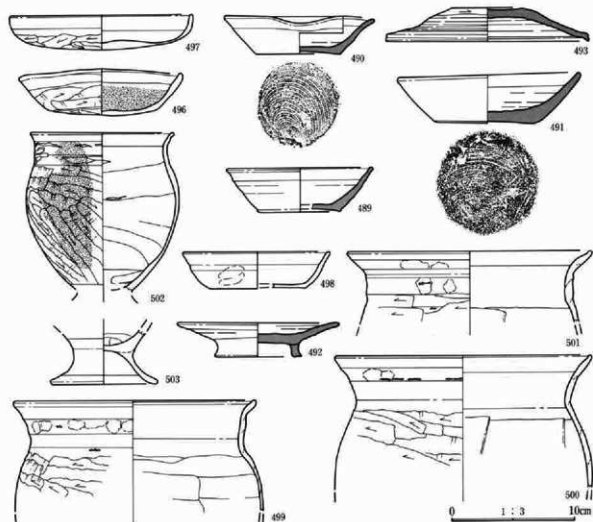
第176図 4 A I 区・37号住居址



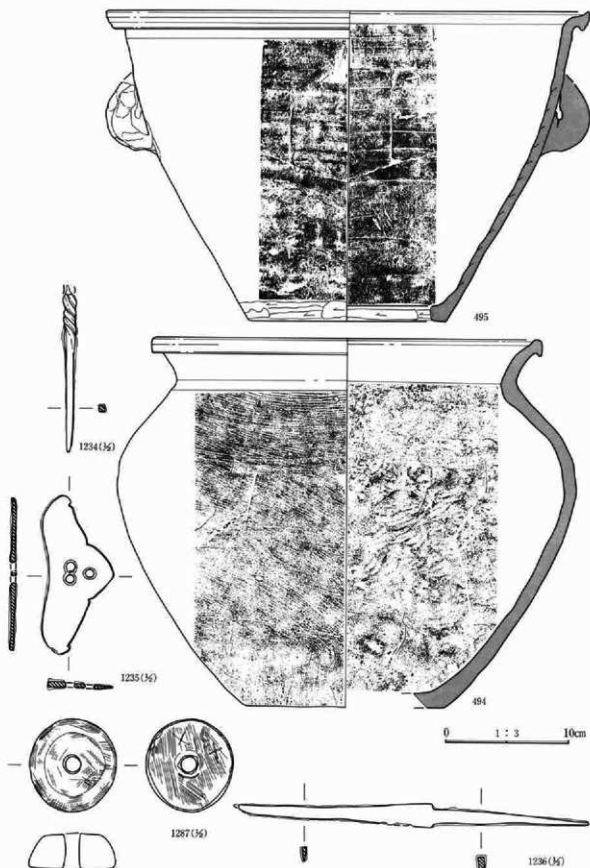
第177図 4 A I 区・37号住居址掘り方



第178図 4AⅠ区・37号住居址遺構



第179図 4AⅠ区・37号住居址出土遺物



第180図 4 A I 区・37号住居址出土遺物

1の19個体である。

土師器甕は、コの字口縁臺のプロトタイプ(500)とコの字口縁臺(499)と厚手の頸部をもち胴部に張りをもたない501がある。土師器環は、器高が浅く器内の薄い丸底タイプの497と、平底で器内が厚く体部に篋削り調整が施される496と、器内が薄く体部に指頭圧痕が見られ僅かに屈曲する498に分けられる。

須恵器環は、器内が厚く法量が大で体部が直線的に開く491と、丸みのある体部が口縁部に至り僅かに外反する489と、直線的な体部が口縁部で外反する490がある。490は片口がついている。須恵器高台付皿は直線的な体部のBタイプで、長方形の断面形をもつ高台を有する。須恵器坏蓋は鈕をもたず、回転糸切りの平らな頂部から急激に端部に至り返りをもちない。

#### 4A I区・38号住居址

遺 構 (挿図番号181 写真番号PL19)

本住居址は4A I区の東南飛び地の調査区内に位置し、I 13・26グリッドに属している。該住居址は、東西に連なる3棟の竪穴住居址の東端に所在している。確認面の標高は83.85mを測り、若干36.37号住よりも低い。

規模は東西2.34m・南北2.34mを測り、面積は5.48㎡である。平面形態は東壁の竪左壁が方形に張り出す特異な形状を呈している。主軸方位はN-75°-Eを示す。

壁高は40cmを越え、各壁は明瞭な稜線を描いている。覆土は4層に分かれるが、自然な堆積とは言えず、何等かの外部からの擾乱を埋没初期に受けていると思われる。

床面は平坦な地床面で、床面上の施設は認められない。

竈 (挿図番号182・183 写真番号PL19)

燃焼部は東壁南寄りの壁を掘り込んで築かれ、台形状の平面形態を呈している。火床面は若干のくぼみが認められ全体に平坦だが、煙道部に向かい90°に近い角度で急激に立ち上がる。煙道部は約1m程残存し、緩やかな傾斜で煙道口に至る。

遺物の出土状態 (挿図番号181)

遺物は住居址中央に散在するが、特に竈内および竈左袖付近に集まっている。層位的には床直遺物も何点が見られ、床直以外の遺物は第1層に分布する。掲載遺物のタイプは、タイプAが土師器甕512、土師器台付甕510、須恵器坏507で、残りはタイプCである。

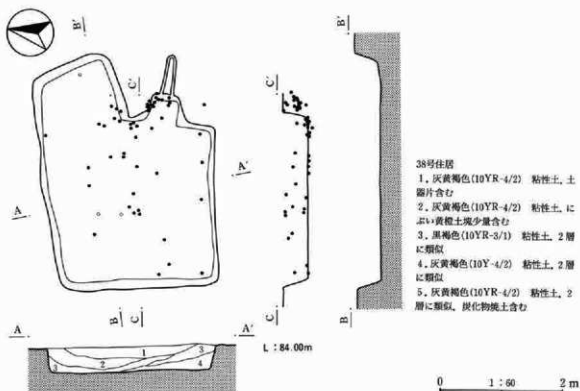
出土遺物 (挿図番号184 写真番号PL66)

図示しえた遺物は、土師器環2、土師器鉢1、土師器甕3、土師器台付甕2、須恵器環2、須恵器甕1、石製管玉1の12個体である。

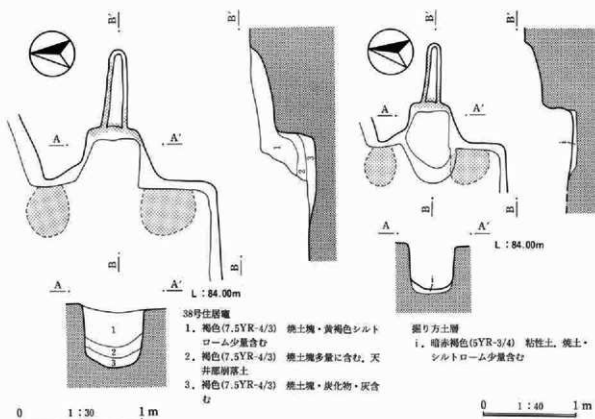
土師器環は506、508の2個体とも平底底部篋削り調整で、口縁部外反気味横撫で調整が直線的な体部に施されるが、508は加えて直線的な胴部下位に篋削り調整が見られる。土師器鉢509は平底の底部から湾曲した深い体部をもち、口縁部横撫で以外は体部に篋削り調整が施される。土師器甕512は頭部の屈曲があまくなり最大径が胴部上位にくる。そして横篋削り調整が頭部から胴部上半まで施されコの字口縁臺への萌芽が見られる。土師器台付甕510は口縁部については土師器甕512と同様の特徴をもち、胴部は球形に近い。

須恵器環は、504が回転糸切り底から口縁部で若干内湾する体部をもつのにたいして、507は

IV 遺構と遺物

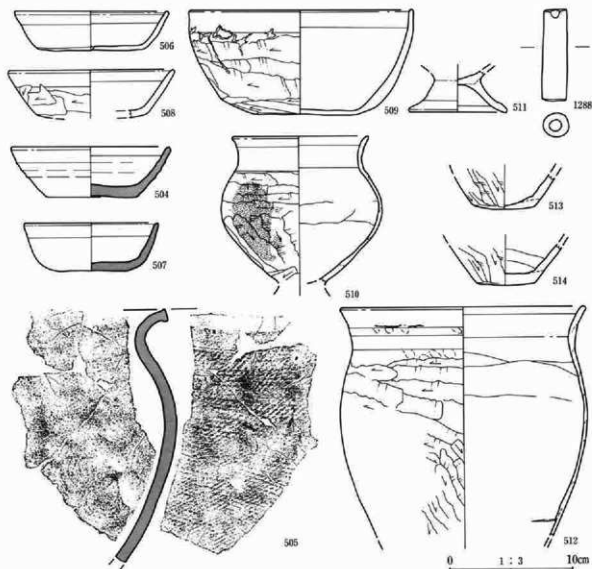


第181図 4 A I 区・38号住居址



第182図 4 A I 区・38号住居址電

第183図 4 A I 区・38号住居址電掘り方



第184図 4 A I区・38号住居址出土遺物

回転糸切り底から底部付近で内湾し、次いで胴部がほぼ直立する。

## 所 見

床直遺物と第1層に含まれる遺物との間には、若干の時間差が考えられる。

## 4 A I区・39号住居址

遺 構 (押図番号185・186 写真番号PL20)

本住居址は4 A I区の北東飛び地調査区の東部分に位置し、I11・79, J11・70グリッドに属する。該住居址の周囲を見ると、西6 mに64,65号住があり、04号溝を隔てて北6 mには40号住が存在する。確認面の標高は83.65mを測り、確認面がかなり低い傾向にある。

規模は東西4.06m・南北3.90mを測り、面積は15.83 m<sup>2</sup>である。平面形態は縦長長方形を呈している。主軸方位はN-73°-Eを示す。

絶対的位置  
相対的位置  
確認面  
規模・形態  
主軸方位

#### IV 遺構と遺物

**壁・覆土** 壁高は15cm弱で、壁も曖昧なラインを示している。覆土は3層に分かれ、安定した埋没状態を示している。

**床・掘り方** 床面には貼床が施され、掘り方は拡張住居と見誤るほどに整美な縦長長方形の掘り込みを呈している。

**竈** (挿図番号187・188 写真番号PL20)

**燃焼部** 燃焼部の平面形態は細長い釣り鐘状で、東壁南寄りに位置しその1/2を壁外に突出させている。袖は不揃いだが住居址内に長く築かれている。覆土は4層に分かれ、第5層が天井部の崩落土であろう。火床面は緩やかな傾斜で煙道部へ立ち上がるが、煙道は残存していない。

竈掘り方は、平面形態が楕円形の形状を示している。

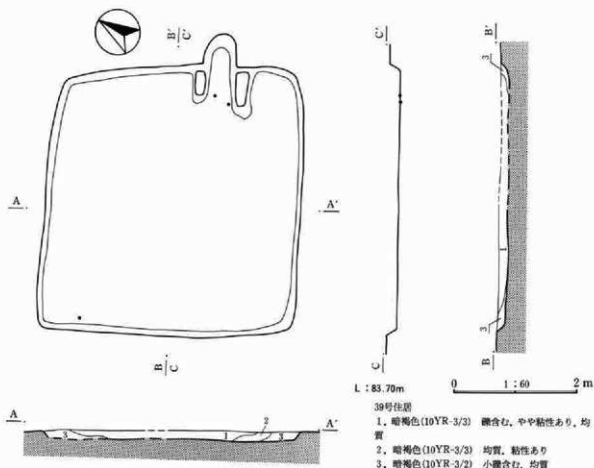
**遺物の出土状態** (挿図番号18.5)

**遺物分布** 確認できた遺物は3個体のみで、竈内2点・西北隅1点である。層位的には2個体が竈内床直で、その他の遺物分布はない。掲載遺物のタイプは、タイプAが土師器杯516、須恵器杯蓋515で、土師器杯517はタイプCである。

**出土遺物** (挿図番号189 写真番号PL66)

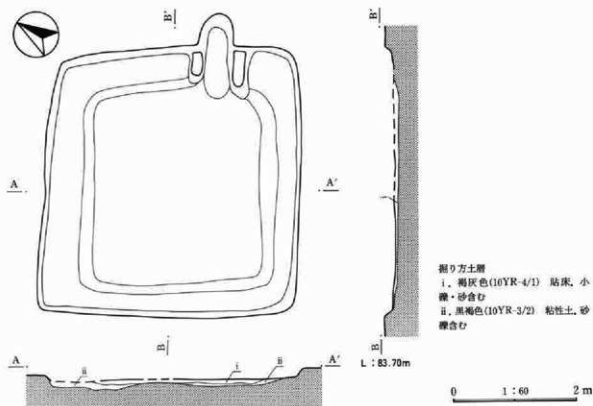
**図示遺物** 図示しえた遺物は、土師器杯2と須恵器杯蓋1の3個体である。

**土師器** 土師器杯は、丸底から口縁部が内湾する516と、体部に稜線をもち口縁部が直立して外反する古式の517がある。

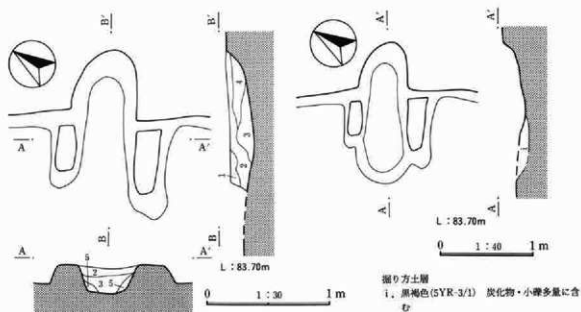


第185図 4 A I 区・39号住居址





第186図 4AⅠ区・39号住居址掘り方



39号住居址

1. 暗赤褐色(5YR-3/3) 焼土・砂礫含む
2. 暗赤褐色(5YR-3/2) 炭化物・砂含む
3. 赤褐色(5YR-3/2) 焼土・小礫少量含む
4. 暗赤褐色(5YR-3/3) 焼土塊・小礫含む
5. 褐灰色(5YR-4/1) 砂質土、礫含む

第187図 4AⅠ区・39号住居址竈

第188図 4AⅠ区・39号住居址竈掘り方

#### IV 遺構と遺物



第189図 4 A I 区・39号住居址出土遺物

**須恵器** 須恵器坏蓋515は、回転糸切り一部鋭削り調整の平坦な頂部にはつまみがなく、頂部から直線的に緩やかに口縁部に至り返りを有する。

#### 所 見

本住居址は遺物の出土状況から、同時期の集落の最終的な住居で、その後完全埋没時まで周囲に住居は営まれなかったものと考えられる。

#### 4 A I 区・40号住居址

**遺 構** (挿図番号190 写真番号 PL20)

絶対的位置  
相対的位置  
確認面

本住居址は4 A I 区の北東飛び地の北端に位置し、I 11・69, J 11・60グリッドに属する。近接する住居址は、04号溝を隔てて南5 mに39号住が展開する。確認面の標高は83.55mを測り、該住居址は全体の2/3余りを調査区外に突き出ている。

規模・形態

規模・平面形態は前述のような事情で窺い知れない。ただ主軸方位は竈の向きと南壁の一部から、N-120°-Wが推定される。

主軸方位

壁・覆土

残存している壁は西壁と南壁の一部であるが、腰味で壁高は15cmが測れるのみである。覆土は確認面が低いため1層が視認できたものの不明確である。

床

床面には貼床が施されていたが、掘り方の在り様については確かでない。

**竈** (挿図番号191・192 写真番号 PL20)

燃焼部

燃焼部の平面形態は台形状を呈し、袖を有し西壁際の住居址内に付設されている。煙道部は

煙道部

削平されて欠損しているが、残存状況を見ると燃焼部から煙道部への立ち上がりは、かなりの急角度が予想される。覆土は3層に分かれ、第2層は竈天井部の崩落土で、最下層は灰層が厚く堆積している。袖はローム質土で築かれ、軸には直方体を呈する凝灰岩が使われている。火床面は浅く掘り込まれ、その上を焼土を含んだ灰層がレンズ状に覆っている。

火床面

電掘り方は隅丸方形状で、黒褐色土を貼床した構造をもつ。

**遺物の出土状態** (挿図番号190)

遺物分布

住居址のほぼ1/3しか調査されないため、遺物の全体的な出土状況はつかめないが、竈内・竈左袖から南壁にかけて遺物の分布が認められる。層位的には竈内を中心に床面付近の分布が濃く、特に床下からの遺物が多く見られる。掲載遺物のタイプは、タイプAが土師器壺526、土師器台付壺522、須恵器坏518、須恵器高台付碗519で、タイプBが土師器壺525で、残りはタイプCである。

タイプ

**出土遺物** (挿図番号193 写真番号 PL66)

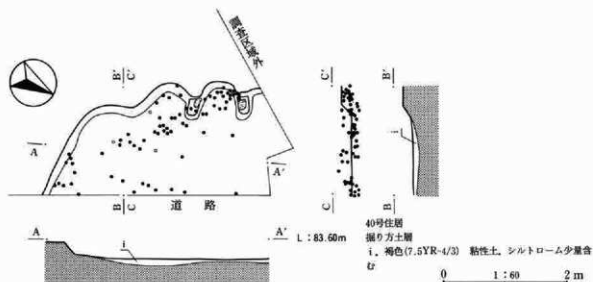
図示遺物

図示した遺物は、土師器壺3、土師器台付壺1、須恵器坏1、須恵器小壺1、須恵器高台付碗2、須恵器高台付皿1の9個体である。

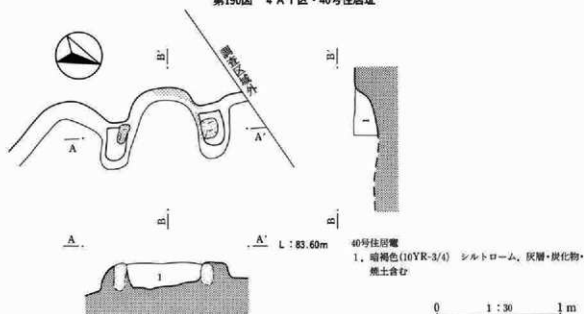
土師器

土師器壺は長胴壺タイプ525、526と球形胴壺タイプ524に分類される。525は外面に炭素吸着

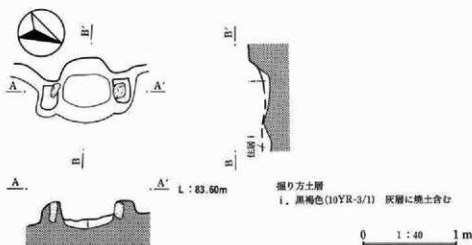
1 篠塚狐穴(4 A I区)・篠塚四反歩(4 A II区)地区



第190図 4 A I区・40号住居址

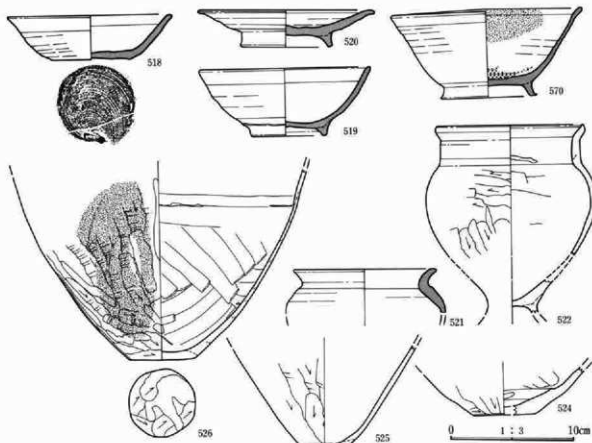


第191図 4 A I区・40号住居址竈



第192図 4 A I区・40号住居址竈掘り方

#### IV 遺構と遺物



第193図 4 A I 区・40号住居址出土遺物

が見られ、526には内外面の一部に煤の付着が観察された。また524は砂底である。土師器台付甕522は明瞭なコの字口縁を有し、外面に炭素吸着が見られる。

#### 須恵器

須恵器高台付碗は、高台が細くて高く外反し口縁部も外反する570と、台形の高台で体部が湾曲する519がある。また570の内面には漆紙が付着していた。須恵器高台付皿520は高い台形状の高台をもち、体部が直線的に広がり口縁部で僅かに外反する。

#### 4 A I 区・41号住居址

遺 構 (挿図番号194 写真番号PL21)

#### 絶対的位置

本住居址は4 A I 区の東の住居址集中区の北西端に位置し、I 12・40, 50グリッドに属している。近接する住居址は4 m西に54号住が所在する。確認面の標高は83.40mを測り、東壁付近で03号堅穴状遺構と西南隅を02号井戸状遺構との切り合いが見られる。

#### 規模・形態

規模は東西2.90m・南北3.08mを測り、面積はおよそ8.93㎡である。平面形態は正方形プランが意図されたものと思われる。主軸方位はN-76°-Eを示す。

#### 壁・覆土

壁高は30cm強を測るが、壁の立ち上がりはシャープとは言えない。覆土は4層に分かれるが土層の堆積が一様でなく、埋没状況に何等かの人為が作用した可能性も考えられる。

#### 床・掘り方

床面は平坦で貼床が施され、掘り方は住居址の床全体が掘り込まれている。

## 竈 (挿図番号195・196 写真番号)

燃焼部の平面形態は釣り鐘状を呈し、東壁中央の住居址外に築かれ、若干袖が確認された。燃焼部  
煙道部はすでに削平されており、燃焼部から煙道部への立ち上がりは90°に近い。覆土は第3層  
が天井崩落土で、第4層は燃焼部を覆う焼土と灰の混土層である。袖は基盤層である裸層の上  
にシルト質のローム土を貼った形跡がある。火床面は中央部に僅かのくぼみを有するが、全体  
的に煙道部に向かって緩やかに上っている。

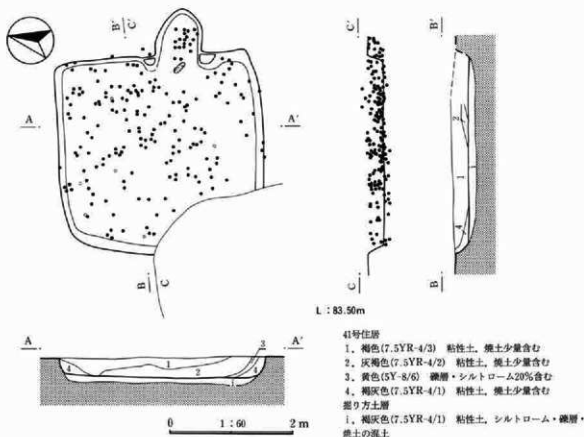
竈掘り方は僅かに認められるが、それほど確かでない。

## 遺物の出土状態 (挿図番号194)

遺物は住居址の前面にわたって分布し、竈内にも濃い遺物分布が見られる。層位的には床下  
も含め床直遺物が多く、また第2層にも分布の中心が認められる。全般的に各層にわたり遺物  
が多数分布し、該住居址は長期間の廃棄行為が継続的に行われたものと理解される。掲載遺物  
のタイプは、タイプAが土師器杯537、須恵器杯528で、タイプBaが須恵器杯530、須恵器高台付  
皿533、須恵器高台付碗532で、タイプBが土師器甕539、須恵器長頸甕534で、残りはタイプC  
である。

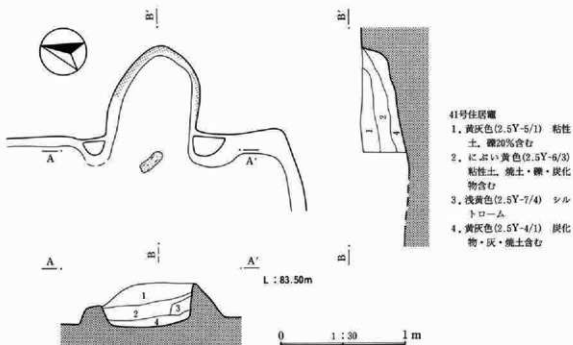
## 出土遺物 (挿図番号197・198 写真番号 PL67)

図示した遺物は、土師器杯3、土師器甕3、土師器小甕2、土師器台付甕1、須恵器杯4、  
須恵器高台付碗2、須恵器高台付皿1、須恵器長頸甕1、刀子2、土錘2の21個体である。

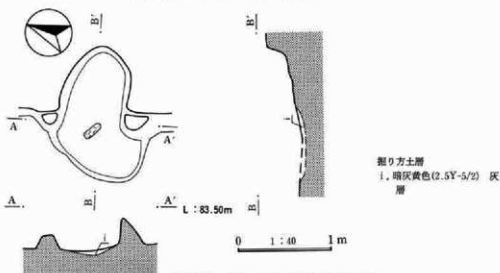


第194図 4AⅠ区・41号住居址

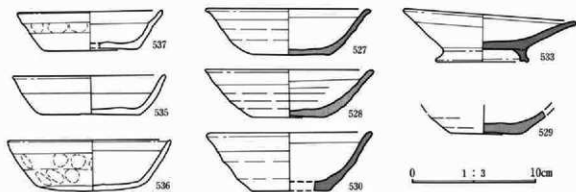
IV 遺構と遺物



第195図 4 A | 区・41号住居址竈

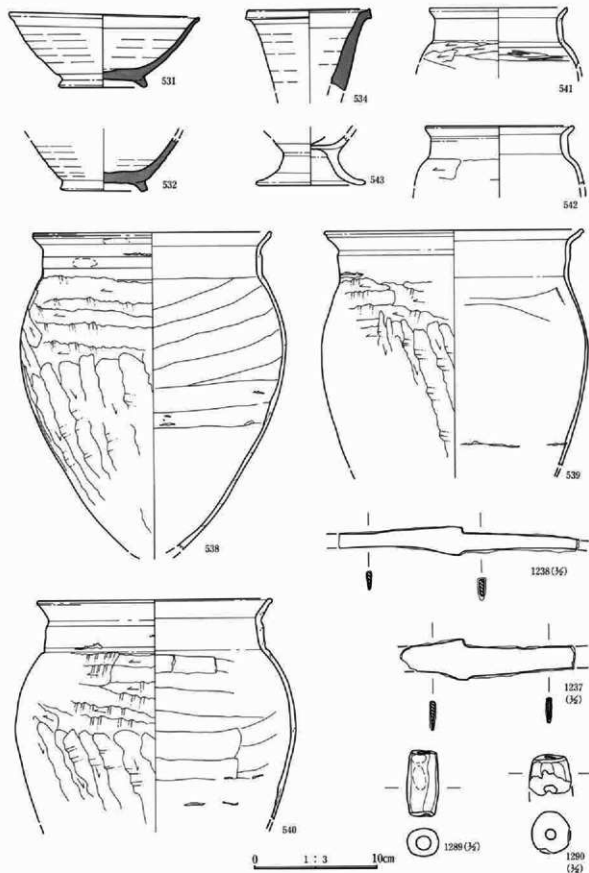


第196図 4 A | 区・41号住居址竈掘り方



第197図 4 A | 区・41号住居址出土遺物

1 藤塚孤穴(4A I区)・藤塚西反歩(4A II区)地区



第198図 4A I区・41号住居址出土遺物

#### IV 遺構と遺物

土師器	土師器環はいずれも平底で直線的な体部を有し、537は体部中位で若干の屈曲を示す。土師器甕は3個体ともコの字口縁で、いずれも胴部上位に張りをもち、540は頸部と胴部の境界に明瞭な沈線が入る。土師器小甕は台付甕と考えられるが、底部欠損のために小甕としたが2個体ともコの字口縁である。
須恵器	須恵器環は4個体とも回転糸切り底を有するが、527は口縁部が外反し、530は体部に粗いクロ目をもち内外面に焼しがかかっている。須恵器高台付甕531は台形の角の丸まった高台をもち、体部は軽く湾曲しながら口縁部に至り外反する。また532は台形状の高台を有する。須恵器高台付皿は外に張った平行四辺形状の高台をもち、体部が直線的に広がっている。
刀子	刀子は鉄製で2個体とも刃部の摩耗が激しく使用頻度の高さが窺われる。
土鍾	土鍾1289は完形である。

#### 4 A I 区・42号住居址

##### 遺 構 (押図番号 199 写真番号 PL21)

絶対的位置 相対的位置 確認面	本住居址は4 A I 区東の住居址集中区東端に位置し、I 12・53グリッドに属している。4 m 西南には、4 A I 区で26号住に次ぐ規模をもつ、44号住が存在している。確認面の標高は83.45 mを測る。
規模・形態	規模は東西4.04m・南北2.92mを測り、面積は11.80㎡である。平面形態は整美な縦長長方形を呈し、主軸方位はN-73°-Eを示す。
主軸方位	
壁・覆土	壁高は15cmと浅いわりには、壁は明瞭なラインを示している。覆土は2層に分かれ、レンズ状の自然な埋没状況が窺える。
床・掘り方	床面は若干の凹凸がみられるものの貼床が施され、掘り方は41号住同様床全体を掘り込んだタイプである。
電 (押図番号 200・201 写真番号 PL21)	
燃焼部	燃焼部は平面形態が釣り鐘状を呈し、西壁南寄りの住居外に設けられ右袖が僅かに残る。煙道部は上部を削平されているが底部は残り、燃焼部から煙道部への立ち上がりは下2/3が45°で上は90°に近い。覆土は2層に分かれ、第1層下部に焼土塊が集中していることと土層の堆積状況から、第1層が電天井部の崩落土であったものと考えられる。袖は軽石を含む粘質土で、地山の掘り残しである。火床面は平坦で炭化物が堆積している。
火床面	電掘り方は焚き口前面から徐々に燃焼部に向かって掘られ、燃焼部の中心が一番深く、覆土には少量の地山土を含む。

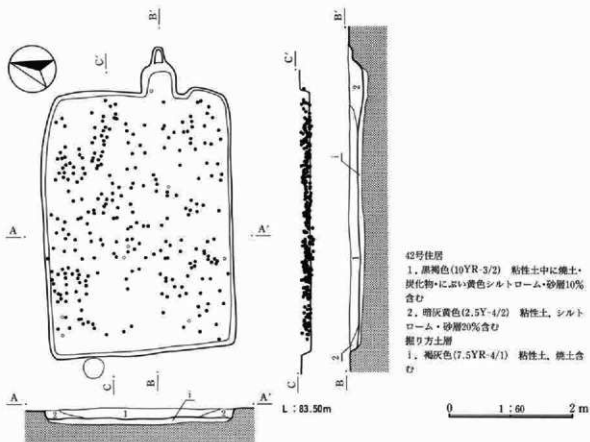
##### 遺物の出土状態 (押図番号 199)

遺物分布	遺物は室内およびその周辺を除いて、住居址全体に分布している。層位的には床直とその直上に近い層に遺物が密度濃く分布する。掲載遺物のタイプは、タイプAが土師器環547で、タイプBaが土師器環548、550で、タイプBが土師器甕551で、残りはタイプCである。該住居址の遺物が多いがその大部分は小破片である。
タイプ	

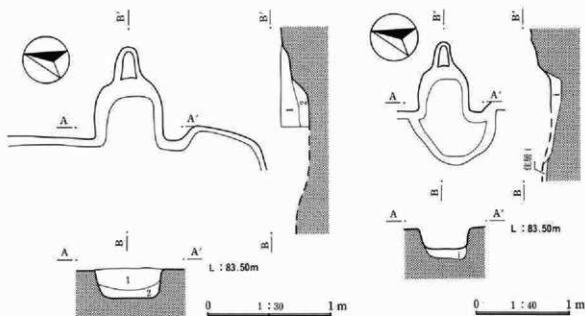
##### 出土遺物 (押図番号 202 写真番号 PL67)

図示遺物	図示しえた遺物は、土師器環5、土師器甕1、土師器小甕1、須恵器環2、須恵器甕破片1、土鍾2の12個体である。
------	--





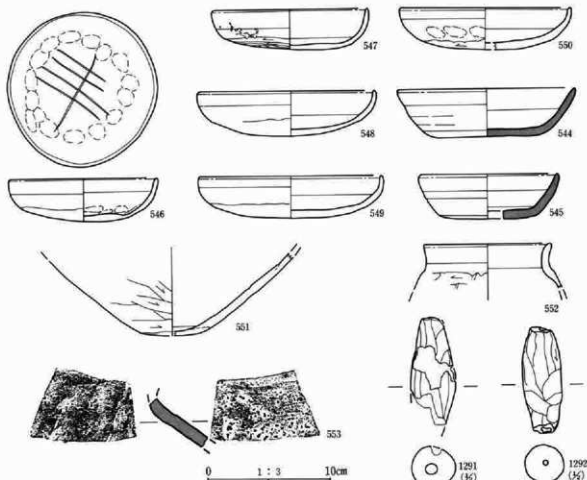
第199図 4AⅠ区・42号住居址



第200図 4AⅠ区・42号住居址電

第201図 4AⅠ区・42号住居址電掘り方

#### IV 遺構と遺物



第202図 4 A I 区・42号住居址出土遺物

- 土師器** 土師器は5個体とも丸底で器高が浅く体部の湾曲したタイプで、546は内側の底部に4本の平行線とそれに直行する1本線の縄書き記号が付されている。
- 須恵器** 須恵器の2個体はいずれも体部が丸みをもち、545は底部が篋撫で調整されている。

#### 4 A I 区・43号住居址

遺 構 (挿図番号 203 写真番号 PL22)

- 絶対的位置** 本住居址は4 A I 区東の住居址集中区の南の一角に位置し、I 12・63グリッドに属する。周囲の住居址との位置関係は、西2 mに44号住が北3 mには42号住が所在している。確認面の標高は83.50 mを測る。
- 焼痕・形態** 規模は東西2.50 m・南北2.34 mを測り、面積は5.85 m<sup>2</sup>というミニ住居である。平面形態は整った縦長長方形で、主軸方位はN-56°-Eを示す。
- 主軸方位** 壁高は25 cmを測り、壁は浅いわりにはきっちりとした稜線を有している。覆土は2層に分かれ、壁際に三角堆積土が埋没し、次ぎにレンズ状に埋没土が堆積するという自然なパターンを構成している。
- 壁・覆土** 床面には貼床が施されるものの若干の凹凸が見られ、掘り方は床全体を掘り下げる在り方を

示している。

#### 竈(挿図番号 204・205 写真番号 PL67)

燃焼部は平面形態が釣り鐘状を呈し、東壁南寄りの住居址外に築かれ、僅かに袖らしきものが残っている。煙道部は上部を削平されているが、下部は削平をまめがれて残存している。燃焼部から煙道部への立ち上がりは急角度である。覆土は2層に分かれ、第1層が天井部の崩落土層であろう。袖は地山の掘り残しで、高熱を受けて赤変している。火床面は若干の凹凸が見られるが、それほど掘りくぼまれておらず、上面に薄く灰や炭化物が覆っている。

竈掘り方は楕円形で、焚き口付近が深く掘られ、覆土は焼土や炭化物を20%含む粘質土である。

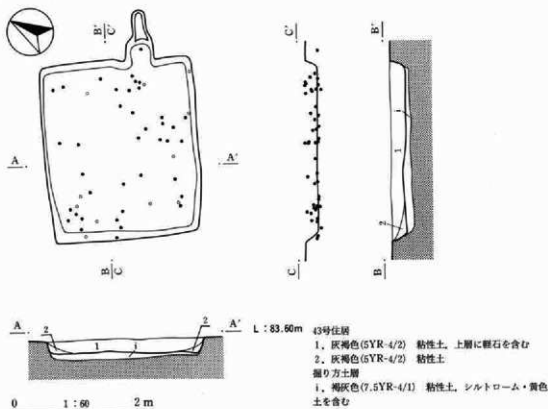
#### 遺物の出土状態(挿図番号 203)

遺物は竈前・西北隅・南壁中央部に散在し、竈内には土師器環1点が出土している。層位的には床直遺物が多く、上層に行くほど分布が薄くなる。掲載遺物のタイプは、タイプAが土師器環554、555で、タイプBaが土師器盤556で、タイプBが土師器壺557で、残りはタイプCである。

#### 出土遺物(挿図番号 206 写真番号 PL67)

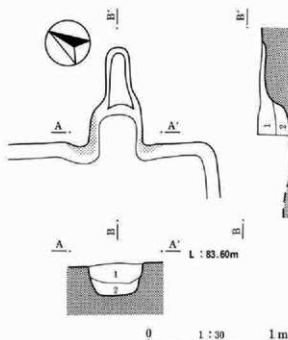
図示した遺物は、土師器環3、土師器壺1、須恵器壺破片1、砥石1の6個体である。土師器環は、いずれも丸底で体部中位が口縁部で直立する554・555と、体部の屈曲する盤状環Aタイプに分かれる。土師器壺は胴部がほとんど張りのない長胴壺であろう。

砥石1293は石材が変質ディサイトで、使用頻度の高さを窺える摩耗が認められ、紐を通した



第203図 4AⅠ区・43号住居址

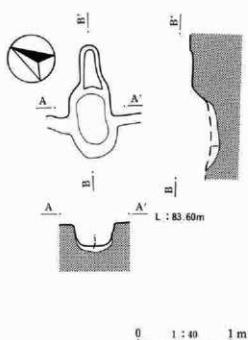
# IV 遺構と遺物



43号住居竈

1. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土、軽石・炭化物・焼土10%含む
2. 褐灰色(7.5YR-5/1) 粘性土、炭化物・灰含む

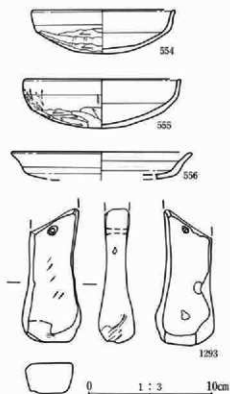
第204図 4 A I 区・43号住居址竈



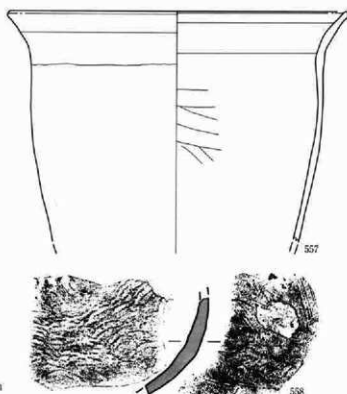
掘り方土層

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、炭化物・焼土20%含む

第205図 4 A I 区・43号住居址電掘り方



第206図 4 A I 区・43号住居址出土遺物



と推測される貫通孔がある。

#### 4AⅠ区・44号住居址

遺 構 (挿図番号 207 写真番号 PL22)

本住居址は4AⅠ区東部の住居址集中区の中心的竪穴住居址で、I12・52, 62, 63グリッドに属している。該住居址の周囲には、東北4mに42号、東南2mに43号住、北西に壁を接するようにして55号住が所在する。確認面の標高は83.45mを測り、西壁で56号住と切り合っている。

規模は東西5.00m・南北5.50mを測り、面積は27.5㎡で26号住に次ぐ規模である。平面形態は横長長方形プランが意図されていたと推測されるが、東北隅から電左側の東壁が弧状に張り出しているために変形した矩形を呈している。主軸方位はN-72°-Eを示す。

壁高は30cmを測り、南壁と東壁の一部を除いた他はかなり明瞭な立ち上がりを見せる。覆土は2層に分かれ、第1層がレンズ状の埋没状態である。

床面には貼床が施され、床面上には4個の柱穴痕が穿たれている。掘り方は、P2付近から南壁と西壁に沿って鍵の手状に掘り込まれている。

電 (挿図番号 208 写真番号 PL22)

該電は電の作り替えがあり、新しい第1電と古い第2電とがある。第1電の燃焼部は平面形態が釣り鐘状で、東壁南寄りの住居内に設けられ、長いしっかりとした袖が残っている。煙道部は欠損しているが、燃焼部からの立ち上がりは70°に近い。覆土は3層に分かれ、第1層は住居址埋没状態で、第2層が電天井部の崩落土であり、第3層は燃焼部上面を覆う灰層を主体とした軟質土である。袖は袖石を燃焼部に面して配置し、砂礫土が主体である。火床面は住居址床面からはほとんど掘りくぼまれておらず、使用頻度はそれほど高くはなかったことが予想される。

電掘り方は認められない。

第2電は第1電築造時に破壊され先端部を残すのみだが、痕跡から細長い釣り鐘状の形状が推測される。垂直断面は第1電に類似し、覆土の第2層は崩落した焼土主体の粘質土で、使用頻度の高さが窺える。

遺物の出土状態 (挿図番号 207)

遺物は住居址中央を除いて全面に分布し、特に電周辺に密度濃い傾向が窺える。層位的には第1層の上下に濃い分布が見られ、床下からもかなりの量の遺物が検出されている。また遺物は小破片が多い。掲載遺物のタイプは、タイプAが須恵器高台付碗560、須恵器コップ形561、鉄鉢1242で、タイプBが土師器甕567、土師器小甕563、土師器台付甕564、刀子1240、1241で、残りはタイプCである。

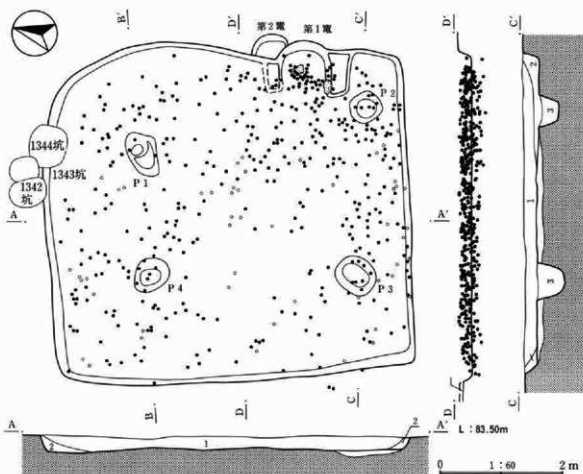
出土遺物 (挿図番号 209 写真番号 PL68)

図示しえた遺物は、土師器杯1、土師器甕4、土師器小甕1、土師器台付甕1、須恵器杯1、須恵器高台付碗1、コップ形須恵器1、刀子2、鉄鉢4、土鍾1の17個体である。

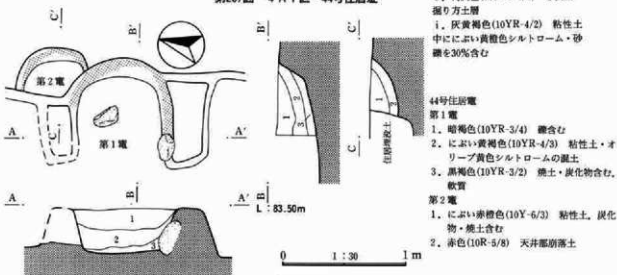
土師器杯576は平底の底部が手持ち寛削り調整され、内面底部に布目痕がある。土師器甕はコの字口縁裏の後に位置付けられるタイプで、球形の胴部最大径を上位にもつ567、568と中位にもつ565、566に分かれる。

須恵器杯559は、回転糸切り底から直線的に開いた体部が口縁部で僅かに外反する。コップ形

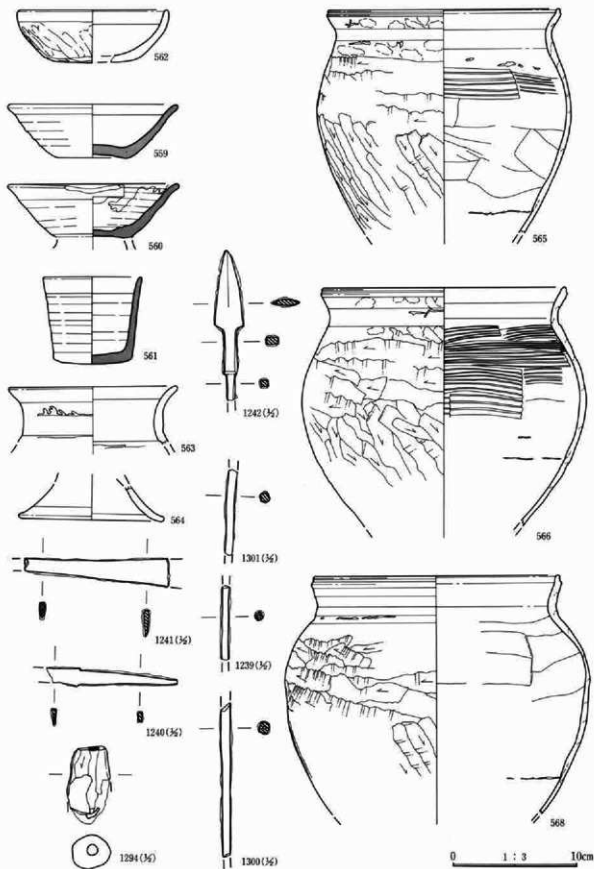
IV 遺構と遺物



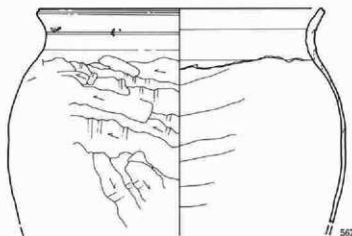
第207図 4 A 1区・44号住居址



第208図 4 A 1区・44号住居址第1電・第2電



第209図 4AⅠ区・44号住居址出土遺物



第210図 4 A I 区・44号住居址出土遺物

須恵器561は底部回転削り調整が施されている。

鉄器 鉄鐙1242は柳葉形でほぼ完形である。

#### 4 A I 区・45号住居址

遺 構 (挿図番号 211 写真番号 PL23)

絶対的位置 本住居址は4 A I 区の住居址密集地の一角の東南端に位置し、H12・98、H13・90グリッドに属している。周囲は該住居址の北壁で21号住と西壁で24号住と切り合い、東2 mに11号掘立が存在している。確認面の標高は83.30 mを測るが、切り合いによる擾乱の故か検出が困難であった。

規模・形態 規模は東西3.70 m・南北4.20 mを測り、面積は15.54 m<sup>2</sup>である。平面形態は横長長方形プランを意図していると推量されるが、南西隅が隅丸となり内側に入り込んでいるためにプランが損なわれている。主軸方位はN-74°-Eを示す。

壁・覆土 壁高は浅く僅かに15 cmを測り、壁の立ち上がりも不明瞭である。覆土は1層で、切り合いが激しいわりには安定している。

床 床面は地床面で、南東隅に貯蔵穴が南西隅付近には小ピットが穿たれている。

電 (挿図番号 212~215 写真番号 PL23)

1電 該電は新旧の電の作り替えが見られ、切り合いから第1電が新しく、第2電が古い。第1電の燃焼部は平面形態が先の尖った細長い釣り鐘状で、東壁中央部の住居外に設けられ小振りの袖が残っている。煙道部は削平を受けて確認できずその情報は不明だが、燃焼部から煙道部への立ち上がりは緩やかである。覆土は2層に分かれ、レンガ色に焼けた第2層は天井崩落土であろう。袖は地山の掘り残しとみられ、床面とはほぼ水平な灰層の乗った火床面から立ち上がる電側壁は赤く焼けており、電の使用頻度の高さを物語っている。

2電 第2電は痕跡から第1電の約1/2の長さの釣り鐘状を呈し、東壁北寄りに設けられている。煙道部は削平されて確認されず、燃焼部から煙道部へは緩やかな立ち上がりをみせる。覆土は2層に分かれ、第2層のレンガ色の焼土層から使用頻度の高さが窺える。



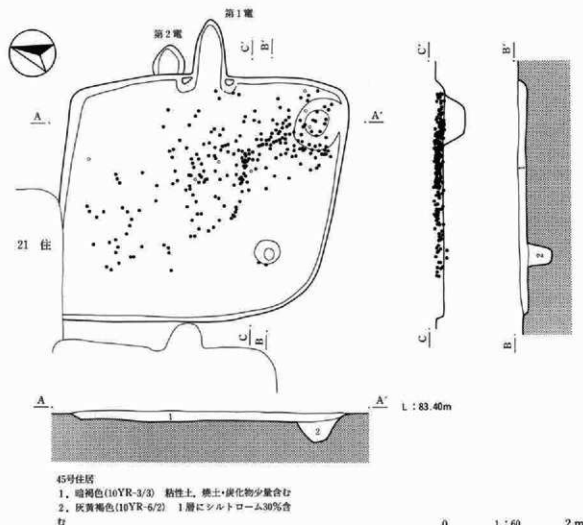
## 遺物の出土状態 (挿図番号211)

遺物は南東隅から2mの幅で対角線上を北西隅に向かって分布し、竈内遺物はなく、特に貯蔵穴付近に濃い分布が見られる。層位的には第1層の覆土中に密集して分布する。掲載遺物はすべてタイプCに分類され、小破片遺物の多さを物語っている。また摩滅の激しい土器には、タイプCの土師器が多い。

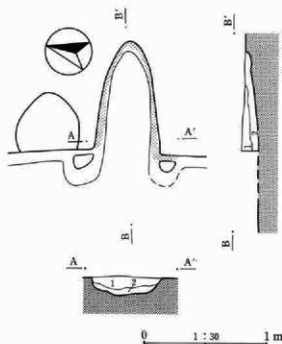
## 出土遺物 (挿図番号216 写真番号PL69)

図示遺物は、土師器環7、土師器甕2、須恵器鉢1、須恵器環蓋3、軽石1の14個体である。土師器環はいずれも丸底で比較的器高が浅い特徴をもち、体部が湾曲しそのまま立ち上がるものと、580のように体部中位から直線的に外傾する古い要素を残すものに分かれる。土師器甕583は球形胴の大甕であろう。

須恵器鉢575はロクロ成形がなされているために須恵器の範疇に含めたもので、酸化炭焼成・内黒・荒磨き等の手法は土師器そのものである。須恵器環蓋はリング状の紐をもち緩やかに端部に至り返りのない574と、平坦な頂部からほとんど落差なく端部に至り僅かな返りの痕跡を有する572と、ボタン状紐をもち天井部が浅く偏平な体部を有し返りを伴う573がある。



# IV 遺構と遺物

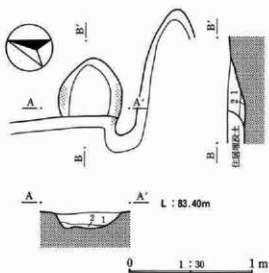


45号住居電

第1電

1. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土
2. 褐色(7.5YR-4/3) 橙色天井部剥落土。下部に灰層あり

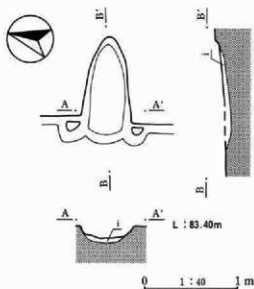
第212図 4 A I 区・45号住居第1電



第2電

1. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土
2. 褐色(7.5YR-4/3) 橙色天井部剥落土

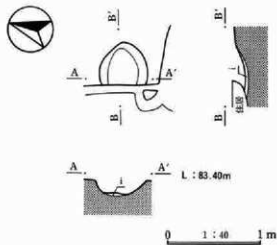
第213図 4 A I 区・45号住居第2電



掘り方土層

- i. 褐灰色(7.5YR-4/1) 灰層、炭化物・焼土含む

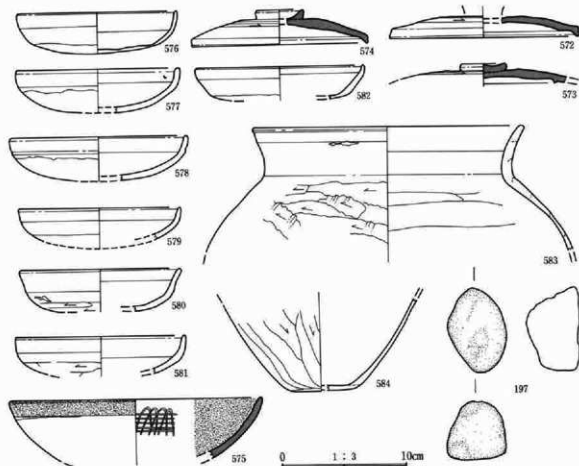
第214図 4 A I 区・45号住居第1電掘り方



掘り方土層

- i. 褐灰色(7.5YR-4/1) 灰層、炭化物・焼土含む

第215図 4 A I 区・45号住居第2電掘り方



第216図 4AⅠ区・45号住居址出土遺物

#### 4AⅠ区・46号住居址

遺 構 (挿図番号217 写真番号PL23)

本住居址は4AⅠ区東端の調査区境界線に沿って位置し、I12・73,83,84グリッドに属する。最近接する住居址は2m西に60号住が存在し、東は粘土採取のための擾乱による調査地外となっている。確認面の標高は83.35mを測る。

規模は東西2.60m・南北3.10mを測り、面積は8.06㎡である。平面形態は横長長方形プランを意図すると思われるが、北東隅と北西隅が隅丸を呈し北壁が若干短い。主軸方位はN-67°-Eを示す。

壁高は15cm弱と浅く、壁も立ち上がりが貧弱である。覆土は1層でさしたる変化はない。

床面は平坦で貼床が施され、南東隅には貯蔵穴が穿たれている。掘り方は床全体をくぼめて貼床をしているタイプである。

竈 (挿図番号218 写真番号PL23)

燃焼部の平面形態は方形を意識していると思われ、東壁南寄りの住居外に設けられ、僅かな袖と袖石が残る。煙道部は削平されており、燃焼部からの立ち上がりは中央部で若干の段を有するものの総じて弧を描くように煙道部へ続いている。覆土は3層に分かれるが、第2層の焼土層は電天井部の崩落土と思われ、天井全体が陥没した様相を示している。火床面は竈前から

絶対的位置

相対的位置

確認面

規模・形態

主軸方位

壁・覆土

床・掘り方

燃焼部

煙道部

火床面

#### IV 遺構と遺物

浅く地山を掘りくぼめて中央で一段上がり、側壁に若干の焼けが見られる。

電掘り方は認められない。

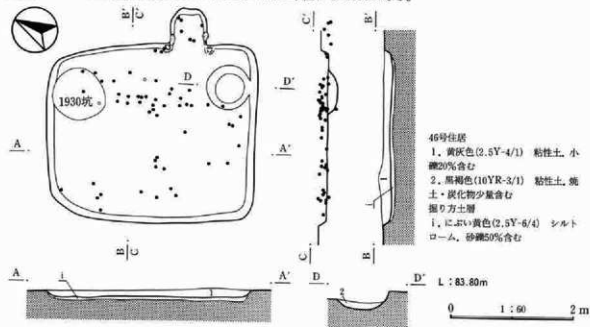
#### 遺物の出土状態 (挿図番号 217)

**遺物分布** 遺物は全般的に散在状況を示すが、住居の東半分と比較的多く分布し、竈内にも数個体混入している。層位的には第1層上面に遺物の分布が見られる。また須恵器に摩滅の著しいものがみられる。遺物のタイプは、タイプAが須恵器高台付椀587で、タイプBaが土師器甕589で、残りはタイプCである。

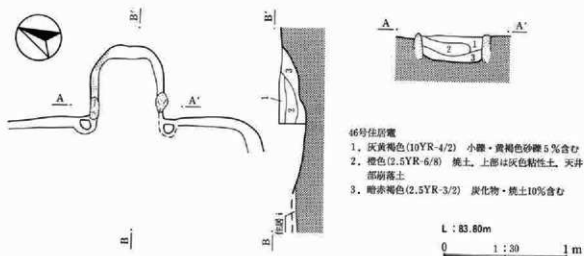
#### 出土遺物 (挿図番号 219 写真番号 PL69)

**図示遺物** 図示した遺物は、土師器甕3、須恵器環1、須恵器高台付椀3の7個体である。

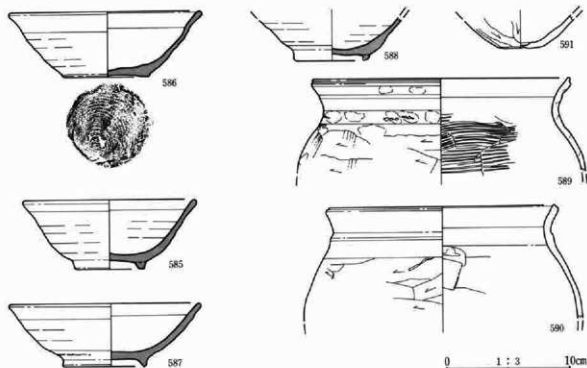
**土師器** 土師器甕は最大径を上位にもつ589と中位にもつ590がある。



第217図 4 A I 区・46号住居址



第218図 4 A I 区・46号住居址竈



第219図 4AⅠ区・46号住居址出土遺物

須恵器杯586はクロロ目が強く器内が薄い。須恵器高台付椀は高台の断面形が多様で、三角形(587)や台形状や釣り簾状の形態がある。

#### 4AⅠ区・47号住居址

遺 構 (挿図番号220・221 写真番号PL24)

本住居址は4AⅠ区東部南の住居址群中に位置し、112・82グリッドに属している。周囲の住居址は北東3mに60号住、西壁に接するようにして59号住が存在する。確認面の標高は83.55mを測る。

規模は東西2.54m・南北3.46mを測り、面積は $\text{m}^2$ である。平面形態は横長長方形で、すっきりした整美な形状を呈する。主軸方位はN-68°-Eを示し、46号住と同方向を指している。

壁高は20cmを測るが、壁は緩やかな立ち上がりを示している。覆土は3層に分かれ、第3層の三角堆積土の分量の多さが特徴的である他は、自然なレンズ状の埋没状況を示している。

床面は平坦で一部に貼床が施され、掘り方は3個の円形土坑が穿たれている。

竈 (挿図番号222・223 写真番号PL24)

燃焼部は本来平面形態が台形状を呈していたものと思われるが、使用の中から角がとれて現況では隅丸状をしている。設置場所は東壁南寄りの住居外に築かれ、袖は確認できなかった。

煙道部は削平されて確認できないが、燃焼部から煙道部への立ち上がりは垂直に近い。覆土は住居址埋没土と焼土層と炭化物層が互層をなしており、天井部の崩落状況がある程度推定できる。火床面は浅く掘りくぼめられ、炭化物層と焼土層が厚く堆積し、かつ燃焼部側壁が高熱で焼けている。

竈掘り方は楕円形に掘られ、本住居の貼床が施された後に該竈が構築された形跡が見られる。

絶対的位置  
相対的位置  
確認面

規模・形態  
主軸方位

壁・覆土

床・掘り方

燃焼部

煙道部

火床面

#### IV 遺構と遺物

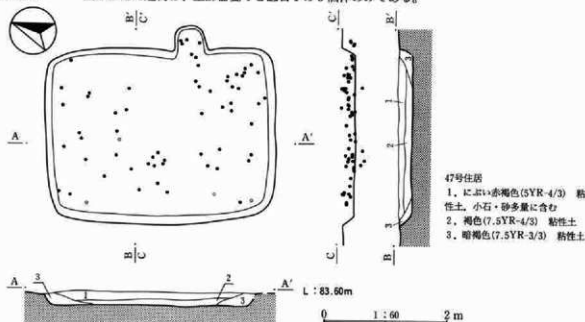
##### 遺物の出土状態 (挿図番号 224)

**遺物分布** 遺物は住居中央を除いて散漫に分布し、特に竈内および竈右側部分に比較的多い。層位的には第2層に遺物が含まれ、床下の土坑内にも分布が見られる。掲載遺物の土師器壺は、いずれも10個体以上の碎片になって出土している。遺物のタイプは、タイプBが土師器壺595で、残りはタイプCである。

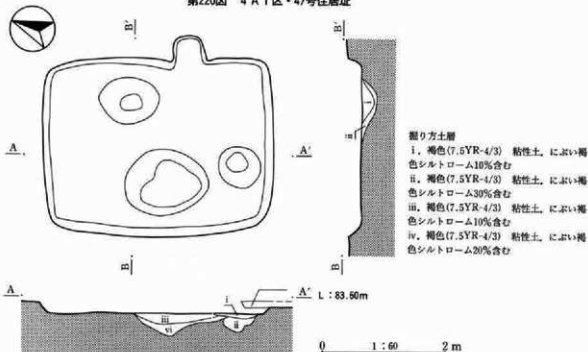
**タイプ**

##### 出土遺物 (挿図番号 224 写真番号 PL69)

**図示遺物** 図示した遺物は、土師器壺4と砥石1の5個体のみである。

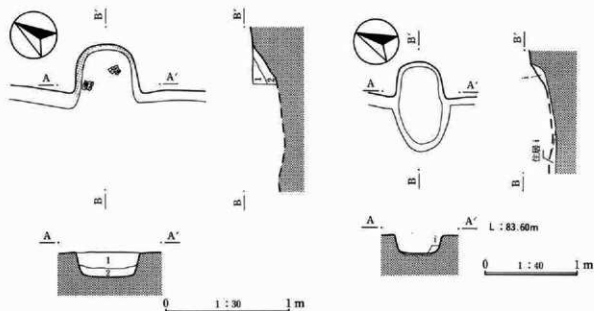


第220図 4A1区・47号住居址



第221図 4A1区・47号住居址掘り方

1 篠塚弧穴(4 A I区)・篠塚四反歩(4 A II区)地区



47号住居

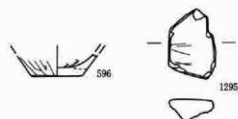
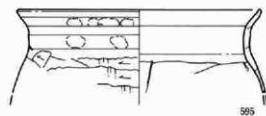
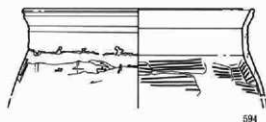
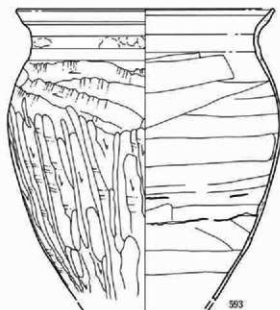
1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、黄褐色粘性土の混土  
2. 明赤褐色(5YR-5/6) 粘性土、焼土含む

掘り方土層

- i. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土、炭化物含む

第222図 4 A I区・47号住居址竈

第223図 4 A I区・47号住居址竈掘り方



0 1:3 10cm

第224図 4 A I区・47号住居址出土遺物

#### IV 遺構と遺物

- 土師器 土師器窯はコの字口縁臺の終末形態で、胴部と頸部の境界が曖昧になりつつある時期の所産と考えられる。593は胴部の張りが強く、他の2個体に比べて若干先行するものと思われる。
- 砥石 砥石は石材が変質アイサイトで、使用面が2面ある。

#### 4 A I 区・48号住居址

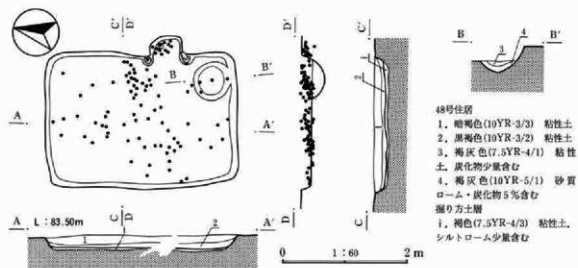
##### 遺 構 (挿図番号 225 写真番号 PL24)

- 絶対的位置 本住居址は4 A I 区の中央部の住居址密集地から南東方向に若干離れた一角に位置し、H 13・19グリッドに属している。周囲に近接する住居址は見当たらず、北東に8 mに28号住、北西8 mに45号住、南西10 mに34号住が所在している。確認面の標高は83.40 mを測るが、孤立的様相を呈している。
- 規模・形態 規模は東西2.08 m・南北2.86 mを測り、面積は5.95 m<sup>2</sup>のミニ住居址である。平面形態は横長長方形を呈し、小さい割りには整った形状を示している。主軸方位はN-78°-Eを示す。
- 壁・覆土 壁高は20 cmを測り、壁は南壁を除いて明確な稜線を描いている。覆土は2層に分かれ、レンズ状の堆積が見られる。
- 床 床面は貼床が施されているが若干の凹凸が見られ、南東隅には円形の貯蔵穴が穿たれている。
- 竈 (挿図番号 226 写真番号)

- 焼部 焼部は平面形態が基本的には方形プランで、東壁南寄りの住居外に築かれ、小振りの袖が残る。煙道部は削平されており、焼部から煙道部への立ち上がりは約45°である。覆土は2層に分かれるが、焼土は僅かで使用頻度が少なかったものと推測される。袖は軽石を若干含む軟質土で、袖に面取りをした凝灰岩を使用している。火床面も方形プランを意識したものらしく、焼部部の右側面はほぼ垂直に立ち上がっている。しかし焼部部左側部分は崩壊時に攪乱を受けたものと思われる。

##### 遺物の出土状態 (挿図番号 225)

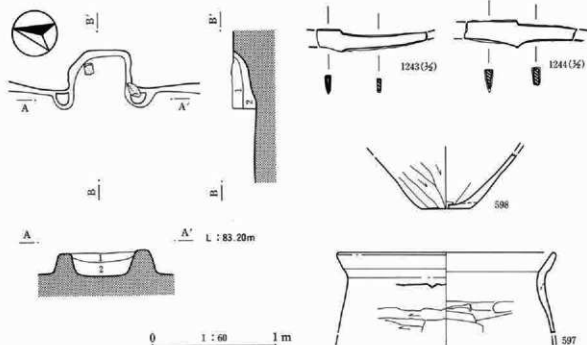
- 遺物分布 遺物は住居中央に濃い分布を示し、竈内にも多数の遺物が出土している。層位的にも床直
- タイプ 遺物が数多く見られるが、小破片が大部分を占める。掲載遺物のタイプは、すべてタイプCで



第225図 4 A I 区・48号住居址



I 篠塚孤穴(4AⅠ区)・篠塚四反歩(4AⅡ区)地区



48号住居竈

1. 灰黄褐色(10YR-5/2) 粘性土
2. 灰黄褐色(10YR-6/2) 粘性土、深黄色シルトローム

第226図 4AⅠ区・48号住居址竈

第227図 4AⅠ区・48号住居址出土遺物

ある。

出土遺物 (挿図番号 227 写真番号 PL69)

図示した遺物は、土師器甕2、刀子2の4個体である。

図示遺物

土師器甕597はコの字口縁甕の頸部と胴部の境界が全くなかったタイプである。

土師器

刀子は2個体とも破片ではあるが、刃部の減り具合から使用頻度の高さが窺える。

刀子

4AⅠ区・52号住居址

遺 構 (挿図番号 228 写真番号 PL25)

本住居址は、4AⅠ区中央部の26号住を中心とする住居址密集地の北西の一角に位置し、H 12・95, 96, H13・05, 06グリッドに属している。周囲は東方向に竪穴住居址群があり、北から西方向にかけて掘立柱建物跡群が近接している。該住居址の確認面の標高は83.10mを測り、竪穴と南東隅で26号住との切り合いが見られる。

規模は東西2.74m・南北3.52mを測り、面積は9.64㎡である。平面形態は横長長方形で、若干隅丸の傾向を有する。主軸方位はN-80°-Eを示している。

壁高は35~40cmを測り、壁は明瞭な稜線を見ている。覆土は2層に分かれ、西壁からの崩落土が三角堆積を構成している。

床面には貼床が施され、南東隅には楕円形の貯蔵穴が穿たれている。掘り方は床面全体を掘り下げるタイプで、厚い貼床が設けられている。

# IV 遺構と遺物

## 竈 (挿図番号 229・230 写真番号 PL25)

**焼部** 焼部は平面形態が釣り鐘状を呈し、東壁中央の住居外に築かれている。煙道部は削平を受けているが基部が20cm程残っており、焼部から煙道部への立ち上がりはほぼ垂直である。覆土は4つに分層され、第3層はローム質の電機築土であろうか。火床面には焼土が厚く堆積し、細電の右袖に近い部分には長い河原石が斜めに立っている。

電掘り方は楕円形の掘り込みが認められ、住居址の貼床の在り方から、住居掘り方構築時に一連の計画作業の下に電機築作業がなされたものと推定できる。

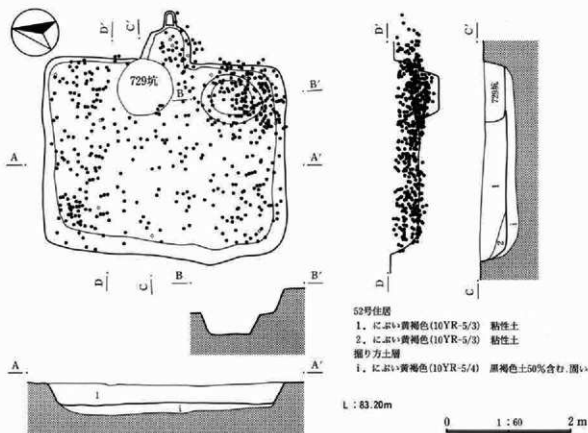
## 遺物の出土状態 (挿図番号 228・233)

**遺物分布** 遺物は住居址の全面にわたって濃い分布を示し、特に竈内と貯蔵穴付近と北壁際に密集している。層位的には第1層全面に遺物が分布し、特に貯蔵穴内とその上部に密度濃い分布を示している。遺物接合線はどの遺物も比較的長く引かれ、貯蔵穴を中心とした飛散状況を示しているものと思われる。掲載遺物のタイプは、タイプAが須恵器環622、須恵器高台付碗630で、タイプBaが須恵器環626、須恵器高台付碗633で、タイプBが土師器甕638、640で、残りはタイプCである。

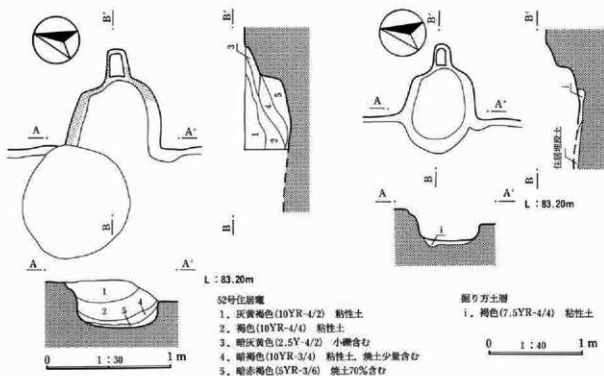
## 出土遺物 (挿図番号 231・232 写真番号 PL70)

**図示遺物** 図示した遺物は、土師器環1、土師器甕4、土師器小甕1、須恵器環5、須恵器高台付碗4、須恵器環蓋1、須恵器大甕1、平瓦破片1の18個体である。

**土師器** 土師器環636は器内の薄い作りで体部がS字状に屈曲する。土師器甕は辛うじて形態のわかる

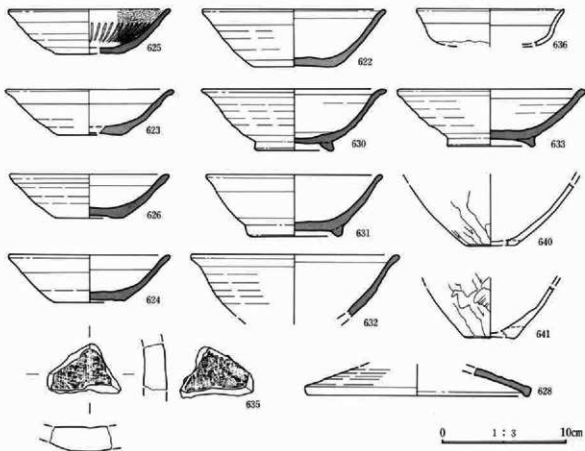


第228図 4 A | 区・52号住居址

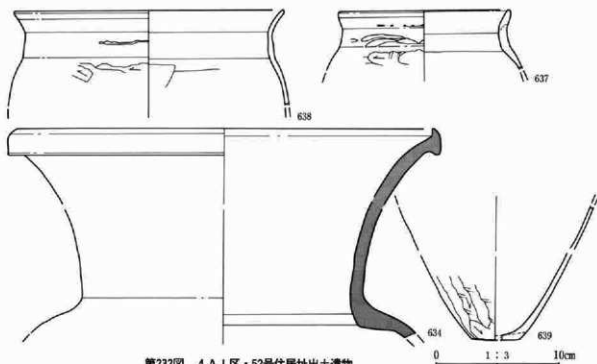


第229図 4AⅠ区・52号住居址電

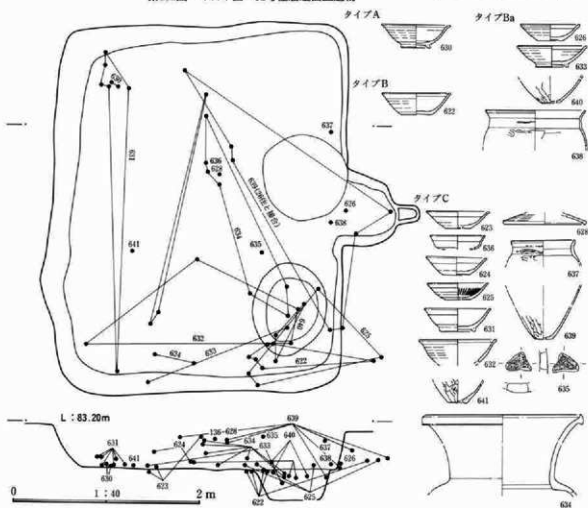
第230図 4AⅠ区・52号住居址電掘り方



第231図 4AⅠ区・52号住居址出土遺物



第232図 4 A I 区・52号住居址出土遺物



第233図 4 A I 区・52号住居址遺物接合分布図—土師器・須恵器

のが638で、コの字口縁臺の範疇に入れられる。

須恵器は、狭い底部から体部の広く開いた口径の大きいタイプで、口縁部に至り僅かに外反する。622は他の4個体に比べて大型で、しかも口径比が大きく先行する要素をもっている。また625は内面内黒土器で放射状磨擦度が施されている。須恵器高台付碗は高台の貼付位置が底部の端にあるもの(630)、底部と体部の境界にあるもの(633)、体部の端にあるものに分類される。また口縁部の外反が大きい630と僅かな631と殆どない633にも分かれる。

#### 4AⅠ区・53号住居址

遺 構 (挿図番号 235 写真番号 PL25)

本住居址は4AⅠ区東部の住居址集中区のほぼ中心に位置し、I 12・51グリッドに属する。絶対的位置、相対的位置、確認面  
近接する住居址は、44号住を中心とする住居址群がすぐ東に展開する。確認面の標高は83.40cmを測り、電と東壁の大部分を55号住と切り合っている。

規模は東西3.62m・南北2.74mを測り、面積は9.92㎡である。平面形態は縦長長方形で整然な形状を呈している。主軸方位はN-77°-Eを示す。

壁高は10cmと浅いが、壁の稜線は明瞭なラインを描いている。覆土は2層に分かれ、レンズ状堆積と三角堆積土である。

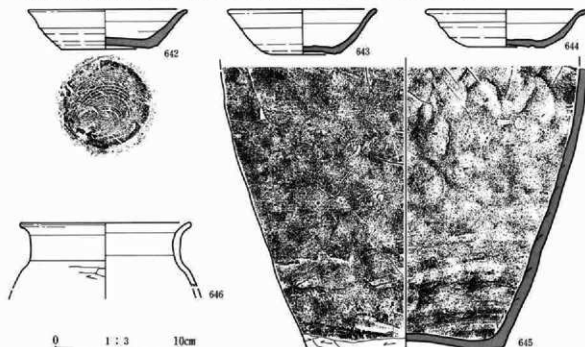
床面には全面に貼床が施され、東南隅には貯蔵穴が穿たれている。掘り方は床全体を掘り下げたタイプである。

電

55号住居址との切り合いから電は確認できなかった。

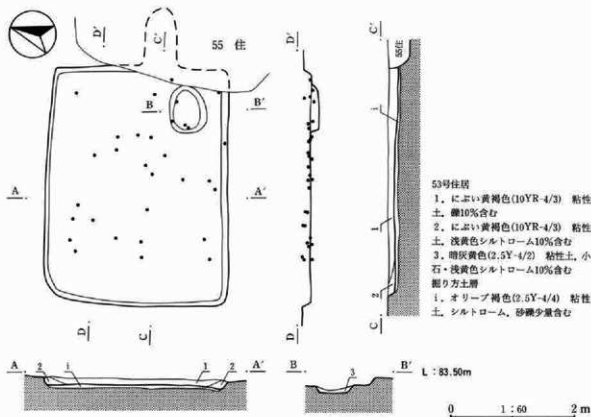
遺物の出土状態 (挿図番号 235)

遺物は住居址中央に散在し、量的にも少ない。層位的には床直遺物が比較的多く、上層には 遺物分布



第234図 4AⅠ区・53号住居址出土遺物

#### IV 遺構と遺物



第235図 4 A I 区・53号住居址

**タイプ** 少ない。掲載遺物のタイプは、タイプAが土師器小甕646、須恵器環643、須恵器甕645で、タイプBが644で、残りはタイプCである。

**出土遺物** (揮図番号 234 写真番号 PL70)

**図示遺物** 図示した遺物は、土師器小甕1、須恵器環3、須恵器甕1の5個体である。

**土師器** 土師器小甕はコの字口縁で台付甕の可能性もある。

**須恵器** 須恵器環は口径比が大きく器高の深い643が先行する要素を示し、644は口縁部が大きく外反し、642は器肉が厚く直線的な体部を有するという特徴をもつ。

#### 4 A I 区・54号住居址

**遺 構** (揮図番号 236・238 写真番号 PL26)

**絶対的位置** 本住居址は4 A I 区東部の住居址集中区の北側の一角に位置し、I 12・41グリッドに属する。

**相対的位置** 周囲には西3 mに03号竪穴状遺構が、南3 mには一連の53, 55, 61号住が存在している。確認面の標高は83.40 mを測る。

**規模・形態** 規模は東西2.38 m・南北2.60 mを測り、面積は6.19 m<sup>2</sup>である。平面形態は整美な正方形を呈している。主軸方位はN-65°-Eを示す。

**壁・覆土** 壁高は20 cm弱を測り、壁は浅いが稜線は明瞭である。覆土は2層に分かれ、崩落土と見られる三角堆積土が四囲から多量に堆積しているのが特徴的である。

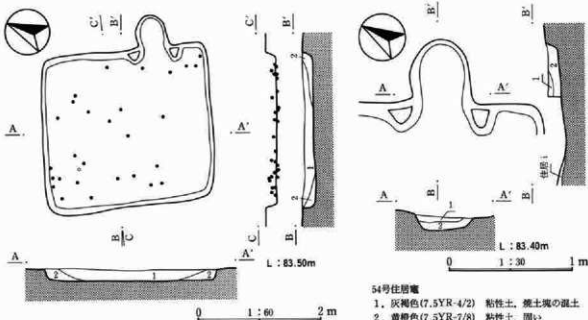
**床・掘り方** 床面には貼床が施され、掘り方は床全体を掘り下げるタイプで、中央西壁寄りに矩形状の土坑が穿たれている。

## 竈 (挿図番号 237 写真番号 PL26)

燃焼部は平面形態が釣り鐘状を呈し、東壁南寄りの住居外に築かれ小さい袖が残る。煙道部は認められないが、燃焼部から煙道部への立ち上がりはかなり急な立ち上がりを示すものと推定される。覆土は2層に分かれ、いずれも焼土を多量に含んでおり、特に第2層はレンガ状に硬く焼け、使用頻度の高さを物語っている。火床面は竈前から浅く窪み、竈掘り方は認められない。

## 遺物の出土状態 (挿図番号 236)

遺物量は少なく、南壁周辺を除き散在的状況を示している。層位的には床直遺物が比較的顕著である。土師器環類は摩滅の著しいものが目立ち、遺物廃棄後のあり方が問題となる。掲載

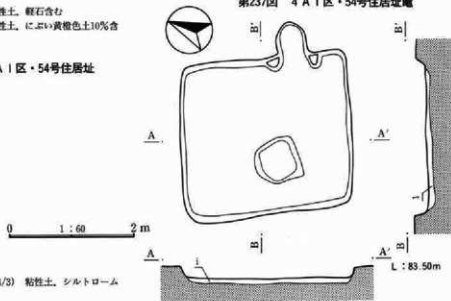


## 54号住居

1. 灰褐色(5YR-4/2) 粘性土、軽石含む
2. 灰褐色(5YR-4/2) 粘性土、にぶい黄褐色土10%含む

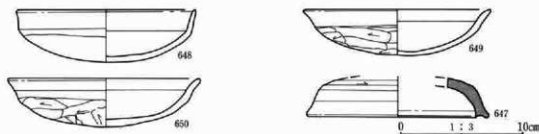
第236図 4A I区・54号住居址

第237図 4A I区・54号住居址竈



第238図 4A I区・54号住居址掘り方

#### IV 遺構と遺物



第239図 4 A I 区・54号住居址出土遺物

**タイプ** 遺物のタイプは、タイプAが土師器648、土師器盤状649で、タイプBが須恵器環蓋647で、土師器盤状650はタイプCである。

**出土遺物** (挿図番号239 写真番号 PL70)

**図示遺物** 図示した遺物は、土師器環3、須恵器環蓋1の4個体である。

**土師器** 土師器環は、丸底から体部中位に稜線を有し口縁部が直立する648と、盤状環で口縁部の屈曲するAタイプの649、650がある。

**須恵器** 須恵器環蓋647は天井部が高く、平坦な頂部から急激に口縁部に至り返りを有する。

#### 4 A I 区・55号住居址

**遺 構** (挿図番号240 写真番号 PL26)

**絶対的位置** 本住居址は4 A I 区東部の住居址集中区の一隅に位置し、I 12・51.52グリッドに属している。  
**相対的位置** 周囲は密着する住居址群に囲繞されて、激しい切り合いを示している。確認面の標高は83.40m  
**確認面** を測り、該住居址は西壁を53号住と、北東隅を61号住と切り合い、南壁では56号住と接している。

**規模・形態** 規模は東西3.10m・南北3.44mを測り、面積は10.66㎡である。平面形態は横長方形プランを意図したようだが、西壁の長さが短く、台形状を呈している。主軸方位はN-85°-Eを示す。  
**主軸方位** 壁高は40cmを測り、このタイプの小住居址としては異例の深さを持ち、壁も明瞭な立ち上がりを見せる。覆土は3層に分かれ、ごく自然な埋没状態である。  
**壁** 床面は東壁付近で貼床に若干の凹凸が見られるものの概ね平坦であり、掘り方は床全体を掘り下げるタイプである。  
**覆土** 床面は東壁付近で貼床に若干の凹凸が見られるものの概ね平坦であり、掘り方は床全体を掘り下げるタイプである。  
**床・掘り方**

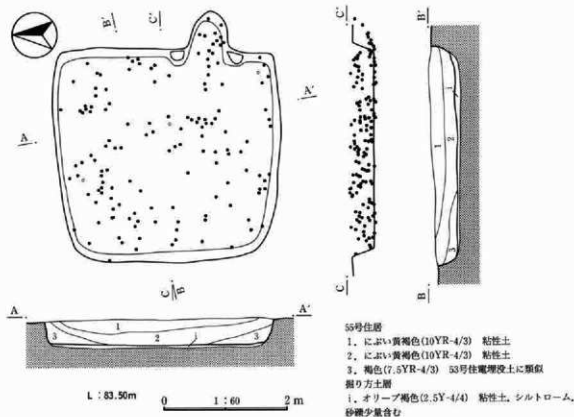
**竈** (挿図番号241 写真番号 PL26)

**燃焼部** 燃焼部の平面形態は釣り鐘状で、東壁南寄りの住居外に築かれ僅かに袖が残る。煙道部は削平されて認められず、燃焼部から煙道部への立ち上がりは弧状に伸びていく。覆土は3層に分かれ、第3層が天井部の崩落土と考えられる。袖は地山の掘りのこしと考えられる。火床面は浅くぼみ、燃焼部の側壁は垂直に近い立ち上がりを示している。

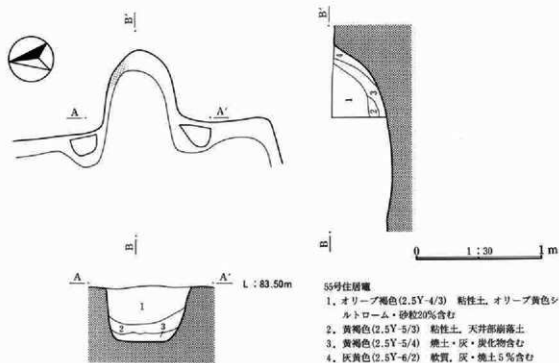
**遺物の出土状態** (挿図番号240)

**遺物分布** 遺物は住居址全面に平均的に分布し、竈内にも多数の遺物が認められる。層的には各層に等質に分布し、竈内遺物は火床面にはりついた状態で検出された。また須恵器類に著しい摩滅状況が窺われる。掲載遺物のタイプは、タイプAが土師器659、660で、須恵器高台付碗653、654、657で、残りはタイプCと明らかに上下層に分かれる。

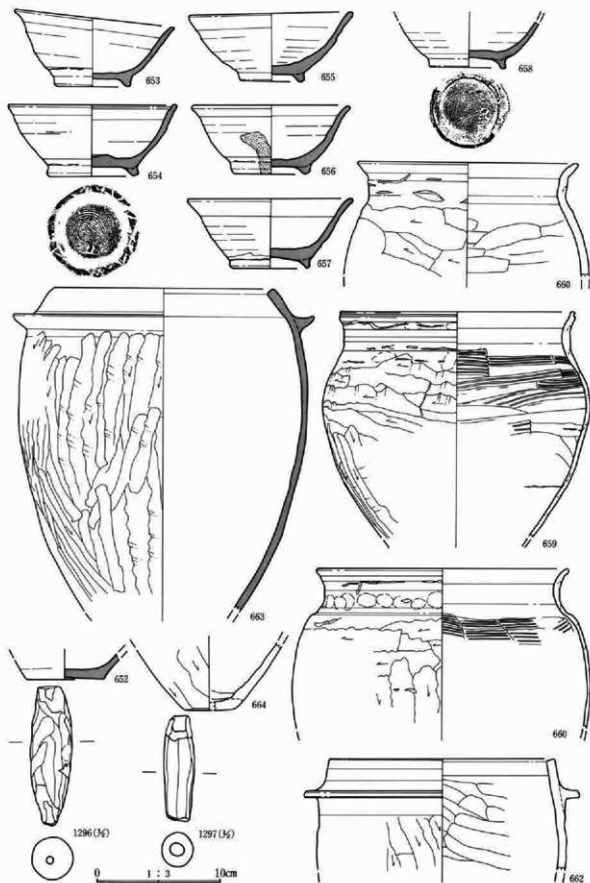




第240図 4 A I区・55号住居址



第241図 4 A I区・55号住居址電



第242図 4 A I 区・55号住居址出土遺物

## 出土遺物 (挿図番号242 写真番号PL70)

図示遺物は、土師器甕4、須恵器坏1、須恵器高台付碗5、羽釜2、土鍾2の14個体である。図示遺物

土師器甕はコの字口縁甕の特徴を若干残している661と、土師器甕の最終段階の様相を示す土師器  
(コの字口縁が崩れて、櫛状工具による胴部内面横撫で) 659, 660がある。

須恵器高台付碗は658を除いて、高台の角が丸まった形状を示し、貼付位置も底部の端である。須恵器  
ところが658は高台の角が角張り、貼付位置も体部と底部の境界になされている。

羽釜は明らかに2タイプに分かれ、鉤が三角形で口縁部が内傾する663と、矩形に近い台形状 羽釜  
の鉤と直立する口縁部の662で、どちらも鉤付近まで縦割り痕が見られ、羽釜のこしきタイプと  
考えられる。

## 所 見

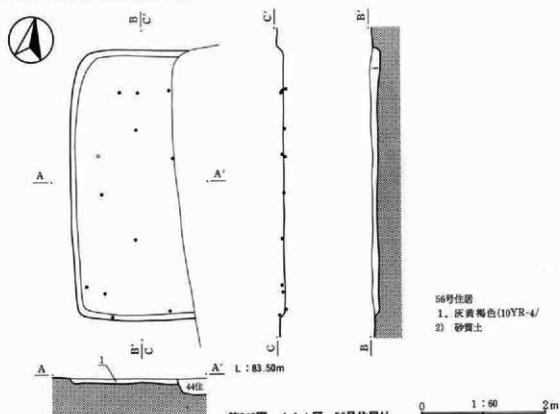
該住居址出土の煮沸土器は、第2層床直出土の土師器甕と第1層上面出土の羽釜があり、住  
居址が完全埋没するまでの時間幅の中で、土師器甕から羽釜への交代が行われた可能性がある。

## 4AⅠ区・56号住居址

## 遺 構 (挿図番号243)

本住居址は4AⅠ区東部の住居址集中区の一隅に位置し、I 12・52, 62グリッドに属する。周 絶対的位置  
囲は切り合いの激しい住居址群が連なり、該住居址は全体の1/2強の東部分を44号住と切り合 相対的位置  
い、北壁で55号住と接している。確認面の標高は83.45mを測る。 確認面

規模は南北4.10mが測れるのみで、面積・平面形態とも不明である。また主軸方位は推測だ 主軸方位  
がN-81°-Eを示すものと思われる。



#### IV 遺構と遺物

壁・覆土 壁高は10cm弱と極端に浅く、壁は不明瞭である。覆土は1層しか確認できなかった。

床 床面は若干の凹凸を示す地床面である。

#### 電

44号住居址により電が削平されている。

#### 遺物の出土状態 (挿図番号 243)

遺物分布 遺物は僅かに住居址全面に点在する。層位的には数少ない遺物のほとんどが床直であるが、小破片で検出されている。

#### 出土遺物

図示遺物 小破片のみで図示しうる遺物はない。

#### 4 A I 区・57号住居址

#### 遺 構 (挿図番号 244・255 写真番号 PL27)

絶対的位置  
相対的位置  
埋蔵面 本住居址は4 A I 区東部の住居址集中区の北端に位置し、I 12・22, 32グリッドに属する。周囲の住居址は、東南4 mに58号住、南西6 mに54号住が所在している。確認面の標高は83.30 mを測る。

規模・形態 規模は東西3.96m・南北2.80mを測り、面積は11.09㎡である。平面形態は縦長長方形プランであるが、東壁の電左壁が張り出しており、これはむしろ電の右側を棚として利用するための構造と理解できる。主軸方位はN-65°-Eを示す。

壁・覆土 壁高は15~25cmと東壁が若干深く、壁の立ち上がりは明瞭でない。覆土は3層に分かれ、後世の土坑による覆土を除いては自然な埋没状態である。

床・掘り方 床面は全体に貼床が施され、掘り方は全体が掘り下げられた他に、南壁に接して円形の土坑が穿たれている。

#### 電 (挿図番号 246 写真番号 PL27)

燃焼部 燃焼部の平面形態は半円状を呈し、東壁南寄りの住居内に設けられている。煙道部は削平を受けて認められないが、燃焼部から煙道部への立ち上がりは約45°である。覆土は3層に分けられ第2層が電天井部の崩落土と見られる。袖は電左の壁を張り出させるために左袖が長く構築されている。火床面はほとんど住居址床面から窪んでいないが、燃焼部側壁は赤く焼けている。

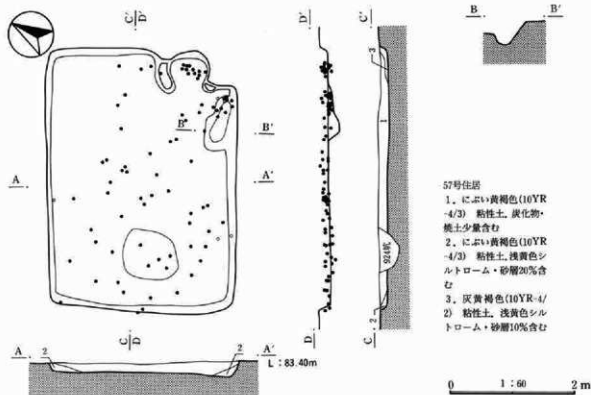
#### 遺物の出土状態 (挿図番号 244)

遺物分布 遺物は東北隅を除いて散在しており、特に電内およびその周辺に若干濃い分布が見られる。層位的には床直遺物が多く、住居址廃棄時直後からの遺物投棄が推測される。掲載遺物のタイプは、タイプAが土師器壺672, 673, 土師器台付壺1076, 紡錘車1298で、タイプBaが土師器杯668で、タイプBが土師器壺670, 須恵器杯665で、残りはタイプCである。

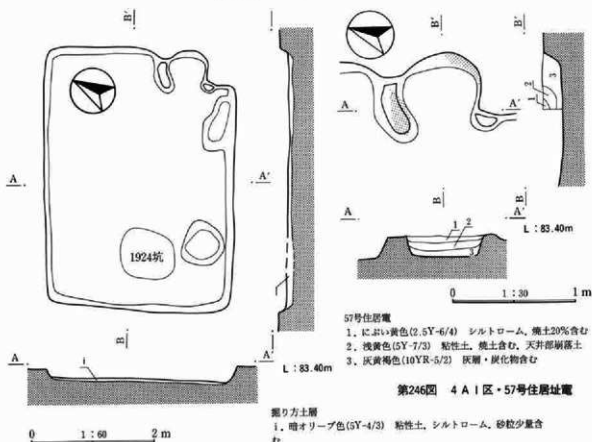
#### 出土遺物 (挿図番号 247 写真番号 PL71・72)

図示遺物 図示した遺物は、土師器壺1, 土師器壺3, 土師器台付壺1, 須恵器杯2, 須恵器杯蓋1, 刀子1, 紡錘車1の10個体である。

土師器 土師器杯668は平底から直線的に開く体部を有する。土師器壺は672, 673は胴部最大径が上位にあり口縁部径を上回り、頸部横削りが施され口縁部が立ってくる。土師器台付壺1076は胴部最大径を中位にもち、体部に横削り調整が施される。



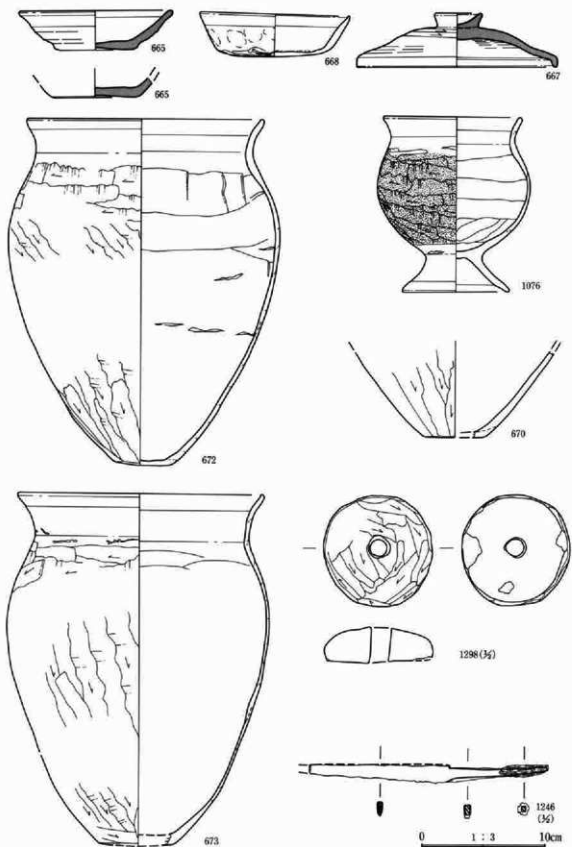
第244図 4AⅠ区・57号住居址



第246図 4AⅠ区・57号住居址

第245図 4AⅠ区・57号住居址掘り方

IV 遺構と遺物



第247図 4 A | 区・57号住居址出土遺物

須恵器坏蓋667は天井部が高くボタン状紐で、急な傾斜で口縁部に至り返りをもたない。須恵器  
紡錘車1298は珍しい土製品である。紡錘車

該住居址の遺物はタイプCと分類されても、かなり住居址廃棄時に近い所産と考えられる。

#### 4AⅠ区・58号住居址

遺 構 (挿図番号248 写真番号PL27)

本住居址は4AⅠ区東部の住居址集中区の東縁に位置し、I12・32,42,43グリッドに属する。絶対的位置  
周囲の住居址とはほぼ等間隔に距離をおき、北に57号住、西に54号住、南に61号住が所在する。相対的位置  
確認面の標高は83.40mを測る。確認面

規模は東西3.06m・南北2.46mを測り、面積は7.53㎡のミニ住居址である。平面形態は整  
な縦長長方形を呈している。主軸方位はN-61°-Eを示す。規模・形態  
主軸方位

壁高は20cm弱だが、壁は明瞭なラインを描いている。覆土は2層に分かれ、三角堆積とレン  
ズ状堆積の自然な埋没状態を示している。壁・覆土

床面は平坦で貼床が施され、ミニ住居址には異例な4個の柱穴痕が検出された。掘り方は、  
床全体が掘り下げられ貼床されるタイプである。床・掘り方

竈 (挿図番号249・250 写真番号PL27)

燃焼部は平面形態が方形を呈し、本来的なプランのありようを示し、東壁南寄りの住居外に  
築かれ小さな袖を有する。煙道部は削平されており、燃焼部から煙道部への立ち上がりは70°程  
の急角度である。覆土は2層に分かれ第2層が竈天井の崩落土であろう。袖は地山の掘り残し  
であることが予想される。火床面は左側に若干傾いており、右側壁は垂直に近い立ち上りを  
示す。竈掘り方は竈前から掘り込まれ、楕円形状の平面形態である。燃焼部  
煙道部  
火床面

遺物の出土状態 (挿図番号248)

遺物は小破片が散在する形で分布し、竈内に比較的まとまっている。層位的には第1層下面  
に分布している。掲載遺物のタイプはすべてタイプCである。遺物分布  
タイプ

出土遺物 (挿図番号251 写真番号PL72)

図示遺物は、土師器坏2、土師器壺2、土師器甕1、須恵器壺破片1、土鍾1の7個体であ  
る。図示遺物

土師器坏677は盤状坏で、Bタイプに属する直線的な体部を有する。土師器壺は長胴壺タイプ  
の679と球形胴の680がある。甕674の出土は珍しい。土師器

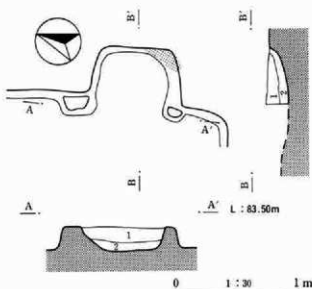
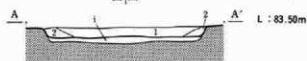
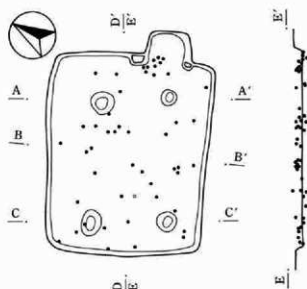
#### 4AⅠ区・59号住居址

遺 構 (挿図番号252 写真番号PL28)

本住居址は4AⅠ区住居址集中区の南端に位置し、I12・81,82,92グリッドに属する。近接  
する住居址は、該住居址の竈と接するようにして47号住が存在する。確認面の標高は83.50mを  
測る。絶対的位置  
相対的位置  
確認面

規模は東西2.58m・南北2.10mを測り、面積は5.42㎡のミニ住居址である。平面形態は南壁  
がトレンチによる擾乱を受けているが、壁下部が辛うじて残存していたため横長長方形と確認  
規模・形態

IV 遺構と遺物



第249図 4 A I 区・58号住居址電



58号住居

1. 暗褐色(7.5YR-3/3) 粘性土、炭土・炭化物少量含む

2. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、シルト・ローム・砂層10%含む

3. 黒褐色(10YR-3/1) 粘性土、炭土少量含む

掘り方土層

i. 暗オリーブ色(5Y-4/3) 粘性土、シルト・ローム、砂粒少量含む

第248図 4 A I 区・58号住居址

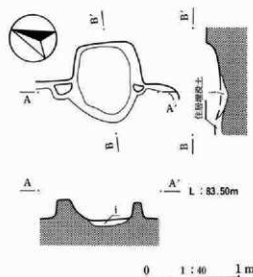
58号住居電

1. にぶい黄褐色(10YR-5/3) 粘性土、褐色土・にぶい黄色シルト・ローム20%含む

2. 黄褐色(2.5Y-5/3) 粘性土、天井部崩落土

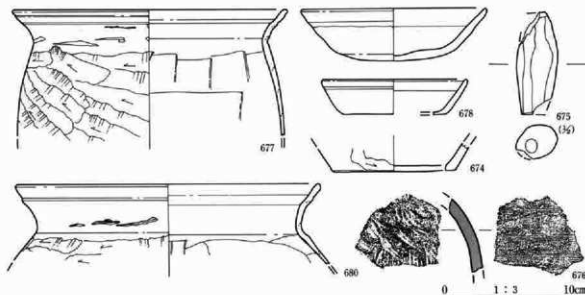
掘り方土層

i. 暗灰黄色(2.5Y-4/2) 灰層・炭土含む



第250図 4 A I 区・58号住居址電掘り方





第251図 4AⅠ区・58号住居出土遺物

できた。主軸方位はN-59°-Eを示している。

主軸方位

壁高は平均20cm強を測り、南壁を除いては明確な稜線を描いている。覆土は3層に分かれ、ほぼ自然な堆積状態である。

壁・覆土

床面には貼床が施され、掘り方は住居中央部を掘り残すタイプだが掘り込みは浅い。

床・掘り方

電 (押図番号253 写真番号PL28)

燃焼部の平面形態は釣り鐘状で、東壁南寄りの住居外に築かれ小さな袖が残っている。煙道部は欠損しており僅かに残存する電部分からは煙道部への立ち上がりは窺い知れない。覆土は2層で、第1層はおそらく天井崩落土の焼土層である。火床面は若干の凹凸が見られる。

燃焼部

煙道部

火床面

電掘り方は認められない。

遺物の出土状態 (押図番号252)

遺物の分布は希薄で、電内を除いて住居址の南半分にはほとんど見られない。層位的には分布第1層よりも三角堆積の第2, 第3層に含まれる。掲載遺物のタイプは、タイプAが須恵器高台付椀681, 鉄鏝1247で、残りはタイプCである。

遺物分布

タイプ

出土遺物 (押図番号254 写真番号PL72)

図示した遺物は、須恵器高台付椀2, 灰釉陶器高台椀1, 鉄鏝1の4個体である。

図示遺物

須恵器高台付椀681は高台が剥がれており、一見須恵器坏のようなが須恵器坏が矮小化した時期の所産である。灰釉陶器高台椀683は重ね焼き痕が内部に顕著で、釉が内外面に施されている。

須恵器

#### 4AⅠ区・60号住居址

遺 構 (押図番号255・256 写真番号PL28)

本住居址は4AⅠ区東部の住居址集中区南端の一角に位置し、I12・73, 83グリッドに属している。周囲の住居址は東南2mに46号住, 西南3m47号住が所在している。確認面の標高は83.60mを測る。

絶対的位置  
相対的位置  
確認面

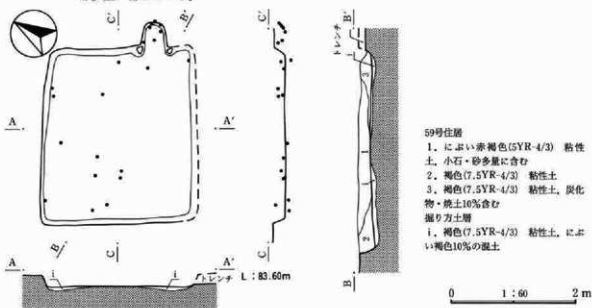
規模は東西2.80m・南北2.81mを測り、面積は7.87㎡のミニ住居址である。平面形態は正方

規模・形態

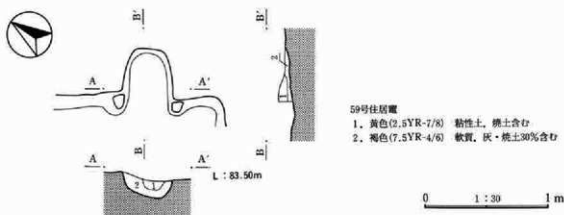
# IV 遺構と遺物

**主軸方位** ランを意図した隅丸方形で、北西と南西のコーナーが隅丸形をなしている。主軸方位はN-87°-Eを示す。

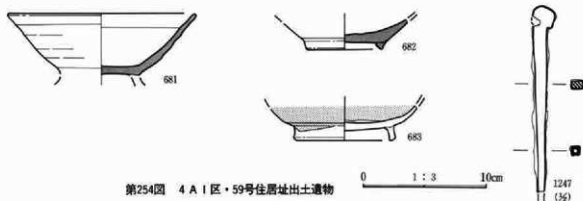
**壁・覆土** 壁高は15cm弱と浅く、壁も不明瞭な立ち上がりである。覆土は1層で、地山の黄褐色砂礫土を多量に含んでいる。



第252図 4 A I 区・59号住居址



第253図 4 A I 区・59号住居址



第254図 4 A I 区・59号住居址出土遺物

床面には貼床が施されているが中央部に凹凸が見られ、掘り方は中央部を掘り残して貼床するタイプである。また北壁に沿って円形の土坑が穿たれている。

#### 竈 (挿図番号257 写真番号PL28)

燃焼部の平面形態は凸部の低い釣り鐘状を呈し、東壁ほぼ中央の住居外に築かれている。削平が大幅で煙道部への立ち上がりは明らかなでなく、覆土も明らかな傾斜をもっている。

#### 遺物の出土状態 (挿図番号255)

遺物は散在的な分布を示すが、特に竈周辺に密度が高い。層位的にも竈周辺の集中は際立っている。掲載遺物のタイプは、タイプBが須恵器高台付椀686で、残りはタイプCである。

#### 出土遺物 (挿図番号258 写真番号PL72)

図示した遺物は、土師器甕1、須恵器高台付椀2、羽釜1、鉄鍬2の6個体である。

土師器甕688は、口唇部の断面形が三角形の土師器甕終末期のタイプである。

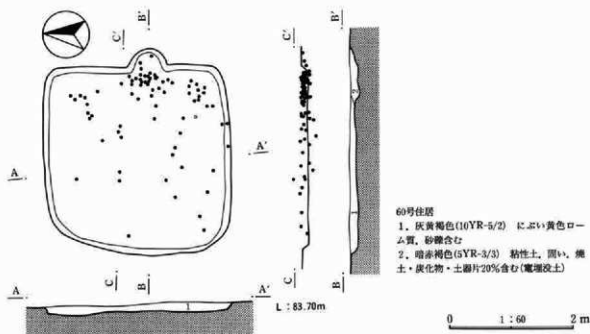
須恵器高台付椀は高台の形態から、686(旧)と685(新)に若干の時間差があるようだ。

#### 4AⅠ区・61号住居址

#### 遺構 (挿図番号260 写真番号PL29)

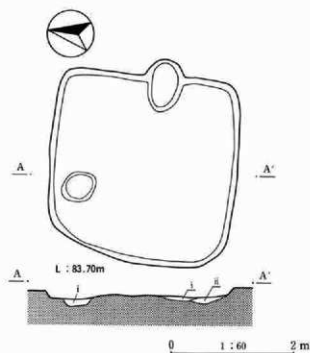
本住居址は、4AⅠ区東部の住居址集中区の44号住を中心とした重複住居址群の一角に位置し、I 12・42.52グリッドに属している。周囲には、3m北東に58号住、3m北西に54号住、南には切り合って55号住が存在する。確認面の標高は83.50mを測り、55号住と南西隅で大きく切り合っている。

規模は東西2.50m・南北2.30mを測り、面積は㎡のミニ住居址である。平面形態は縦長方形を呈するものと推測される。主軸方位はN-86°-Eを示し、60号住とはほぼ同方向を指している。



第255図 4AⅠ区・60号住居址

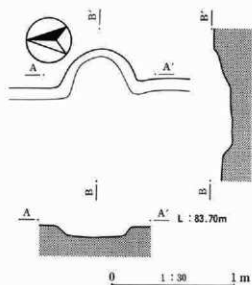
# IV 遺構と遺物



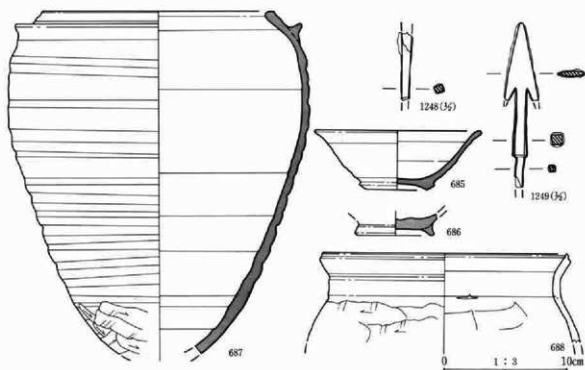
掘り方土層

- i. 灰褐色 (5YR-5/2) 粘性土。灰黄褐色50%含む
- ii. におい赤褐色 (5YR-4/3) 粘性土。灰黄褐色40%含む

第256図 4 A I 区・60号住居址掘り方



第257図 4 A I 区・60号住居址竈



第258図 4 A I 区・60号住居址出土遺物

壁高は25cmを測り、このタイプの住居址としては深く、壁も明瞭な稜線を呈している。覆土 壁・覆土は2層に分かれ、自然な埋没状態が窺える。

床面には貼床が施されるが、中央部で凹凸が見られ、掘り方は床全体を掘り下げ貼床するタイプである。

竈 (挿図番号259 写真番号PL29)

燃焼部の平面形態は釣り鐘状で、東壁中央の住居外に築かれ、袖は認められない。煙道部は欠損しているが、燃焼部から煙道部への立ち上がりはおおよそ70°と推定される。覆土は明らかでなく、袖も認められない。火床面は平らで側壁は約45°で立ち上がる。

遺物の出土状態 (挿図番号260)

遺物は竈周辺を除いて壁際にはほとんど分布せず、住居中央に集中している。層位的には竈前を除いて、床直の遺物が多い。掲載遺物のタイプは、タイプAが土師器環689、690で、タイプBaが土師器環691、土師器甕694、695で、タイプBが土師器盤状杯692で、土師器鉢693はタイプCに分類される。

出土遺物 (挿図番号261 写真番号PL73)

図示した遺物は、土師器環4、土師器鉢1、土師器甕2の7個体である。

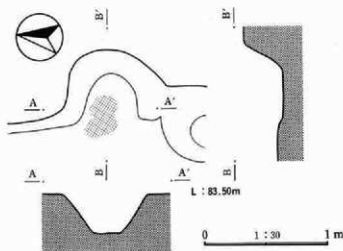
土師器環は丸底で器高が比較的低く体部の湾曲するタイプが、口径13cm(690)と15cm(689)と18cm(691)に法量分化する。土師器環692は盤状杯のAタイプである。土師器鉢693は体部に斜め削りが施され、開いた体部が口縁部でさらに外反する。土師器甕は双方とも長胴甕で頸部に僅か横削りが入り、694は胴部縦削りで695は中位に胴部斜め削りが入っている。

#### 4AⅠ区・64号住居址

遺 構 (挿図番号262 写真番号 PL29)

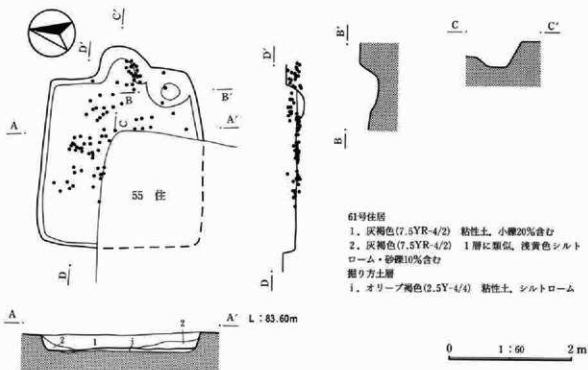
本住居址は4AⅠ区東の飛び地の一角に位置し、I11・89,99グリッドに属する。周囲の住居址は北東5mに39号住、北に0.5mの間隔をおいて65号住、西5mに66号住が所在している。確認面の標高は83.70mを測るが、北壁際ではさらに低くなる。

規模は東西3.36m・南北2.74mを測り、面積は9.20㎡である。平面形態は縦長長方形で整美な形状を呈している。主軸方位はN-136°-Wを示す。

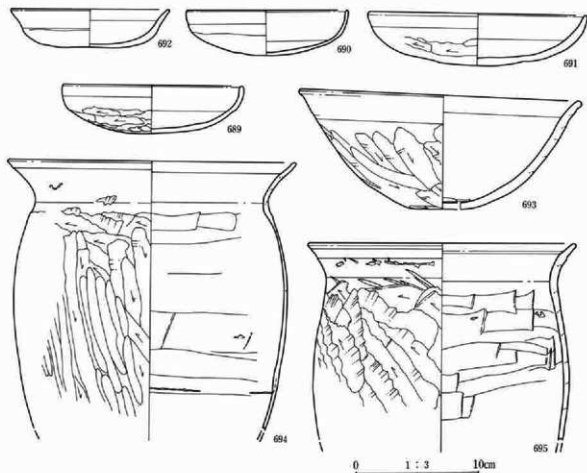


第259図 4AⅠ区・61号住居址竈

IV 遺構と遺物



第260図 4 A I 区・61号住居址



第261図 4 A I 区・61号住居址出土遺物

壁高は最大で20cm最小で10cmを測り、各壁が不揃いである。覆土は4層に分かれ、東壁付近 壁・覆土の土層に乱れが見られる。

床面は貼床が施されず地床面で、床全体に凹凸が見られる。

床

竈 (挿図番号 263 写真番号 PL29)

燃焼部の平面形態は釣り鐘状で、西壁ほぼ中央に設けられ袖が残る。煙道部は削平されて認められないが、燃焼部から煙道部の立ち上がりは急角度である。覆土は2層に分かれ、第2層が崩落土と見られる。袖は粘質土で築かれしっかりしている。火床面は比較的平らで、側壁の焼けの割りには、使用頻度はそれほど高いものではなかったことが推測される。

燃焼部

煙道部

火床面

竈掘り方は認められない。

遺物の出土状態 (挿図番号 262)

遺物は住居址全体に分布し、どちらかと言えば南半分に多い傾向がある。層位的には第2層に分布の中心があり、竈内遺物は火床面に付着している。掲載遺物のタイプは、タイプAが土師器環698で、タイプBが土師器環697で、残りはタイプCである。

遺物分布

タイプ

出土遺物 (挿図番号 264 写真番号 PL73)

図示した遺物は、土師器環4、土師器環1の5個体である。

図示遺物

土師器環697は口径21cmの大型環で、他の3個体はいずれも口径12cmタイプである。土師器環702は長胴甕で頸部に横窓削り調整がはいる。

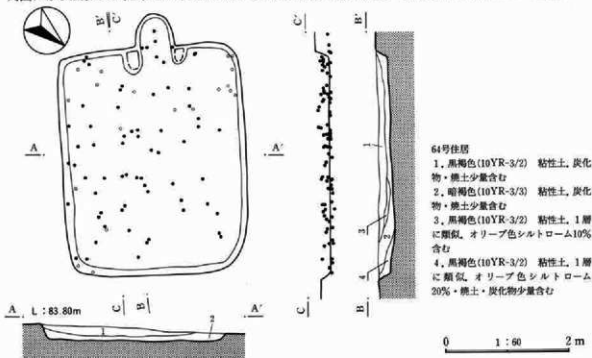
土師器

#### 4AⅠ区・65号住居址

遺 構 (挿図番号 265・266 写真番号 PL30)

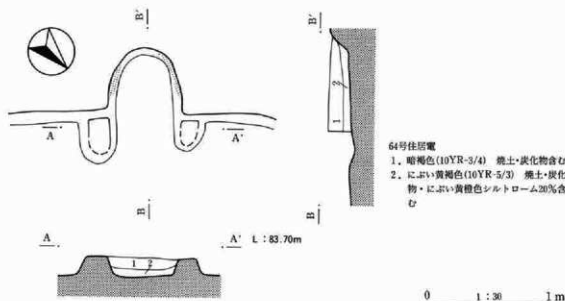
本住居址は4AⅠ区東の飛び地の一角に位置し、I11・78,79,88,89グリッドに属している。周囲には5m東に39号住、0.5m南に64号住、3m南西に66号住が存在する。確認面の標高は83。

絶対的位置  
相対的位置  
確認面



第262図 4AⅠ区・64号住居址

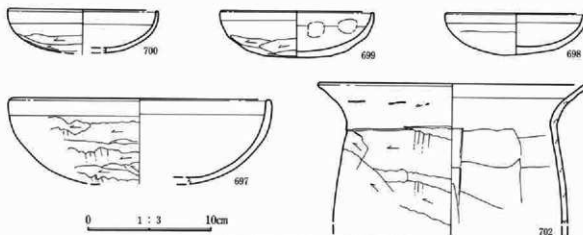
# IV 遺構と遺物



64号住居電

1. 暗褐色(10YR-3/4) 焼土・炭化物含む
2. におい黄褐色(10YR-5/3) 焼土・炭化物・におい黄褐色シルトローム20%含む

第263図 4 A I 区・64号住居址電



第264図 4 A I 区・64号住居址出土遺物

50mを測る。

**規模・形態** 規模は東西4.50m・南北5.10mを測り、面積は22.95 m<sup>2</sup>である。平面形態は横長長方形を呈している。主軸方位はN-94°-Wを示す。

**壁・覆土** 壁高は30cm強で、壁も比較的シャープな立ち上がりを示している。覆土は4層に分かれ、第4層は壁崩落土と推測される。

**床** 床面は貼床が施されず地床面で、床面上には4個の柱穴痕と西南隅に貯蔵穴が穿たれている。

**電** (拝回番号267・268 写真番号PL30)

**燃焼部** 燃焼部の平面形態は若干変形した釣り鉢状で、西壁南寄りの住居内からほぼ1/3を住居外へ突出し、長い袖が残る。煙道部は削平を受けているが、燃焼部から煙道部への立ち上がりは深い掘り込みのため垂直に近い形で明瞭に残る。覆土は3層に分かれ、第1層は住居址覆土で、第2層が電天井部崩落土でクラックが入り、第3層は焼土・炭化物・灰を多量に含んでいる。覆土のあり方はこの電が住居廃棄の際破壊されたことを示すものと考えられる。袖はシルト質ロームで築かれている。火床面は使用により浅く窪み、側壁はほぼ90°で立ち上がる。

**火床面**



電掘り方は使用面から10cm掘られ、粘質土と砂礫の混土層が貼られている。

#### 遺物の出土状態 (挿図番号265・270)

遺物は住居全体に分布し、若干南半分に濃い分布が認められる。層位的には各層に分布するが、第1層の遺物密度が第2層よりも濃い傾向にある。遺物接合線は竈を中心に引かれ、竈を中心とした南西隅1/4に集中している。また土師器甕723は完形で竈内から出土している。掲載遺物のタイプは、タイプAが土師器甕723、須恵器杯705で、タイプBaが土師器杯710で、タイプBが土師器杯714、土師器甕726で、残りはタイプCである。

#### 出土遺物 (挿図番号269 写真番号PL73)

図示した遺物は、土師器杯12、土師器甕4、須恵器杯1、須恵器杯蓋2、須恵器甕破片1、縄文土器片3の23個体である。

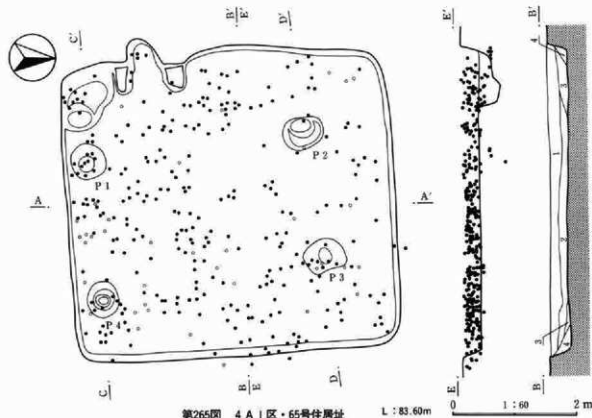
土師器杯は大きく分類すると、丸底で湾曲する体部を有するものと盤状杯と平底気味で体部の直立する719に分かれる。丸底タイプは口径が13cmと17cmに法量分化する。盤状杯は体部の屈曲するAタイプと直線的に開くBタイプと直立するCタイプがある。土師器甕は長胴甕と球形胴甕があり、723は頸部に横寛削り調整の入る長胴甕である。

須恵器杯は底部寛削り調整で、体部は直線的に開く。須恵器杯蓋はどちらも返りを有し、707は平坦な頂部から急に端部に至り、708は頂部から緩やかな角度で端部に至る。

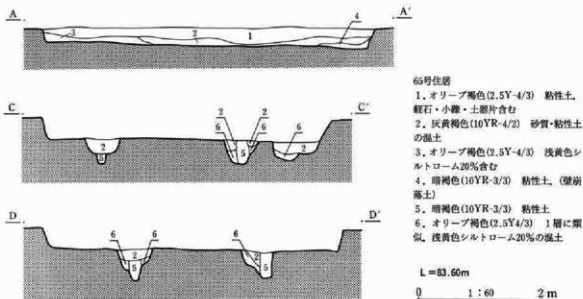
#### 4AⅠ区・66号住居址

#### 遺構 (挿図番号272 写真番号PL30)

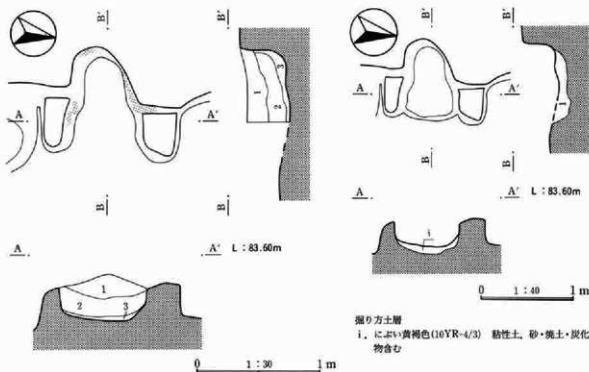
本住居址は4AⅠ区東の飛び地の一角に位置し、I11・87,88,97,98グリッドに属している。



# IV 遺構と遺物



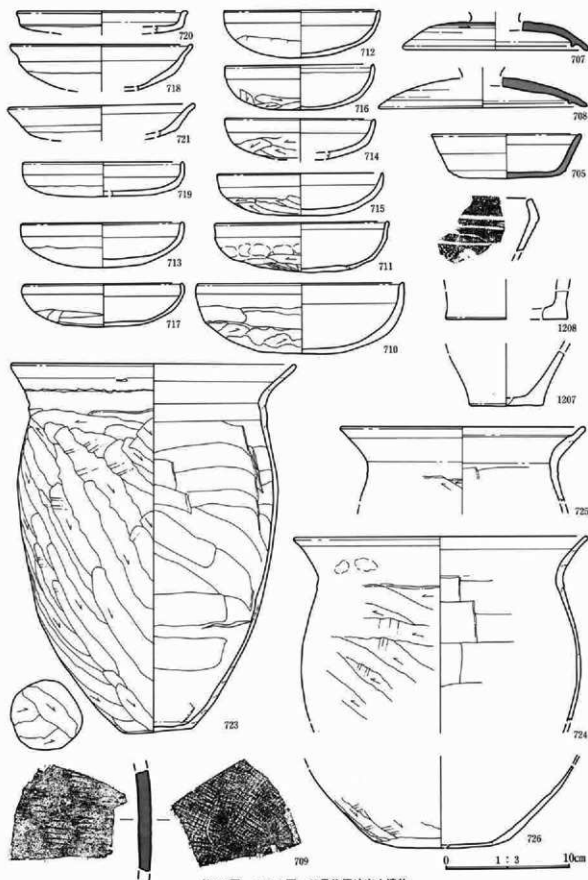
第266図 4 A I 区・65号住居址



第267図 4 A I 区・65号住居址

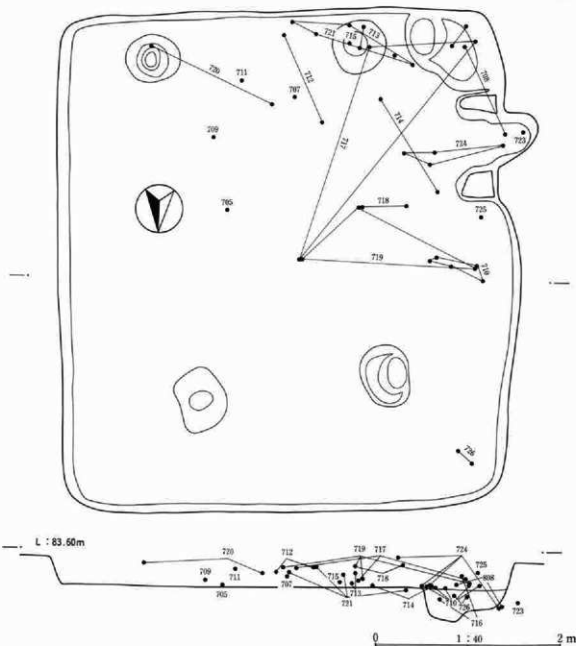
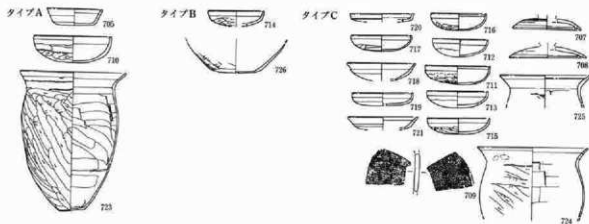
第268図 4 A I 区・65号住居址掘り方

1 獾塚孤穴(4AⅠ区)・獾塚西反歩(4AⅡ区)地区



第269図 4AⅠ区・65号住居址出土遺物

# IV 遺構と遺物



第270図 4 A I 区・65号住居址遺物接合分布図—土師器・須恵器

周囲には3m東に64号住と65号住が並存している。確認面の標高は83.50mを測る。

相対的位置  
確認面  
規模・形態

規模は東西3.14m・南北2.70mを測り、面積は8.48㎡である。平面形態は縦長長方形プランを意図したものと思われるが、隅丸方形を呈し南東隅の電右側の壁が若干内へ入っている。

主軸方位はN-61°-Eを示す。

主軸方位

壁高は40～45cmと付近の住居址に比べて深い。壁は上部が崩落したような形跡を示している。覆土は5層に分けられ、北壁の崩落に伴うと思われる第2層は、該住居址廃絶後の何等かの現象のありようを示すものと考えられる。

壁  
覆土

床面は比較的平らな地床面で、東南コーナーに近い南壁際には小ピットが1個穿たれている。  
電 (挿図番号271 写真番号PL30)

床

燃焼部の平面形態は釣り鐘状を呈し、東壁南寄りの住居内外に1/2ずつの面積を占め、しっかりした袖が残る。煙道部は削平を受けてないが、燃焼部から煙道部への立ち上がりは垂直に近い。覆土は3層に分かれ、第2層が天井部崩落土である。袖はシルト質ローム土の地山土で構築されている。火床面はほぼ中央部で2段に分かれている。

燃焼部  
煙道部  
火床面

遺物の出土状態 (挿図番号272)

遺物は住居址全体に分布し、特に電周辺に濃い集中が認められる。層位的には第1層と第4層に分布にの中心があり、とくに第4層に密度が高い。掲載遺物のタイプは、タイプAはなく、タイプBaが土師器環730、土師器甕735で、タイプBが土師器環731、土師器甕738で、残りはタイプCである。

遺物分布  
タイプ

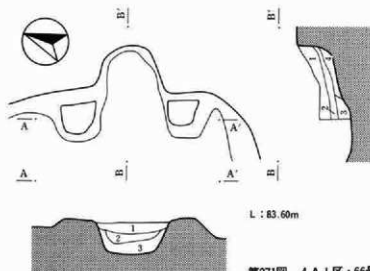
出土遺物 (挿図番号273・274 写真番号PL73)

図示した遺物は、土師器環5、土師器甕5、土師器把手付甕部分1、須恵器高台付壺1の12個体である。

図示遺物

土師器環はいずれも丸底で、口径は13cmと15cmに分かれるが法量分化というほどのものでもなさそうである。730は盤状杯の範疇に入りそうだが、底部と口縁部の境に稜線の意識があり口縁部が直立気味である。731は器高が深く、底部に×印が線刻されている。土師器甕は長胴甕(734, 736, 737)と球形胴部甕(735, 738)に分かれ、737は胴部の膨らみのない古式タイプの長胴甕のようだ。

土師器



66号住居電

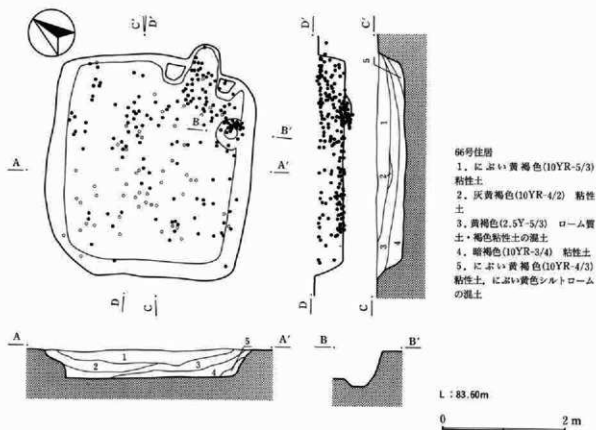
1. 暗灰黄色(2.5Y-5/2) 粘性土、砂質含む
2. 黄褐色(2.5Y-5/3) ローム質、下部に焼土含む、天井部崩落土
3. 灰黄色(2.5Y-4/1) 炭化物・灰10%含む
4. 褐色(10YR-4/2) 粘性土

L: 83.60m

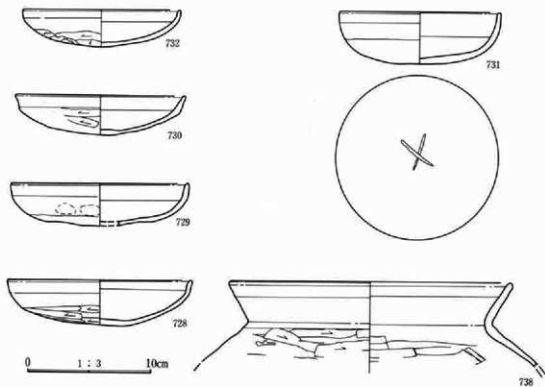
0 1:30 1m

第271図 4AⅠ区・66号住居址電

IV 遺構と遺物

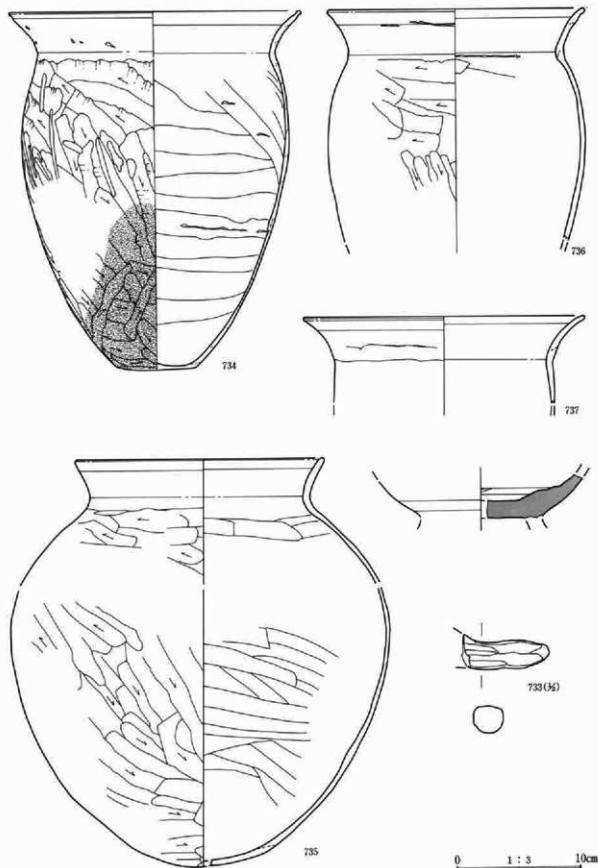


第272図 4 A I 区・66号住居址



第273図 4 A I 区・66号住居址出土遺物

1 篠塚孤穴(4AⅠ区)・篠塚四反歩(4AⅡ区)地区



第274图 4AⅠ区・66号住居址出土遺物

## (2) 竪穴状遺構

## 4 A I 区・01号竪穴状遺構

遺 構 (挿図番号275)

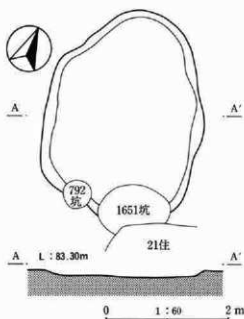
絶対的位置 本遺構はH12・87.97グリッドに位置し、  
 相対的位置 4 A・21号住と切り合っている。  
 確認面・規模 規模は長軸3.2m短軸2.6mで、平面形態  
 長軸方位 は南北に長い楕円形状を示している。長軸  
 方位はN-12°-Wで、ほぼ南北方向を向いて  
 いる。

壁 遺構の落ち込みは緩やかで、壁と言うほ  
 どのものは確認できない。

出土遺物 (挿図番号275)

図示遺物 図示遺物は、土師器甕の底部1、須恵器  
 須恵器 坏蓋1の2個体である。

須恵器坏蓋159はリング状鈕を有し、緩や  
 かな傾斜で口縁部に至り、口縁が垂直に立  
 つ。



## 4 A I 区・02号竪穴状遺構

遺 構 (挿図番号276 写真番号 PL33)

絶対的位置 本遺構はI13・01.10グリッドに属し、4  
 相対的位置 A・28号住の南東4mに位置する。

規模 平面形態は東壁が張り出した隅丸の不整  
 確認面 形で、長軸3.2m・短軸2.7m  
 長軸方位 で、長軸の方位はN-107°-  
 Wを示す。

壁 確認面が深いせいか、壁  
 はわずかの立ち上がりで、  
 覆土 覆土は1層である。

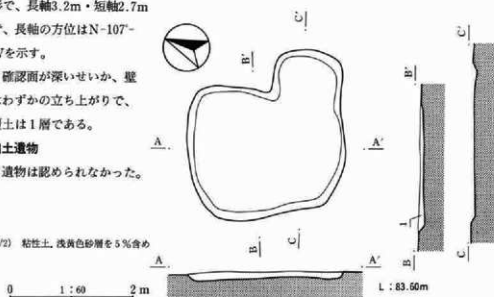
出土遺物

遺物は認められなかった。

第275図 4 A I 区・01号竪穴状遺構及び出土遺物

## 2号竪穴状遺構

1, 黒褐色(10YR-3/2) 粘土、浅黄色砂層を5%含め



第276図 4 A I 区・02号竪穴状遺構



## 4A I区・03号壁穴状遺構

遺 構 (挿図番号277 写真番号PL33)

本遺構はI12・40,41グリッドに属し、西南隅を4A・41号住と切り合っている。

規模は東西2.3m・南北3.0mを測り、面積は6.9㎡である。平面形態は隅丸長方形で主軸方位はN-22°-Wを示す。残存している壁はしっかりと立ち上がり、壁高は20cmを測る。

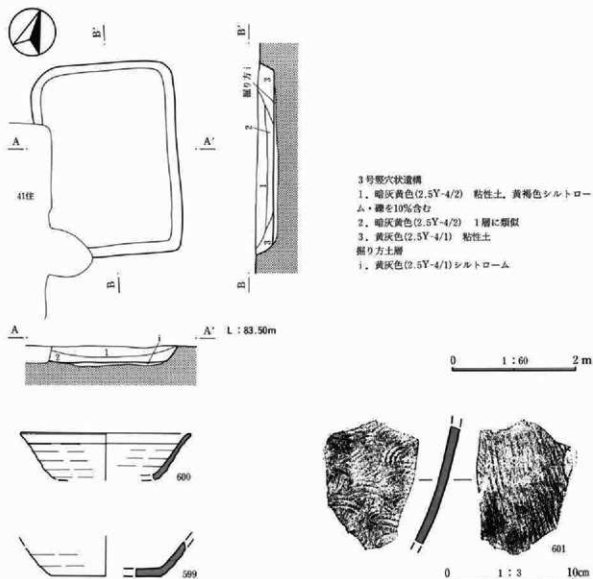
覆土は3層に分かれ、住居廃絶直後に壁のかんりの崩落が起こり、その後は自然埋没により住居址が埋没したと思われる。

床面は平坦で貼床が施され、電が確認できれば当然住居址としての要件を十二分にもつ。

もし電が存在するとすれば西電の住居址となるが、4A・41号住の調査では該遺構の電は確認されなかった。

## 出土遺物 (挿図番号277)

図示遺物は、須恵器環2、須恵器甕破片の3個体である。



第277図 4A I区・03号壁穴状遺構及び出土遺物

# IV 遺構と遺物

## 4 A I 区・04号竪穴状遺構

遺 構 (挿図番号278 写真番号  
PL33)

絶対的位置 本遺構は113・02, 03, 12, 13グリッド  
相対的位置 に属し、周囲に遺構は見当たらない。  
確認面 規模は東西1.8m・南北1.8mを測り、  
規模 面積が3.24㎡で、平面形態が不整な方  
長軸方位 形である。長軸方位はN-75°-Eを示す。  
壁・覆土 壁はそれほどすっきり立たず、覆土  
は2層に分かれている。

出土遺物

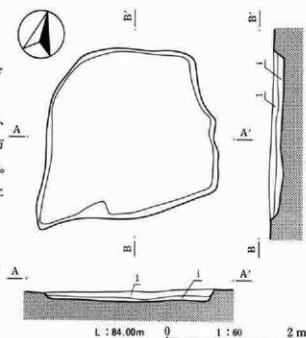
図示に値する遺物は認められない。

### 4号竪穴状遺構

1. 褐色(10YR-4/4) 粘性土

掘り方土層

i. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 砂質土層含む



第278図 4 A I 区・04号竪穴状遺構

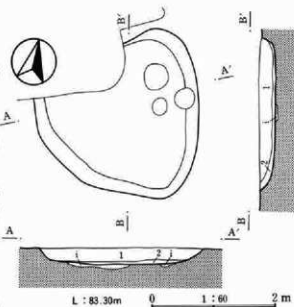
## 4 A I 区・05号竪穴状遺構

遺 構 (挿図番号279 写真番号  
PL33)

絶対的位置 本遺構は112・67, 77グリッドに属  
相対的位置 し、4 H・17号住と切り合っている。  
確認面 規模は東西1.8m・南北1.8mを測り、  
規模 面積におよそ3.24㎡の不整な円形であ  
長軸方位 る。長軸の方位はN-15°-Wを示す。  
壁 壁は住居址のような鋭角的な立ち上  
りが見えず、緩やかな立ち上がり方  
である。覆土は3層に分かれ、底面は  
凹凸が見られる。

出土遺物 (挿図番号279 写真番号)

図示遺物 図示遺物は、須恵器瑠璃破片1で水甕  
の一部であろう。



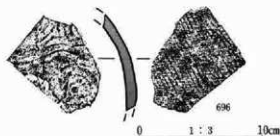
### 5号竪穴状遺構

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、固い

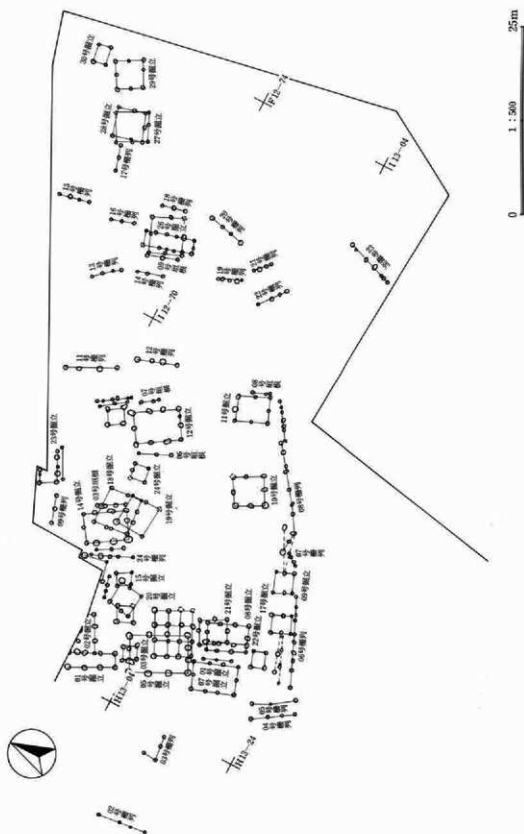
2. 灰黄褐色(10YR-4/2) 黄褐色シルトロームを30%  
含む

掘り方土層

i. 灰白色(5Y-7/2) シルトローム・少量の鉄分を含む



第279図 4 A I 区・05号竪穴状遺構及び出土遺物



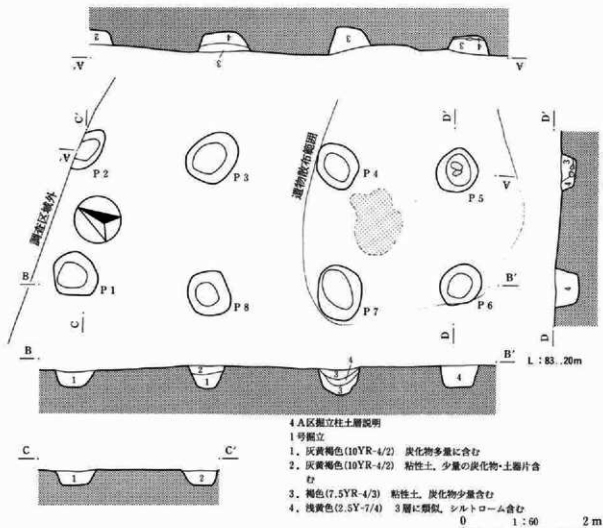
第280図 4AⅠ区・掘立・櫓列・竈根配置図

## (3) 掘立柱建物跡

篠塚孤穴地区(4A)は4AⅠ区と4AⅡ区に分かれる。掘立柱建物跡は4AⅠ区で30棟と4AⅡ区で2棟の建物跡が確認された。4AⅠ区の掘立柱建物跡群は東西2群に大別され、西群は柵列で周囲を囲まれた居館址の様相を示し、東群は散漫な掘立景観を呈している。4AⅡ区は掘立柱建物跡の密度は薄いですが、溝と柵列で囲まれた4AⅡ・32号掘立柱建物跡には注意する必要がある。

## 4AⅠ区・01号掘立柱建物跡(拝函番号281 写真番号PL31)

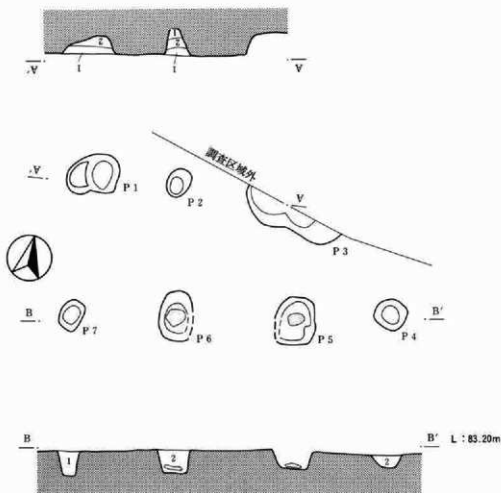
位置 本掘立柱建物跡は4AⅠ区の掘立柱建物跡群の西端に位置し、H12・84,94グリッドに所在する。確認面の標高は83.15mを測り、主軸方位はN-28°-Wを示す。規模は東西1.9m・南北6.3mを測り、面積は12.0㎡である。平面形態は1間×3間の細長い長方形で、柱間寸法はほぼ一定である。柱穴の形状は若干不整な円形だが、覆土は柱を抜き取った後に堆積したものと思われる。



第281図 4AⅠ区・01号掘立柱建物址

## 4 A I 区・02号掘立柱建物跡 (押図番号281 写真番号PL31)

本掘立柱建物跡は01号掘立柱と棟方向が90°で重複し、H12・84, 85, 94グリッドに所在する。位置・標高  
 認面の標高は83.15mを測り、主軸方位はN-75°-Wを示す。規模は推定東西5.3m・南北2.3mを 規模  
 測り、面積は12.2m<sup>2</sup>であり、棟方向は東西である。平面形態は推定で4間×1間の細長い長方 平面形態  
 形で、柱間寸法は一定でない。柱穴の形状は不整な楕円形と円形だが、立て替えの際の抜き取 柱穴・形状  
 りで著しく歪んでいる。覆土は柱抜き取り後の堆積状況を示すが、P5とP6にはひらべった  
 い礎石状の河原石が見られる。惜しむらくは東南隅の柱穴痕が調査区外に突出している。



## 2号掘立

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、少量の炭化物・土器片含む
2. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、少量の小礫・炭化物を多量に含む

0 1:60 2m

第282図 4 A I 区・02号掘立柱建物跡

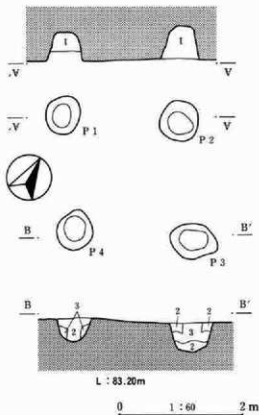
# IV 遺構と遺物

## 4 A I 区・03号掘立柱建物跡 (挿図番号283 写真番号PL31)

- 位置 本掘立柱建物跡は01号掘立柱の東南隣に位置し、H12・94, H13・04グリッドに所在する。確認  
 標高・規模 面の標高は80.10mを測り、主軸方位はN-65°-Eを示す。規模は東西2.0m・南北1.9mを測り、  
 平面形態 面積は3.8㎡であり、棟方向は東西方向としたい。平面形態は1間×1間の正方形が意図され、  
 柱穴・形状 柱間寸法はほぼ一定と考えていい。柱穴の形状は抜き取りを示す不整な円形で、覆土はP3と  
 P4に乱れが認められる。

## 4 A I 区・04号掘立柱建物跡 (挿図番号284 写真番号PL31)

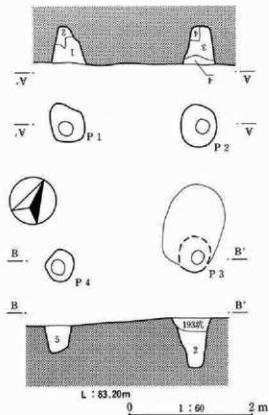
- 位置・標高 本掘立柱建物跡は04号掘立柱の北東隣に位置し、H12・95グリッドに所在する。確認面の標高  
 規模 は83.10mを測り、主軸方位はN-25°-Wを示す。規模は東西2.2m・南北2.3mを測り、面積は5.  
 平面形態 1㎡であり、棟方向は南北とする。平面形態は1間×1間の正方形が意図され、柱間寸法はほぼ  
 柱穴・形状 一定である。柱穴の形状はほぼ円形に近く、柱痕は割合原型を止めているものと思われる。



### 3号掘立

1. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土。炭化物・焼土少量含む
2. 灰黄褐色(7.5YR-4/2) 粘性土。砂質強く炭化物・焼土含む
3. 灰黄褐色(7.5YR-4/2) 2層に類似。焼土多量に含む

第283図 4 A I 区・03号掘立柱建物址



### 4号掘立

1. オリーブ黄色(5Y-6/4) シルトローム
2. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土
3. 灰褐色(7.5YR-4/2) 炭化物・軽石少量含む
4. 灰褐色(7.5YR-4/2) 3層に類似
5. 灰黄褐色(10YR-5/2) 粘性土。浅黄シルトローム・礫を10%含む

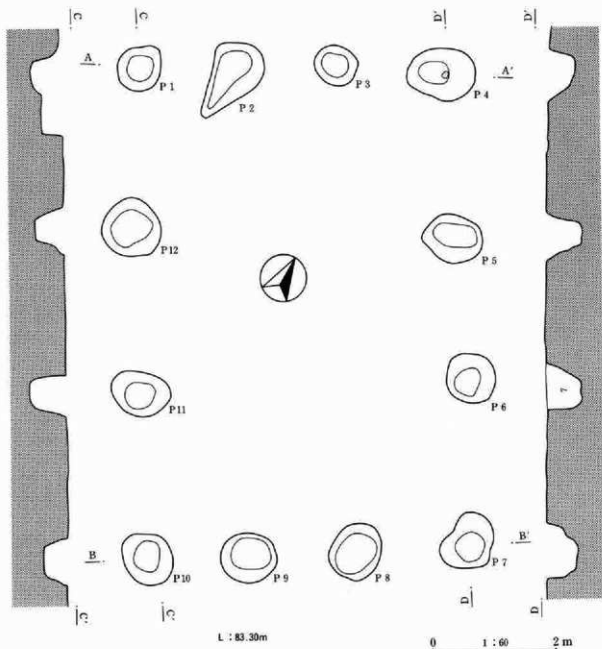
第284図 4 A I 区・04号掘立柱建物址

## 4AⅠ区・05号掘立柱建物跡(押図番号285・286 写真番号PL31・74)

本掘立柱建物跡は06号掘立と重複し、H12・94, 95, H13・04, 05, 14, 15の6グリッドにわたっている。確認面の標高は83.25mを測り、主軸方位はN-31°-Wを示す。規模は東西4.8m・南北7.9mを測り、面積は38㎡であり、棟方向は南北である。平面形態は3間×3間の長方形を呈し、柱間寸法は東西方向が短く、南北方向が長い。柱穴の形状は西側の南北列がほぼ円形で、他は楕円形や不整円形である。該掘立柱建物跡は4AⅠ区掘立柱建物跡群の中心建物と目され、面積が38㎡と最大値を誇る。

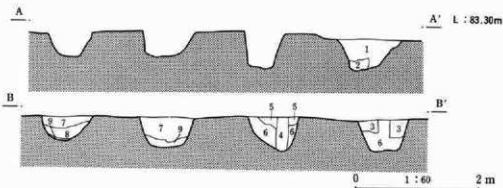
遺物はP4から底部回転ヘラ切り離しの須恵器環が、P11からは勾玉が出土している。

遺物



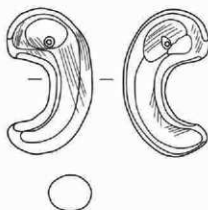
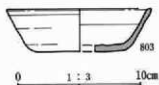
第285図 4AⅠ区・05号掘立柱建物跡

#### IV 遺構と遺物



##### 5号竪立

1. オリーブ黄色(5Y-6/4) シルトローム
2. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土
3. 褐灰色(5YR-4/1) 粘性土, におい黄褐シルトロームを5%含む
4. 褐灰色(5YR-4/1) 粘性土, におい黄褐シルトロームを10%・炭化物を5%含む
5. 褐灰色(5YR-4/1) におい黄褐シルトローム, 粘性土を10%含む
6. 褐灰色(5YR-4/1) 粘性土, におい黄褐シルトロームを10%含む
7. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土, におい黄色シルトロームを含む
8. 灰褐色(7.5YR-4/2) 7層に類似, 炭化物多量に含む
9. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土, におい黄色シルトロームを40%含む

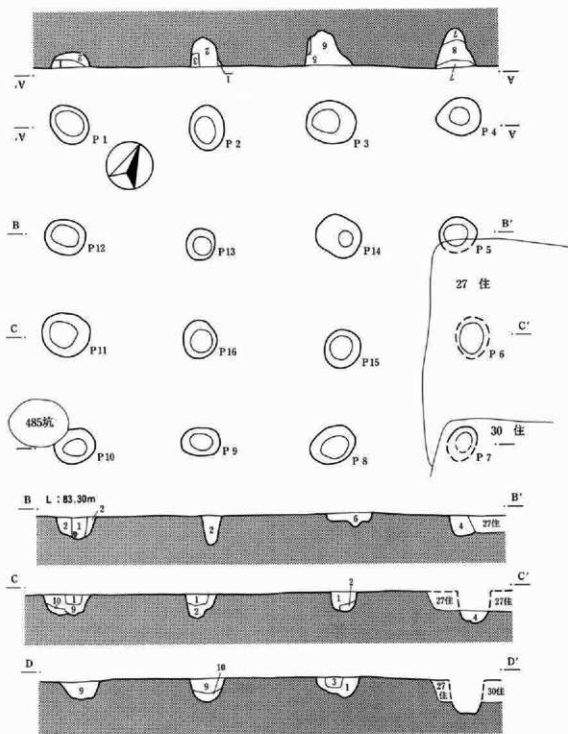


第286図 4 A I 区・05号竪立柱建物址と出土遺物

##### 4 A I 区・06号竪立柱建物跡 (押図番号287 写真番号PL31)

**位置** 本竪立柱建物跡は05号竪立と重複し、H13・05グリッドを中心にH13・04, 15グリッドにまたがる。確認面の標高は83.25mを測り、主軸方位はN-66°-Eを示す。規模は東西6.3m・南北5.2mを測り、面積は32.8㎡で05号竪立に次ぎ、棟方向は東西である。平面形態は3間×3間の長方形の唯一の総柱建物で、柱間寸法は東西に長く南北に短い。柱穴の形状は西側の2列を除いて、柱抜き取りの為に不整形を呈するものが大半で、東列のP5, 6, は27号住とP7は30号住と切り合っている。該竪立柱建物跡は重複する05号竪立とは時期を異にする4 A I 区竪立柱建物跡群の中心建物と目される。





6号掘立

1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 炭化物・軽石少量含む
2. 灰褐色(7.5YR-4/2) 1層に類似、褐色砂質シルト含む
3. 褐色(7.5YR-4/3) 1層に類似、焼土少量含む
4. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、にぶい黄褐シルトローム・軽石・砂利を5%含む
5. 灰黄褐色(7.5YR-4/2) 粘性土

6. 暗褐色(10YR-3/3) 粘性土、にぶい黄褐シルトローム・軽石・砂利を20%含む
7. オリーブ黄色(5Y-6/4) シルトローム、暗褐色粘性土含む
8. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土
9. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土
10. 灰褐色(7.5YR-4/2) 1層に類似、にぶい黄色シルトローム・炭化物を30%含む
11. 灰褐色(7.5YR-4/2) 1層に類似、焼土含む

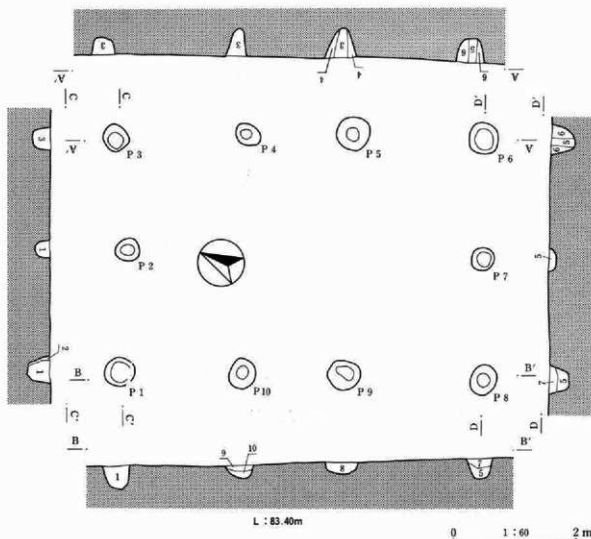
第287図 4AⅠ区・06号掘立柱建物址

0 1:60 2 m

# IV 遺構と遺物

## 4 A I 区・07号掘立柱建物跡 (挿図番号288 写真番号PL31)

- 位置・標高** 本掘立柱建物跡は05号掘立柱の南に位置し、H13・14, 15, 24, 25グリッド属する。確認面の標高は83.35mを測り、主軸方位はN-27°-Wを示す。規模は東西4m・南北6mを測り、面積は24m<sup>2</sup>
- 規模** は83.35mを測り、主軸方位はN-27°-Wを示す。規模は東西4m・南北6mを測り、面積は24m<sup>2</sup>
- 平面形態** で、棟方向は南北である。平面形態は3間×2間の長方形で、柱間寸法は一定でなく東列のP4, 5と対称の位置にあるP9, 10が列の中央によっているのが特徴的である。柱穴はみな小振り円で円形を呈し、P9のみが不整円形である。
- 柱穴・形状**



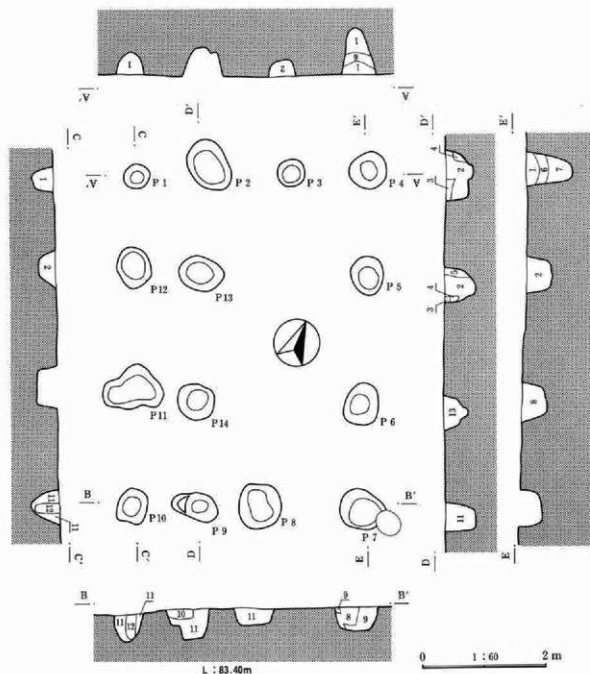
### 7号掘立

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土。にぶい黄褐シルトローム・軽石を5%含む
2. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土。にぶい黄褐シルトローム・軽石を30%含む
3. 褐灰色(5YR-4/1) 粘性土。にぶい黄褐シルトロームを10%含む
4. にぶい黄褐色(10YR-5/4) シルトローム。褐灰粘性土を10%含む
5. にぶい黄褐色(10YR-4/3) 粘性土。黄褐シルトローム・砂礫多量に含む
6. 黄褐色(2.5Y-5/4) シルトローム・砂・少量の粘性土を含む
7. にぶい黄褐色(10YR-4/3) 5層に類似。砂礫含む
8. 明黄褐色(10YR-6/6) シルトローム。黒褐色粘性土を含む
9. 灰褐色(7.5YR-5/2) 砂質シルト。炭化物・焼土少量含む
10. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土

第288図 4 A I 区・07号掘立柱建物址

4AⅠ区・08号掘立柱建物跡 (挿図番号289 写真番号PL31)

本掘立柱建物跡は06号掘立柱建物跡の南2mに位置し、H13・15グリッドを中心にH13・16、位置  
25,26グリッドにまたがっている。確認面の標高は83.40mを測り、主軸方位はN-24°-Wを示す。標高  
規模は東西3.8m・南北5.3mを測り、面積は20.1㎡で、棟方向は南北ある。平面形態は3間×規模・平面形態  
3間か、あるいは2間×3間の身舎に庇がつく構造で、柱間寸法は東西に短く南北に長い。柱  
穴はほとんどが変形して不整形な様相を呈しており、柱抜き取り時の乱れが窺える。柱穴・形状



第289図 4AⅠ区・08号掘立柱建物址

#### IV 遺構と遺物

##### 8号掘立

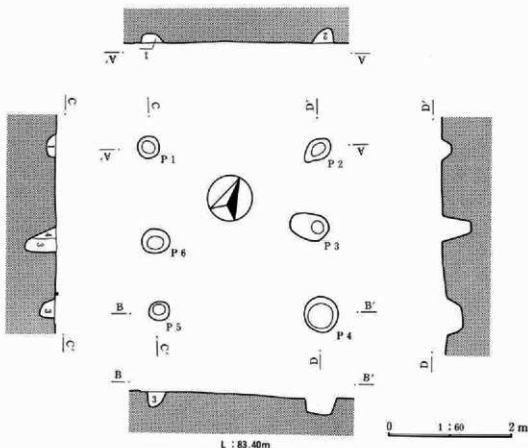
1. 褐灰色(5YR-4/1) 粘性土、にぶい黄褐色シルトロームを10%含む
2. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、にぶい黄色シルトロームを含む
3. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、にぶい黄色シルトロームを10%含む
4. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、にぶい黄色シルトロームを30%含む
5. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、にぶい黄色シルトロームを20%含む

##### 6. 褐灰色(5YR-4/1) 粘性土

7. にぶい黄褐色(10YR-4/3) 6層に類似、シルトロームを10%含む
8. にぶい黄褐色(10YR-5/3) シルトローム
9. 暗褐色(10YR-3/3) 粘性土
10. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土、炭化物含む
11. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土、にぶい黄褐色砂質シルトを含む
12. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土
13. 褐灰色(5YR-4/1) 粘性土、にぶい黄褐色シルトロームを10%、上層に焼土を含む

#### 4 A I 区・09号掘立柱建物跡 (挿図番号290 写真番号PL32)

**位置** 本掘立柱建物跡は西掘立柱建物跡群の南を画する横列に沿って17号掘立と平行に位置し、H  
**標高** 13・26, 27グリッドに属する。確認面の標高は83.30mを測り、主軸方位はN-32°Wを示す。規  
**規模・平面形態** 横は東西2.6m・南北2.7mを測り、面積は7㎡であり、棟方向は南北である。平面形態は1間×  
**柱穴・形状** 2間の正方形プランが窺われ、柱間寸法は東西が長く南北に短い。柱穴の西列は整美で東列は  
 抜き取りの為か乱れている。



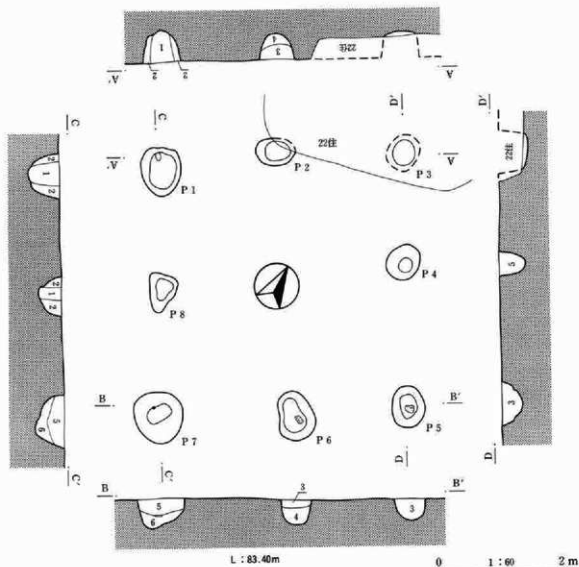
##### 9号掘立

1. にぶい黄褐色(10YR-5/3) シルトローム、粘性土含む
2. 黒褐色(7.5YR-3/1) 粘性土、にぶい褐色シルトローム・砂を5%含む
3. 褐色(10YR-4/4) 粘性土、にぶい黄色シルトロームを5%含む
4. にぶい黄色(2.5Y-6/3) シルトローム、褐色粘性土を10%含む

第290図 4 A I 区・09号掘立柱建物址

## 4AⅠ区・10号掘立柱建物跡(排図番号291 写真番号PL32)

本掘立柱建物跡は西掘立柱群の南に位置し、H13・07,08,18グリッドに属している。確認面の位置  
 標高は83.35mを測り、主軸方位はN-30°-Wを示す。規模は東西4m・南北4.1mを測り、面積  
 は16.4m<sup>2</sup>であり、棟方向は南北である。平面形態は2間×2間の正方形が意図され、柱間寸法  
 はほぼ一定である。柱穴の形状はどれも不整形円形を呈し、P2とP3は22号住との切り合いが  
 見られる。遺物はP1から須恵器大甕の破片が検出されている。柱穴・形状



## 10号掘立

1. におい黄褐色(10YR-4/3) 粘性土、炭化物・焼土・  
におい黄褐色粘性土を5%含む
2. におい黄褐色(10YR-4/3) 1層に類似、におい黄  
褐色粘性土を10%含む
3. 褐灰色(5YR-4/1) 粘性土、炭化物・焼土含む

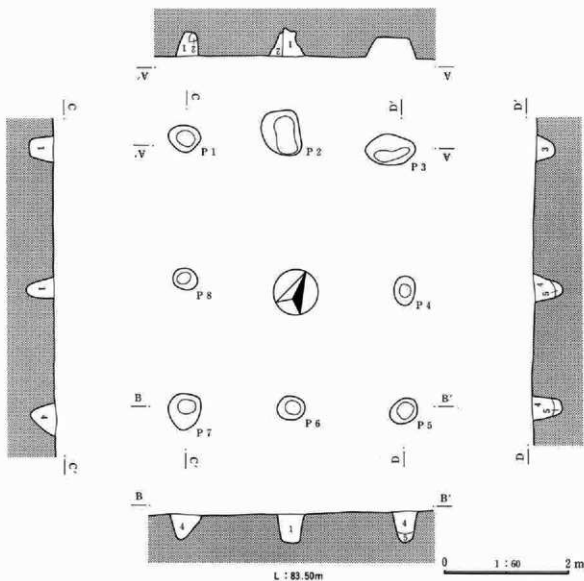
4. 褐灰色(5YR-4/1) 粘性土、褐色シルトローム・  
砂を20%含む
5. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土、焼土・土器片少量含  
む
6. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土、におい黄褐色シルト  
ローム10%含む

第291図 4AⅠ区・10号掘立柱建物址

# IV 遺構と遺物

## 4 A I 区・11号掘立柱建物跡 (拝図番号292 写真番号PL32)

- 位置** 本掘立柱建物跡は西群の南東隅に位置し、H12・99, H13・09グリッドに属している。確認面の標高は83.45mを測り、主軸方位はN-25°-Wを示す。規模は東西3.5m・南北4.3mを測り、面積は15.1㎡であり、棟方向は南北である。平面形態は2間×2間の長方形で、柱間寸法は東西方向に短く南北方向に長い。柱穴の形状はP 2, P 3, P 7に乱れが認められ、他は円形を示す。



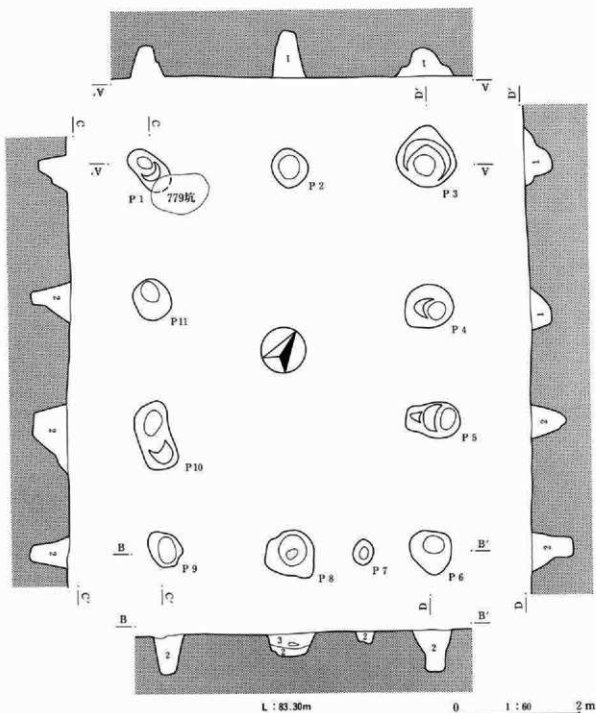
### 11号掘立

- |   |  |
|---|--|
| 1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土。砂・砂・炭化物・焼土を5%含む     | 3. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土                  |
| 2. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土。砂・砂を20%・炭化物・焼土を3%含む | 4. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土。砂質強く炭化物・焼土を10%含む |
|   | 5. 灰褐色(7.5YR-4/2) 灰褐色土質土を10%・炭化物・焼土を含む |

第292図 4 A I 区・11号掘立柱建物址

## 4 A I 区・12号掘立柱建物跡(挿図番号293 写真番号PL32)

本掘立柱建物跡は西群の東端に位置し、H12・78,88グリッドに属する。確認面の標高は83. 位置・標高  
25mを測り、主軸方位はN-38°-Wを示す。規模は東西4.3m・南北6.4mを測り、面積は26.2m<sup>2</sup> 規模  
であり、棟方向は南北である。平面形態は2間×3間の長方形で、柱間寸法は一定である。柱 平面形態  
穴の形状はほとんどが不整形形を呈し、複数回の立て替えが窺える。またP7についてはその 柱穴・形状  
位置から入り口施設にかかわるものと思われる。



第293図 4 A I 区・12号掘立柱建物址

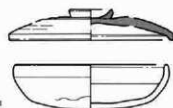
# IV 遺構と遺物

## 12号掘立

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、および  
黄砂シルトローム・小礫・軽石を5%  
含む

2. 褐灰色(5YR-4/1) 粘性土

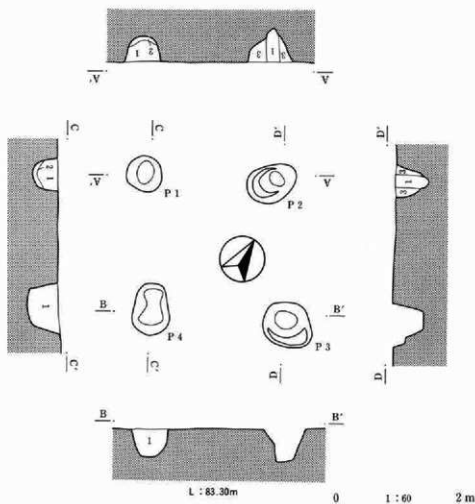
3. 褐灰色(5YR-4/1) 2層に類似、焼土  
少量含む



第294図 4 A I 区・12号掘立柱建物址出土遺物

## 4 A I 区・13号掘立柱建物跡 (挿図番号295 写真番号PL32)

**位置・標高** 本掘立柱建物跡は西群の東北端に位置し、H12・78グリッドに属する。確認面の標高は83.25  
**規模** mを測り、主軸方位はN-35°-Wを示す。規模は東西2.3m・南北2.4mを測り、面積は5.5㎡で、  
**平面形態** 棟方向は南北である。平面形態は1間×1間の正方形が意図されているが、柱間寸法は南北方  
**柱穴・形状** 向に若干長い。柱穴の形状は千差万別で、複数回の立て替えが予想される。



## 13号掘立

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、炭化物・土礫片少量含む  
2. 灰黄褐色(10YR-4/2) 1層に類似、黄色ローム少量含む

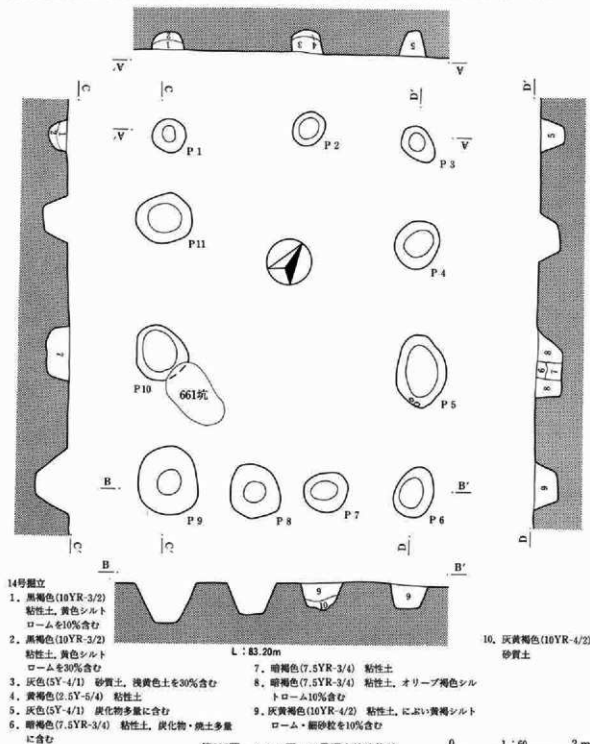
3. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、灰白シルトロームを10%含  
む

第295図 4 A I 区・13号掘立柱建物址



## 4AⅠ区・14号掘立柱建物跡(押図番号296 写真番号PL32)

本掘立柱建物跡は西群の中央北部分に位置し、H12・76,86グリッドに属している。確認面の位置  
 標高は83.15mを測り、主軸方位はN-36°-Wを示す。規模は東西4.0m・南北5.5mを測り、面積 標高・規模  
 は22㎡で、棟方向は南北である。平面形態は基本的には2間×3間の長方形だが、南列は3間 平面形態  
 でP7かP8は入り口施設にかかわるものと推測される。原形の柱間寸法は、ほぼ一定であつ 柱穴  
 たと考えられる。柱穴の形状は大きな楕円形を呈し、柱抜き取り時の激しさを物語っている。 形状



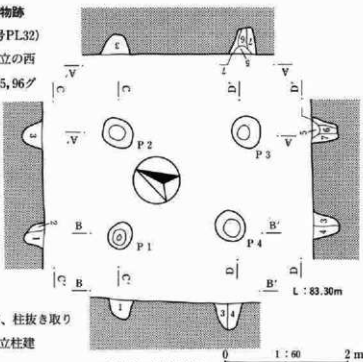
# IV 遺構と遺物

## 4 A I 区・15号掘立柱建物跡

(挿図番号297 写真番号PL32)

本掘立柱建物跡は14号掘立柱の西

位置	4 mに位置し、H12・85, 95, 96グリッドに属している。確認面の標高は83.20mを測り、主軸方位はN-32°-Wを示す。規模は東西1.7m・南北2.1mを測り、面積は3.6㎡で、棟方向は南北である。平面形態は1間×1間の正方形で、柱間寸法は南北に長い。柱穴の形状はほぼ円形を呈するが、柱抜き取りの様相が認められる。本掘立柱建
標高	
規模	
平面形態	
柱穴	
形状	



### 15号掘立

1. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土
2. オリーブ褐色(5Y-6/4) シルトローム、暗褐色粘性土少量含む
3. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) シルトローム
4. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土。

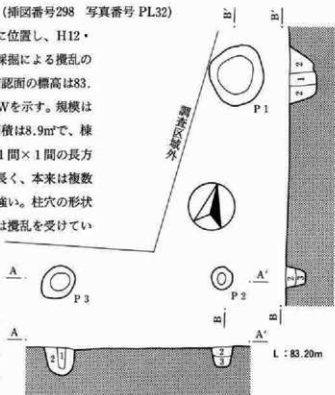
シルトロームを10%含む

5. 黒褐色(7.5YR-3/2) ローム塊・砂礫含む
6. 黒褐色(7.5YR-3/2) ローム粒少量含む、粘性あり固い
7. 暗褐色(7.5YR-3/4) ローム塊少量含む、粘性あり固い

第297図 4 A I 区・15号掘立柱建物址

## 4 A I 区・16号掘立柱建物跡 (挿図番号298 写真番号 PL32)

位置	本掘立柱建物跡は西群の北端に位置し、H12・85, 86グリッドに属するが、粘土探掘による攪乱のためその全容は明らかでない。確認面の標高は83.45mを測り、主軸方位はN-11°-Wを示す。規模は東西2.7m・南北3.3mを測り、面積は8.9㎡で、棟方向は南北である。平面形態は1間×1間の長方形であるが、柱間寸法は南北に長く、本来は複数間の構成をもつ掘立の可能性が高い。柱穴の形状は不揃いで、P4にあたる柱穴は攪乱を受けているために欠けている。
標高	
規模	
平面形態	
柱穴	
形状	



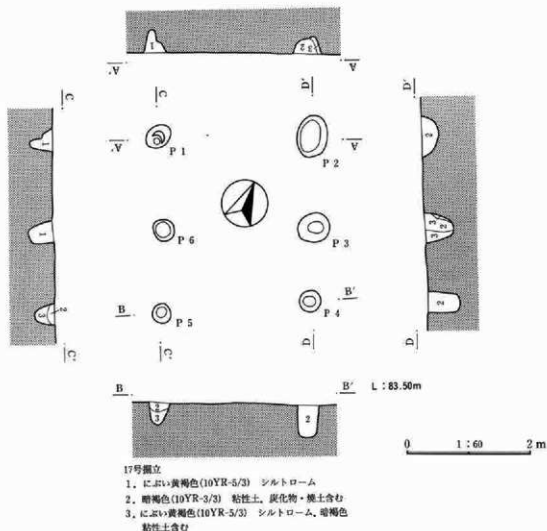
### 16号掘立

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、シルトロームを10%含む
2. 暗褐色(10YR-3/4) 粘性土、シルトロームを10%炭化物・焼土を5%含む
3. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土、オリーブ褐色シルトロームを10%含む

第298図 4 A I 区・16号掘立柱建物址

4AⅠ区・17号掘立柱建物跡 (採図番号299 写真番号PL33)

本掘立柱建物跡は南欄列に沿って09号掘立柱に平行して位置し、H13・26グリッドに属している。位置  
確認面の標高は83.45mを測り、主軸方位はN-23°-Wを示す。規模は東西2.4m・南北2.7mを測り、面積は6.5㎡で、棟方向は南北である。平面形態は1間×2間の長方形で、柱間寸法は東西に長く南北に短い。柱穴の形状はP2とP4が楕円形を呈し、他はほぼ原形を残すものと思われる。平面形態  
柱穴・形状

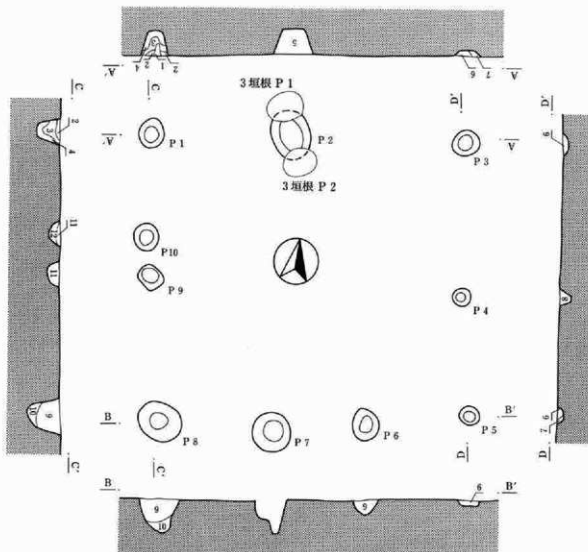


第299図 4AⅠ区・17号掘立柱建物跡

4AⅠ区・18号掘立柱建物跡 (採図番号300)

本掘立柱建物跡は14号掘立と重複して位置し、H12・76, 77, 86, 87グリッドにまたがっている。位置  
確認面の標高は83.20mを測り、主軸方位はN-80°-Eを示す。規模は東西5m・南北4.6mを測り、面積は23㎡、棟方向は東西である。平面形態は3間×2間の長方形で、柱間寸法は南北に長く、P10は入り口施設にかかわる位置にある。柱穴の形状は大きさも含めて一様でなく、該掘立柱建物跡の廃絶時の野放図なりようを窺える。平面形態  
柱穴・形状

#### IV 遺構と遺物



##### 18号掘立

1. 黒褐色(7.5YR-3/2) 粘性土、ローム粒含む、固い
2. 黒褐色(7.5YR-3/2) ローム塊・砂礫含む
3. 暗褐色(7.5YR-3/4) 大型のローム塊少量含む、粘性あり、固い
4. 暗褐色(7.5YR-3/3) 小型のローム塊少量含む、粘性あり、固い
5. 黄褐色(2.5Y-5/4) 粘性土、炭化物・焼土含む
6. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、にぶい黄褐色シルトローム・小礫・軽石を5%含む
7. 灰黄褐色(10YR-4/2) にぶい黄褐色シルトローム・小礫・軽石を10%含む
8. オリーブ褐色(2.5-4/4) シルトローム
9. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、にぶい黄褐色シルトローム・細砂粒含む
10. 灰黄褐色(10YR-4/2) 9層に類似、砂を10%含む
11. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土、オリーブ褐色シルトロームを10%含む
12. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土

第300図 4 A I 区・18号掘立柱建物址

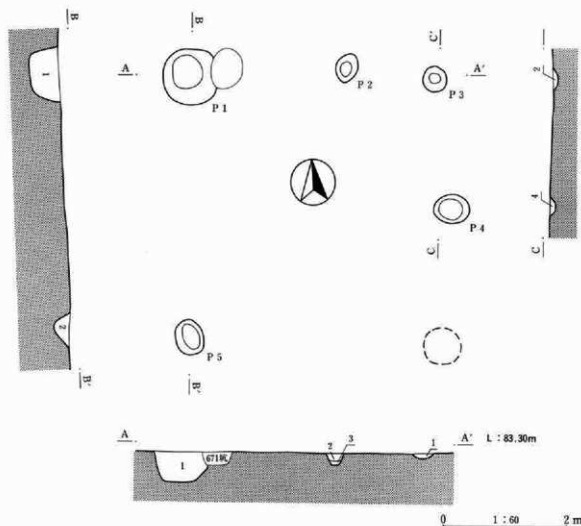
##### 4 A I 区・19号掘立柱建物跡 (坪図番号301)

**位置・標高** 本掘立柱建物跡は18号掘立と重複しており、H12・86.87グリッドに属する。確認面の標高は

**規模** 83.20mを測り、主軸方位はN-03°-Eを示す。規模は東西4.1m・南北4.3mを測り、面積は17.

**平面形態** 6㎡で、棟方向は南北である。平面形態は本来2間×2間の長方形が想定されるが、現況では西列と南列の中央の柱穴は確認できなかった。柱間寸法は不揃いである。柱穴の形状も統一感はなく、掘り込みも不揃いで、同一の建物としても疑問である。

1 篠塚狐穴(4 A I 区)・篠塚西反歩(4 A II 区)地区



19号掘立

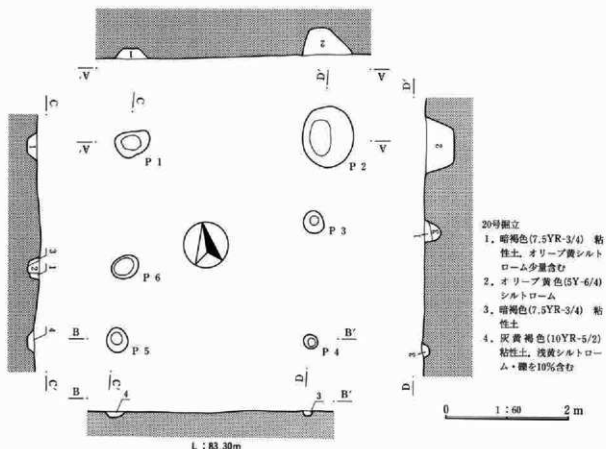
1. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土、オリーブ褐色シルトロームを10%含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) シルトローム
3. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) シルトローム、砂質土含む
4. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、ふいり黄褐色シルトローム・小礫・軽石を5%含む

第301図 4 A I 区・19号掘立柱建物址

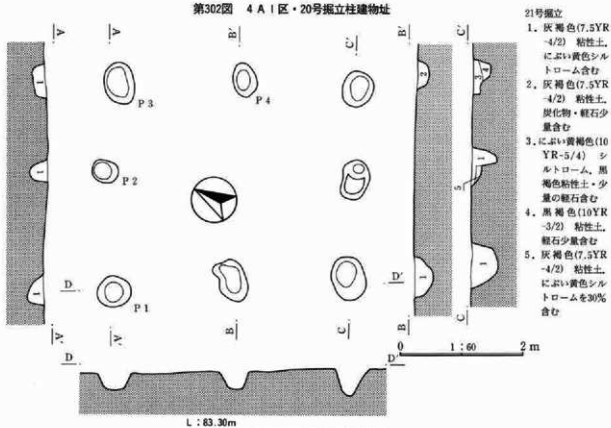
4 A I 区・20号本掘立柱建物跡 (挿図番号302)

本掘立柱建物跡は4号掘立と15号掘立にまたがって位置し、H12・95グリッドに属している。位置  
確認面の標高は83.20mを測り、主軸方位はN-13°-Eを示す。規模は東西3.1m・南北3.3mを測り、面積は10.2㎡で、棟方向は南北である。平面形態は1間×2間の長方形で、柱間寸法は一定でない。柱穴の形状や深さは不揃いで、同一の建物を構成するものとしては疑問符がつく。柱穴・形状

IV 遺構と遺物



第302図 4 A I 区・20号掘立柱建物址



第303図 4 A I 区・21号掘立柱建物址

## 4AⅠ区・21号掘立柱建物跡(挿図番号303)

本掘立柱建物跡は6号掘立柱の南1mの位置に8号掘立柱と重複して存在し、H13・15,16グリッドに属する。確認面の標高は83.25mを測り、主軸方位はN-33°-Wを示す。規模は東西3.4m・南北3.9mを測り、面積は13.3㎡、棟方向は南北である。平面形態は2間×2間の長方形で、柱間寸法はほぼ一定である。柱穴の形状はほとんどが柱抜き取り痕の様相を呈している。

位置

標高・規模

平面形態

柱穴・形状

## 4AⅠ区・22号掘立柱建物跡(挿図番号304)

本掘立柱建物跡は07,08号掘立柱の南に位置し、H13・25グリッドに属する。確認面の標高はmを測り、主軸方位はN-72°-Eを示す。規模は東西2.2m・南北1.8mを測り、面積は4㎡で、棟方向は東西である。平面形態は1間×1間の長方形で柱間寸法は東西に長い。柱穴の形状はP2を除いて不整形を呈し、柱抜き取り作業が窺える。攪乱と考えられる浅い掘り込みが本掘立柱建物跡の半分と重なっている。

位置・標高

規模

平面形態

柱穴・形状

## 4AⅠ区・24号掘立柱建物跡(挿図番号305)

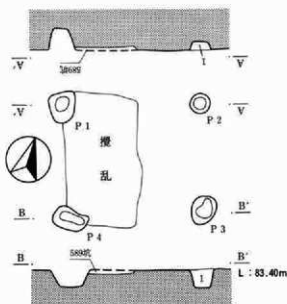
本掘立柱建物跡は12,18号掘立柱の中間に位置し、H12・87グリッドに属する。確認面の標高はmを測り、主軸方位はN-5°-Wを示す。規模は東西1.9m・南北2mを測り、面積は3.8㎡で、棟方向は南北である。平面形態は1間×1間の正方形を意図したプランと考えられ、柱間寸法は若干南北に長い。当然P1の西に柱穴があったはずだが未確認で、P1の位置は入り口にかかわるものと理解したい。柱穴の形状は基本的には円形だが、抜き取り時の変形を受けている。

位置・標高

規模

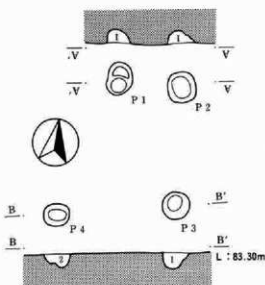
平面形態

柱穴・形状



22号掘立

1. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土。にぶい黄褐色シルトを10%含む



24号掘立

1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土  
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) シルトローム

第304図 4AⅠ区・22号掘立柱建物跡

第305図 4AⅠ区・24号掘立柱建物跡

# IV 遺構と遺物

## 4 A I 区・23号掘立柱建物跡 (挿図番号306)

- 位置** 本掘立柱建物跡は調査区の北端に13号住と重複して位置し、一部を調査区外に突き出しながらH12・66,67グリッドに属している。確認面の標高は83.15mを測り、主軸方位はN-48°-Eを示す。規模は東西4.3m・南北2.4mを測り、面積は10.3㎡で、棟方向は東西である。平面形態は4間×1間の細長い長方形で、柱間寸法は南北に長く、東西は不揃いである。柱穴の形状・深さとも統一性がなく、掘立との認識には若干苦しいものがある。

### 23号掘立

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土。にぶい黄褐色シルトローム・小礫・軽石を5%含む
2. 灰黄褐色(10YR-4/2) にぶい黄褐色シルトローム小礫・軽石を10%含む
3. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土。炭化物・焼土を含む
4. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土。にぶい黄色シルトロームを5%含む

L : 83.20m



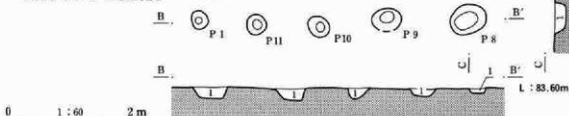
第306図 4 A I 区・23号掘立柱建物跡

## 4 A I 区・25号掘立柱建物跡 (挿図番号307)

- 位置・標高** 本掘立柱建物跡は東群の西に位置し、I 12・51,61,71グリッドに属する。確認面の標高は83.50mを測り、主軸方位はN-27°-Wを示す。規模は東西1.9m・南北6.7mを測り、面積は12.7㎡で、棟方向は南北である。平面形態は2間×5間の細長い長方形で、柱間寸法は一定でない。柱穴・形状 柱穴の形状は円形を呈するが、掘り方はかなり浅く、簡易な建物が予想される。

### 25号掘立

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土。軽石を含む
2. にぶい黄褐色(10YR-4/3) 1層に類似、シルトロームを20%含む

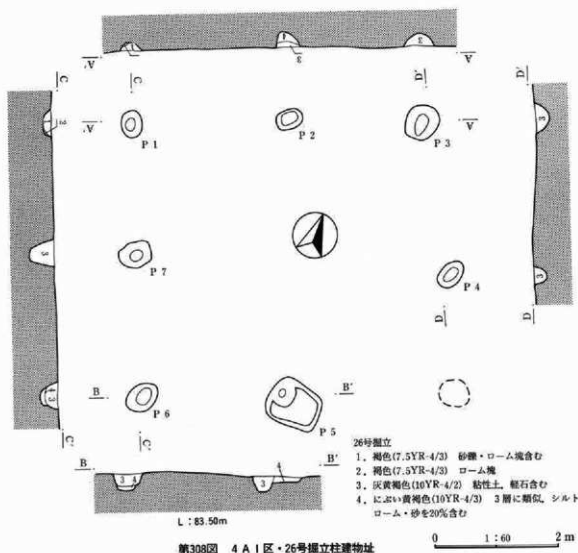


第307図 4 A I 区・25号掘立柱建物跡



## 4AⅠ区・26号掘立柱建物跡(押図番号308)

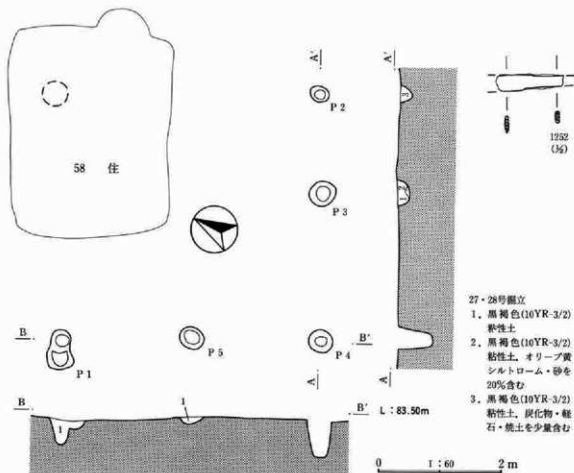
本掘立柱建物跡は東群の25号掘立柱と重複して存在し、I 12・51,60,61グリッドに属している。位置  
確認面の標高は83.45mを測り、主軸方位はN-69°-Eを示す。規模は東西4.7m・南北4.4mを測り、面積は20.7㎡で、棟方向は東西である。平面形態は2間×2間の正方形で、柱間寸法はほぼ一定である。P4の位置のずれとP5の擾乱による変形があり、全般的に掘り込みが浅い。柱穴・形状



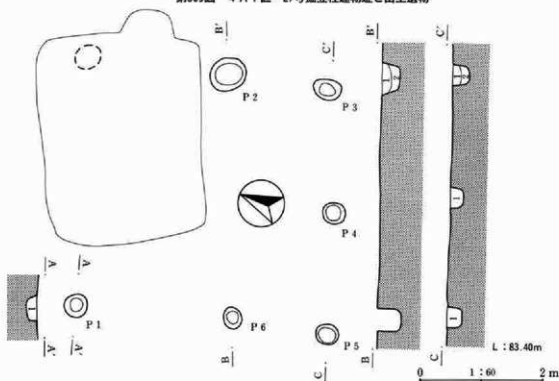
## 4AⅠ区・27号掘立柱建物跡(押図番号309)

本掘立柱建物跡は28号掘立柱と重複し、東群のI 12・42グリッドに属している。確認面の標高は83.45mを測り、主軸方位はN-29°-Wを示す。規模は東西3.9m・南北4.2mを測り、面積は16.8㎡で、棟方向は南北である。平面形態は2間×2間の正方形が意図されていると思われるが、58号住との切り合いから柱穴が確認できず、柱間寸法も確定できない。P5からは刀子の破片が出土している。柱穴・形状

IV 遺構と遺物



第309図 4 A I 区・27号掘立柱建物址と出土遺物



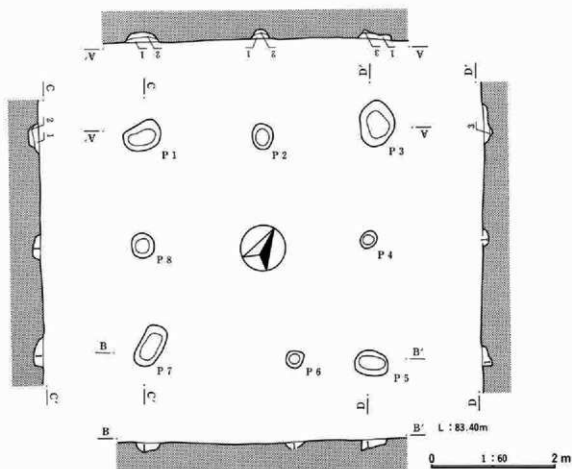
第310図 4 A I 区・28号掘立柱建物址

## 4 A I区・28号掘立柱建物跡 (挿図番号310)

本掘立柱建物跡は27号掘立柱と重複し、I 12・42グリッドに属している。確認面の標高は83.35 mを測り、主軸方位はN-16°-Wを示す。規模は東西3.9m・南北4.1mを測り、面積は16m<sup>2</sup>で、棟方向は南北である。平面形態は2間×2間の正方形プランが意図されていると思われるが、58号住との切り合いで柱穴が確認できず、柱間寸法も確定できない。

## 4 A I区・29号掘立柱建物跡 (挿図番号311)

本掘立柱建物跡は27, 28号掘立柱の東3mに位置し、I 12・33, 43グリッドに属する。確認面の標高は83.40mを測り、主軸方位はN-59°-Eを示す。規模は東西3.9m・南北3.4mを測り、面積は13.3m<sup>2</sup>で、棟方向は東西である。平面形態は2間×2間の正方形に近い長方形で、柱間寸法は若干東西に長く南北に短い。



## 29号掘立

- |  |            |   |
|--|------------|---|
| 1. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土、炭化物・軽石・焼土<br>少量含む | 砂を20~30%含む | 3. 黒褐色(10YR-3/2) 1層に類似、シルトローム・<br>砂を50%含む |
| 2. 黒褐色(10YR-3/2) 1層に類似、シルトローム・         |            |   |

第311図 4 A I区・29号掘立柱建物址

## 4 A I 区・30号掘立柱建物跡

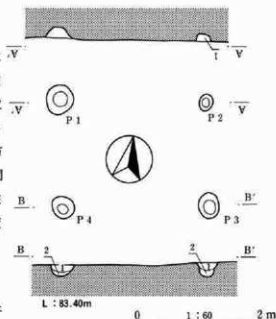
(挿図番号312)

本掘立柱建物跡は29号掘立柱の北2mに

- 位置 位置し、I 12・33グリッドに属する。確認面の標高は83.35mを測り、主軸方位はN-78°-Eを示す。規模は東西2.4m・南北1.8mを測り、面積は4.3m<sup>2</sup>で、棟方向は東西である。平面形態は1間×1間の長方形で、柱間寸法は東西に長い。柱穴の形状は円形だが、抜き取りにより変形している。

## 30号掘立

1. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土、炭化物・軽石・焼土少量含む
2. 黒褐色(10YR-3/2) 1層に類似、シルトローム・砂を20~30%含む
3. 黒褐色(10YR-3/2) 1層に類似、シルトローム・砂を50%含む



第312図 4 A I 区・30号掘立柱建物址

## 4 A II 区・31号掘立柱建物跡

(挿図番号313)

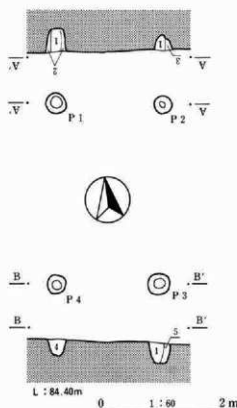
本掘立柱建物跡は4 B 区南の4 A II 区

- 位置 の西端に位置し、F 14・60, 61グリッドに属する。確認面の標高は84.30mを測り、主軸方位はN-11°-Wを示す。規模は東西1.7m・南北2.9mを測り、面積は4.9m<sup>2</sup>で、棟方向は南北である。平面形態は1間×1間の長方形で、柱間寸法は南北に2倍程長い。柱穴の形状は円形で、いずれも割合ししっかりとした掘り方を持つ。

掘り方の廻り方基線は柱列の外側に認められる。

## 31号掘立

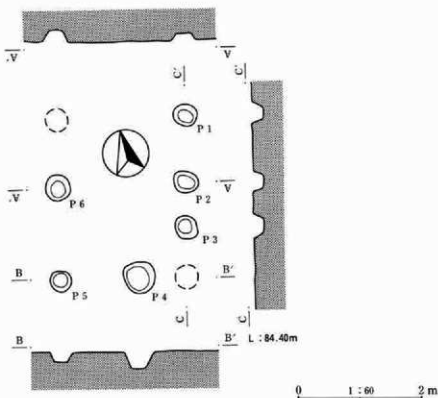
1. 暗褐色土 砂粒多量に含む
2. 暗褐色土 黄色味おびる
3. 暗褐色土 砂少量含む。やや粘性をおびたシルト質土
4. 暗褐色土 シルト質できめが細かい



第313図 4 A II 区・31号掘立柱建物址

## 4 A II 区・32号掘立柱建物跡 (押図番号314)

本掘立柱建物跡は4 A II 区のほぼ中央に位置し、F14・77, 87グリッドに属する。確認面の標高は84.35mを測り、主軸方位はN-20°-Eを示す。規模は東西2.1m・南北2.8mを測り、面積は5.9m<sup>2</sup>で、棟方向は南北である。平面形態は基本的には2間×2間の長方形とみられるが、北列の2柱穴と南東隅の1柱穴が確認できず、P3の位置にも疑問が残る。柱穴の形状はほぼ円形で、また該掘立柱建物跡は方形に画する溝と欄列の内部に設けられたもので、詳しい検討の必要があらう。



第314図 4 A II 区・32号掘立柱建物址

## IV 遺構と遺物

## (4) 柵 列

- 4 A 1 区 4 A 1 区の柵列は25基が確認され、掘立柱建物跡群が東西2群に大別されるように、やはり
- 東西2群に分けて考えるとその傾向性がつかみ易い。
- 西群柵列 西群の柵列は掘立柱建物跡群を周囲から囲む位置に設置され、建物配置と平行して設置されている。
- 南側を面する06,07,08号柵列は一連のものと考えられ、4 A 1 区西掘立柱建物跡群が一つのまとまりを構成すると推測される根拠を与えている。また11,12号柵列も東側を面するものと想定され、06,07,08号柵列と共に西掘立柱建物跡群を囲み、方形区画を構成している。
- 方形区画 東群柵列は方向性に傾向は感じられないが、掘立柱建物跡の近くの柵列は建物との平行する傾向が僅かに感じられる。
- 東群柵列

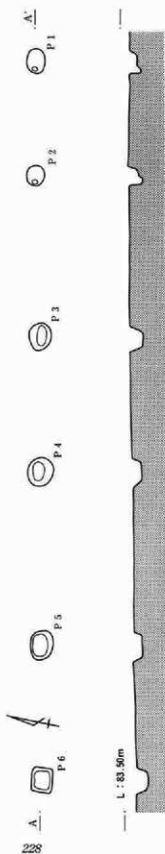
柵別規模計測表

遺構名	グリッド	主軸方位	長さ[m]	備 考
1号柵列	F14-87	N-80°-E	11.3	5 A 11区方形区画の北と南を分ける
2号柵列	H13-12	N-13°-W	6.5	4 A 1 区方形区画の西側を面する
3号柵列	H13-13	N-75°-E	5.2	同 上
4号柵列	H13-34	N-30°-W	5.9	同 上
5号柵列	H13-35	N-29°-W	5.8	同 上
6号柵列	H13-36	N-67°-E	12.8	4 A 1 区方形区画の南側を面する
7号柵列	H13-27	N-45°-E	1.9	同 上
8号柵列	H13-09	N-50°-E	20.7	同 上
	H13-18			
9号柵列	H12-76	N-67°-E	3.8	
10号柵列	H12-68	N-45°-W	4.9	
11号柵列	H12-68	N-28°-W	7.0	4 A 1 区方形区画の東側を面する
12号柵列	H12-79	N-20°-W	5.4	同 上
13号柵列	H12-50	N-35°-W	4.1	
14号柵列	H12-60	N-30°-W	3.4	
15号柵列	I 12-41	N-10°-W	4.3	
16号柵列	I 12-51	N-20°-W	3.2	
17号柵列	I 12-42	N-68°-E	3.4	
18号柵列	I 12-61	N-10°-W	3.1	
19号柵列	I 12-81	N-27°-W	3.0	
20号柵列	I 12-71	N-18°-E	5.1	
21号柵列	I 12-81	N-40°-W	2.4	
22号柵列	I 12-71	N-53°-W	4.4	
23号柵列	I 13-02	N-20°-E	7.0	
24号柵列	H12-86	N-22°-W	3.6	
25号柵列	F14-26	N-4°-W	5.7	

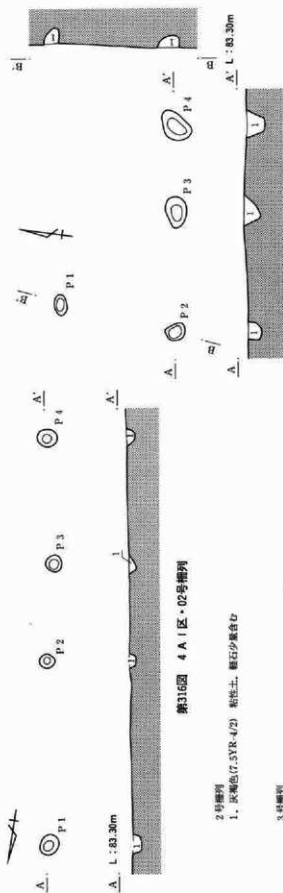
## 1 篠塚狐穴(4 A I 区)・篠塚四反歩(4 A II 区)地区

権利柱間計測表

	$P_1-P_2$	$P_2-P_3$	$P_3-P_4$	$P_4-P_5$	$P_5-P_6$	$P_6-P_7$	$P_7-P_8$	$P_8-P_9$	$P_9-P_{10}$	$P_{10}-P_{11}$	$P_{11}-P_{12}$	$P_{12}-P_{13}$	$P_{13}-P_{14}$	$P_{14}-P_{15}$
1号標列	1.8	2.6	2.1	2.7	2.1									
2号標列	2.9	1.6	2.0											
3号標列	1.9	1.9	1.4											
4号標列	2.2	1.9	1.8											
5号標列	2.4	3.4												
6号標列	1.5	1.0	0.8	1.9	1.1	1.5	1.2	1.3	2.5					
7号標列	0.6	0.8	0.5											
8号標列	0.7	0.7	1.1	0.8	0.5	1.4	0.6	1.3	1.7	0.7	2.4	2.0	1.3	2.7
	$P_{15}-P_{16}$	$P_{16}-P_{17}$												
	1.3	1.5												
9号標列	1.8	2.0												
10号標列	0.7	1.7	0.7	1.4	0.4									
11号標列	1.9	2.8	2.3											
12号標列	2.0	1.4	2.0											
13号標列	1.4	1.5	1.2											
14号標列	1.3	2.1												
15号標列	1.6	1.3	1.4											
16号標列	1.5	1.7												
17号標列	1.8	1.6												
18号標列	1.6	1.5												
19号標列	0.4	1.1	0.9	0.6										
20号標列	1.9	1.4	1.8											
21号標列	0.7	1.0	0.7											
22号標列	2.0	1.3	1.1											
23号標列	0.8	1.9	1.5	1.4	0.7	0.7								
24号標列	1.3	1.2	1.1											
25号標列	1.6	4.1												



第315図 4 A II区・01号横列



第316図 4 A I区・02号横列

2号横列

1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、軽石少量含む

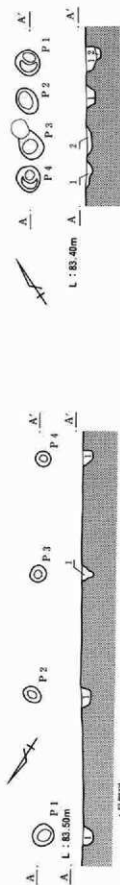
3号横列

1. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土、黄褐色トルロム少量含む

第317図 4 A I区・03号横列

0 1:60 2 m

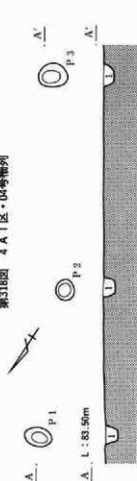




4号棚列

1, 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、炭化物、軽石少量含

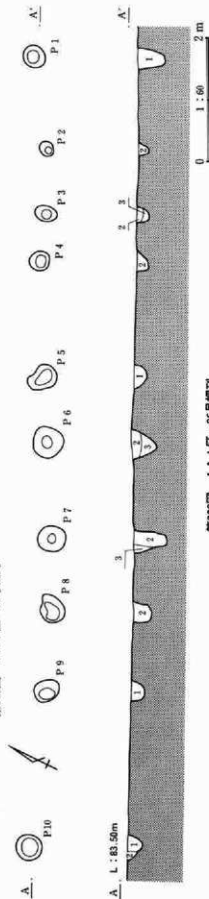
第318図 4AⅠ区・04号棚列



5号棚列

1, 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、炭化物、軽石少量含

第319図 4AⅠ区・05号棚列



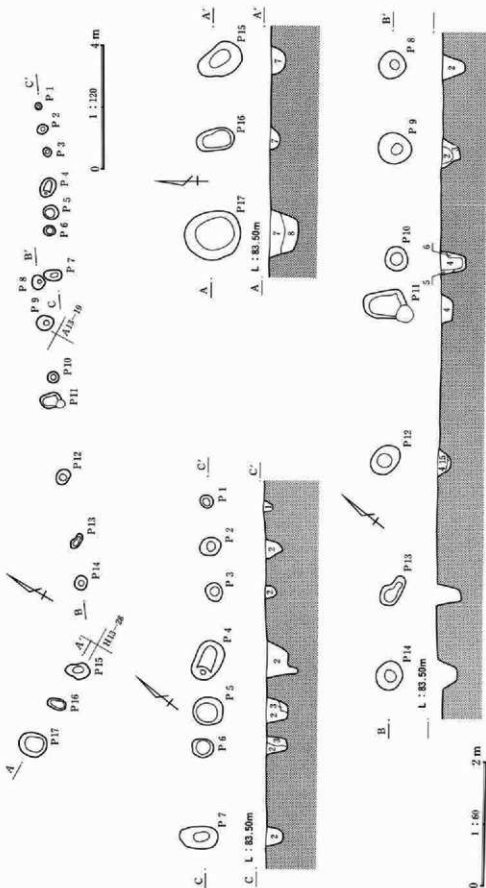
6号棚列

1, 褐色(10YR-4/4) 粘性土、に多い黄色シルトロームを5%含む

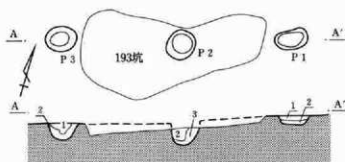
2, 褐色(7.5YR-4/3) ローム较多量に含み、砂礫は少量含む

3, 暗褐色(10YR-3/2) 粘性土、に多い黄褐色シルトロームを10%含む

第320図 4AⅠ区・06号棚列



1 篠塚孤穴(4 A I 区)・篠塚四反歩(4 A II 区)地区

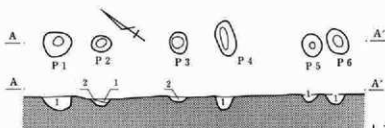


9号棚列

1. 黒褐色(7.5YR-3/2) 小礫のローム塊・砂礫含む
2. 褐色(7.5YR-4/3) ローム塊主体、均質
3. 暗褐色(7.5YR-3/3) 小型のローム塊少量含む、粘性あり、固い

L : 83.20m

第323図 4 A I 区・09号棚列

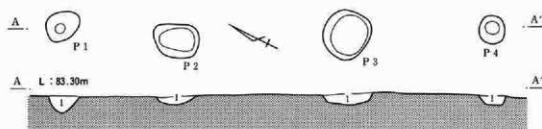


10号棚列

1. 黒褐色(10YR-3/2) 軟質
2. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土、シルトローム・黒褐色土含む

L : 83.20m

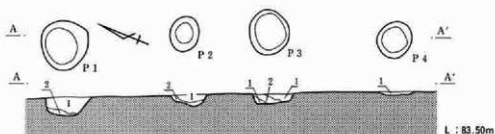
第324図 4 A I 区・10号棚列



11号棚列

1. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土、シルトローム・黒褐色土含む

第325図 4 A I 区・11号棚列



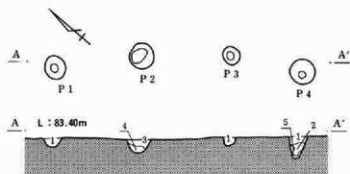
12号棚列

1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、砂質強く炭化物・焼土を10%含む
2. 灰褐色(7.5YR-4/2) により褐色砂質土を10%、炭化物・焼土少量含む

0 1 : 60 2 m

第326図 4 A I 区・12号棚列

# IV 遺構と遺物



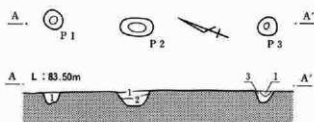
13号横列

1. 黒褐色(7.5YR-3/2) 砂礫少量含む。均質
2. 暗褐色(7.5YR-3/3) 砂礫・ローム粒少量含む
3. 暗褐色(7.5YR-3/3) 砂礫・大型ローム塊含む
4. 黒褐色(7.5YR-3/2) 均質土。粘性あり。固い
5. 褐色(7.5YR-4/3) 砂礫含む

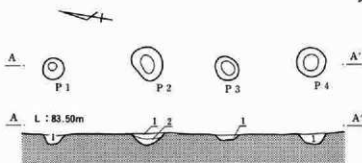
第327図 4 A I 区・13号横列

14号横列

1. 黒褐色(7.5YR-3/2) 砂礫含む。均質
2. 暗褐色(7.5YR-3/3) 砂礫・大型のローム塊を含む
3. 暗褐色(7.5YR-3/3) 砂礫・少量のローム粒を含む



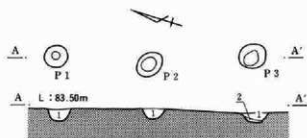
第328図 4 A I 区・14号横列



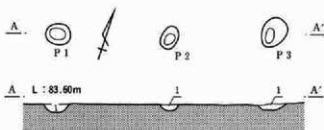
第329図 4 A I 区・15号横列

15・16号横列

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土。軽石含む
2. ぶい黄褐色(10YR-4/3) 粘性土。軽石・シルト・ロームを20%含む



第330図 4 A I 区・16号横列



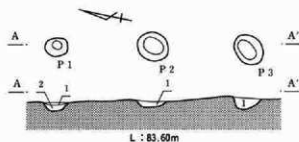
17号横列

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土。軽石含む

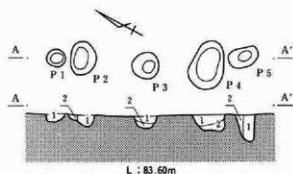
0 1 : 60 2 m

第331図 4 A I 区・17号横列

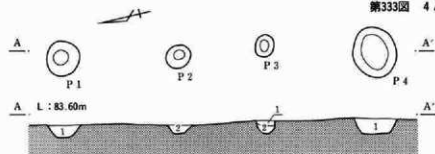
1 篠塚弧穴(4 A I 区)・篠塚西反歩(4 A II 区)地区



第332図 4 A I 区・18号横列



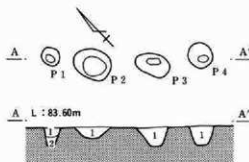
第333図 4 A I 区・19号横列



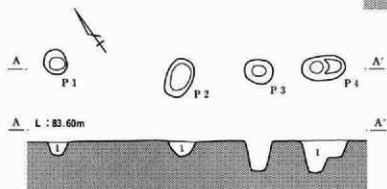
第334図 4 A I 区・20号横列

18・19・20・21・22号横列

1. 灰黄褐色(10YR-4/2)粘性土・軽石含む。
2. 1.にぶい黄褐色(10YR-4/3)粘性土・軽石・シルトロームを20%含む。



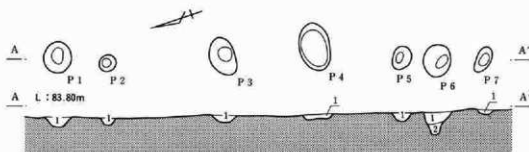
第335図 4 A I 区・21号横列



第336図 4 A I 区・22号横列

0 1:60 2 m

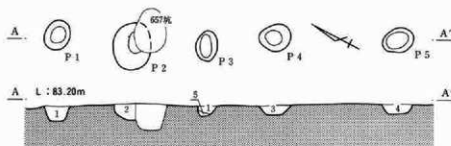
IV 遺構と遺物



23号掘削

1. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土、軟質
2. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土、黄褐シルトローム・砂礫を20%含む

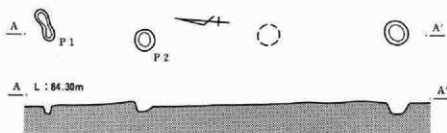
第337図 4 A I 区・23号掘削



24号掘削

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、オリーブ褐シルトロームを10%含む
2. 暗褐色(7.5YR-3/4) 1層に類似
3. 黒褐色(7.5YR-3/2) 小型ローム塊・砂礫含む
4. 褐色(7.5YR-4/3) ローム較少量に含む
5. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土

第338図 4 A I 区・24号掘削



第339図 4 A II 区・25号掘削

0 1 : 60 2 m

## (5) 垣 根

垣根に関してさしたる根拠はないが、掘立柱建物跡に平行して異様に近い柱列が存在している。しかも掘立柱建物跡の柱穴痕よりも幾分小振りの柱列で、櫛列と区別できるものを本稿では垣根遺構とよんでいる。また垣根遺構はそのほとんどが4AⅠ区に集中している。

垣根遺構

### 01号垣根 (挿図番号340)

07号掘立の東側0.8mに設けられ、柱間2間で掘り込みは浅い。

### 02号垣根 (挿図番号341)

14号掘立の西側1mに設けられ、柱間2間で掘り込みは浅い。

### 03号垣根 (挿図番号342)

14号掘立の東側0.9mに設けられ、柱間3間で掘り込みは比較的深い。

### 04号垣根 (挿図番号343)

23号掘立の南側0.8mに設けられ、柱間1間で掘り込みは浅い。

### 05号垣根 (挿図番号344)

13号掘立の東側0.7mに設けられ、柱間2間で掘り込みは浅い。

### 06号垣根 (挿図番号345)

12号掘立の西側1.5mに設けられ、柱間2間で掘り込みはしっかりしている。

### 07号垣根 (挿図番号346)

12号掘立の東側1.3mに設けられ、柱間2間で掘り込みは比較的深い。

### 08号垣根 (挿図番号347)

11号掘立の東側0.6mに設けられ、柱間2間で掘り込みは不揃いである。

### 09号垣根 (挿図番号348)

26号掘立の西側0.6mに設けられ、柱間2間で掘り込みは浅い。

### 10号垣根 (挿図番号349)

16号掘立の南側0.8mに設けられ、柱間3間で掘り込みは不揃いだが、P2とP3は掘り方がしっかりしている。

### 11号垣根 (挿図番号350)

# IV 遺構と遺物

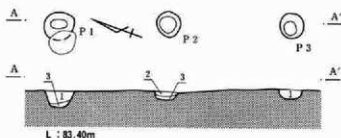
32号堀立の南側に設けられ、確認は柱間1間だが、本来は建物との位置関係から3間位の長さが想定される。

堀根規模計測表

遺構名	グリッド	主軸方位	長さ[m]	備考
01号堀根	H13-15	N-25°-W	3.8	7号堀立柱建物
02号堀根	H12-86	N-30°-W	3.6	14号 #
03号堀根	H12-76	N-27°-W	2.2	同上
04号堀根	H12-67	N-56°-E	4.4	23号堀立柱建物
05号堀根	H12-68	N-39°-W	3.8	13号 #
06号堀根	H12-88	N-27°-W	4.4	12号 #
07号堀根	H12-76	N-31°-W	3.0	同上
08号堀根	H13-09	N-26°-W	2.6	同上
09号堀根	H12-60	N-21°-W	4.2	26号堀立柱建物
10号堀根	H12-85	N-74°-E	2.9	16号 #
11号堀根	F14-87	N-81°-E	1.7	32号 #

堀根柱間計測表

	P <sub>1</sub> -P <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> -P <sub>3</sub>	P <sub>3</sub> -P <sub>4</sub>
1号堀根	1.8	2.0	
2号堀根	2.0	1.6	
3号堀根	0.8	1.4	
4号堀根	4.4		
5号堀根	2.0	1.8	
6号堀根	2.4	2.0	
7号堀根	1.7	0.7	
8号堀根	2.4	0.6	
9号堀根	2.0	2.2	
10号堀根	0.9	0.8	1.2
11号堀根	1.7		



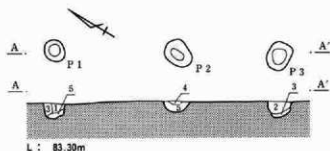
## 1号堀根

1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、にぶい黄色ローム質土含む
2. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、にぶい黄色ローム質土を30%含む
3. にぶい黄褐色(10YR-4/3) 粘性土、黄褐色シルトローム・砂を5%含む

第340図 4 A I 区・01号堀根

0 1:60 2 m



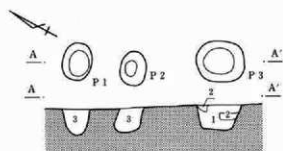


L : 83.30m

2号垣根

1. 黒褐色(7.5YR-3/2) 小型のローム塊・砂礫含む
2. 暗褐色(7.5YR-3/4) 大型のローム塊少量含む。粘性あり。固い
3. 褐色(7.5YR-4/3) 均質。ローム塊主体
4. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土
5. 暗褐色(7.5YR-3/4) オリーブ褐色シルトロームを10%含む

第341図 4AⅠ区・02号垣根



L : 83.30m

3号垣根

1. 灰色(5Y-4/1) 砂質土。浅黄色土を30%含む
2. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土。にぶい黄褐色シルトローム・砂粒を10%含む
3. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土。にぶい黄褐色シルトローム・砂粒を50%含む

第342図 4AⅠ区・03号垣根



L : 83.30m

4号垣根

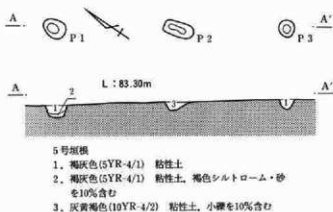
1. 黒褐色(7.5YR-3/2) 小型のローム塊・砂礫含む
2. 暗褐色(7.5YR-3/3) 小型のローム塊少量含む。粘性あり。固い
3. 暗褐色(7.5YR-4/3) 均質。ローム塊主体

第343図 4AⅠ区・04号垣根

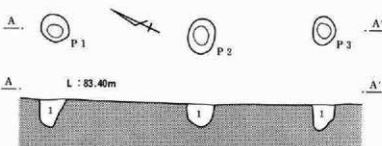


0 1 : 60 2 m

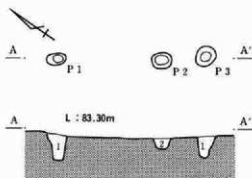
# IV 遺構と遺物



第344図 4 A I 区・05号垣根



第345図 4 A I 区・06号垣根

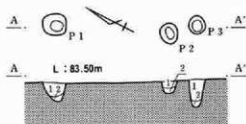


第346図 4 A I 区・07号垣根



0 1 : 60 2 m

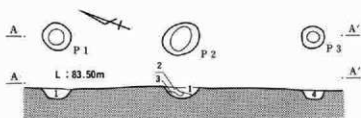
1 篠塚狐穴(4 A I 区)・篠塚四反歩(4 A II 区)地区



8号垣根

1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、砂質強く炭化物・焼土を10%含む
2. 灰褐色(7.5YR-4/2) 1層に類似、にょい褐色砂質土含む

第347図 4 A I 区・8号垣根



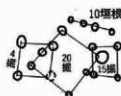
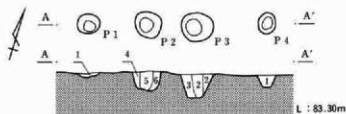
9号垣根

1. 暗褐色(7.5YR-3/3) 砂礫・ローム粒少量含む
2. 暗褐色(7.5YR-3/3) 砂礫・大型のローム

ム境含む

3. 褐色(7.5YR-4/3) 砂礫主体
4. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、礫石含む

第348図 4 A I 区・9号垣根



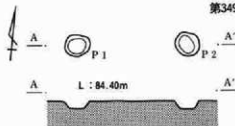
10号垣根

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、にょい黄褐色シルトロームを10%含む
2. 褐灰色(10YR-4/1) 砂礫層
3. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土

4. オリーブ黄色(5Y-6/4) シルトローム

5. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土、炭化物・焼土少量含む
6. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土、オリーブ黄シルトロームを10%含む

第349図 4 A I 区・10号垣根



11号垣根 0 1:60 2m

第350図 4 A II 区・11号垣根

## (6) 溝状遺構

本遺跡地は藤岡扇状地の先端に位置するため、南西から北東方向への緩傾斜をもち、そのことが大部分の溝の方向性を規定している。

- 4 A I 区 4 A I 区の溝は01号溝1条のみで、4 A I 区遺構群の南辺を限るようにして存在する。
- 4 A II 区 また4 A II 区の溝は5条を数え、05号溝を除いていずれも南西から北東への走方向をもって流れている。05号溝は方形区画の一部を画する溝で、何等かの施設が存在が推定される。

## 4 A I 区・01号溝 (挿図番号351・357・358 写真番号PL74・75)

- 位置・走方向 本溝は4 A I 区の遺構群の南辺を限って東流し、G13・48グリッドを中心に確認されている。
- 形状・層相 溝の断面は明瞭な台形を呈し、上幅80cm、深さ70cmを測る。土層は基本的に3層に分かれ、第3層は砂質で、水の流れた形跡が窺える。掲載遺物は土師器小壺1、土師器台付壺1、土師器坏3、須恵器坏5、須恵器高台付碗5、須恵器大甕破片1である。

## 4 A II 区・02号溝 (挿図番号352・359)

- 位置・走方向 本溝は4 A II 区の西端を南西から北東方向に走り、4 A II・02号住を切ってE14・69, 59, F14・50, 40, 41グリッドの順に流下している。溝の断面形は皿状を呈し、上幅は2m、深さ40cmを測る。土層は5層に分かれ、第1層に砂礫が大量に含まれる。掲載遺物は土鍋1、内耳土鍋1、須恵器質鉢1の3点である。

## 4 A II 区・03号溝 (挿図番号353)

- 位置・走方向 本溝は4 A II 区のほぼ中央を南から北に向かって流れ、一部が4 A II・05号住を切ってF14・84, 85, 75, 65, 66の順に下っている。溝の断面形は基本的には台形状を呈していたものと推測され、北端の明瞭に残っている部分で、上幅60cm、深さ40cmを測る。

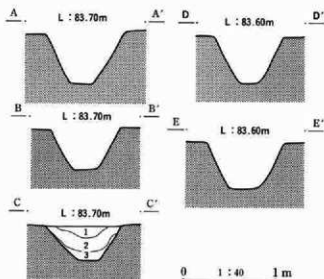
## 4 A I 区・04号溝 (挿図番号354)

- 位置・走方向 本溝は4 A I 区の最東端に位置し、ほぼ東西にI11・78, 79, 69, 70, 60グリッドの順に東流する。溝の断面形は基本的には上幅1.3m、深さ56cmを測り台形状を呈していたが、何回もの浚渫作業で丸みを帯びた形になったものと思われる。その証拠に第4層には水流の形跡を示すラミナ状の堆積が存在し、盛んな水の流下が考えられる。

## 4 A II 区・05号溝 (挿図番号356)

- 位置 本溝は4 A II 区のほぼ中央に位置し、南のF14・86グリッドから始まり76グリッドへと続き、66グリッドから90に近い角度で東向きを変えて、方形区画の2方面を構成している。溝の断面形は台形状で、上幅は最大幅1.4m、深さ40cmを測り、水流の形跡は感じられない。ただし溝の床面レベルは、南から北へ、西から東へと確実に下がっている。

1 篠塚狐穴(4 A I区)・篠塚四反歩(4 A II区)地区

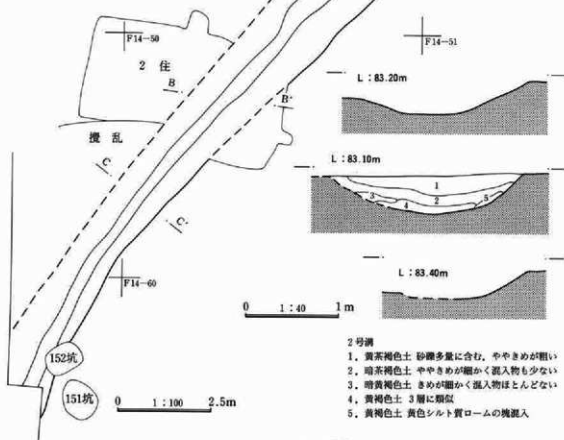


4 A区溝土層説明

1号溝

1. にぶい黄褐色(10YR-4/3) 砂質土。礫少量含み、白色粒を少量に含む。固い
2. 暗褐色(10YR-3/4) 砂質土。礫を少量含み、白色粒を含む
3. 暗褐色(10YR-3/4) 1層に類似。黄褐シルトを斑に3%含む

第351図 4 A I区・01号溝



4 A II区・06号溝 (挿図番号355)

本溝は4 A II区の西に位置し、埋没谷の最下部に谷の開口部方向へF14・92, 82, 83グリッドと流下している。溝の断面形は台形状を呈し、上幅50cm、深さ10~15cmを測る。

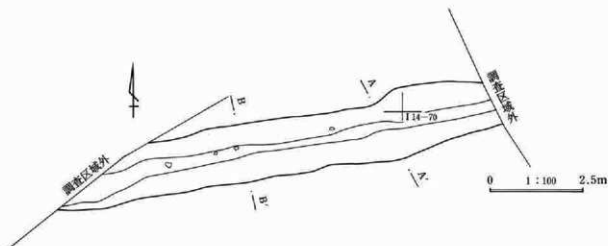
2号溝

1. 黄赤褐色土 砂礫多量に含む。ややきめが粗い
2. 暗赤褐色土 ややきめが細かく混入物も少ない
3. 暗黄褐色土 きめが細かく混入物ほとんどない
4. 黄褐色土 3層に類似
5. 黄褐色土 黄色シルト質ロームの塊混入

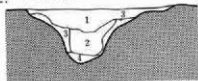
第352図 4 A II区・02号溝



1 篠塚孤穴(4 A I区)・篠塚四反歩(4 A II区)地区



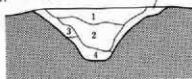
A L : 83.60m A'



4号溝

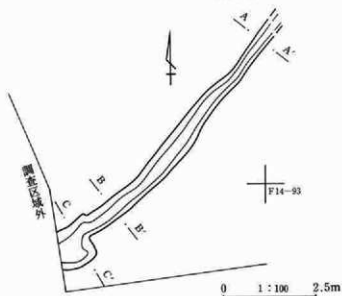
1. 暗褐色(7.5YR-3/3) 小礫多量に含む、やや粘性あり
2. 暗褐色(7.5YR-3/3) シルト塊少量含む、粘性あり
3. 褐色(7.5YR-4/3) シルト塊多量に含む、粘性あり
4. 灰黄褐色(10YR-4/2) シルト塊主体、ラミナ状の組織を呈す、粘性あり

B L : 83.60m B'



0 1 : 40 1 m

第354図 4 A I区・04号溝



A L : 84.20m A'



B L : 84.20m B'



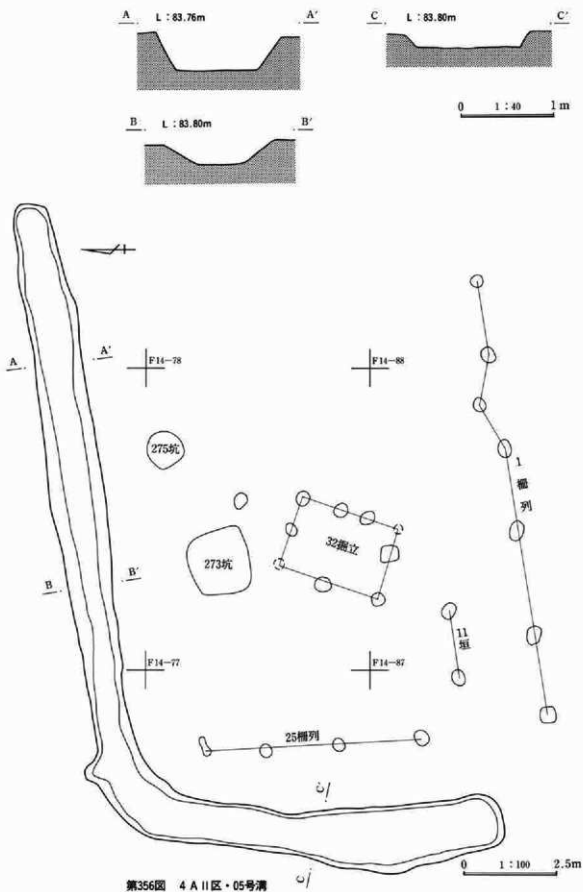
C L : 84.10m C'



0 1 : 40 1 m

第355図 4 A II区・06号溝

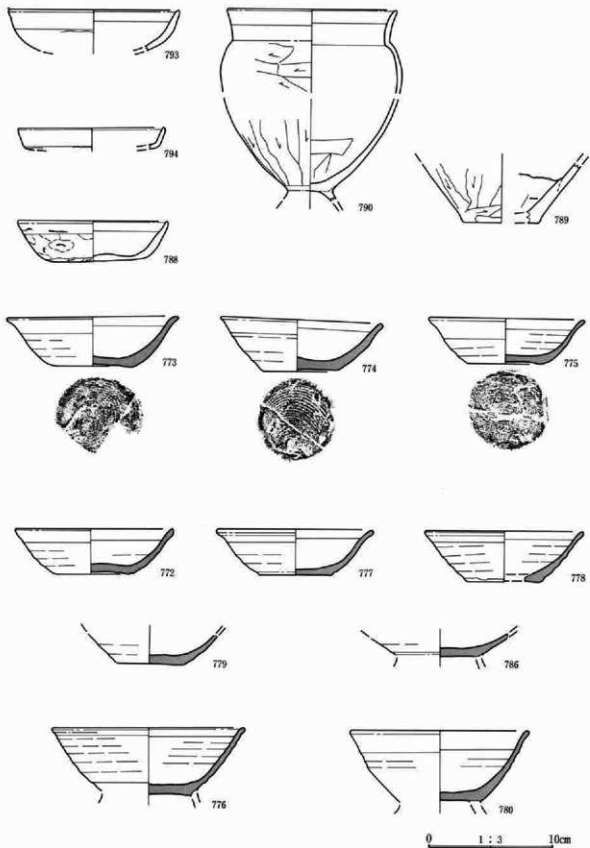
# IV 遺構と遺物



第356図 4 A II区・05号溝

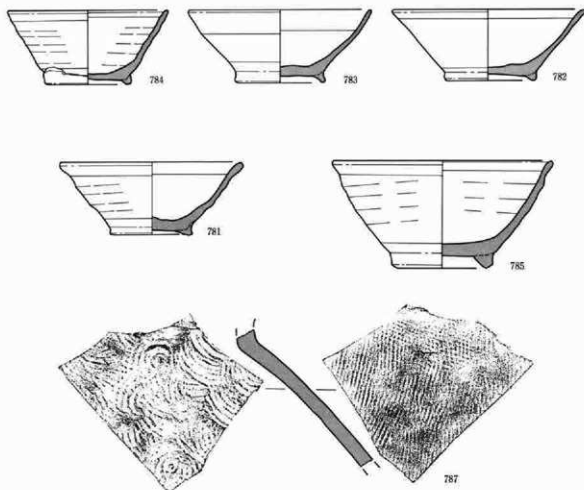


1 藤塚孤穴(4AⅠ区)・藤塚四反歩(4AⅡ区)地区

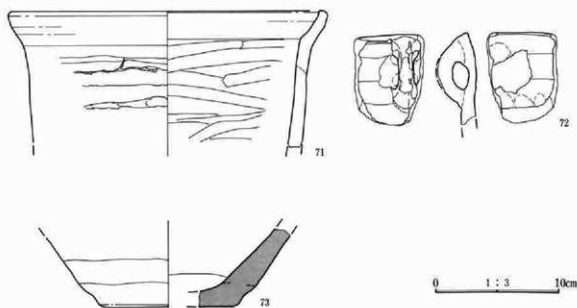


第357図 4AⅠ区・01号溝出土遺物

IV 遺構と遺物



第358図 4 A I 区・01号溝出土遺物



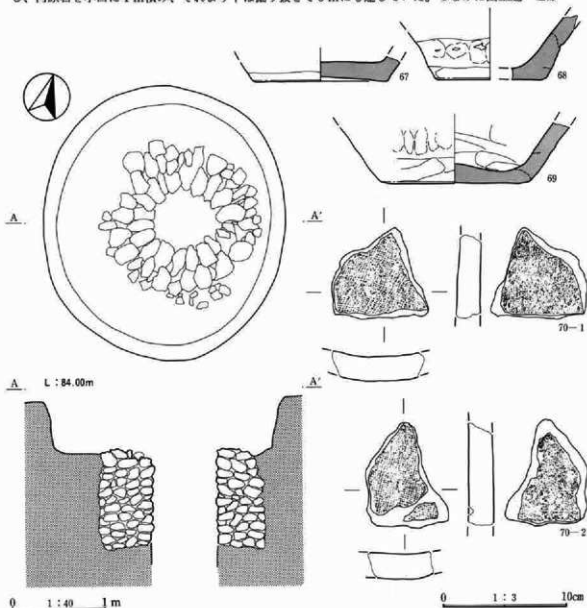
第359図 4 A II 区・02号溝出土遺物

## (7) 井戸状遺構

該遺跡は藤岡扇状地の先端部に位置し、北の沖積低地との比高差は3mを越え、往古から排水性の高い水不足の土地柄である。ところが発掘調査における井戸状遺構の検出例は僅少で、7世紀後半に藤岡扇状地に生活の跡を刻み始めてからの水利用については、どのようなものであったかはこれからの研究課題である。

## 4 A II区・01号井戸 (栞図番号247・248)

該井戸は4 A II区の西端に位置し、F14・55, 65グリッドに属している。井桁の形状は円形で、掘り方は長径3m・深さ60cmを割り、井筒の径は70cmである。基本的には石井の形状を示し、河原石を小口に1m積み、それより下は掘り抜きで5mにも達していた。ちなみに出土遺物



第360図 4 A II区・01号井戸

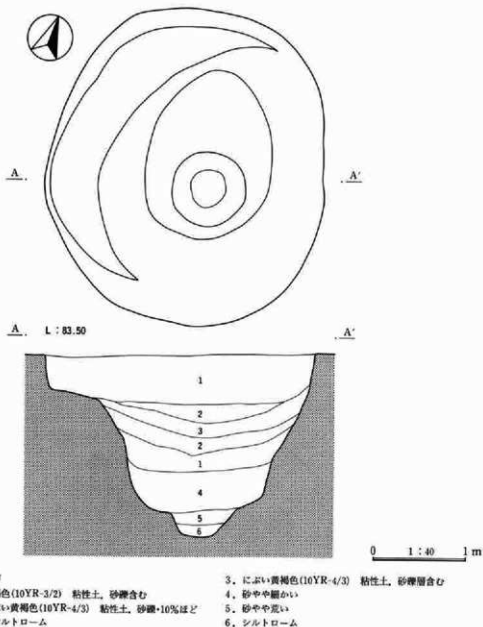
第361図 4 A II区・01号井戸出土遺物

# IV 遺構と遺物

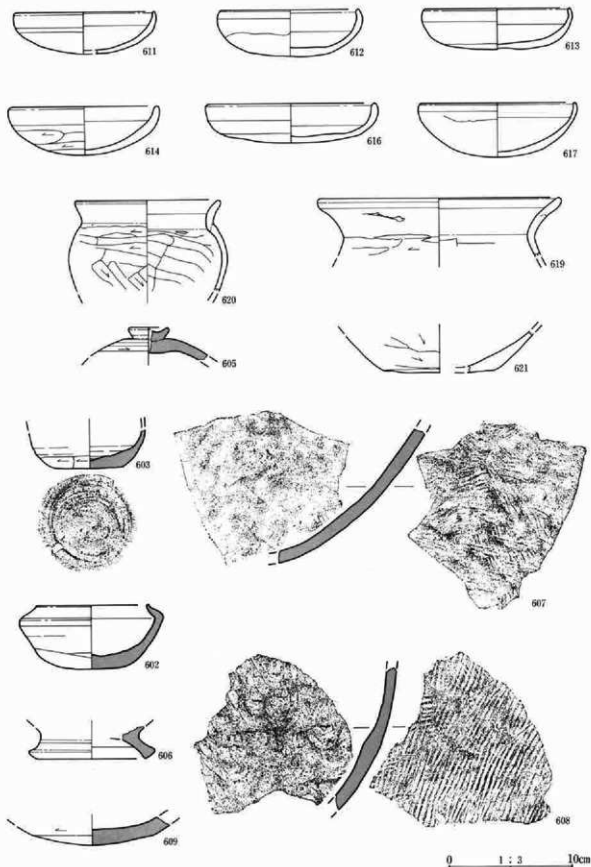
物から8世紀代の所産と思われるさ2mの02号井戸と併せて考えると、時代が下るに従い水位の低下により深井戸の必要性ができたものと推測される。

## 4 A I 区・02号井戸 (挿図番号362)

位置・形状 該井戸は4 A I 区の東端近くに位置し、I 12・40, 50グリッドに属している。井桁部分の形状は円形で、西側のテラス状部分に井桁の掘り方の痕跡が残る。井筒の径は2m強で深さも2mと推測され、断面形は逆釣り鐘状を呈している。4 A I・41号住との切り合いが見られるが、出土遺物から02号井戸が先行するものと思われる。2m強程度の深さの井戸であるので、8世紀代には該遺跡周辺ではかなりの水位の高さがなければ井戸として機能しないことになる。



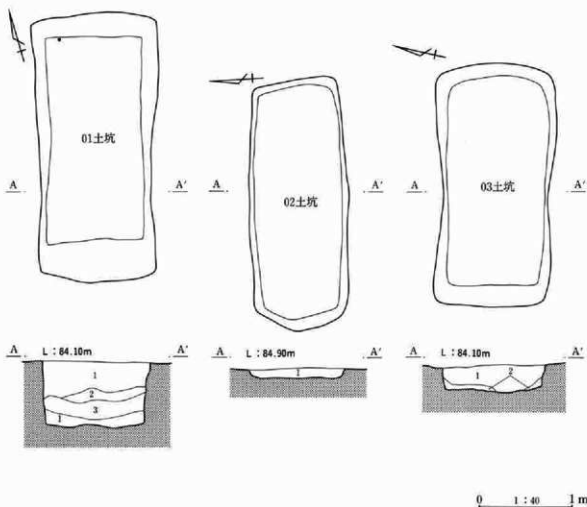
1 藤塚孤穴(4AⅠ区)・藤塚四反歩(4AⅡ区)地区



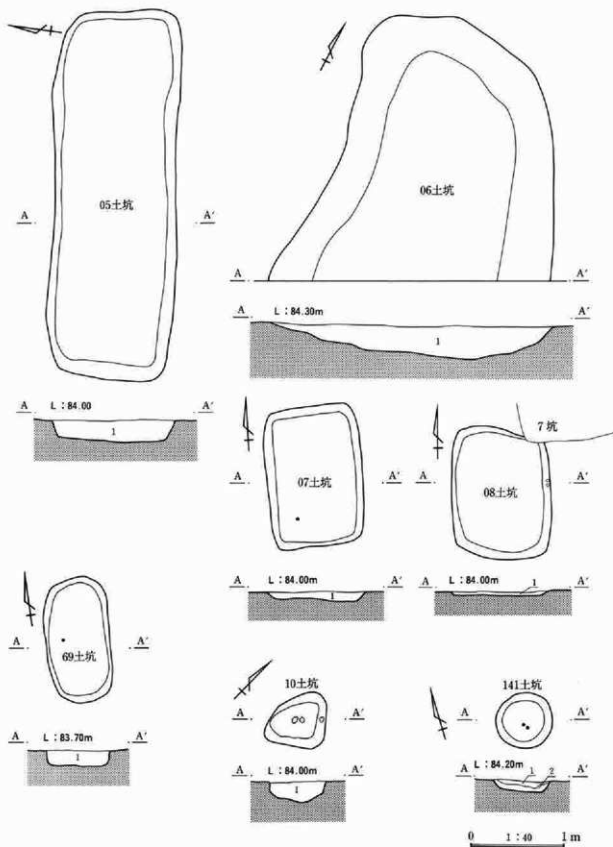
第363图 4AⅠ区・02号井戸出土遺物

## (8) 土 坑 (挿図番号364)

- 土坑分布** 4 A 区の2000基弱の土坑の分布は圧倒的に東側の4 A I 区に偏っており、そのために報告するものは4 A I 区の土坑のみである。4 A I 区を鳥瞰すると、比較的大きな土坑は竪穴住居址や掘立柱建物跡を避けるようにして、該区の南部や西部に点在し、小土坑は竪穴住居址や掘立柱建物跡と混在する傾向にある。
- 平面形** 土坑の平面形を分類すると、①長方形、②円形、③楕円形、④隅丸方形、⑤不整形に大別される。断面形については、①長方形、②皿形、③釣り鐘形に分けられる。相関関係は長方形土坑には長方形断面の相関が見られ、また柱穴と考えられる小土坑には釣り鐘形の断面が多く見られ、そのほかは皿形の断面が普遍的である。
- 長方形土坑** 長方形土坑はほぼ長さ2～3 m、幅1 mの規格化された掘り方を有し、後述する墓坑の一群と理解される。傍証としては、長方形土坑437号から副葬品と見られるキセルが出土していることがあげられる。
- 円形大形土坑** 円形の大形土坑は径1 m強のものが大半で、出土遺物も8～9世紀代のものが中心となり、周囲の竪穴住居址や掘立柱建物跡が盛んに営まれた時期の所産であると考えられる。

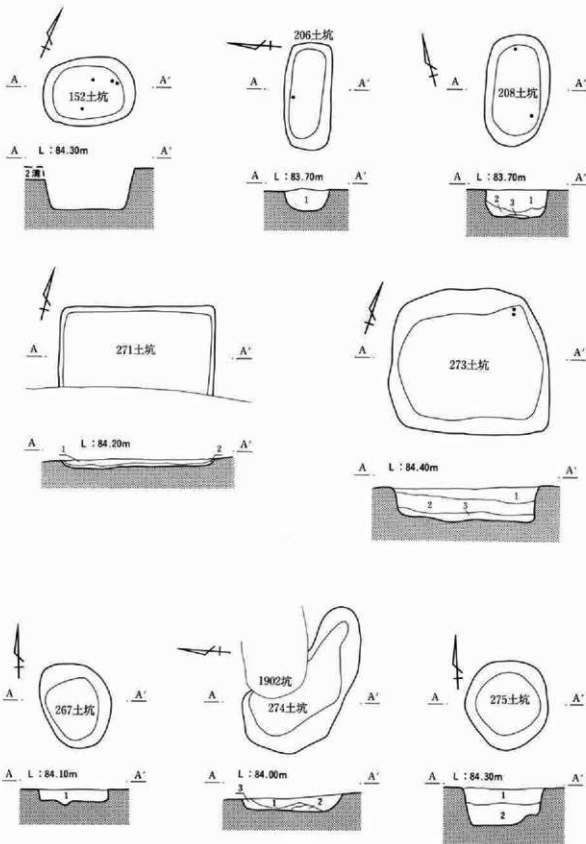


第364図 4 A I 区・01.02.03号土坑



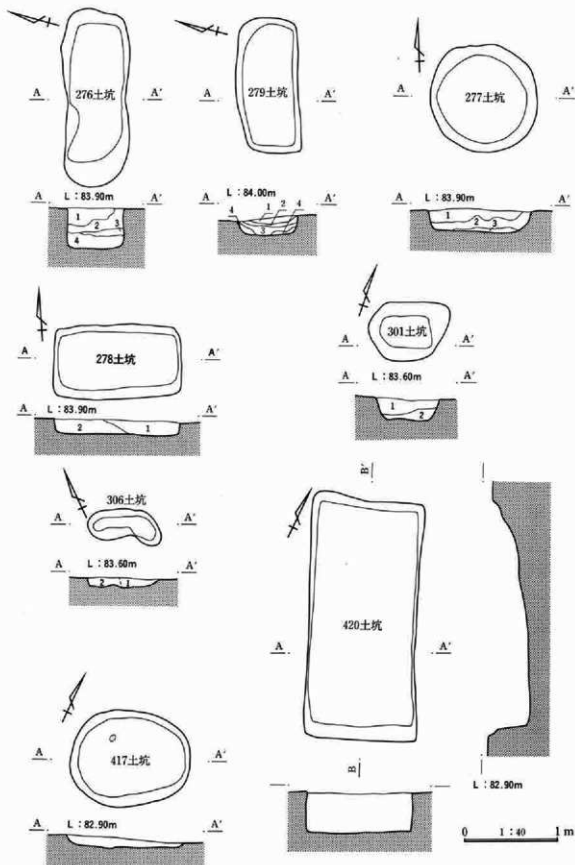
第365图 4 A I 区・05.06.07.08.10.69号土坑、II区・141号土坑

IV 遺構と遺物



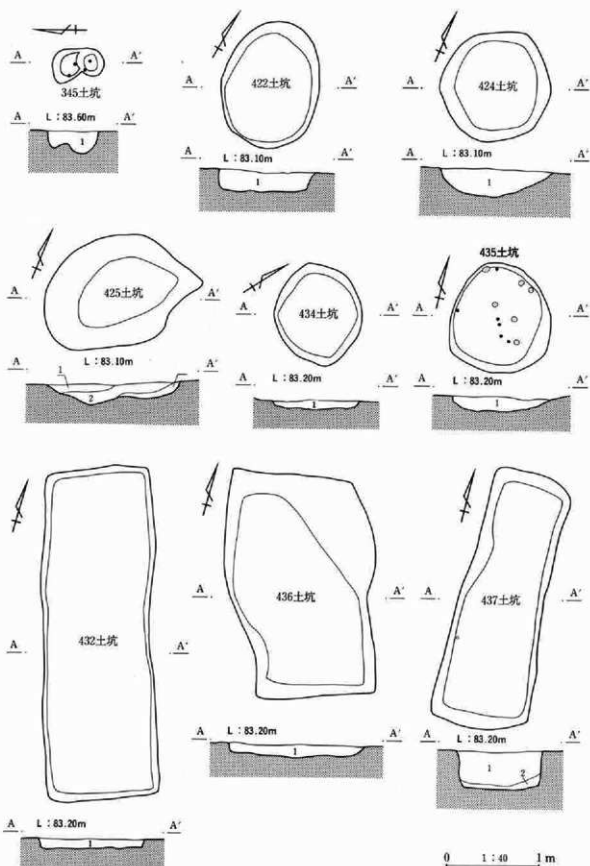
第366図 4 A II 区・152号土坑、I 区・206.208.267.271.273.274.275号土坑





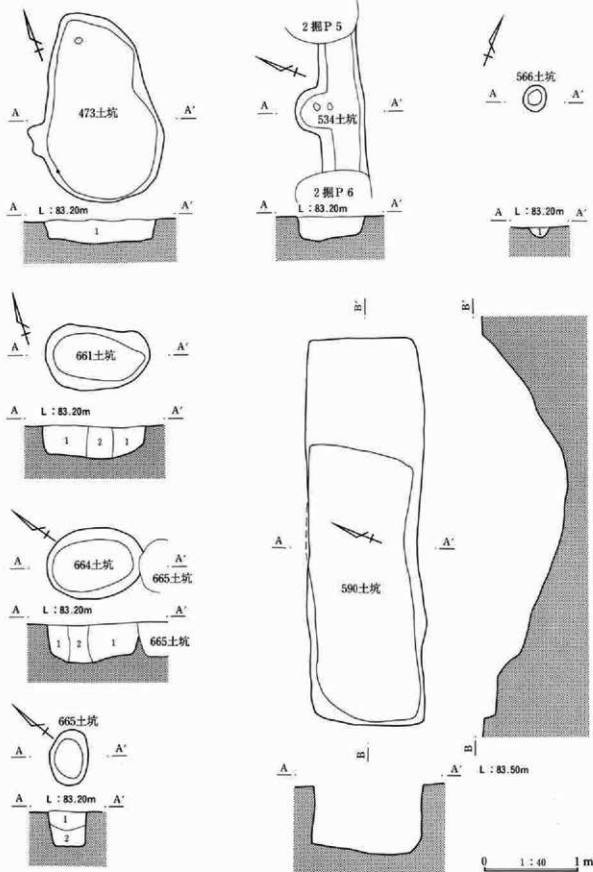
第367図 4AⅠ区・276, 277, 278, 279, 301, 306号土坑、Ⅱ区・417, 420号土坑

IV 遺構と遺物



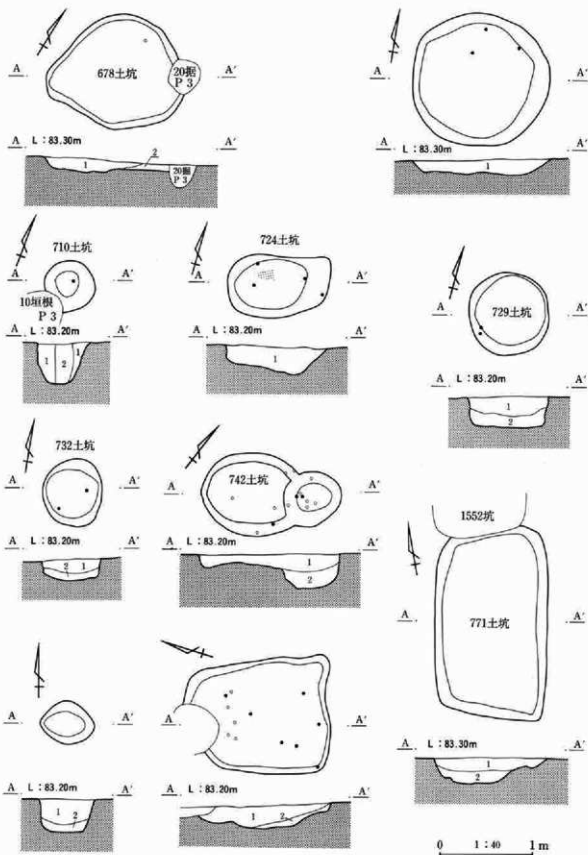
第368図 4 A I 区・345, 432, 434, 435, 436, 437号土坑、II 区・422, 424, 425号土坑

1 藤塚孤穴(4 A I区)・藤塚四反歩(4 A II区)地区

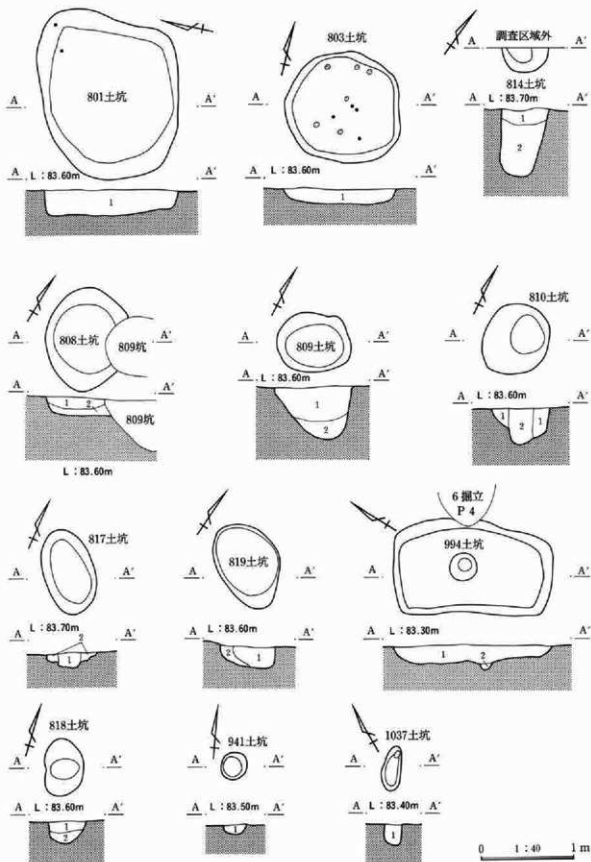


第369図 4 A I区・473.534.566.590.661.664.665号土坑

IV 遺構と遺物

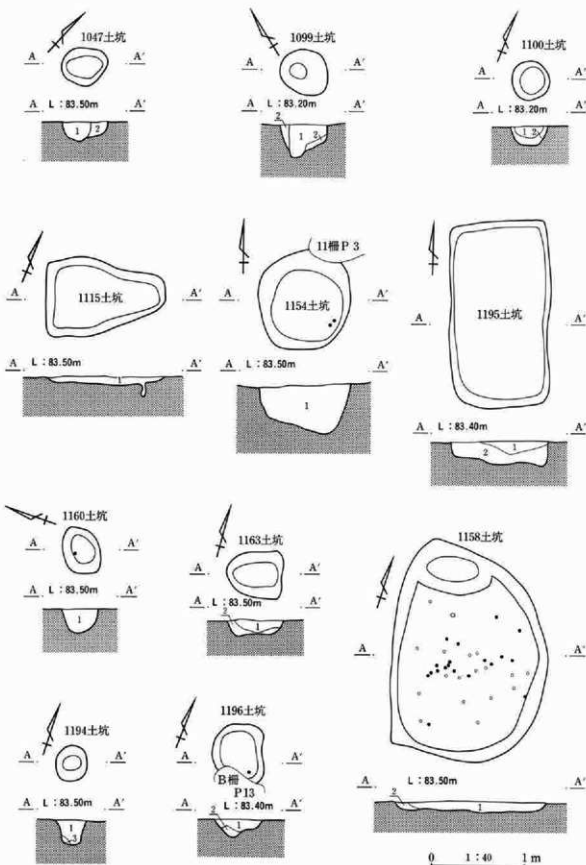


第370図 4 A | 区・678.710.724.729.730.732.737.742.745.771号土坑

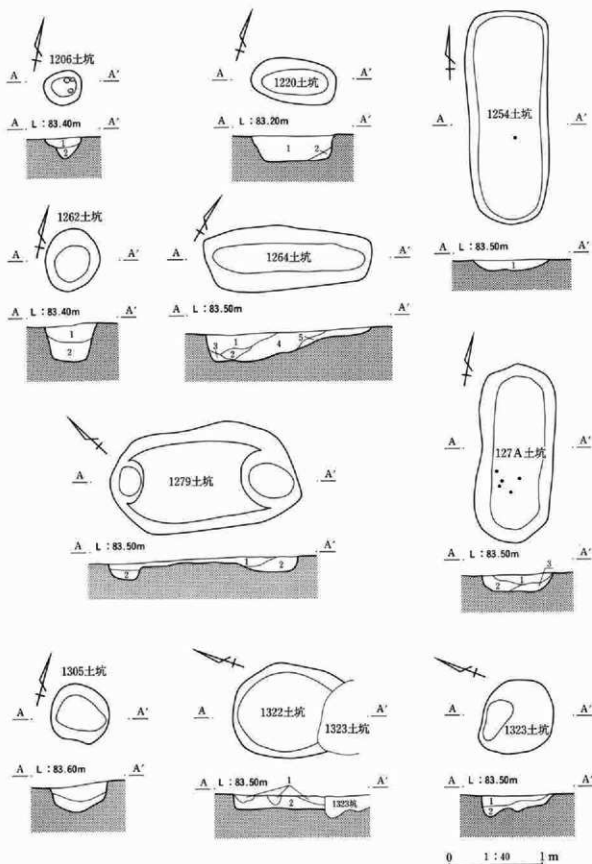


第371图 4A I区·801.803.808.809.810.814.817.818.819.941.994.1037号土坑

IV 遺構と遺物

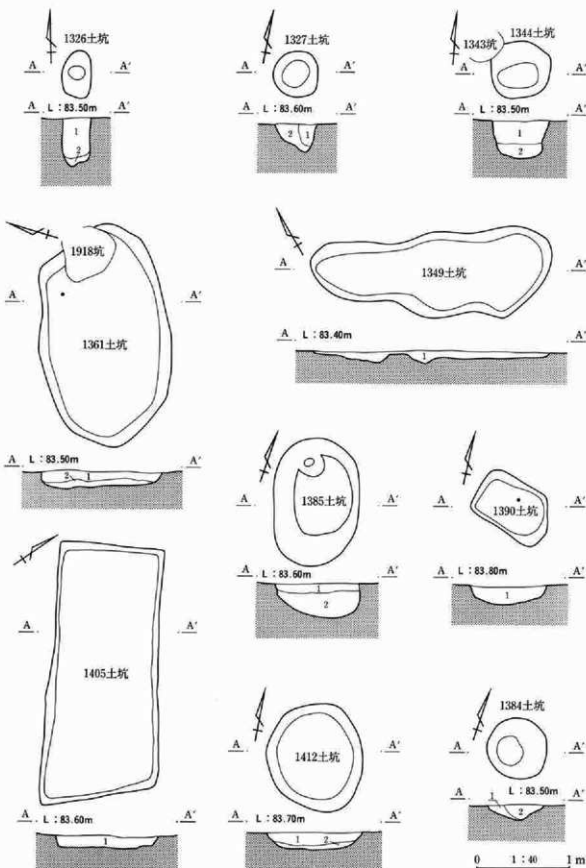


第372図 4 A | 区・1047.1099.1100.1115.1154.1158.1160.1163.1194.1195.1196号土坑



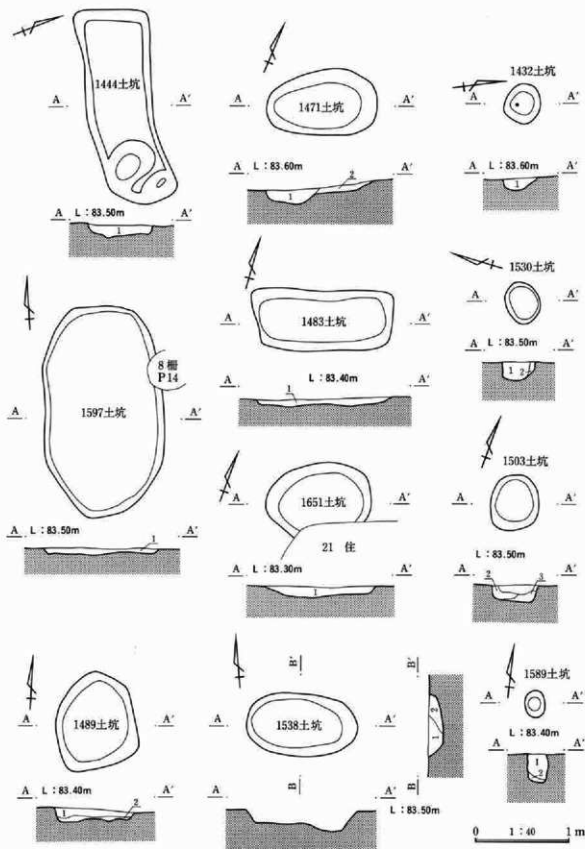
第373图 4 A I 区・1206.1220.1254.1262.1264.1274.1279.1305.1322.1323号土坑

IV 遺構と遺物



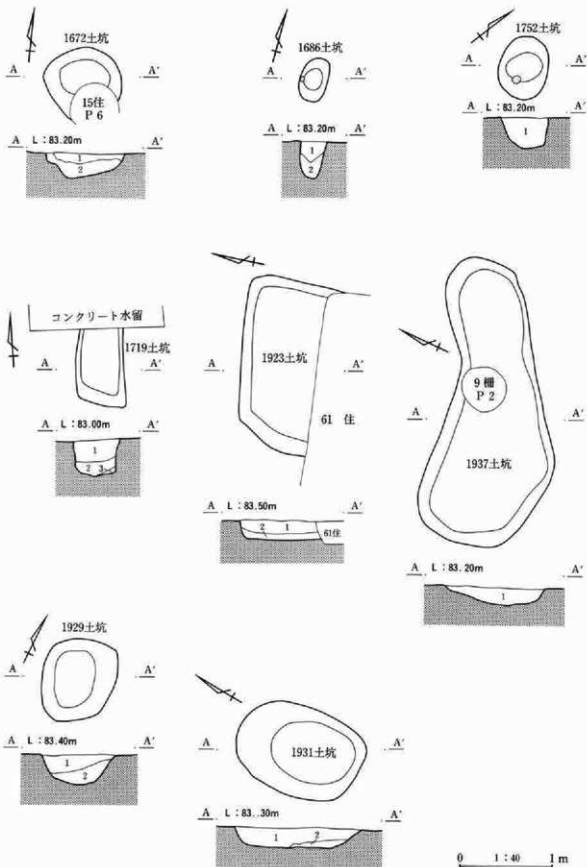
第374図 4 A I 区・1326.1327.1344.1349.1361.1384.1385.1390.1405.1412号土坑





第375图 4AⅠ区・1432,1444,1471,1483,1489,1503,1530,1538,1589,1597,1651号土坑

IV 遺構と遺物



第376図 4 A I 区・1672. 1686. 1719. 1752. 1923. 1924. 1931. 1937号土坑

1 篠塚狐穴(4AⅠ区)・篠塚四反歩(4AⅡ区)地区

4AⅠ区土層説明

1号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土
2. 黄褐色(2.5Y-5/4) ローム質土、砂質土
3. 黄褐色(2.5Y-5/4) ローム質土、粘性あり

2号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) 砂礫層

3号土坑

1. 黄褐色(2.5Y-5/4) ローム質土、粘性土
2. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土

5号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、灰黄褐色ローム塊含む

6号土坑

1. 暗褐色(7.5YR-3/3) 粘性土、軟質

7・8号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/1) 粘性土、細粒多量を含む

10号土坑

1. 黒褐色(2.5Y-3/2) 粘性土、黄色ローム塊含む

69号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 粘性土、黄褐色シルト粒少量含む、炭化物粒を斑に3%含む

141号土坑

1. 暗褐色 砂粒多量を含む
2. 暗褐色 1層に類似、砂粒少量含む

206号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、黄褐砂質シルト粒・炭化物粒含む、固い

208号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、炭化物粒3%含む
2. 暗褐色(10YR-3/3) 1層に類似

267号土坑

1. 暗褐色 シルト質土塊・砂粒含む、固い

271号土坑

1. 暗褐色 砂粒多量を含む
2. 暗灰色 粘性土

273号土坑

1. 暗褐色 シルト質土塊・砂粒含む、粘性あり
2. 暗褐色 シルト質土塊少量含む、粘性あり
3. 褐色 シルト質土塊多量を含む、粘性あり

274号土坑

1. 暗褐色 シルト質土少量含む
2. 褐色 シルト質土多量を含む
3. 灰褐色 2層に類似

275号土坑

1. 暗褐色 シルト質塊・少量の炭化物を含む
2. 暗褐色 粘性土、黄褐色シルト塊含む

276号土坑

1. 褐色 小型のシルト質塊多量を含む
2. 褐色 大型のシルト質塊多量を含む
3. 褐色 シルト質粒を多量に含み形状堆積を呈す
4. 褐色 やや暗い大型のシルト質塊少量含む

277号土坑

1. 暗褐色 小型のシルト質土塊を多量に含む、白色鉄石粒含む、固い
2. 暗褐色 中型のシルト質土塊を多量に含む、固い
3. 暗褐色 シルト質土塊少量含む

278号土坑

1. 暗褐色 砂質土、シルト質土塊少量含む
2. 暗褐色 砂質土、シルト質土塊多量を含む

279号土坑

1. 暗褐色 礫土少量含む
2. 暗褐色 礫土・炭化物多量を含む
3. 暗褐色 シルト質土塊少量含む
4. 灰褐色 粘性土、シルト質土

301号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、黄褐シルト粒少量含む、固い
2. 暗褐色(10YR-3/3) 2層に類似、礫土粒含む

306号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、黄褐シルト粒を斑に3%含む、固い
2. 暗褐色(10YR-3/3) 1層に類似

345号土坑

1. におい黄褐色(10YR-4/3) 砂質土、黄褐砂質シルト粒少量含む

417号土坑

1. におい黄褐色(10YR-4/3) 黄褐色シルトローム・軽石を多量に含む

420号土坑

1. 暗灰黄色(2.5Y-4/2) 粘性土、黄褐色シルトローム・軽石を多量に含む

422号土坑

1. 暗灰黄色(2.5Y-4/2) 径2~5mm河原石含む

424号土坑

1. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 軽石少量含む

425号土坑

1. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土、少量のA+B含む
2. 褐色(7.5YR-4/4) 砂質土、少量のA+B含む
3. 褐色(7.5YR-4/3) 1層に類似

432号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土、軽石含む

434号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 軽石含む

#### IV 遺構と遺物

##### 435号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 礫石・石・土器片含む

##### 436号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/2) 粘性土、砂粒・礫含む

##### 437号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) シルトローム・径2mm未満含む
2. 褐灰色(10YR-5/1) 砂質土。(水の影響か)

##### 473号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 軟質土。少量の礫石・黄褐色シルトローム含む

##### 534号土坑

1. 褐色(7.5YR-4/3) 炭化物・焼土含む

##### 566号土坑

1. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土

##### 661号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) シルトローム
2. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土。シルトローム少量含む

##### 664号土坑

1. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土。シルトローム少量含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) シルトローム

##### 665号土坑

1. 暗褐色(7.5YR-3/3) 粘性土。シルトローム少量含む
2. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土

##### 678号土坑

1. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土。少量の炭化物含む
2. 暗褐色(10YR3/3) 粘性土

##### 710号土坑

1. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土。オリーブ黄色シルトローム10%含む
2. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土。焼土少量含む

##### 724号土坑

1. 黒褐色(5YR-3/1) 粘性土

##### 729号土坑

1. 黒褐色(2.5Y-3/2)
2. オリーブ黒色(5Y-3/1)

##### 730号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/3) 粘性土

##### 732号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土。黄色シルトローム10%含む
2. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土。黄色シルトローム30%含む

##### 737・740号土坑

1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土。炭化物・焼土含む
2. 灰黄褐色(10YR-4/2) 黄褐色シルトローム・小礫・礫石を10%含む

##### 742号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 粘性土。少量の礫石を含む
2. 灰黄褐色(10YR-4/2) 黄褐色シルトローム・小礫・礫石10%含む

##### 745号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土。黄色シルトローム10%含む
2. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土。黄色シルトローム30%含む

##### 771号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) 軟質
2. 極暗褐色(7.5YR-2/3) 粘性土

##### 801号土坑

1. にぶい黄褐色(10YR-5/3) 粘性土。にぶい黄色シルトローム30%含む

##### 803号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) 砂質土。砂利含む

##### 808号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 粘性土。軟質
2. 暗褐色(10YR-3/3) 粘性土。灰オリーブ色シルトローム20%含む

##### 809号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土
2. 黒褐色(10YR-2/3) 1層に類似。灰オリーブ色シルトローム10%含む

##### 810号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/3) 粘性土。灰オリーブ色シルトローム10%含む
2. 黒褐色(10YR-2/3) 粘性土

##### 814号土坑

1. にぶい黄褐色(10YR-4/3) 粘性土
2. 黒褐色(10YR-2/3) 粘性土

##### 817～819号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 粘性土。軟質
2. 暗褐色(10YR-3/3) 粘性土。灰オリーブ色シルトローム20%含む

##### 941号土坑

1. 黒褐色(5YR-3/1) 粘性土。褐色シルトローム5%含む

##### 994号土坑

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土。にぶい黄褐色シルトローム5%含む
2. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土

1037号土坑

1. ぶい黄褐色(10YR-4/3) 粘性土、炭化物・ぶい黄褐色土・焼土含む

1047号土坑

1. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土
2. 褐色(7.5YR-3/4) 粘性土、黄褐色シルトローム20%含む

1099・1100号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/4) 粘性土、黄褐色シルトローム・軽石・砂利を10%含む
2. 暗褐色(10YR-3/4) 粘性土、黄褐色シルトローム・軽石・砂利を30%含む

1115号土坑

1. 灰黄褐色(10YR-5/2) 粘性土

1154号土坑

1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、砂礫・炭化物・焼土を5%含む

1158・1163号土坑

1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、炭化物・焼土を10%含む
2. 灰褐色(7.5YR-4/2) 1層に類似、ぶい褐色土を10%含む

1160号土坑

1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、シルトローム、炭化物・焼土を10%含む

1194～1196号土坑

1. 褐色(7.5YR-4/3) 粘性土、少量の焼土・土器片含む
2. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土、ぶい黄褐色シルトローム10%含む
3. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土、ぶい黄褐色シルトローム30%含む

1206号土坑

1. ぶい黄褐色(10YR-4/3) 粘性土、少量の炭化物・ぶい黄褐色土・焼土含む
2. ぶい黄褐色(10YR-4/3) 1層に類似、ぶい黄褐色土10%含む

1220号土坑

1. 極暗褐色(7.5YR-2/3) 粘性土
2. 黒褐色(10YR-3/2) 軟質

1254号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) 砂質土、黄褐色シルトローム5%含む

1262号土坑

1. 黒褐色(7.5YR-3/2) 砂礫含む、均質
2. 暗褐色(7.5YR-3/3) 砂礫・ローム粒含む

1264号土坑

1. 黒褐色(7.5YR-3/2) 砂礫少量含む、固い
2. 黒褐色(7.5YR-3/2) ローム粒・炭化物含む、粘性あり、固い
3. 黒褐色(7.5YR-3/1) 均質、粘性あり、固い
4. 黒褐色(7.5YR-3/1) 砂礫少量含む、粘性あり
5. 暗褐色(7.5YR-3/3) 砂礫多量に含む、ローム粒少量含む

1274号土坑

1. 黒褐色(7.5YR-3/2) 砂礫少量含む、均質、粘性あり
2. 暗褐色(7.5YR-3/3) シルトローム少量含む、均質
3. 暗褐色(7.5YR-3/4) 砂礫含む、粘性あり、均質

1279号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土
2. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土、オリブ黄色シルトローム・砂20%含む

1305号土坑

1. 褐灰色(7.5YR-4/1) 粘性土
2. 褐灰色(7.5YR-4/1) 粘性土、黄褐色シルトローム・砂利30%含む

1322号土坑

1. 暗褐色(7.5YR-3/4) ローム塊・砂粒少量含む
2. 褐色(7.5YR-4/4) 砂粒・ローム粒含む、均質

1323号土坑

1. 暗褐色(7.5YR-3/3) 砂粒・シルトローム少量含む
2. 暗褐色(7.5YR-3/4) シルトローム多量に含む

1326・1327号土坑

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、軽石含む
2. ぶい黄褐色(10YR-4/3) 粘性土、軽石・シルトローム30%含む

1344号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土
2. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土、オリブ黄色・砂を20%含む

1349号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) 炭化物多量に含む、軟質

1361号土坑

1. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土、軟質
2. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土、黄褐色シルトローム・砂礫を20%含む

1384・1385号土坑

1. 褐灰色(7.5YR-4/1) 粘性土
2. 褐灰色(7.5YR-4/1) 粘性土、砂利30%含む

1390号土坑

1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、砂利10%含む

#### IV 遺構と遺物

##### 1405号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土

##### 1412号土坑

1. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土、軟質
2. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土、黄褐色シルトローム・砂礫20%含む

##### 1432・1444・1471・1483号土坑

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、軽石含む
2. にぶい黄褐色(10YR-4/3) 粘性土、軽石・シルトロームを20%含む

##### 1489号土坑

1. 暗褐色(7.5YR-3/3) 砂礫・ローム粒少量含む
2. 褐色(7.5YR-4/3) 砂礫・ローム塊含む

##### 1503号土坑

1. 暗褐色(7.5YR-3/3) 砂礫・ローム粒含む
2. 暗褐色(7.5YR-3/3) 砂礫・ローム塊含む
3. 褐色(7.5YR-4/3) 砂礫・ローム塊含む

##### 1530号土坑

1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、砂礫・炭化物・焼土を5%含む
2. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、砂礫・砂を20%、炭化物・焼土を3%含む

##### 1538号土坑

1. 灰褐色(7.5YR-4/2) 粘性土、炭化物・焼土10%含む
2. 灰褐色(7.5YR-4/2) 砂質土を10%・炭化物・焼土含む

##### 1589・1597号土坑

1. 黒褐色(7.5YR-3/1) 粘性土、にぶい褐シルトローム・砂を5%含む
2. 暗褐色(7.5YR-3/3) 粘性土、にぶい褐シルトローム・砂10%含む

##### 1651号土坑

1. 黄灰色(2.5Y-4/1) 粘性土、にぶい黄色シルトローム5%含む。固い

##### 1672号土坑

1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、にぶい黄褐色シルトローム・砂礫・軽石5%含む
2. 灰黄褐色(10YR-4/2) にぶい黄褐色シルトローム・砂礫・軽石10%含む

##### 1686号土坑

1. 黒褐色(7.5YR-3/2) ローム塊・砂礫含む
2. 暗褐色(7.5YR-3/3) ローム塊少量含む、粘性あり固い

##### 1719号土坑

1. 黒褐色(7.5YR-3/2) 砂礫・ローム粒含む
2. 暗褐色(7.5YR-3/3) ローム塊少量含む、やや粘性あり
3. 褐色(7.5YR-4/3) ローム粒多量に含み、砂礫少量含む

##### 1752号土坑

1. 黒褐色(2.5Y-3/2) 粘性土、黄褐色ローム・軽石を10%含む

##### 1923号土坑

1. にぶい黄褐色(10YR-4/3) 粘性土、軽石・礫を10%含む
2. 黒褐色(10YR-3/2) 粘性土、焼土・炭化物を30%含む

##### 1924号土坑

1. 褐色(7.5YR-4/3) 軟質、浅黄色シルトローム・砂層10%含む
2. 褐色(7.5YR-4/3) 軟質、浅黄色シルトローム・砂層30%含む

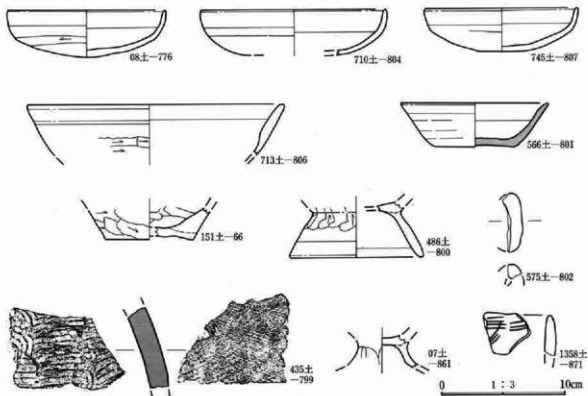
##### 1931号土坑

1. 褐色(7.5YR-4/6) 粘性土、オリーブ黄色シルトローム・焼土・炭化物少量含む
2. 暗褐色(7.5YR-3/4) 粘性土、オリーブ黄色シルトローム20%含む

##### 1937号土坑

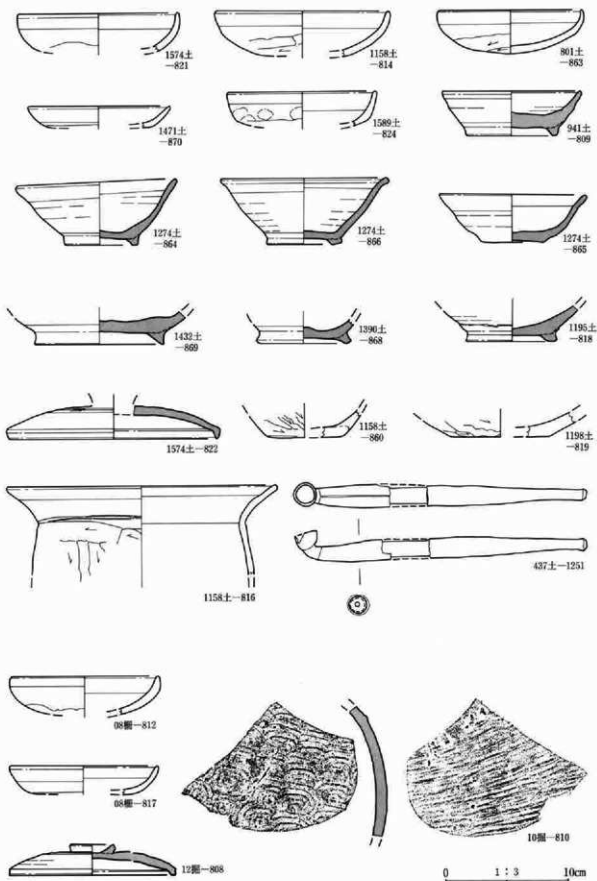
1. 灰黄褐色(10YR-4/2) 粘性土、赤褐色焼土・炭化物10%含む

1 藤塚狐穴(4AⅠ区)・藤塚四反歩(4AⅡ区)地区



第377図 4AⅠ区・土坑出土遺物

IV 遺構と遺物



第378図 4 A I 区・土坑・掘立柱建物・堀列出土遺物

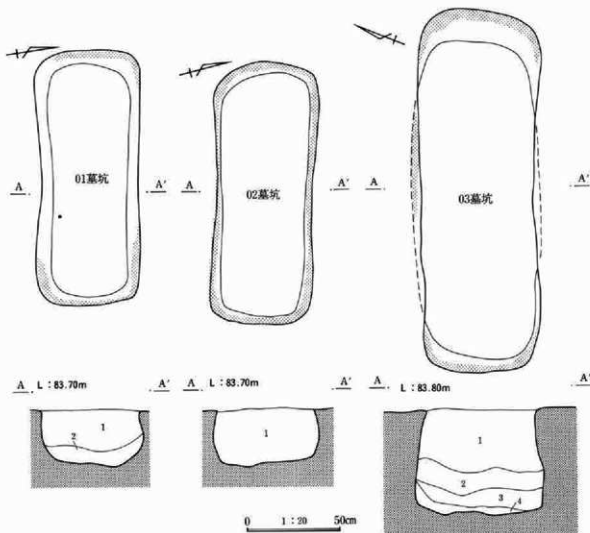


## (9) 墓 坑 (挿図番号379 写真番号 PL35・36)

墓坑と認定されたものは合計19基を数えるが、分布は4AⅠ区に18基と偏在している。墓坑と認定した理由は、土坑の周囲の壁が炭熱を受けて赤変しているためである。上栗須寺前遺跡群の墓坑のありようは、確実に焼けた人骨と六道銭と考えられる古銭が出土し、かつ平面形や断面形が長方形の様相を示すものが報告されている。その事実から敷衍して長方形の平面形をもち、かつ周囲の壁が炭熱を受けて赤変している土坑を墓坑としている。

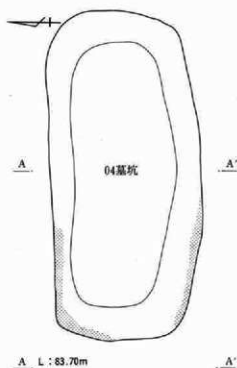
該区墓坑の平面形態は隅丸長方形が主体で、方形(16墓坑)と円形(12墓坑)と楕円形(17墓坑)が各1基ずつ存在する。断面形については隅丸台形・袋状・皿形の形状に分類され、主体は隅丸台形である。

出土遺物は、07墓坑から暗文を内部に付する小型の土師器環が検出され、19号墓坑からは鉄製品が出土している。2点とも墓坑の副葬品と考えられる。

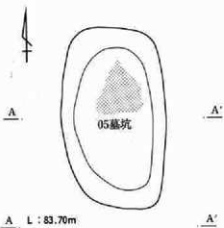
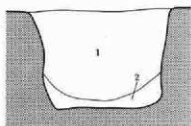


第379図 4AⅠ区・01.02.03号墓坑

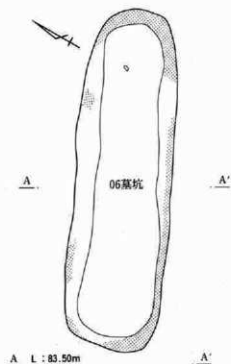
IV 遺構と遺物



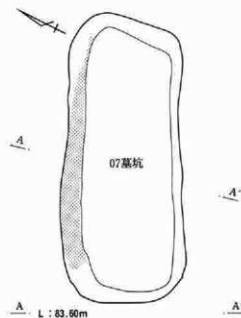
A L : 83.70m



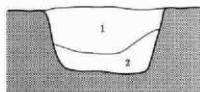
A L : 83.70m



A L : 83.50m

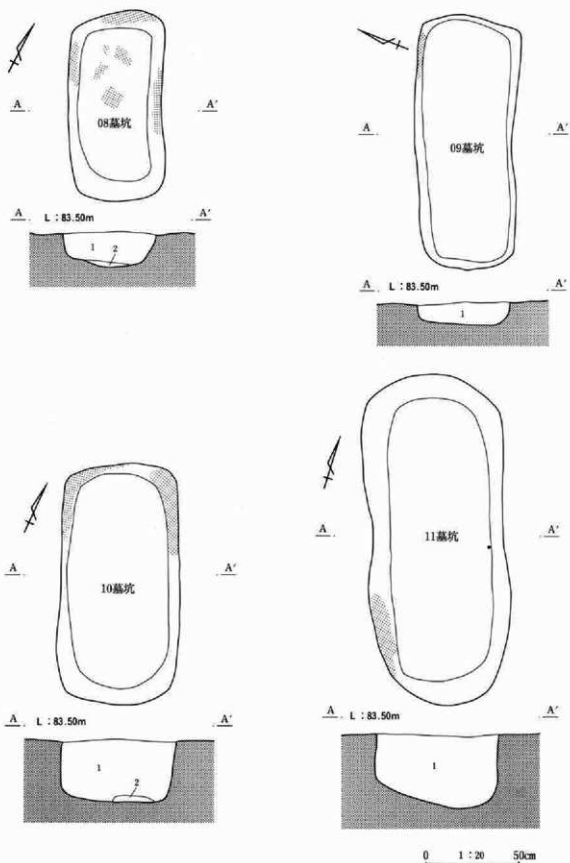


A L : 83.60m

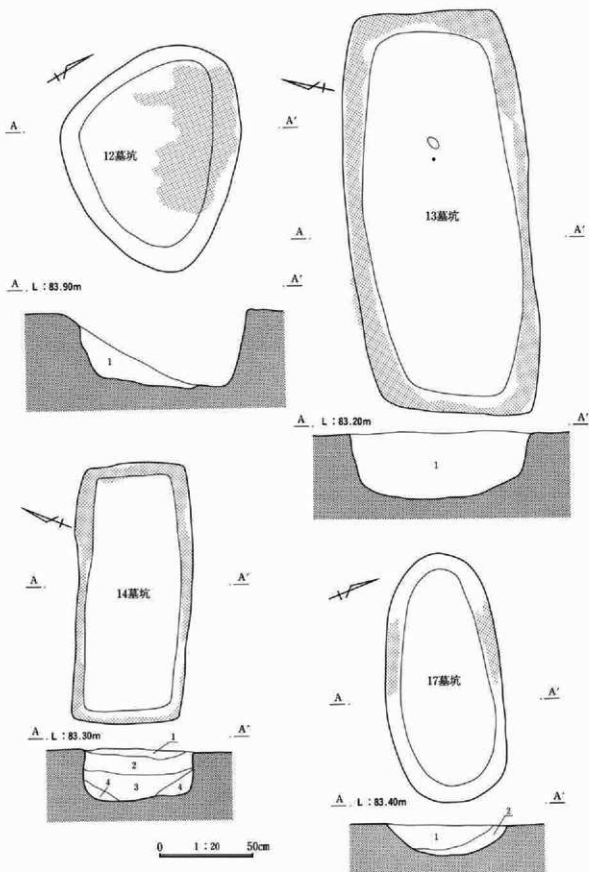


0 1 : 20 50cm

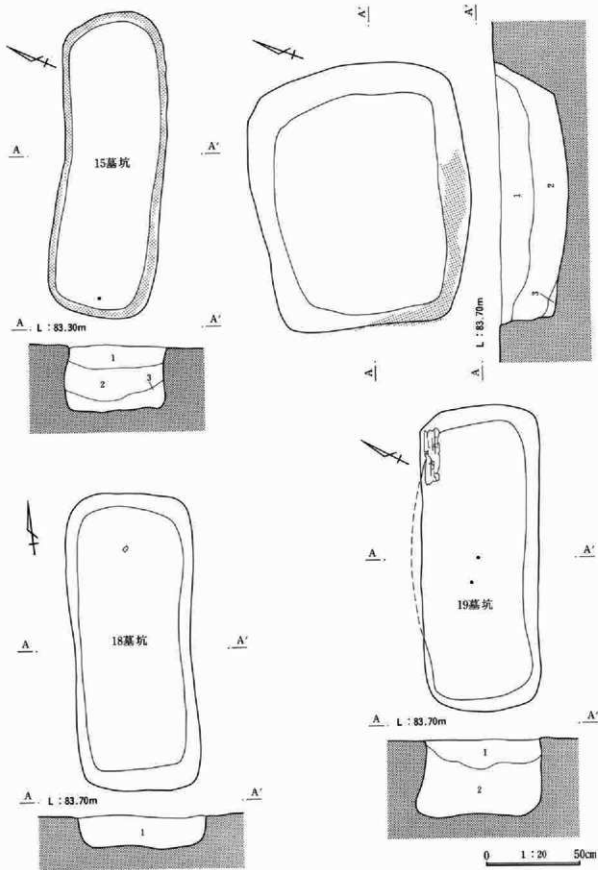
第380図 4 A I 区・04.05.06.07号墓坑



第381图 4A I区・08.09.10.11号墓坑



第382図 4 A I 区・12.13.14.17号墓坑



第383图 4AⅠ区・15.16.18.19号墓坑

#### IV 遺構と遺物

##### 4 A 区基坑土層説明

###### 1・5号基坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、黄褐砂質シルト粒・炭化物粒3%含む、固い
2. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、黄褐砂質シルト粒・炭化物粒7%含む、

###### 2号基坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、炭化物含む

###### 3号基坑

1. によい黄褐色(10YR-4/3) 砂質土、黄褐シルト粒を底に10%・炭化物粒少量含む、固い
2. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、黄褐シルト粒を5%炭化物粒5%含む
3. によい黄褐色(10YR-4/3) 1層に類似
4. 暗褐色(10YR-3/3) 炭化物、灰層

###### 4号基坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、黄褐シルト粒3%含む、固い
2. 褐色(7.5YR-4/4) 砂質土、炭化物粒含む、固い

###### 6・9号基坑

1. 暗褐色(10YR-3/4) 砂質土、砂質シルト粒7%・炭化物粒・焼土粒・白色粒を含む、固い

###### 7号基坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、礫・白色粒・黄褐シルト粒・焼土粒少量含む、固い
2. 黒褐色(10YR-3/2) 砂質土、砂質シルト粒を10%炭化物粒含む、固い

###### 8号基坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、小礫やや多量に含む、焼土粒少量含む
2. 暗褐色(10YR-3/3) 1層に類似、炭化物・灰多量に含む

###### 10号基坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、炭化物粒少量含む、固い
2. 暗褐色(10YR-3/3) 炭化物・灰含む

###### 11号基坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、礫・白色粒・黄褐シルト粒・焼土粒少量含む

###### 12号基坑

1. 灰褐色(5YR-4/2) 粘性土、炭化物・焼土含む

###### 13号基坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 粘性土、炭化物・焼土多量に含む

###### 14・15号基坑

1. 灰黄褐色(10YR-5/2) 粘性土、砂礫含む
2. 灰黄褐色(10YR-5/2) 1層に類似
3. 灰黄褐色(10YR-5/2) 粘性土、炭化物・焼土を20%含む
4. によい黄色(2.5Y-6/4) シルトローム、砂礫を10%含む

###### 16号基坑

1. 褐灰色(7.5YR-4/1) 粘性土、炭化物5%含む
2. 褐灰色(7.5YR-4/1) 粘性土、炭化物を16%含む
3. 褐灰色(7.5YR-4/1) 焼土層、炭化物を30%含む

###### 17号基坑

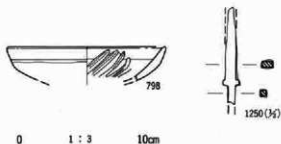
1. 褐灰色(5YR-4/1) 粘性土、炭化物・焼土含む
2. 褐灰色(5YR-4/1) 褐色シルトローム・砂を20%含む

###### 18号基坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、黄褐シルト少量含む、炭化物を底面に含む、固い

###### 19号基坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、黄褐砂質シルト粒・炭化物粒含む、固い
2. 暗褐色(10YR-3/3) 砂質土、炭化物粒3%含む、固い

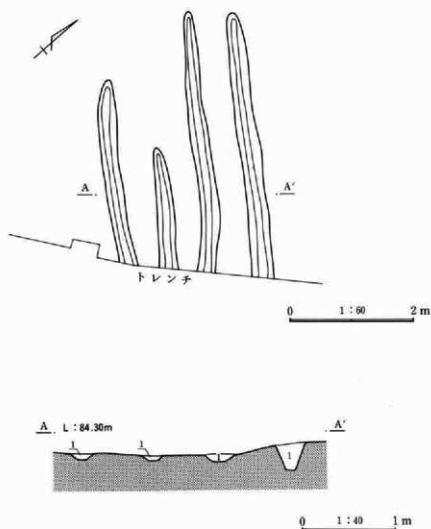


第384図 4 A 区・07.19号基坑出土遺物

## (10) 畠状遺構 (挿図番号385)

藤岡扇状地の末端に近く乾燥度の高い該遺跡地で、7世紀後半段階から集落が営まれ始める要因の一つに、古代の畠作を意味する「陸田」の普遍的な浸透現象が基盤となっている。それは「三代格」に表れる聖武元年(715)の詔に示された「陸田」承認の政策的決定が、すでに人民段階では具体的な生産力増強の武器となっており、その追認に過ぎないことを示しているように思われる。

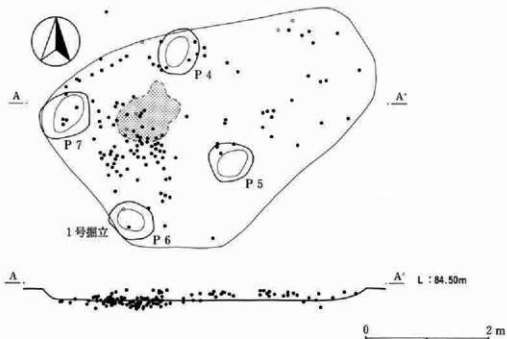
4 A I区の01号畠は、4 A I西端に位置し、F14・60, 70グリッドに属する。畠状遺構は平行する4本のさくと3本の畝から構成されており、N58Wと北西から南東方向へ伸びている。



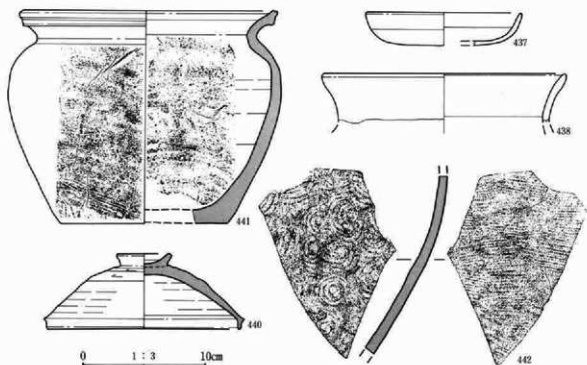
第385図 4 A I区・01号畠

(II) 遺物散布範囲 (押図番号386・387)

- 位置 該遺構は4 A I・01号掘立と重なるようにして位置し、H12・94グリッドに属する。第386図
- 遺物分布 のスクリーントーンは焼土の範囲で、焼土を中心に遺物の濃密な分布が見られる。
- 遺物 遺物は土師器甕1、土師器坏1、須恵器坏蓋1、須恵器甕1、須恵器大甕破片が目立ち、そ



第386図 4 A I 区・遺物散布範囲



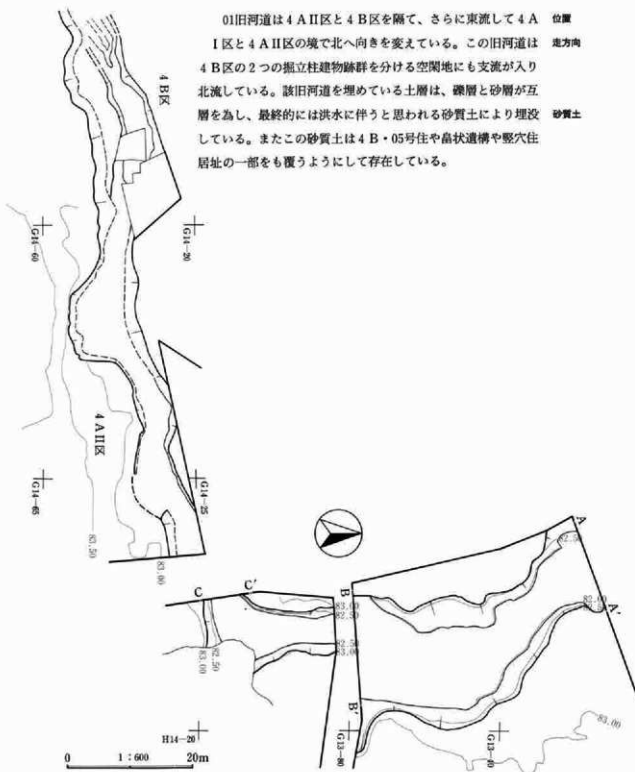
第387図 4 A I 区・遺物散布範囲出土遺物



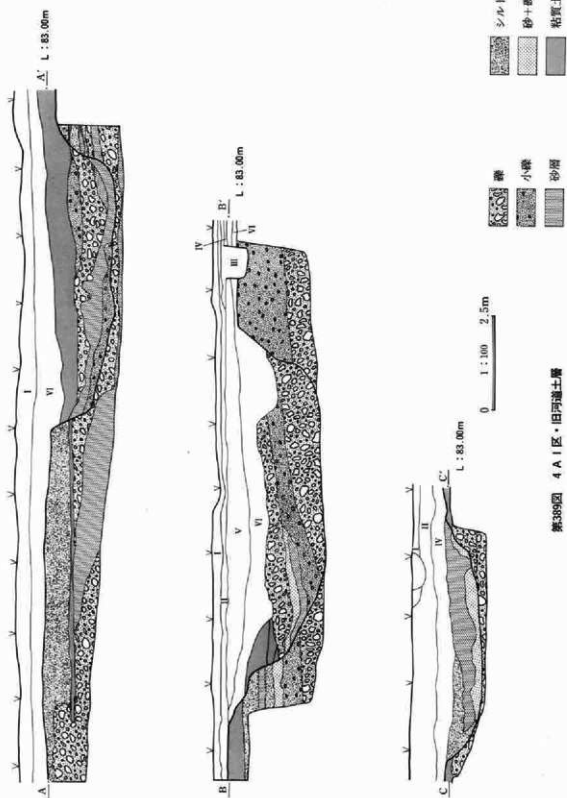
れらは僅かにくぼんだ楕円状の範囲に散布している。あるいは01号掘立とつけて考える必要がある遺構かも知れない。

## (12) 01旧河道 (押図番号388~394)

01旧河道は4AⅡ区と4B区を隔て、さらに東流して4AⅠ区と4AⅡ区の境で北向きを変えている。この旧河道は4B区の2つの掘立柱建物跡群を分ける空間地にも支流が入り北流している。該旧河道を埋めている土層は、礫層と砂層が互層を為し、最終的には洪水に伴うと思われる砂質土により埋没している。またこの砂質土は4B・05号住や畠状遺構や竪穴住居址の一部をも覆うようにして存在している。

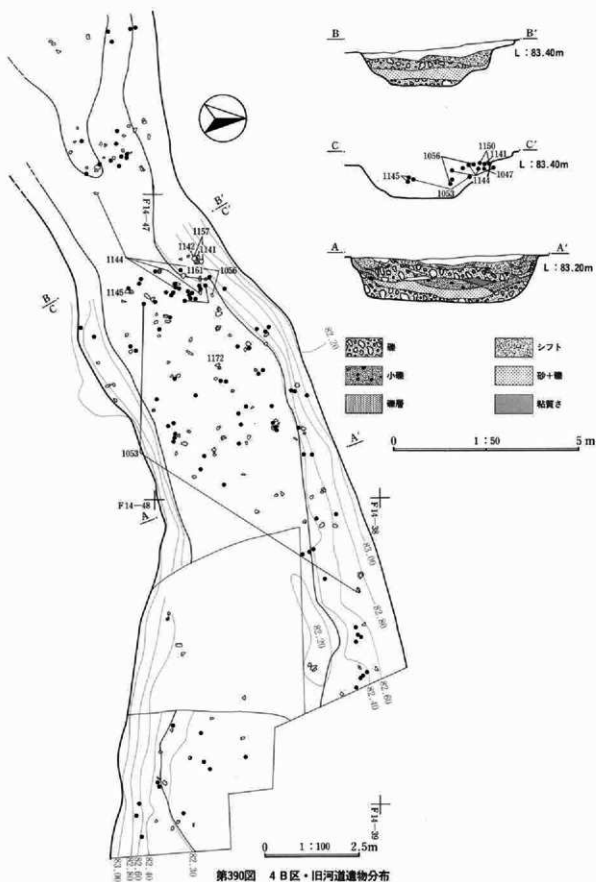


第388図 4区・旧河道全体図



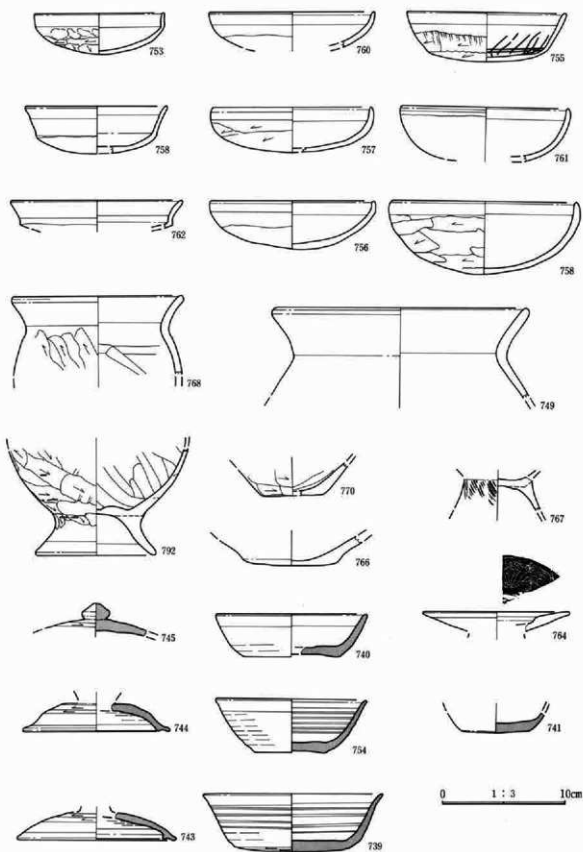
第399図 4 A I 区・旧河道土層

## 1 礮塚狐穴(4A I区)・礮塚四反歩(4A II区)地区

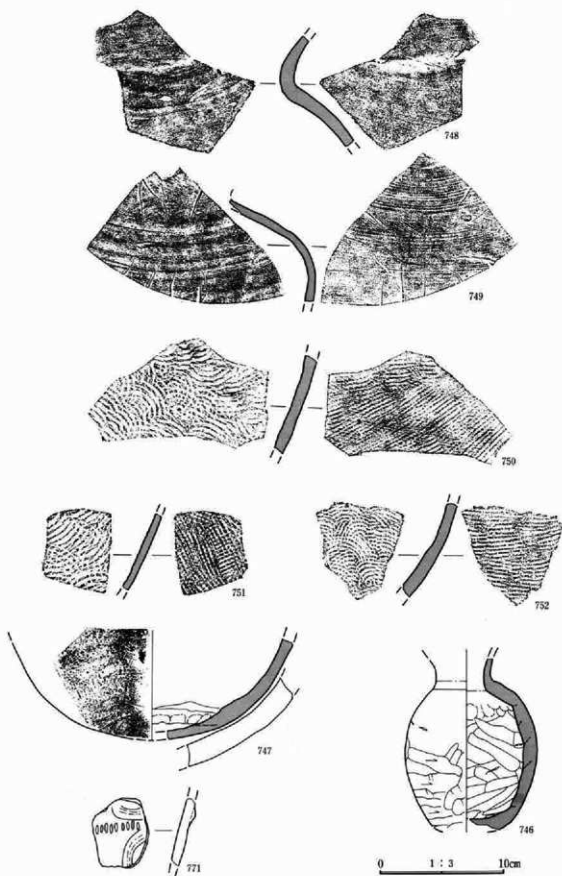


第390图 4 B区·旧河道遺物分布

IV 遺構と遺物

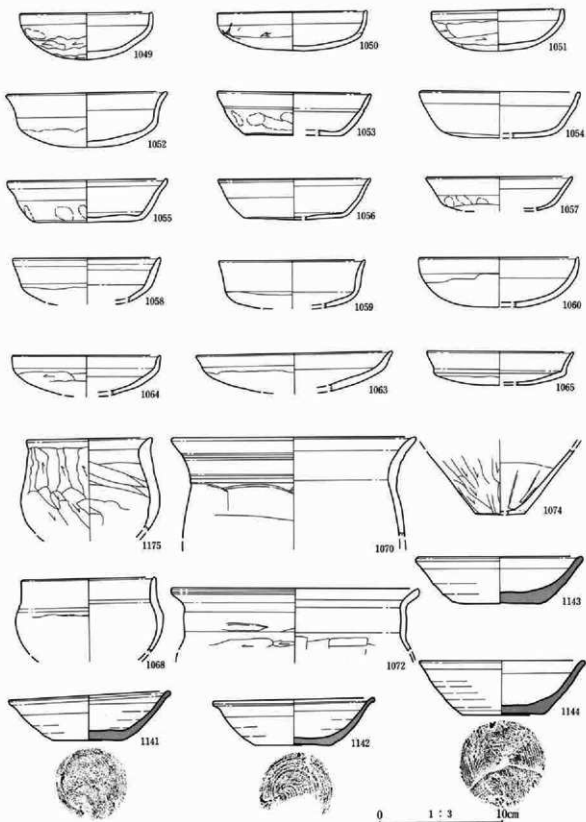


第391図 4区・旧河道出土遺物(4AⅠ区)



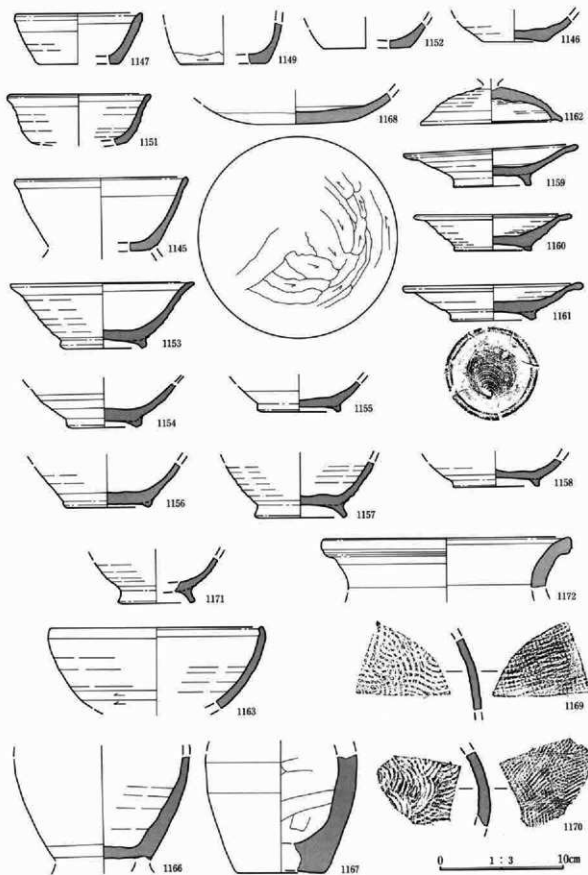
第392图 4区・旧河道出土遺物(4AⅠ区)

IV 遺構と遺物



第393図 4区・旧河道出土遺物(4B区)

1 藤原狐穴(4A I区)・藤原四反步(4A II区)地区



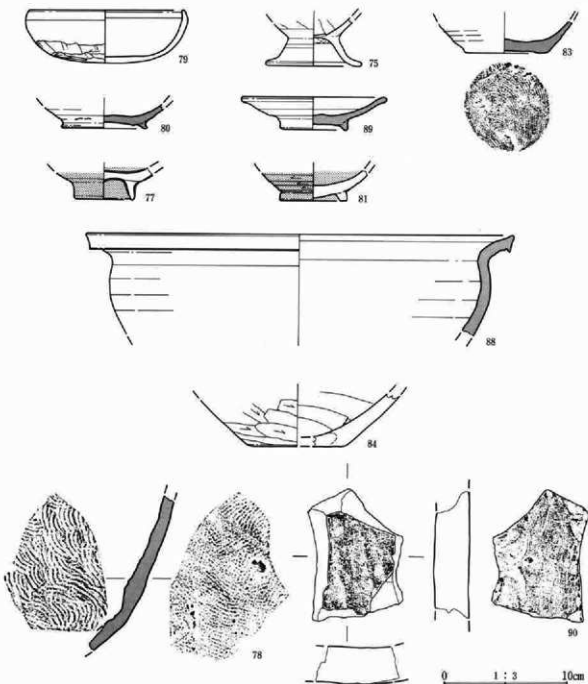
第394图 4区・旧河道出土遺物(4B区)

## (13) グリッド・表採遺物 (挿図番号395~397)

**表採遺物** 表採遺物は当然その遺跡地に存在する遺構、特に堅穴住居址や掘立柱建物跡などの人間の生活に必要な遺構の出土する土器組成と同様な遺物様相を示している。4 A I 区の表採グリッド

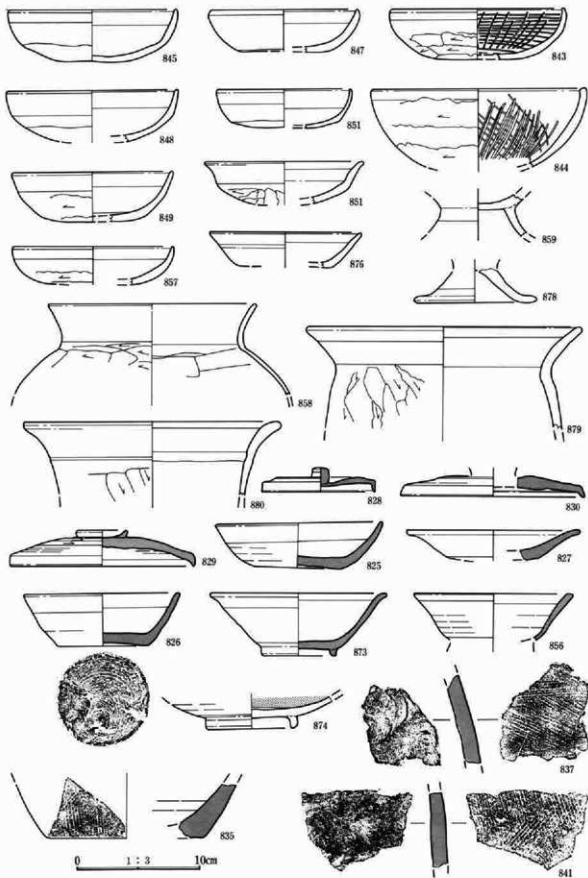
**8世紀** 遺物は縄文時代の打製石弁は別にして、8世紀の初頭段階の土師器長胴壺や球形胴壺や盤状坏

**11世紀** から11世紀段階の灰釉陶器や鉢形土器まで、ほぼ切れ目なく藤岡扇状地端部の人々の営みの痕跡を示しているといっている。



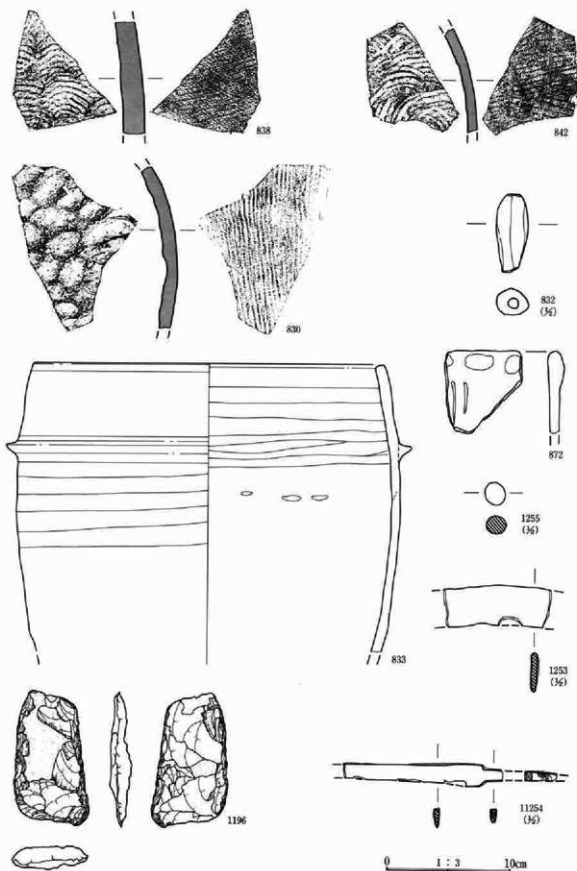
第395図 4 A I 区・グリッド・表採出土遺物





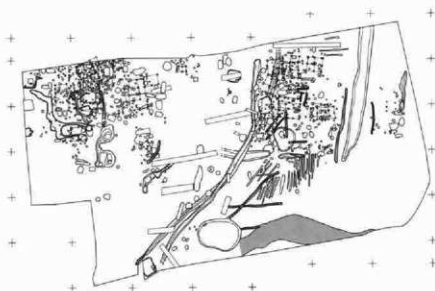
第396図 4AⅠ区・グリッド・表探出土遺物

IV 遺構と遺物



第397図 4 A I 区・グリッド・表採出土遺物

## 2. 篠塚四反歩地区(4B区)



第398図 篠塚四反歩地区(4B区)遺構配置図

## 4B区・01号住居址

遺 構 (押図番号399・401 写真番号PL40)

本住居址は4B区の北西の隅に位置し、E13・69,79グリッドに属する。近接する住居址は  
 絶対的位置  
 相対的位置  
 確認面  
 約10m南に02号住が存在する。確認面の標高は84.20mを測り、該住居址の大部分は調査区外に  
 突き出ている。

そのため規模・面積・平面形態ともに不明である。主軸方位はN-93°-Eを示すと思われる。  
 主軸方位  
 壁・覆土  
 確認できた壁高は30cmを測り、壁は明瞭な稜線を描いている。覆土は土坑等の攪乱を受けて  
 いるためか錯綜している。

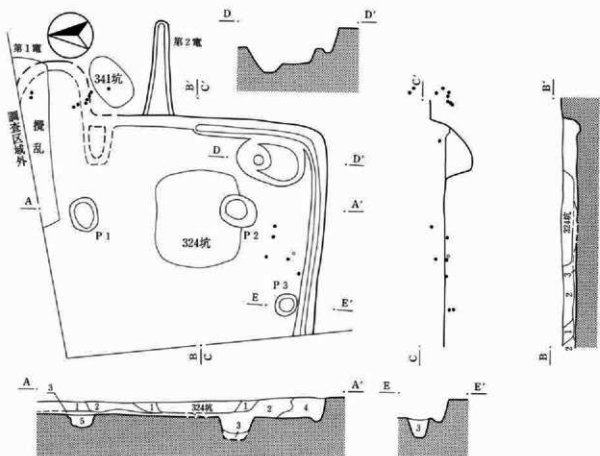
床面には貼床が施され、南東隅には楕円形の貯蔵穴が設けられ、電前には複数の柱穴痕の一  
 部と思われるP1、P2の2個の円形土坑と南壁際には入り口施設に伴うと考えられるP3小  
 土坑が穿たれている。また壁下を周溝が第1電右袖付付近まで巡っている。

電 (押図番号400・402 写真番号PL40)

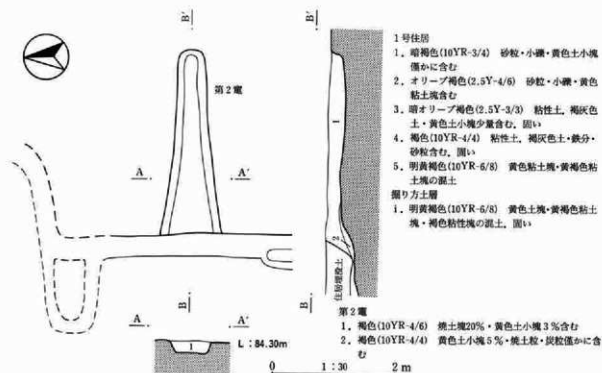
押図としては第1電と第2電の図を掲載したが、検討の結果第2電は焼土を伴う別遺構であ  
 ると判断した。

第1電の燃焼部は、袖部分が電付け変え時の攪乱により削平を受けているために不明だが、  
 燃焼部  
 煙道部の状況からすると6・01号住居址の電と同形態と推測され、長い袖を有し東壁中央部の  
 住居内に築かれている。煙道部の断面は底部の形から矩形を呈していたものと思われ、燃焼部  
 煙道部  
 から煙道部への立ち上がりはごく緩やかである。覆土は住居址覆土が燃焼部を埋め、該住居址

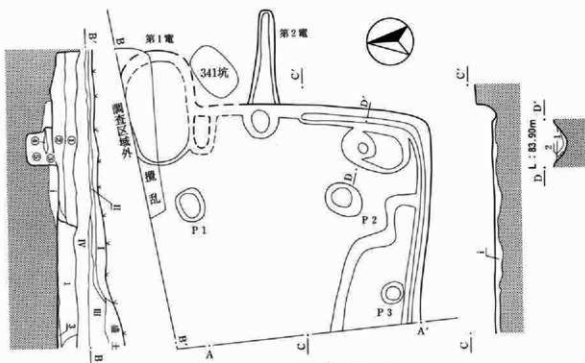
# IV 遺構と遺物



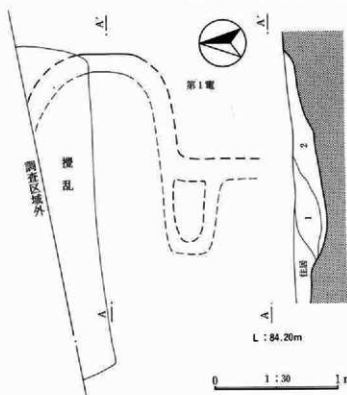
第399図 4B区・01号住居址



第400図 4B区・01号住居址第2電



第401図 4B区・01号住居址掘り方



第402図 4B区・01号住居址第1電

- I, 灰褐色土, 盛土  
I a, 灰褐色土, 現耕作土  
II, 赤褐色土, 鉄分沈着層  
III, 暗褐色土, 白色軽石粒含む  
IV, 暗褐色土, A s-Bを含む

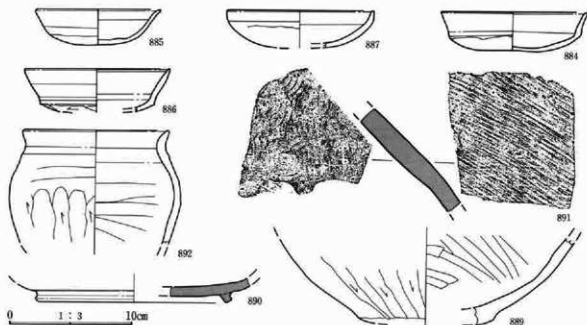
- 1, 暗褐色土(10YR3/4)小礫含で、黄色小礫少量含む  
2, オリーブ褐色土(2.5Y 4/6)小砂礫・黄色粘土小塊少量含む。  
3, オリーブ褐色土(2.5Y 4/3)褐色土・黄色土小塊少量含む。  
4, 褐色土(10YR 4/4)褐色土・砂粒混じり

- ① オリーブ褐色土(2.5Y 4/3)小礫含む  
② オリーブ褐色土(2.5Y 4/3)黄褐色土塊を多く含む  
③ 明黄褐色土(10YR 6/8)黄色粘土塊・褐色粘質土塊の混土。  
④ 褐色土(10YR 4/4)礫混じり  
⑤ 褐色土(10YR 4/4)黄褐色土小塊, 褐色土塊の混土。

## 第1電

- 1, 黄褐色(2.5Y-5/6) 黄色土塊・焼土塊・オリーブ褐色土の混土  
2, 暗褐色(10YR-3/3) 1層に類似

#### IV 遺構と遺物



第403図 4B区・01号住居址出土遺物

が使用されていたある時期に竈の付け変えが行われたことを示している。

竈掘り方の痕跡が貼床を剥がした後に検出された。

**遺物の出土状態** (押図番号399)

**遺物分布** 遺物は南壁中央付近と第1竈内に分布するのみで、遺物量は極端に少ない。層位的には床直遺物が完形に近い形で数点出土している。掲載遺物のタイプは、タイプAが土師器環884, 885で、タイプBが土師器環886, 土師器甕889で、残りはタイプCである。土師器に著しい摩滅を認める。

**出土遺物** (押図番号403 写真番号PL76)

**図示遺物** 図示した遺物は、土師器環4, 土師器甕1, 土師器小甕1, 須恵器高台付盤1, 須恵器大甕破片1の8個体である。

**土師器** 土師器環はすべて丸底で、盤状環Bタイプの885と体部に明瞭な稜線を有する884, 886と湾曲する体部をもつ887がある。土師器甕889は球形胴が予想され、底部の強調された作りは古い要素である。土師器小甕892は器内が厚く胴部に縦篋削り調整が施されている。

#### 4B区・02号住居址

**遺 構** (押図番号404・405 写真番号PL40)

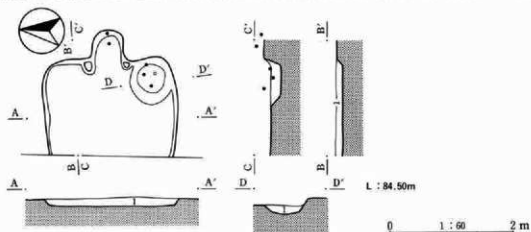
**絶対的位置** 本住居址は4B区の西端に位置し、E13・89, 99グリッドに属する。周囲に遺構は見当たらず孤立して存在する。確認面の標高は、84.35mとかなり高い位置で確認されている。また該住居址は、ほぼ1/3を調査区外に突出させている。

**確認面** 規模は南北2.00mのみ測れ、面積・平面形態は不明である。主軸方位はN-81°-Eを示す。  
**主軸方位** 壁高は10cm強で、壁は緩慢な立ち上がりを見せ、覆土は1層のみである。  
**主軸位置**

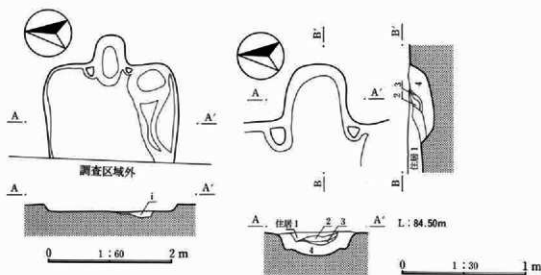
床面は平らで南壁付近に貼床が施され、南東隅に貯蔵穴が穿たれている。掘り方は南壁に沿って僅かに掘り下げられている。

竈 (挿図番号406 写真番号PL40)

燃焼部は平面形態が釣針状を呈し、東壁中央の住居外に築かれ小さな袖が残る。煙道部は

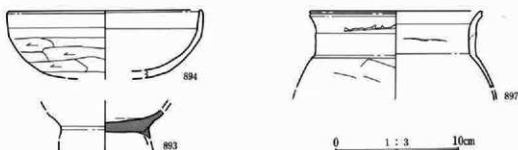


第404図 4B区・02号住居址



第405図 4B区・02号住居址掘り方

第406図 4B区・02号住居址竈



第407図 4B区・02号住居址出土遺物

#### IV 遺構と遺物

- 煙道部 認められず、燃焼部から煙道部への立ち上がりは70°程である。覆土は4層に分かれ、第2層が  
火床面 電天井崩落土である。火床面は深く掘り込まれ、緩やかな傾斜をもつ。

##### 遺物の出土状態 (挿図番号404)

- 遺物分布 遺物は極少で、竈内と貯蔵穴内に僅かに分布するのみである。層位的には浮いている遺物が  
タイプ 多い。遺物のタイプはすべてタイプCである。

##### 出土遺物 (挿図番号407)

- 図示遺物 図示しえた遺物は、土師器環1、土師器小甕1、須恵器高台付椀1の3個体である。  
土師器 土師器環は丸底で器高が高く、体部上位にまで横笥削り調整が施され、口縁部が直立する。  
土師器小甕はコの字口縁甕の系列に属する。

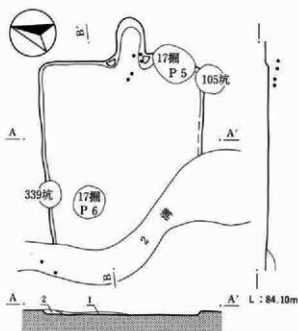
#### 4 B 区・03号住居址

##### 遺 構 (挿図番号408・409 写真番号PL41)

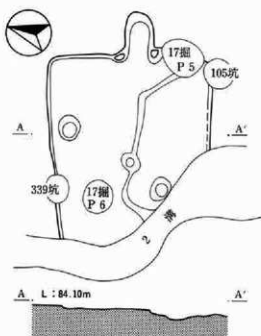
- 絶対的位置 本住居址は4 B区西の土坑密集地の一角に位置し、F13・71,81グリッドに属する。近接する  
相対的位置 住居址は3 m北西に04号住があり、また該住居址は02溝と03溝とに挟まれて存在する。確認面  
確認面 の標高は84.05 mを測るが、02溝によって西壁と南壁の一部を失っている。  
規模 規模は南北2.50 mを測るのみで、面積・平面形態は不明である。主軸方位はN-69°-Eを示す。  
主軸方位 壁高は5 cm程度でほとんど壁を構成しない。覆土についても不明である。  
壁 床 床面も後世の土坑による攪乱の為に、不確定の要素が多いためにコメントできない。

##### 竈 (挿図番号410 写真番号PL41)

- 燃焼部 燃焼部の平面形態は釣り鐘状で、東壁ほぼ中央の住居外に築かれ、小振りの袖が残る。煙道

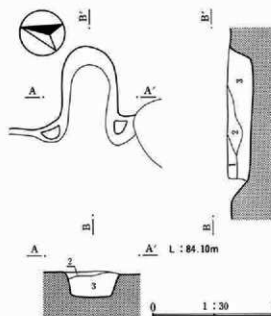


第408図 4 B 区・03号住居址

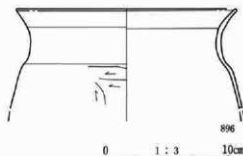


第409図 4 B 区・03号住居址掘り方





第410図 4B区・03号住居址電



第411図 4B区・03号住居址出土遺物

部は削平を受けて認められないが、燃焼部から煙道部への立ち上がりは約70°と推定される。煙道部  
土は3層に分かれ、第3層が電天井の崩落土である。火床面は平らで煙道口で急に立ち上がる。火床面  
遺物の出土状態 (挿図番号408)

遺物は電周辺に4個体確認できたのみである。掲載遺物は1個体のみで、タイプBである。遺物分布  
出土遺物 (挿図番号411) タイプ

図示した遺物は、土師器壺1個体である。図示遺物  
土師器壺896はコの字口縁壺の特徴を有しているが、破片なのでその全容は不明である。土師器

#### 4B区・04号住居址

遺 構 (挿図番号412 写真番号PL41)

本住居址は4B区西の土坑密集域の一角に位置し、F13・71グリッドに属する。近接する住 絶対的位置  
居址は南東3mに03号住があり、02溝との切り合いも見られる。確認面の標高は84.10mを測る。 相対的位置

規模は東西2.50m・南北2.18mを測り、面積は㎡のミニ住居址である。平面形態は縦長長方 規模・形態  
形で、該住居址は、小さいながらも周溝・貯蔵穴・柱穴という諸設備を整えているのは異例で  
ある。主軸方位はN-77°-Eを示す。主軸方位

壁高は10cmにも満たず、壁は僅かに存在するに過ぎない。覆土は1層が確認できたのみである。壁・覆土  
床面は地床面だが平らで、東南隅には貯蔵穴が設けられ、中央やや北よりには北壁に平 床  
行して2個の柱穴痕が穿たれている。また北壁下から西壁下を経て南壁下の一部まで周溝が  
巡っている。

電 (挿図番号413 写真番号PL41)

燃焼部の平面形態は台形に近い釣り鐘状で、東壁南寄りの住居外に設けられている。煙道部 燃焼部  
は欠損しており、燃焼部から煙道部への立ち上がりは急角度である。覆土は2層で、第2層の 煙道部

#### IV 遺構と遺物

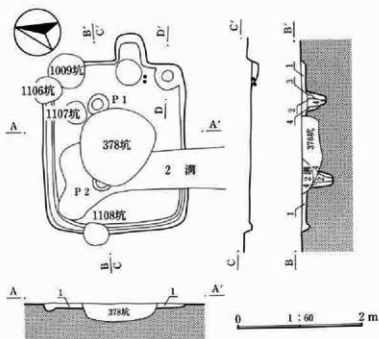
火床面 粘質褐色土は電機築土の残片であろう。火床面は342土坑により攪乱を受けて乱れている。

遺物の出土状態 (押図番号412)

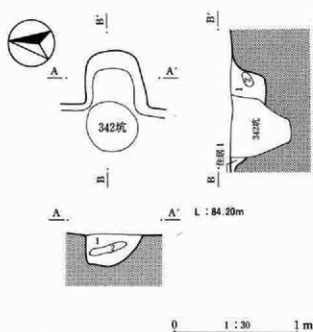
遺物分布 2個体が竈前で出土している。

出土遺物 (押図番号414)

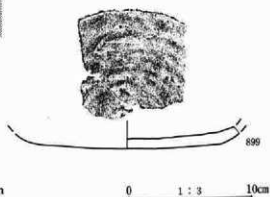
図示遺物タイプ 図示した遺物は、底部破片1個体のみである。掲載遺物のタイプはタイプBである。



第412図 4B区・04号住居址



第413図 4B区・04号住居址竈



第414図 4B区・04号住居址出土遺物

## 4B区・05号住居址

## 遺 構 (挿図番号 415・416 写真番号 PL42)

本住居址は4B区の西南端に位置し、F14・43, 53グリッドに属する。周囲に住居址は見当たらず、24m西に4AII区西端の01号住から07号住の一連の住居址群が存在する。住居址は本来4AII区のそれらの住居址群と一体のものとしてとらえられる。確認面の標高は84.30mを測る。

絶対的位置

相対的位置

確認面

規模は東西3.10m・南北4.00mを測り、面積は12.40㎡の中規模住居である。平面形態は横長長方形を呈しているが、北西隅を擾乱によって失っている。主軸方位はN-60°-Eを示す。

規模・形態

主軸方位

壁高は20cmを測り、残存している壁は明瞭なラインを描いている。覆土は、焼失住居ゆえの焼土と炭化物の入り混じった層が、脈絡なく堆積している。ところが洪水砂と見られる第1層が、それらの脈絡なく堆積した土層の上を覆うように堆積しているのは注目すべき事実である。

壁・覆土

床

床面には焼土と灰や炭化物が一面に散乱し、火事の激しさを物語っている。

## 竈 (挿図番号 417 写真番号 PL42)

燃焼部の平面形態は浅い釣り鐘状で、東壁南寄りの住居内に設けられ、袖を有している。煙道部は削平されて、燃焼部から煙道部への立ち上がりは70°を越え急である。覆土は4層に分かれ、全体に電機焼土の残骸と思われる黄色土が混じっている。袖は黄色土小塊を含む褐色土で構築されている。火床面は1109土坑によりその2/3を擾乱されているため全容は不明である。

燃焼部

煙道部

火床面

## 遺物の出土状態 (挿図番号 415・418)

該住居址は焼失住居であるため、遺物はかなり原位置に近い付近の出土と考えられる。遺物は貯蔵穴を中心に分布しており、須恵器類がやや住居址の中央から出土しているのが特徴的である。また須恵器小壺は貯蔵穴内から、須恵器摺鉢は貯蔵穴の脇から出土しているのは、往時の使用状況を暗示しているようだ。層位的にはほとんどの遺物が床直で、浮いている遺物は後世の混入であることが明らかである。掲載遺物のタイプは、タイプBaが土師器甕936で、タイプBが土師器甕939、須恵器坏蓋916, 918, 須恵器甕915で、タイプCが土師器坏934, 935, 土師器台付甕938で、残りはタイプAである。

遺物分布

タイプ

## 出土遺物 (挿図番号 419 写真番号 PL76・77)

図示遺物は、土師器坏15, 土師器甕1, 土師器小壺1, 土師器台付甕1, 須恵器坏蓋2, 須恵器小壺1, 須恵器摺鉢1, 須恵器甕の22個体である。

図示遺物

土師器坏は、有稜坏の形態を残す923と、盤状坏Aタイプ929, 930と、底部が尖り口縁部が直立する925と、丸底の湾曲した体部の形態を有するものと平底で器内が薄く体部の屈曲するものに4分類される。大部分を占める丸底体部湾曲のおわん型のは、口径が12cmと15cmに法量分化が認められる。土師器甕は長胴甕で頸部斜め胴部縦割り調整が施される。

土師器

須恵器摺鉢919は底部がフラットで、摺鉢特有の刺突痕は施されていない。

須恵器

## 4B区・06号住居址

## 遺 構 (挿図番号 420 写真番号 PL43)

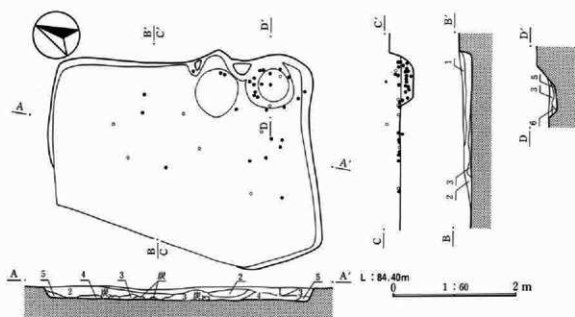
本住居址は4B区中央北寄りに位置し、F13・66グリッドに属する。該住居址の周囲に住居址は確認されず、孤立した単独住居である。確認面の標高は83.25mを測り、4B区の他の住居

絶対的位置

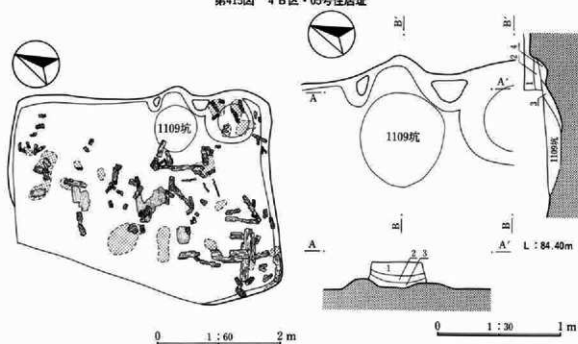
相対的位置

確認面

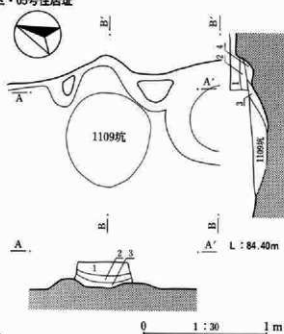
IV 遺構と遺物



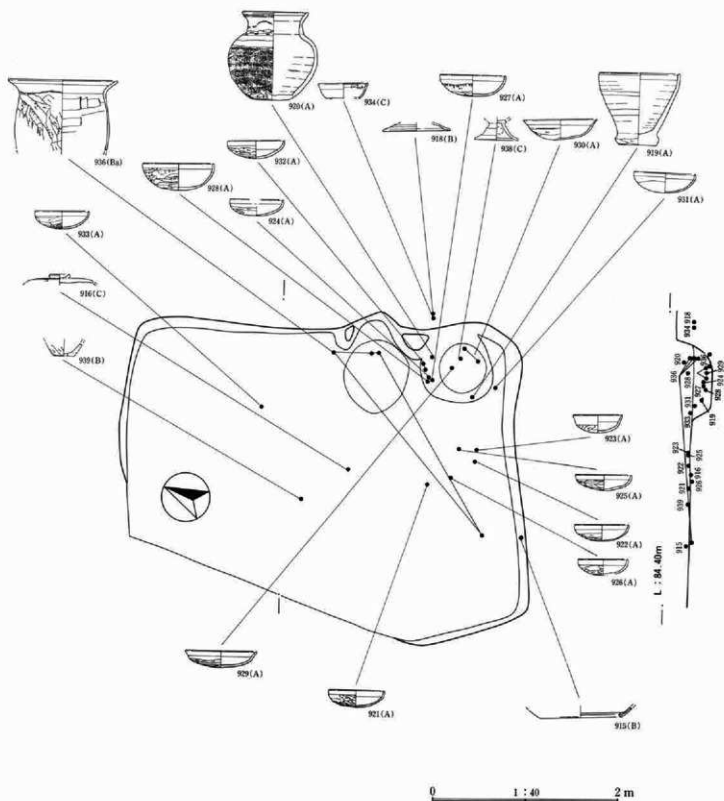
第415図 4B区・05号住居址



第416図 4B区・05号住居址焼失状態

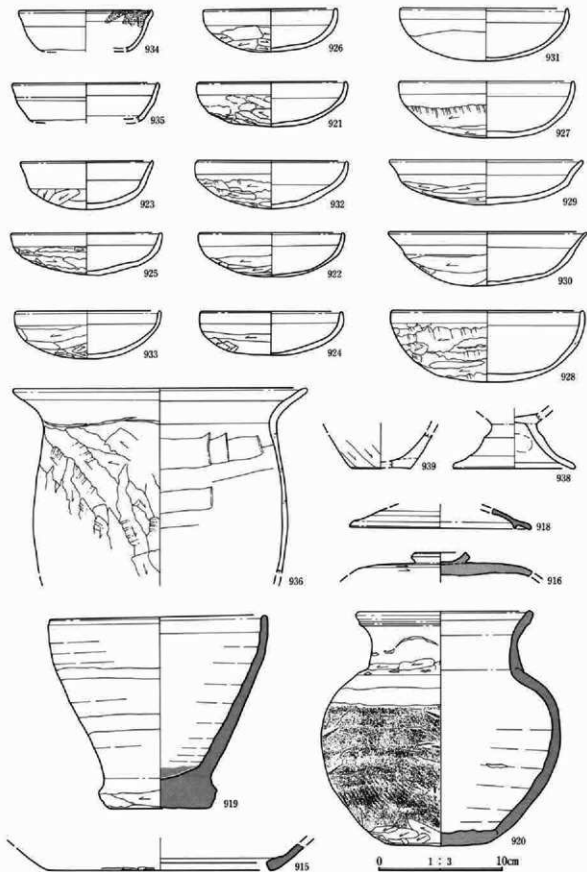


第417図 4B区・05号住居址竈



第418図 4 B 区・05号住居址遺物接合分布図一土師器・須恵器





第419图 4B区·05号住居址出土遗物

#### IV 遺構と遺物

址と比べて格段に低い。

**規模** トレンチによって該住居址の中央は失われているものの、かろうじて規模は東西2.80m・南北2.86mを測り、面積は8.01㎡であることが確認できた。主軸方位はN-98°-Eを示す。

**壁・覆土** 壁高は10cm強が残存しているのみで、壁も不明瞭である。覆土は2層に分かれるが、トレンチによる擾乱を強く受けているために確かでない。

**竈** (挿図番号421 写真番号PL43)

**燃焼部** 燃焼部の平面形態は釣り鐘状で、東壁南寄りの住居外に全体の1/2を突き出すように築かれて

**煙道部** いる。煙道部は欠損して不明だが、燃焼部から煙道部への立ち上がりは80°に近く急角度である。

覆土は4層に分かれ、第3層が電崩落土で、第4層が焼土と灰混じりの火床面直上層である。

**火床面** 火床面は浅く掘られ、第4層の灰混じり土で覆われている。

**遺物の出土状態** (挿図番号420)

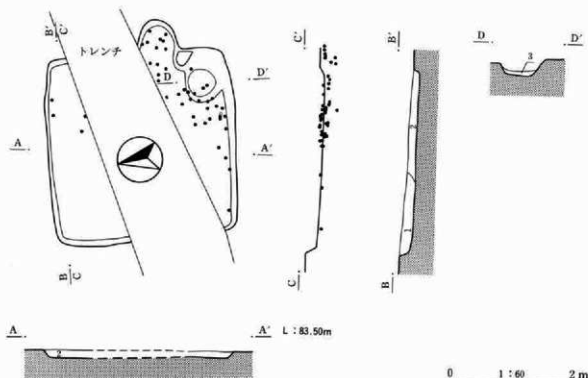
遺物はほぼ住居址の東半分に分布し、特に竈内と貯蔵穴周辺に多く分布する。層位的には床

**タイプ** 直遺物が多数を占める。掲載遺物のタイプは、タイプAが土師器坏905, 906, 907, 908, 須恵器坏蓋904, 刀子1322で、タイプBaが土師器甕911, 羽釜901で、タイプBが土師器甕910, 912, 須恵器高台付椀902で、残りはタイプCである。

**出土遺物** (挿図番号422・423 写真番号PL77・78)

**図示遺物** 図示しえた遺物は、土師器坏4, 土師器甕2, 土師器小甕2, 須恵器坏1, 須恵器高台付椀1, 須恵器坏蓋1, 羽釜1, 刀子1, 縄文土器破片1の14個体である。

**土師器** 土師器坏は平底の906と丸底の面影を残しつつ平底化が進む905, 907, 908がある。平底坏906は体部が僅かに屈曲し、内面に放射状の研磨痕が施される。土師器甕911は長胴甕でコの字口縁甕

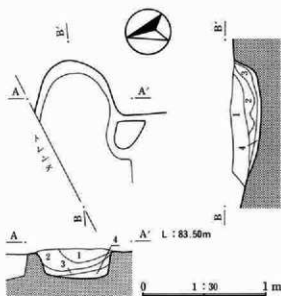


第420図 4B区・06号住居址



の一段階前の古手の様相を示し、909は口唇部の尖った土師器甕の最終末の様相を示している。

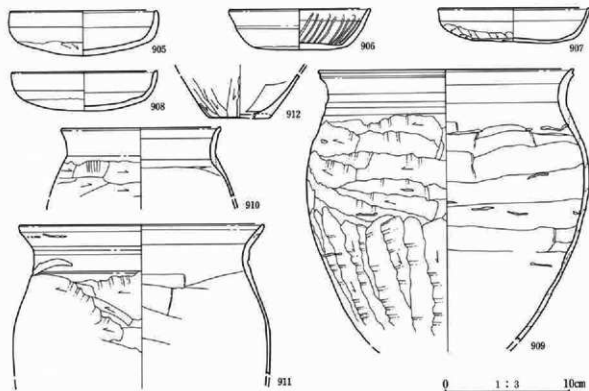
須恵器高台付碗902の高台は、断面が長方形で古い要素をもち、底面に墨痕と磨痕が見られ二 須恵器  
次利用の可能性もある。また須恵器坏蓋904の裏面にも磨痕が残り、二次利用の可能性がある。



6号住居竈

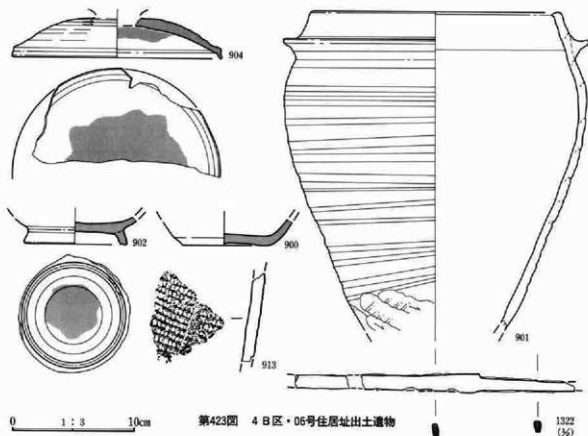
1. 暗褐色(10YR-3/3) 小礫多量に含む。土器片含む
2. 暗褐色(10YR-3/4) 小礫・黄褐色土・焼土粒少量含む
3. 明黄褐色(2.5Y-7/6) 粘性土。砂粒・炭化物・焼土粒少量含む
4. 赤褐色(2.5YR-4/6) 焼土塊・灰含む

第421図 4B区・06号住居竈



第422図 4B区・06号住居址出土遺物

#### IV 遺構と遺物



#### 4B区・07号住居址

##### 遺構 (挿図番号 424)

**絶対的位置** 本住居址は4B区中央北寄りに位置し、F13・76グリッドに属する。北2mには4B・06号住が確認され、該住居址は電部分のみが検出され全容は不明である。

##### 竈 (挿図番号 424)

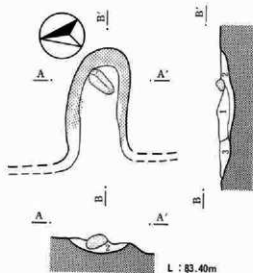
**燃焼部** 燃焼部の平面形態は長い釣り鐘状で、東壁に築かれたと推定されるが不明である。覆土は3層で、覆土中に電構築材の残片と推測される河原石が存在する。

##### 遺物の出土状態 (挿図番号 424)

**遺物分布** 遺物は電内から数点出土している。タイプBが土師器環1048、須恵器環1046で、土師器環1047はタイプCである。

##### 出土遺物 (挿図番号 425)

**図示遺物** 図示遺物は、土師器環1、土師器小甕1、須恵器環1の3個体である。



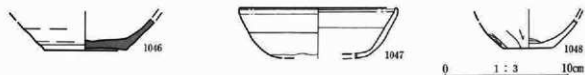
##### 7号住居電

1. 黄褐色(10YR-5/6) 粘土土。焼土小塊・小礫値かに含む
2. 暗褐色(10YR-3/4) 焼土小塊少量含む
3. 暗褐色(10YR-3/3) 小礫・炭化物・焼土粒値かに含む

0 1:30 1m

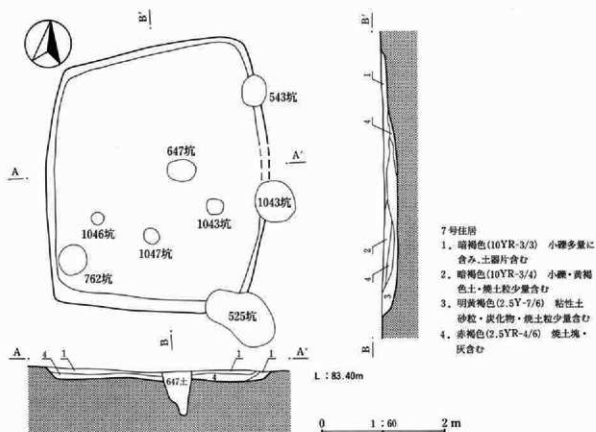
第424図 4B区・07号住居址

2 篠塚四反歩地区(4B区)



第425図 4B区・07号住居址出土遺物

(2) 4B区竪穴状遺構 (挿図番号426・427)

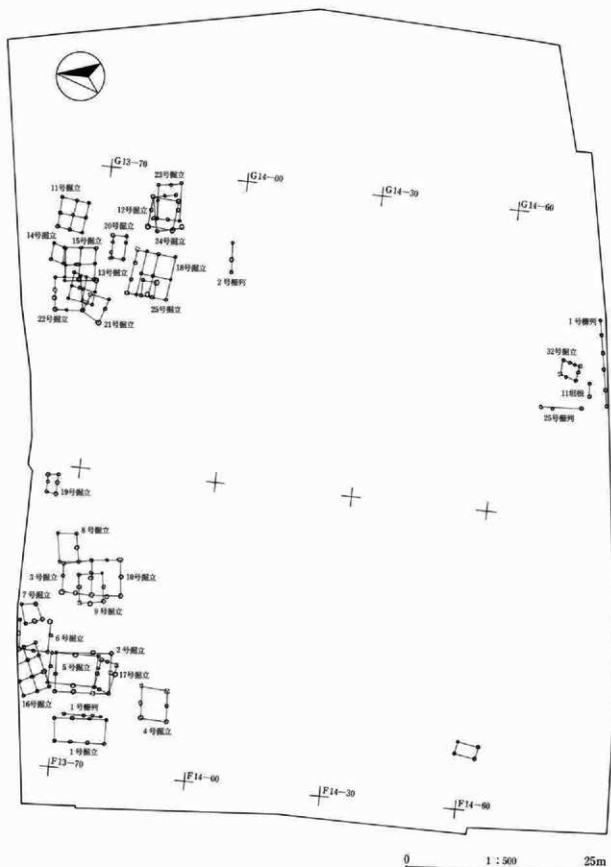


第426図 4B区・01号竪穴状遺構



第427図 4B区・01号竪穴状遺構出土遺物

# IV 遺構と遺物



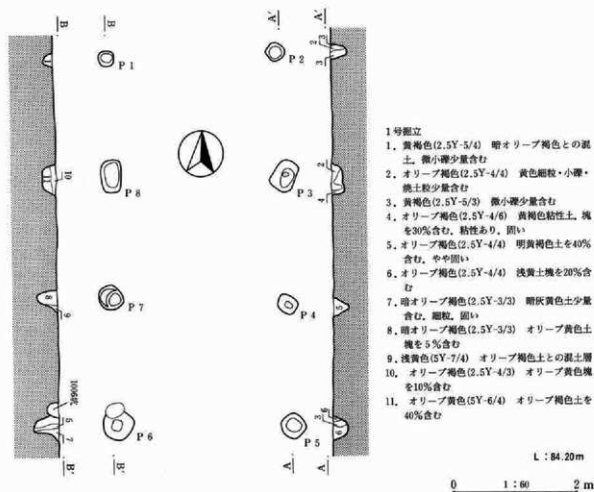
第428図 4B区・竪立柱建物址配置図

## (3) 掘立柱建物跡

篠塚西反歩地区は4AⅠ区の西、4AⅡ区の北に展開する。古地形を復元すると4B区と4AⅠ区・4AⅡ区の間には旧河川の埋没谷が入っている。また該地区の掘立柱建物跡群は東西の2群に別れ、その間にも浅い埋没谷が存在している。東群には13棟、西群には12棟の掘立柱建物跡が検出されている。

## 4B区・01号掘立柱建物跡 (抑図番号429 写真番号PL44)

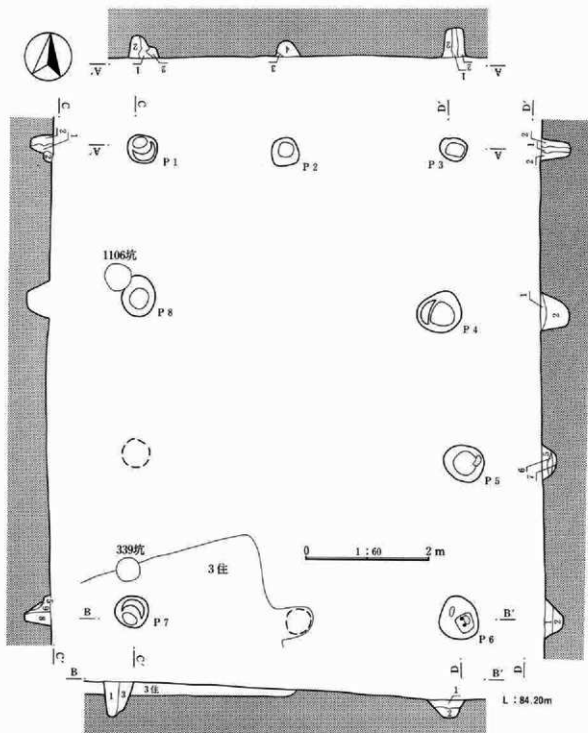
本掘立柱建物跡は西群の西端に位置し、F13・70グリッドに属する。確認面の標高は84.15mを測り、主軸方位はN-5°-Wを示す。規模は東西2.9m・南北5.9mを測り、面積は17.1m<sup>2</sup>で、棟方向は南北である。平面形態は1間×3間の長方形で、柱間寸法は東西に長い。柱穴の形状はP2とP9を除いて、抜き取り時の変形が窺える。



第429図 4B区・01号掘立柱建物址

## 4 B区・02号掘立柱建物跡 (押図番号 430 写真番号 PL44)

**位置** 本掘立柱建物跡は西群01号掘立の東3mに位置し、F13・71グリッドに属する。確認面の標高は84.15mを測り、主軸方位はN-5°-Wを示す。規模は東西5.1m・南北7.1mを測り、面積は36.2㎡で、棟方向は南北である。平面形態は2間×3間の長方形を呈し、柱間寸法は一定と考えられるが、西列のP7とP8の間の柱穴と南列の中央柱穴は確認されなかった。柱穴の形状は不整円形で抜き取り時の変形を受けている。



第430図 4 B区・02号掘立柱建物址

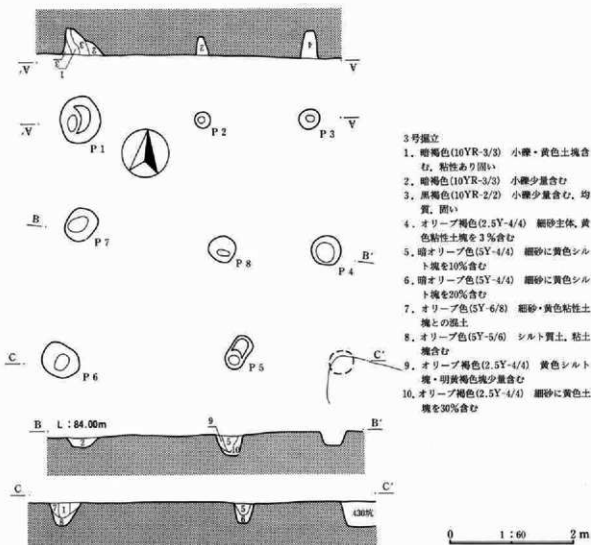
## 2号掘立

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) オリーブ黄色塊を10%微小量含む
2. 黄褐色(2.5Y-5/3) 微小礫少量含む、細粒土、やや固い
3. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 浅黄色土との混土層微小礫少量含む
4. 黄褐色(2.5Y-5/3) 浅黄色土を25%・微小礫少量含む
5. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 黄色粘性土塊を50%含む

6. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 小礫少量に含む、均質
7. 暗オリーブ褐色(5Y-4/4) 細砂に黄色土塊少量含む
8. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 小礫・黄色粘性土粒を2%含む
9. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 小礫・黄色粘性土塊を10%含む

## 4B区・03号掘立柱建物跡(挿図番号431 写真番号PL44)

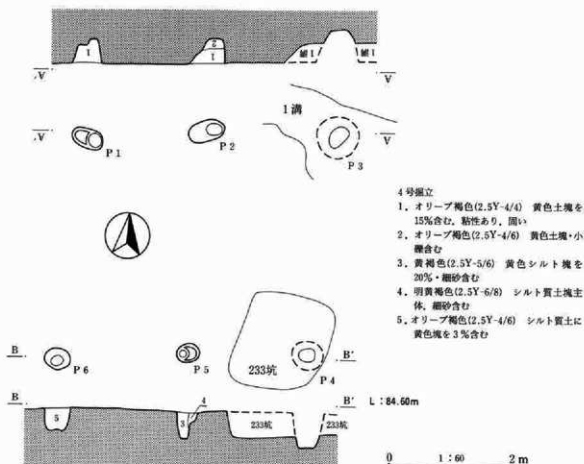
本掘立柱建物跡は西群の東部分に位置し、F13・73グリッドに属する。確認面の標高は84.00mを測り、主軸方位はN-2°-Wを示す。規模は東西3.8m・南北3.9mを測り、面積は14.8㎡で、棟方向は南北である。平面形態は2間×2間の正方形が意図され、柱間寸法は一定でなく、P8の位置は床の存在が想定されるが建て方が不安定である。柱穴の形状は抜き取りによって変化に富んでいる。



# IV 遺構と遺物

## 4 B 区・04号掘立柱建物跡 (挿図番号 432 写真番号 PL44)

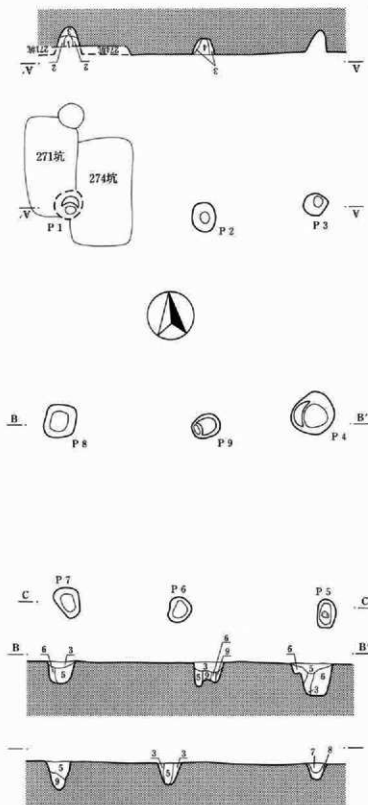
位置・標高 本掘立柱建物跡は西群の一番南に位置し、F13・91グリッドに属している。確認面の標高は  
 規模 84.55mを測り、主軸方位はN-83°-Eを示す。規模は東西4m・南北3.6mを測り、面積は14.4  
 平面形態 m<sup>2</sup>で、棟方向は東西である。平面形態は2間×1間の長方形で、柱間寸法は南北が東西の2倍  
 柱穴・形状 近くある。柱穴の形状は抜き取り時の乱れが如実に窺える。



## 4 B 区・05号掘立柱建物跡 (挿図番号 433 写真番号 PL44)

位置・標高 本掘立柱建物跡は西群のほぼ中央に位置し、F13・71グリッドに属している。確認面の標高は  
 規模 84.10mを測り、主軸方位はN-1°-Wを示す。規模は東西4.1m・南北6.6mを測り、面積は27.  
 平面形態 1m<sup>2</sup>で、棟方向は南北である。平面形態は2間×2間の長方形で、柱間寸法は南北に長く、中央  
 柱穴・形状 のP9は東柱と推定され、床の存在が有力視される。柱穴の形状は抜き取り時の変形が見られる。





第433図 4B区・05号掘立柱建物址

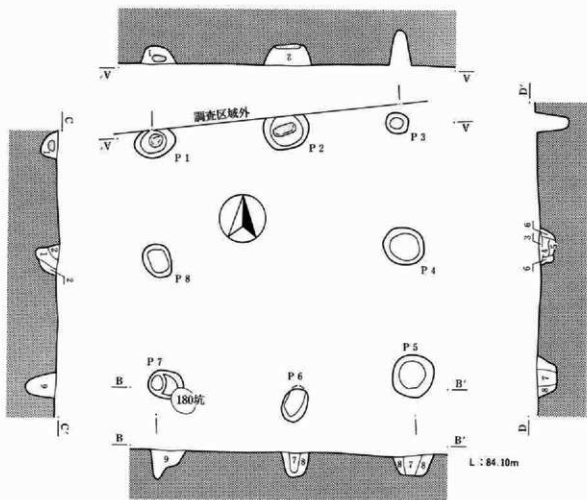
## 5号掘立

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 粗砂・黄色土粒含む
2. におい黄色(2.5Y-6/4) 暗オリーブ褐色土を25%微小礫少量含む
3. 黄褐色(2.5Y-5/3) 微小礫少量含む
4. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 黄色土塊を3%・炭粒含む。粘性あり。固い
5. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) オリーブ黄色塊を10%微小礫少量含む
6. 黄褐色(2.5Y-5/3) 細粒・微小礫少量含む
7. 明黄褐色(2.5Y-7/6) 明黄褐色土塊・黄色粘土風の凝土。におい黄褐色シルト含む
8. 明黄褐色(2.5Y-6/8) 7層に類似
9. 黄褐色(2.5Y-5/6) 黄色・褐色粘土主体。粘性あり固い

# IV 遺構と遺物

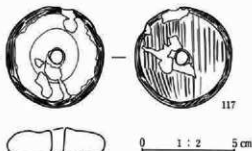
## 4 B区・06号掘立柱建物跡 (採回番号434)

- 位置・標高** 本掘立柱建物跡は西群の中央北に位置し、F13・62グリッドに属する。確認面の標高はmを測り、主軸方位はN-8°Wを示す。規模は東西4m・南北4.1mを測り、面積は16.4m<sup>2</sup>で、棟方向は南北が想定される。平面形態は2間×2間の正方形プランで、柱間寸法はほぼ一定である。
- 柱穴・形状** 柱穴の形状は大きな円形の掘り方をもつものが大部分で、P1とP2内には平らな河原石が確認されている。



### 6号掘立

1. 暗オリーブ褐色(2.5Y-3/3) 上層砂礫・下層粗砂・黄色土塊を15%含む。
2. 褐色(10YR-4/4) 焼土粒・黄色土塊を5%含む
3. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 小礫・黄色粘土粒を2%含む
4. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 小礫・黄色粘土塊を10%含む
5. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 4層より黄色粘土塊をやや多量に含む
6. 黄褐色(2.5Y-5/4) 黄色粘土塊を50%含む。粘性あり。固い
7. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 黄色細粒・小礫・焼土粒少量含む
8. 黄褐色(2.5Y-5/3) オリーブ褐色土塊の混土
9. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 小礫・灰・焼土粒少量含む



第434図 4 B区・06号掘立柱建物跡と出土遺物

## 4B区・07号掘立柱建物跡(挿図番号435)

本掘立柱建物跡は06号掘立柱の東列と重複し、F13・62グリッドに属する。確認面の標高は84.00mを測り、主軸方位はN-23°-Wを示す。規模は東西2.2m・南北2.3mを測り、面積は5.1㎡で、棟方向は南北が想定される。平面形態は1間×1間の正方形で、柱間寸法は南北に僅かに長い。柱穴はP3とP4が変形を受けている。

位置・標高

規模

平面形態

柱穴・形状

## 4B区・08号掘立柱建物跡(挿図番号436 写真番号PL45)

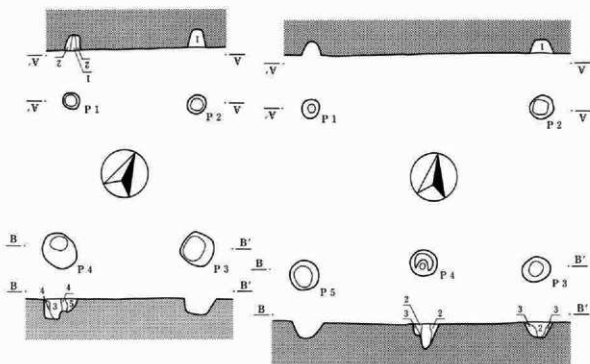
本掘立柱建物跡は03号掘立柱と東壁を接して位置し、F13・63グリッドに属する。確認面の標高はmを測り、主軸方位はN-80°-Eを示す。規模は東西3.7m・南北2.7mを測り、面積は10㎡で、棟方向は東西である。平面形態は基本的には1間×1間の長方形だが、南列の中央にはP4が存在している。柱間寸法は南北に長く、柱穴の形状は円形で、南列のものが大きい掘り方を有している。

位置・標高

規模

平面形態

柱穴・形状



## 7号掘立

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 小礫・黄色土塊含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 黄色粘土塊を20~30%含む、粘性あり、固い
3. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 小礫・黄色粘土粒少量含む
4. 黄褐色(2.5Y-5/4) 黄色粘土塊を50%含む、粘性あり、固い
5. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 3層に類似

## 8号掘立

1. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 細砂・小礫・黄色シルト塊を5%含む
2. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 細砂・小礫・黄色シルト塊を10%含む
3. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 細砂・小礫・黄色シルト塊を20%含む

0 2m

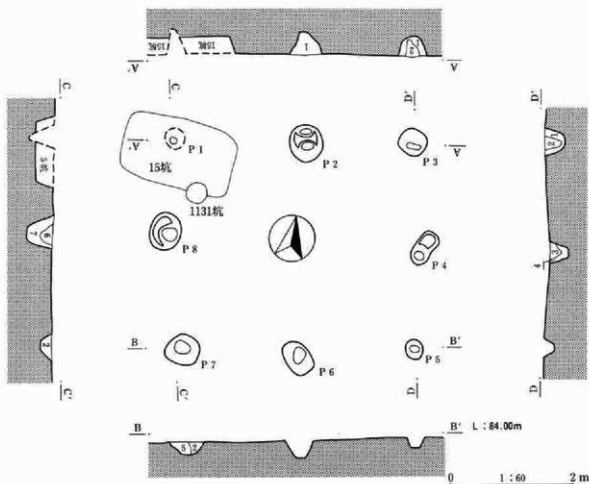
第435図 4B区・07号掘立柱建物址

第436図 4B区・08号掘立柱建物址

# IV 遺構と遺物

## 4 B 区・09号掘立柱建物跡 (挿図番号 437 写真番号 PL45)

- 位置・標高** 本掘立柱建物跡は03号掘立柱の南に位置し、F13・73グリッドに属する。確認面の標高は83.95mを測り、主軸方位はN-78°-Eを示す。規模は東西3.8m・南北3.2mを測り、面積は12.2㎡で、棟方向は東西である。平面形態は2間×2間の長方形で、柱間寸法は東西に僅かに長く、柱穴の形状は抜き取りによる乱れが基だしい。



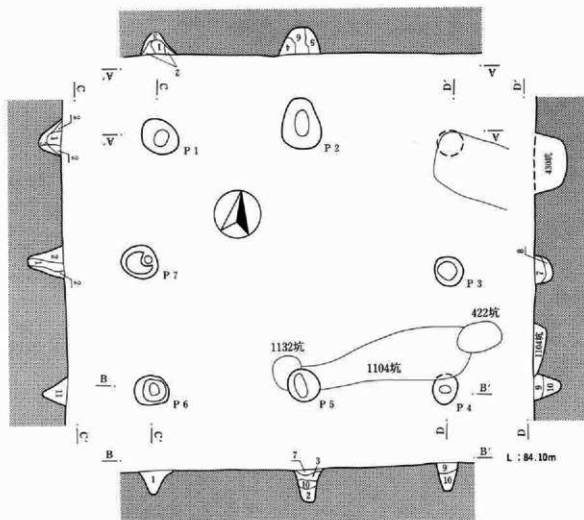
### 9号掘立

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 細砂に黄色土塊を30%含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 黄色シルトを10%含む
3. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 細砂に黄色シルト塊を10%含む
4. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 細砂・黄色シルト塊を20%含む
5. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 黄色シルト・明黄褐色土少量含む
6. 黄褐色(2.5Y-5/4) 細砂質
7. 明黄褐色(2.5Y-6/8) 黄色土塊を20%含む

第437図 4 B 区・09号掘立柱建物址

## 4B区・10号掘立柱建物跡(拝図番号438 写真番号PL45)

本掘立柱建物跡は03号掘立柱の南に近接して位置し、F13・73グリッドに属している。確認面の標高は84.05mを測り、主軸方位はN-82°-Eを示す。規模は東西4.7m・南北4.0mを測り、面積は18.8㎡で、棟方向は東西である。平面形態は2間×2間の長方形で、柱間寸法は東西に長い。柱穴の形状は柱抜き取り時による変形を受けており、東北隅の位置にあたる柱穴は後世の430土坑により消失している。



## 10号掘立

1. 暗褐色(10YR-3/3) 小礫少量含む。粘性あり。固い
2. オリーブ色(5Y-6/8) 細砂・黄色土粘土塊の混土
3. オリーブ色(5Y-5/4) シルト質土・粘土塊含む
4. 暗褐色(10YR-3/3) 小礫少量含む
5. 褐色(10YR-4/4) 黄色土塊・小礫含む。粘性あり
6. 黒褐色(10YR-2/2) 小礫少量含む。緻密。固い

7. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 小礫・黄色粒少量含む。砂質土。固い
8. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 黄色土塊を5%・小礫少量含む。砂質土
9. 暗オリーブ色(5Y-4/3) 小礫・黄色シルト粒を3%含む
10. 暗オリーブ色(5Y-4/3) 小礫・黄色シルト土塊を15%含む
11. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 黄色土塊少量含む

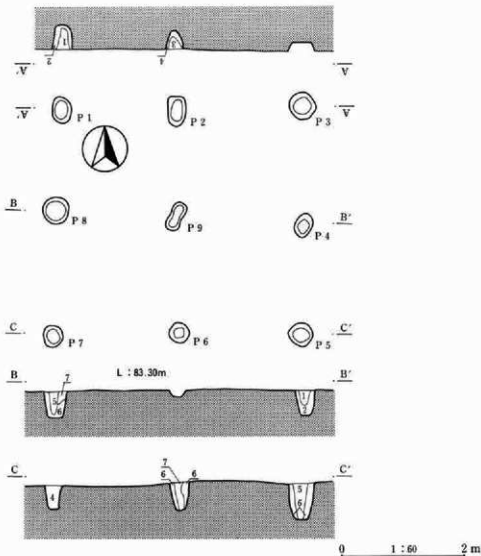
0 1 : 60 2 m

第438図 4B区・10号掘立柱建物址

# IV 遺構と遺物

## 4 B 区・11号掘立柱建物跡 (押図番号 439 写真番号 PL45)

**位置・標高** 本掘立柱建物跡は東群の東北隅に位置し、F13・69グリッドに属する。確認面の標高は83.25mを測り、主軸方位はN-88°-Eを示す。規模は東西3.9m・南北3.7mを測り、面積は14.4m<sup>2</sup>で、棟方向は東西である。平面形態は2間×2間の正方形プランに近い総柱風で、柱間寸法は若干東西が長い。柱穴の形状は比較的円形が多く、掘り込みも深い。しかしながら中央のP9は掘り込みが浅く、板張りの束柱と理解するのが妥当と思われる。



### 11号掘立柱

1. 暗褐色(10YR-3/4) As-B混土、褐色土塊を5%含む
2. 暗褐色(10YR-3/4) As-B混土、褐色土塊を15%含む
3. 黒褐色(10YR-2/3) As-B主体、暗褐色土塊を含む
4. 黒褐色(10YR-2/2) As-B多量に含み、暗褐色土塊を3%含む

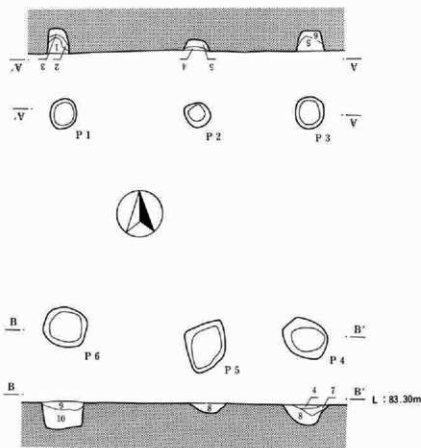
### 5

5. 黒褐色(10YR-3/3) As-B混土、黄褐色土塊を含む
6. 暗褐色(10YR-3/3) As-B混土、黄褐色土塊を10%含む
7. 暗褐色(10YR-3/4) As-B混土、黄褐色土塊を5%含む

第439図 4 B 区・11号掘立柱建物址

## 4B区・12号掘立柱建物跡(押図番号440)

本掘立柱建物跡は東群の東南隅に位置し、F13・89グリッドに属している。確認面の標高は位置・標高  
83.25mを測り、主軸方位はN-88°-Eを示す。規模は東西3.9m・南北3.7mを測り、面積は14.規模  
4m<sup>2</sup>で、棟方向は東西である。平面形態は2間×1間の正方形プランで、柱間寸法は南北に長い。平面形態  
柱穴の形状は不整形円形で、掘り込みも不揃いである。柱穴・形状



## 12号掘立

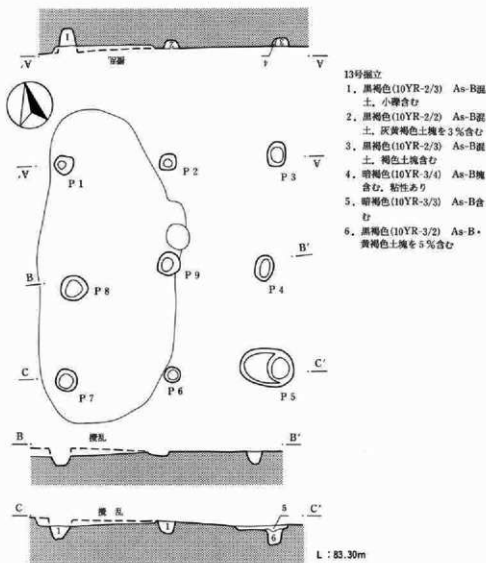
- |                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| 1. 黒褐色(10YR-2/2) As-B強土、小礫少量含む        | 6. 暗褐色(10YR-3/3) As-B含む、暗褐色土塊多量に含む      |
| 2. 黒褐色(10YR-2/2) As-B強土、黄褐色土塊を5%含む    | 7. 黒褐色(10YR-2/2) As-B多量に含む、褐色土塊を5~10%含む |
| 3. 黒褐色(10YR-3/3) As-B強土、黄褐色土塊を10%含む   | 8. 暗褐色(10YR-3/3) As-B・褐色土塊含む            |
| 4. 黒褐色(10YR-2/2) As-B多量に含む            | 9. 黒褐色(10YR-2/3) As-B強土、黄褐色土粒含む         |
| 5. 黒褐色(10YR-2/2) As-B多量に含む、暗褐色土塊を3%含む | 10. 褐色(10YR-4/4) As-B・黄色土塊少量含む、粘性あり、固い  |

第440図 4B区・12号掘立柱建物跡

0 1:60 2m

## 4B区・13号掘立柱建物跡(押図番号441)

本掘立柱建物跡は東群の西端に位置し、F13・67グリッドに属する。確認面の標高は83.30m位置・標高  
を測り、主軸方位はN-15°-Eを示す。規模は東西3.4m・南北3.5mを測り、面積は11.9m<sup>2</sup>で、規模  
棟方向は南北である。平面形態は2間×2間の総柱風の正方形建物だが、中央の柱穴は掘り込み平面形態  
みが浅く東柱と考えたほうが妥当と思われる。柱穴の形状はP5を除いてほぼ円形を呈するが、柱穴・形状  
上部が削平を受けているためか掘り込みは浅い。

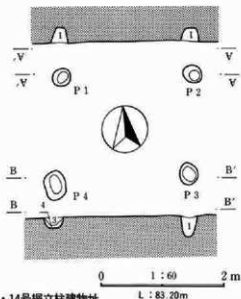


## 4B区・14号掘立柱建物跡 (押図番号442)

- 位置 本掘立柱建物跡は東群の北端に位置し、F13・
- 標高 68グリッドに属している。確認面の標高は83.
- 規模 15mを測り、主軸方位はN-3°-Eを示す。規模は東西2.1m・南北1.6mを測り、面積は3.4㎡で、
- 平面形態 棟方向は東西である。平面形態は1間×1間の長方形で、柱間寸法は東西に長く南北に短い。
- 柱穴・形状 柱穴の形状はP4を除いて円形で土層も一様である。

## 14号掘立

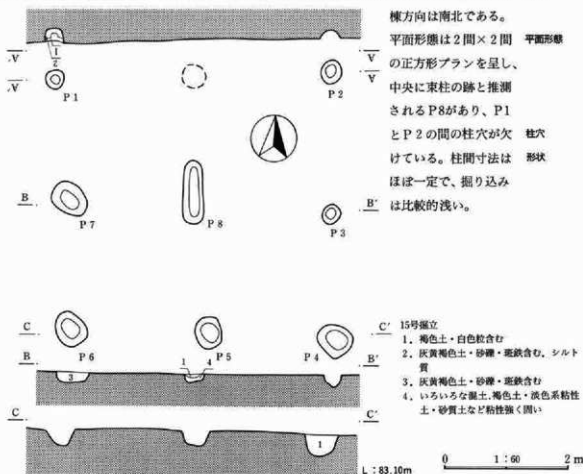
1. 暗褐色(10YR-3/3) As-B混土。黄褐色土塊を10%含む
2. 黒褐色(10YR-2/2) As-B混土。褐色粘土塊少量含む
3. 黒褐色(10YR-2/2) As-B混土。灰黄褐色土塊を3%含む
4. 暗褐色(10YR-3/4) As-B混土少量含む。灰黄褐色土塊含む





## 4B区・15号掘立柱建物跡 (挿図番号443)

本掘立柱建物跡は東群の北部分に位置し、F13・68グリッドに属する。確認面の標高は83.00mを測り、主軸方位はN-4°-Eを示す。規模は東西4.3m・南北4.5mを測り、面積は19.4㎡で、

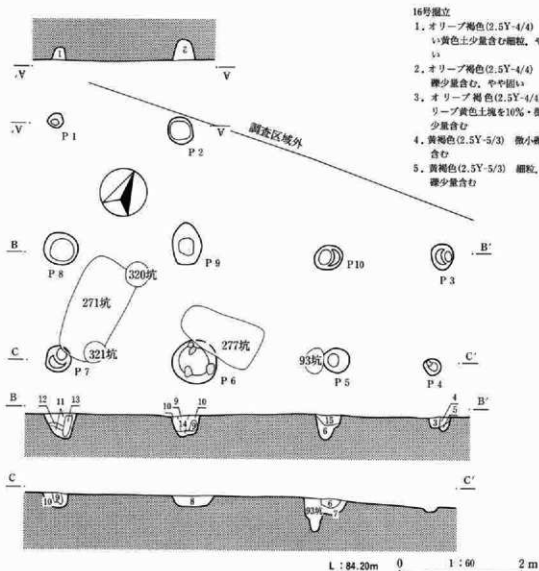


第443図 4B区・15号掘立柱建物址

## 4B区・16号掘立柱建物跡 (挿図番号444)

本掘立柱建物跡は西群の北側に位置し、F13・62グリッドに属する。確認面の標高は84.10mを測り、主軸方位はN-70°-Eを示す。規模は東西6.0m・南北3.1mを測り、面積は18.6㎡で、棟方向は東西である。平面形態は3間×2間の長方形だが、東側へ庇の張り出した板張り建物を想定すると、P9が東柱の位置になる。柱間寸法は一定で庇部分も狭まる様子は見えないが、建物配置から庇のある板張り建物を予想したい。

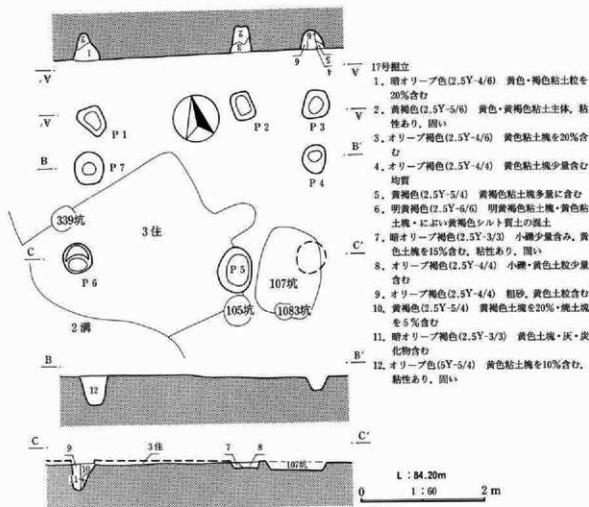
# IV 遺構と遺物



第444図 4B区・16号掘立柱建物址

## 4B区・17号掘立柱建物跡 (坪図番号445)

**位置** 本掘立柱建物跡は西群のほぼ中央部2号掘立の南に位置し、F13・71グリッドに属する。確認面の標高は84.00mを測り、主軸方位はN-82°-Wを示す。規模は東西3.6m・南北2.3mを測り、面積は8.3m<sup>2</sup>で、棟方向は東西である。平面形態は2間×2間の長方形と目されるが、柱間寸法が不揃いで、掘立柱建物跡と断定するには不安が残る。柱穴の形状は抜き取り時の変形を受けているものと思われ、掘り込みも一律でない。



第445図 4B区・17号掘立柱建物址

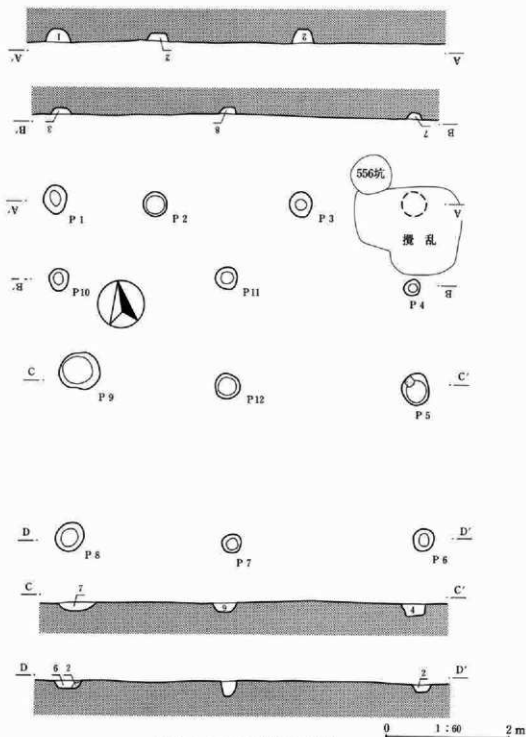
## 4B区・18号掘立柱建物跡(掘図番号446)

本掘立柱建物跡は東群の南西隅に位置し、F13・88グリッドに属している。確認面の標高は 位置・標高 83.25mを測り、主軸方位はN-81°-Wを示す。規模は東西5.4m・南北5.3mを測り、面積は28. 規模 6㎡で、棟方向は東西である。平面形態は2間×2間の正方形プランに北向きの庇がつき、P12 平面形態を東柱とする板張り住居が想定される。柱穴の形状はほぼ円形だが、掘り込みが浅く、埋設土 柱穴・形状も一様でない。

## 18号掘立

1. 暗褐色(10YR-3/4) 粘性土
2. 黒褐色(10YR-3/2) As-B混土、褐色土塊少量含む
3. 黒褐色(10YR-2/2) As-B混土、黄褐色土塊を5%含む
4. 暗褐色(10YR-3/4) As-B・褐色土塊含む
5. 暗褐色(10YR-3/4) As-B混土、黄褐色土塊を10%含む
6. 黒褐色(10YR-3/2) As-B混土、褐色土塊・焼土粒少量含む
7. 黒褐色(10YR-3/2) As-B含む、褐色土塊を15%含む
8. 黒褐色(10YR-2/2) As-B混土、小礫少量含む
9. 暗褐色(10YR-3/4) 黄褐色土塊を5%・As-B塊を2%含む、粘性あり

# IV 遺構と遺物

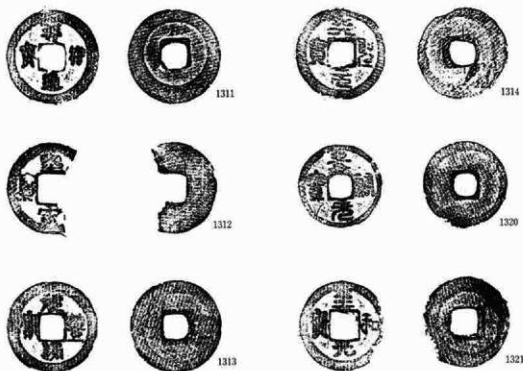
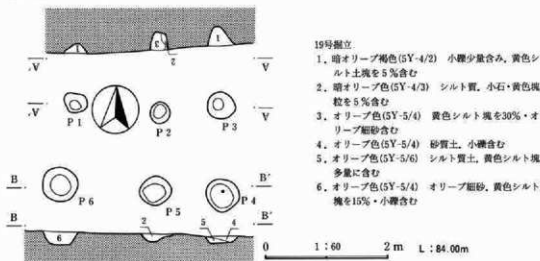


第446図 4B区・18号掘立柱建物址

## 4B区・19号掘立柱建物跡 (挿図番号447)

- 位置 本掘立柱建物跡は西群の一群から東に離れて孤立的に位置し、F13・64グリッドに属する。
- 標高・規模 確認面の標高は83.95mを測り、主軸方位はN-90°-Eを示す。規模は東西2.6m・南北1.5mを測り、面積は3.9㎡と小さく、棟方向は東西である。平面形態は2間×1間の長方形で、柱間寸法は一定でない。柱穴の形状は全般的に円形だが、広く浅い。
- 平面形態
- 柱穴・形状
- 北半銭 南東隅のP4からは6枚の北半銭が出土している。1311は祥符通寶(1002年)、1312は熙寧通寶

(1072年), 1313は元豊通豊(1078年), 1314は天聖元寶(1023年), 1320は景祐元寶(1034年), 1321は至和元寶(1054年)と読める。



第447図 4B区・19号掘立柱建物址と出土遺物

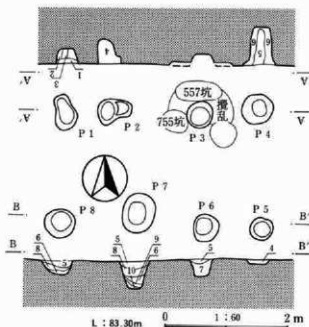
20号掘立

1. 褐色(10YR-4/6) As-B・褐色土塊を2%含む
2. 褐色(10YR-4/4) As-B・褐色土塊を15%含む
3. 褐色(10YR-4/4) 塊少量含む
4. 黒褐色(10YR-2/2) As-B混土, 黄褐色土塊を5%含む
5. 暗褐色(10YR-3/3) As-B混土, 黄褐色土塊を3%含む
6. 暗褐色(10YR-3/4) As-B混土, 黄褐色土塊を10%含む
7. 褐灰色(10YR-4/1) As-B混土, 黄褐色土少量含む
8. 暗褐色(10YR-3/3) As-B混土, 黄褐色土塊を20%含む
9. 褐色(10YR-4/4) 黄褐色土塊主体, As-B塊少量含む
10. 暗褐色(10YR-3/3) 砂層

## 4 B 区・20号掘立柱建物跡

(挿図番号448)

本掘立柱建物跡は東群のほぼ中央に位置し、F 13・78グリッドに属する。確認面の標高は83.25mを測り、主軸方位はN-89°-Eを示す。規模は東西3.4m・南北1.7mを測り、面積は5.8㎡で、棟方向は東西である。平面形態は3間×1間の長方形で、柱間寸法は南北が東西の2倍ほどである。柱穴の形状はP1, P2を除いて円形だが、掘り込みは不揃いである。



第448図 4 B 区・20号掘立柱建物址

## 4 B 区・21号掘立柱建物跡

(挿図番号449)

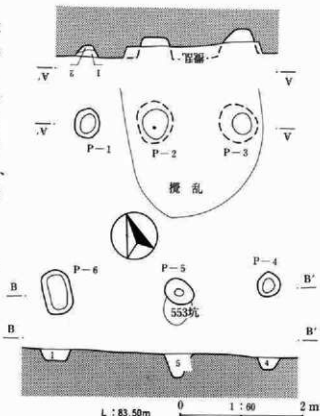
本掘立柱建物跡は東群の西端に位置し、F13・67グリッドに属している。確認面の標高は83.40mを測り、主軸方位はN-70°-Wを示す。規模は東西3.4m・南北2.7mを測り、面積は9.2㎡で、棟方向は東西である。平面形態は南側の開いた台形状を呈し、柱間寸法は一定でない。柱穴の形状は攪乱等により変形を受けており、掘り込みも不揃いである。

北宋銭 P2からは北宋銭の元祐通寶(1093年)が出土している。



## 21号掘立

1. 黒褐色(10YR-2/2) As-B多量に含み、砂礫・褐色土塊含む
2. 暗褐色(10YR-3/3) As-B少量含む、粘性あり、固い

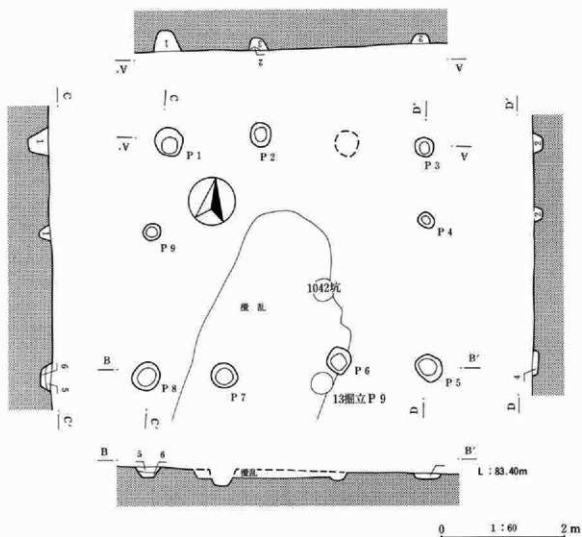


3. 黒褐色(10YR-2/3) As-B混土、小礫含む
4. 黒褐色(10YR-2/2) As-B多量に含み、褐色土塊を5%含む
5. 黒褐色(10YR-3/2) As-B含み、褐色土塊を15%含む

第449図 4 B 区・21号掘立柱建物址と出土遺物

## 4B区・22号掘立柱建物跡(拝図番号450)

本掘立柱建物跡は東群の北西隅に位置し、F13・67グリッドに属している。確認面の標高は位置・標高  
83.30mを測り、主軸方位はN-77°-Eを示す。規模は東西4.6m・南北3.6mを測り、面積は16.規模  
6㎡で、棟方向は東西である。平面形態は3間×2間の長方形だが柱間寸法は一定でなく、北列平面形態  
のP2とP3の間の柱穴が欠けている。柱穴の形状は円形で、掘り込みは浅いがほぼ同様の数値柱穴・形状



## 22号掘立

1. 黒褐色(10YR-2/3) As-B弱土、小礫含む
2. 黒褐色(10YR-2/2) As-B弱土、褐色粘土少量含む
3. 黒褐色(10YR-3/2) As-B弱土、褐色土塊を5%含む

4. 黒褐色(10YR-3/2) As-B主体
5. 黒褐色(10YR-2/2) As-B多量に含み、砂礫・褐色土塊含む
6. 暗褐色(10YR-3/3) As-B少量含む、粘性あり、固

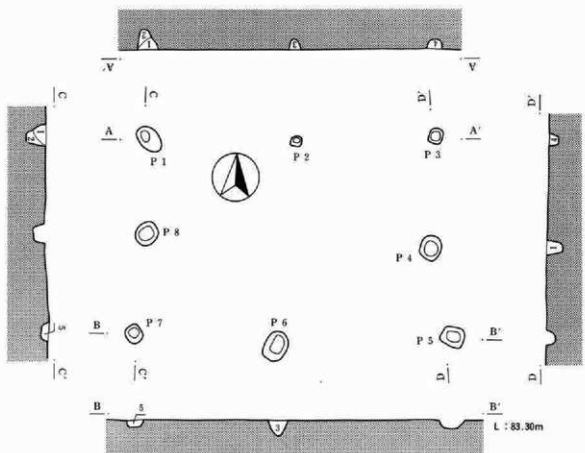
第450図 4B区・22号掘立柱建物跡

#### IV 遺構と遺物

を示している。

##### 4 B 区・23号掘立柱建物跡 (押図番号451)

**位置** 本掘立柱建物跡は東群の東南隅に位置し、12号掘立と重複してF13・89グリッドに属している。確認面の標高は83.25mを測り、主軸方位はN-87°-Eを示す。規模は東西5.1m・南北3.2mを測り、面積は16.3㎡で、棟方向は東西である。平面形態は2間×2間の長方形で、柱間寸法は東西に長い。柱穴の形状は不整形形で、掘り込みはなべて浅い。



##### 23号掘立

1. 黒褐色(10YR-2/2) As-B多量に含む
2. 暗褐色(10YR-3/3) As-B含む。暗褐色土塊多量に含む
3. 黒褐色(10YR-2/2) As-B多量に含む

- み。褐色土塊を5~10%含む
4. 暗褐色(10YR-3/3) As-B含む。褐色土塊含む
5. 暗褐色(10YR-3/4) As-B混土。黄褐色土塊を5%含む

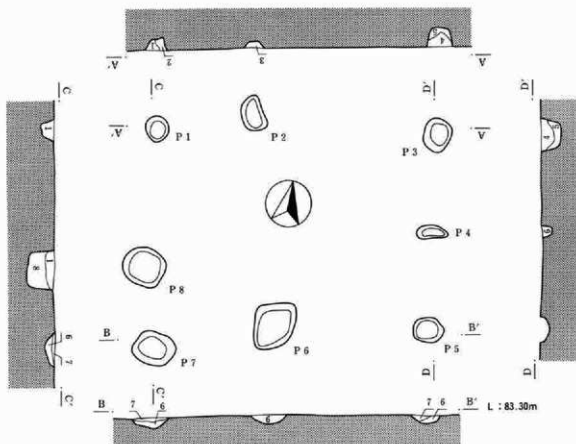
0 1 : 60 2 m

第451図 4 B 区・23号掘立柱建物跡

##### 4 B 区・24号掘立柱建物跡 (押図番号452)

**位置** 本掘立柱建物跡は東群の東南隅に位置し、12, 23号掘立と重複してF13・89グリッドに属する。  
**標高・規模** 確認面の標高は83.25mを測り、主軸方位はN-65°-Eを示す。規模は東西4.5m・南北3.3mを測り、面積は14.9㎡で、棟方向は東西である。平面形態は2間×2間の長方形で、柱間寸法は一定でない。柱穴の形状は不整形で大きく、掘り込みは不揃いで浅いものが多い。





## 24号掘立

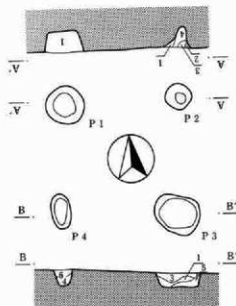
1. 黒褐色(10YR-2/3) As-B混土。黄褐色土粒少量含む
2. 暗褐色(10YR-3/3) As-B混土。黄褐色土塊を10%含む
3. 褐色(10YR-4/6) As-B少量含む。面鉄含む
4. 黒褐色(10YR-2/2) As-B多量に含み。暗褐色土塊を3%含む

5. 暗褐色(10YR-3/3) As-B含み。暗褐色土塊多量に含む

6. 暗褐色(10YR-3/3) As-B・褐色土塊含む
7. 黒褐色(10YR-2/2) As-B多量に含む
8. 褐色(10YR-4/4) As-B・黄色土塊少量含む。粘性あり。固い

0 1:60 2 m

第452図 4B区・24号掘立柱建物址



## 25号掘立

1. 暗褐色(10YR-3/4) 黄褐色土塊を5%・As-B塊を2%含む。粘性あり
2. 黒褐色(10YR-2/3) As-B混土
3. 黒褐色(10YR-3/2) As-B混土。褐色土塊少量含む
4. 暗褐色(10YR-3/4) 褐色土塊とAs-B塊の混土
5. 暗褐色(10YR-3/4) 黄褐色土塊含む。粘性土
6. 黒褐色(10YR-3/2) As-B混土。焼土粒少量含む

L: 83.30m

0 1:60 2 m

第453図 4B区・25号掘立柱建物址

#### IV 遺構と遺物

##### 4 B 区・25号掘立柱建物跡 (挿図番号453)

**位置** 本掘立柱建物跡は東群の南東隅に位置し、18号掘立と重複して13・88グリッドに属する。確  
**標高・規模** 認面の標高は83.20mを測り、主軸方位はN-85°-Wを示す。規模は東西1.9m・南北1.8mを測り、  
**平面形態** 面積は3.4㎡と小さく、棟方向は東西である。平面形態は1間×1間の正方形で、柱間寸法は東  
**柱穴・形状** 西が若干長い。柱穴の形状は対角線のP1とP3が広く、断面が台形状を呈している。

#### (4) 柵 列

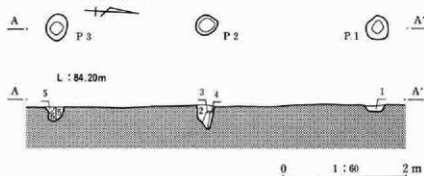
4 B 区は中世遺構特有の意味不明な土坑が数多く存在し、柵列の認定には非常な困難さが伴  
 いかろうじて2例をあげるにとどまった。

##### 01号柵列 (挿図番号454 写真番号)

該柵列はF13・70グリッドに属し、01号掘立の垣根の位置に存在する。走方向はほぼ南北を  
 示す。

##### 02号柵列 (挿図番号455 写真番号)

該柵列はF13・98グリッドに属し、走方向はほぼ東西を指し、東掘立柱建物跡群の南辺を画  
 する位置にある。



第454図 4 B 区・01号柵列

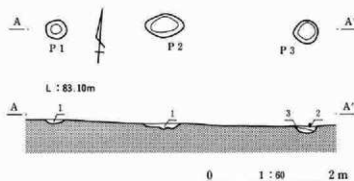
##### 4 B 区柵列土層説明

##### 1号柵列

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) にぶい黄色焼を20%・微小礫をやや多量に含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) にぶい黄色焼を10%含む
3. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 細粒。固い
4. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) にぶい黄色土との混土
5. 暗オリーブ褐色(2.5Y-3/3) 浅黄色塊・微小礫少量含む
6. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 浅黄色土少量含む

##### 2号柵列

1. 褐色土が少量塊状に含む
2. 褐色土・白色粒を含む
3. 灰黄褐色土・砂礫・塵鉄を含む



第455図 4 B 区・02号柵列

## (5) 溝状遺構

中世遺構を中心とする4B区は、中世が溝の時代と呼ばれるように23条もの溝状遺構が検出された。これらの溝状遺構は南西から北東方向へ向かう地形に沿うようにして、基本的には西から東あるいは南から北への走方向を示している。

## 01号溝 (挿図番号456 写真番号PL46)

本溝は4B区の西掘立柱建物跡群の西・南辺を限るようにして流れ、E13・79, F13・70, 位置  
80, 81, 90, 91グリッドで確認されている。断面形は不定形であるが多少の水流の痕跡が認められ、断面形  
端部の方形の土坑に集まるような傾向にある。遺物は土鍋状の鉢が出土している。遺物

## 02号溝 (挿図番号456 写真番号PL46)

本溝は04号竪穴住居址から流れ出るような様相を示し、F13・71, 81グリッドに属している。位置  
断面形は皿状を呈し、端部の溝内には集石が見られる。遺物は01溝と同様な土鍋状の鉢が出土断面形  
している。遺物

## 03号溝 (挿図番号457 写真番号PL46)

本溝は02号竪穴に流れこむ様相を示し、F13・71, 72, 82グリッドを通過する。断面形は皿位置・断面  
状で、遺物は01, 02号溝と同様の土鍋状の鉢が出土している。遺物

## 04号溝 (挿図番号458 写真番号PL46)

本溝は4B区の中央を南西から北東方向へ伸び、F14・05, 15, 16グリッドで05溝と交錯し、位置  
F13・97グリッド付近で北に向きを変えた05溝と分かれる。水の流れは底面の標高から推し量走方向  
ると北東から南西への方向性が見られ、4B区と4AⅡ区を限る旧河道へ流れ込んでいたものと思われる。溝の断面形は基本的には開いたV字状を示している。出土遺物は打製石斧から奈良・平安時代の土師器や須恵器があり、特徴的なものとしては「元豊通宝」が出土している。断面形  
遺物

## 05号溝 (挿図番号458 写真番号PL47)

本溝は04号溝と切り合いながら4B区の中央を南南西から北方向に伸びる。水の流れは04溝位置  
と同様に北から南南西方向に向い旧河道に流れ込んでいるものと思われ、04溝を切って築かれて走方向  
いる。溝の断面形は皿状で、出土遺物は須恵器杯や羽釜が見られる。断面・遺物

## 06号溝 (挿図番号459 写真番号PL47)

本溝は土坑と溝とが微妙に重なり合った形状を示し、F14・03, 04, 13グリッドに位置する。位置  
重なり合った3つの土坑の中央には集石が見られ、両端の溝からの水が集まるような形跡を示している。また集石の両側の土坑の中央には小ピットが穿たれている。出土遺物は鉄製の鎌の遺物  
破片が認められる。

## 07号溝 (挿図番号460)

本溝はF13・93, F14・03グリッドに位置し、南西方向から途中で北に向きを変える。断面位置  
形の形状は台形状で、北へ向かうほど底面が下がっている。断面形

## 08号溝 (挿図番号461 写真番号PL47)

本溝は03番池から流れ出すような様相を示し、F14・26, 17, 07, 08グリッドと南西から北位置  
東方向へ流れている。溝の断面形は皿状である。断面形

#### IV 遺構と遺物

##### 09号溝 (挿図番号461 写真番号 PL47)

位置 本溝は10溝と平行して西から東へ伸びるものと推定され、F14・26, 27グリッドで確認された。溝の断面形は浅い台形状で、深さの差は西端と東端ではそれほどない。

##### 10号溝 (挿図番号461 写真番号 PL47)

位置 本溝は09号溝と平行しているが、現象的には03溜池から流れ出す様相を見せている。溝の断面形は浅い台形状で、09溝と同様な状況を示し、双方の距離は6m程である。

##### 11号溝 (挿図番号462 写真番号 PL47)

位置 本溝はG14・00グリッドから北上し、G13・40グリッドで調査区外へ抜ける幅4m弱の大溝である。溝の断面形は浅い台形状を示し、底面は北に向かって下がっていく。出土遺物は図示しえたのが打製石斧とすり鉢である。

##### 12号溝 (挿図番号463)

位置 本溝は11溝に平行して存在し、F14・09, F13・99, G13・80, 70グリッドに位置する。溝の断面形は台形状で、南から北に向かって底面が下がっている。

##### 13号溝 (挿図番号464)

位置 本溝は規模が畝状遺構のさくに類似し、溝というよりもG13・81, 91グリッド付近に畝の存在した痕跡と理解したい。

##### 14号溝 (挿図番号463)

位置 本溝は4B区東端のG13・62, 72, 82グリッドに位置し、幅2m程の南北に伸びる浅い溝である。

##### 15・16号溝 (挿図番号464)

位置 4B区のほぼ中央のF14・06, 07グリッドで確認された溝で、4, 5溝とF14・06グリッドで交差している。また16溝は15溝の延長で同一の遺構と理解したい。溝の断面形は皿状で、上幅は2mを越える。図示しえた遺物は土鍋、すり鉢、砥石があげられる。

##### 19・20号溝 (挿図番号465)

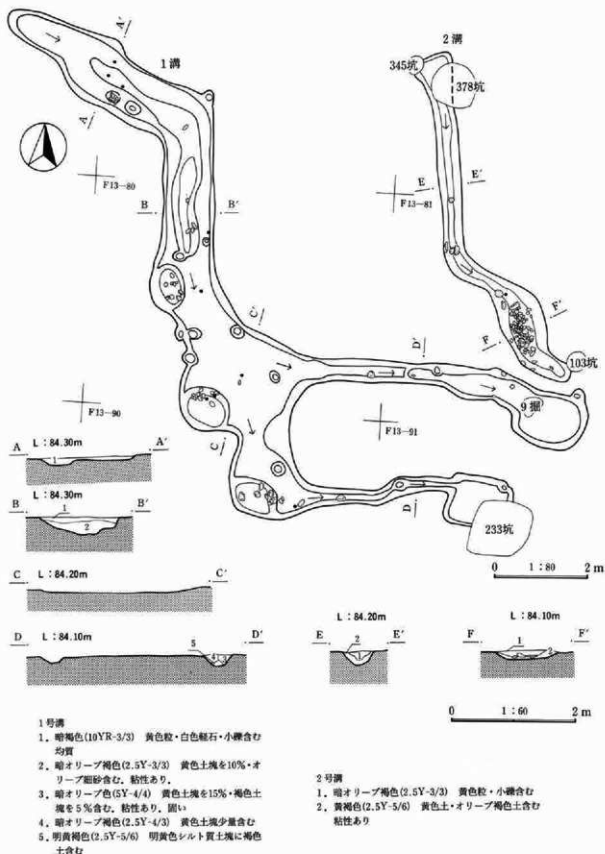
位置・走向 F13・98グリッドで確認された直行する位置にある溝で、19溝は東西に20溝は南北に走方向を持つ。溝の断面形は浅い台形状で床面は、19溝は西から東へ、20溝は北から南へ下がっている。

##### 17・18号溝 (挿図番号465)

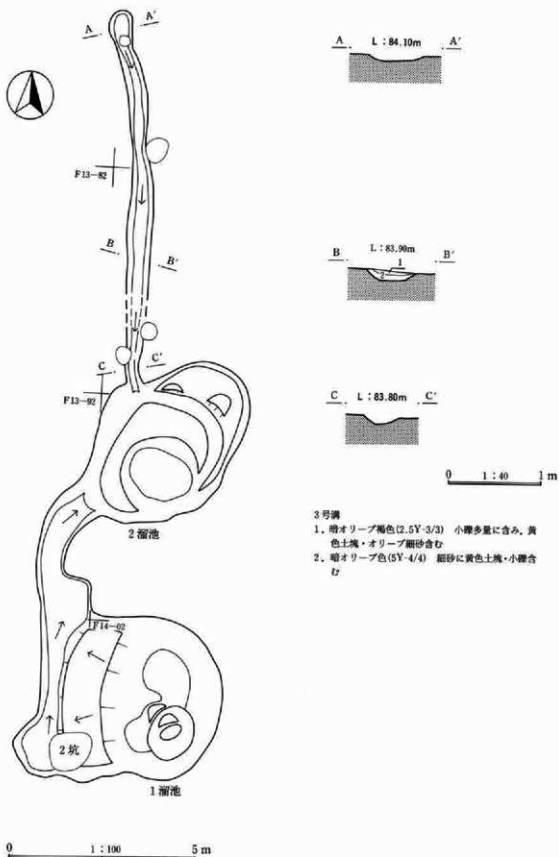
位置 4B区の掘立柱建物跡群内に位置し、F13・97グリッドに存在する。溝の幅や深さから一連の畝跡群の一部と理解したい。

##### 21・22号・23号溝 (挿図番号466 写真番号)

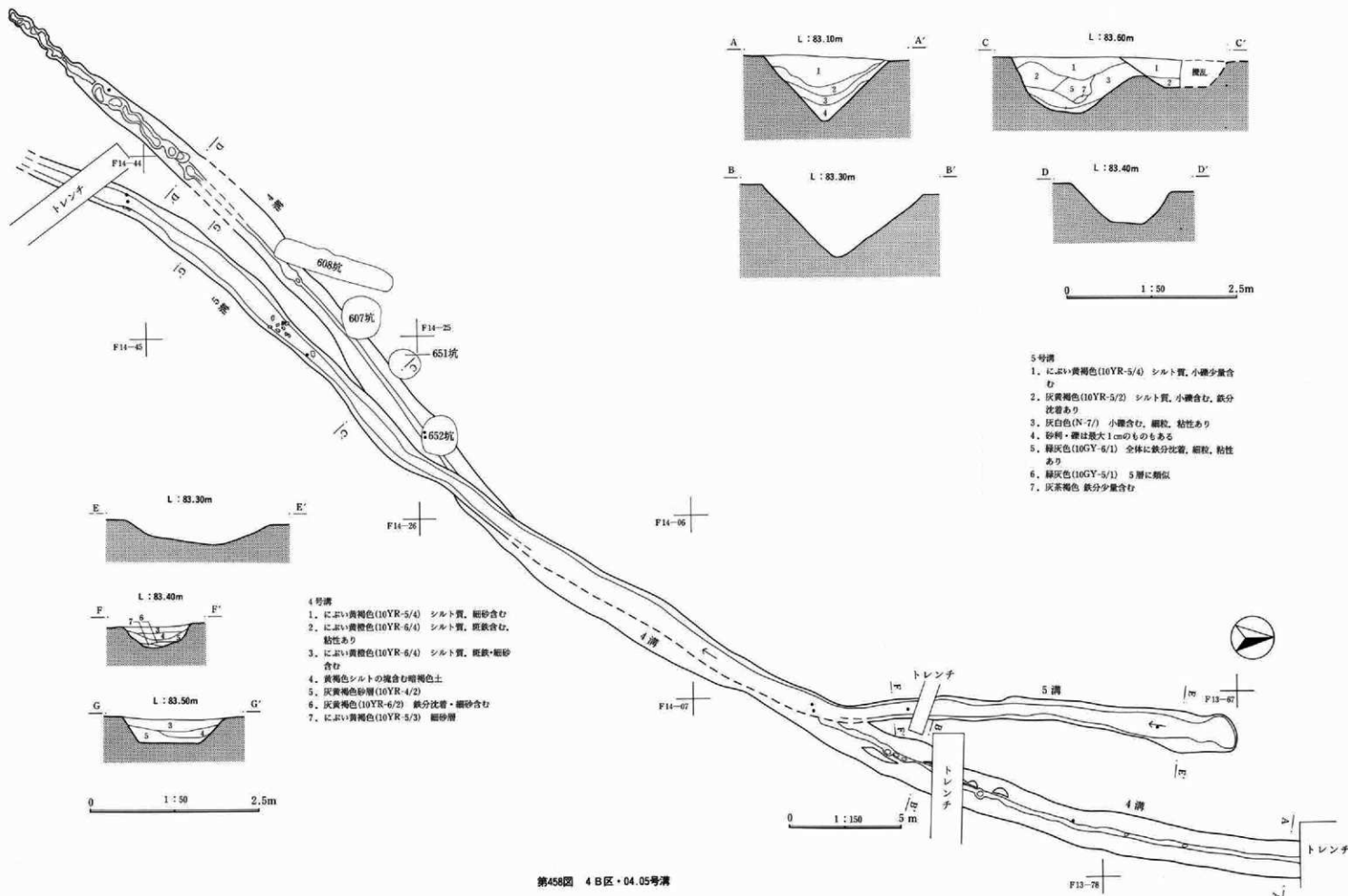
位置 4B区の掘立柱建物跡群のほぼ中央に位置し、小土坑群に先行してF13・78グリッドに存在する。17, 18溝と同様に畝状遺構と理解したい。



IV 遺構と遺物



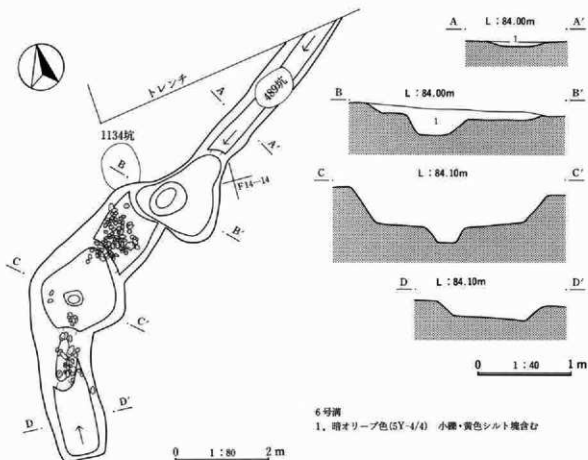
第457図 4B区・03号溝



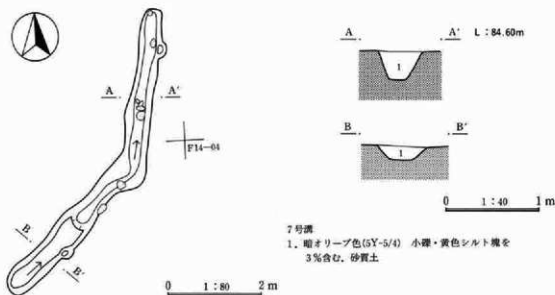




2 藤塚四反歩地区(4B区)

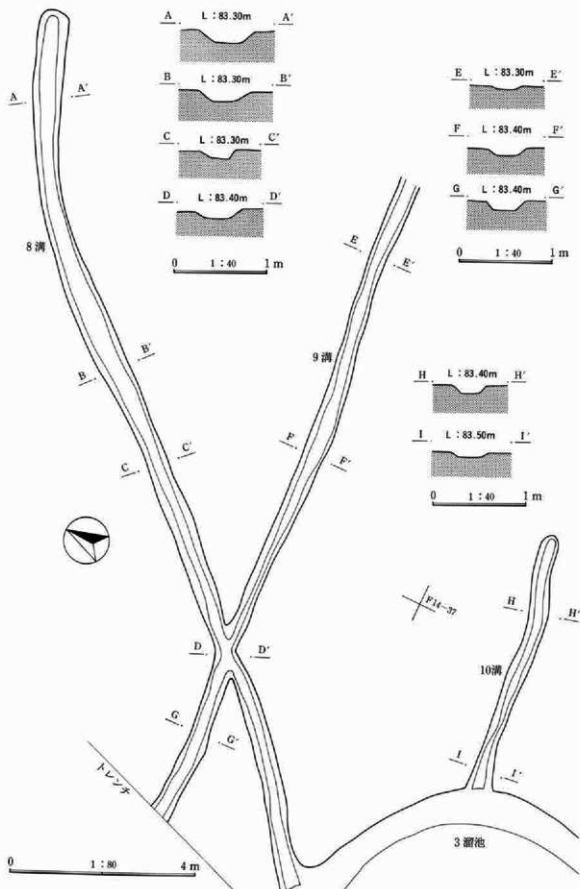


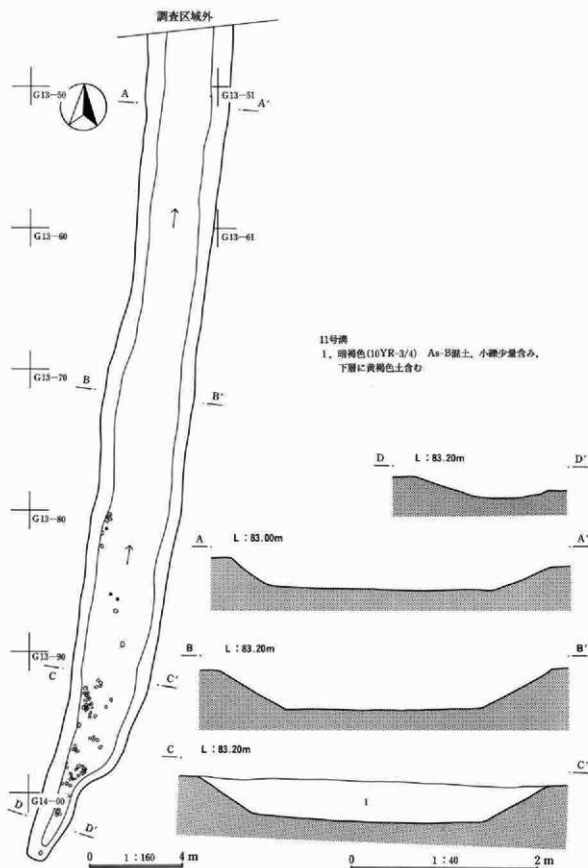
第459図 4B区・06号溝



第460図 4B区・07号溝

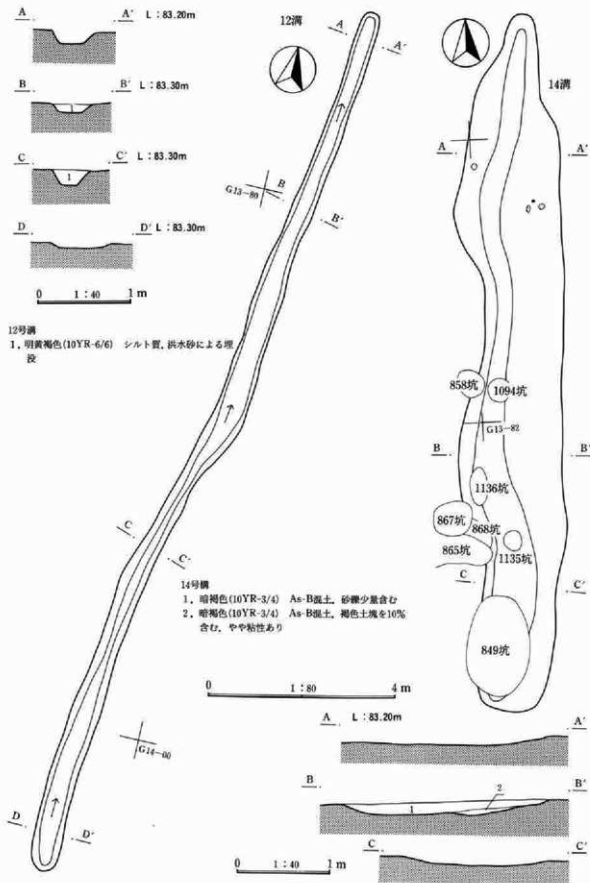
IV 遺構と遺物

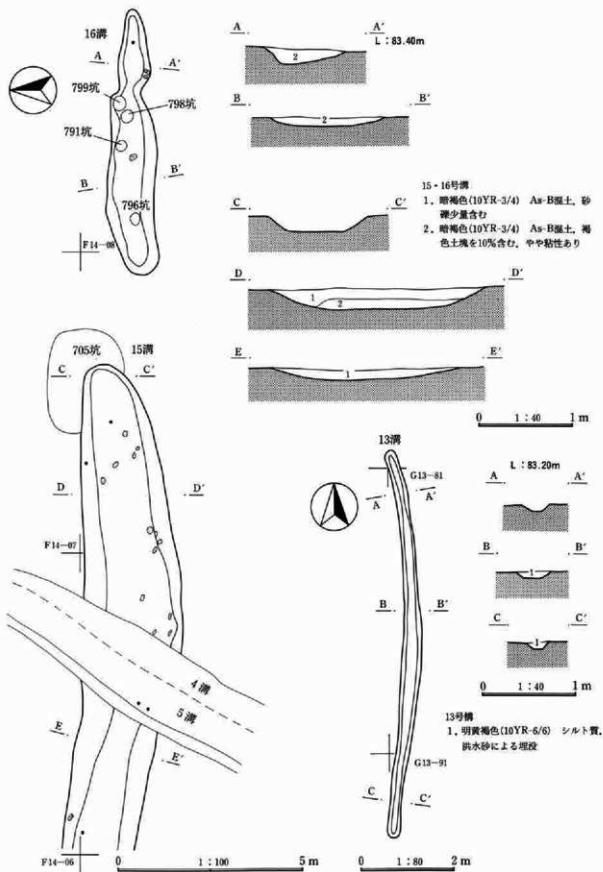




第462図 4B区・11号溝

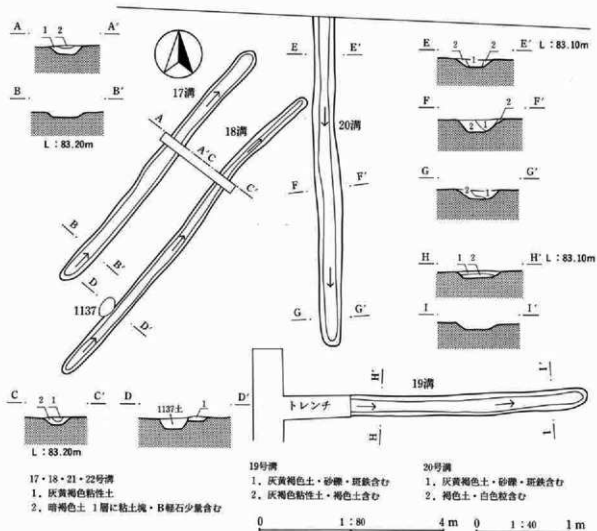
# IV 遺構と遺物



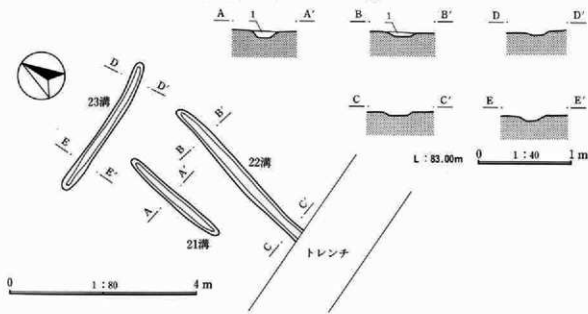


第464図 4B区・13.15.16号溝

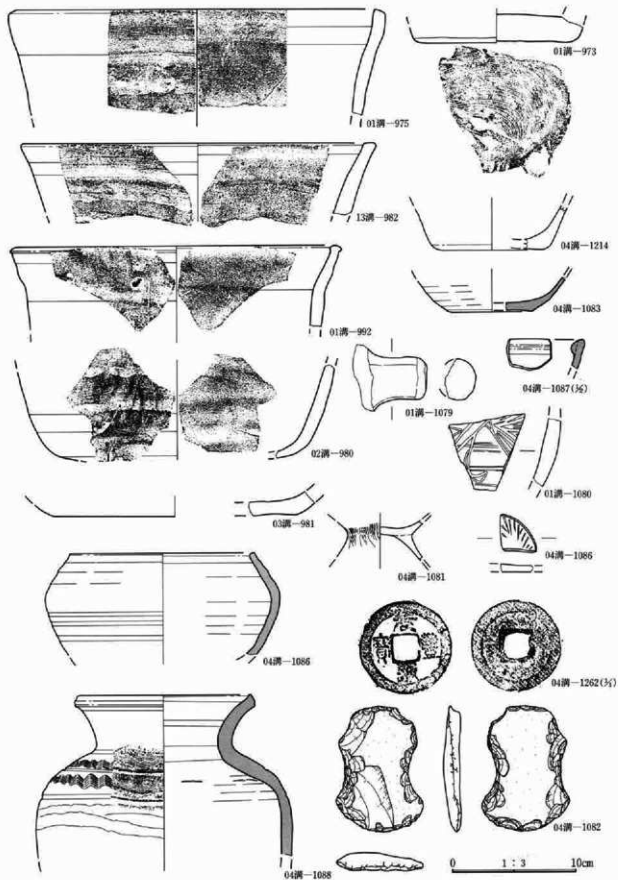
IV 遺構と遺物



第465図 4B区・17,18,19,20号溝

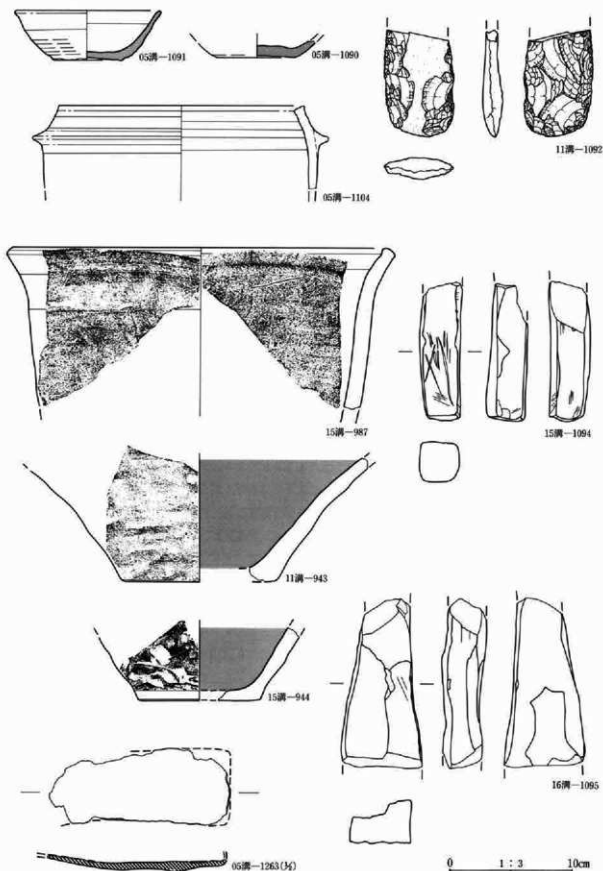


第466図 4B区・21,22,23号溝



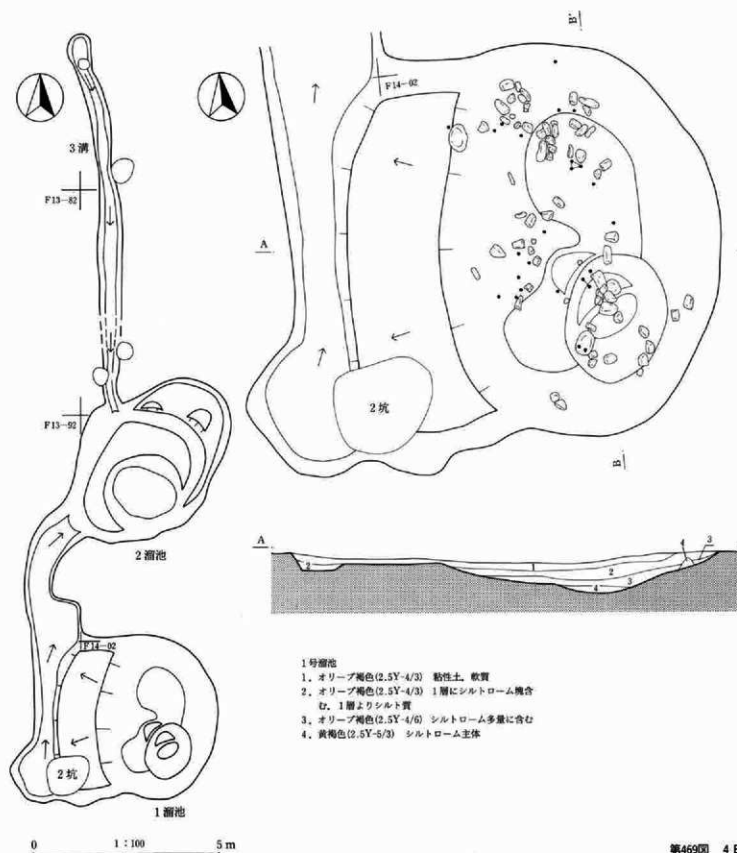
第467图 4B区·清出土文物

IV 遺構と遺物



第468図 4B区・溝出土遺物





- 1号副池
1. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 粘性土、軟質
  2. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 1層にシルトローム堆含む。1層よりシルト質
  3. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) シルトローム多量に含む
  4. 黄褐色(2.5Y-5/3) シルトローム主体



- 2号副池
1. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 粘性土、軟質
  2. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 1層にシルトローム堆含む。1層よりシルト質
  3. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) シルトローム多量に含む
  4. 黄褐色(2.5Y-5/3) シルトローム主体
  5. 暗褐色(10YR-3/3) 礫石と砂質分を若干含む。粘性あり。シルトローム粒含む
  6. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 粘性土でシルトローム粒を層全体に含む
  7. 暗褐色(10YR-3/3) 5層に類似。粘性は5層より強い
  8. 暗オリーブ褐色(2.5Y-3/3) 小礫・砂含む。軟質土
  9. 暗オリーブ褐色(2.5Y-3/3) 砂質土。シルトローム堆含む



## (6) 溜池状遺構

藤岡扇状地の末端部に位置する該遺跡地は、扇状地形であるがゆえの慢性的水不足が古代以来連続と継続したものと思われるが、水の確保のための井戸や溜池の類いは少ない。それゆえに該報告の溜池の位置づけは熟慮を要する。

## 01号溜池（挿図番号470）

本溜池はF14・02グリッドに位置し、02号溜池とは一体の施設と思われ03溝で結ばれている。位置  
長径3m程の楕円状の掘り込みで、東南隅には土坑が穿たれている。断面形は基本的には皿形 径・形状  
だが土坑部分が特に深まっている。出土遺物は投げ込まれた様相を示す石とともにすり鉢の破 遺物  
片が多数混在している。

## 02号溜池（挿図番号470～472）

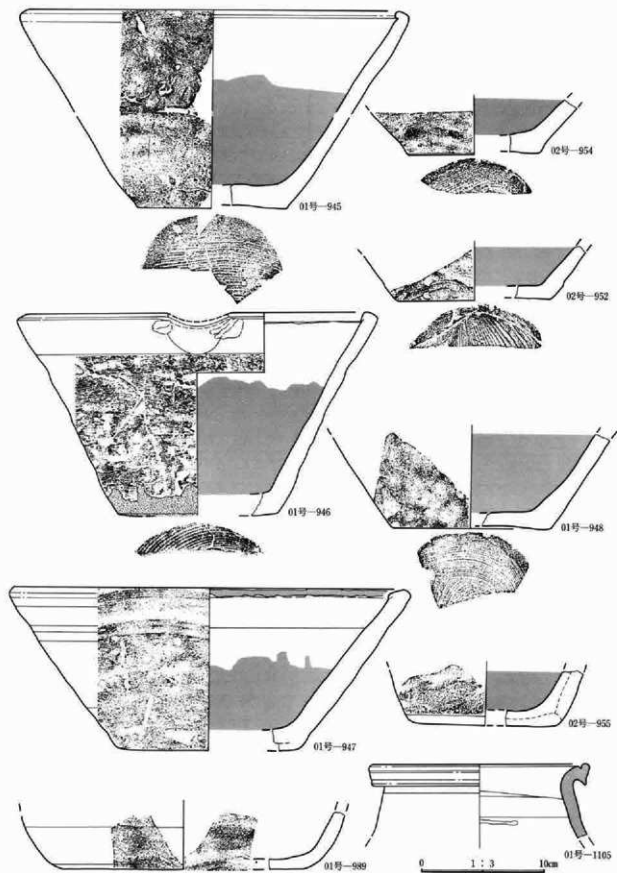
本溜池はF13・92グリッドに属し、01号溜池の水が流れ込む位置に存在し、01号溜池や03溝 位置  
と一体の施設と思われる。平面形態は径3mのほぼ円形で東北側に三日月状のテラスがあり、 径・形状  
ほぼ中央部には土坑状の掘り込みが存在し集石が見られる。土層から見ると土坑状の掘り込み  
は、2次的な掘り込みで、何回かの浚渫作業が行われた節がある。断面形は基本的には皿形で、 断面形  
2次的な掘り込み部分も皿形にくぼんでいる。出土遺物には数多くのすり鉢とともに砥石や鉄 遺物  
製品がある。

## 03号溜池（挿図番号473）

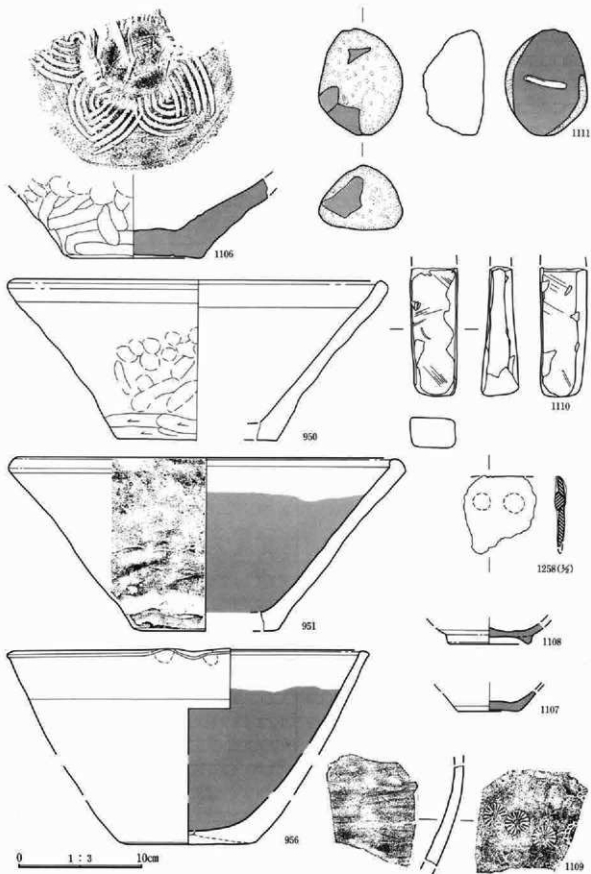
本溜池はF14・36グリッドに属し、08、10溝が流れ込む様相を呈している。平面形態は北西 位置・形状  
から東南方向に長軸をもつ楕円形で、深さは確認面で50cmを測る。出土遺物については図示で 遺物  
きるものはない。

## 04号溜池（挿図番号474）

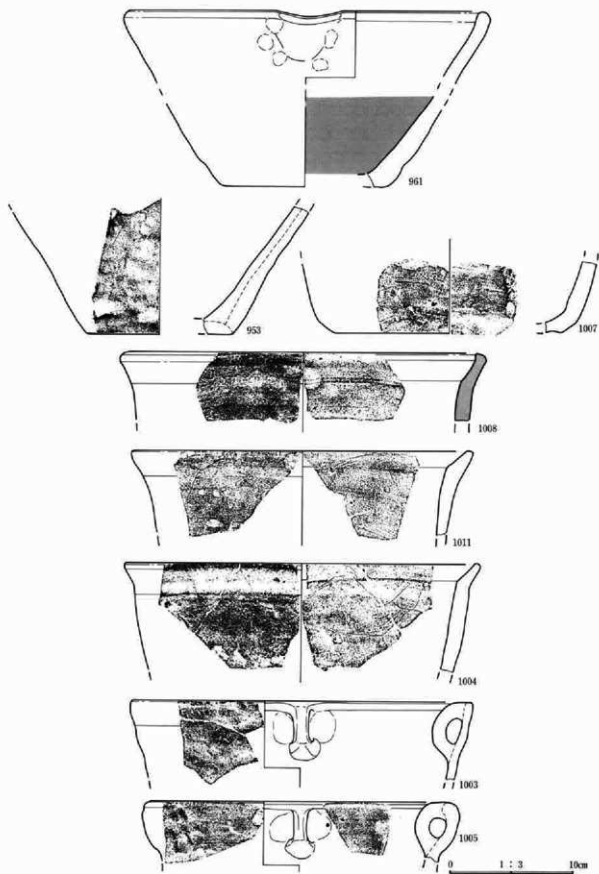
本溜池は掘立柱建物跡群に近接するために池状遺構としてきたが、何等溜池遺構と変わると 位置  
ころを見いだせないで溜池とした。平面形態は径6m弱の不整円形で、断面形は皿形に掘り 形状  
込まれている。図示しえた遺物は須恵器杯1個体のみである。 遺物



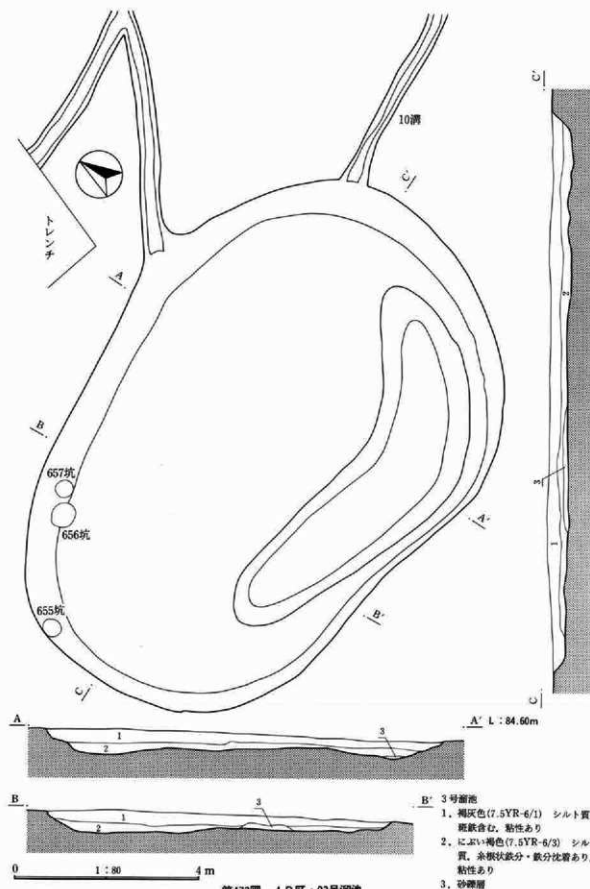
第470図 4B区・01.02号溜池出土遺物



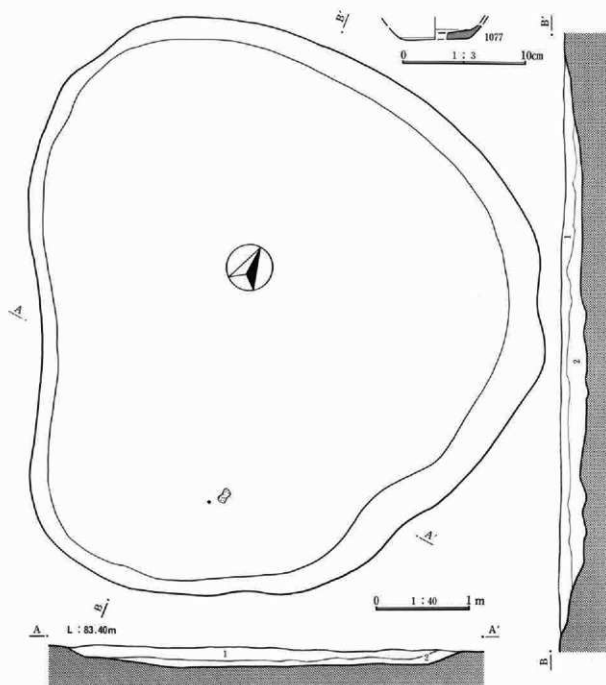
第471图 4B区·02号灌池出土遗物



第472図 4B区・02号溜池出土遺物



第473図 4B区・03号溜池



池状遺構

1. にぶい黄褐色(10YR4/3)As-B混土。小礫含む
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)As-B混土。炭粒。焼土粒少量含む

第474図 4B区・池状遺構と出土遺物



## (8) 土 坑 (挿図番号475~499 写真番号 PL48~52)

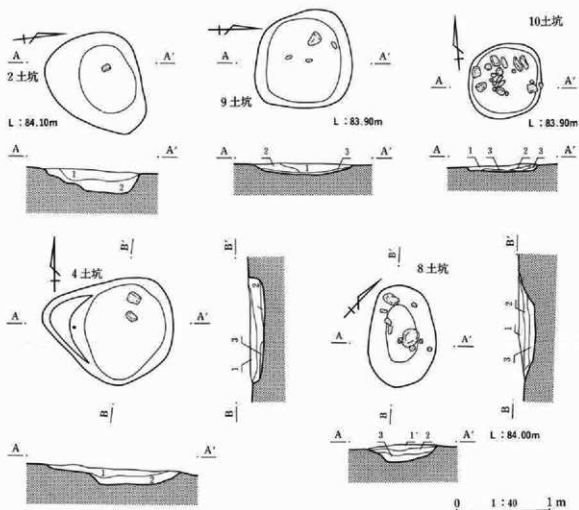
4 B区の土坑群も4 A I区と同様に総計1000基以上を越え、方形・隅丸方形・長方形・隅丸  
長方形・円形・楕円形・不整形方形・不整形円形と千差万別である。出土遺物の様相からは、中世  
に穿たれた土坑が大半を占めると思われるが、須恵器高台付碗等の平安時代遺物も散見される。

12土坑は長軸を南北にもつ隅丸長方形の土坑で、掘り方の断面形は台形状であったと思われる。12土坑  
遺物

25土坑は柱穴を思わせる掘り方を有する円形土坑で、土層を見ると何回かの重複した掘り込  
みが見られる。出土遺物は砥石が1個体検出されている。

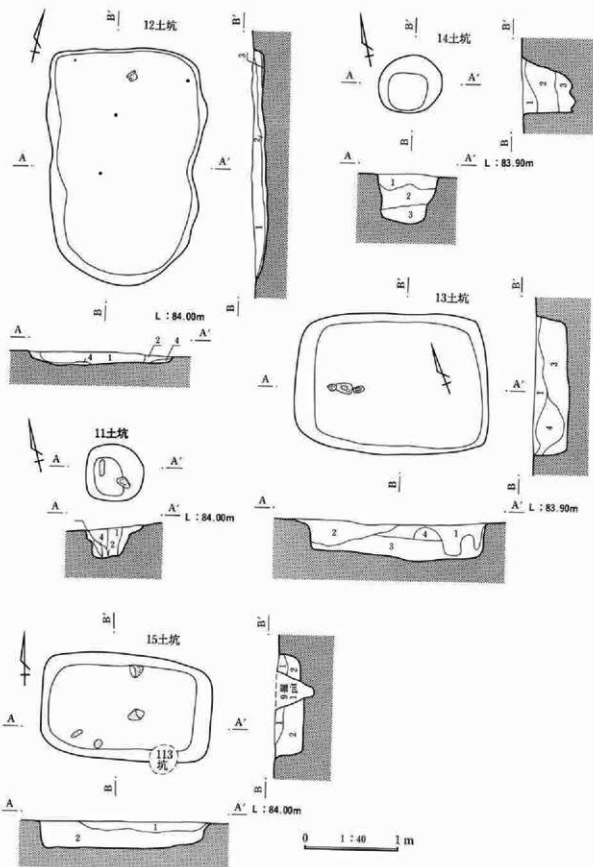
32土坑は長軸を南北にもつ長径70cm強の楕円形土坑である。大きさから見ると柱穴が妥当で  
あると考えられるが、出土遺物に宋銭が4枚検出されている。元豊通宝2枚と熙寧元宝2枚で  
ある。

137土坑は1.3mの長軸を南北にもつ隅丸長方形の土坑で、断面形は長方形の掘り方をもち、  
出土遺物はすり鉢・砥石・球形土製品・元豊通宝がある。

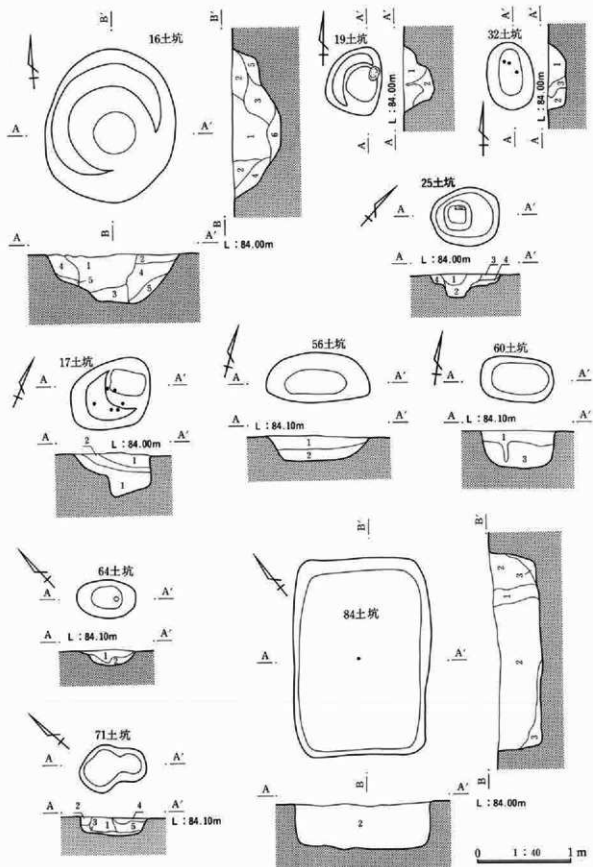


第475図 4 B区・02.04.08.09.10号土坑

IV 遺構と遺物

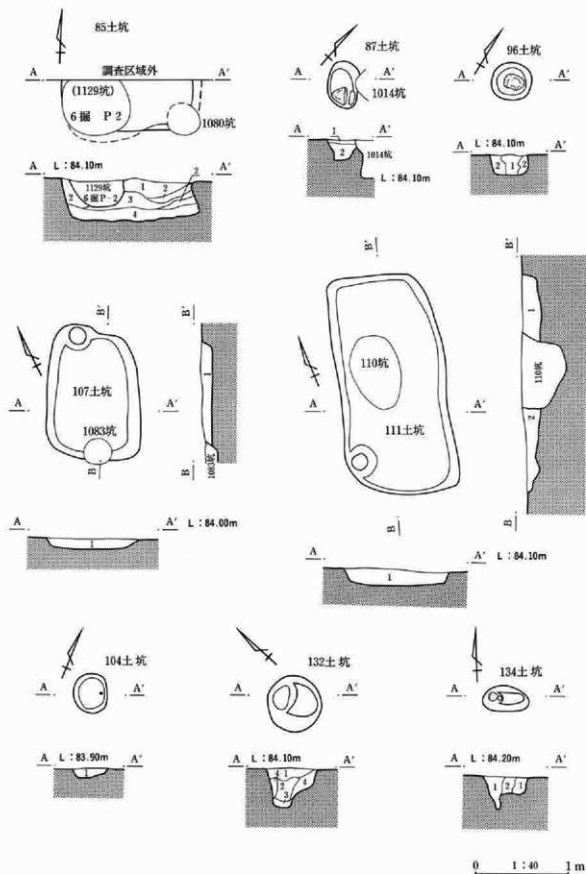


第476図 4 B区・11～15号土坑



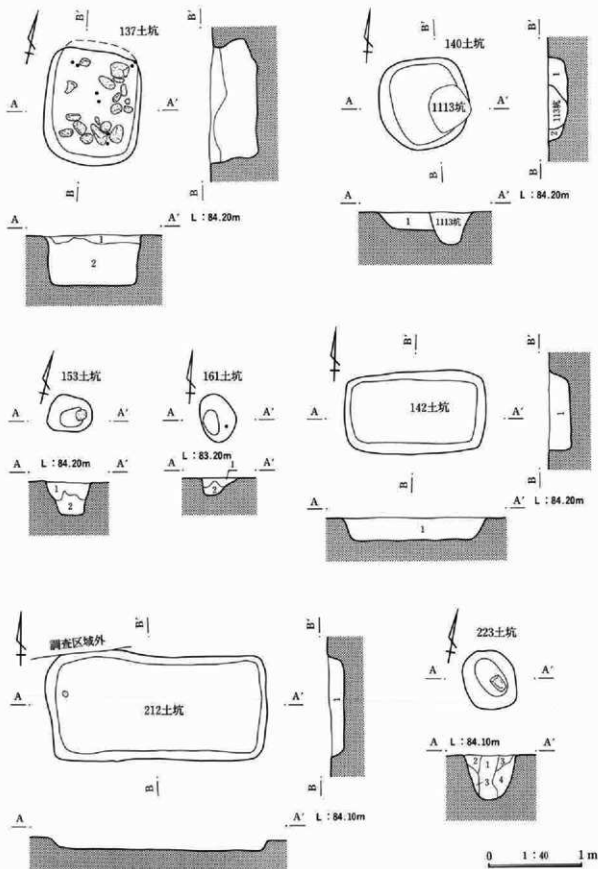
第477图 4B区·16.17.19.25.32.56.60.64.71.84号土坑

IV 遺構と遺物



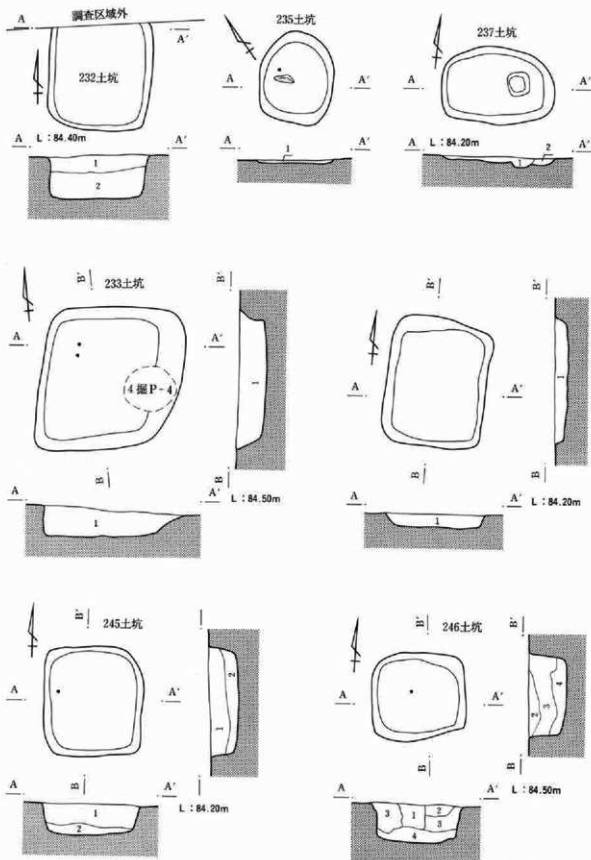
第478図 4 B区・85.87.96.104.107.111.132.134号土坑

2 藤原四反步地区(4B区)



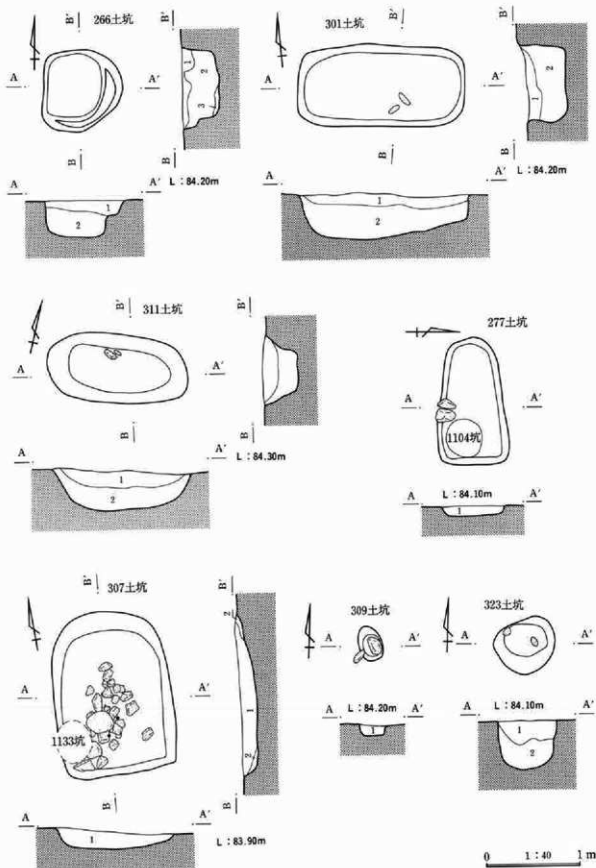
第479图 4B区・137.140.142.153.161.212.223号土坑

IV 遺構と遺物

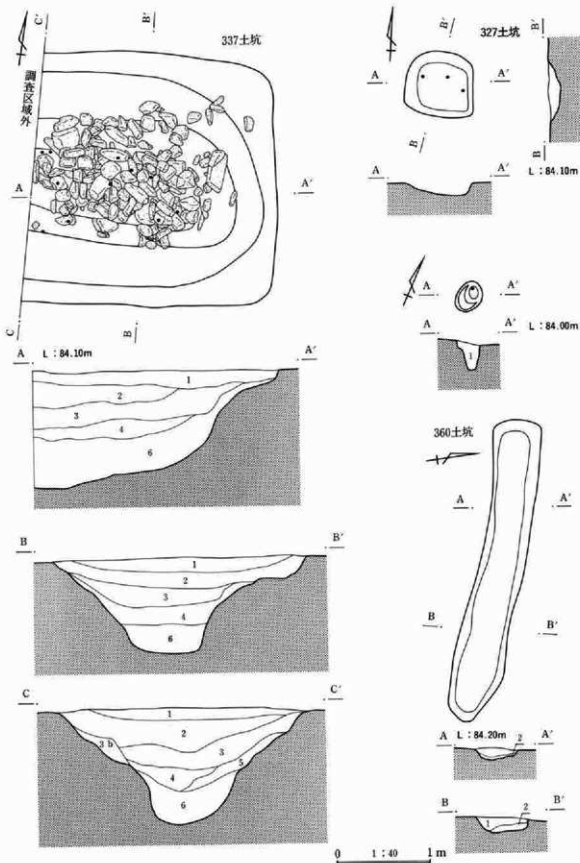


第480図 4B区・232, 233, 235, 237, 244, 245, 246号土坑

0 1 : 40 1 m

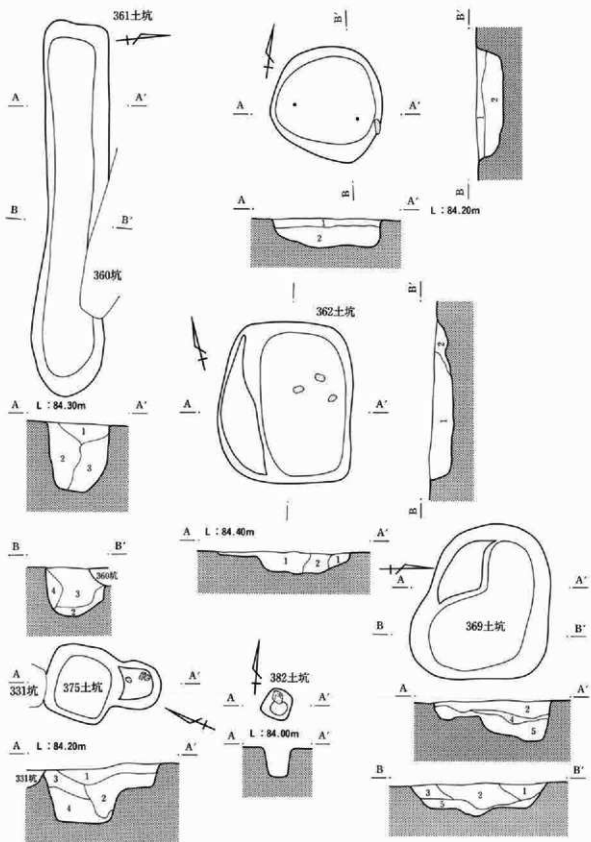


第481図 4B区・266.277.301.307.309.311.323号土坑



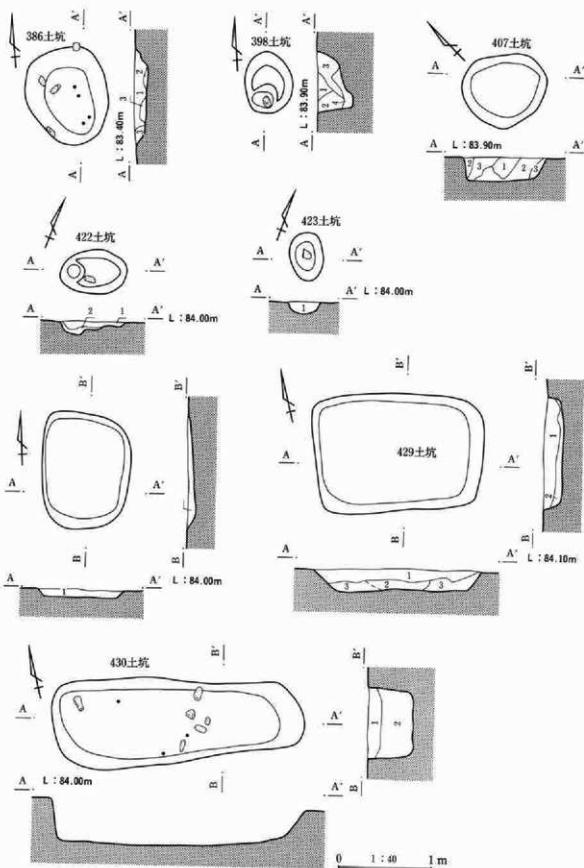
第482図 4 B区・327, 337, 352, 360号土坑



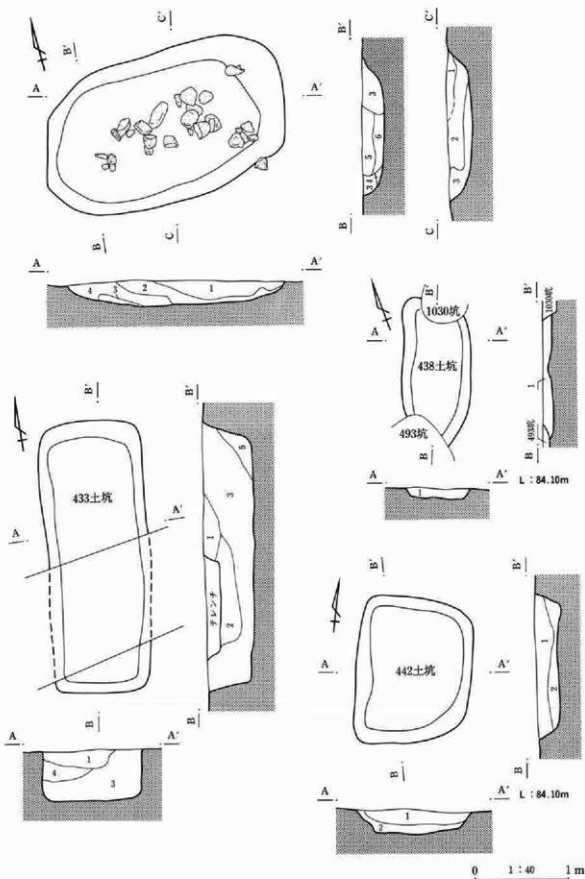


第483图 4B区・361.362.369.375.378.382号土坑

IV 遺構と遺物

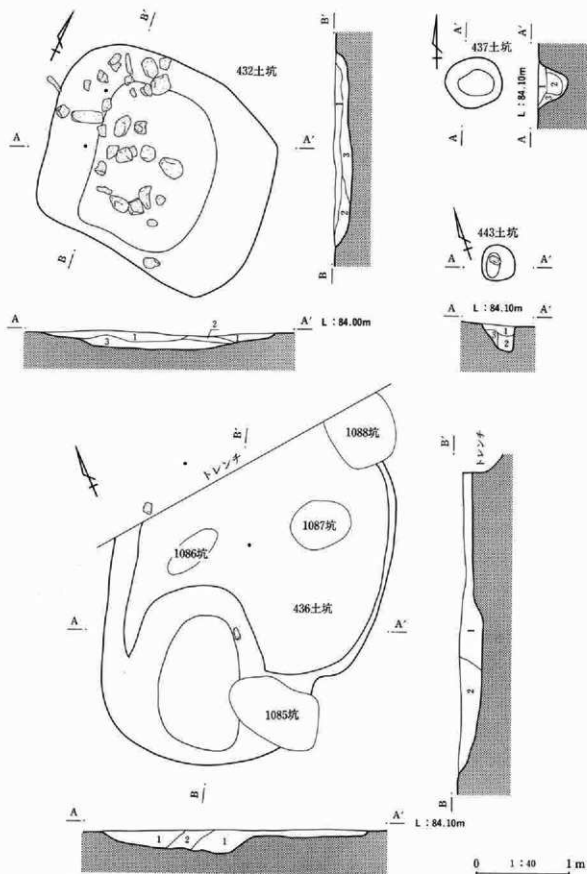


第484図 4 B区・386, 398, 407, 422, 423, 425, 429, 430号土坑



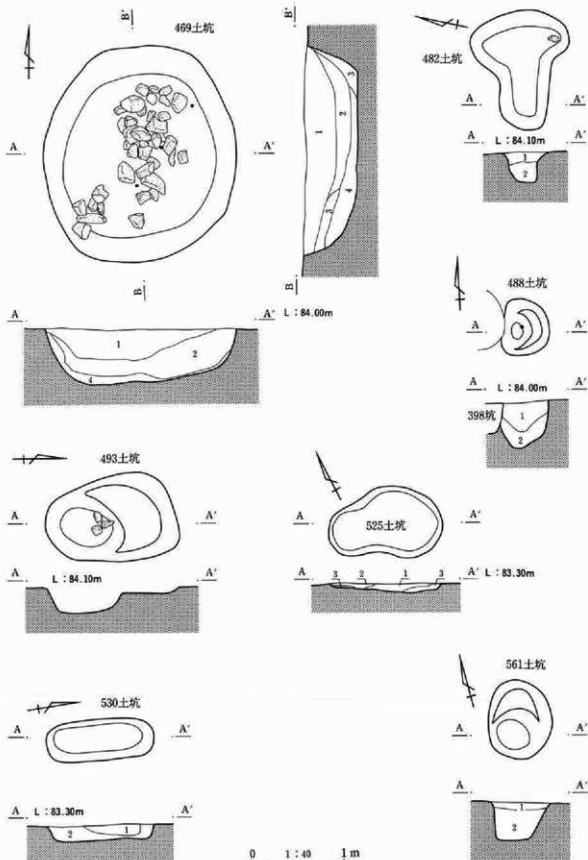
第485図 4B区・431, 433, 438, 442号土坑

IV 遺構と遺物



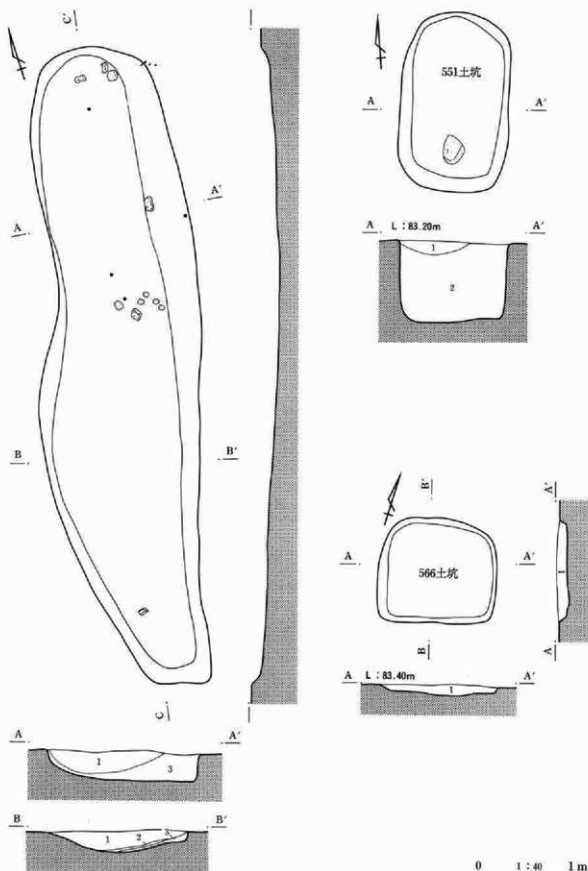
第486図 4B区・432.436.437.443号土坑

2 藤塚四反步地区(4B区)

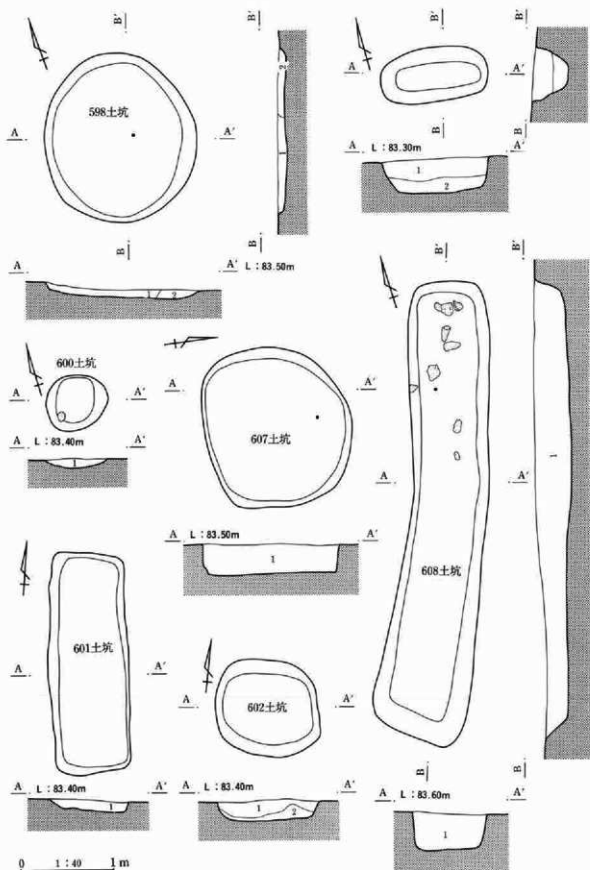


第487图 4B区・469.482.488.493.525.530.561号土坑

IV 遺構と遺物

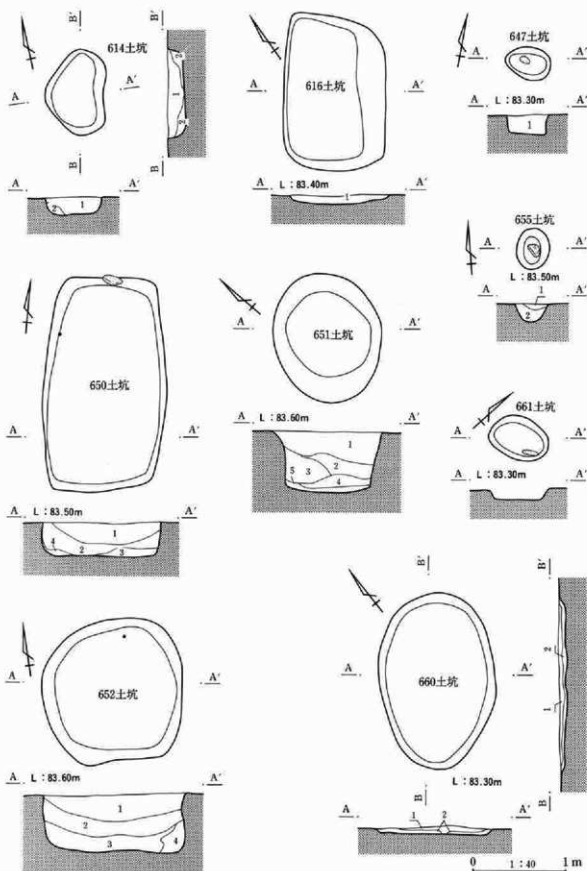


第488図 4B区・516.551.566号土坑



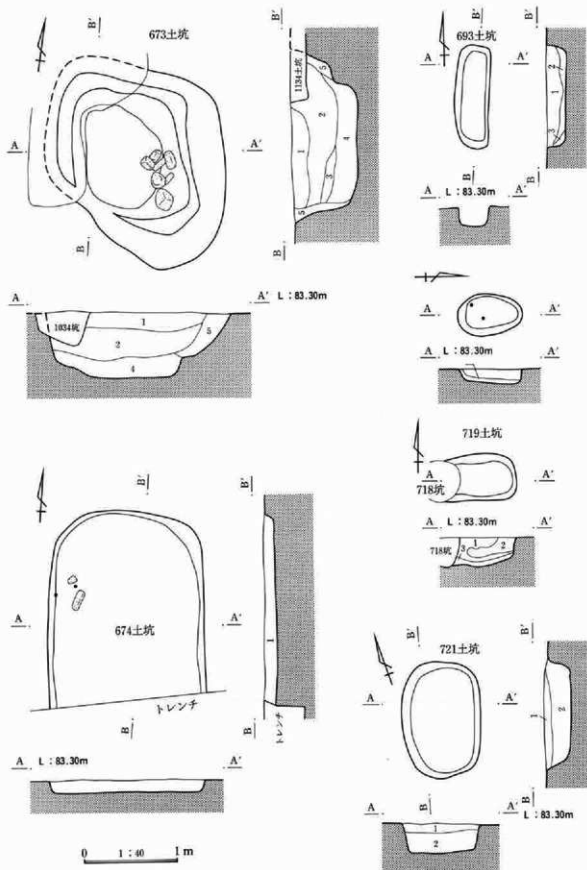
第489图 4B区·598.600.601.602.605.607.608号土坑

IV 遺構と遺物



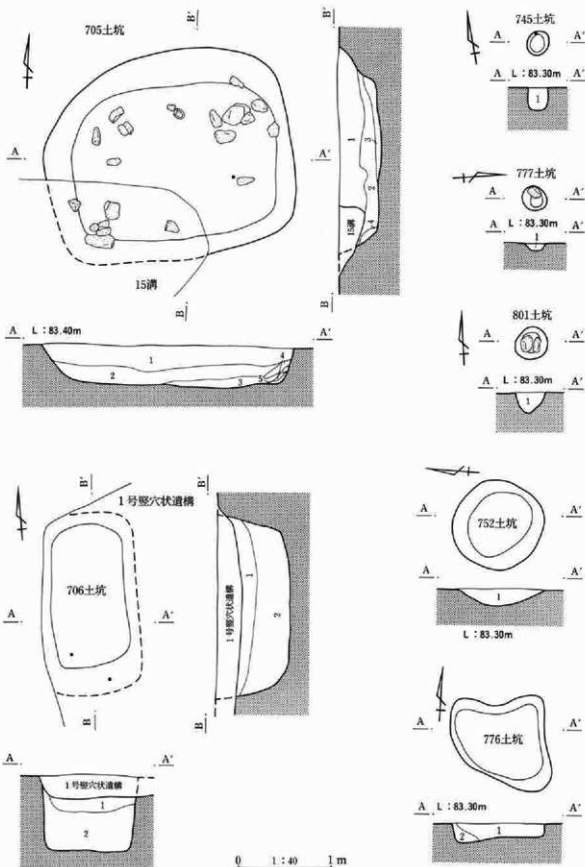
第490図 4 B区・614.616.647.650.651.652.655.660.661号土坑



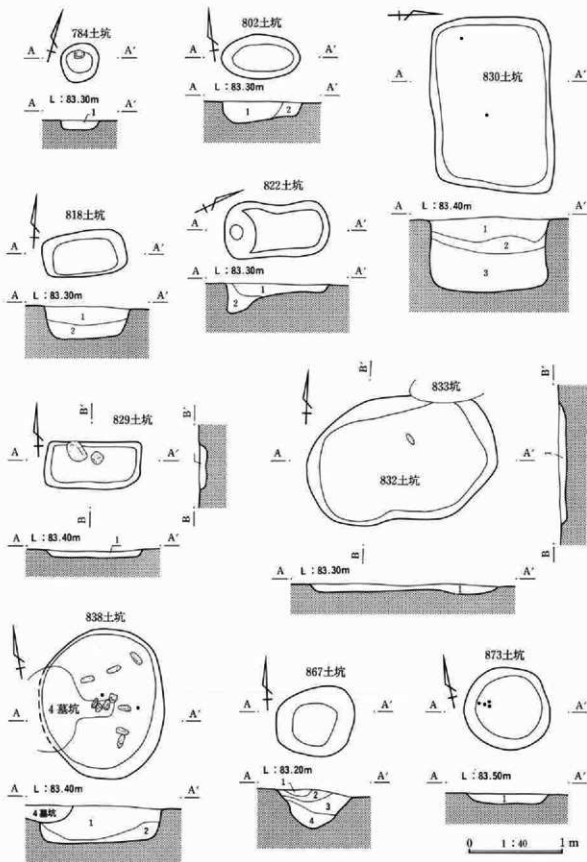


第491図 4B区・673.674.693.698.719.721号土坑

IV 遺構と遺物

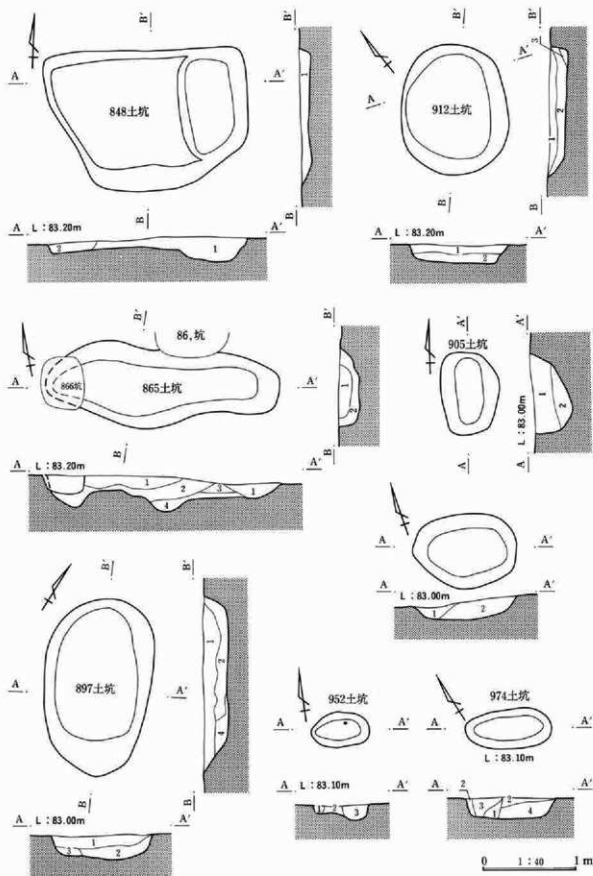


第492図 4B区・705.706.745.752.776.777.801号土坑

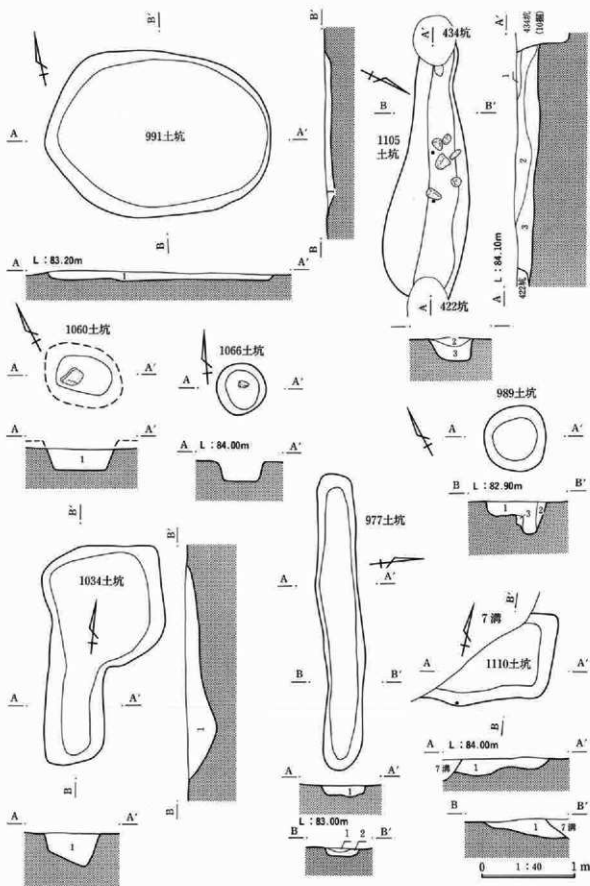


第493图 4B区・784.802.818.822.829.830.832.838.867.873号土坑

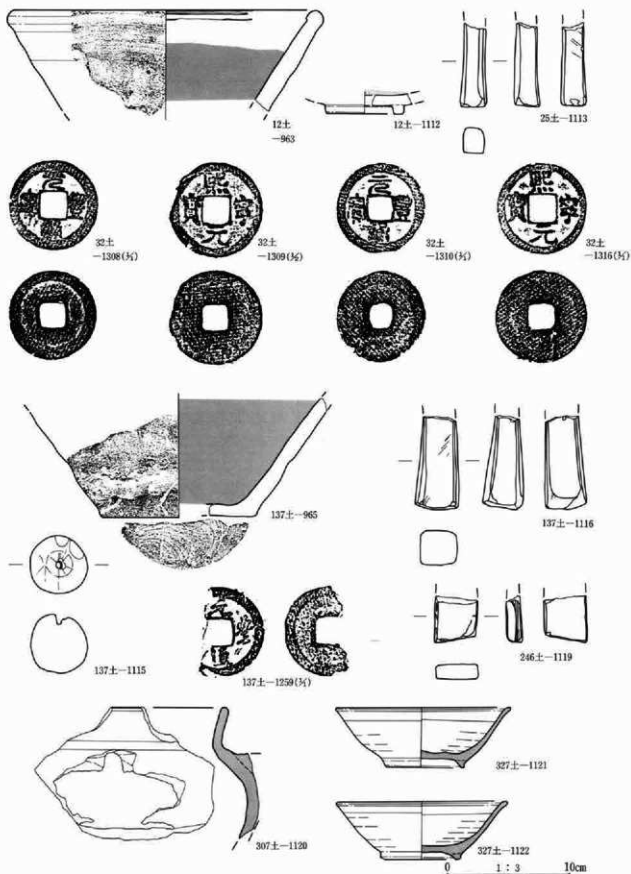
IV 遺構と遺物



第494図 4 B区・848, 865, 897, 905, 912, 926, 952, 974号土坑

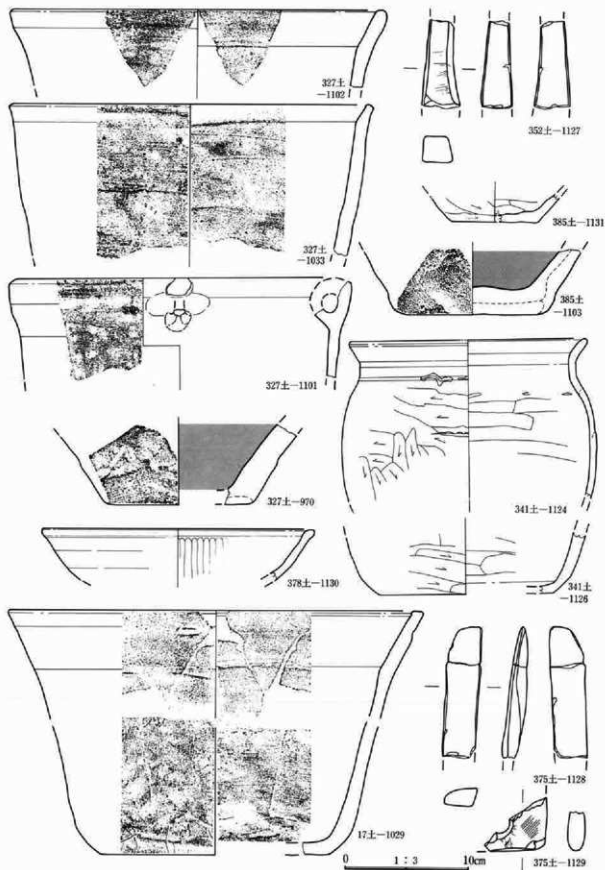


第495图 4B区・977.989.991.1034.1060.1066.1105.1110号土坑

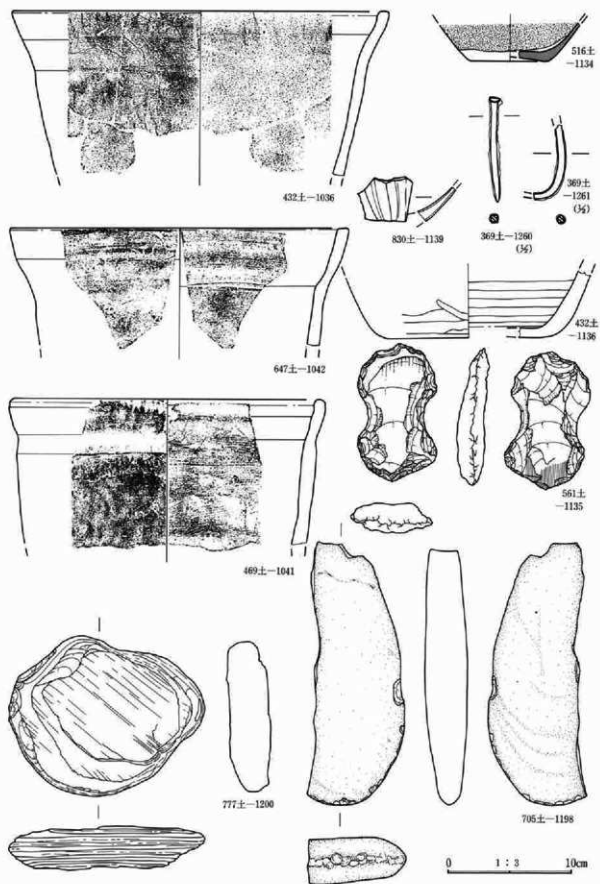


第496図 4B区・土坑出土遺物

2 豫塚四反步地区(4B区)

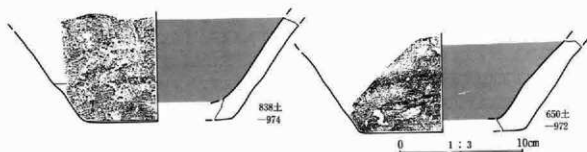


第497图 4B区・土坑出土遺物



第498図 4B区・土坑出土遺物





第499図 4B区・土坑出土遺物

327土坑は80cmの長軸を東西にもち、断面形は皿形で、出土遺物には須恵器高台付椀・土鍋状鉢・内耳鉢がある。 327土坑

337土坑はほぼ半分を調査区外に突出させ、長軸を東西に有する長方形土坑である。掘り方は上面が長方形で下面が楕円形の形状で、内部に河原石が投げ込まれている様相は7区の65土坑と類似している。 337土坑

469土坑は径2.4m程の円形土坑で、断面形は深い皿形を呈し、河原石と土鍋状の鉢が出土している。 469土坑

#### IV 遺構と遺物

##### 4 B区土坑土層説明

###### 2号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 小礫・少量の軽石含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) シルトロームを5%含む

###### 4・8号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) やや粘性のある砂質土
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 1層に類似、ローム塊含む
3. 黄褐色(2.5Y-5/3) シルトローム主体

###### 9・10号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 小礫・少量の軽石含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) シルトローム塊を5%含む
3. 黄褐色(2.5Y-5/4) シルトローム主体

###### 11号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 砂質土、軟質、シルトローム粒を少量含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 1層に類似、シルトローム塊を5%含む
3. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 1層に類似、シルト塊多量に含む
4. 暗オリーブ褐色(2.5Y-3/3) 砂質で脆い、小礫多量に含む
5. 黄褐色(2.5Y-5/4) シルトローム、やや粘性あり

###### 12号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/4) 小礫・シルトロームを5%含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 細砂・シルトローム含む
3. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 粘土塊を30%含む、粘性あり、固い
4. 黄褐色(2.5Y-5/6) シルト質、粘土塊含む

###### 13号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 粘土塊・砂利少量含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) シルト質、黄色粘土塊少量含む、やや粘性あり
3. 明黄褐色(2.5Y-6/8) 粘土塊主体、細砂・小礫含む、粘性あり、固い
4. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 粘土塊、細砂・小礫20%並に含む

###### 14号土坑

1. オリーブ色(5Y-5/4) シルト質、黄色粘土塊含む
2. オリーブ褐色(5Y-3/2) 細砂・小礫・黄色土塊含む
3. オリーブ色(5Y-5/4) 細砂・黄色土塊を3%含む

###### 15号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 小礫・黄色土塊少量含む
2. 黄褐色(2.5Y-5/4) シルト質、黄色土塊を20%含む

###### 16号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 小礫・黄色土塊含む、粘性あり、固い
2. 暗褐色(10YR-3/3) 小礫少量含む
3. 褐色(10YR-4/4) 黄色粘土塊含む、粘性あり
4. 黒褐色(10YR-2/2) 小礫少量含む、緻密で固い
5. 黒褐色(10YR-2/3) 小礫・細砂含む
6. 褐色(10YR-4/4) 黄色土塊を10%・小礫含む

###### 17号土坑

1. 暗オリーブ褐色(2.5Y-3/3) 細砂・小礫含む
2. 暗褐色(10YR-3/3) 小礫含む

###### 19号土坑

1. 黄褐色(2.5Y-5/4) やや細砂質
2. 明黄褐色(2.5Y-6/6) 黄色土塊を15%含む

###### 25号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 細砂
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 細砂、黄色粘土塊を5%含む
3. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 細砂、黄色粘土塊を2%含む
4. オリーブ色(5Y-5/6) 細砂・黄色粘土塊含む

###### 32号土坑

1. 黄褐色(2.5Y-5/6) 黄色シルト土塊を30%含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 黄色シルト土塊を10%含む
3. 明黄褐色(2.5Y-6/8) オリーブ褐色土塊を5%含む

###### 56号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 小礫・黄色土塊を5%含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 小礫・黄色土塊を10%含む

###### 60・64号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 小礫・黄色粘土粒を2%含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 黄色粘土塊含む
3. 黄褐色(2.5Y-5/4) 黄色粘土塊を50%含む

###### 71号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 黒褐色土・オリーブ褐色の凝土
2. 黒褐色(2.5Y-3/2) 小礫多量に含む
3. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 黄色土・オリーブ褐色土の凝土
4. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 小礫・黄色土塊を5%含む
5. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 小礫・黄色土塊を10%含む

###### 84号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 小礫・少量の炭・凝土粒を含む
2. 黒褐色(2.5Y-3/2) 小礫・粗砂・褐色粘土塊含む
3. 明黄褐色(2.5Y-6/8) 粘土塊含む、粘土あり、固い

## 85号土坑

1. にぶい黄褐色(10YR-4/3) 小礫・黄色土塊を10%含む
2. にぶい黄褐色(10YR-4/3) 小礫少量含む、均質
3. 黒褐色(10YR-2/3) 小礫・にぶい黄褐色土塊・黄色土塊少量含む、粘土あり、固い
4. 黄褐色(2.5Y-5/4) 黄色土塊・黄褐色土塊含む、固い

## 87号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 小礫・黄色粘土・褐色土・茶褐色土の混土
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 黄色粘土・黄褐色粘土塊を30%含む

## 96号土坑

1. 黄褐色(2.5Y-5/3) 黄色粘土塊を30%含む
2. 明黄褐色(2.5Y-6/8) 黄色粘土主体、黄褐色土・にぶい黄褐色土含む、粘性あり、固い

## 104号土坑

1. 暗オリーブ褐色(2.5Y-3/3) 小礫・黄色土粒含む

## 107号土坑

1. 暗オリーブ褐色(2.5Y-3/3) 小礫少量含む、黄色土塊を15%含む、粘性あり、固い

## 111号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 黄色粘土塊を50%含む、粘性あり、固い
2. 明黄褐色(2.5Y-6/8) 黄色粘土塊主体、オリーブ褐色土塊含む

## 132号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 小礫・黄色土塊を5%含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 1層に類似
3. 黄褐色(2.5Y-5/4) 黄色粘土塊を50%含む、粘性あり、固い
4. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 黄色粘土塊含む

## 134号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 黄色細粒・小礫・焼土粒少量含む
2. 黄褐色(2.5Y-5/3) 黄色粘土塊を50%含む、粘性あり、固い

## 137号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 棒状片岩礫・炭粒含む
2. 黄褐色(2.5Y-5/4) 黄色土・灰色土・茶色土塊含む、粘性あり、固い

## 140号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 小礫・黄色粘土塊を10%含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 黄色粘土塊を1層よりやや多く含む

## 142号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 黄褐色土塊を40%・微小礫少量含む

## 153号土坑

1. 暗オリーブ褐色(2.5Y-3/3) 微小礫少量含む
2. にぶい黄色(2.5Y-6/4) 暗オリーブ褐色土を25%微小礫少量含む

## 161号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) オリーブ黄色を10%含む、固い
2. 黒褐色(2.5Y-3/2) 1層に類似

## 212号土坑

1. 暗オリーブ褐色(2.5Y-3/3) 明黄褐色土塊を5%微小礫少量含む

## 223号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 礫・黄色土塊を20%含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 小礫少量含む
3. 明黄褐色(2.5Y-6/8) オリーブ褐色・小礫少量含む、粘性あり、固い
4. 明黄褐色(2.5Y-6/8) オリーブ褐色・小礫少量含む

## 232号土坑

1. にぶい黄褐色(10YR-4/3) 明黄褐色土塊を10%含む、固い
2. にぶい黄褐色(10YR-4/3) 明黄褐色土塊を25%含む

## 233号土坑

1. 暗オリーブ褐色(5Y-4/4) 細砂・黄色土塊を20%含む

## 235号土坑

1. 黄褐色(2.5Y-5/4) 軟質

## 237号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 微小礫・黄褐色土塊少量含む
2. オリーブ黄色(5Y-6/4) 黄褐色土を斑状に10%含む、固い

## 244号土坑

1. 暗オリーブ褐色(2.5Y-3/3) 黄褐色土塊を15%・小礫含む、粘性あり、固い

## 245号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 黄色土塊を20%・小礫含む、粘性あり、固い
2. 黄褐色(2.5Y-5/6) 黄色土塊・黄褐色土塊の混土、オリーブ褐色土含む、粘性あり

## 246号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 小礫・黄色土塊少量含む
2. 黄褐色(2.5Y-5/4) 黄色土塊を5%含む、粘性あり、固い
3. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 黄色土塊・黄褐色土塊を20%含む、粘性あり、固い
4. 黄褐色(2.5Y-5/4) 黄色土・黄褐色土塊の混土、オリーブ褐色土含む、粘性あり、固い

#### IV 遺構と遺物

##### 266号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 小礫・黄色土塊含む
2. 明黄褐色(2.5Y-6/6) 黄色粘土塊・オリーブ褐色土塊含む。粘性あり。固い
3. 明黄褐色(2.5Y-6/8) 粘土主体。オリーブ褐色少量含む

##### 277号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 黄色土塊を5%・小礫含む

##### 301号土坑

1. 黄褐色(2.5Y-5/6) 細砂・黄色・黄褐色粘土塊の混土
2. 黄褐色(2.5Y-5/6) 黄色・黄褐色粘土塊・オリーブ褐色土塊の混土。粘性あり。固い

##### 307号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 小礫・黄色土塊少量含む。粘性あり
2. 暗オリーブ褐色(5Y-4/4) 細砂・黄色土塊含む

##### 309号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 小礫含む

##### 311号土坑

1. 黒褐色(2.5Y-3/2) 砂礫・白色軽石含む
2. 黒褐色(2.5Y-3/2) 砂礫・黄色シルト塊を5%含む

##### 323号土坑

1. 黄褐色(2.5Y-5/6) 黄色シルト土塊を20%・細砂含む
2. 黄褐色(2.5Y-5/6) 黄色シルト土塊を30%含む

##### 324号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/4) 砂粒・小礫・黄色土塊少量含むやや粘性あり。固い

##### 327号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 小礫・炭化物・黄色土塊・土器片含む

##### 337号土坑

1. 黒褐色(2.5Y-3/2) 白色軽石含む
2. 暗オリーブ褐色(2.5Y-3/3) 砂粒・黄色粘土塊を3%含む。粘性あり。固い
3. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 明黄褐色土・褐色土含む。大量量に含む
4. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 黄色土塊を10%含む
5. 褐色(10YR-4/4) 礫多量に含む。粘性あり
6. 黄褐色(2.5Y-5/3) シルト質土。黄色土塊少量含む。粘性あり
7. 明黄褐色(2.5Y-6/6) シルト質土。礫多量に含む。茶色土・灰黄色粘性土含む

##### 352号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 細砂・シルト質土の混土。小礫少量含む

##### 360号土坑

1. 暗オリーブ褐色(2.5Y-3/3) 小礫・細砂の混土。黄色土塊少量含む
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) オリーブ砂塊・小礫含む

##### 361号土坑

1. 黒褐色(2.5Y-3/2) 小礫・黄色土塊を10%含む
2. 黒褐色(2.5Y-3/2) 小礫・黄色土塊を3%含む
3. 黒褐色(2.5Y-3/2) オリーブ細砂・褐色砂質土の混土
4. 黒褐色(2.5Y-3/2) 小礫・黄色土塊を15%含む

##### 362号土坑

1. 黒褐色(2.5Y-3/2) 小礫含む。均質
2. 黄褐色(2.5Y-5/4) 細砂・黄色土塊の混土

##### 369号土坑

1. 明黄褐色(2.5Y-6/6) 黄色シルト塊を10%・細砂含む
2. 黄褐色(2.5Y-5/4) オリーブ細砂・黄色シルト塊を15%含む
3. 黒褐色(2.5Y-3/2) オリーブ細砂・褐色砂質土の混土
4. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 細砂・粗砂に黄色土塊少量含む
5. オリーブ色(5Y-5/4) 黄色シルト塊を10%含む。細砂層

##### 375号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/4) 砂礫・粘土粒・黄色土塊少量含む
2. 暗褐色(10YR-3/4) 砂礫多量に含む。黄色土塊少量含む
3. 黄褐色(2.5Y-5/4) 黄色シルト土塊を20%・細砂含む
4. 黄褐色(2.5Y-5/4) 黄色シルト土塊を30%含む

##### 378号土坑

1. 褐色(10YR-4/4) 小礫・黄色土粒少量含む。焼土・炭粒3%含む
2. 黄褐色(2.5Y-5/6) 小礫・黄色土・黄褐色土塊を30%含む

##### 386号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) 焼土・炭粒少量含む。白色軽石含む
2. 暗褐色(10YR-3/3) 焼土・炭粒多量に含む
3. 褐色(10YR-4/6) 均質。粘性あり

##### 388号土坑

1. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 細砂・黄色シルト塊を5%含む
2. オリーブ色(5Y-5/4) 微砂主体。シルト質土・細砂少量含む。固い
3. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 細砂・黄色シルト塊を10%含む
4. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 黄色土塊主体。シルト質土含む

## 407号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 黒褐色土塊・黄色土塊の混土
2. オリーブ色(5Y-5/4) 黒色土・黄色微砂塊の混土・小礫少量含む
3. 明黄褐色(2.5Y-6/8) シルト質粘土。黄色シルト塊含む

## 422号土坑

1. オリーブ色(5Y-5/4) 細砂・黄色シルト土塊の混土。小礫少量含む
2. オリーブ色(5Y-5/6) 黄色シルト塊に細砂含む

## 423号土坑

1. オリーブ色(5Y-5/4) 細砂・黄色シルト土塊の混土。小礫多量に含む

## 425号土坑

1. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 小礫・黄色粒少量含む。砂質土。固い

## 429号土坑

1. 暗オリーブ色(5Y-4/3) 黄色シルトを5%・小礫多量に含む。固い
2. 暗オリーブ色(5Y-4/3) 小礫・黄色シルト土塊・細砂の混土
3. オリーブ色(5Y-5/6) シルト主体。暗オリーブ土塊・細砂塊含む

## 430号土坑

1. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 黄色シルト土塊を3%含む。シルト質土
2. 黄褐色(2.5Y-5/6) 黄色シルト塊を10%含む。シルト質土。粘土あり

## 431号土坑

1. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 砂礫・大礫含む。固い
2. オリーブ色(5Y-5/4) 細砂・黄色細粒の混土。小礫少量含む
3. 黄褐色(2.5Y-5/6) 黄色シルト土塊主体。暗オリーブ細砂塊含む
4. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 細砂に黄色シルト土塊少量含む
5. オリーブ色(5Y-5/6) 小礫・黄色シルト土塊を30%含む
6. 暗オリーブ色(5Y-4/3) 小礫・黄色シルト土塊5%含む

## 432号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 黄色土塊を3%・砂礫多量に含む。固い
2. オリーブ褐色(2.5Y-4/4) 砂礫少量含む
3. 黄褐色(2.5Y-5/6) シルト質土に細砂塊を10%・小礫少量含む

## 433号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 砂礫含む。固い
2. 明黄褐色(2.5Y-6/6) 黄色シルト質土塊主体。細砂塊を5%含む
3. 暗オリーブ褐色(2.5Y-3/3) 黄色シルト土塊を10%・細砂・小礫含む
4. 黄褐色(2.5Y-5/6) 黄色シルト土塊・細砂・小礫を5~10%含む
5. 黒褐色(2.5Y-3/1) 細砂塊・黒褐色土・土塊の混土・黄色シルト塊少量含む

## 436号土坑

1. 暗オリーブ褐色(2.5Y-3/3) 黄色シルト塊を5%・砂礫含む
2. 暗オリーブ褐色(2.5Y-3/3) 砂礫主体。黒色土・黄色土塊少量含む

## 437号土坑

1. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 小礫・少量の砂質黄色土塊含む
2. オリーブ色(5Y-3/1) 小礫・オリーブ細砂塊含む
3. オリーブ色(5Y-5/4) オリーブ細砂・黄色シルト塊の混土

## 438号土坑

1. オリーブ色(5Y-5/4) 小礫・黄色シルト塊を3%含む

## 442号土坑

1. オリーブ色(5Y-5/4) 砂質土。小礫・黄色シルト塊を3%含む
2. オリーブ色(5Y-5/4) 砂質土。小礫・黄色シルト塊を1%含む

## 443号土坑

1. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 小礫・少量の砂質黄色土塊含む
2. オリーブ色(5Y-5/4) オリーブ細砂・黄色シルト塊の混土
3. オリーブ色(5Y-6/4) 黄色土塊主体。オリーブ細砂含む

## 469号土坑

1. オリーブ色(5Y-3/2) 砂礫・大礫・少量の黄色シルト土塊含む
2. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 小礫・大礫・黄色シルト塊含む
3. オリーブ色(5Y-5/4) 黄色シルト・粘性土塊・オリーブ細砂塊の混土
4. オリーブ色(5Y-5/6) シルト塊・小塊少量含む。粘性あり

## 482号土坑

1. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 小礫・細砂・黄色シルト塊を2%含む
2. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 黄色シルト塊を10%・小礫少量含む

#### IV 遺構と遺物

##### 488号土坑

1. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 細砂・黄色シルト塊を10%含む
2. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 黄色土塊主体、シルト質土含む

##### 516号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/4) 小砂利・礫含む、固い
2. 暗褐色(10YR-3/4) 焼土塊・炭粒・黄色土塊含む、粘性あり、やや固い
3. 黒色(10YR-2/1) 砂利含む

##### 525号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) As-B混土、褐色土塊少量含む
2. によい黄褐色(10YR-5/4) シルト質
3. 黒褐色(10YR-3/2) As-B混土、褐色土塊・焼土粒少量含む

##### 530号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/4) 黄色粘性土塊を15%含む、粘性あり、固い
2. 暗褐色(10YR-3/4) 黄色粘性土塊少量含む

##### 532号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) As-B混土、褐色土塊少量含む
2. 暗褐色(10YR-3/4) 黄褐色土塊を5%・As-B土塊を2%含む、粘性あり
3. 暗褐色(10YR-3/4) 黄褐色土塊含む、粘性土

##### 551号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/2) As-B・少量の小砂利・黒色土塊含む
2. 暗褐色(10YR-3/3) 砂礫・黄色粘性土塊を15%含む

##### 561号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/2) As-B混土
2. 黒褐色(10YR-2/2) 褐色土塊にAs-B塊含む

##### 566号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) As-B混土、小礫少量含む

##### 588号土坑

1. 褐色(10YR-4/4) As-B土塊・灰黄色土塊・褐色土の混土、鉄分沈着あり
2. によい黄褐色(10YR-4/2) 灰黄褐色土にAs-B塊含む、鉄分沈着あり

##### 606号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) 砂礫・As-B含む、固い

##### 601号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/3) As-B少量含む

##### 602号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/4) 砂礫・As-B含む、固い
2. 黒褐色(10YR-3/2) 砂礫・黒色土塊を5%含む、固い

##### 603号土坑

1. 黒色(10YR-2/1) 砂礫・As-B混土
2. 黒褐色(10YR-3/2) 砂礫・As-B少量含む

##### 607・608号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/2) 砂礫・As-B混土、やや粘性あり

##### 614・616号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/2) As-B多量に含む、褐色土塊を5%含む
2. 暗褐色(10YR-3/3) As-B・小礫・褐色土塊を5%含む

##### 647号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/3) As-B・砂礫・黄褐色土塊の混土、固い

##### 650号土坑

1. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 小礫含む、砂質土
2. オリーブ色(5Y-5/6) 小礫・細砂礫・暗褐色土を含む
3. オリーブ色(5Y-5/6) 小礫・細砂礫含む、砂質土
4. オリーブ色(5Y-6/8) 細砂層

##### 651号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) As-B・砂礫・黒色粘土塊を3%含む
2. 黒褐色(10YR-2/3) As-B・砂礫・黒色粘土塊・暗褐色土塊を5%含む
3. 黒褐色(10YR-2/3) As-B・砂礫・黒色粘土塊を10%含む
4. 黒褐色(10YR-3/1) 小礫・暗褐色土塊を3%含む、粘性あり、固い
5. 灰黄褐色土(10YR-6/2) 黄褐色土小塊主体褐色土小塊含む

##### 652号土坑

1. 黒褐色(10YR-3/2) As-B・小礫含む
2. 黒褐色(10YR-3/2) As-B・小礫・黄褐色土塊含む
3. 黒褐色(10YR-3/2) 砂礫・黄褐色土塊含む、固い
4. によい黄褐色(10YR-5/3) シルト質土塊・暗褐色土・As-B混土の混土

##### 655号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/2) As-B混土
2. 黒褐色(10YR-2/2) As-B混土、褐色土塊含む

##### 660号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/2) As-B多量に含む
2. 暗褐色(10YR-3/3) As-B含む、暗褐色土塊多量に含む

## 673号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/6) 砂・小礫・少量の黄色細砂土塊含む
2. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 砂・小礫・黄色細砂土塊を10%含む
3. 暗オリーブ色(5Y-4/4) 砂・小礫・黄色細砂土塊を20%含む
4. 暗オリーブ色(5Y-4/3) 砂・小礫・黄色細砂土塊含む
5. オリーブ色(5Y-5/6) 砂・小礫・黄色シルト・細砂塊の混土

## 674号土坑

1. 黄褐色(2.5Y-5/6) 小礫含む。砂質土

## 693号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/2) As-B多量に含む
2. 黒褐色(10YR-2/2) As-B多量に含む。褐色土塊を5~10%含む
3. 暗褐色(10YR-4/4) As-B・褐色土塊含む

## 698号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/2) As-B多量に含む
2. 暗褐色(10YR-3/4) As-B・褐色土塊含む

## 701号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/4) As-B・黄褐色シルト塊を15%含む

## 705号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) As-B多量に含む。褐色土塊を3%含む
2. 暗褐色(10YR-3/3) As-B多量に含む。褐色土塊含む
3. におい黄褐色(10YR-5/4) As-B含む。黄褐色土多量に含む
4. におい黄褐色(10YR-4/3) As-B多量に含む。黄褐色土塊少量含む
5. 明黄褐色(10YR-5/8) シルト質土塊・灰色土含む

## 706号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/3) As-B・小礫・黄色土塊を3%含む
2. 暗褐色(10YR-3/3) 黄色土塊・褐色土塊を10%・小礫含む。粘性あり

## 719号土坑

1. 褐色(10YR-4/3) 黄褐色土塊主体。As-B塊少量含む
2. 暗褐色(10YR-3/3) As-B混土。黄褐色土塊を10%含む
3. 暗褐色(10YR-3/3) 砂層

## 721号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) As-B多量に含む。黄褐色土粒少量含む
2. 暗褐色(10YR-3/3) As-B多量に含む。黄褐色土塊を5%含む

## 745・752号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/3) As-B混土。小礫含む

## 776号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/2) As-B混土。黄褐色土塊を5%含む
2. 黒褐色(10YR-2/2) As-B混土。黄褐色土塊を10%含む

## 777号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/2) As-B混土。小礫少量含む

## 784号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/2) As-B混土。黄褐色土塊を5%含む

## 801号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/3) As-B混土。黄褐色土・灰褐色土塊を10%含む

## 802号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/3) As-B混土。黄褐色・灰褐色土塊を3%含む
2. 暗褐色(10YR-3/4) As-B混土。褐色土塊主体。粘性あり

## 818号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/3) As-B混土。小礫・褐色土塊少量含む
2. 暗褐色(10YR-3/4) As-B塊を10%含む。褐色土混土。粘性あり

## 822号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/3) As-B混土。褐色土・黄褐色土塊を5%含む
2. 黒褐色(10YR-2/3) As-B混土。褐色土・黄褐色土塊を10%含む

## 829号土坑

1. におい黄褐色(10YR-4/3) 礫・小礫・As-B混土。固い

## 830号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) As-B混土。小礫・黄褐色土粒を2%含む
2. 褐色(10YR-4/4) As-B混土。褐色土・黄褐色土塊多量に含む
3. 黒褐色(10YR-2/3) As-B混土。小礫・褐色土・黄褐色土塊を5%含む

## 832号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/3) As-B混土

## 838号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/3) 小礫少量に含む
2. 黒褐色(10YR-2/2) 1層よりやや厚くない。粘性あり

## 848号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/3) As-B混土。黄褐色・褐色土塊を5%含む
2. 暗褐色(10YR-3/3) As-B含む。褐色土塊を30%含む。粘性あり

#### IV 遺構と遺物

##### 865号土坑

1. 黒褐色(10YR-2/3) As-B混土、黄褐色・褐色土塊を5%含む
2. 黒褐色(10YR-2/3) As-B混土、褐色土塊を10%含む
3. 暗褐色(10YR-3/3) As-B含む、褐色土塊を30%含む、粘性あり
4. 褐色(10YR-4/4) 黄褐色土塊少量含む、粘性あり

##### 867号土坑

1. 暗褐色(10YR-3/3) As-B含む、褐色土塊を30%含む、粘性あり
2. 黒褐色(10YR-3/3) As-B混土、黄褐色土塊含む
3. 褐色(10YR-4/4) 黄褐色土塊少量含む、粘性あり

##### 873号土坑

1. 暗褐色(10YR-5/4) As-B多量に含み、小礫含む均質

##### 897・912号土坑

1. オリーブ色味帯びた砂・白色粒含む
2. 砂利を主体とし、褐色土が塊状に含む
3. 2層に類似、砂利を多量に含む
4. 2層に類似、褐色土を多量に含む

##### 905号土坑

1. 砂粒主体、礫を多量に含む
2. 灰黄褐色シルト、細砂互層に含む

##### 926号土坑

1. 褐色土・白色粒含む
2. 灰黄褐色土・砂礫・斑鉄含む

##### 952号土坑

1. 褐色土・白色粒含む
2. 灰褐色粘性土・砂粒を塊状に含む
3. いろいろな混土、褐色土・淡色系粘性土・砂質土含む、粘性あり

##### 974号土坑

1. いろいろな混土、褐色土・淡色系粘性土・砂質土含む、粘性あり
2. オリーブ粘土の混入が少ない
3. 褐色土・白色粒含む
4. 灰黄褐色土・砂粒含む

##### 977号土坑

1. 褐色土・白色粒含む
2. 灰黄褐色土・砂礫・斑鉄含む

##### 989号土坑

1. 褐色土・白色粒含む
2. 灰黄褐色土・砂粒含む
3. いろいろな混土、褐色土・淡色系粘性土・砂質土含む、粘性あり

##### 961号土坑

1. 淡緑灰褐色粘性土、鉄分含む、粒子は細かい

##### 1034号土坑

1. オリーブ褐色(2.5Y-4/3) 砂礫含む

##### 1060号土坑

1. 濃い黄褐色(10YR-5/4) シルト質、鉄分沈着あり

##### 1105号土坑

1. 暗オリーブ色(5Y-4/3) 細砂・小礫・黄色シルト土塊の混土
2. オリーブ色(5Y-5/4) 細砂・黄色シルト土塊の混土、小礫少量含む
3. オリーブ色(5Y-5/6) 黄色シルト土塊・細砂含む

##### 1119号土坑

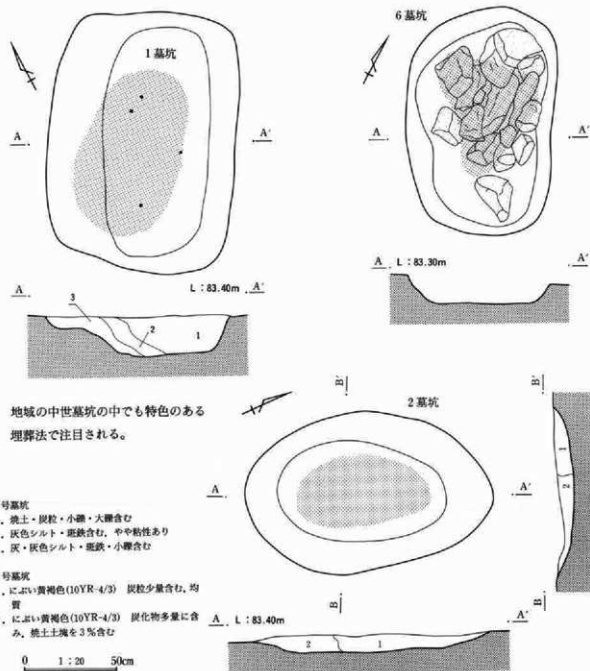
1. オリーブ色(5Y-5/4) 砂質土、小礫含む



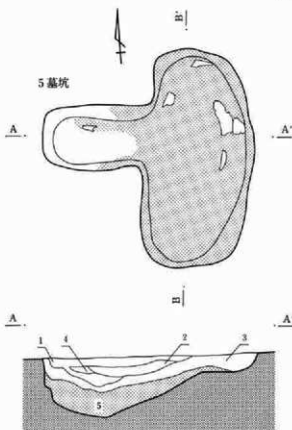
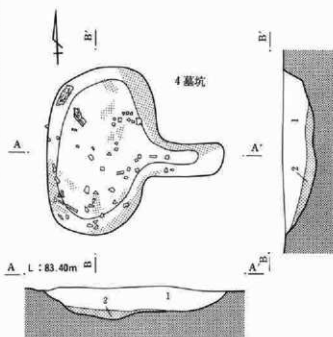
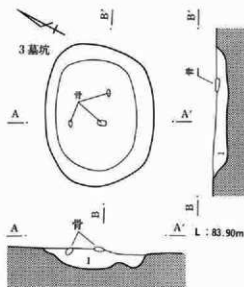
## (9) 墓 坑 (採図番号500~502 写真番号 PL53)

4B区の墓坑についても4AⅠ区と同様に、壁部の焼けと骨の存在から墓坑と認定したが、土坑として掲載したものの中でも、隅丸長方形や円形土坑で長軸・径が1.5mから2m弱の土坑は墓坑としてもいいようなものが多数存在している。

4B区の墓坑で特徴的なものは、04・05墓坑があげられる。両墓坑とも楕円形の平面形態の04・05墓坑側面に煙道がつく様相を示している。この形態の墓坑は上栗須寺前遺跡3区でも検出されており、火葬の痕跡が明瞭である。側面の突出部は煙道の役割を果たしているものと思われ、この火葬



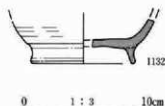
# IV 遺構と遺物



0 1:20 50cm

第501図 4B区・03.04.05号基坑

- 3号基坑  
1. 黄褐色(2.5Y-5/3) 軽石多量に含む、粗砂層
- 4号基坑  
1. 黒褐色(10YR-2/2) As-Bを多量に含む、小礫・炭・骨片・焼土粒少量含む  
2. 黒褐色(10YR-2/2) 炭化物多量に含む、焼土塊・骨片含む
- 5号基坑  
1. 黒褐色(10YR-2/2) As-B・黄褐色土塊・砂礫含む  
2. 褐色(10YR-4/6) 黄褐色土塊多量に含む、As-B土塊少量含む  
3. 褐色(10YR-4/4) 黄褐色土塊多量に含む、As-B土塊・炭化物含む  
4. 灰色(7.5Y-6/1) 灰層  
5. 灰色(7.5Y-6/1) 灰・焼土層

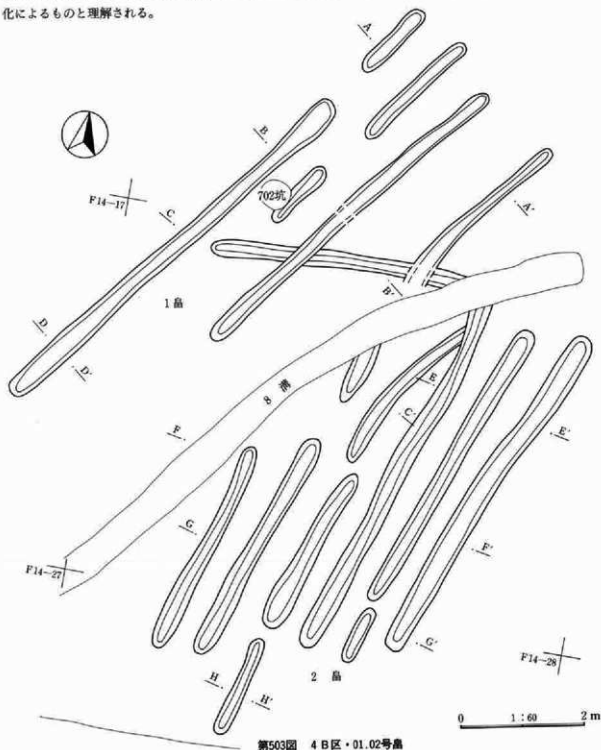


第502図 4B区・01号基坑出土遺物

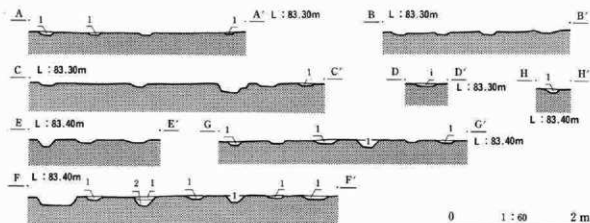
## (10) 畠状遺構

## 01・02号畠 (挿図番号503)

01畠と02畠は08溝によって切られているために呼称を違えたが、一連の畠として一括できるものである。該畠は4B区のほぼ中央に位置し、F14・18グリッドに属する。遺構はさくと思  
 われる小溝が南西から北東に走り、01畠と02畠では若干方向を異にするがそれは地形の微小変  
 化によるものと理解される。



# IV 遺構と遺物



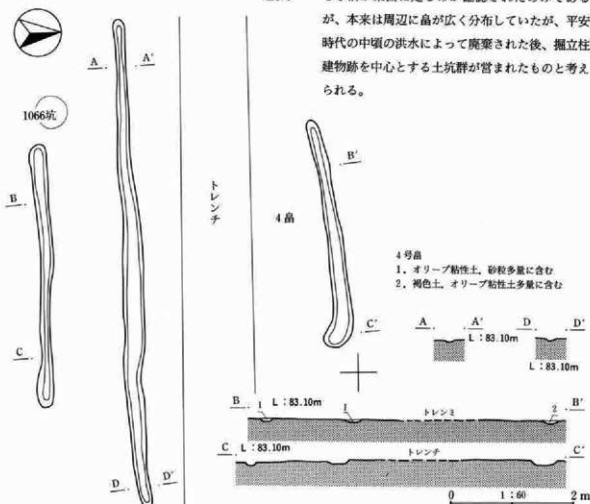
1・2号品

1. 淡黄灰褐色ないしオリーブ色の粘性土。洪水砂
2. やや暗い褐色土。白色粒・炭化物少量含む

04号遺 (挿図番号505)

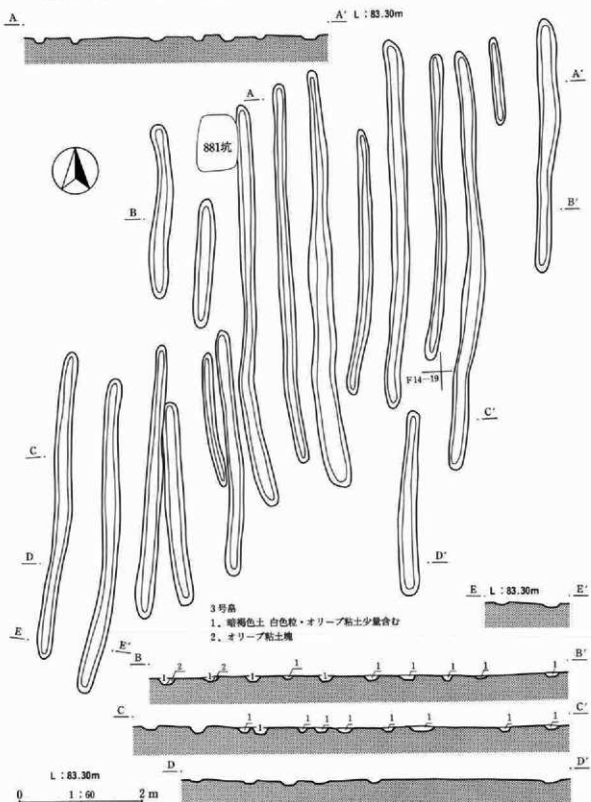
**位置** 本遺は4B区の北辺に位置し、F13・59, G13・50グリッドに属する。遺構は3本のきくと思われる小溝が東西に走るのが確認されたのみであるが、本来は周辺に遺構が広く分布していたが、平安時代の中頃の洪水によって廃棄された後、掘立柱建物跡を中心とする土坑群が営まれたものと考えられる。

**走方向**



## 03号畠 (拝図番号506)

03畠はF14・18グリッドに位置し、01、02畠とともに一連の畠地景観を構成している。畠の位置  
 さくの走方向は南北で、4B区の畠地遺構としては最大のまとまりをもつ。走方向



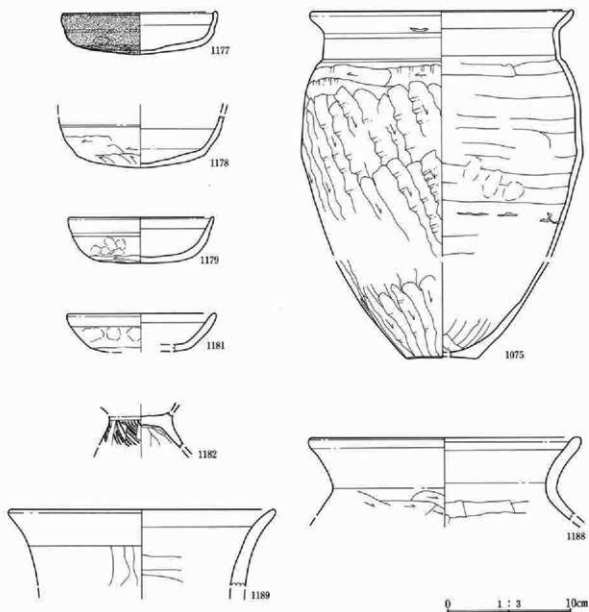
第506図 4B区・03号畠

#### IV 遺構と遺物

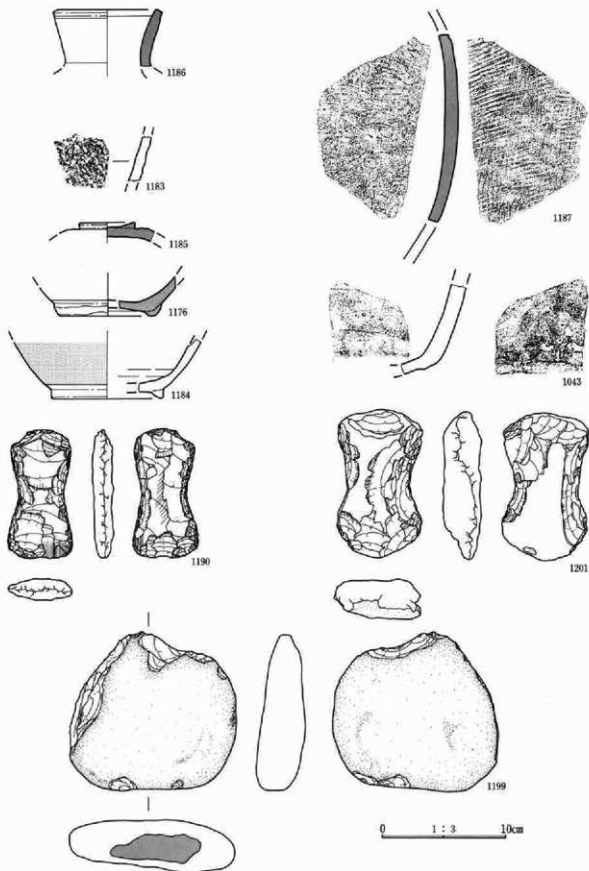
01, 02, 03, 04畠とさくの走方向が異なる理由は、微地形の傾斜がそれぞれ微妙な違いをみせその傾斜と直交するように畠のさくが切られる為であろう。

#### (II) グリッド・トレンチ・表採遺物 (挿図番号507・508)

4 B区の主体となる遺構は中世の掘立柱建物跡群であるために、当然中世土器を中心とする土器組成があるものと推測されるが、4 B区の表採遺物は案に相違して古墳時代の甕や平安時代の土師器坏・コノ字口縁甕・須恵器坏蓋・須恵器高台付碗等の出土遺物である。これは中世以前に4 B区で営まれた生産遺構としての畠地に由来するものと思われ、4 B区を生産域とした集落の存在が考えられ、4 A I区の集落との関係についても今後の考究が必要となろう。



第507図 4 B区・グリッド・表採出土遺物



第508図 4B区・グリッド・表探出土遺物





群馬県埋蔵文化財調査事業団  
調査報告 第 131 集

上栗須寺前遺跡群 I  
第 1 分冊〈本文編〉

関越自動車道(上越線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第 13 集

平成 6 年 3 月 20 日 印刷

平成 6 年 3 月 25 日 発行

編集／群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橘村大字下箱田 784-2  
電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会  
勢多郡北橘村大字下箱田 784-2  
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社